

令和5年度

新宿区多文化共生実態調査

報 告 書

令和6年1月

新宿区

はじめに

令和6年1月現在、新宿区には約130の国や地域からなる4万人を超える外国人が暮らしており、その割合は区民全体の約13%となっています。

区は、国籍や民族等の異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、一人ひとりが地域社会の一員として活躍できる「多文化共生のまち」の実現をめざしており、多言語による情報提供や相談、日本語学習への支援、地域における交流事業などに取り組んでいます。

本調査では地域で共に暮らす日本人と外国人について、平成27年度に実施した前回調査からの経年変化とともに、暮らしの中での課題や交流の現状などをより深く把握するために新たな質問を設けて調査することといたしました。これらの調査結果を分析することで、多文化共生に関する課題やニーズを的確に捉え、今後の取組に役立ててまいります。

最後になりますが、調査にご協力いただいた皆さまに心よりお礼申し上げます。

令和6年1月

新宿区長 吉住 健一

目 次

第 1 部 調査実施の概要	3
I 調査の目的.....	3
II 調査実施.....	3
III アンケート調査実施の概要	3
第 2 部 調査結果の要約	13
I 外国人住民調査.....	13
1 日本での暮らし.....	13
2 ことば（日本語学習）	15
3 災害時・緊急時の対応	16
4 必要な情報・サービスについて	17
5 多文化共生のまちづくり	18
II 日本人住民調査.....	20
1 暮らし.....	20
2 災害時・緊急時の協力	23
3 多文化共生のまちづくり	23
第 3 部 調査結果の分析	29
第 1 章 外国人住民調査	29
I 調査回答者の属性.....	29
II 調査結果.....	48
1 日本での暮らし.....	48
2 ことば（日本語学習）	92
3 災害時・緊急時の対応	115
4 必要な情報・サービスについて	132
5 多文化共生のまちづくり	146
6 居住地域.....	163
7 自由回答（抜粋）	164
第 2 章 日本人住民調査	177
I 調査回答者の属性.....	177
II 調査結果.....	184
1 暮らし.....	184
2 災害時・緊急時の協力	230
3 多文化共生のまちづくり	233
4 居住地域.....	249
5 自由回答（抜粋）	250

第3章 外国人住民調査と日本人住民調査の比較	257
1 日本での暮らし	257
2 日常生活でのトラブル	262
3 災害時・緊急時の対応	269
4 多文化共生のまちづくり	271
第4部 考察	287
1 調査対象の外国人と日本人について	287
2 外国人住民の属性	291
3 日本人とのつき合いについて	295
4 困りごと・相談先について	296
5 日本語に関する困りごと、日本語学習ニーズについて	299
6 情報ニーズについて	306
7 地域活動、交流会等への参加ニーズ	309
8 「しんじゅく多文化共生プラザ」の利用について	312
第5部 資料編	315
付1 人口の推移	315
付2 国籍別一覧	316
付3 町丁目別人口	317
付4 前回調査時との在留資格別人口比較（各年1月1日現在）	318
付5 在留資格一覧表	319
付6 新宿区施策一覧	323
付7 外国人住民用 ご協力をお願い	327
付8 外国人住民用 調査票	328
付9 日本人住民用 ご協力をお願い	340
付10 日本人住民用 調査票	341
付11 同封チラシ	349

第 1 部 調査実施の概要

第1部 調査実施の概要

I 調査の目的

新宿区は国籍や民族等の異なる人々が互いの文化的違いを認め、理解し、地域で共に生きていく「多文化共生のまちづくり」を推進するためさまざまな施策を実施している。

本調査は、地域で共に生活する日本人と外国人の暮らしの中での課題や交流の現状などを把握し、今後の多文化共生施策の検討・推進のための基礎資料を得ることを目的として実施した。

II 調査実施

【調査主体】 新宿区

【調査支援】 新宿区多文化共生まちづくり会議

【調査委託】 株式会社 文化科学研究所

III アンケート調査実施の概要

アンケート調査は、『外国人住民調査』及び『日本人住民調査』の2種類を実施した。

(1) 調査概要

項目	内容	
調査地域	区内全域	
調査期間	令和5年8月1日（火）～8月28日（月）	
調査対象	外国人住民調査	区内に在住する18歳以上の男女個人 5,000人
	日本人住民調査	区内に在住する18歳以上の男女個人 2,000人
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	
調査方法	郵送配布、郵送またはWEBによる回収	
	外国人住民調査	抽出した対象者の国籍に合わせて、日本語と言語別調査票を組み合わせ（内訳は次ページ参照）、封筒にて郵送し、同封した返信用封筒及びWEBにて回収。 ◇調査票の発送約2週間後に、「お礼状兼ご協力のお祝いハガキ」を全対象者に配付し、調査協力へのお礼と回収率の向上を図った。
	日本人住民調査	調査票を封筒にて郵送し、同封した返信用封筒及びWEBにて回収。 ◇調査票の発送約2週間後に、「お礼状兼ご協力のお祝いハガキ」を全対象者に配付し、調査協力へのお礼と回収率の向上を図った。

(2) 言語別調査票発送の内訳 (外国人住民調査)

言語		発送数 (部)
日本語ルビ付		5,000
	中国語	2,310
	韓国語	983
	英語	725
	ネパール語	319
	ベトナム語	283
	ミャンマー語	231
	フランス語	77
	タイ語	72
	小計	5,000

(3) 調査項目

外国人住民調査	
調査回答者の属性	
(1) 性別	(5) 来日目的
(2) 年齢	(6) 在留資格
(3) 国籍	(7) 仕事
(4) 日本での滞在期間	(8) 同居人
1 日本での暮らし	
(1) 定住意向	(6) 日常生活で困った時の相談相手
(2) 日本の生活で困っていることや不満なこと	(7) 日本人とのトラブル経験
(3) 日本人と話すときに希望する言葉	(8) 日本人から外国人に対する偏見や差別
(4) 日本人との付き合い	(9) 偏見や差別をなくすために必要だと思うこと
(5) 地域の日本人に望むこと	
2 ことば (日本語学習)	
(1) 日本語に関して困ること	(2) 日本語の学習意向
3 災害時・緊急時の対応	
(1) 災害時の準備	(3) 新宿区に望む災害対策
(2) 防災訓練の参加状況	
4 必要な情報・サービスについて	
(1) 新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているもの	(3) 必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと
(2) 新宿区で生活していく上で知りたい情報	
5 多文化共生のまちづくり	
(1) しんじゅく多文化共生プラザについて	(4) 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が進めるべきと思うこと
(2) しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの	(5) 参加したいと思える交流会・イベント
(3) 多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと	
6 居住地域	
7 自由回答	

日本人住民調査	
調査回答者の属性	
(1) 性別	(4) 身近な人（親族等）に外国籍の方や外国にルーツを持つ方の有無
(2) 年齢	(5) 同居人
(3) 新宿での居住年数	(6) 海外での生活経験
1 暮らし	
(1) 定住意向	(7) 近所の外国人との付き合いの程度
(2) 外国人増加の実感	(8) 外国人と生活していく上で大切なこと
(3) 近所に外国人が生活することについての考え	(9) 外国人とのトラブル経験
(4) 近所に外国人が住むことについて感じる事	(10) 日本人から外国人に対する偏見や差別
(5) 外国人が生活上困っていたり不満があるとされること	(11) 偏見や差別をなくすために必要だと思うこと
(6) 普段の生活で外国人と話す機会	
2 災害時・緊急時の協力	
(1) 新宿区に望む災害対策	
3 多文化共生のまちづくり	
(1) 多文化共生社会という言葉の認知度	(4) 多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこと
(2) しんじゅく多文化共生プラザについて	(5) 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が力を入れるべきと思うこと
(3) しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの	(6) 参加したいと思える交流会・イベント
4 居住地域	
5 自由回答	

(4) 居住地域区分と地域別住民基本台帳人口（令和5年9月1日現在）

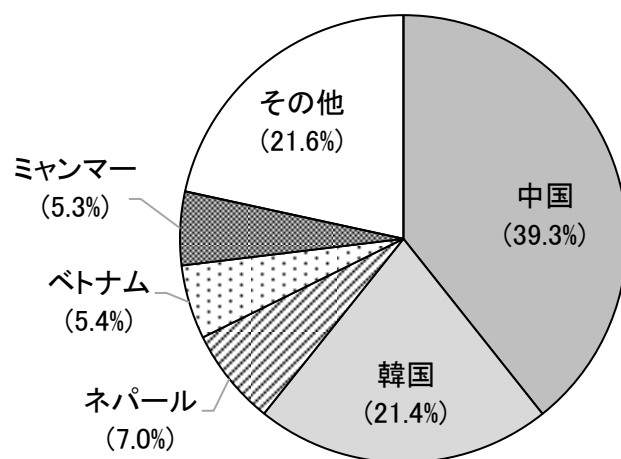
居住地域の集計にあたっては、地域的特性を把握するために、区役所および各特別出張所管轄に基づき新宿区内を10地域に分類する。

◆ 居住地域内該当町丁目

地域	該当町丁目	A	B	C	D (=B/A * 100)
		住民基本 台帳人口 (人)	外国人 人口 (人)	日本人 人口 (人)	外国人 人口率 (%)
全体		347,984	41,851	306,133	12.0
四谷	四谷一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、四谷本塩町、四谷三栄町、四谷坂町、若葉一丁目、同二丁目、同三丁目、須賀町、左門町、信濃町、南元町、荒木町、舟町、愛住町、大京町、霞ヶ丘町、内藤町、片町、住吉町〔2番(一部)、8番(一部)〕、新宿一丁目、同二丁目、同三丁目〔1番～14番15番(一部)、16番、17番(一部)、30番、31番(一部)、32番〕同四丁目、新宿五丁目〔1番～12番、13番(一部)、14番(一部)、15番～17番、18番(一部)〕、歌舞伎町一丁目〔1番(一部)〕	40,236	2,735	37,501	6.8
笹塚町	市谷田町一丁目、同二丁目、同三丁目、市谷本村町、市谷砂土原町一丁目、同二丁目、同三丁目、市谷左内町、市谷加賀町一丁目、同二丁目、市谷甲良町、市谷船河原町、市谷長延寺町、市谷鷹匠町、市谷山伏町、市谷八幡町、神楽坂一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、細工町、二十騎町、揚場町、津久戸町、東五軒町、西五軒町〔1番(一部)、2番～13番〕、赤城元町、南榎町、袋町、弘方町、南町、北町、納戸町、南山伏町、北山伏町、白銀町、下宮比町、矢来町、若宮町、岩戸町、中町、笹塚町、横寺町、筑土八幡町、新小川町、神楽河岸	40,023	1,956	38,067	4.9
榎町	市谷薬王寺町、市谷柳町、市谷仲之町、赤城下町、天神町、榎町、東榎町、早稲田町、早稲田南町、馬場下町、原町一丁目、同二丁目、同三丁目、河田町〔2番(一部)〕、若松町〔5番(一部)、6番(一部)〕、喜久井町、築地町、弁天町、中里町、山吹町、改代町、水道町、早稲田鶴巻町、西早稲田二丁目〔1番(一部)〕、西五軒町〔1番(一部)〕	36,611	3,330	33,281	9.1
若松町	住吉町〔1番、2番(一部)、3番～7番、8番(一部)、9番～15番〕、市谷台町、富久町、河田町〔1番、2番(一部)、3番～11番〕、若松町〔1番～4番、5番(一部)、6番(一部)、7番～38番〕、戸山一丁目、同二丁目、同三丁目〔1番～15番、16番(一部)、17番、19番、20番〕、余丁町〔1番～7番、8番(一部)、9番～14番〕、西早稲田二丁目〔2番〕	33,172	3,512	29,660	10.6
大久保	新宿五丁目〔13番(一部)、14番(一部)、18番(一部)〕、同六丁目、同七丁目、歌舞伎町一丁目〔30番(一部)〕、同二丁目、大久保一丁目、同二丁目、同三丁目、戸山三丁目〔16番(一部)、18番〕、百人町一丁目、同二丁目、同三丁目〔1番～28番、29番(一部)、30番～32番〕、西新宿七丁目〔2番(一部)、3番～6番〕、余丁町〔8番(一部)〕	43,241	10,118	33,123	23.4
戸塚	戸塚町一丁目、戸山三丁目21番、下落合一丁目〔1番(一部)、3番(一部)、7番(一部)、12番、13番、14番(一部)、16番(一部)、17番(一部)〕、西早稲田一丁目、同二丁目〔1番(一部)、3番～21番〕、同三丁目、高田馬場一丁目、同二丁目、同三丁目〔1番～7番、8番(一部)、9番～15番、16番(一部)、18番(一部)、19番～46番〕、同四丁目、百人町三丁目〔29番(一部)〕、同四丁目	39,991	7,231	32,760	18.1
落合第一	上落合一丁目、同二丁目〔1番、2番、3番(一部)、4番～14番、16番(一部)〕、下落合一丁目〔1番(一部)、2番、3番(一部)、4番～6番、7番(一部)、8番～11番、14番(一部)、15番、16番(一部)、17番(一部)〕、同二丁目、同三丁目、同四丁目、中落合一丁目〔1番～15番、17番、20番、21番〕、同二丁目、同三丁目〔1番～13番、14番(一部)、15番、19番(一部)〕、同四丁目〔1番(一部)〕、中井二丁目〔1番～3番〕、高田馬場三丁目〔8番(一部)、16番(一部)、17番、18番(一部)〕	34,669	3,551	31,118	10.2
落合第二	上落合二丁目〔3番(一部)、15番、16番(一部)、17番～29番〕、同三丁目、西落合一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、中落合一丁目〔16番、18番、19番〕、同三丁目〔14番(一部)、16番～18番、19番(一部)、20番～29番〕、同四丁目〔1番(一部)、2番～32番〕、中井一丁目、同二丁目〔4番～30番〕	31,549	1,958	29,591	6.2
柏木	西新宿六丁目〔2番～4番、5番(一部)、6番(一部)、7番～9番、10番(一部)〕、同七丁目〔1番、2番(一部)、7番～23番〕、同八丁目、北新宿一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目	31,261	5,624	25,637	18.0
区役所・角筈	西新宿一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目〔1番、5番(一部)、6番(一部)、10番(一部)、11番～26番〕、同七丁目(一部)、歌舞伎町一丁目〔1番(一部)、2番～30番〕、新宿三丁目〔15番(一部)、17番(一部)、18～29番、31番(一部)、33番～38番〕	17,231	1,836	15,395	10.7

(5) 国籍別の外国人住民人口（令和5年9月1日現在）

順位	国名	外国人住民人口
1	中国	16,452
2	韓国	8,961
3	ネパール	2,935
4	ベトナム	2,242
5	ミャンマー	2,223
6	台湾	1,742
7	米国	1,036
8	フランス	657
9	フィリピン	653
10	タイ	604
11	バングラデシュ	361
12	英国	360
13	ウズベキスタン	287
14	インド	275
15	ロシア	222
16	インドネシア	196
17	カナダ	194
18	ブラジル	177
19	ドイツ	167
20	オーストラリア	159
：	：	：
：	：	：
：	：	：
合計	130 カ国（無国籍を除く）	41,851



資料：新宿区住民基本台帳

(6) 回収結果

◆全体

	標本数 (人)	有効回収数 (人)	有効回収率 (%)
外国人住民	5,000	1,024	21.2%
日本人住民	2,000	751	38.4%

(注) 有効回収率の計算では、標本数から無効数を差し引いた数を分母としています。

◆回収方法別の内訳と構成比

	有効回収数 (人)		構成比 (%)	
	外国人住民	日本人住民	外国人住民	日本人住民
紙回答	631	529	61.6%	70.4%
WEB 回答	393	222	38.4%	29.6%
合計	1,024	751	100.0%	100.0%

※あて先不明による無効の件数

	無効数 (人)	無効率 (%)
外国人住民	177	3.5%
日本人住民	43	2.2%

◆外国人住民調査 (母集団は 2023 年 7 月現在の 18 歳以上の外国人住民数)

	母集団	構成比 (%)	標本数	有効回収数	回収率 (%)
全体	38,937	100.0	5,000	1,024	21.2
四谷	2,596	6.7	333	103	30.9
箆笥町	1,803	4.6	232	53	22.8
榎町	3,067	7.9	393	69	17.6
若松町	2,971	7.6	382	103	27.0
大久保	9,361	24.0	1,203	268	22.3
戸塚	7,035	18.1	903	119	13.2
落合第一	3,312	8.5	426	79	18.5
落合第二	1,868	4.8	238	62	26.1
柏木	5,235	13.4	672	67	10.0
角筈・区役所	1,689	4.3	218	43	19.7
(無回答)				58	

◆日本人住民調査 (母集団は 2023 年 7 月現在の 18 歳以上の日本人住民数)

	母集団	構成比 (%)	標本数	有効回収数	回収率 (%)
全体	272,947	100.0	2,000	751	38.4
四谷	33,546	12.3	246	87	35.4
箆笥町	32,270	11.8	236	92	39.0
榎町	29,756	10.9	218	85	39.0
若松町	26,416	9.7	193	70	36.3
大久保	29,898	11.0	220	88	40.0
戸塚	29,588	10.8	217	83	38.2
落合第一	27,461	10.1	201	63	31.3
落合第二	26,466	9.7	194	81	41.8
柏木	23,471	8.6	172	54	31.4
角筈・区役所	14,075	5.2	103	32	31.1
(無回答)				16	

(7) アンケート調査結果の見方

- ①集計は、小数点以下第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100%にならない場合がある。
- ②回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- ③居住地域別や国籍別などの調査回答者の属性別の集計結果は、回答者属性の無回答を除いて表示している。このため、属性別の調査回答者数の合計が全体の回答者数と一致しない場合がある。
- ④基数となるべき実数は、(n)として表示した。その比率は、基数を100%として算出した。
- ⑤本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。
- ⑥図中の比率の小さい項目については、省略している場合がある。
- ⑦コメントを作成するにあたり原則、次のような表現方法を用いた。

例	表現
80.1～80.9%	約8割
81.0～82.9%	8割強
83.0～84.9%	8割台半ば近く
85.0～85.9%	8割台半ば
86.0～87.9%	8割台半ばを超え
88.0～88.9%	9割近く
89.0～89.9%	9割弱

第2部 調査結果の要約

第2部 調査結果の要約

I 外国人住民調査

1 日本での暮らし

(1) 定住意向（問9）

◇《定住意向》は8割弱

定住意向は、「ずっと住み続けたい」（42.8%）が4割強で最も高く、「しばらくの間は住み続けたい」（36.2%）が3割台半ばを超える。これらを合わせた《定住意向》（79.0%）は8割弱となっている。

一方、「いずれ引っ越したい」（4.7%）と「すぐにでも引っ越したい」（0.8%）を合わせた、《転居意向》（5.5%）は1割に満たない。

(2) 日本の生活で困っていることや不満なこと（問10）

◇「ことば」は2割台半ばを超える。一方「特にない」が2割台半ば近い

日本の生活で困っていることや不満なこととしては、「ことば」（27.4%）が2割台半ばを超え最も高く、次いで「友人が少ない」（21.3%）が2割強となっている。以下、「金融機関の手続き（銀行、郵便局等）」（16.9%）、「生活費など金銭的な問題」（16.0%）、「出入国在留管理庁の手続き」（13.8%）などと続く。一方、「特にない」（23.3%）は2割台半ば近くとなっている。

(3) 日本人と話すときに希望する言葉（問11）

◇「日本語」が9割弱、「その他の言語」が1割

日本人と話すときに希望する言葉は、「日本語」（89.4%）が9割弱、「その他の言語」（10.0%）が1割となっている。

(4) 日本人との付き合い（問12）

◇付き合いが「ある」が4割強。一方「ない」が5割台半ばを超える

◇付き合いの程度では、「あいさつをする程度」が4割台半ば近い

◇日本人と主に話す言葉は、「日本語」が9割台半ば近い

◇付き合いがない理由では、「話しかけるきっかけがないから」が7割近くで最も高い

①日本人との付き合いの有無

日本人との付き合いが「ある」（42.4%）は4割強である。一方で、「ない」（56.4%）が5割台半ばを超えている。

②付き合いの程度

問12で日本人との付き合いが「ある」と回答した人に、付き合いの程度を聞いたところ、「あい

さつをする程度」(43.3%)が4割台半ば近くで最も高く、「友人としてつき合っている」(20.5%)が約2割となっている。

③日本人と主に話す言葉

問12で日本人とのつき合いが「ある」と回答した人に、日本人と主に話す言葉を聞いたところ「日本語」(93.1%)が9割台半ば近く、「その他の言語」(5.8%)が1割未満となっている。

④日本人とのつき合いがない理由

問12で日本人とのつき合いが「ない」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「話しかけるきっかけがないから」(68.2%)が7割近くで最も高くなっている。次いで「つき合う場がないから」(42.7%)は4割強、「日本語を話せないから」(21.3%)は2割強となっている。

(5) 地域の日本人に望むこと (問13)

◇「あいさつなど親しく声をかけてほしい」、「偏見や差別をなくしてほしい」と「地域の行事やイベントなどに誘って欲しい」が3割弱

地域の日本人に望むことは、「あいさつなど親しく声をかけてほしい」(29.8%)、「偏見や差別をなくしてほしい」(29.5%)と「地域の行事やイベントなどに誘って欲しい」(29.2%)が3割弱と最も高い。

一方、「特にない」は約3割となっている。

(6) 日常生活で困った時の相談相手 (問14)

◇「知人・友人(同国人)」が6割台半ばで最も高く、「家族・親戚」が4割台半ばを超える

日常生活で困った時の相談相手としては、「知人・友人(同国人)」(65.1%)が6割台半ばで最も高くなっている。次いで「家族・親戚」(46.6%)は4割台半ばを超え、「知人・友人(日本人)」(33.9%)は3割台半ば近くとなっており、「職場の同僚」(22.4%)が2割強となっている。

(7) 日本人とのトラブル経験 (問15)

◇「部屋からの声・物音のこと」が約1割。一方「特にない」が7割台半ば

日本人とのトラブル経験は、「特にない」(75.1%)が7割台半ばとなっている。

一方、全体から「特にない」(75.1%)・「無回答」(2.4%)の人数を減じてみると、全体の22.5%が、個々の項目の比率は小さいものの、何らかのトラブル経験をしていることとなる。

(8) 日本人から外国人に対する偏見や差別 (問16)

◇偏見や差別を感じたことが「ときどきある」が3割台半ばを超え、「あまりない」は3割台半ば

◇偏見や差別を感じるのは、「家を探すとき」が5割台半ば近くで最も高い

①日本人からの外国人に対する偏見や差別

日本人から外国人に対する偏見や差別を感じたことが「全くない」(13.7%)は1割台半ば近くにとどまり、「あまりない」(35.5%)は3割台半ばとなっている。これらを合わせると、《ない》(49.2%)は5割弱となっている。一方、「ときどきある」(36.1%)は3割台半ばを超え最も高く、「よくある」(5.1%)と合わせると、《ある》(41.2%)は4割強である。

②偏見や差別を感じること

問16で、日本人から外国人に対する偏見や差別を感じたことが《ある》と回答した人に、偏見や差別を感じることを聞いたところ「家を探すとき」(53.8%)が5割台半ば近くで最も高くなっている。次いで「仕事・アルバイトのとき」(40.5%)は約4割、「電車・バス等に乗っているとき」(27.0%)は2割台半ばを超えている。

(9) 偏見・差別をなくすために必要だと思うこと (問17)

◇偏見や差別をなくすために必要なことは、「お互いの文化を知る」が5割強

偏見や差別をなくすために必要だと思うことは、「お互いの文化を知る」(51.9%)が5割強で最も高くなっている。次いで「お互いの生活習慣の違いを認め合う」(47.6%)は4割台半ばを超え、「お互いを認め合う教育を進める」(45.1%)は4割台半ばとなっている。

2 ことば (日本語学習)

(1) 日本語に関して困ること (問18)

◇日本語に関して困ることが《ある》は6割弱

◇困る内容としては、「日常会話」が4割台半ばを超え最も高く、「役所や病院での説明を理解すること」が4割台半ば

◇日本語で困った時の対応としては、「通訳・翻訳アプリを活用する」が7割台半ば近い

①日本語に関して困ること

日本語に関して困ることは、「時々ある」(32.4%)が3割強で最も高く、次いで「ある」(27.1%)が2割台半ばを超える。これらを合わせた《ある》(59.5%)は6割弱となっている。一方、「あまりない」(22.3%)と「ない」(17.4%)を合わせた《ない》(39.7%)は4割弱となっている。

②困っている内容

問18で、日本語に関して困ることが「ある」か「時々ある」と回答した人に、困っている内容を聞いたところ、「日常会話」(46.7%)が4割台半ばを超え最も高くなっている。次いで「役所や病院での説明を理解すること」(45.9%)は4割台半ば、「日本語の新聞やお知らせを読むこと」(43.8%)は4割台半ば近くとなっている。

③困った時の対応

問18で、日本語に関して困ることが「ある」か「時々ある」と回答した人に、困った時の対応を聞いたところ、「通訳・翻訳アプリを活用する」(73.0%)が7割台半ば近くで最も高くなっている。次いで「日本語ができる友人を頼る」(48.0%)は5割近く、「日本語学校・日本語教室に相談する」

(14.3%) は1割台半ば近くとなっている。

(2) 日本語の学習意向 (問 19)

◇日本語を「現在学んでいる」が5割強、「学びたい」は3割近い

◇学んでいる(学びたい)方法では、「インターネットを利用」が6割近く最も高い

◇学びたくない理由は、「不便を感じないから、困っていないから」が6割近い

①日本語の学習意向

日本語の学習意向としては、「現在学んでいる」(52.2%)が5割強となっている。なお、「学びたい」(28.1%)は3割近く、一方で「学びたいとは思わない」(15.0%)は1割台半ばである。

②日本語を学んでいる方法及び学びたい方法

問 19 で、「現在学んでいる」か「学びたい」と回答した人に、日本語を学んでいる方法を聞いたところ、「インターネットを利用」(58.2%)が6割近くで最も高くなっている。次いで「日本語学校」(33.9%)は3割台半ば近く、「テレビ・ラジオの語学講座、通信教育、テレビ・新聞などを利用」(26.1%)は2割台半ばを超える。

③日本語を学びたくない理由

問 19 で、「学びたいとは思わない」と回答した人に、日本語を学びたくない理由を聞いたところ、「不便を感じないから、困っていないから」(58.4%)が6割近くで最も高くなっている。次いで「日本で生まれ育ったから」(17.5%)は1割台半ばを超え、「歳をとっているから」(13.0%)は1割台半ば近くとなっている。

3 災害時・緊急時の対応

(1) 災害時の準備 (問 20)

◇「食べ物や飲み水を備えている」が4割強で最も高く、「自宅や職場から避難する場所を確認している」が4割近い

◇「特に何もしていない」理由は、「何を準備すればいいかわからないから」が5割強で最も高い

①災害時の準備

災害時の準備としては、「食べ物や飲み水を備えている」(41.1%)が4割強で最も高く、次いで「自宅や職場から避難する場所を確認している」(38.4%)が4割近く、「地震や防災に関するパンフレットをみている」(28.4%)が3割近い。

②災害時の準備をしていない理由

問 20 で災害時の準備を「特に何もしていない」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「何を準備すればいいかわからないから」(52.3%)が5割強で最も高くなっている。次いで「考えたことがなかったから」(35.3%)が3割台半ば、「防災訓練や講座の情報が入らないから」(22.0%)が2割強となっている。

(2) 防災訓練の参加状況（問 21）

◇「知らないし、参加したことはない」が6割台半ば近い

◇参加したことはない理由は、「参加する時間がないから」が約4割

①防災訓練の参加状況

防災訓練の参加状況としては、「知らないし、参加したことはない」（63.1%）が6割台半ば近くで最も高くなっている。

②防災訓練を知っているが参加したことがない理由

防災訓練を知っているが参加したことがない理由としては、「参加する時間がないから」（40.8%）が約4割と最も高く、次いで「防災訓練に誘われないから」（12.8%）は1割強、「参加の仕方がわからないから」（10.7%）は約1割となっている。

(3) 新宿区に望む災害対策（問 22）

◇「避難場所の掲示等を多言語にする」と「緊急時に多言語の放送や誘導を行う」が4割強で最も高い

新宿区に望む災害対策としては、「避難場所の掲示等を多言語にする」（42.2%）と「緊急時に多言語の放送や誘導を行う」（42.1%）が4割強と高く、次いで「外国語の緊急対応パンフレットを配る」（37.3%）と「SNS（ツイッター・フェイスブック）などで情報を早く発信する」（36.8%）は3割台半ばを超える。

4 必要な情報・サービスについて

(1) 新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているもの（問 23）

◇「新宿生活スタートブック」が2割台半ば。一方「特になし」が4割台半ば近い

新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているものとしては、「新宿生活スタートブック」（25.7%）が2割台半ばと高くなっている。一方、「特になし」（43.8%）が4割台半ば近くで最も高い。

(2) 新宿区で生活していく上で知りたい情報（問 24）

◇「お祭り・スポーツなどのイベント」が4割強で最も高く、「税金・年金」が4割近い

新宿区で生活していく上で知りたい情報としては、「お祭り・スポーツなどのイベント」（42.9%）が4割強と最も高く、次いで「税金・年金」（38.2%）が4割近く、「医療や健康保険」（37.7%）が3割台半ばを超える。

(3) 必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと (問 25)

◇「SNS (ツイッター・フェイスブック) やメールによる発信を増やす」が3割台半ばを超えて最も高い

必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいことは、「SNS (ツイッター・フェイスブック) やメールによる発信を増やす」(36.3%) が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「ホームページの情報を増やす」(30.2%) が約3割、「いろいろな情報を1つの場所で配布する」(27.4%) が2割台半ばを超える。

5 多文化共生のまちづくり

(1) しんじゅく多文化共生プラザについて (問 26)

◇「知らなかったが利用してみたい」が5割強、「知っていた」が3割近い

しんじゅく多文化共生プラザについて「知らなかったが利用してみたい」(52.1%) が5割強で高くなっている。一方、「知っていたし利用したこともある」(5.7%) と「知っていたが利用したことはない」(22.5%) を合わせると、「知っていた」(28.2%) は3割近くである。また、「知らなかったし利用したいと思わない」(17.2%) は1割台半ばを超えている。

(2) しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの (問 27)

◇「外国人相談」が5割弱で最も高い

しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うものは、「外国人相談」(49.2%) が5割弱と最も高く、次いで「日本語教室」(46.8%) が4割台半ばを超え、「外国人コミュニティと日本人とをつなぐ活動」(42.7%) が4割強となっている。

(3) 多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと (問 28)

◇「気軽に話をする」が約4割で最も高い

多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこととしては、「気軽に話をする」(40.4%) が約4割と最も高く、次いで「地域の日本人との話し合いを行う」(36.6%) が3割台半ばを超え、「地域の日本人との交流や、イベントを企画する」(33.0%) が3割台半ば近くとなっている。

(4) 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が進めるべきだと思うこと (問 29)

◇「日本人との交流会やイベント」が4割台半ばを超えて最も高く、「外国人への偏見・差別をなくすための努力」が3割台半ばを超える

多文化共生のまちづくり推進のために区が進めるべきと思うことは、「日本人との交流会やイベント」(46.5%) が4割台半ばを超えて最も高く、次いで「外国人への偏見・差別をなくすための努力」

(36.7%) が 3 割台半ばを超え、「外国人と日本人による協働を増やす」(35.7%) が 3 割台半ばとなっている。

(5) 参加したいと思える交流会・イベント (問 30)

◇「盆踊りなど地域で開催されるお祭り」が 4 割台半ばを超え最も高い

◇交流方法は、「対面」と「どちらでも」が 4 割台半ば

①参加したいと思える交流会・イベント

参加したいと思える交流会・イベントは、「盆踊りなど地域で開催されるお祭り」(47.8%) が 4 割台半ばを超え最も高く、次いで「日本の料理を楽しむなど、日本の文化に触れる交流会」(46.9%) が 4 割台半ばを超え、「日本人とゆっくり話せる機会のあるイベント」(43.8%) が 4 割台半ば近くとなっている。

②交流方法

交流方法は、「対面」(45.2%) と「どちらでも」(45.2%) が 4 割台半ばとなっており、「オンライン」(5.6%) は 1 割未満となっている。

Ⅱ 日本人住民調査

1 暮らし

(1) 定住意向 (問7)

◇《定住意向》は8割台半ば

定住意向は、「ずっと住み続けたい」(55.3%)が5割台半ばで最も高く、次いで「しばらくの間は住み続けたい」(30.2%)が約3割である。これらを合わせた《定住意向》(85.5%)は8割台半ばとなっている。

一方、「いずれ引っ越したい」(6.3%)と「すぐにでも引っ越したい」(0.8%)を合わせた《転居意向》(7.1%)は1割に満たない。

(2) 外国人増加の実感 (問8)

◇身近に外国人が《多いと感じる》は6割台半ば近く

◇外国人が多いと感じる時は、「通りで外国人をよく見る」が9割近くで最も高い

①外国人増加の実感

身近に外国人住民が「多いと感じる」(33.7%)は3割台半ば近くで最も高く、「ある程度は多いと感じる」(31.0%)は3割強となっている。これらを合わせた《多いと感じる》(64.7%)は6割台半ば近くとなっている。一方、「それほど多いとは感じない」(29.2%)と「少ないと感じる」(2.9%)を合わせた《多いと感じない》(32.1%)は3割強となっている。

②外国人が多いと感じる時

問8で、外国人住民が《多いと感じる》と回答した人に、どんな時かを聞いた。その結果、「通りで外国人をよく見る」(88.5%)が9割近くで最も高く、次いで「お店で働く外国人が多い」(73.3%)は7割台半ば近く、「近所に外国人が住んでいる」(53.7%)は5割台半ば近くとなっている。

(3) 近所に外国人が生活することについての考え (問9)

◇《好ましい》が4割近くで、《好ましくない》を大きく上回る

近所に外国人が住むことが「好ましい」(19.3%)と「どちらかといえば好ましい」(19.6%)を合わせた、《好ましい》(38.9%)は4割近くとなっている。最も高いのは、「どちらともいえない」(49.3%)で5割弱である。「どちらかといえば好ましくない」(8.1%)と「好ましくない」(2.7%)を合わせた《好ましくない》(10.8%)は約1割で、《好ましい》を大幅に下回っている。

(4) 外国人が生活することについて感じる事 (問10)

◇「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」が5割近くで最も高い

近所に外国人が住むことについて感じる事としては、「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」(48.1%)が5割近くで最も高く、次いで「生活習慣の違いにより、部屋から

大きな声や物音がしないか心配」(36.2%)が3割台半ばを超え、「外国の文化にふれる機会が増える」(34.2%)が3割台半ば近くとなっている。

(5) 外国人が生活上困っていたり不満があると思われること (問 11)

◇「日本語が不自由」が4割台半ば近くで最も高く、「災害時・緊急時の対応」が3割強

日本人住民から見て、外国人住民が生活上困っていたり不満があると思われることとしては、「日本語が不自由」(44.2%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで「災害時・緊急時の対応」(31.3%)は3割強、「病院・医療」(29.0%)は3割弱となっている。なお、「特にない」(15.0%)は1割台半ばとなっている。

(6) 普段生活の中で外国人と話す機会の有無 (問 12)

◇普段の生活の中で外国人と話す機会の有無は、「話さない」が6割台半ばを超え、「話す」の3割強を上回る

◇主に話す言葉は、「日本語」が7割近く

◇話さない理由は、「話すきっかけがない」が7割強

◇話したいと思うかについては、「話したい」が2割台半ば近く

① 普段の生活の中で外国人と話す機会の有無

普段の生活の中で外国人と話す機会の有無は、「あまり話さない」(34.8%)が3割台半ば近くで最も高く、「話さない」(32.5%)が3割強となっている。これらを合わせた《話さない》(67.3%)は6割台半ばを超えている。一方、「よく話す」(9.3%)と「時々話す」(22.2%)を合わせた《話す》(31.5%)は3割強となっている。

② 主な言葉

問 12 で、普段の生活の中で外国人と《話す》と回答した人に主な言葉を聞いた。その結果、「日本語」(68.8%)が7割近く、「その他の言語」(31.2%)が3割強となっている。

③ 話さない理由

問 12 で、普段の生活の中で外国人と《話さない》と回答した人に話さない理由を聞いた。その結果、「話すきっかけがない」(72.9%)が7割強と最も高く、次いで「外国語を話せない」(14.1%)が1割台半ば近く、「相手の言葉がわからない」(12.1%)が1割強となっている。

④ 話したいと思うか

問 12 で、普段の生活の中で外国人と《話さない》と回答した人に話したいと思うかを聞いた。その結果、「どちらでもない」(63.4%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「話したい」(24.0%)が2割台半ば近く、「話したくない」(7.1%)が1割未満となっている。

(7) 近所の外国人とのつき合いの程度 (問 13)

◇現在は「全くつき合いがない」が4割台半ば

◇今後は「あいさつをする程度」が2割台半ば、「何か困った時に助け合う」が約2割

①近所の外国人とのつき合いの程度（現在）

近所の外国人とのつき合いの程度としては、「全くつき合いがない」（45.7%）が4割台半ばで最も高くなっている。一方、「あいさつをする程度」（26.5%）は2割台半ばを超えている。

②近所の外国人とのつき合いの程度（今後）

現在のつき合いの程度と対比する形で、今後のつき合いの程度を聞いたところ、「あいさつをする程度」（25.7%）が2割台半ばと最も高く、次いで「何か困った時に助け合う」が約2割となっている。また、「全くつき合わない」（9.3%）は1割を下回っている。

（8）外国人と生活していく上で大切なこと（問14）

◇「生活習慣の相互理解」が5割台半ばを超え最も高い

外国人と生活していく上で大切なこととしては、「生活習慣の相互理解」（57.9%）が5割台半ばを超え最も高く、次いで「文化の違いを知る」（52.6%）が5割強、「ことば」（49.5%）と5割弱となっている。

（9）外国人とのトラブル経験（問15）

◇「特にない」が6割強で最も高いが、「ごみの出し方のルールのこと」が2割強、「部屋からの声・物音のこと」が1割台半ばを超えており、トラブルもある

外国人とのトラブル経験が「特にない」（61.4%）が6割強である。一方で、全体の人数から「特にない」・「無回答」の人数を減じてみると262人であり、全体の34.9%が何らかのトラブルを経験しており、今回の調査では、「ごみの出し方のルールのこと」（22.1%）が2割強、「部屋からの声・物音のこと」（17.3%）が1割台半ばを超えている。

（10）日本人から外国人に対する偏見や差別（問16）

◇日本人から外国人に対する偏見や差別が《あると思う》が5割台半ばを超え、《ないと思う》の2割台半ば超えを上回る

◇偏見や差別があると思うときは「住まいを探すとき」が4割強で最も高く、「近所の人との付き合いのとき」が3割台半ばを超える

①日本人から外国人に対する偏見や差別の有無

「ときどきあると思う」（41.5%）が4割強と最も高くなっており、「よくあると思う」（14.9%）と合わせると、《あると思う》（56.4%）が5割台半ばを超えている。一方、「全くないと思う」（4.4%）と「あまりないと思う」（22.0%）を合わせた《ないと思う》（26.4%）が2割台半ばを超えており、《あると思う》が《ないと思う》を大きく上回っている。

②偏見・差別があると思われるとき

問16で、日本人から外国人に対する偏見や差別が《あると思う》と回答した人に、どのような場合にあると思うかを聞いたところ、「住まいを探すとき」（42.5%）が4割強で最も高く、次いで「近所の人との付き合いのとき」（36.3%）は3割台半ばを超え、「学校など教育の場」（26.7%）は2割

台半ばを超えている。

(11) 偏見・差別をなくすために必要だと思うこと（問 17）

◇偏見や差別をなくすために必要なことは「お互いの文化を知る」が5割強で最も高い

偏見・差別をなくすために必要なこととしては、「お互いの文化を知る」（52.9%）が5割強で最も高く、次いで「お互いの生活習慣の違いを認め合う」（51.3%）は5割強、「お互いを認め合う教育を進める」（44.3%）は4割台半ば近くとなっている。

2 災害時・緊急時の協力

(1) 新宿区に望む災害対策（問 18）

◇「避難場所の掲示等に外国語を併記する」が5割台半ばを超え最も高い

新宿区に望む災害対策としては、「避難場所の掲示等に外国語を併記する」（57.7%）が5割台半ばを超え最も高く、次いで「SNS(ツイッター・フェイスブック)などで多言語の情報を迅速に発信する」（44.5%）は4割台半ば近く、「外国人を含めて、地域の人同士の連絡・協力体制づくりを進める」（41.1%）は4割強となっている。

3 多文化共生のまちづくり

(1) 多文化共生社会という言葉の認知度（問 19）

◇《知っている》は2割強、「聞いたことはある」は3割台半ば近く

多文化共生社会という言葉「よく知っている」（8.0%）と「知っている」（14.4%）を合わせた《知っている》（22.4%）は2割強となっている。一方、「全く知らない」（42.6%）が4割強と最も高く、また、「聞いたことはある」（34.0%）が3割台半ば近くとなっている。

(2) しんじゅく多文化共生プラザについて（問 20）

◇しんじゅく多文化共生プラザを《知っていた》（15.7%）は1割台半ば

しんじゅく多文化共生プラザを「知っていたし利用したこともある」（0.9%）と「知っていたが利用したことはない」（14.8%）を合わせた《知っていた》（15.7%）は1割台半ばにとどまっている。一方、「知らなかったし利用したいと思わない」（48.6%）が5割近くで最も高く、次いで、「知らなかったが利用してみたい」（33.6%）が3割台半ば近くとなっている。

(3) しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの（問 21）

◇「外国人コミュニティと日本人とをつなぐ活動」と「日本語教室」が4割強

しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うものは、「外国人コミュニティと日本人とをつなぐ活動」(42.5%)と「日本語教室」(42.3%)が4割強で1番目と2番目となっている。次いで「外国人相談」(40.1%)で約4割、「多言語での情報提供」(38.6%)で4割近くとなっている

(4) 多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこと (問 22)

◇「あいさつなど声をかけ合う」が5割台半ばを超え最も高い

多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこととしては、「あいさつなど声をかけ合う」(57.9%)が5割台半ばを超え最も高く、次いで「気軽に話をする」(33.3%)は3割台半ば近く、「生活習慣やルールを相談し合う」(18.9%)、「地域の外国人との交流やイベントに参加する」(18.9%)は2割近くとなっている。

(5) 多文化共生のまちづくりを進めるために新宿区が力を入れるべきと思うこと (問 23)

◇「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」が4割弱で最も高く、2番目の「日本人と外国人の交流会やイベント」は3割台半ばを超える

多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が力を入れるべきだと思うこととしては、「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」(39.7%)が4割弱で最も高く、次いで「日本人と外国人の交流会やイベント」(37.9%)は3割台半ばを超え、「外国語での生活相談」(30.6%)は約3割となっている。

(6) 参加したいと思える交流会・イベント (問 24)

◇「外国の料理を楽しむなど、外国の文化に触れる交流会」が4割強

◇交流方法は、「対面」が4割台半ばを超える

①参加したいと思える交流会・イベント

参加したいと思える交流会・イベントは、「外国の料理を楽しむなど、外国の文化に触れる交流会」(41.5%)が4割強と最も高く、次いで「盆踊りなど地域で開催されるお祭り」(39.9%)は4割弱、「外国の文化を紹介する多文化共生イベント」(28.2%)は3割近くとなっている。

②交流方法

交流方法は「対面」と「オンライン」のどちらがいいか聞いたところ、「対面」(46.7%)が4割台半ばを超え最も高くなっている。また、「どちらでも」(43.0%)は4割台半ば近くで、「オンライン」はわずか2.3%であった。

第3部 調査結果の分析

第 1 章 外国人住民調査

第3部 調査結果の分析

第1章 外国人住民調査

I 調査回答者の属性

(1) 性別

◇男性が4割台半ばを超え、女性が5割強

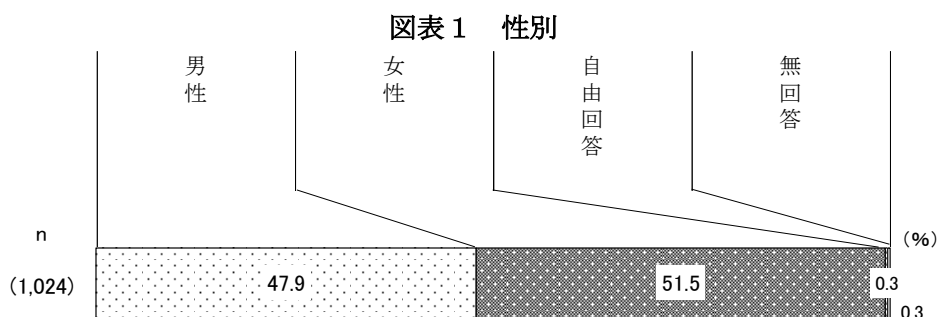
と
問1 あなたの性別は次のどれですか。(○は1つだけ)

[n=1,024]

1 男性	47.9%	2 女性	51.5%	3 (自由回答)	0.3%
				(無回答)	0.3%

調査回答者の性別は、「男性」(47.9%)が4割台半ばを超え、「女性」(51.5%)が5割強となっている。

(図表1)



【国籍別】

“中国”、“韓国”、“ベトナム”、“台湾”、“欧州”、“その他のアジア”は女性の方が男性よりも高く、逆に、“ネパール”、“ミャンマー”、“北米”、“その他”は男性の方が高くなっている。(図表2)

図表2 国籍別 上段：人数/下段：(%)

	n	男性	女性	その他	無回答
全体	1,024	491	527	3	3
	100.0	47.9	51.5	0.3	0.3
中国	389	180	207	1	1
	100.0	46.3	53.2	0.3	0.3
韓国	202	92	108	1	1
	100.0	45.5	53.5	0.5	0.5
ネパール	45	25	20	0	0
	100.0	55.6	44.4	0	0
ベトナム	37	16	21	0	0
	100.0	43.2	56.8	0	0
ミャンマー	49	26	23	0	0
	100.0	53.1	46.9	0	0
台湾	54	22	32	0	0
	100.0	40.7	59.3	0	0
北米	31	20	11	0	0
	100.0	64.5	35.5	0	0
欧州	86	41	44	1	0
	100.0	47.7	51.2	1.2	0
その他のアジア	96	45	51	0	0
	100.0	46.9	53.1	0	0
その他	34	24	10	0	0
	100.0	70.6	29.4	0	0

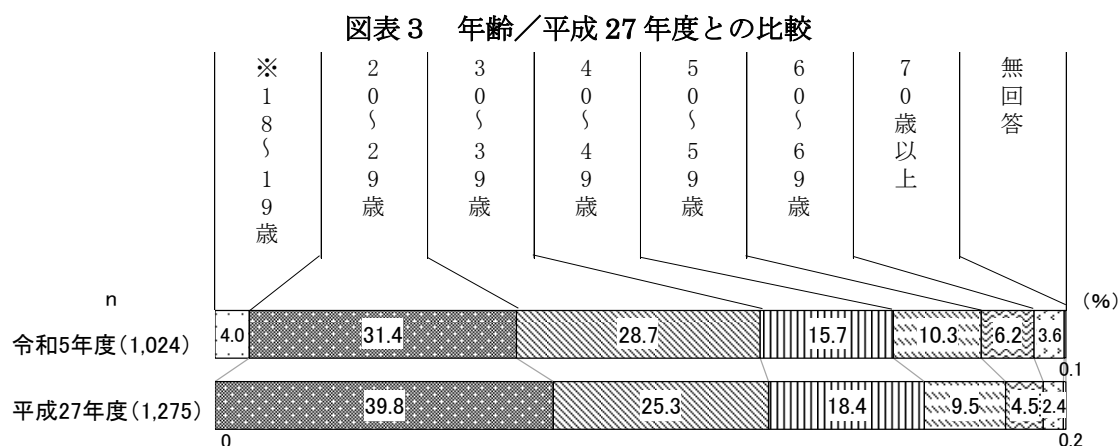
(2) 年齢

◇ 「20～29歳」が3割強、「30～39歳」が3割近く

問2 あなたの年齢は次のどれですか。(○は1つだけ)								
[n = 1,024]								
1	18～19歳	4.0%	4	40～49歳	15.7%	6	60～69歳	6.2%
2	20～29歳	31.4%	5	50～59歳	10.3%	7	70歳以上	3.6%
3	30～39歳	28.7%					(無回答)	0.1%

調査回答者の年齢は、「20～29歳」(31.4%)が3割強で最も高く、次いで「30～39歳」(28.7%)が3割近く、「40～49歳」(15.7%)が1割台半ばとなっている。

平成27年度と比較すると、「20～29歳」が8.4ポイント減少している。(図表3)



(注) ※今回調査で新設した項目である。

【国籍別】

“中国”と“ベトナム”は、「20～29歳」が、それぞれの国籍で高くなっている。“ネパール”、“ミャンマー”、“台湾”、“北米”、“欧州”、“その他のアジア”と“その他”は「30～39歳」が、“韓国”は「40～49歳」がそれぞれ高い。(図表4)

図表4 国籍別

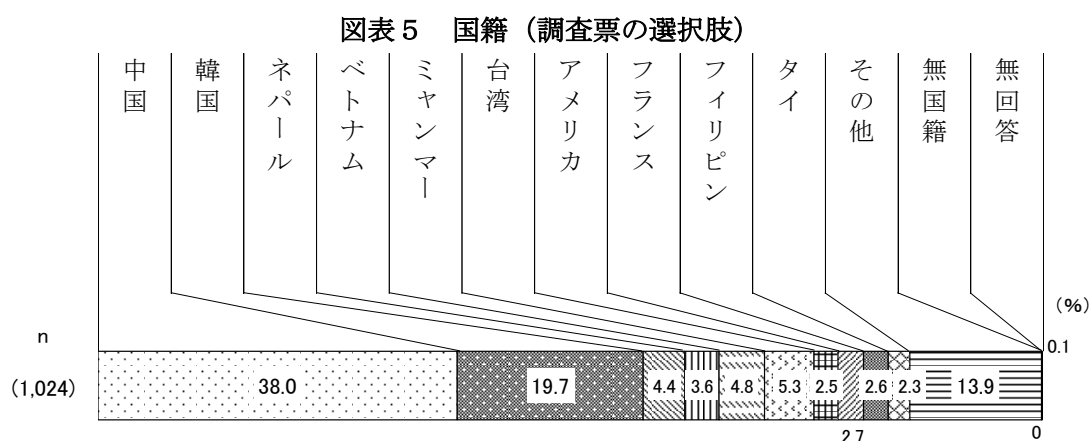
	n	上段：人数／下段：(%)							
		18 ～ 19 歳	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 69 歳	70 歳 以上	無 回 答
全 体	1,024 100.0	41 4	322 31.4	294 28.7	161 15.7	105 10.3	63 6.2	37 3.6	1 0.1
中国	389 100.0	29 7.5	188 48.3	95 24.4	40 10.3	23 5.9	11 2.8	3 0.8	0 0
韓国	202 100.0	3 1.5	21 10.4	37 18.3	51 25.2	40 19.8	29 14.4	21 10.4	0 0
ネパール	45 100.0	1 2.2	11 24.4	22 48.9	9 20.0	2 4.4	0 0	0 0	0 0
ベトナム	37 100.0	2 5.4	21 56.8	13 35.1	0 0	1 2.7	0 0	0 0	0 0
ミャンマー	49 100.0	1 2.0	16 32.7	18 36.7	6 12.2	2 4.1	2 4.1	4 8.2	0 0
台湾	54 100.0	1 1.9	16 29.6	20 37.0	9 16.7	2 3.7	6 11.1	0 0	0 0
北米	31 100.0	1 3.2	5 16.1	9 29.0	3 9.7	7 22.6	3 9.7	3 9.7	0 0
欧州	86 100.0	1 1.2	18 20.9	32 37.2	17 19.8	10 11.6	5 5.8	3 3.5	0 0
その他のアジア	96 100.0	2 2.1	23 24.0	34 35.4	17 17.7	16 16.7	3 3.1	1 1.0	0 0
その他	34 100.0	0 0	3 8.8	14 41.2	9 26.5	2 5.9	4 11.8	2 5.9	0 0

(3) 国籍

◇「中国」が4割近く、次いで「韓国」が2割弱

と 問3		こくせき		あなたの国籍は次のどれですか。(○は1つだけ)	
〔n=1,024〕					
1	中国	38.0%	5	ミャンマー	4.8%
2	韓国	19.7%	6	台湾	5.3%
3	ネパール	4.4%	7	アメリカ	2.5%
4	ベトナム	3.6%	8	フランス	2.7%
			9	フィリピン	2.6%
			10	タイ	2.3%
			11	その他	13.9%
			12	無国籍	0%
				(無回答)	0.1%

調査回答者の国籍は、「中国」(38.0%)が4割近く、次いで「韓国」(19.7%)が2割弱となっている。(図表5)



◆「その他」の記述

イギリス[18人]、 Bangladesh[9人]、イタリア[7人]、オーストラリア[7人]、香港[7人]、スペイン[6人]、ブラジル[6人]、モンゴル[6人]、カナダ[5人]、マレーシア[5人]、インドネシア[4人]、ドイツ[4人]、ロシア[4人] など

この国籍については、「その他」(13.9%)が1割台半ば近くと高い。そこで、「その他」に記述されていた内容を抜き出し、なおかつ、人数の少ない国籍などをまとめた。ここでは2種類の国籍の振り分けを行っている。

1つは平成27年度との比較を行うために振り分けたものであり、平成27年度と比較すると、「韓国」が5.6ポイント減少している。(図表6)もう1つは、今回の調査の回答状況に応じて振り分けたものである。本報告書では、各所で【国籍別】のクロス集計結果を掲載している。それらの分析で用いるのは、人数の関係上、次のとおり振り分けたものを利用する。(図表7)

(注) ※1 「韓国」は、平成27年度調査では「韓国・朝鮮」であった。

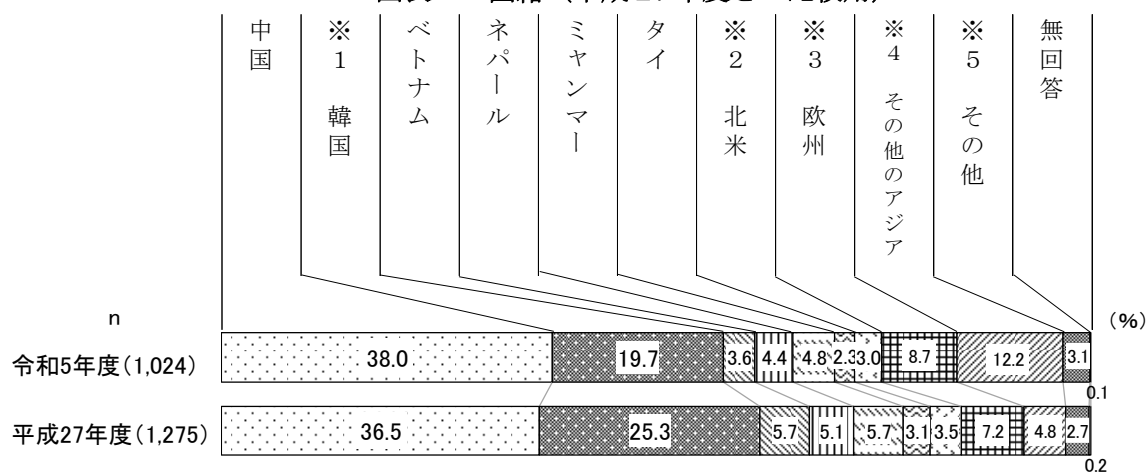
※2 北米・・・アメリカ、カナダ

※3 欧州・・・フランス、英国、アイルランド、イタリア、ウクライナ、オランダ、スイス、スウェーデン、スペイン、ドイツ、ハンガリー、フィンランド、ポーランド、ロシア、モンテネグロ、ラトビア、リトアニア、ジョージア、ノルウェー

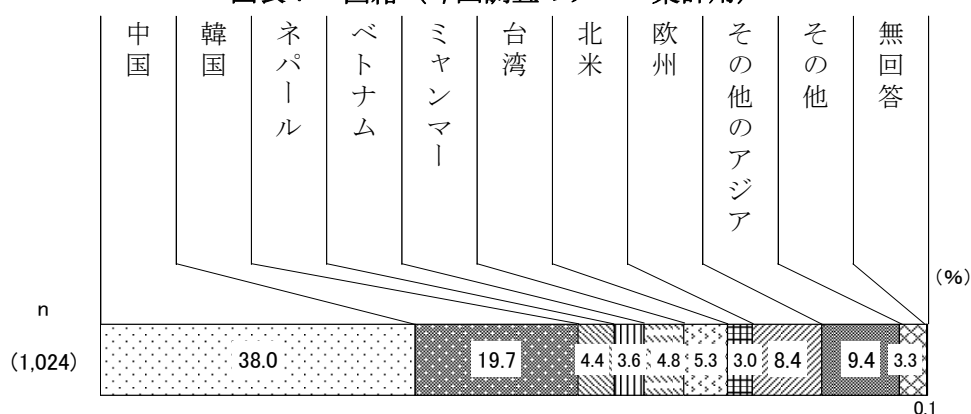
※4 その他のアジア・・・台湾、フィリピン、マレーシア、インドネシア、インド、カンボジア、シンガポール、スリランカ、香港、バングラデシュ、モンゴル、ラオス、パキスタン、ウズベキスタン、トルコ

※5 その他・・・イスラエル、オーストラリア、ニュージーランド、ガーナ、コロンビア、タンザニア、ブラジル、メキシコ、チリ、コートジボワール、チュニジア、セネガル、レバノンなど

図表6 国籍（平成27年度との比較用）



図表7 国籍（今回調査のクロス集計用）



【居住地域別】

“若松町”を除いて、「中国」がそれぞれの居住地域で最も高くなっている。“若松町”は「韓国」が最も高い。(図表8)

図表8 居住地域別

	n	中国	韓国	ネパール	ベトナム	ミャンマー	台湾	北米	欧州	その他のアジア	その他	無回答
全体	1,024 100.0	389 38.0	202 19.7	45 4.4	37 3.6	49 4.8	54 5.3	31 3.0	86 8.4	96 9.4	34 3.3	1 0.1
四谷	103 100.0	35 34.0	14 13.6	1 1.0	1 1.0	3 2.9	7 6.8	8 7.8	18 17.5	12 11.7	4 3.9	0 0
箆笥町	53 100.0	17 32.1	9 17.0	0 0	0 0	0 0	4 7.5	3 5.7	11 20.8	8 15.1	1 1.9	0 0
榎町	69 100.0	36 52.2	10 14.5	0 0	1 1.4	0 0	3 4.3	2 2.9	8 11.6	7 10.1	2 2.9	0 0
若松町	103 100.0	26 25.2	49 47.6	1 1.0	0 0	1 1.0	4 3.9	3 2.9	7 6.8	6 5.8	6 5.8	0 0
大久保	268 100.0	80 29.9	47 17.5	30 11.2	23 8.6	14 5.2	16 6.0	7 2.6	12 4.5	35 13.1	3 1.1	1 0.4
戸塚	119 100.0	63 52.9	17 14.3	2 1.7	0 0	10 8.4	6 5.0	2 1.7	7 5.9	5 4.2	7 5.9	0 0
落合第一	79 100.0	35 44.3	9 11.4	1 1.3	3 3.8	11 13.9	3 3.8	2 2.5	7 8.9	4 5.1	4 5.1	0 0
落合第二	62 100.0	40 64.5	8 12.9	0 0	4 6.5	3 4.8	1 1.6	0 0	3 4.8	2 3.2	1 1.6	0 0
柏木	67 100.0	31 46.3	16 23.9	1 1.5	0 0	0 0	7 10.4	4 6.0	5 7.5	1 1.5	2 3.0	0 0
角筈・区役所	43 100.0	15 34.9	11 25.6	1 2.3	1 2.3	0 0	3 7.0	0 0	3 7.0	7 16.3	2 4.7	0 0

(4) 日本での滞在期間

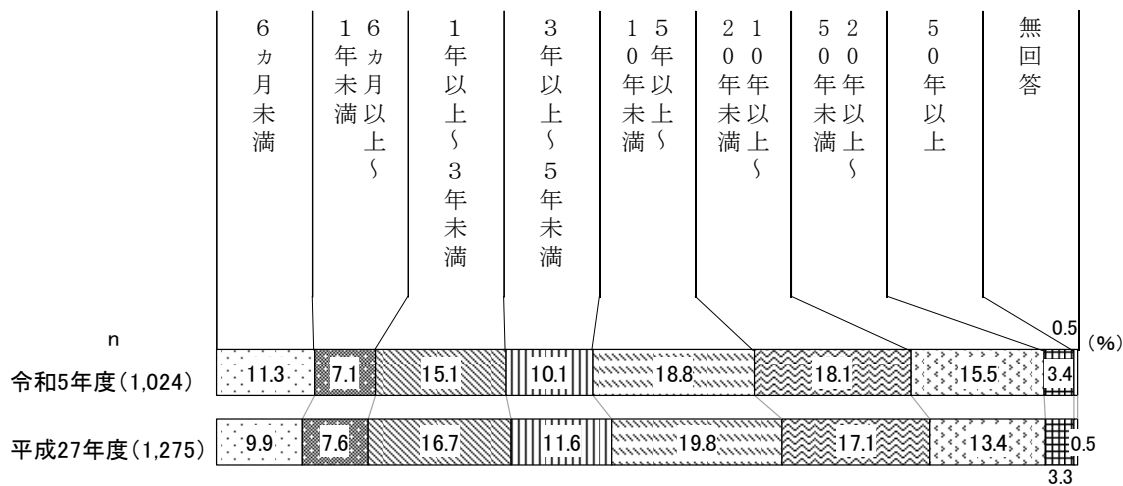
◇「5年以上～10年未満」と「10年以上～20年未満」が2割近く、「1年以上～3年未満」と「20年以上～50年未満」が1割台半ば

順位	滞在期間	割合	順位	滞在期間	割合
1	6カ月未満	11.3%	5	5年以上～10年未満	18.8%
2	6カ月以上～1年未満	7.1%	6	10年以上～20年未満	18.1%
3	1年以上～3年未満	15.1%	7	20年以上～50年未満	15.5%
4	3年以上～5年未満	10.1%	8	50年以上	3.4%
				(無回答)	0.5%

問4 あなたはどのくらい日本に住んでいますか。日本に何度も来ている場合は、あわせた期間をお答えください。(○は1つだけ)
[n=1,024]

調査回答者の日本での滞在期間は、「5年以上～10年未満」(18.8%)と「10年以上～20年未満」(18.1%)が2割近くで高く、次いで「20年以上～50年未満」(15.5%)と「1年以上～3年未満」(15.1%)が1割台半ばとなっている。(図表9)

図表9 日本での滞在期間／平成27年度との比較



【国籍別】

“中国”と“北米”は、「1年以上～3年未満」が、それぞれの国籍で高くなっている。“韓国”と“その他”は「20年以上～50年未満」が、“ネパール”、“ベトナム”、“台湾”、“欧州”と“その他のアジア”は「5年以上～10年未満」が、“ミャンマー”は「10年以上～20年未満」がそれぞれ高い。(図表 10)

図表 10 国籍別

上段：人数／下段：(%)

	n	6 カ 月 未 満	6 1 カ 年 月 未 以 上	1 3 年 以 未 上	3 5 年 以 未 上	5 1 年 0 以 上 未 満	1 2 0 0 年 以 未 上	2 5 0 0 年 以 未 上	5 0 年 以 上	無 回 答
全 体	1,024 100.0	116 11.3	73 7.1	155 15.1	103 10.1	193 18.8	185 18.1	159 15.5	35 3.4	5 0.5
中国	389 100.0	80 20.6	39 10.0	94 24.2	36 9.3	49 12.6	56 14.4	33 8.5	2 0.5	0 0
韓国	202 100.0	6 3.0	6 3.0	9 4.5	9 4.5	27 13.4	50 24.8	70 34.7	25 12.4	0 0
ネパール	45 100.0	3 6.7	4 8.9	4 8.9	4 8.9	21 46.7	7 15.6	2 4.4	0 0	0 0
ベトナム	37 100.0	3 8.1	1 2.7	4 10.8	11 29.7	13 35.1	4 10.8	1 2.7	0 0	0 0
ミャンマー	49 100.0	7 14.3	3 6.1	2 4.1	8 16.3	8 16.3	11 22.4	6 12.2	0 0	4 8.2
台湾	54 100.0	1 1.9	4 7.4	4 7.4	6 11.1	20 37.0	10 18.5	8 14.8	1 1.9	0 0
北米	31 100.0	1 3.2	0 0	8 25.8	0 0	6 19.4	6 19.4	7 22.6	3 9.7	0 0
欧州	86 100.0	3 3.5	9 10.5	11 12.8	13 15.1	21 24.4	19 22.1	9 10.5	1 1.2	0 0
その他のアジア	96 100.0	10 10.4	6 6.3	15 15.6	9 9.4	22 22.9	17 17.7	15 15.6	2 2.1	0 0
その他	34 100.0	2 5.9	1 2.9	4 11.8	7 20.6	6 17.6	5 14.7	8 23.5	1 2.9	0 0

(5) 来日目的

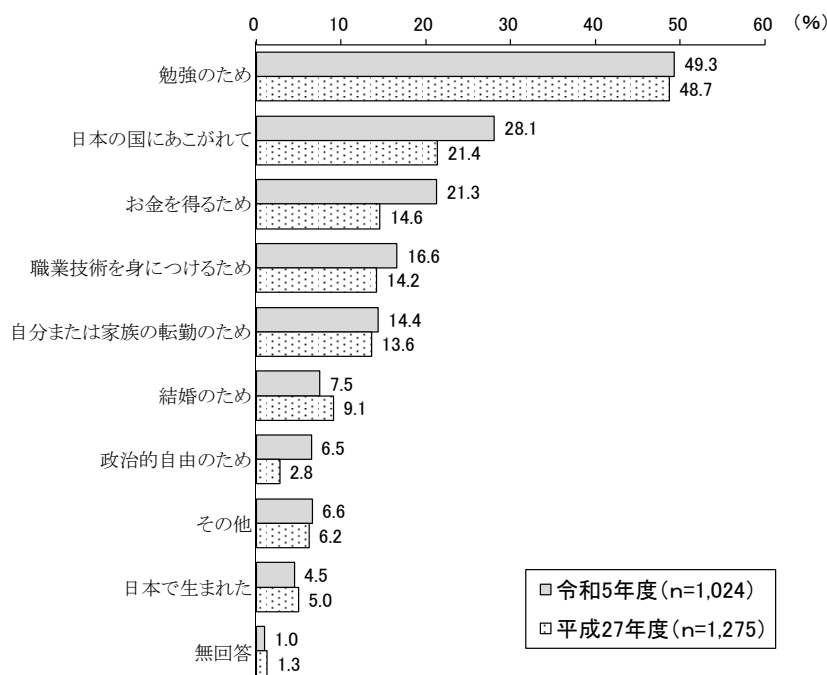
◇「勉強のため」が5割弱で最も高い

問5 あなたが日本に来た目的は何ですか。(〇はいくつでも) 〔n=1,024〕					
1	勉強のため	49.3%	6	日本の国にあこがれて	28.1%
2	職業技術を身につけるため	16.6%	7	自分または家族の転勤のため	14.4%
3	お金を得るため	21.3%	8	その他	6.6%
4	結婚のため	7.5%	9	日本で生まれた	4.5%
5	政治的自由のため	6.5%		(無回答)	1.0%

来日目的としては、「勉強のため」(49.3%)が5割弱で最も高く、次いで「日本の国にあこがれて」(28.1%)が3割近くとなっている。以下、「お金を得るため」(21.3%)、「職業技術を身につけるため」(16.6%)、「自分または家族の転勤のため」(14.4%)などと続く。

平成27年度と比較すると、「勉強のため」が第1位、「日本の国にあこがれて」が第2位であるなど上位5位の順位は変わらないが、第2位の「日本の国にあこがれて」と第3位の「お金を得るため」が、それぞれ6.7ポイント増加している。(図表11)

図表11 来日目的(複数回答)／平成27年度との比較



◆「その他」の記述(令和5年度)

仕事・就職のため[20人]、家族と同居するため[8人]、留学・ワーキングホリデー[3人]、日本に滞在したい[3人]、宣教・布教・宗教[3人] など

【国籍別】

“中国”、“韓国”、“ベトナム”、“台湾”と“その他のアジア”は、「勉強のため」が、それぞれの国籍で最も高くなっている。“ネパール”は「自分または家族の転勤のため」が、“ミャンマー”は「政治的自由のため」が、“北米”は「お金を得るため」が、“欧州”は「日本の国にあこがれて」が、“その他”は「職業技術を身につけるため」がそれぞれ最も高くなっている。(図表 12)

図表 12 国籍別

	n	上段：人数／下段：(%)									
		勉強のため	職業技術を身につけるため	お金を得るため	結婚のため	政治的自由のため	日本の国にあこがれて	自分または家族の転勤のため	その他	日本で生まれた	無回答
全体	1,024 100.0	505 49.3	170 16.6	218 21.3	77 7.5	67 6.5	288 28.1	147 14.4	68 6.6	46 4.5	10 1.0
中国	389 100.0	288 74.0	46 11.8	60 15.4	13 3.3	43 11.1	117 30.1	28 7.2	21 5.4	2 0.5	2 0.5
韓国	202 100.0	57 28.2	20 9.9	35 17.3	16 7.9	0 0	35 17.3	50 24.8	13 6.4	35 17.3	2 1.0
ネパール	45 100.0	15 33.3	13 28.9	9 20.0	0 0	0 0	18 40.0	20 44.4	0 0	0 0	2 4.4
ベトナム	37 100.0	25 67.6	11 29.7	18 48.6	3 8.1	2 5.4	7 18.9	1 2.7	0 0	0 0	0 0
ミャンマー	49 100.0	12 24.5	14 28.6	13 26.5	0 0	17 34.7	10 20.4	2 4.1	2 4.1	0 0	1 2.0
台湾	54 100.0	24 44.4	10 18.5	7 13.0	7 13.0	0 0	19 35.2	7 13.0	3 5.6	3 5.6	0 0
北米	31 100.0	9 29.0	2 6.5	13 41.9	3 9.7	1 3.2	10 32.3	7 22.6	5 16.1	2 6.5	0 0
欧州	86 100.0	27 31.4	14 16.3	19 22.1	12 14.0	2 2.3	37 43.0	19 22.1	8 9.3	1 1.2	2 2.3
その他のアジア	96 100.0	37 38.5	28 29.2	35 36.5	16 16.7	2 2.1	26 27.1	11 11.5	11 11.5	2 2.1	0 0
その他	34 100.0	11 32.4	12 35.3	9 26.5	7 20.6	0 0	9 26.5	2 5.9	5 14.7	1 2.9	0 0

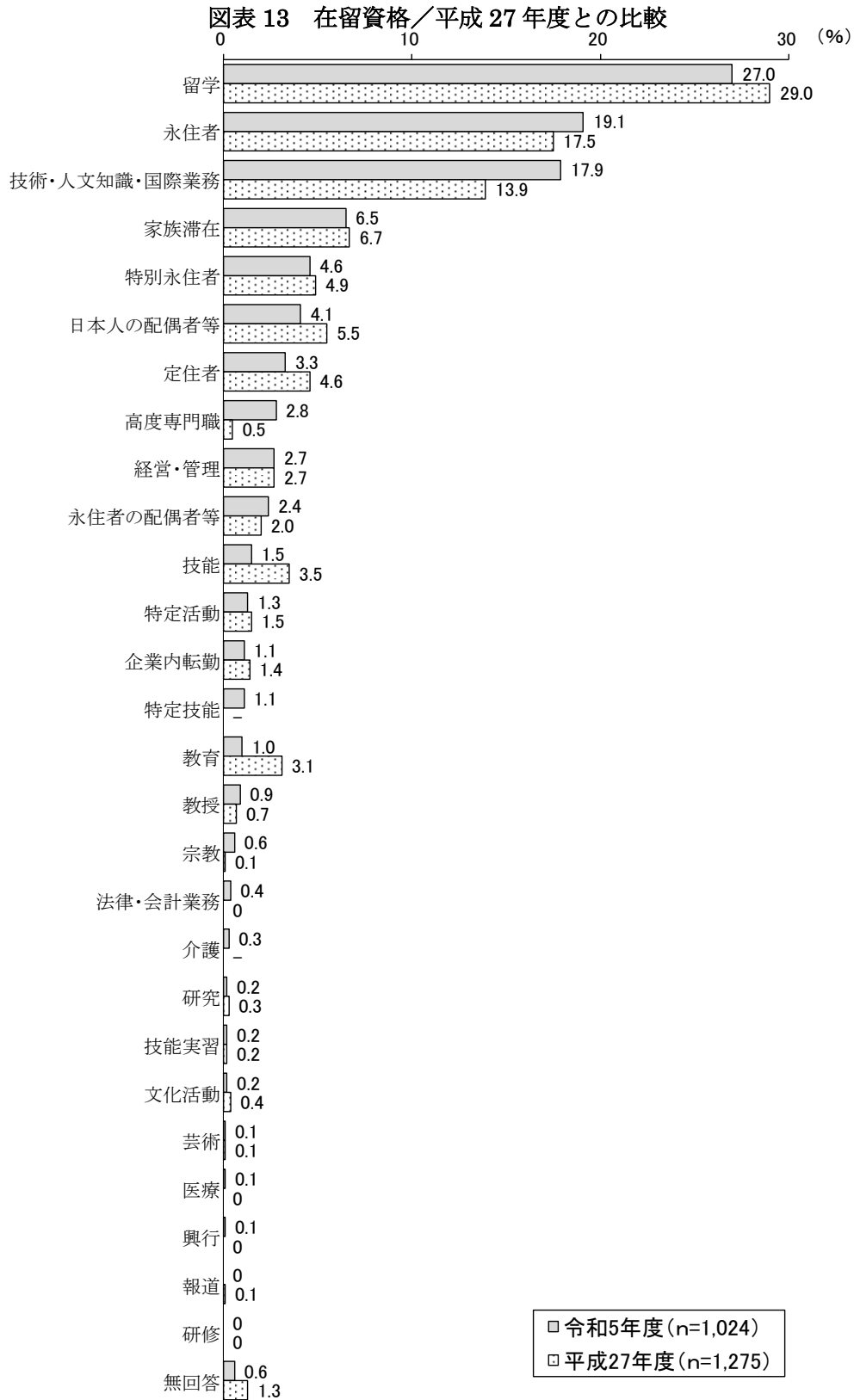
(6) 在留資格

◇「留学」が2割台半ばを超え、「永住者」が2割弱

<small>とい</small> 問6 あなたの在留資格は何ですか。(○は1つだけ。)				
〔n = 1, 024〕				
1	教授 <small>きょうじゅ</small>	0.9%	15 技能 <small>ぎのう</small>	1.5%
2	芸術 <small>げいじゆつ</small>	0.1%	16 特定技能 <small>とくていぎのう</small>	1.1%
3	宗教 <small>しゅうきょう</small>	0.6%	17 技能実習 <small>ぎのうじっしゅう</small>	0.2%
4	報道 <small>ほうどう</small>	0%	18 文化活動 <small>ぶんかかつどう</small>	0.2%
5	高度専門職 <small>こうどせんもんしよく</small>	2.8%	19 留学 <small>りゅうがく</small>	27.0%
6	経営・管理 <small>けいえい かんり</small>	2.7%	20 研修 <small>けんしゅう</small>	0%
7	法律・会計業務 <small>ほうりつ かいけいぎょうむ</small>	0.4%	21 家族滞在 <small>かぞくたいざい</small>	6.5%
8	医療 <small>いりょう</small>	0.1%	22 特定活動 <small>とくていかつどう</small>	1.3%
9	研究 <small>けんきゅう</small>	0.2%	23 永住者 <small>えいじゅうしゃ</small>	19.1%
10	教育 <small>きょういく</small>	1.0%	24 日本人の配偶者等 <small>にほんじん はいぐうしゃとう</small>	4.1%
11	技術・人文知識・国際業務 <small>ぎじゆつ じんぶんちしき こくさいぎょうむ</small>	17.9%	25 永住者の配偶者等 <small>えいじゅうしゃ はいぐうしゃとう</small>	2.4%
12	企業内転勤 <small>きぎょうないてんきん</small>	1.1%	26 定住者 <small>ていじゅうしゃ</small>	3.3%
13	介護 <small>かいご</small>	0.3%	27 特別永住者 <small>とくべつえいじゅうしゃ</small>	4.6%
14	興行 <small>こうぎょう</small>	0.1%	(無回答) <small>むかいとう</small>	0.6%

調査回答者の在留資格は、「留学」(27.0%)が2割台半ばを超え最も高く、次いで「永住者」(19.1%)が2割弱となっている。このほか、「技術・人文知識・国際業務」(17.9%)が1割台半ばを超える。(図表13)

平成27年度との比較については、項目数が異なるため参考として順位を比べるにとどめるが、上位4項目については、割合は多少増減するものの、前回調査も同順位となっている。(図表13)



【国籍別】

“中国”は、「留学」が5割台半ば近くと最も高くなっている。“ベトナム”は「留学」と「技術・人文知識・国際業務」が、“韓国”と“台湾”は「永住者」が、“ネパール”は「家族滞在」が、“ミャンマー”は「定住者」が、“北米”、“欧州”、“その他のアジア”と“その他”は「技術・人文知識・国際業務」がそれぞれ高くなっている。（図表 14）

図表 14 国籍別（上位 10 項目）

	n	上段：人数／下段：（%）									
		留学	永住者	技術・人文知識・国際業務	家族滞在	特別永住者	日本人の配偶者等	定住者	高度専門職	経営・管理	永住者の配偶者等
全 体	1,024 100.0	276 27.0	196 19.1	183 17.9	67 6.5	47 4.6	42 4.1	34 3.3	29 2.8	28 2.7	25 2.4
中国	389 100.0	206 53.0	64 16.5	52 13.4	11 2.8	5 1.3	5 1.3	5 1.3	11 2.8	11 2.8	5 1.3
韓国	202 100.0	6 3.0	65 32.2	27 13.4	20 9.9	32 15.8	6 3.0	7 3.5	2 1.0	8 4.0	12 5.9
ネパール	45 100.0	6 13.3	2 4.4	7 15.6	16 35.6	0 0	0 0	0 0	0 0	1 2.2	2 4.4
ベトナム	37 100.0	10 27.0	3 8.1	10 27.0	4 10.8	0 0	1 2.7	1 2.7	1 2.7	2 5.4	0 0
ミャンマー	49 100.0	7 14.3	3 6.1	6 12.2	5 10.2	4 8.2	0 0	12 24.5	0 0	0 0	0 0
台湾	54 100.0	8 14.8	18 33.3	17 31.5	3 5.6	2 3.7	2 3.7	1 1.9	2 3.7	1 1.9	0 0
北米	31 100.0	2 6.5	5 16.1	6 19.4	0 0	3 9.7	3 9.7	4 12.9	3 9.7	0 0	0 0
欧州	86 100.0	10 11.6	15 17.4	26 30.2	2 2.3	0 0	10 11.6	1 1.2	2 2.3	4 4.7	3 3.5
その他のアジア	96 100.0	17 17.7	15 15.6	21 21.9	6 6.3	1 1.0	9 9.4	3 3.1	3 3.1	1 1.0	3 3.1
その他	34 100.0	4 11.8	6 17.6	11 32.4	0 0	0 0	6 17.6	0 0	5 14.7	0 0	0 0

(7) 仕事

◇職業は「事務職・営業職」が1割強。一方「仕事・アルバイトをしていない」が2割台半ば近くで最も高い

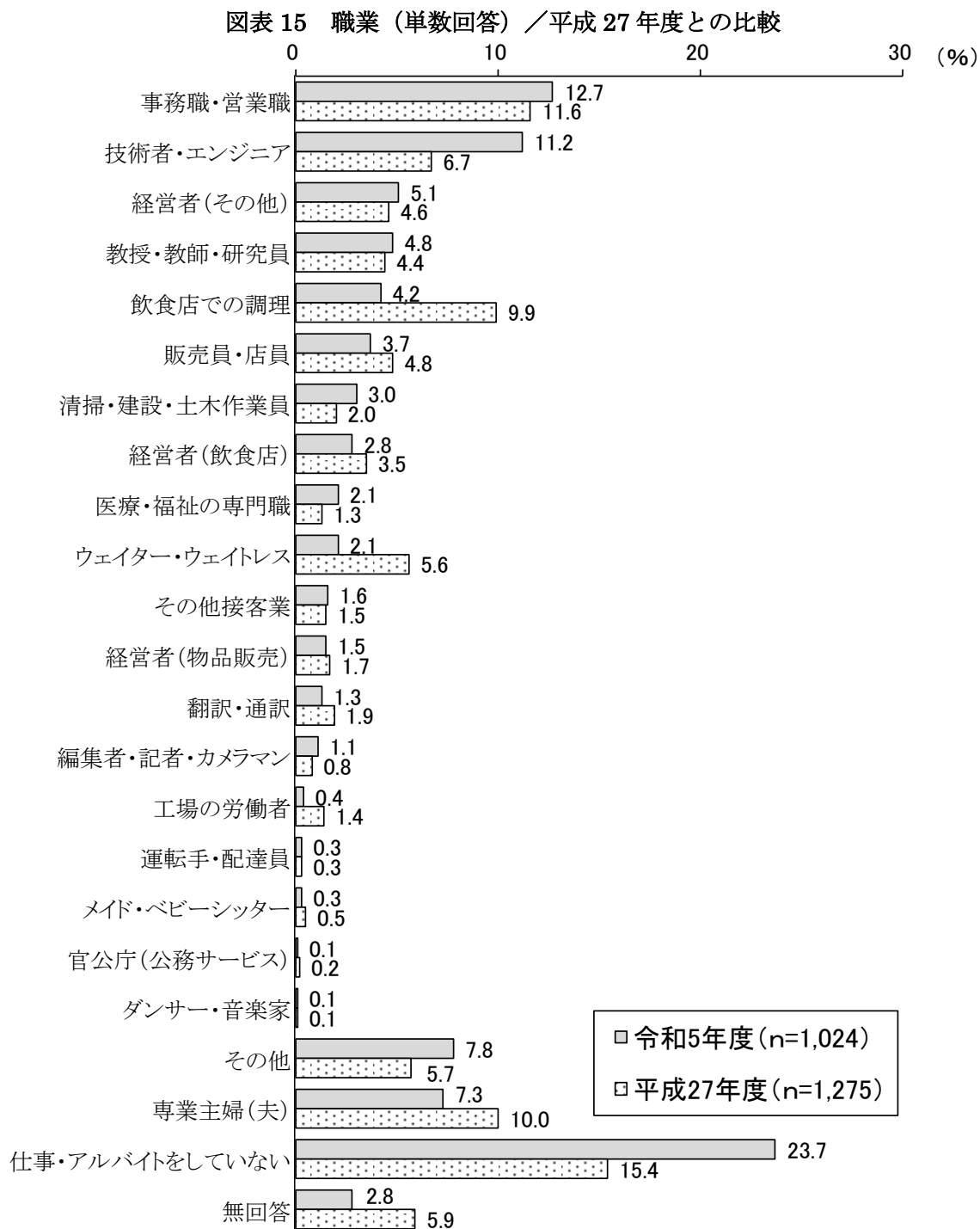
◇就業形態は「正社員（一般）」が3割台半ばを超える

<p>とい 問7 あなたの^{しごと}仕事または^{ある ばいと}アルバイトの^{しゅるい}種類は何ですか。(○は1つだけ。2つ以上の^{いじょう}仕事をして^{かた おも}いる方は^{しごと}主な仕事を選んでください。)</p> <p>[n=1,024]</p>				
1	けいえいしゃ いんしょくてん 経営者（飲食店）	2.8%	12 せいそう けんせつ どぼくさぎょういん 清掃・建設・土木作業員	3.0%
2	けいえいしゃ ぶつびんはんばい 経営者（物品販売）	1.5%	13 こうじょう ろうどうしゃ 工場の労働者	0.4%
3	けいえいしゃ た 経営者（その他）	5.1%	14 うんでんしゅ はいたついん 運転手・配達員	0.3%
4	じむしょく えいぎょうしょく 事務職・営業職	12.7%	15 いんしょくてん ちょうり 飲食店での調理	4.2%
5	きょうじゅ きょうし けんきゅういん 教授・教師・研究員	4.8%	16 うえいたー うえいとれす ウェ이터・ウェイトレス	2.1%
6	かんこうちょう こうむさーびす 官公庁（公務サービス）	0.1%	17 たせつきやくぎょう その他接客業	1.6%
7	いりょう ふくし せんもんしょく 医療・福祉の専門職	2.1%	18 だんさー おんがくか ダンサー・音楽家	0.1%
8	ぎじゅつしゃ えんじにあ 技術者・エンジニア	11.2%	19 めいど べびーしったー メイド・ベビーシッター	0.3%
9	へんしゅうしゃ きしゃ かめらまん 編集者・記者・カメラマン	1.1%	20 た その他	7.8%
10	ほんやく つうやく 翻訳・通訳	1.3%	21 せんぎょうしゅふ ふ 専業主婦（夫）	7.3%
11	はんばいいん てんいん 販売員・店員	3.7%	22 しごと ある ばいと 仕事・アルバイトをしていない	23.7%
			むかいとう （無回答）	2.8%
<p><u>（問7で、「1」～「20」のいずれかを答えた方に）</u></p>				
<p>とい 問7-1 あなたの^{しごと}仕事の^{たちば}立場は何ですか。次の中^{つぎ なか}から選^{えら}んでください。(○は1つだけ)</p> <p>[n=677]</p>				
1	じえいぎょう けいえいしゃ 自営業・経営者	9.2%	6 ばーと ある ばいと がくせい パート・アルバイト（学生）	11.8%
2	かいしゃやくいん 会社役員	4.1%	7 ばーと ある ばいと がくせい以外 パート・アルバイト（学生以外）	11.2%
3	せいしゃいん かんりしょく 正社員（管理職）	10.0%	8 ぎのうじっしゅせい けんしゅせい 技能実習生・研修生	0.6%
4	せいしゃいん いっぱん 正社員（一般）	36.5%	9 た その他	4.3%
5	はけん けいやくしゃいん 派遣・契約社員	9.3%	10 わからない （無回答）	0.4%
			むかいとう （無回答）	2.5%

①職業

調査回答者の職業は、「事務職・営業職」(12.7%)が1割強で、以下、「技術者・エンジニア」(11.2%)、「経営者(その他)」(5.1%)、「教授・教師・研究員」(4.8%)などと続く。一方、「仕事・アルバイトをしていない」(23.7%)が2割台半ば近くで最も高い。

平成27年度と比較すると、「飲食店での調理」が5.7ポイント減少し、「仕事・アルバイトをしていない」が8.3ポイント増加している。(図表15)



◆「その他」の記述(令和5年度)

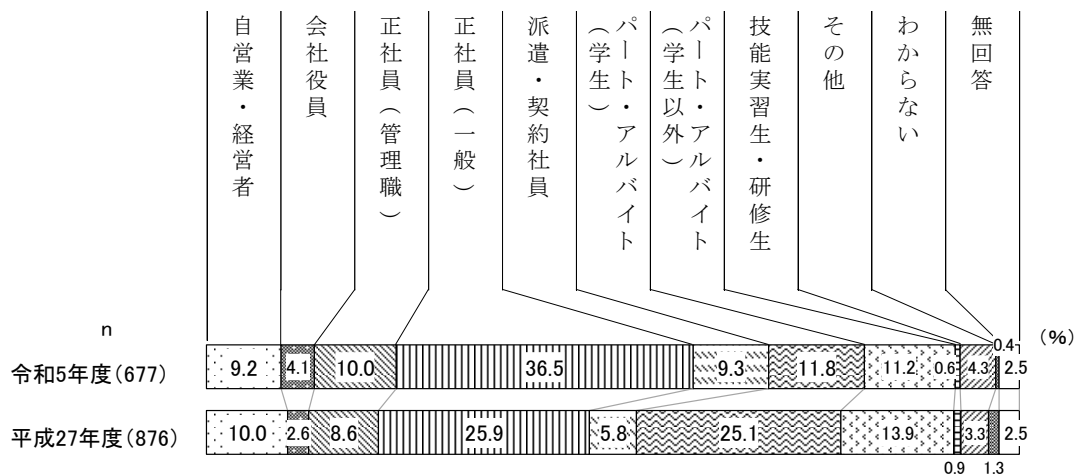
学生[8人]、各種デザイナー[5人]、IT・Web関係[4人]、介護職[4人]、宗教[4人]、アニメーター[3人]、建築家・設計・デザイン[3人]、コンサルタント[3人]、マーケティング[3人] など

②就業形態

問7で、職業に就いていると回答した人に、その就業形態を聞いたところ、「正社員（一般）」（36.5%）が3割台半ばを超え最も高くなっている。次いで「パート・アルバイト（学生）」（11.8%）が1割強、「パート・アルバイト（学生以外）」（11.2%）が1割強である。

平成27年度と比較すると、「正社員（一般）」が10.6ポイント増加し、「パート・アルバイト（学生）」が13.3ポイント減少している。（図表16）

図表16 就業形態／平成27年度との比較



(8) 同居人

◇一緒に住んでいる人は「配偶者またはパートナー」が4割近い。一方「いない」が4割弱

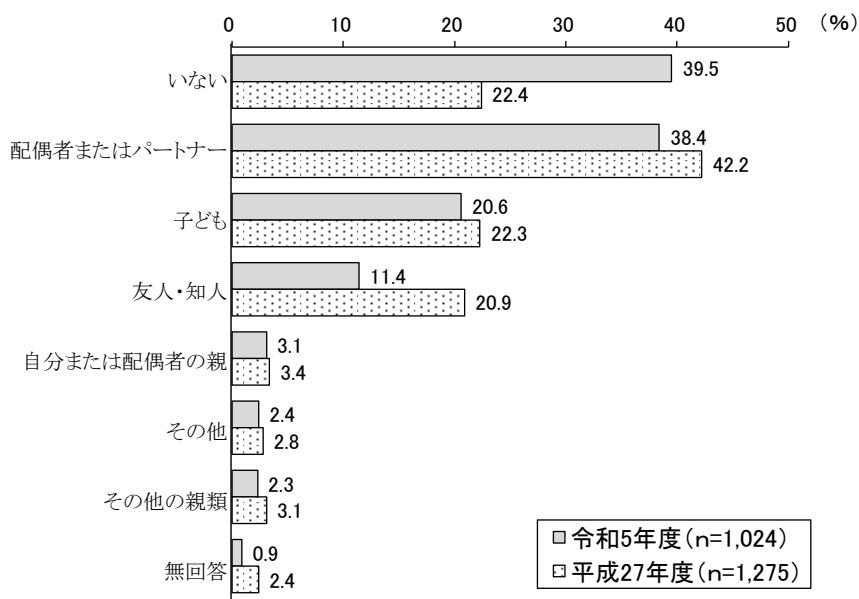
<p>とい 問8 あなたが現在一緒に住んでいる人は誰ですか。(〇はいくつでも)</p> <p>[n = 1, 024]</p>				
1	はいぐうしゃ 配偶者またはパートナー	38.4%	5 ゆうじん ちじん 友人・知人	11.4%
2	こども 子ども	20.6%	6 そのた その他	2.4%
3	じぶん はいぐうしゃ おや 自分または配偶者の親	3.1%	7 いない	39.5%
4	た しんるい その他の親類	2.3%	むかいとう (無回答)	0.9%
<p>(問8で、「2 子ども」と答えた方に)</p>				
<p>とい 問8-1 あなたのお子さんの年齢区分はどれですか。(子どもが複数いる場合は、当てはまるものすべてに〇)</p> <p>[n = 211]</p>				
1	さいみまん 6歳未満	29.4%	4 さい さい 16歳～18歳	15.6%
2	さい さい 6歳～12歳	34.1%	5 さいいじょう 19歳以上	24.6%
3	さい さい 13歳～15歳	19.9%	むかいとう (無回答)	0.5%

① 同居人

調査回答者の同居人は、「いない」(39.5%)が4割弱で最も高く、「配偶者またはパートナー」(38.4%)4割近くで2番目に高くなっている。このほか、「子ども」(20.6%)が約2割、「友人・知人」(11.4%)が1割強となっている。

平成27年度と比較すると、「いない」が17.1ポイント増加し、「友人・知人」が9.5ポイント減少している。(図表17)

図表17 同居人(複数回答)／平成27年度との比較



◆「その他」の記述(令和5年度)

シェアハウス[10人]、クラスメート[2人]、恋人[2人] など

【国籍別】

“中国”と“台湾”は「いない」が、それぞれの国籍で最も高くなっている。“韓国”、“ネパール”、“北米”、“欧州”と“その他”は「配偶者またはパートナー」が、“ベトナム”と“ミャンマー”は「友人・知人」がそれぞれ最も高い。また、“その他のアジア”は「配偶者またはパートナー」と「いない」がともに最も高い。(図表 18)

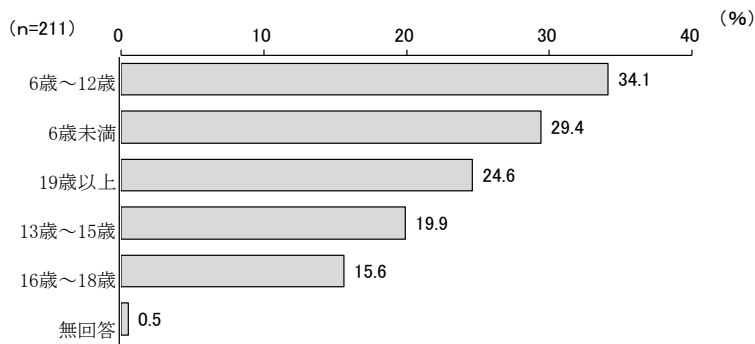
図表 18 国籍別

	n	上段：人数／下段：(%)							
		配偶者またはパートナー	子ども	自分または配偶者の親	その他の親類	友人・知人	その他	いない	無回答
全体	1,024	393	211	32	24	117	25	404	9
	100.0	38.4	20.6	3.1	2.3	11.4	2.4	39.5	0.9
中国	389	102	45	11	7	60	6	196	2
	100.0	26.2	11.6	2.8	1.8	15.4	1.5	50.4	0.5
韓国	202	109	82	7	3	1	2	63	3
	100.0	54.0	40.6	3.5	1.5	0.5	1.0	31.2	1.5
ネパール	45	33	18	3	1	3	1	3	0
	100.0	73.3	40.0	6.7	2.2	6.7	2.2	6.7	0
ベトナム	37	11	4	0	4	13	1	7	1
	100.0	29.7	10.8	0	10.8	35.1	2.7	18.9	2.7
ミャンマー	49	13	4	1	2	18	0	16	0
	100.0	26.5	8.2	2.0	4.1	36.7	0	32.7	0
台湾	54	17	7	4	1	2	2	27	0
	100.0	31.5	13.0	7.4	1.9	3.7	3.7	50.0	0
北米	31	14	7	1	1	1	2	12	0
	100.0	45.2	22.6	3.2	3.2	3.2	6.5	38.7	0
欧州	86	41	18	1	2	4	3	33	1
	100.0	47.7	20.9	1.2	2.3	4.7	3.5	38.4	1.2
その他のアジア	96	37	18	3	3	11	5	37	1
	100.0	38.5	18.8	3.1	3.1	11.5	5.2	38.5	1.0
その他	34	16	8	1	0	4	3	10	0
	100.0	47.1	23.5	2.9	0	11.8	8.8	29.4	0

②子どもの年齢

問8で、「子ども」が一緒に住んでいると回答した人の子どもの年齢は、「6歳～12歳」(34.1%)が3割台半ば近くで最も高くなっている。(図表 19)

図表 19 子どもの年齢 (複数回答)



II 調査結果

1 日本での暮らし

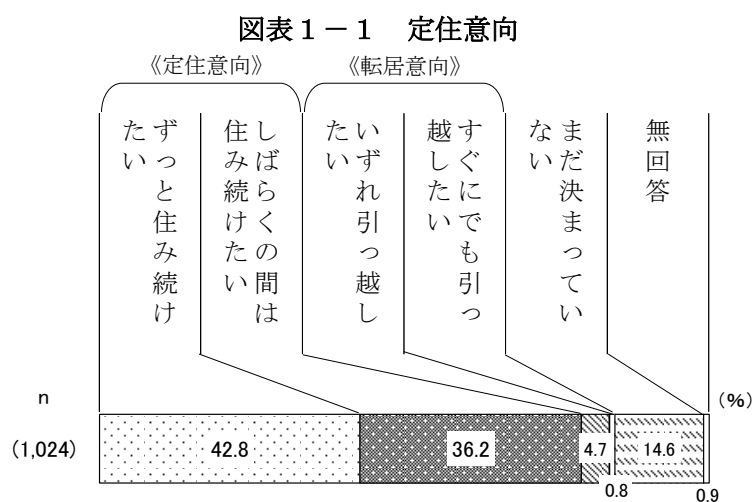
(1) 定住意向

◇ 《定住意向》は8割弱

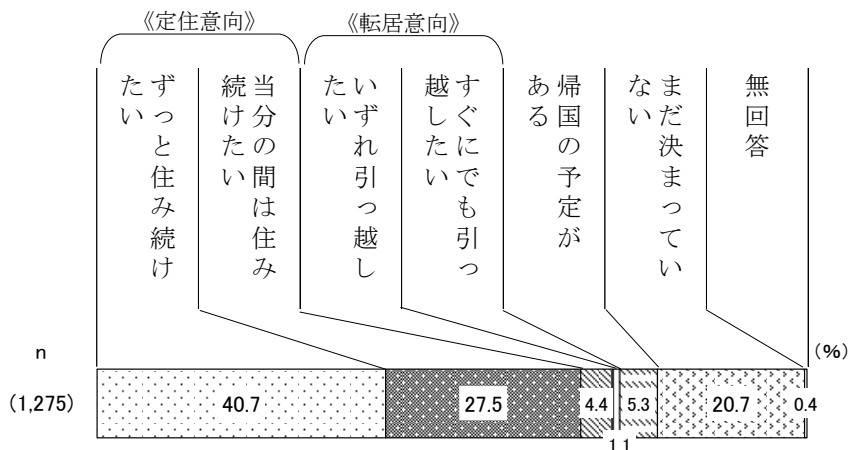
とい 問9 これからも、新宿区 <small>しんじゅくく</small> に住 <small>す</small> み続 <small>つづ</small> けたいですか。(○は1つだけ) [n=1,024]					
1	ずっと住 <small>す</small> み続 <small>つづ</small> けたい	42.8%	4	すぐにでも引 <small>ひ</small> っ越 <small>こ</small> したい	0.8%
2	しばらくの間 <small>あいだ</small> は住 <small>す</small> み続 <small>つづ</small> けたい	36.2%	5	まだ決 <small>き</small> まっていない	14.6%
3	いずれ引 <small>ひ</small> っ越 <small>こ</small> したい	4.7%		(無回答 <small>むかいとう</small>)	0.9%

定住意向は、「ずっと住み続けたい」(42.8%)が4割強で最も高く、「しばらくの間は住み続けたい」(36.2%)が3割台半ばを超える。これらを合わせた《定住意向》(79.0%)は8割弱となっている。一方、「いずれ引っ越したい」(4.7%)と「すぐにでも引っ越したい」(0.8%)を合わせた、《転居意向》(5.5%)は1割に満たない。(図表1-1)

平成27年度にも同様の設問を聞いているが、項目の内容を変更しているため、参考として掲載する。(図表1-2)



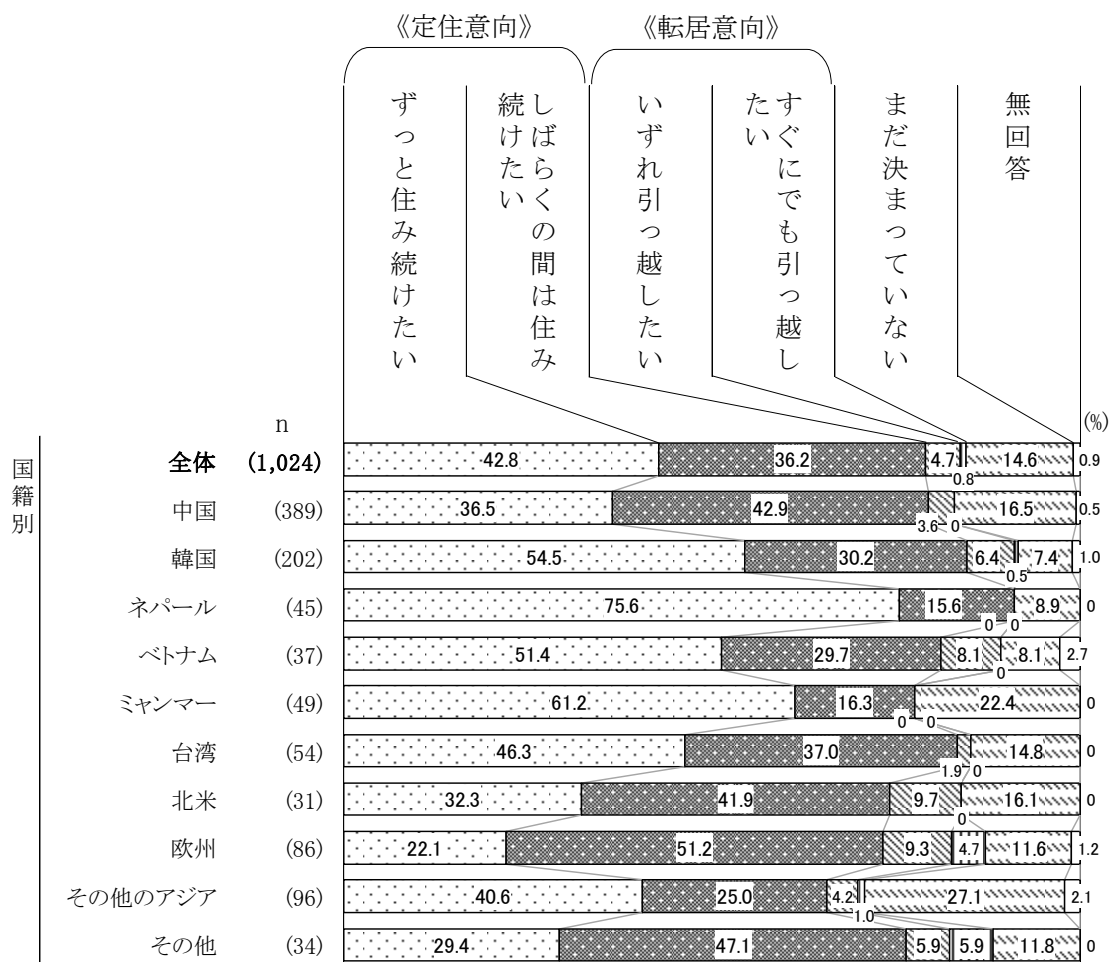
図表 1-2 (参考) 平成 27 年度



【国籍別】

《定住意向》は“ネパール”で9割強と最も高くなっており、次いで“韓国”と“台湾”で8割台半ば近くとなっている。(図表 1-3)

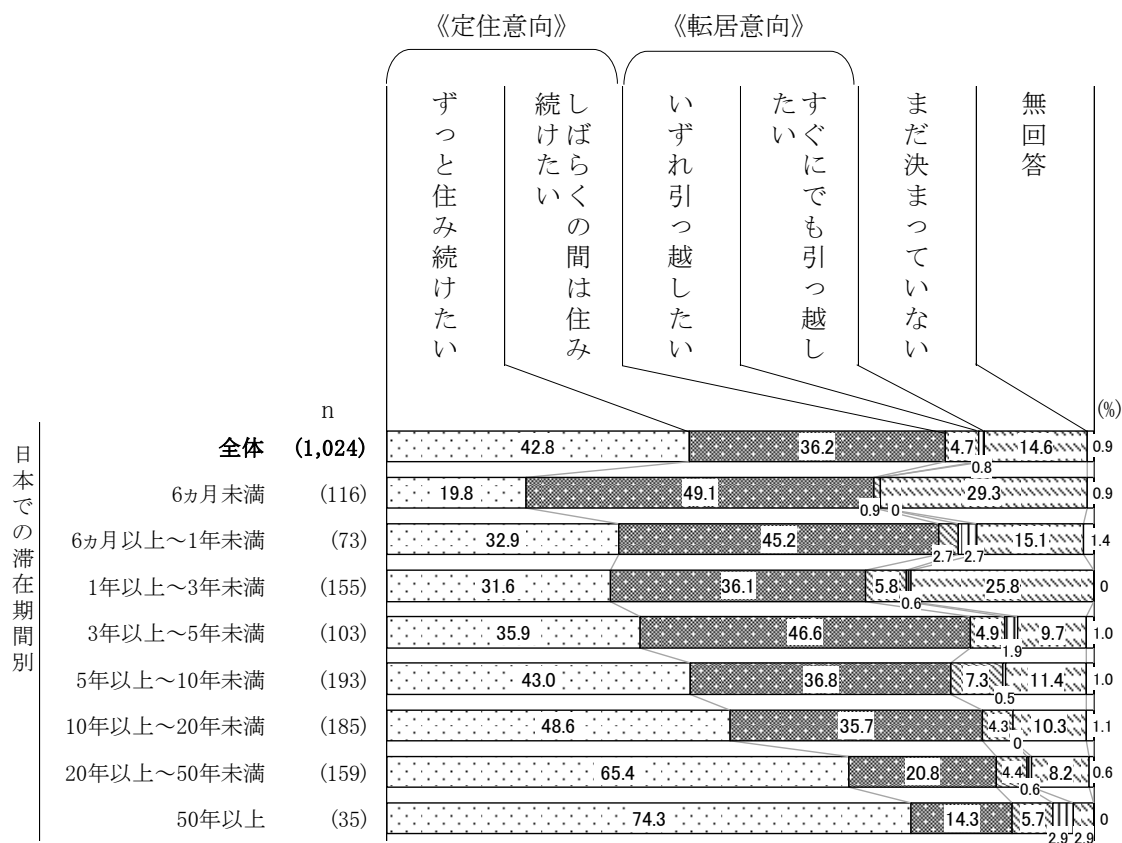
図表 1-3 定住意向《国籍別》



【日本での滞在期間別】

「ずっと住み続けたい」は、おおむね日本での滞在期間が長いほど増加しており、“50年以上”で7割台半ば近い。《定住意向》として見ても、おおむね日本での滞在期間が長いほど増加する傾向にあることは変わらない。また、「まだ決まっていない」は“6ヵ月未満”で3割弱と最も高く、次いで“1年以上～3年未満”で2割台半ばである。(図表1-4)

図表1-4 定住意向《日本での滞在期間別》



(2) 日本の生活で困っていることや不満なこと

◇「ことば」は2割台半ばを超える。一方「特にない」が2割台半ば近い

<p>とい 問10 あなたやあなたの家族が、日本の生活で困っていることや不満なことは何ですか。 (〇はいくつでも) 〔n=1,024〕</p>				
1	ことば	27.4%	12 仕事	11.8%
2	情報	11.0%	13 災害時・緊急時の対応	7.2%
3	住居	11.7%	14 近所づき合い	5.0%
4	出入国在留管理庁の手続き	13.8%	15 友人が少ない	21.3%
5	区役所の手続き	9.7%	16 日本人とのトラブル	1.7%
6	金融機関の手続き(銀行、郵便局等)	16.9%	17 日本人からの偏見・差別	12.8%
7	病院・医療	8.9%	18 日本人が閉鎖的である	12.7%
8	年金	8.8%	19 生活費など金銭的な問題	16.0%
9	出産・育児	2.5%	20 その他	3.6%
10	子どもの教育	4.2%	21 特にない	23.3%
11	老後・介護	5.2%	(無回答)	1.1%
<p>とい 問10-1 日本の生活で困っていることや不満なことについて、事例を教えてください。 自由に記入してください。回答しても回答しなくてもかまいません。</p>				

①日本の生活で困っていることや不満なこと

日本の生活で困っていることや不満なこととしては、「ことば」(27.4%)が2割台半ばを超え最も高く、次いで「友人が少ない」(21.3%)が2割強となっている。以下、「金融機関の手続き(銀行、郵便局 等)」(16.9%)、「生活費など金銭的な問題」(16.0%)、「出入国在留管理庁の手続き」(13.8%)などと続く。一方、「特にない」(23.3%)は2割台半ば近くとなっている。

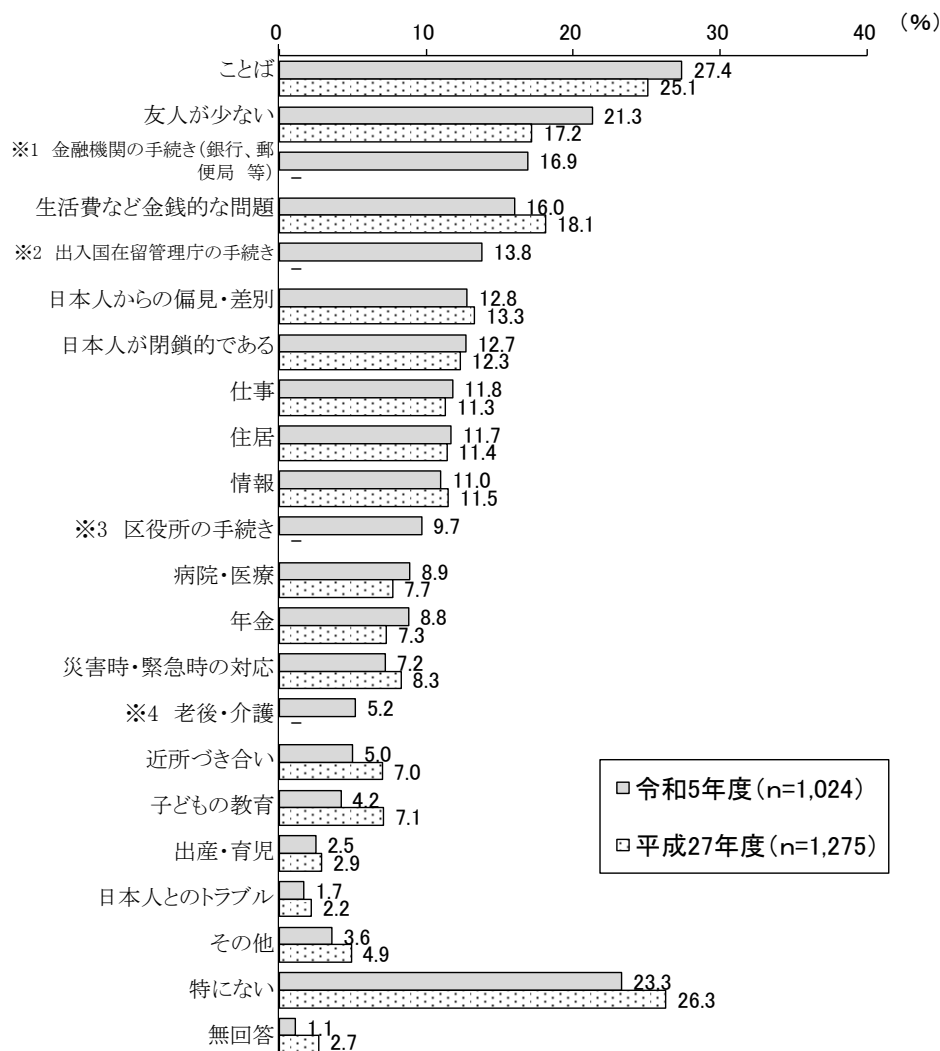
また、この設問は複数回答であるが、1個以上困りごとや不満を選択した人について、回答者がいくつ選択したかを振り分けてみた。その結果、平均回答個数は2.8個で、中には「11個以上」回答している人もいる。なお、平均回答個数の算出にあたっては、「特にない」・「無回答」の人数を含まず、全体から差し引いたものを分母としている。(図表1-5)

図表1-5 日本の生活で困っていることや不満なこと(回答個数)

	n	比率(%)	平均(個)
	1,024	100.0	2.8
1～2個	415	40.5	
3～4個	247	24.1	
5～6個	67	6.5	
7～8個	31	3.0	
9～10個	6	0.6	
11個以上	8	0.8	
特にない	239	23.3	
無回答	11	1.1	

平成 27 年度との比較については、項目数が異なるため参考として順位を比べるにとどめるが、新規項目が上位にあることもあり、平成 27 年度で第 10 位だった「災害時・緊急時の対応」が今回は第 15 位に、第 13 位だった「子どもの教育」が第 18 位に順位を下げている。(図表 1-6)

図表 1-6 日本の生活で困っていることや不満なこと（複数回答）／平成 27 年度との比較



(注) ※1~4 は今回調査で新設した項目である。

◆「その他」の記述 (令和 5 年度)

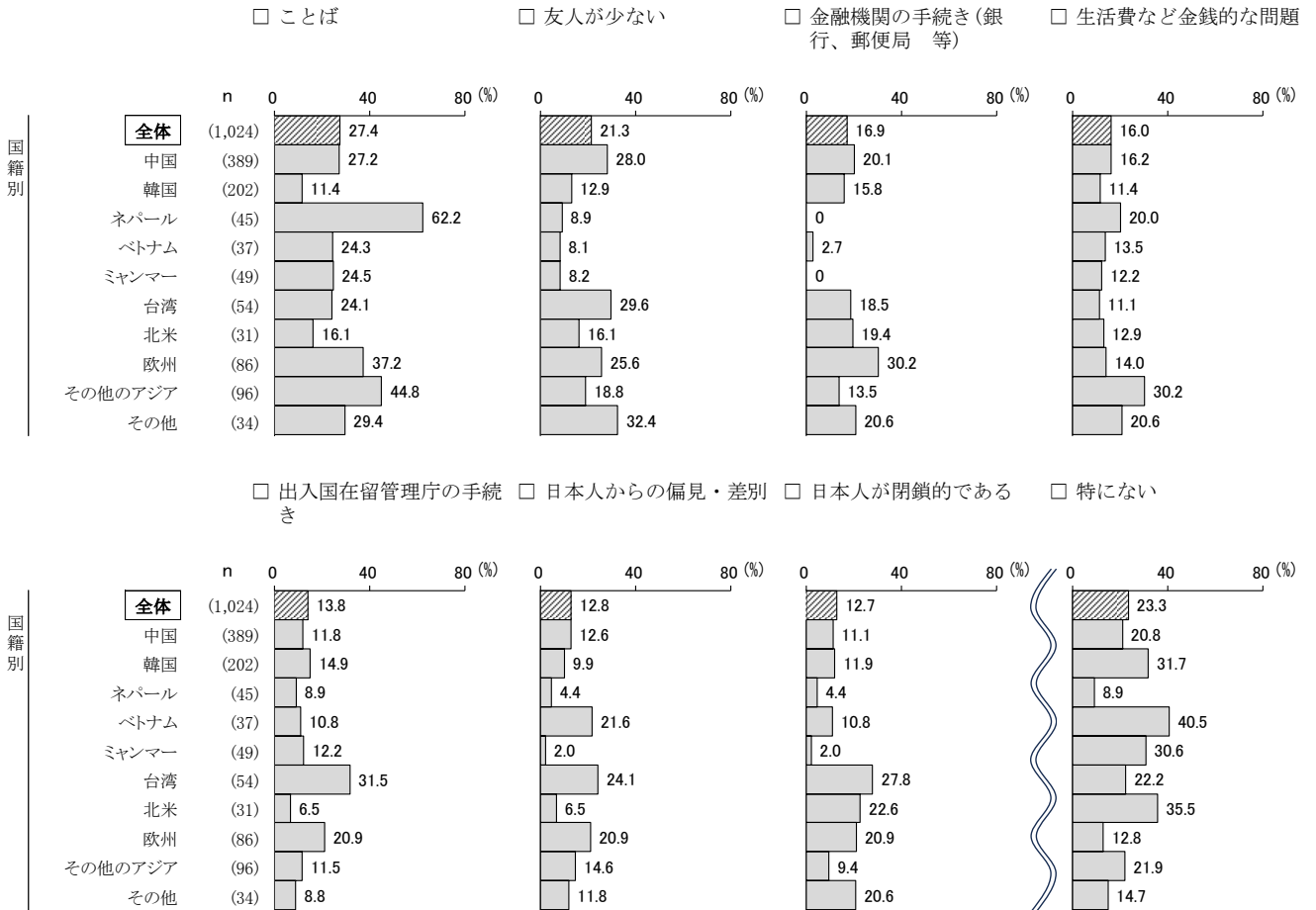
生活に関する手続きが煩雑 (未デジタル化・プロセスが多いなど) [7 人]、日本の行政力、法律、経済に関すること [3 人]、日本人の性質によること (本音と建前がある、頑固など) [3 人]、生活費・税金が高いなど [3 人] など

【国籍別】

「ことば」は“ネパール”が6割強、次いで“その他のアジア”が4割台半ば近くと高くなっている。このほか、「友人が少ない」は“その他”が3割強、「出入国在留管理庁の手続き」は“台湾”が3割強、「金融機関の手続き(銀行、郵便局 等)」は“欧州”が、「生活費など金銭的な問題」は“その他のアジア”が、それぞれ約3割と高い。

一方、「特にない」は、“ベトナム”で約4割と高く、次いで“北米”が3割台半ば、最低は“ネパール”の1割未満となっている。(図表1-7)

図表1-7 日本の生活で困っていることや不満なこと《国籍別》(上位7項目+「特にない」)

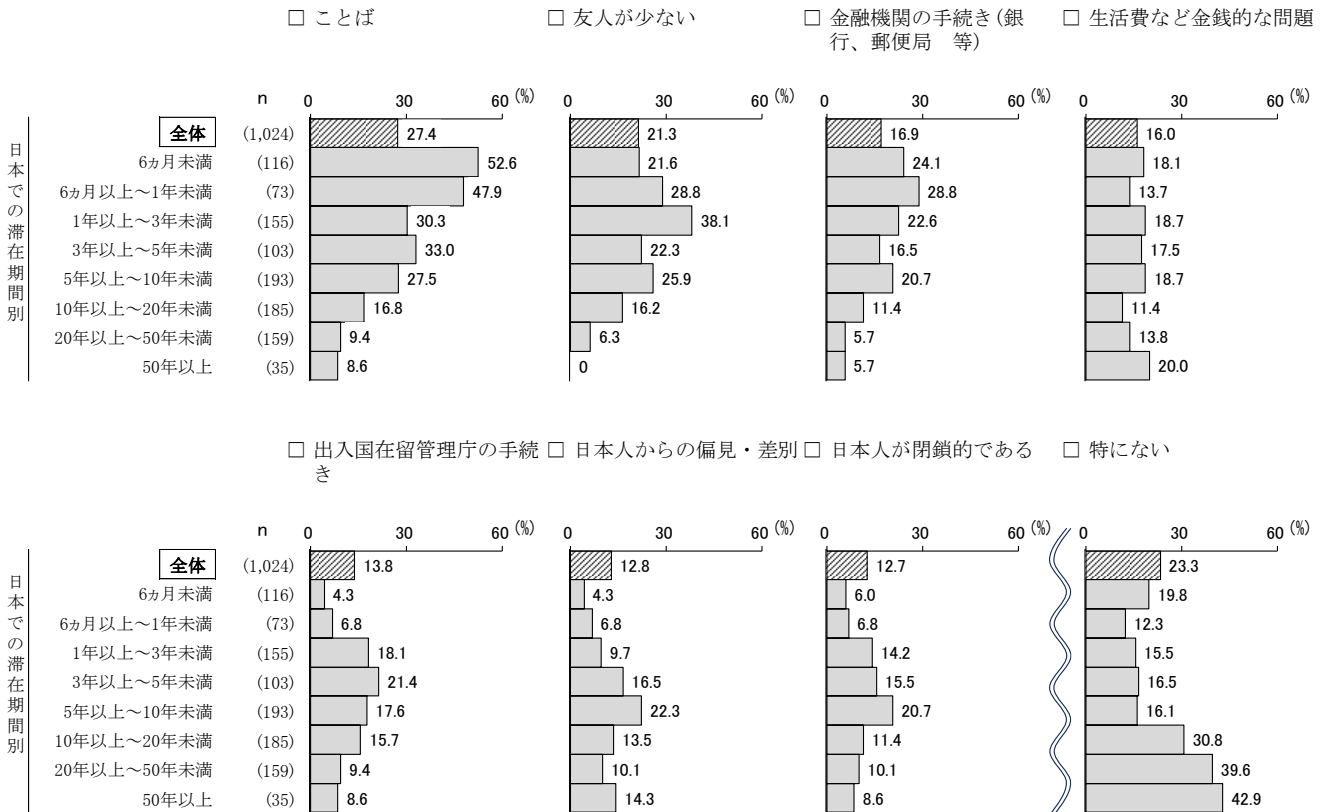


【日本での滞在期間別】

「ことば」、「金融機関の手続き(銀行、郵便局 等)」は、おおむね滞在期間が短いほど高い傾向があり、特に、「ことば」は“6ヵ月未満”で5割強、“6ヵ月以上～1年未満”で4割台半ばを超えている。一方、「特にない」は滞在期間が長いほど高く、“50年以上”で4割強である。(図表1-8)

図表1-8 日本の生活で困っていることや不満なこと《日本での滞在期間別》

(上位7項目+「特にない」)



②日本の生活で困っていることや不満なこと（自由記述）

問 10 の日本の生活で困っていることや不満なことについて、自由に記述していただいた。
この設問に関して、主に次のようなご意見があげられた。

【言語（漢字・カタカナ・ひらがなの読みも含む）】

- テレビ・ラジオ等での話し言葉は理解できない。
- 日本語を勉強する過程で気づいたのは、非常にカタカナ（外来語）が多いことだが、カタカナは必要ない。直接英語やフランス語等を直接使えばいいと思う。
- 見慣れない漢字があると管理業務の負荷が上がる。
- 外国語サポート・サービスが少ない。
- 学校など公共の場所や政府機関の文字情報は、ほとんど日本語である。内容を理解しようとして翻訳アプリを使っても不正確なため、結局人に説明をお願いすることになり時間がかかる。
- 日本語の発音や文法を訂正してもらいたい。

【生活費・物価が高い】

- 高い食品。
- 医療費が高い。
- 新宿区の家賃高すぎ。
- 物価が高騰で生活費が足りないことが時々ある。
- 語学学校の費用が高い。

【家を借りるのが大変】

- 外国人不可の物件が多い。
- 外国人が良いアパートを借りるのは難しいし、外国人が貸してもらえるアパートはほとんどない。
- 保証会社など審査全てクリアしてもオーナーNGが多かった。管理会社が外国人NGなところも…。
- 家探しの際の審査が非常に厳格で時間がかかり、頭金も高額。
- 部屋を借りるときに日本人の保証人を求められて、希望する物件を借りられなかったことがある。

【就職、転職、仕事の採用】

- 基礎的な日本語しか理解できないと、仕事が非常に限られる。
- 日本企業の多くは、非日本人を雇用しない。
- 永住権と日本国籍の人限定の仕事が多い。
- 高収入の仕事を見つけるのは難しいので、学費と生活費の間で経済的に苦しい。
- ヒジャブ（イスラム教徒の女性が髪を覆うスカーフ）をかぶったままできるアルバイトの情報がほしい。

【税金が高い】

- 自分は日本に来て 1 年ちょっとしか経たないのに、とても多くの税金を納めなくてはいけない（保険、市民税）。

- 税金が高すぎる。住民税、年金など外国人に対して年金を安くしてもらいたい。
- 学生なのに税金が高い。
- 税金が高すぎて、給料のほとんどが税金として納められて、お金はあまり稼げない。

【区役所・銀行・病院などが利用しづらい】

- 病院、出入国、銀行などで長く待つ。紙での手続きが多い。
- 手続き関連のデジタル化が遅すぎる、または必要書類が多すぎる。同じことを何回も書かされるのでもっと連携をとって簡潔化してほしい。
- 銀行等で手続きをするときに、印鑑がないと手続きが進まないこと。
- 非居住者（入国6ヶ月未満）であるときの金融機関や生活インフラ（住所賃貸、通信サービス開設など）における手続きの困難さ。
- 病院に行きたくても、予約を取ることができない。
- 週末は病院が休みなので困っている。

【その他】

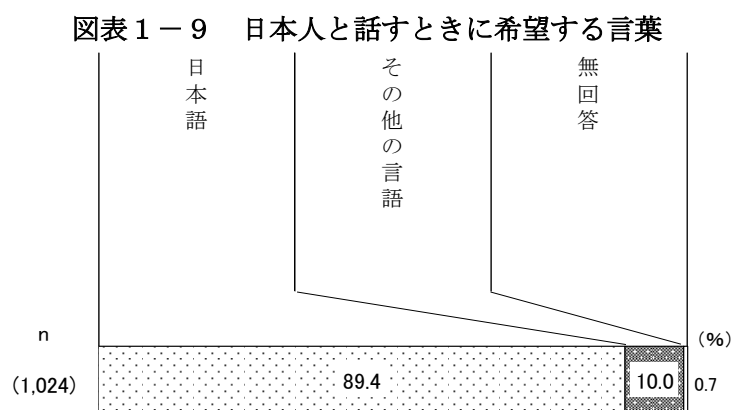
- ビザ取得のための大量の手続き。
- 保育園も、共働きの場合のみ申込みが可能で、申込みするにも区役所に行かなければならずとても不便。
- ゲイに対する権利がない。
- 深夜、救急車の大きなアナウンスはちょっとうるさい。
- 日本の企業のワークライフバランスがよくない。
- 永住権を持ち、20年以上税金を納めているにもかかわらず、投票権も選挙に参加する権利もない。

(3) 日本人と話すときに希望する言葉

◇「日本語」が9割弱、「その他の言語」が1割

とい 問11 あなたは日本人と話するとき、どの言葉での会話を希望しますか。(○は1つだけ)			
[n = 1, 024]			
1	日本語	89.4%	2
			その他の言語
			(無回答)
			10.0%
			0.7%

日本人と話すときに希望する言葉は、「日本語」(89.4%)が9割弱、「その他の言語」(10.0%)が1割となっている。(図表1-9)



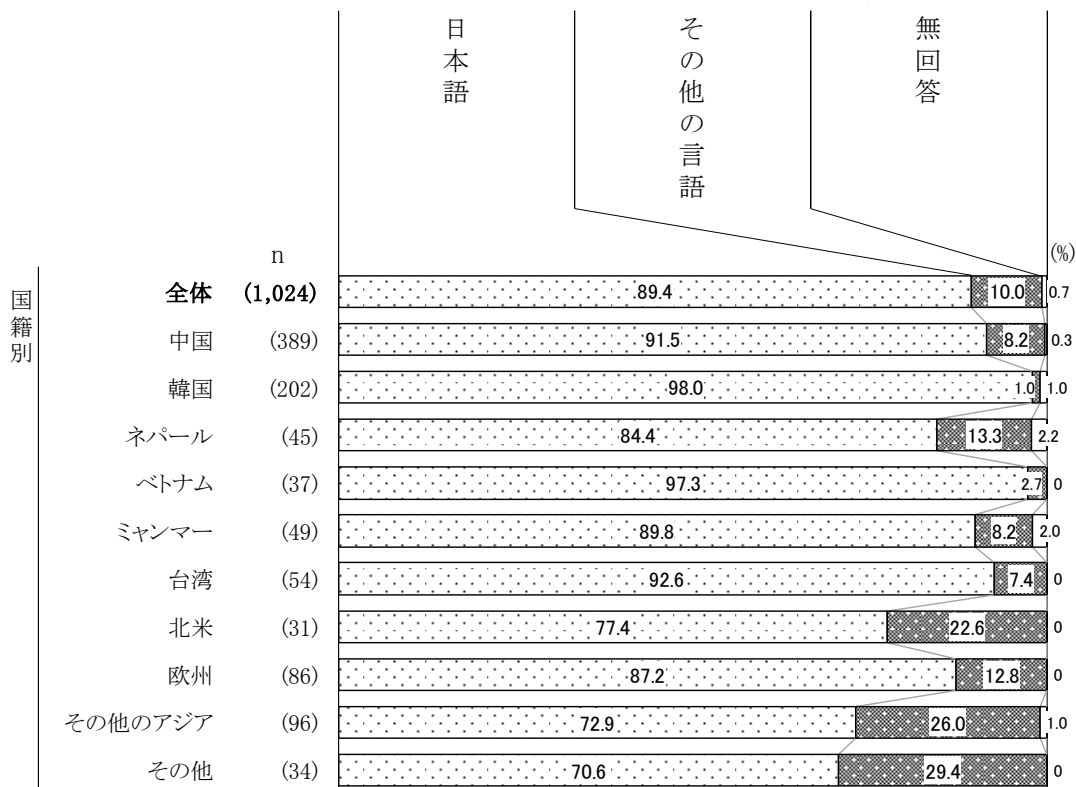
◆「その他」の記述

英語[83人]、中国語[14人]、英語、日本語の両方[9人]、タイ語[4人] など

【国籍別】

「日本語」は、「韓国」が10割近く、「ベトナム」で9割台半ばを超えて高くなっている。一方、「その他の言語」は、「その他」が3割弱と高くなっている。(図表1-10)

図表1-10 日本人と話すときに希望する言葉《国籍別》



(4) 日本人とのつき合い

◇つき合いが「ある」が4割強。一方「ない」が5割台半ばを超える

◇つき合いの程度では、「あいさつをする程度」が4割台半ば近い

◇日本人と主に話す言葉は、「日本語」が9割台半ば近い

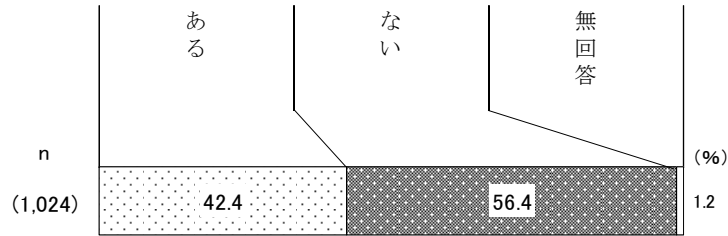
◇つき合いがない理由では、「話しかけるきっかけがないから」が7割近くで最も高い

<p>とい 問12 あなたは近くに^{ちか}に住む^す日本人^{にほんじん}とつき^あ合いがありますか。(○は1つだけ)</p> <p>[n=1,024]</p>					
1	ある	42.4%	2	ない	56.4%
				(むかいとう 無回答)	1.2%
<p><u>(問12で、「1 あり」と答えた方に)</u></p>					
<p>とい 問12-1 それはどのようなつき^あ合いですか。(○は1つだけ)</p> <p>[n=434]</p>					
1	あいさつをする ^{ていど} 程度	43.3%	5	家族 ^{かぞく} と同じ ^{おな} ように親 ^{した} しくつき	7.6%
2	日常生活 ^{にちじょうせいかつ} のことを話 ^{はな} している	17.7%		合 ^あ っている	
3	何か ^{なに} 困 ^{こま} った時 ^{とき} に助 ^{たす} け合 ^あ って	7.8%	6	その他 ^た	1.8%
	る			(むかいとう 無回答)	1.2%
4	友人 ^{ゆうじん} としてつき ^あ 合 ^あ っている	20.5%			
<p><u>(問12で、「1 あり」と答えた方に)</u></p>					
<p>とい 問12-2 今まで、近く^{ちか}に住む^す日本人^{にほんじん}と話^{はな}すとき、主^{おも}にどの言葉^{ことば}で話^{はな}していますか。</p> <p>(○は1つだけ)</p> <p>[n=434]</p>					
1	日本語 ^{にほんご}	93.1%	2	その他 ^た の言語 ^{げんご}	5.8%
				(むかいとう 無回答)	1.2%
<p><u>(問12で、「2 ない」と答えた方に)</u></p>					
<p>とい 問12-3 近く^{ちか}に住む^す日本人^{にほんじん}とつき^あ合いがないのはなぜですか。(○はいくつでも)</p> <p>[n=578]</p>					
1	時間 ^{じかん} がないから	15.4%	5	話 ^{はな} しかけるき ^あ っかけがないから	68.2%
2	日本語 ^{にほんご} を話 ^{はな} せないから	21.3%	6	つき ^あ 合 ^あ う場 ^ば がないから	42.7%
3	長く ^{なが} 日本 ^{にほん} に住 ^す むつもりがない	0.9%	7	必要 ^{ひつよう} だと思 ^{おも} わないから	11.1%
	から		8	その他 ^た	6.9%
4	日本人 ^{にほんじん} とつき ^あ 合 ^あ うのが苦 ^{にがて} 手 ^て だ	14.2%		(むかいとう 無回答)	1.9%
	から				

① 日本人との付き合いの有無

日本人との付き合いが「ある」(42.4%)は4割強である。一方で、「ない」(56.4%)が5割台半ばを超えている。(図表1-11)

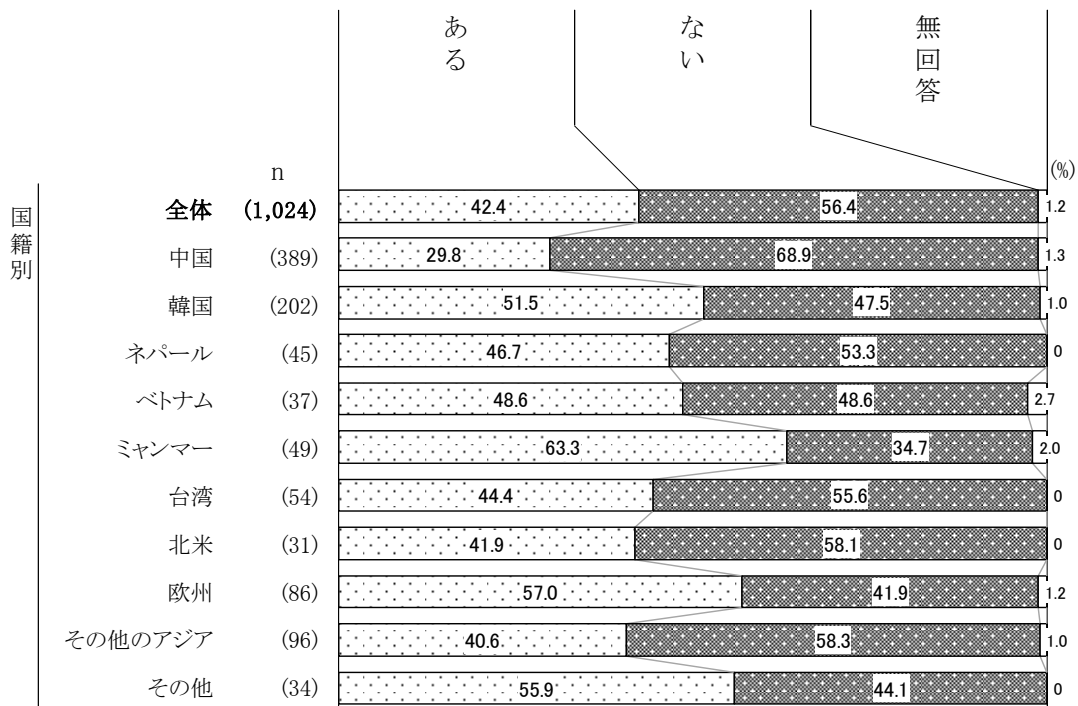
図表1-11 日本人との付き合いの有無



【国籍別】

「ある」は、「ミャンマー」が6割台半ば近く、「欧州」で5割台半ばを超え高くなっている。一方、「ない」は、「中国」が7割近くと高くなっている。(図表1-12)

図表1-12 日本人との付き合いの有無《国籍別》

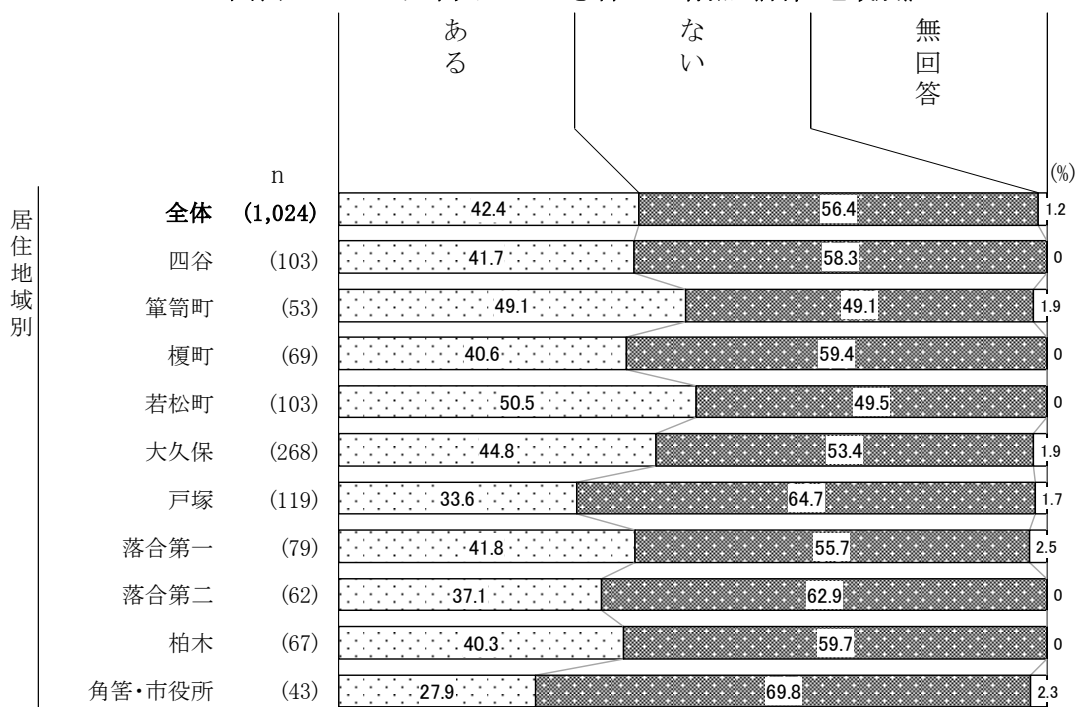


【居住地域別】

「ある」は、“若松町”で約5割、“箕箭町”で5割弱、“大久保”で4割台半ば近くとやや高くなっている。

一方、「ない」は、“角筈・区役所”で7割弱と最も高く、次いで“戸塚”で6割台半ば近くとなっている。(図表1-13)

図表1-13 日本人との付き合いの有無《居住地域別》



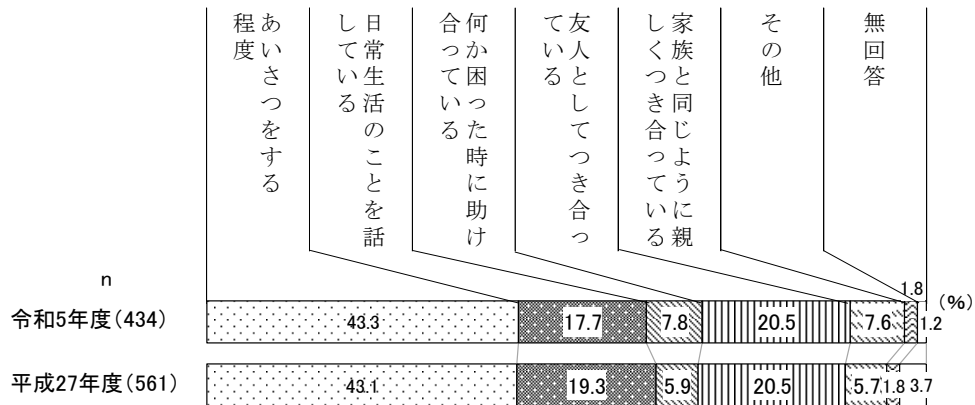
②つき合いの程度

問 12 で日本人とのつき合いが「ある」と回答した人に、つき合いの程度を聞いた。

その結果、「あいさつをする程度」(43.3%)が4割台半ば近くで最も高く、「友人としてつき合っている」(20.5%)が約2割となっている。

平成 27 年度と比較すると、いずれも大きな変化はみられない。(図表 1-14)

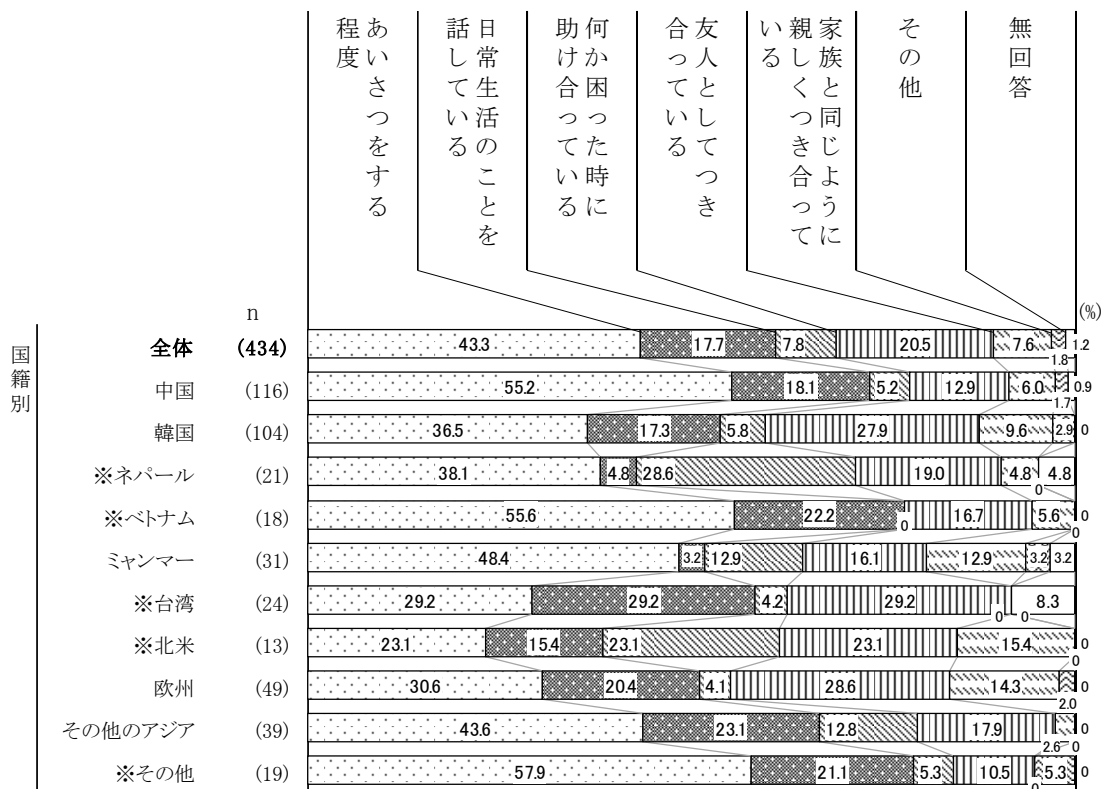
図表 1-14 つき合いの程度／平成 27 年度との比較



【国籍別】

いずれの国籍でも「あいさつをする程度」が高くなっているが、中でも“中国”は5割台半ばと高く、次いで“ミャンマー”が5割近くとなっている。「日常生活のことを話している」は“その他のアジア”で2割台半ば近く、「友人としてつき合っている」は“欧州”で3割近くとなっている。(図表1-15)

図表1-15 つき合いの程度《国籍別》

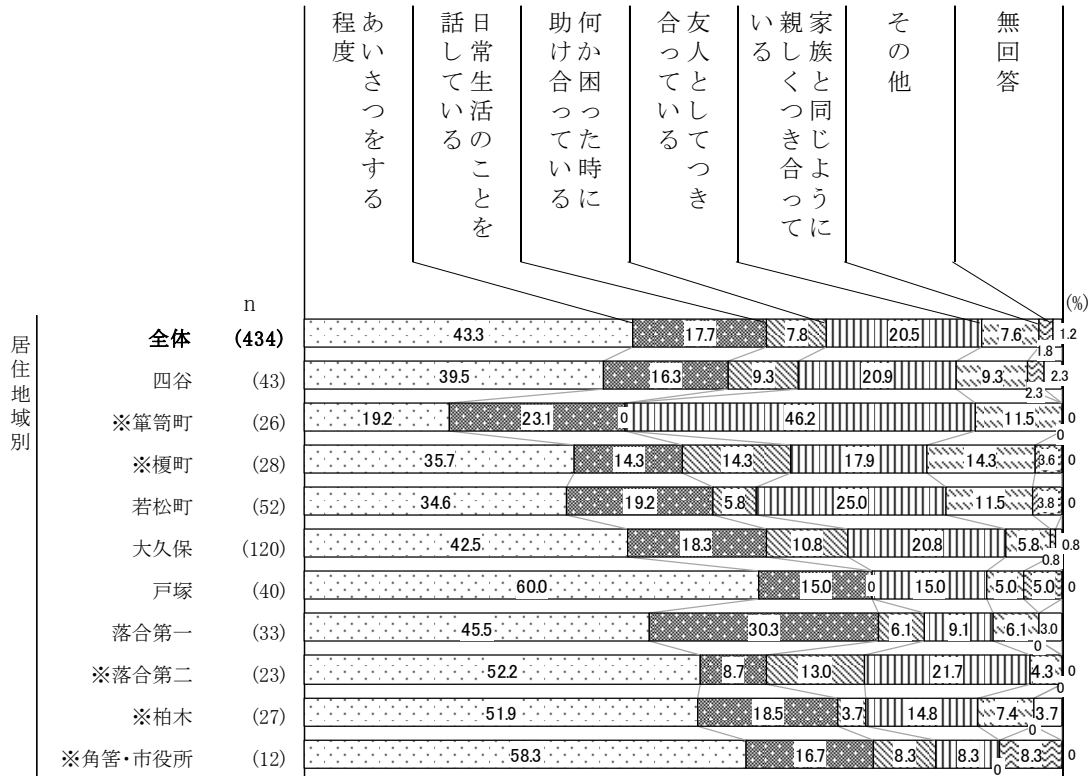


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【居住地域別】

「あいさつをする程度」は、“戸塚”で6割と高くなっている。「友人としてつき合っている」は、“若松町”で2割台半ばと最も高い。(図表1-16)

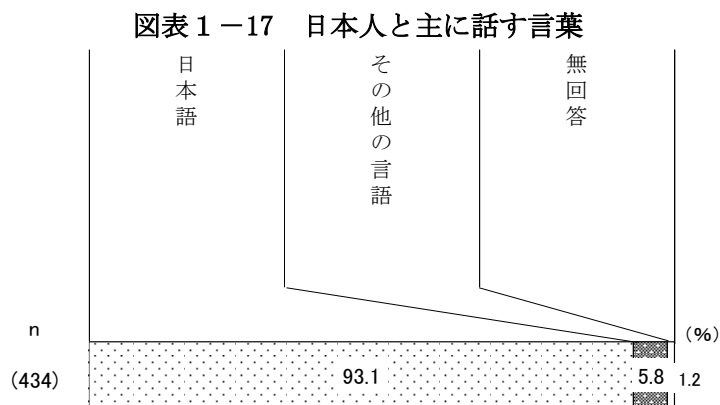
図表1-16 つき合いの程度《居住地域別》



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

③日本人と主に話す言葉

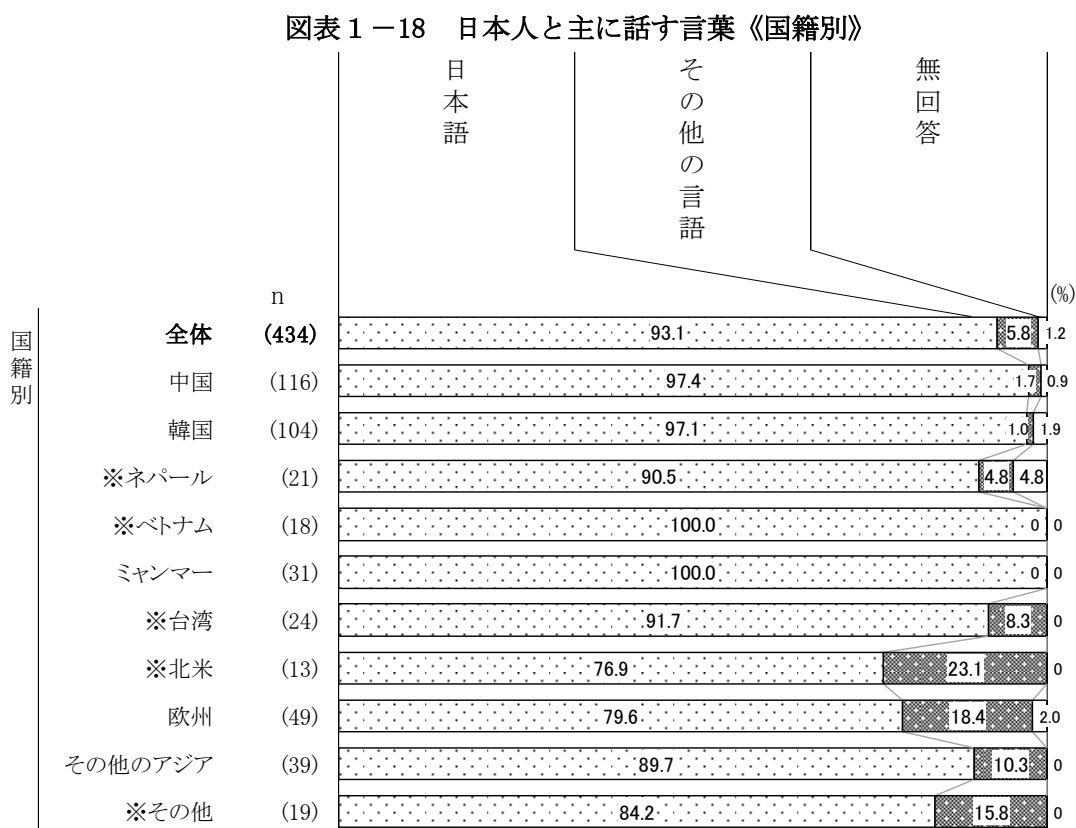
問 12 で日本人とのつき合いが「ある」と回答した人に、日本人と主に話す言葉を聞いた。
その結果、「日本語」(93.1%) が9割台半ば近く、「その他の言語」(5.8%) が1割未満となっている。
(図表 1-17)



【国籍別】

「日本語」は、“ミャンマー” で全員が回答している。また、“中国” と “韓国” が9割台半ばを超えて高くなっている。

一方、「その他の言語」は、“欧州” が2割近くと高くなっている。(図表 1-18)



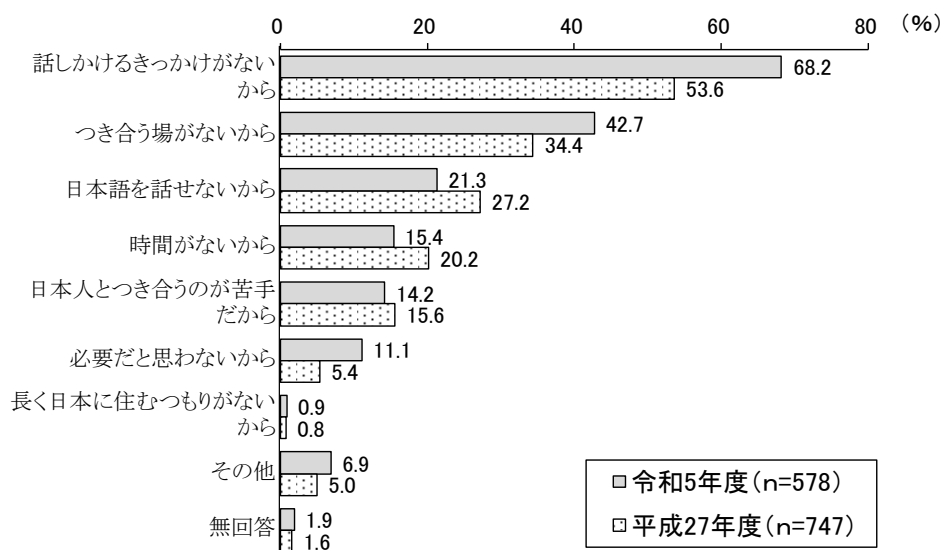
(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

④日本人とのつき合いがない理由

問 12 で日本人とのつき合いが「ない」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「話しかけるきっかけがないから」(68.2%) が7割近くで最も高くなっている。次いで「つき合う場がないから」(42.7%) は4割強、「日本語を話せないから」(21.3%) は2割強となっている。

平成 27 年度と比較すると、「話しかけるきっかけがないから」が 14.6 ポイント、「つき合う場がないから」が 8.3 ポイント、「必要だと思わないから」が 5.7 ポイント増加し、「日本語を話せないから」が 5.9 ポイント減少している。(図表 1-19)

図表 1-19 日本人とのつき合いがない理由(複数回答) / 平成 27 年度との比較



◆「その他」の記述(令和5年度)

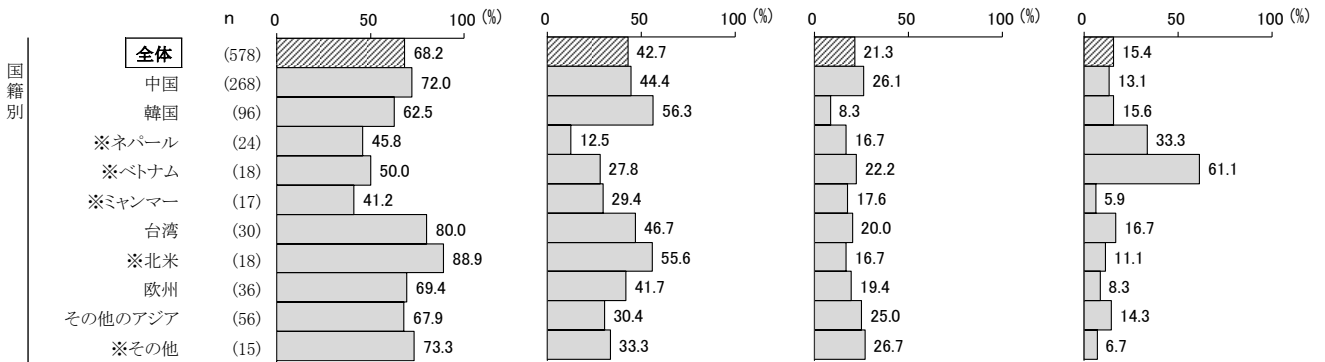
近所に日本人がいないから[5人]、近所の日本人とほとんど顔を合わせないから[4人]、差別を受けるから・受けそうだから[3人]、無視・敬遠されるから[3人]、話しかけてこないから[3人] など

【国籍別】

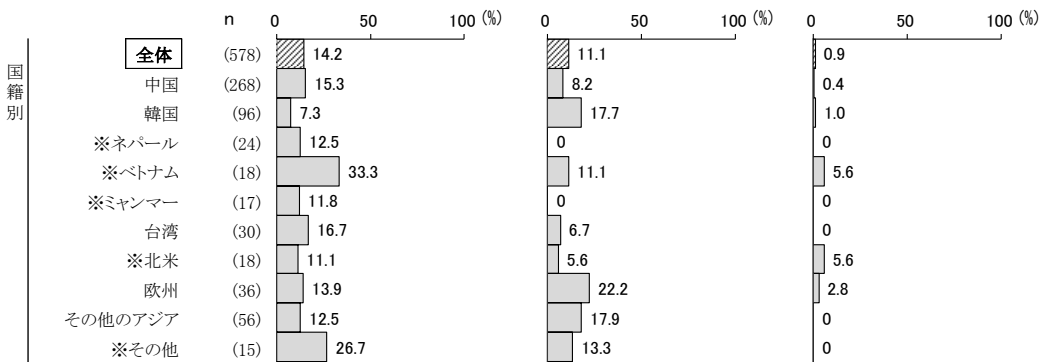
いずれの国籍でも「話しかけるきっかけがないから」が高くなっているが、中でも“台湾”は8割と高くなっている。「つき合う場がないから」は“韓国”で5割台半ばを超えて高い。(図表1-20)

図表1-20 日本人とのつき合いがない理由《国籍別》

□ 話しかけるきっかけがないから □ つき合う場がないから □ 日本語を話せないから □ 時間がないから



□ 日本人とつき合うのが苦手だから □ 必要だと思わないから □ 長く日本に住むつもりがないから



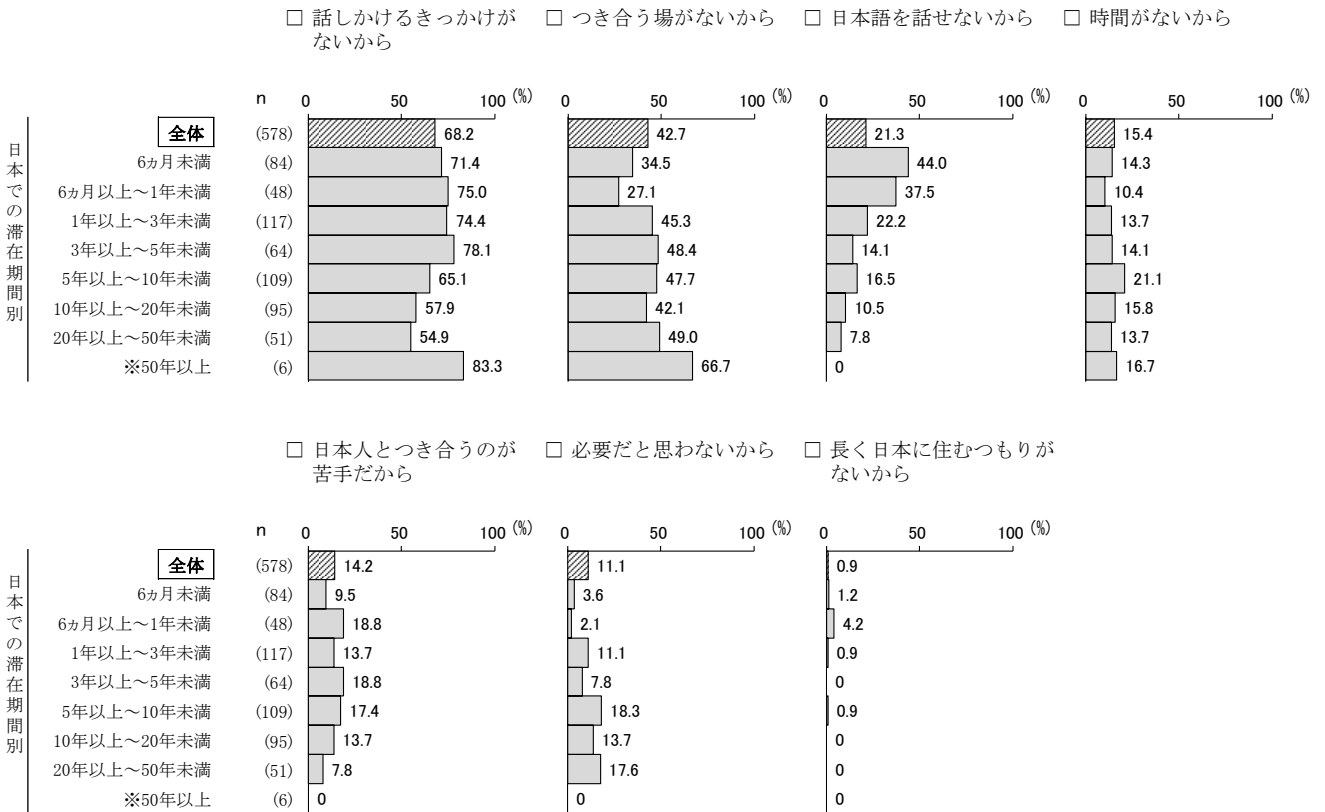
(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【日本での滞在期間別】

「話しかけるきっかけがないから」は、“3年以上～5年未満”で8割近くと最も高くなっており、次いで“6ヵ月以上～1年未満”で7割台半ばとなっている。

また、「日本語を話せないから」は、“6ヵ月未満”で4割台半ば近くと最も高く、おおむね滞在期間が長いほど低くなっている。(図表1-21)

図表1-21 日本人とのつき合いがない理由《日本での滞在期間別》

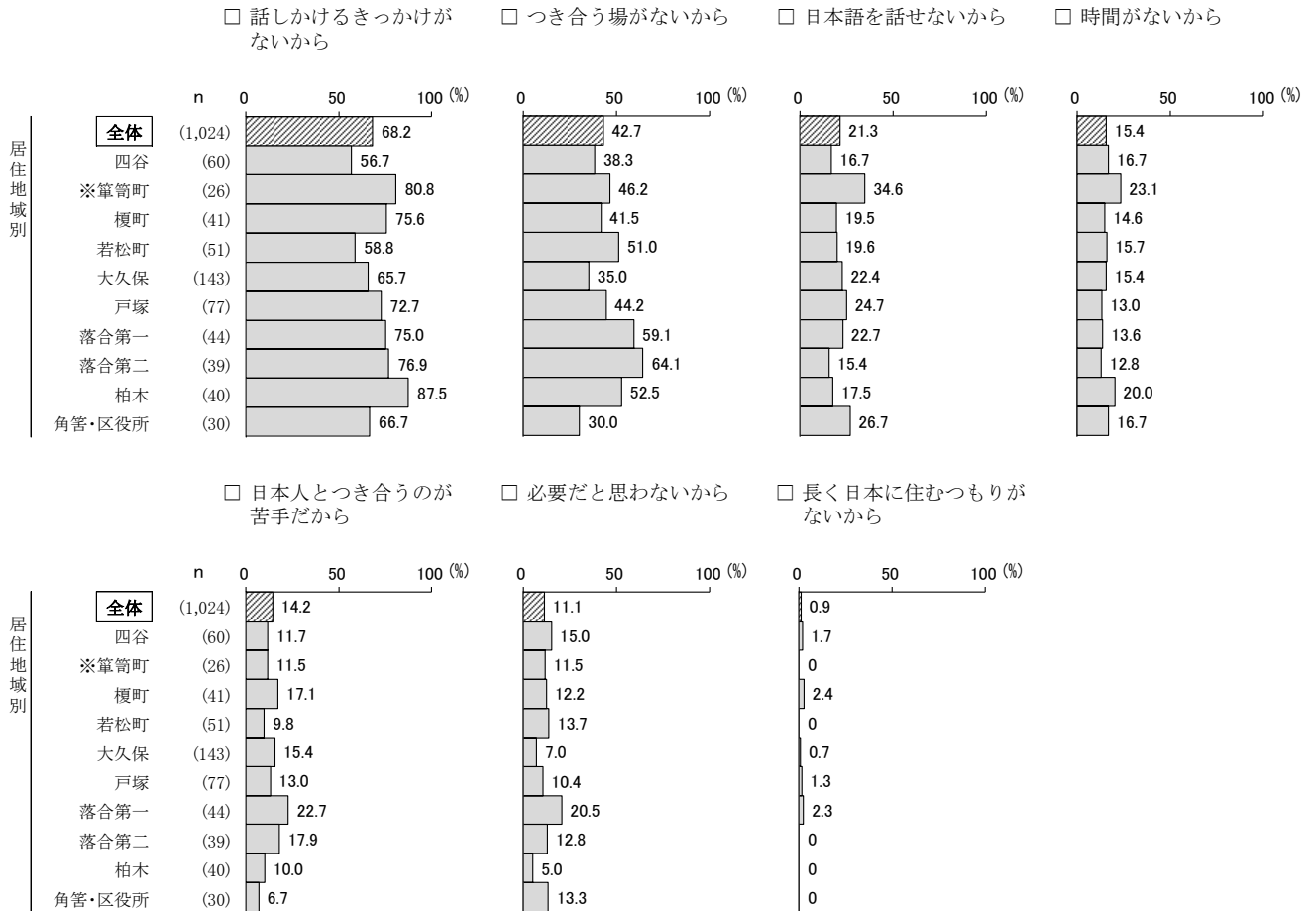


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【居住地域別】

「話しかけるきっかけがないから」は、“柏木”で8割台半ばを超えて最も高くなっており、次いで“落合第二”で7割台半ばを超えている。「つき合う場がないから」は“落合第二”で6割台半ば近くと最も高い。(図表1-22)

図表1-22 日本人とのつき合いがない理由《居住地域別》



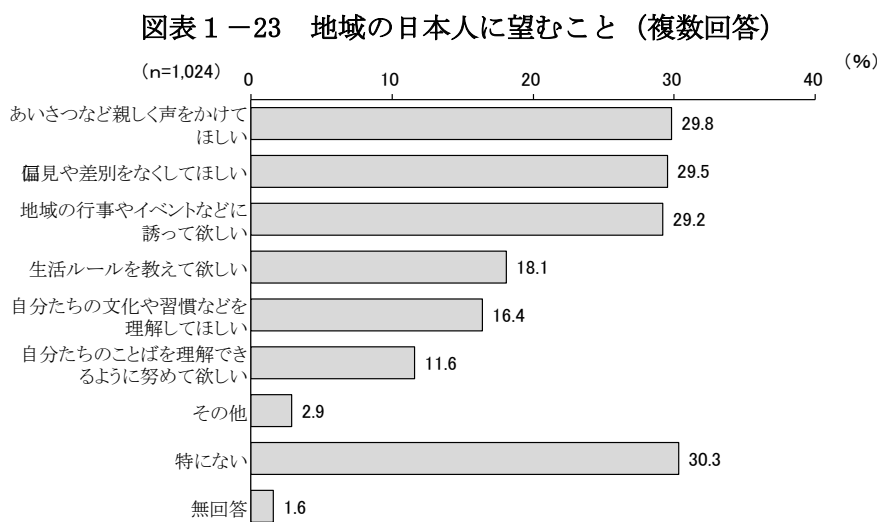
(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

(5) 地域の日本人に望むこと

◇「あいさつなど親しく声をかけてほしい」、「偏見や差別をなくしてほしい」と「地域の行事やイベントなどに誘って欲しい」が3割弱

<small>とい</small> 問13 あなたが地域の日本人に望むことはなんですか (〇はいくつでも)	
[n=1,024]	
1	あいさつなど親しく声をかけてほしい 29.8%
2	生活ルールを教えて欲しい 18.1%
3	自分たちの文化や習慣などを理解してほしい 16.4%
4	自分たちのことばを理解できるように努めて欲しい 11.6%
5	地域の行事やイベントなどに誘って欲しい 29.2%
6	偏見や差別をなくしてほしい 29.5%
7	その他 2.9%
8	特にない 30.3%
	(無回答) 1.6%

地域の日本人に望むことは、「あいさつなど親しく声をかけてほしい」(29.8%)、「偏見や差別をなくしてほしい」(29.5%)と「地域の行事やイベントなどに誘って欲しい」(29.2%)が3割弱と最も高い。一方、「特にない」は約3割となっている。(図表1-23)



◆「その他」の記述

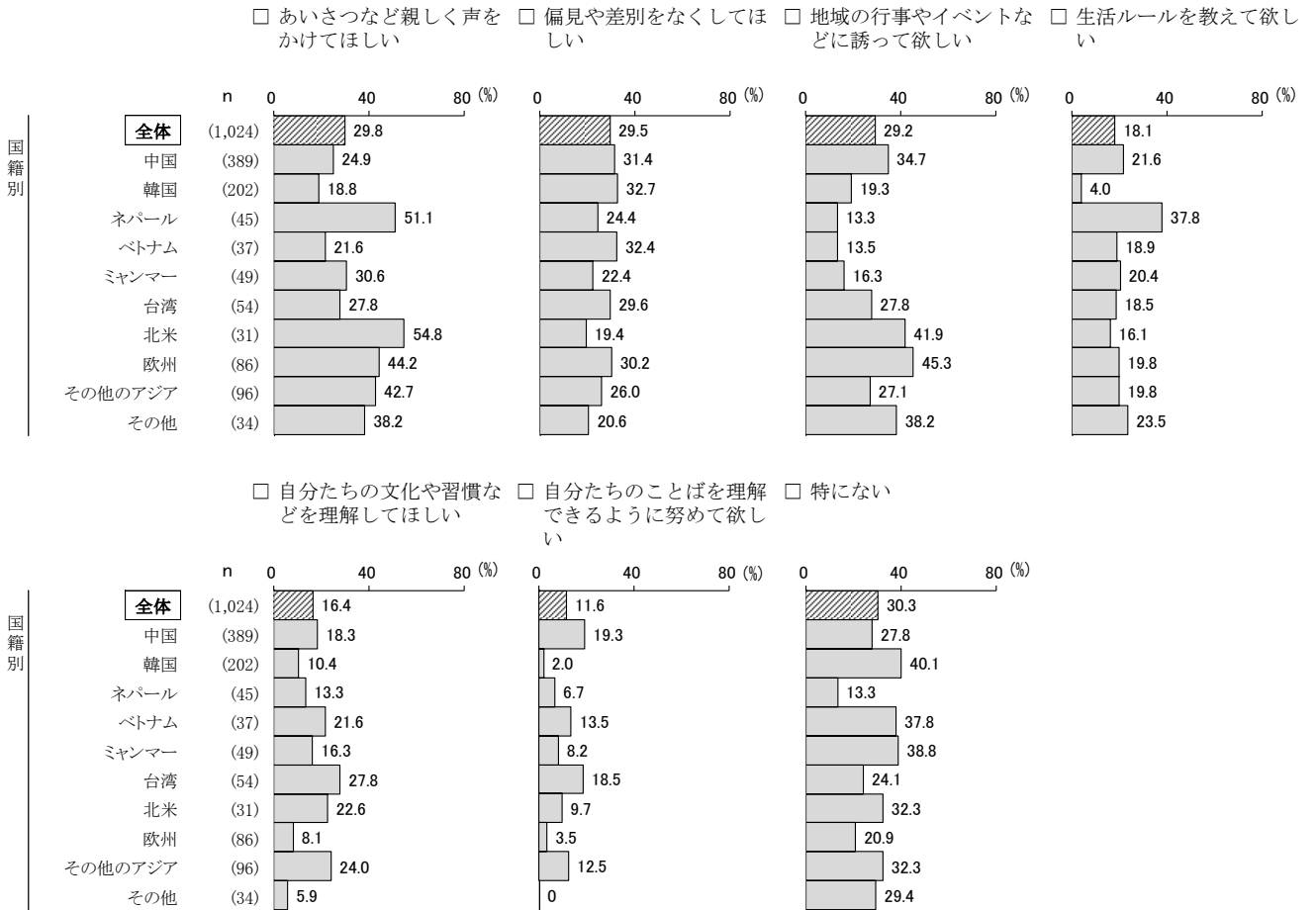
コミュニケーションを取ってほしい[2人]、誠実であってほしい[2人]、お互い尊重し合うこと[2人]、外国人ということを気にしないで欲しい[2人]、夜中に騒音を出さないでほしい[2人] など

【国籍別】

「あいさつなど親しく声をかけてほしい」は“北米”が5割台半ば近く、次いで“ネパール”が5割強と高くなっている。このほか、「偏見や差別をなくしてほしい」は“韓国”が3割強とやや高く、「地域の行事やイベントなどに誘って欲しい」は“欧州”が4割台半ば、“北米”が4割強と高い。また、「生活ルールを教えて欲しい」は“ネパール”が3割台半ばを超えて高くなっている。

一方、「特にない」は、“韓国”で約4割と高く、次いで“ミャンマー”が4割近く、最低は“ネパール”の1割台半ば近くとなっている。(図表1-24)

図表1-24 地域の日本人に望むこと《国籍別》

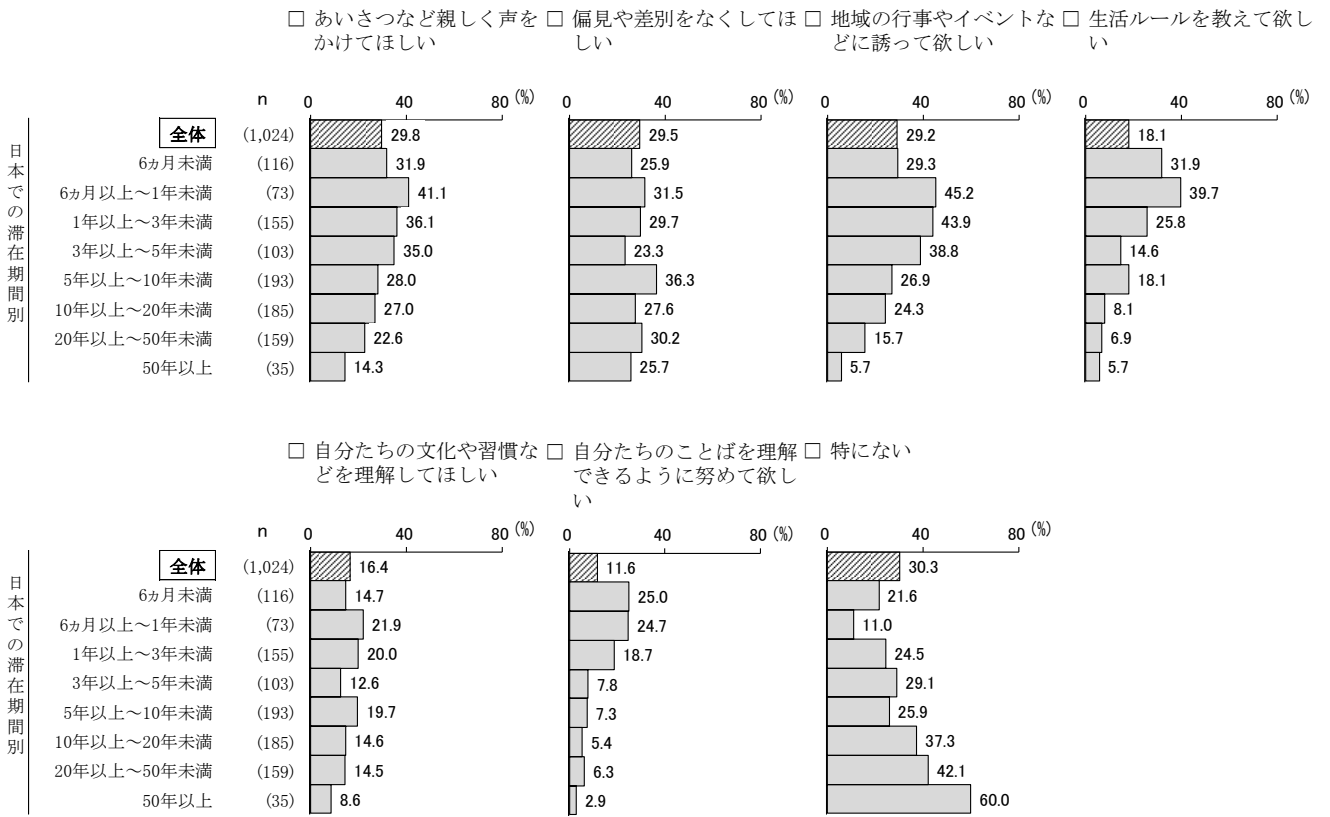


【日本での滞在期間別】

「あいさつなど親しく声をかけてほしい」、「地域の行事やイベントなどに誘って欲しい」、「生活ルールを教えて欲しい」と「自分たちのことばを理解できるように努めて欲しい」で、おおむね日本での滞在期間が長いほど減少する傾向にある。

一方、「特にない」は、“50年以上”で6割と高く、おおむね日本での滞在期間が長いほど増加する傾向にある。(図表1-25)

図表1-25 地域の日本人に望むこと《日本での滞在期間別》



(6) 日常生活で困った時の相談相手

◇「知人・友人（同国人）」が6割台半ばで最も高く、「家族・親戚」が4割台半ばを超える

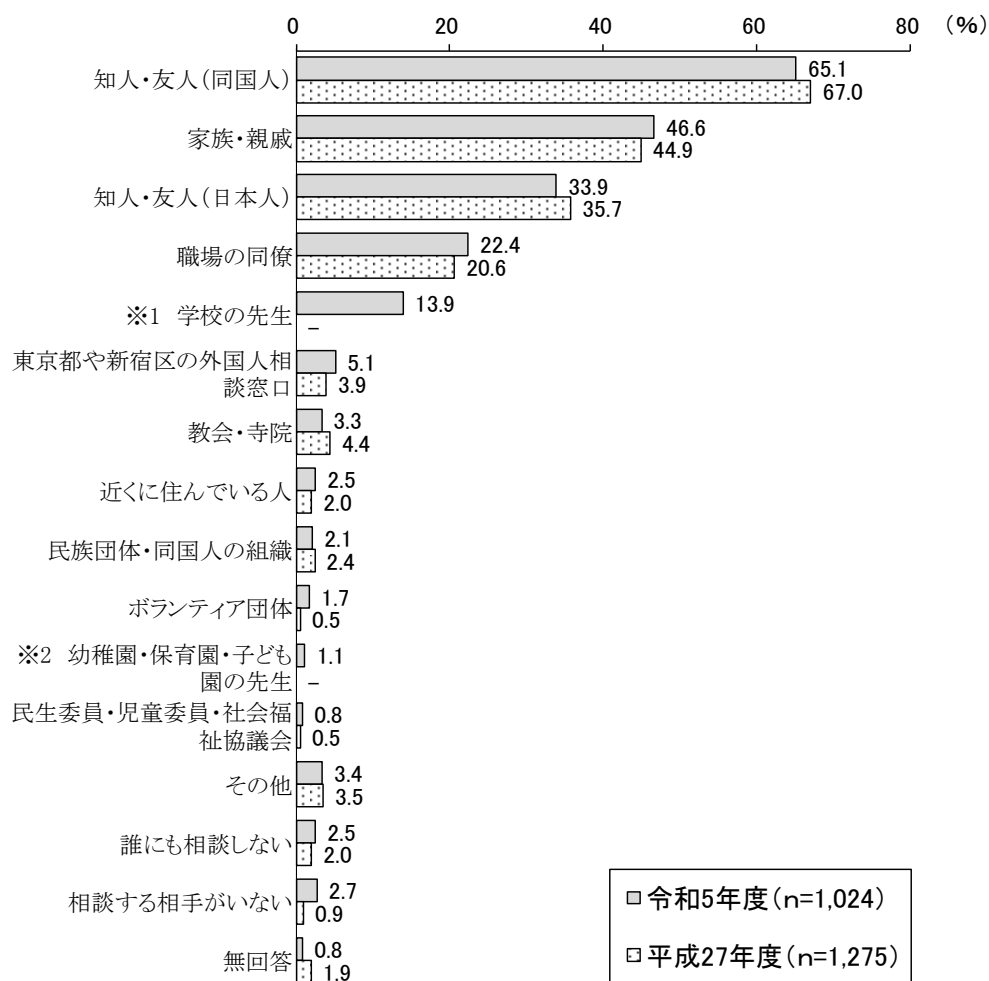
<p>とい 問14 あなたは、日常生活のことで困った時は誰に相談しますか。（〇はいくつでも）</p> <p>[n = 1, 024]</p>					
1	ちじん ゆうじん どうこくじん 知人・友人（同国人）	65.1%	9	がっこう せんせい 学校の先生	13.9%
2	ちじん ゆうじん にほんじん 知人・友人（日本人）	33.9%	10	とうきょうと しんじゅくく がいこくじん 東京都や新宿区の外国人	5.1%
3	かぞく しんせき 家族・親戚	46.6%		そうだんまどぐち 相談窓口	
4	しよくば どうりよう 職場の同僚	22.4%	11	みんせいいいん じどういいん しゃかい 民生委員・児童委員・社会	0.8%
5	みんぞくだんたい どうこくじん そしき 民族団体・同国人の組織	2.1%		ふくしきようぎかい 福祉協議会	
6	きようかい じいん 教会・寺院	3.3%	12	ちか す ひと 近くに住んでいる人	2.5%
7	ぼらんてい あだんたい ボランティア団体	1.7%	13	た その他	3.4%
8	ようちえん ほいくえん こ えん 幼稚園・保育園・子ども園の せんせい 先生	1.1%	14	だれ そうだん 誰にも相談しない	2.5%
			15	そうだん あいて 相談する相手がいない	2.7%
				むかいとう (無回答)	0.8%
<p>とい 問14-1 困った時に相談したり、情報交換などができる仲間やグループを教えてください。 (グループの名称や活動内容) 回答しても回答しなくてもかまいません。</p>					

①日常生活で困った時の相談相手

日常生活で困った時の相談相手としては、「知人・友人（同国人）」（65.1%）が6割台半ばで最も高くなっている。次いで「家族・親戚」（46.6%）は4割台半ばを超え、「知人・友人（日本人）」（33.9%）は3割台半ば近くとなっており、「職場の同僚」（22.4%）が2割強となっている。

平成27年度との比較については、項目数が異なるため参考として順位を比べるにとどめるが、「知人・友人（同国人）」、「家族・親戚」、「知人・友人（日本人）」、「職場の同僚」までの順位は、平成27年度と変わらない。（図表1-26）

図表1-26 日常生活で困った時の相談相手（複数回答）／平成27年度との比較



（注）※1 今回調査で新設した項目である。

※2 「幼稚園・保育園・子ども園の先生」は、平成27年度調査では「幼稚園・保育園・子ども園・学校の先生」5.6%であった。

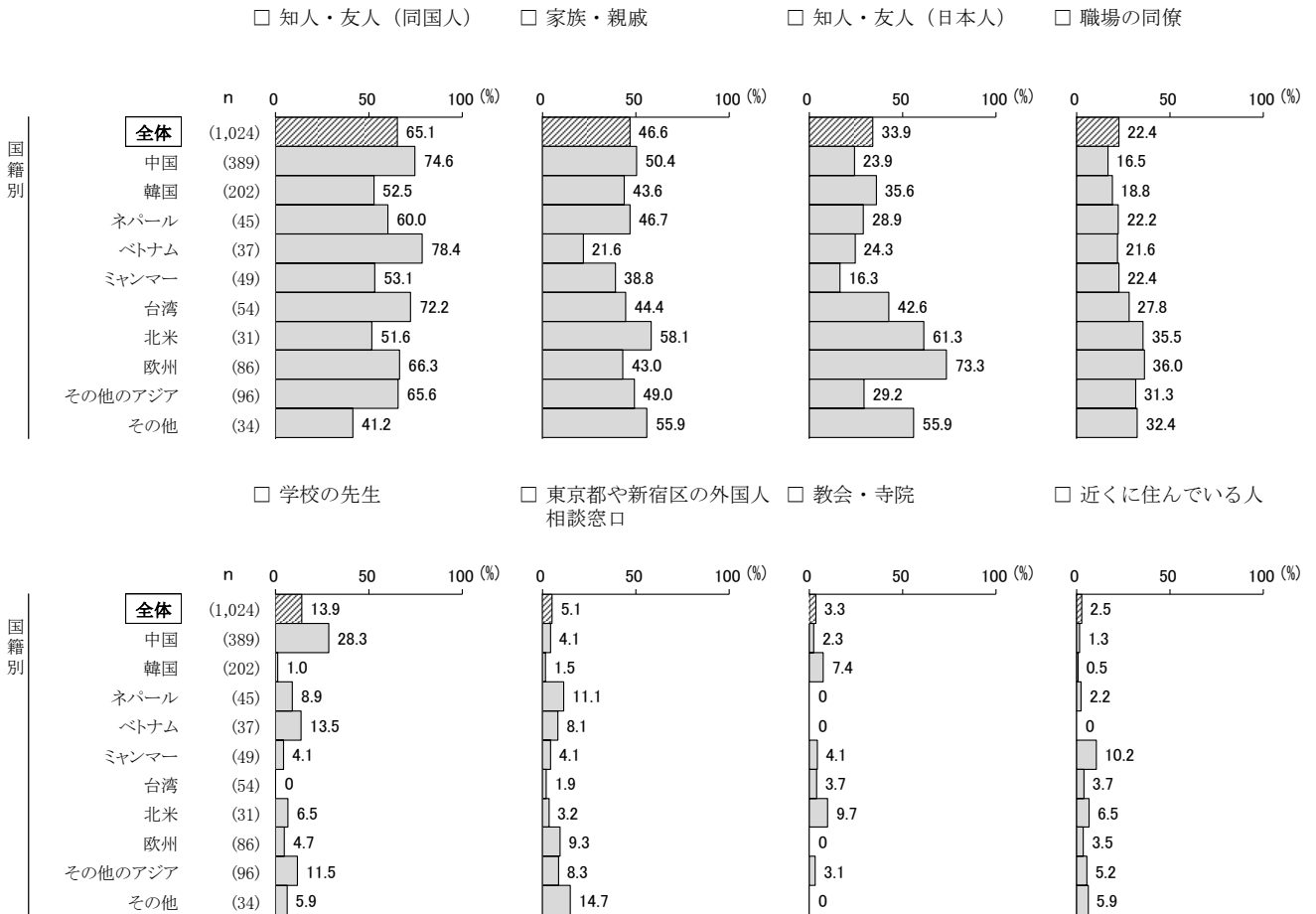
◆「その他」の記述（令和5年度）

インターネット・SNSでの検索[10人]、寮のスタッフ[2人]、日常生活レベルで困ったことはない[2人] など

【国籍別】

上位8項目について国籍別でみると、いずれの国籍でも「知人・友人（同国人）」は高くなっているが、中でも“ベトナム”で8割近くと高くなっている。「家族・親戚」は、“北米”で6割近く、“その他”で5割台半ばと高い。また、「知人・友人（日本人）」は、“欧州”で7割台半ば近くと高くなっており、次いで“北米”で6割強となっている。（図表1-27）

図表1-27 日常生活で困った時の相談相手《国籍別》（上位8項目）



②日常生活で困った時の相談相手（自由記述）

問 14 の日常生活で困った時の相談相手について、自由に記述していただいた。

記述いただいた情報交換などができる仲間やグループの種類は、次のような種類に分類される。

- 日本に住む家族（日本人のパートナー／配偶者／同居の親族／親など）
- 出身国に住む家族（両親／兄弟姉妹など）
- 学校関係（語学学校・大学・塾などの先生／語学学校・大学などの友人／大学の友達の家族／校友会／学校の相談センターなど）
- 職場関係（上司や同僚／商人連合会／近所の労組／働いている店のお客さんなど）
- 同国の人（同じ国の知人・友達／近所の同国の人／同国の在日コミュニティなど）
- シェアハウスや寮のルームメイト
- 趣味のグループ（サッカークラブ／テニスクラブなど）
- 同国の人が集まるウェブサイトやチャットグループ
- 宗教の関係（信仰する宗教の神／教会／宗教団体の仲間など）
- ママ友

(7) 日本人とのトラブル経験

◇「部屋からの声・物音のこと」が約1割。一方「特にない」が7割台半ば

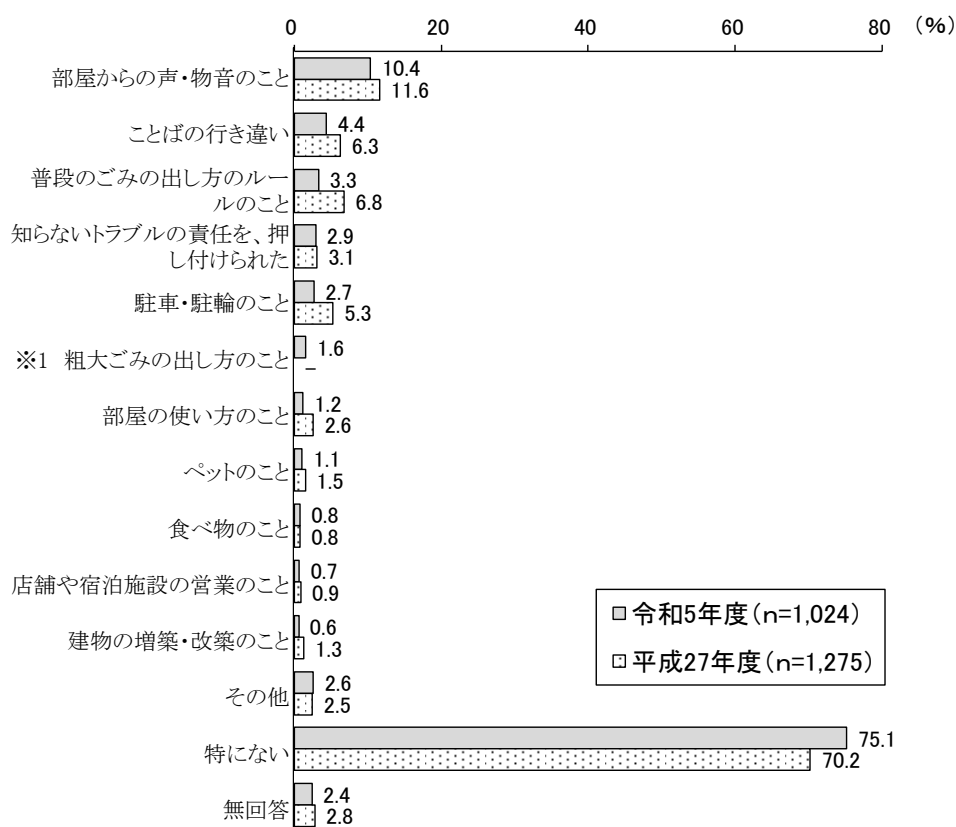
<p>とい 問15 あなたは今までに、近くに住む日本人と次のようなトラブルの経験がありますか。 (○はいくつでも) [n=1,024]</p>					
1	ふだんのごみの出し方のルールのこと	3.3%	8	てんぽや宿泊施設の営業のこと	0.7%
2	そだい粗大ごみの出し方のこと	1.6%	9	へやの使い方のこと	1.2%
3	へやからの声・物音のこと	10.4%	10	知らないトラブルの責任を、押し付けられた	2.9%
4	ペットのこと	1.1%	11	ことばの行き違い	4.4%
5	た食べ物のこと	0.8%	12	その他	2.6%
6	ちゅうしゃ・ちゅうりん駐車・駐輪のこと	2.7%	13	とく特にない	75.1%
7	たてもものぞうちく・かいちく建物の増築・改築のこと	0.6%		むかいとう(無回答)	2.4%

日本人とのトラブル経験は、「特にない」(75.1%)が7割台半ばとなっている。

一方、全体から「特にない」(75.1%)・「無回答」(2.4%)の人数を減じてみると、全体の22.5%が、個々の項目の比率は小さいものの、何らかのトラブル経験をしていることとなる。

平成27年度との比較については、項目数が異なるため参考として掲載するが、順位に大きな変化はみられない。(図表1-28)

図表1-28 日本人とのトラブル経験(複数回答) / 平成27年度との比較



(注) ※1 「粗大ごみの出し方のこと」は今回調査で新設した項目である。

◆ 「その他」の記述(令和5年度)

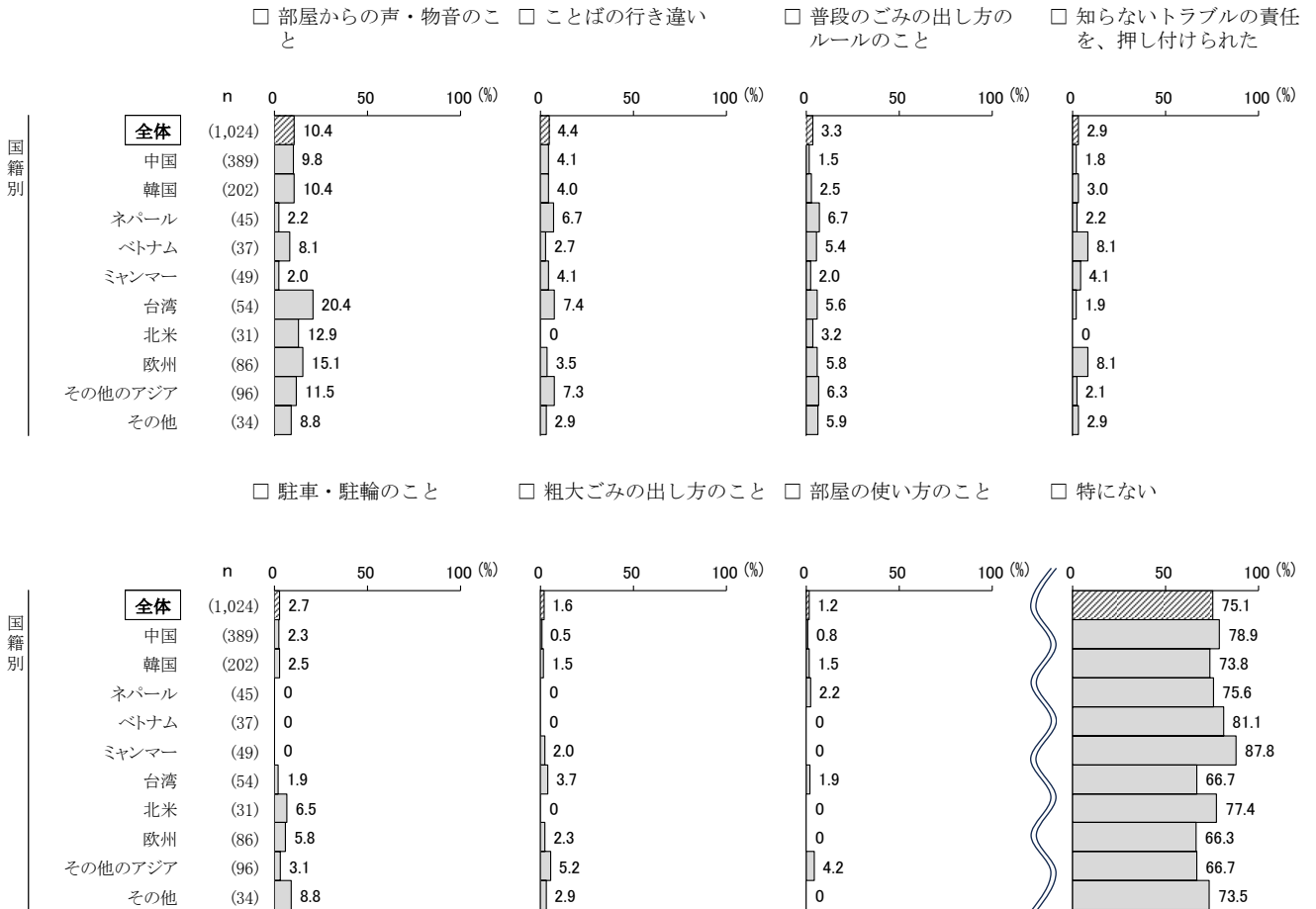
喫煙に関するトラブル[7人]、住宅管理会社や保証会社とのトラブル[3人]、隣人など住居に関わる騒音問題[3人] など

【国籍別】

上位7項目及び「特にない」について国籍別でみることにする。先に、「特にない」にふれておくと、「ミャンマー」が8割台半ばを超えて高く、次いで“ベトナム”で8割強と高くなっている。

「部屋からの声・物音のこと」は、“台湾”で約2割と高い。(図表1-29)

図表1-29 日本人とのトラブル経験《国籍別》(上位7項目+「特にない」)

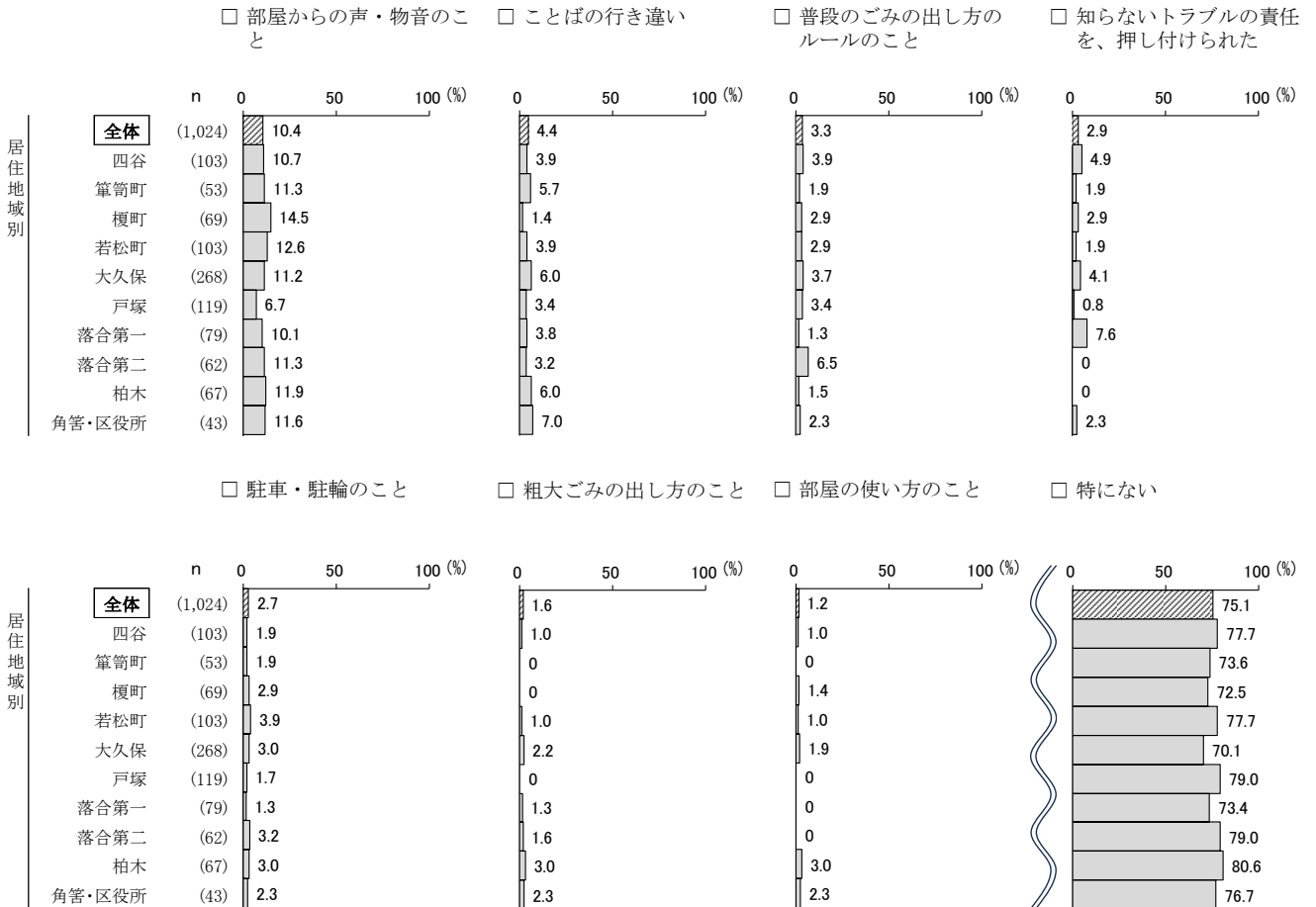


【居住地域別】

上位7項目及び「特にない」について居住地域別で見ることにする。先に、「特にない」にふれておくと、「柏木」で約8割と最も高く、次いで“戸塚”と“落合第一”で8割弱となっている。

「部屋からの声・物音のこと」は、いずれの居住地域でも1割前後となっている。(図表1-30)

図表1-30 日本人とのトラブル経験《居住地域別》(上位7項目+「特にない」)

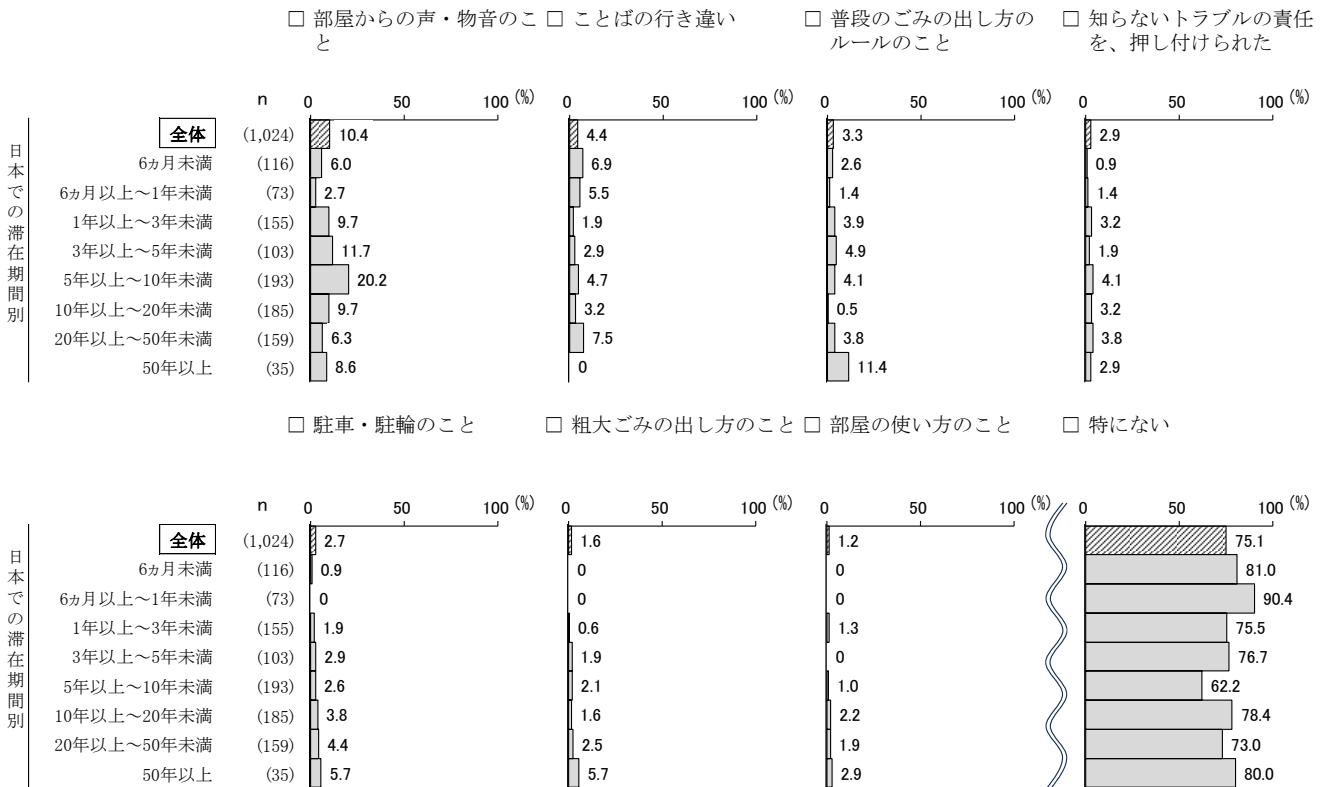


【日本での滞在期間別】

上位7項目及び「特にない」について日本での滞在期間別で見ることにする。先に、「特にない」にふれておくと、“6ヵ月以上～1年未満”で約9割と最も高く、次いで“6ヵ月未満”で8割強、“50年以上”で8割となっている。

「部屋からの声・物音のこ」とは“5年以上～10年未満”で約2割と最も高い。また、「普段のごみの出し方のルールのこと」は“50年以上”で1割強となっている。(図表1-31)

図表1-31 日本人とのトラブル経験《日本での滞在期間別》(上位7項目+「特にない」)



(8) 日本人から外国人に対する偏見や差別

◇偏見や差別を感じたことが「ときどきある」が3割台半ばを超え、「あまりない」は3割台半ば

◇偏見や差別を感じるのは、「家を探すとき」が5割台半ば近くで最も高い

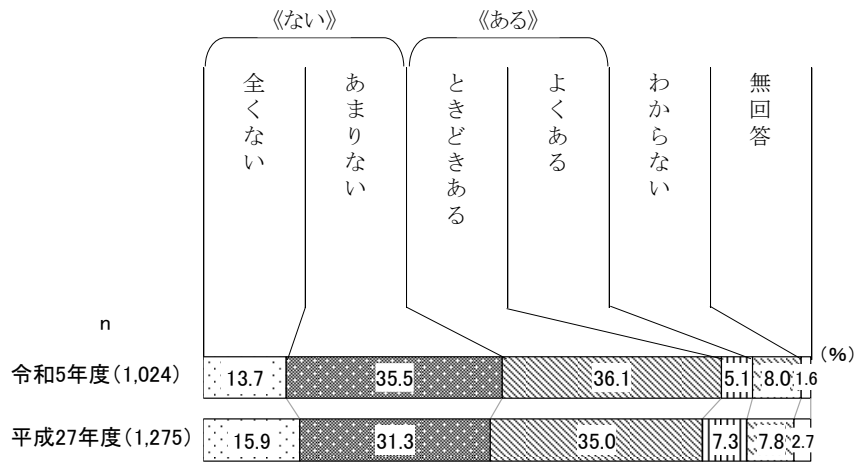
<p>とい 問16 あなたは、ふだんの生活の中で、日本人から外国人に対する偏見や差別を感じたことがありますか。(〇は1つだけ) 〔n=1,024〕</p>				
1	まったくない	13.7%	4 よくある	5.1%
2	あまりない	35.5%	5 わからない	8.0%
3	ときどきある	36.1%	(無回答)	1.6%
<p><u>(問16で、「3 ときどきある」か「4 よくある」と答えた方に)</u></p>				
<p>とい 問16-1 偏見・差別をどのような場合に感じましたか。(〇はいくつでも) 〔n=422〕</p>				
1	公的機関などの手続きのとき	25.1%	7 社会保障制度のこと	6.4%
2	日本人の友人とのつき合いのとき	9.2%	8 電車・バス等に乗っているとき	27.0%
3	近所の人とのつき合いのとき	10.0%	9 出産・育児の場面	1.9%
4	家を探すとき	53.8%	10 学校などの教育の場	12.3%
5	自分や家族が結婚するとき	3.6%	11 仕事・アルバイトのとき	40.5%
6	法制度のこと	12.1%	12 その他	17.5%
			(無回答)	0.9%
<p><u>(問16で、「3 ときどきある」か「4 よくある」と答えた方に)</u></p>				
<p>とい 問16-2 偏見や差別を感じたこと教えて下さい。自由に記入してください。回答しても回答しなくてもかまいません。</p>				

①日本人からの外国人に対する偏見や差別

日本人から外国人に対する偏見や差別を感じたことが「全くない」(13.7%)は1割台半ば近くにとどまり、「あまりない」(35.5%)は3割台半ばとなっている。これらを合わせると、「ない」(49.2%)は5割弱となっている。一方、「ときどきある」(36.1%)は3割台半ばを超え最も高く、「よくある」(5.1%)と合わせると、「ある」(41.2%)は4割強である。

平成 27 年度と比較すると、いずれも大きな変化はみられない。(図表 1-32)

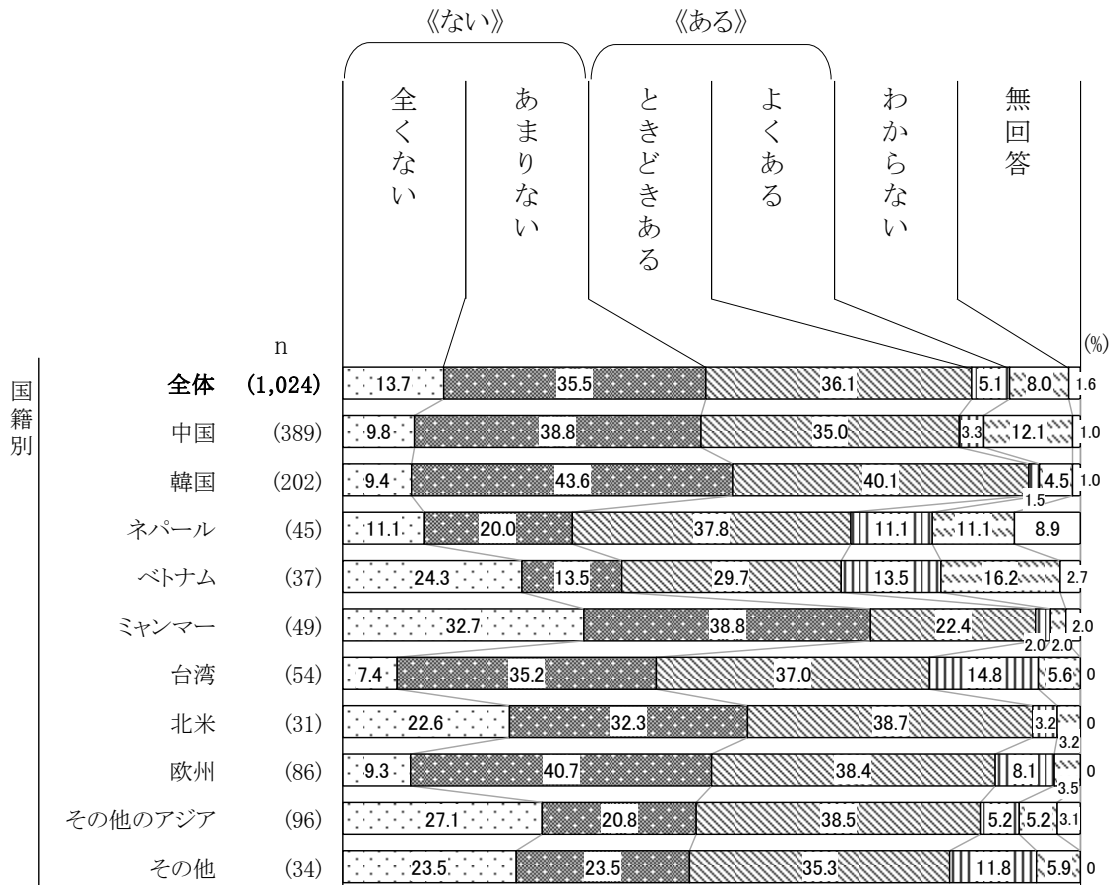
図表 1-32 日本人からの外国人に対する偏見や差別／平成 27 年との比較



【国籍別】

《ない》は、“ミャンマー”で7割強と最も高く、次いで“北米”で5割台半ば近くとなっている。一方、「よくある」は、“台湾”で1割台半ば近くとなっており、《ある》としてみると、“台湾”で5割強と最も高く、次いで“ネパール”で5割近く、“その他”で4割台半ばを超え、“ベトナム”で4割台半ば近くとなっている。(図表 1-33)

図表 1-33 日本人からの外国人に対する偏見や差別《国籍別》

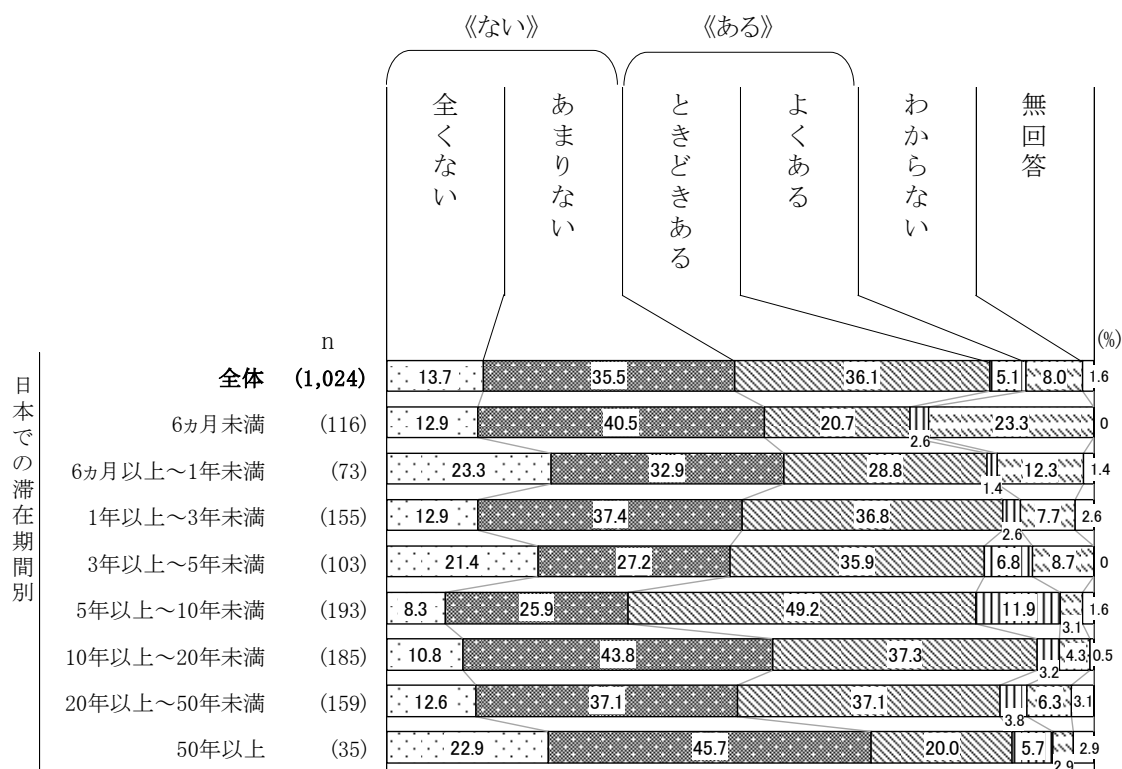


【日本での滞在期間別】

《ない》は、“50年以上”で7割近くと最も高く、次いで“6ヵ月以上～1年未満”で5割台半ばを超えている。

一方、《ある》は、“5年以上～10年未満”で6割強と最も高くなっている。(図表1-34)

図表1-34 日本人からの外国人に対する偏見や差別《日本での滞在期間別》



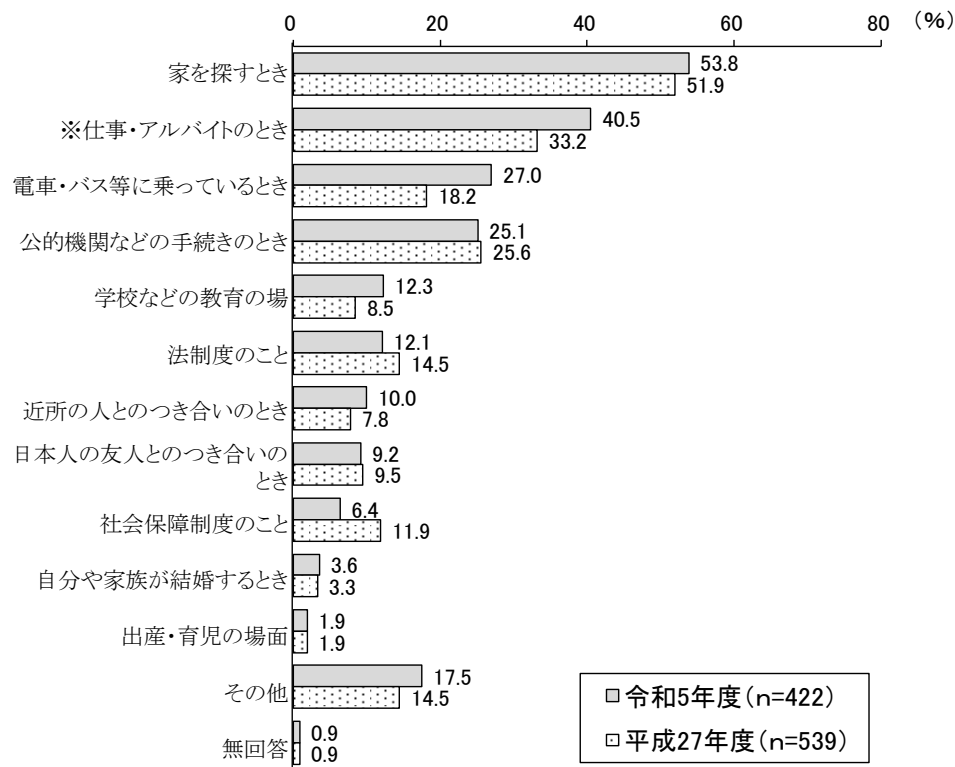
②偏見や差別を感じること

問 16 で、日本人から外国人に対する偏見や差別を感じたことが《ある》と回答した人に、偏見や差別を感じることを聞いた。その結果、「家を探すとき」(53.8%) が 5 割台半ば近くで最も高くなっている。次いで「仕事・アルバイトのとき」(40.5%) は約 4 割、「電車・バス等に乗っているとき」(27.0%) は 2 割台半ばを超えている。

また、「その他」(17.5%) が比較的高いことから、その内容を列挙してみると、主なものとして「買い物するとき」、「飲食店で」、「警察の対応」、「医療機関で」などがあげられている。

平成 27 年度と比較すると、「仕事・アルバイトのとき」が 7.3 ポイント、「電車・バス等に乗っているとき」が 8.8 ポイント、それぞれ増加し、「社会保障制度のこと」が 5.5 ポイント減少している。(図表 1-35)

図表 1-35 偏見や差別を感じること（複数回答）／平成 27 年度との比較



(注) ※「仕事・アルバイトのとき」は、平成 27 年度調査では「仕事のとき」であった。

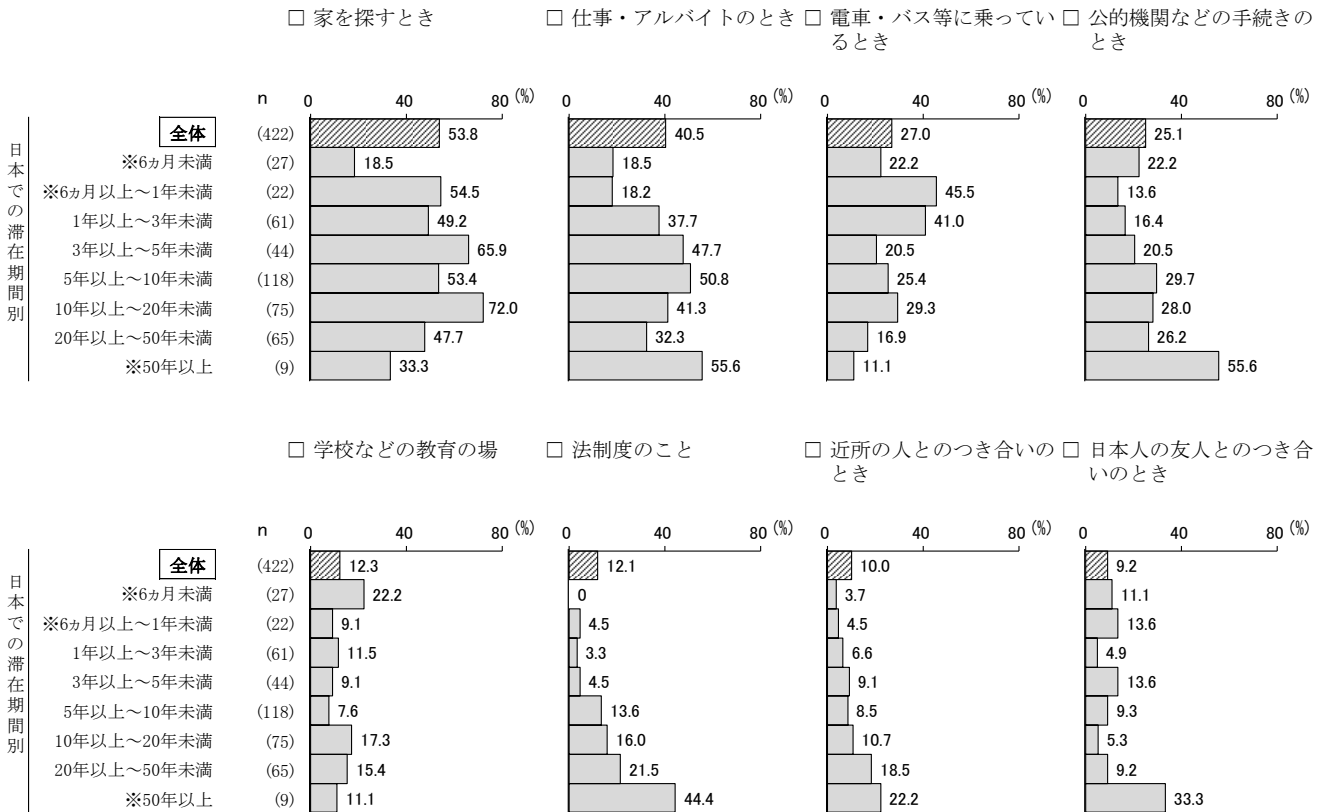
◆「その他」の記述（令和 5 年度）

買い物するとき[16 人]、飲食店で[12 人]、警察の対応[6 人]、医療機関で[5 人]、街中で[4 人]、銀行で[3 人] など

【日本での滞在期間別】

上位8項目について日本での滞在期間別で見ると、「家を探すとき」は、“10年以上～20年未満”で7割強と最も高く、次いで“3年以上～5年未満”で6割台半ばとなっている。「仕事・アルバイトのとき」は、“5年以上～10年未満”が約5割と最も高くなっている。また、「電車・バス等に乗っているとき」は“6ヵ月以上～1年未満”で4割台半ばと最も高い。(図表1-36)

図表1-36 偏見や差別を感じること《日本での滞在期間別》(上位8項目)



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

③日本人からの外国人に対する偏見や差別（自由記述）

問 16 の日本人からの外国人に対する偏見や差別について、自由に記述していただいた。

この設問に関して、主に次のようなご意見があげられた。

【家を探すとき】

- 多くの建物は外国人には貸してくれない。日本に何年もいて、税金を払っていても、とても不公平に感じる。
- 外国人に部屋を貸してくれる人を見つけるのは難しかった。
- 一番大変なのはアパート探しで、不動産屋が大家さんに日本人以外の入居希望者を受け入れているかどうか尋ねなければならない。私が借りたいアパートの多くは、日本語が話せると伝えても、国籍を理由に断られた。
- 外国人という理由で家／部屋をできる限り貸さない、貸したとしても良い部屋を貸さない。
- 奨学金もお金も保証もあるのに数十の賃貸アパートで拒絶された。

【仕事・アルバイトのとき】

- 前の会社で現場の先輩から殴られたこと、悪い言葉で怒られたことがある。
- 職場では、日本人でないために終身雇用の地位が得られない。他の人たちは 5 年勤務すると終身雇用になるが、私は日本人ではないのでなれない。
- 同僚たちは英語が流暢なのに私と話さない。
- 仕事場では、いつも陰で悪口を言われるが、面と向かって話をするときはとても感じよくされる。
- 仕事で日本語ができないとよい仕事がなかなかないし、給料も日本人より低い。同じ仕事でも外国人のほうが学歴が高い。

【電車・バスに乗っているとき】

- 日本において外国人でいることの厄介さは分かってきたが、公共交通機関や大学でしばしばジロジロ見られたり、見た目について否定的な言葉を受けている。
- 電車の中でよく不満な感じがする。私は何もしてないのに。
- 電車で人々が私の隣に座るのを避ける。
- 電車内やカフェで、人々が私の隣に座るのを避けることがある。
- 地下鉄の車内で、私の隣りに誰も座らないことがある。車内は混んでいて、空いている席はそこしかないのに。

【公的機関の手続きのとき】

- 日本の年金事務所は、日本語が堪能でない人へのサポートがほとんどない。制度や政策は母国語でも十分難しいのに、母国語でない言語では二重に難しい。
- 新宿以外の役所で日本語が堪能でない人の相手ばかりで疲れていたのだろうが、イライラした態度で高圧的だった。どの国でもあるとは思いますが、日常生活で差別や偏見をしているという意識のない、無自覚な偏見や差別は多少見かける。
- 公的機関などで（主に区役所）外国人とわかった途端、タメ口になるのは何とかしてほしい。別に日本語が上手くない相手だったら理解するが、とても気分が悪い。

○出入国在留管理庁の手続きのとき、敬語ではなくタメ口で対応されること。

【学校などの教育の場】

- 最近、マスコミによる中国に関するマイナス情報が増えているため、8歳の息子が学校のクラスメートから差別の言葉を受けた。国際情勢に関する情報をどう受け止めるべきか、相手を尊重し、差別中傷の言葉を使用しないことなどについて、学校の方から子供達に対して適切な指導を強化すべき。これは個々人の心身の成長のためだけでなく、地域コミュニティの調和的な発展ないし社会全体の分断防止のためにも必要な教育だと言える。
- 中学の課外授業・課外活動で、子供がづらい思いをした時の学校の教師たちに一方的なアドバイスをされた。
- 中学校の時にいじめられたことがある。当時の学校の先生に相談したが無視されて「いやだったら早くこの学校から出ていけ」という態度をとられて、がっかりだった。

【法制度のこと】

- 地域社会に貢献したいと思っても選挙などでの具体的な参加や市民としての権利が狭められていると感じる。それで心理的に萎縮に結び付きやすいし、無力感を感じやすい。
- 消費税の新しい制度であるインボイスについて、英語の情報がほとんどない。

【日本人の友人との付き合いのとき】

- 親しい日本人の友人との会話の中で自国に対して思いもかけない偏見・差別意識を垣間見てびっくりすることがある。
- 知人・友人との会話の中。

【買い物や外食のとき】

- お店の従業員に日本語で話しかけようとする、私が流暢な日本語を話しているにもかかわらず、英語で返事をされることが何度かある。もし状況が逆で、日本人が一般的にアジア人に見えるからという理由で、私が他のアジア言語で話しかけようとしたら、これは非常に不快なことなのではないかと思った。
- 多くの店員は、私が日本語を話せないと思い込んでいるので、私が店を訪れても話さない。商品を買うときも、黙って商品をスキャンし、値段を指差し、代金を受け取り、袋を渡してくる。たいていの店は問題ないが、そうでない店も多い。私の前や後ろの人が温かく迎えられ、値段を告げられ、礼を言われると嫌な気分になる。
- ある時、レストランで日本語を話せないという理由で接客してくれなかったが、同時にヨーロッパから来た日本語を話さない客には接客をしていた。

【警察の対応】

- 財布をなくしたら、警察は私が外国人だとして全然動いてくれなかったこと。とても差別感を感じた。
- 警察が頻繁に私を引き止めて在留カードをチェックする。

【病院で】

- 病院で私が日本語ができないと思って看護師から失礼なことを言われた。
- 日本に来たばかりの頃、日本語が苦手なで、病院に行った時、先生がイライラしたこともある。また、帰国して治療してほしいとまで言う先生もいた（このようなケースが普通ではなく、ほとんどの日本人は優しい）。その後、病院を変えて、いい治療を受けた。

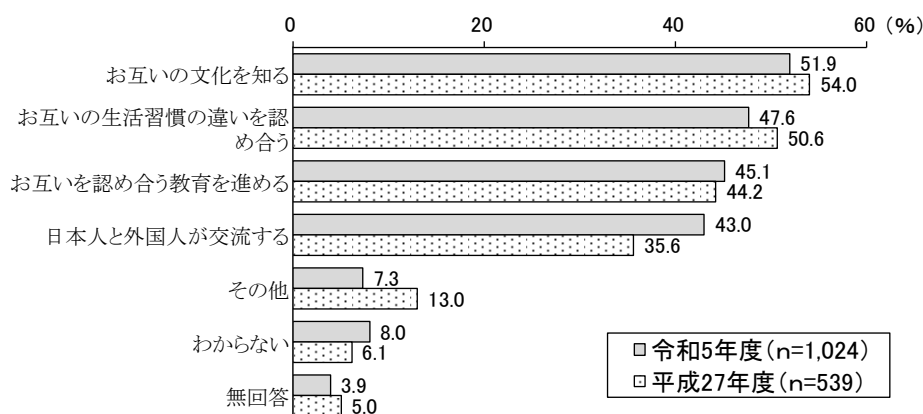
(9) 偏見・差別をなくすために必要だと思うこと

◇偏見や差別をなくすために必要なことは、「お互いの文化を知る」が5割強

問17 偏見・差別をなくすためには、何が必要だと思いますか。(○はいくつでも) [n=1,024]					
1	日本人と外国人が交流する	43.0%	4	お互いの生活習慣の違いを認め合う	47.6%
2	お互いを認め合う教育を進める	45.1%	5	その他	7.3%
3	お互いの文化を知る	51.9%	6	わからない(無回答)	8.0%
					3.9%

偏見や差別をなくすために必要だと思うことは、「お互いの文化を知る」(51.9%)が5割強で最も高くなっている。次いで「お互いの生活習慣の違いを認め合う」(47.6%)は4割台半ばを超え、「お互いを認め合う教育を進める」(45.1%)は4割台半ばとなっている。(図表1-37)

図表1-37 偏見や差別をなくすために必要だと思うこと(複数回答) / 平成27年度との比較



2 ことば（日本語学習）

(1) 日本語に関して困ること

◇日本語に関して困ることが《ある》は6割弱

◇困る内容としては、「日常会話」が4割台半ばを超え最も高く、「役所や病院での説明を理解すること」が4割台半ば

◇日本語で困った時の対応としては、「通訳・翻訳アプリを活用する」が7割台半ば近い

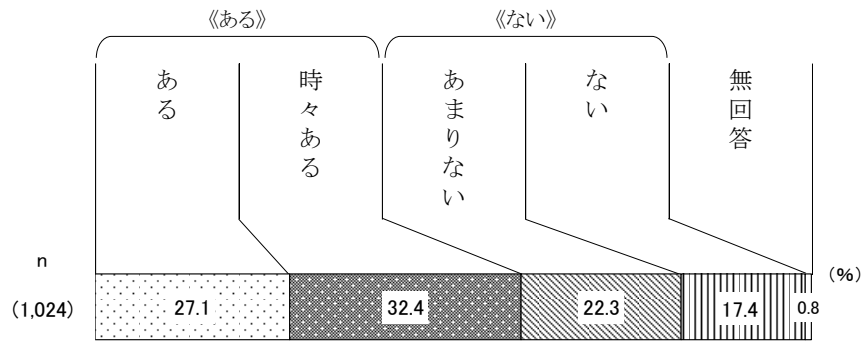
<p>とい 問18 あなたは日本語<small>にほんご</small>に関して困ることがありますか。(○は1つだけ)</p> <p>[n=1,024]</p>			
1 ある	27.1%	3 あまりない	22.3%
2 時々 <small>ときどき</small> ある	32.4%	4 ない	17.4%
		(むかいとう 無回答)	0.8%
<p><u>(問18で、「1 ある」「2 時々<small>ときどき</small>ある」と答えた方に)</u></p>			
<p>とい 問18-1 それはどんなことですか。(○はいくつでも)</p> <p>[n=610]</p>			
1 ひらがな・カタカナ <small>かたかな</small> を読むこと	10.8%	6 日本語 <small>にほんご</small> の新聞 <small>しんぶん</small> やお知らせ <small>し</small> を読むこと	43.8%
2 ひらがな・カタカナ <small>かたかな</small> を書くこと	9.8%	7 役所 <small>やくしょ</small> や病院 <small>びょういん</small> での説明 <small>せつめい</small> を理解 <small>りかい</small> すること	45.9%
3 簡単 <small>かんたん</small> な漢字 <small>かんじ</small> の読み書き <small>よ</small>	22.3%	8 その他 <small>た</small>	11.1%
4 日常会話 <small>にちじょうかいわ</small>	46.7%	(むかいとう 無回答)	0.7%
5 日本語 <small>にほんご</small> のテレビ <small>てれび</small> やラジオ <small>らじお</small> の ニュース <small>にゅーす</small> を見ること・聞くこと	36.9%		
<p><u>(問18で、「1 ある」「2 時々<small>ときどき</small>ある」と答えた方に)</u></p>			
<p>とい 問18-2 日本語<small>にほんご</small>で困った時<small>こま</small>どう対応<small>たいおう</small>していますか。(○はいくつでも)</p> <p>[n=610]</p>			
1 日本語 <small>にほんご</small> ができる友人 <small>ゆうじん</small> を頼 <small>たよ</small> る	48.0%	4 日本語学校 <small>にほんごがっこう</small> ・日本語教室 <small>にほんごきょうしつ</small> に 相談 <small>そうだん</small> する	14.3%
2 行政機関 <small>ぎょうせいきかん</small> に相談 <small>そうだん</small> する	3.8%	5 その他 <small>た</small>	7.0%
3 通訳 <small>つうやく</small> ・翻訳 <small>ほんやく</small> アプリ <small>あぷり</small> を活用 <small>かつよう</small> する	73.0%	6 対応 <small>たいおう</small> できていない	2.6%
		(むかいとう 無回答)	2.1%

①日本語に関して困ること

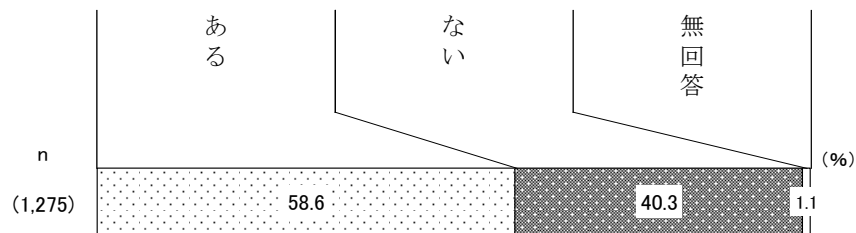
日本語に関して困ることは、「時々ある」(32.4%)が3割強で最も高く、次いで「ある」(27.1%)が2割台半ばを超える。これらを合わせた《ある》(59.5%)は6割弱となっている。一方、「あまりない」(22.3%)と「ない」(17.4%)を合わせた《ない》(39.7%)は4割弱となっている。(図表2-1)

平成27年度にも同様の設問を聞いているが、項目の内容を変更しているため、参考として掲載する。(図表2-2)

図表2-1 日本語に関して困ること



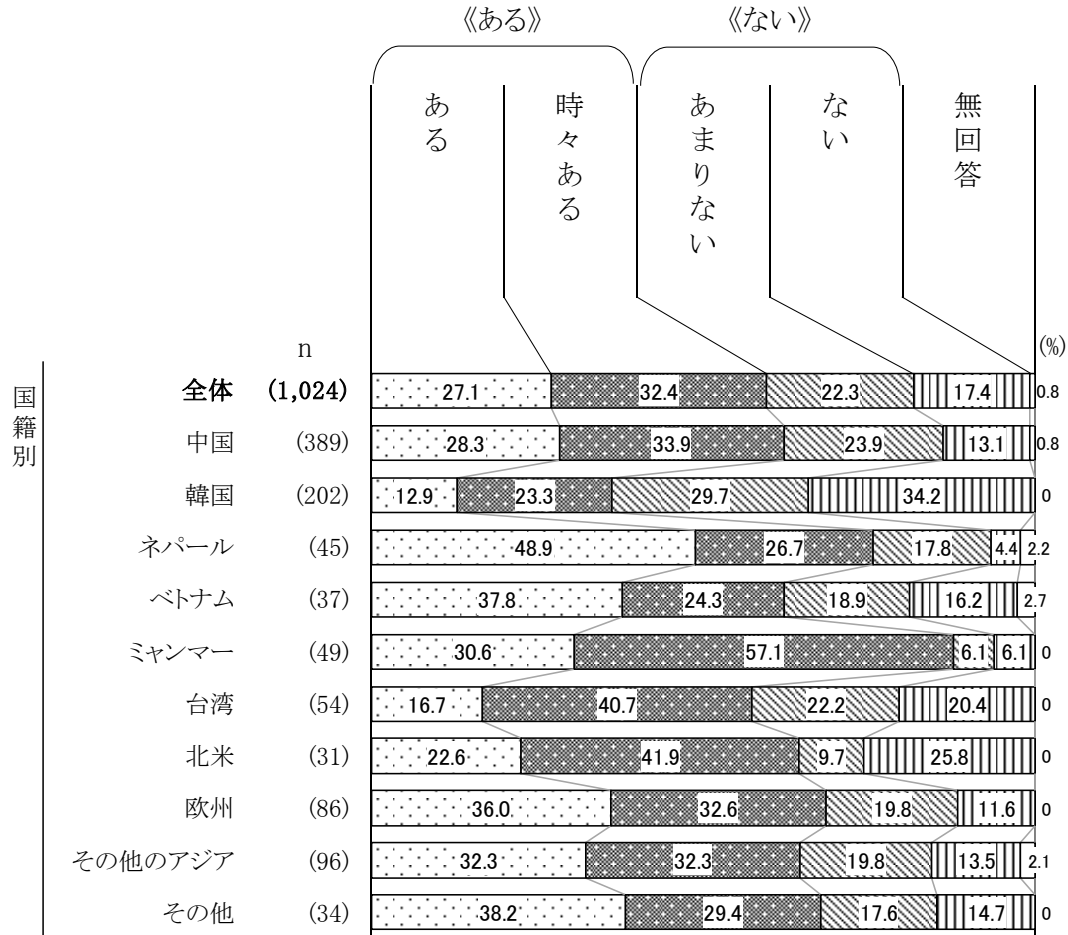
図表2-2 (参考) 平成27年度



【国籍別】

“韓国”を除いて、《ある》の方が《ない》よりも高くなっているが、中でも“ミャンマー”で8割台半ばを超えて高い。(図表2-3)

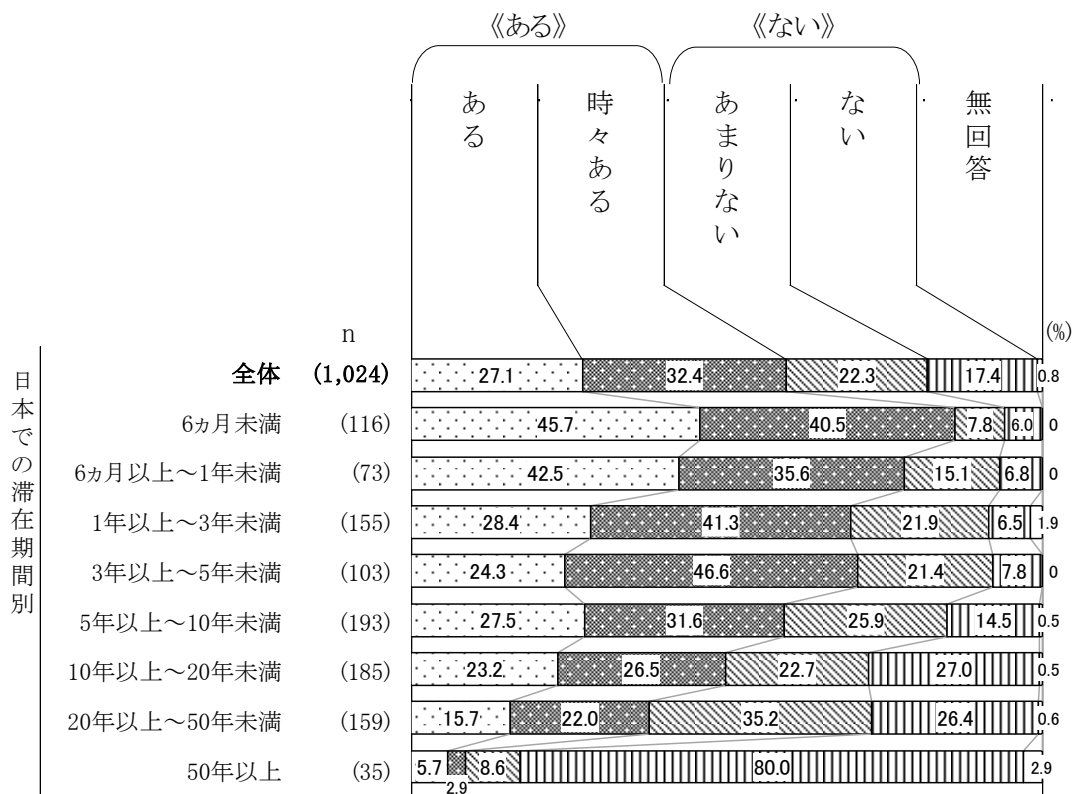
図表2-3 日本語に関して困ること《国籍別》



【日本での滞在期間別】

《ある》は、“6ヵ月未満”で8割台半ばを超え最も高く、おおむね滞在期間が長いほど低くなる。(図表2-4)

図表2-4 日本語に関して困ること《日本での滞在期間別》

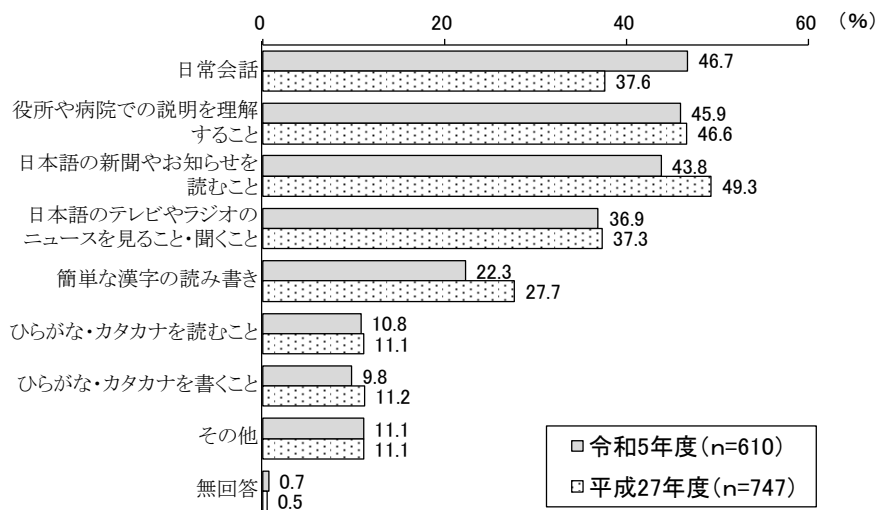


②困っている内容

問 18 で、日本語に関して困ることが「ある」か「時々ある」と回答した人に、困っている内容を聞いた。その結果、「日常会話」(46.7%)が4割台半ばを超え最も高くなっている。次いで「役所や病院での説明を理解すること」(45.9%)は4割台半ば、「日本語の新聞やお知らせを読むこと」(43.8%)は4割台半ば近くとなっている。

平成 27 年度と比較すると、「日常会話」が 9.1 ポイント増加し、「日本語の新聞やお知らせを読むこと」が 5.5 ポイント、「簡単な漢字の読み書き」が 5.4 ポイント減少している。(図表 2-5)

図表 2-5 困っている内容(複数回答) / 平成 27 年度との比較



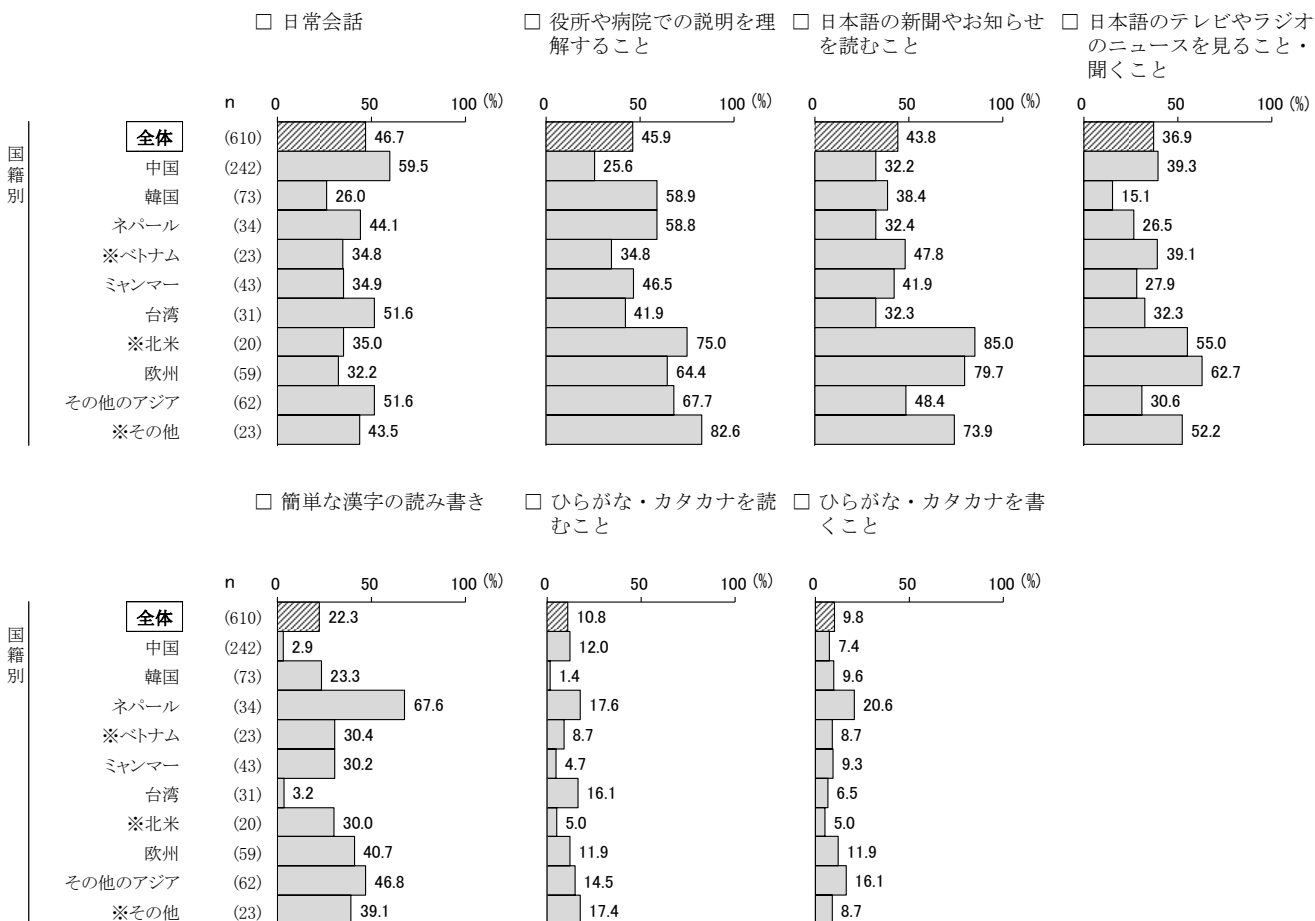
◆「その他」の記述(令和5年度)

会社・仕事で(ビジネス用語)[8人]、銀行・医療など生活に関わること(契約も含む)[7人]、敬語(店員の接客用語を含む)[5人]、話し言葉(方言・子ども・タメロや隠語・流行語・俗語・略語)[5人]、文章を書くこと(論文・レポートの定型・メール文章を含む)[5人]、高レベルの語彙・難しい漢字の読み書き(法律や文献など含む)[4人] など

【国籍別】

「日常会話」は、“中国”で6割弱、次いで、“台湾”と“その他のアジア”で、それぞれ5割強となっている。「役所や病院での説明を理解すること」は“その他のアジア”で6割台半ばを超え、「日本語の新聞やお知らせを読むこと」は“欧州”で8割弱と高くなっている。また、「日本語のテレビやラジオのニュースを見ること・聞くこと」は“欧州”で6割強となっているほか、「簡単な漢字の読み書き」は“ネパール”で6割台半ばを超えて高くなっている。(図表2-6)

図表2-6 困っている内容《国籍別》

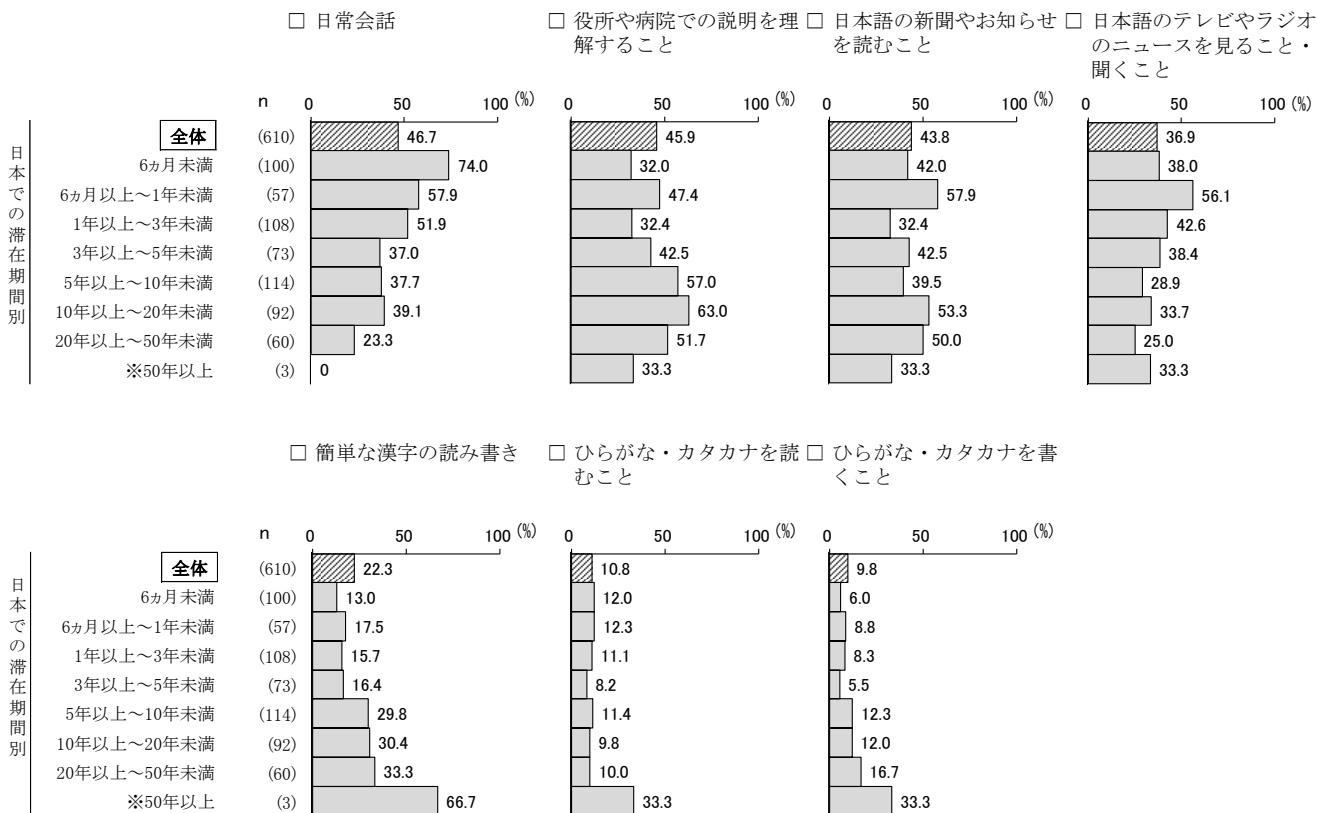


(注)※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【日本での滞在期間別】

「日常会話」は“6ヵ月未満”で7割台半ば近くと最も高くなっており、滞在期間が長いほど低くなる。「役所や病院での説明を理解すること」は、“10年以上～20年未満”で6割台半ば近くと最も高くなっている。また、「日本語の新聞やお知らせを読むこと」と「日本語のテレビやラジオのニュースを見ること・聞くこと」は、“6ヵ月以上～1年未満”で5割台半ばを超えて最も高くなっている。(図表2-7)

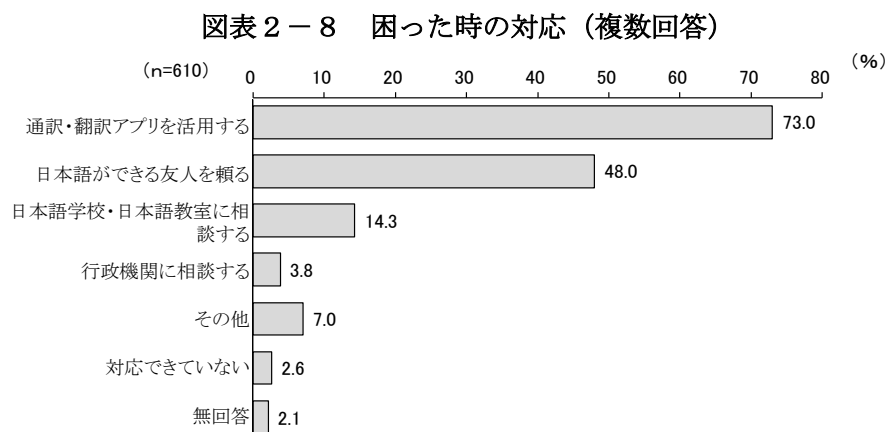
図表2-7 困っている内容《日本での滞在期間別》



(注)※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

③困った時の対応

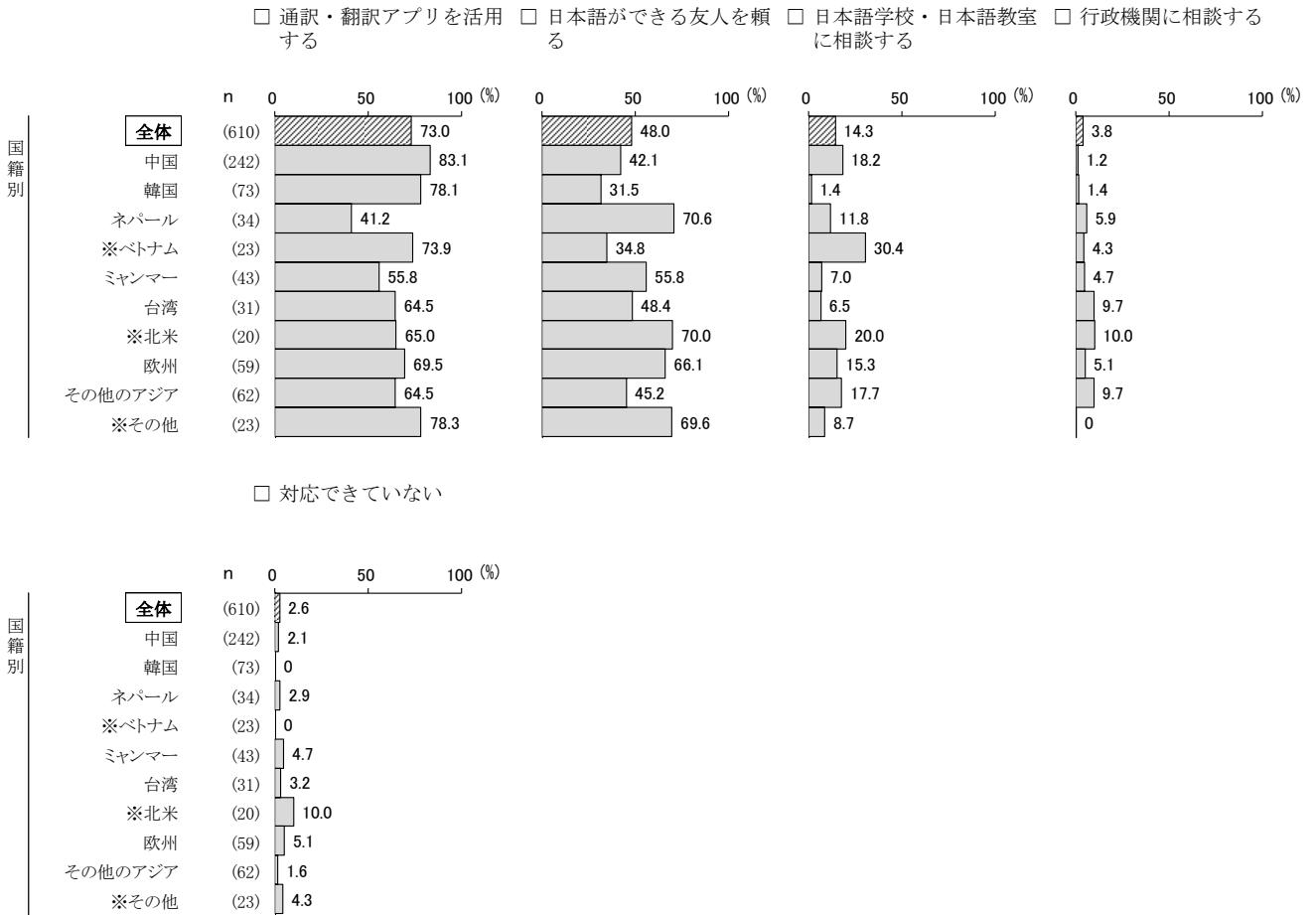
問 18 で、日本語に関して困ることが「ある」か「時々ある」と回答した人に、困った時の対応を聞いた。その結果、「通訳・翻訳アプリを活用する」(73.0%) が7割台半ば近くで最も高くなっている。次いで「日本語ができる友人を頼る」(48.0%) は5割近く、「日本語学校・日本語教室に相談する」(14.3%) は1割台半ば近くとなっている。(図表 2-8)



【国籍別】

「通訳・翻訳アプリを活用する」は“中国”が8割台半ば近く、“韓国”が8割近くと高くなっている。このほか、「日本語ができる友人を頼る」は“ネパール”が約7割と高い。(図表2-9)

図表2-9 困った時の対応《国籍別》

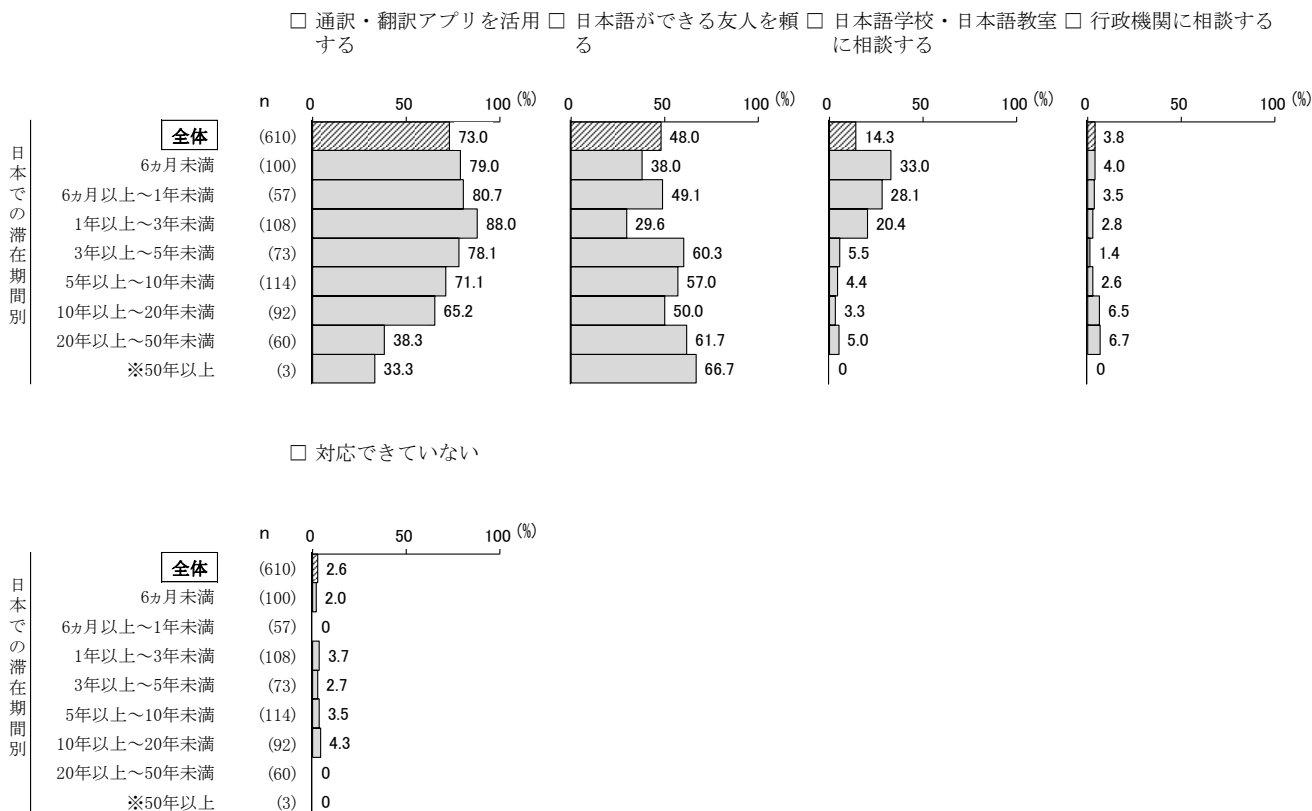


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【日本での滞在期間別】

「通訳・翻訳アプリを活用する」は“1年以上～3年未満”が9割近く、次いで“6ヵ月以上～1年未満”が約8割と高くなっている。このほか、「日本語ができる友人を頼る」は“20年以上～50年未満”が6割強と高い。また、「日本語学校・日本語教室に相談する」はおおむね日本での滞在期間が長いほど減少する傾向にある。(図表2-10)

図表2-10 困った時の対応《日本での滞在期間別》

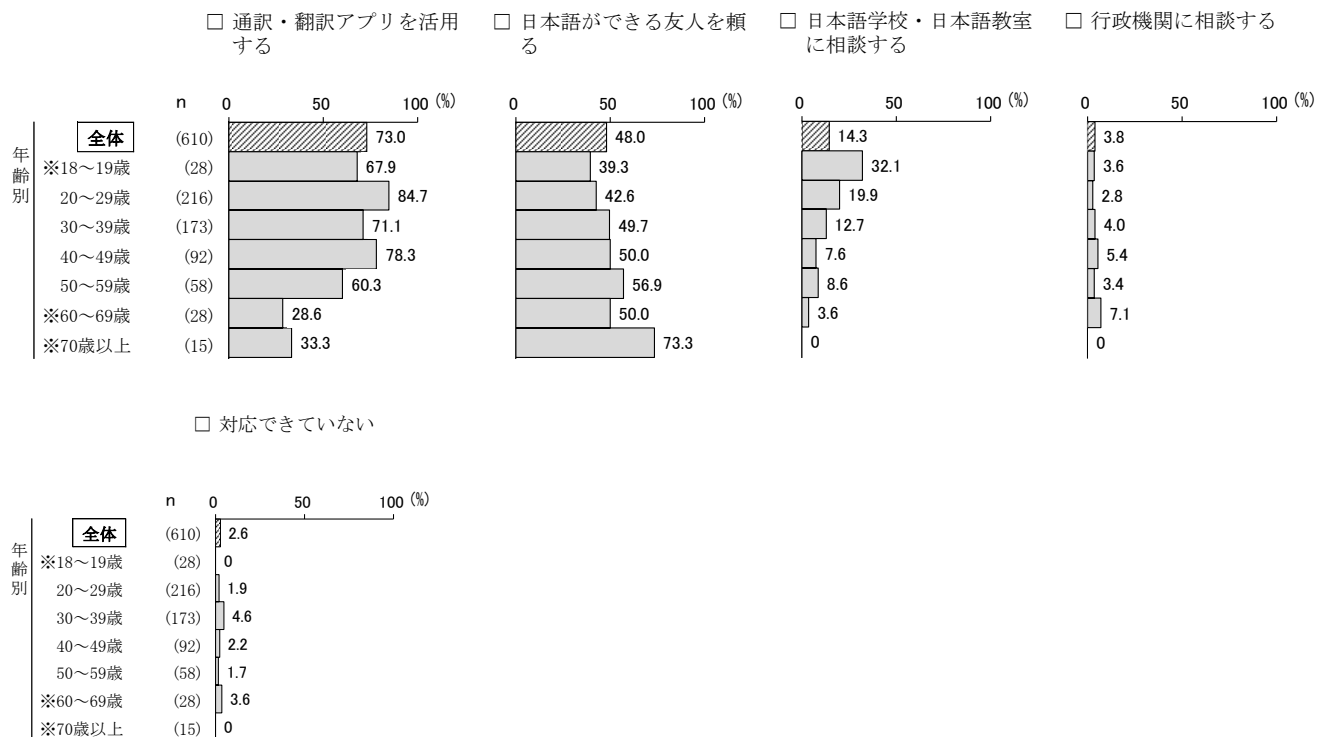


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【年齢別】

「通訳・翻訳アプリを活用する」は“20～29歳”が8割台半ば近く、“40～49歳”が8割近く、“30～39歳”が7割強とそれぞれ高くなっている。(図表2-11)

図表2-11 困った時の対応《年齢別》



(注)※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

(2) 日本語の学習意向

◇日本語を「現在学んでいる」が5割強、「学びたい」は3割近い

◇学んでいる（学びたい）方法では、「インターネットを利用」が6割近く最も高い

◇学びたくない理由は、「不便を感じないから、困っていないから」が6割近い

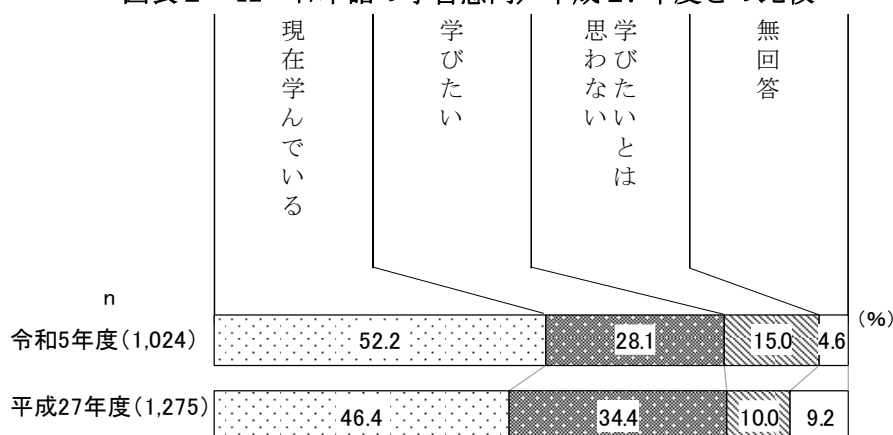
<p>とい 問19 あなたは、今後、日本語を学びたいと思いますか。（〇は1つだけ）</p> <p>〔n=1,024〕</p>				
1	げんざいまな 現在学んでいる	52.2%	3 まな おも 学びたいとは思わない	15.0%
2	まな 学びたい	28.1%	むかいとう (無回答)	4.6%
<p><u>(問19で、「1 現在学んでいる」か「2 学びたい」と答えた方に)</u></p> <p>とい 問19-1 どのような方法で学んでいますか。また、どのような方法で学びたいですか。</p> <p>(〇はいくつでも)</p> <p>〔n=823〕</p>				
1	てれび らじお ごかくこうざ テレビ・ラジオの語学講座、 つうしんきょういく てれび しんぶん 通信教育、テレビ・新聞 などを利用	26.1%	5 だいがく こうざ こーす 大学などの講座やコース	13.9%
2	いんたーねっと りよう インターネットを利用	58.2%	6 かていきょうし なら 家庭教師に習う	7.7%
3	ぼらんていあ ボランティアなどによる	17.7%	7 かぞく おし 家族に教えてもらう	9.1%
4	にほんごきょうしつ 日本語教室	33.9%	8 ゆうじん おし 友人に教えてもらう	20.4%
			9 しょくば どうりよう おし 職場で同僚に教えてもらう	19.6%
			10 た その他	7.7%
			むかいとう (無回答)	0.4%
<p><u>(問19で、「3 学びたいとは思わない」と答えた方に)</u></p> <p>とい 問19-2 日本語を学びたくない理由を教えてください。（〇はいくつでも）</p> <p>〔n=154〕</p>				
1	ふべん かん 不便を感じないから、困って いないから	58.4%	4 とし 歳をとっているから	13.0%
2	ひつよう 必要ないから	8.4%	5 むづか 難しいから	7.8%
3	にほん う そだ 日本で生まれ育ったから	17.5%	6 た その他	14.9%
			むかいとう (無回答)	0%

① 日本語の学習意向

日本語の学習意向としては、「現在学んでいる」(52.2%)が5割強となっている。なお、「学びたい」(28.1%)は3割近く、一方で「学びたいとは思わない」(15.0%)は1割台半ばである。

平成27年度と比較すると、「現在学んでいる」が5.8ポイント、「学びたいとは思わない」が5.0ポイント、それぞれ増加し、「学びたい」が6.3ポイント減少している。(図表2-12)

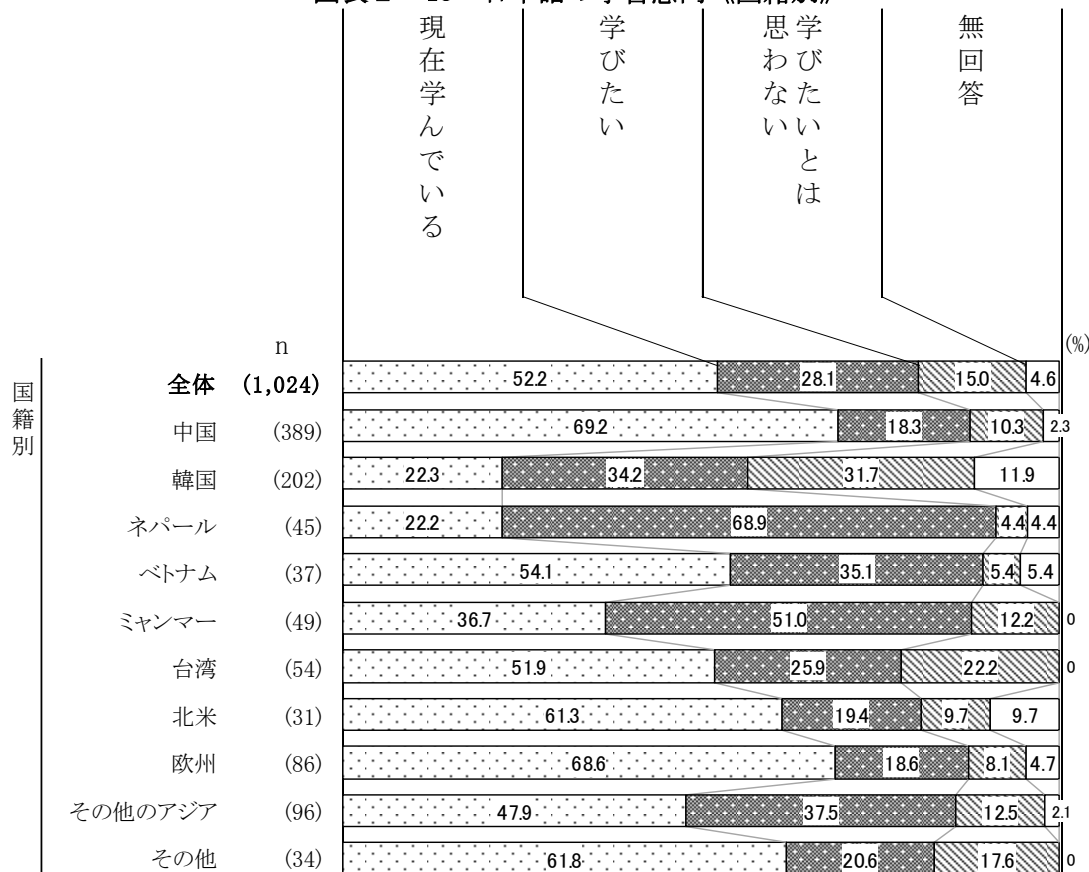
図表2-12 日本語の学習意向／平成27年度との比較



【国籍別】

「現在学んでいる」は、「中国」で7割弱と最も高く、次いで「欧州」で7割近く、「その他」で6割強となっている。「学びたい」は、「ネパール」で7割近くと最も高く、次いで「ミャンマー」で5割強、「韓国」で3割台半ば近くとなっている。(図表2-13)

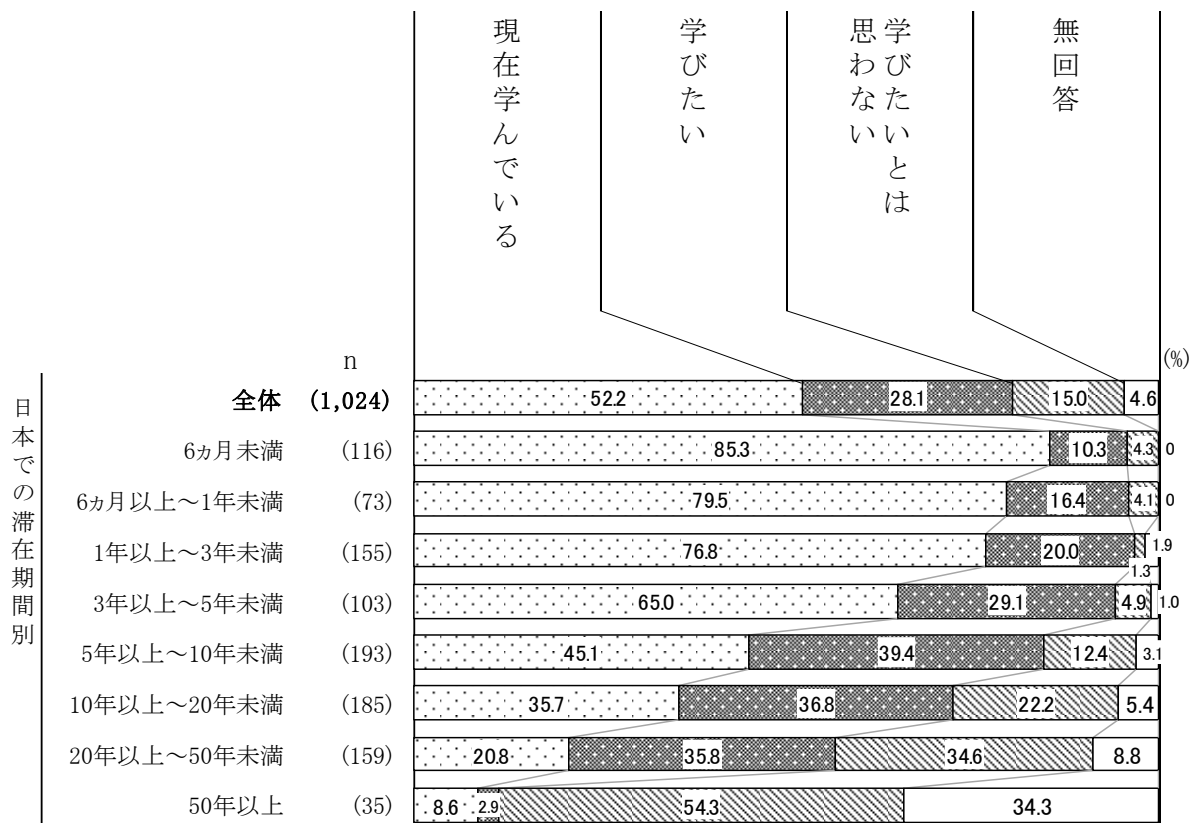
図表2-13 日本語の学習意向《国籍別》



【日本での滞在期間別】

「現在学んでいる」は、“6ヵ月未満”で8割台半ばとなっており、滞在期間が長いほど低くなる。また、「学びたい」は、“5年以上～10年未満”で4割弱と最も高く、次いで“10年以上～20年未満”で3割台半ばを超え、“20年以上～50年未満”で3割台半ばとなっている。(図表2-14)

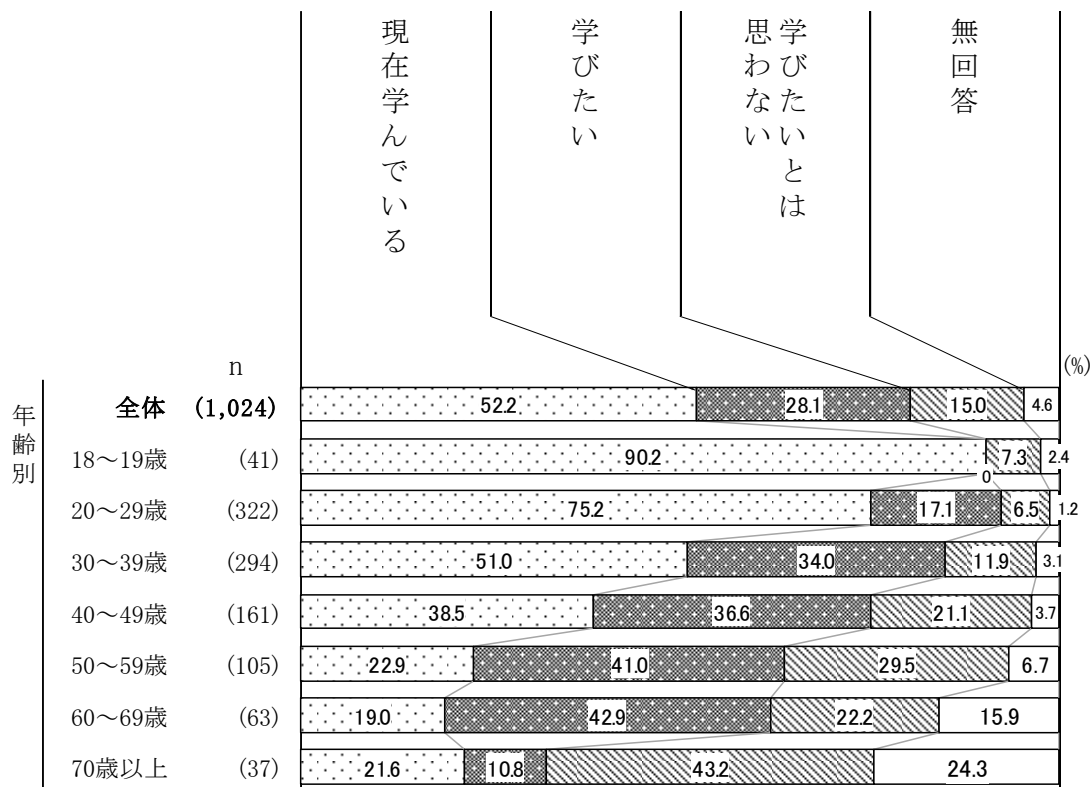
図表2-14 日本語の学習意向《日本での滞在期間別》



【年齢別】

「現在学んでいる」は、“18～19歳”で約9割となっており、年齢が上がるほど低くなる。また、「学びたい」は、“60～69歳”で4割強と最も高いが、70歳以上で約1割となっている。（図表2-15）

図表2-15 日本語の学習意向《年齢別》

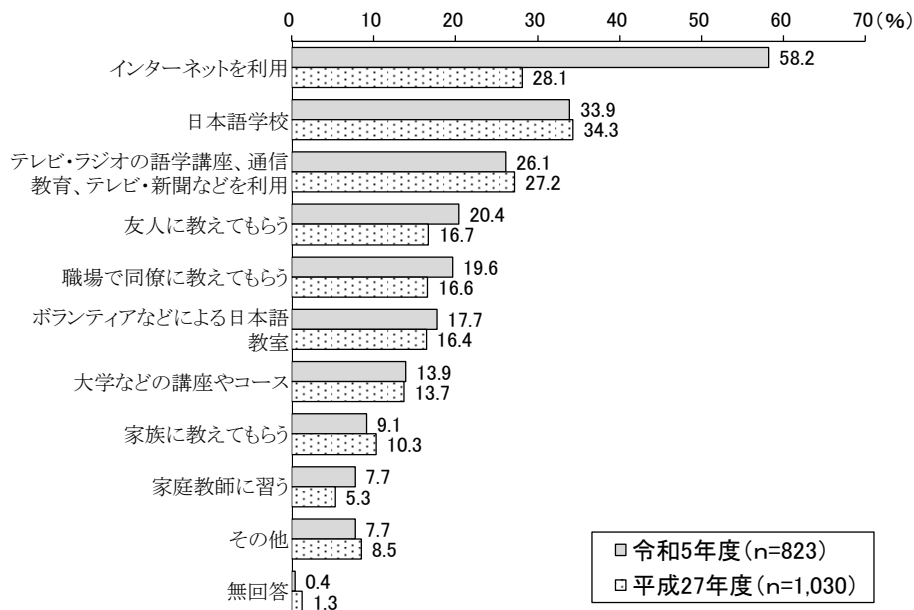


②日本語を学んでいる方法及び学びたい方法

問 19 で、「現在学んでいる」か「学びたい」と回答した人に、日本語を学んでいる方法を聞いたところ、「インターネットを利用」(58.2%)が6割近くで最も高くなっている。次いで「日本語学校」(33.9%)は3割台半ば近く、「テレビ・ラジオの語学講座、通信教育、テレビ・新聞などを利用」(26.1%)は2割台半ばを超える。

平成 27 年度と比較すると、「インターネットを利用」が 30.1 ポイント増加している。(図表 2-16)

図表 2-16 日本語を学んでいる方法及び学びたい方法 (複数回答) / 平成 27 年度との比較



◆「その他」の記述 (令和 5 年度)

独学[10人]、新聞や書籍(小説・簡単な児童書など)を読む[11人]、会社での仕事を通して(同僚とのコミュニケーション含む)[8人]、映画やテレビ・ラジオ[5人]、日常生活を通して[4人]、アプリやソフト[4人] など

【日本語の学習意向の回答別（問 19 の回答別）】

この設問は、問 19 で「現在学んでいる」か「学びたい」と回答した人に聞いたものである。現在学んでいる人と学びたい人の学習方法を細かくみるために、問 19 の回答別にクロス集計を行った。

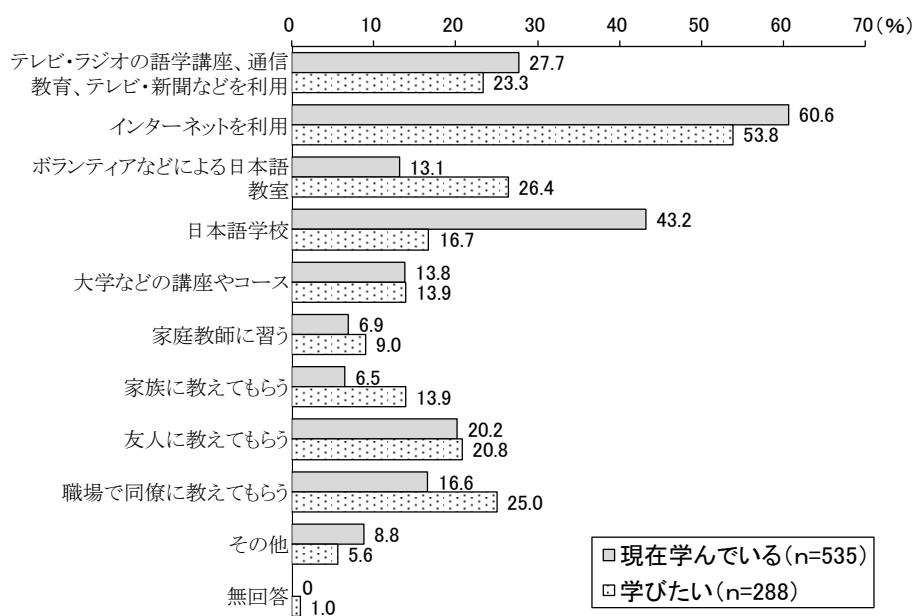
現在学んでいる人では、「インターネットを利用」(60.6%) が約 6 割で最も高く、次いで「日本語学校」(43.2%) が 3 割台半ば近く、「テレビ・ラジオの語学講座、通信教育、テレビ・新聞などを利用」(27.7%) が 2 割台半ばを超える結果などとなっている。

一方、学びたい人では、「インターネットを利用」(53.8%) が 5 割台半ば近くで最も高く、「ボランティアなどによる日本語教室」(26.4%) が 2 割台半ばを超え、「職場で同僚に教えてもらう」(25.0%) が 2 割台半ばなどとなっている。

現在学んでいる人と学びたい人を比較すると、現在学んでいる人で、「インターネットを利用」が 6.8 ポイント高いものの、ともに半数以上で「インターネットを利用」を挙げている。また、「日本語学校」が 26.5 ポイント高くなっている。

学びたい人で、「ボランティアなどによる日本語教室」が 13.3 ポイント、「家族に教えてもらう」が 7.4 ポイント、「職場で同僚に教えてもらう」が 8.4 ポイント高くなっている。(図表 2-17)

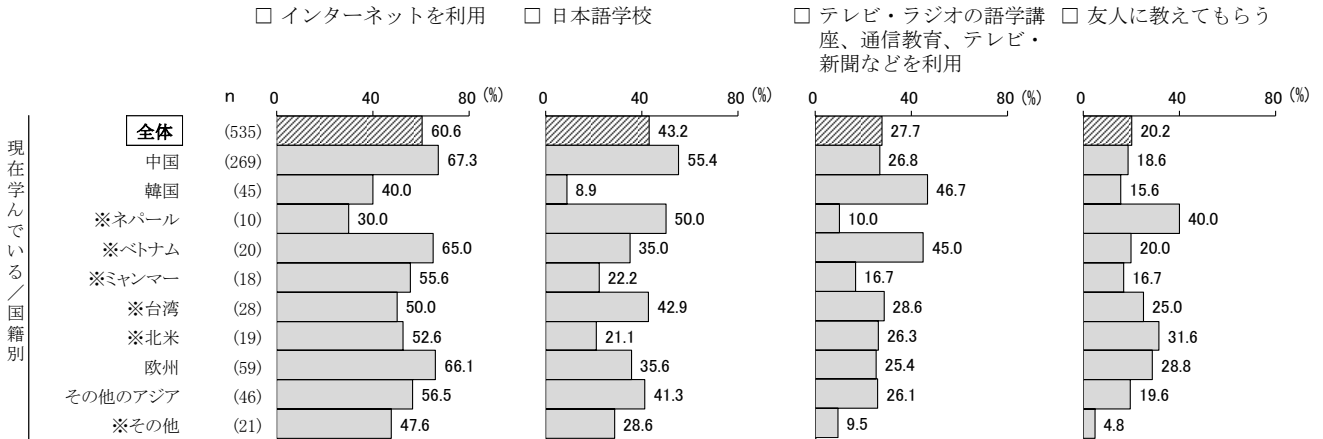
図表 2-17 日本語を学んでいる方法及び学びたい方法《日本語の学習意向の回答別》



【日本語の学習意向の回答・国籍別】

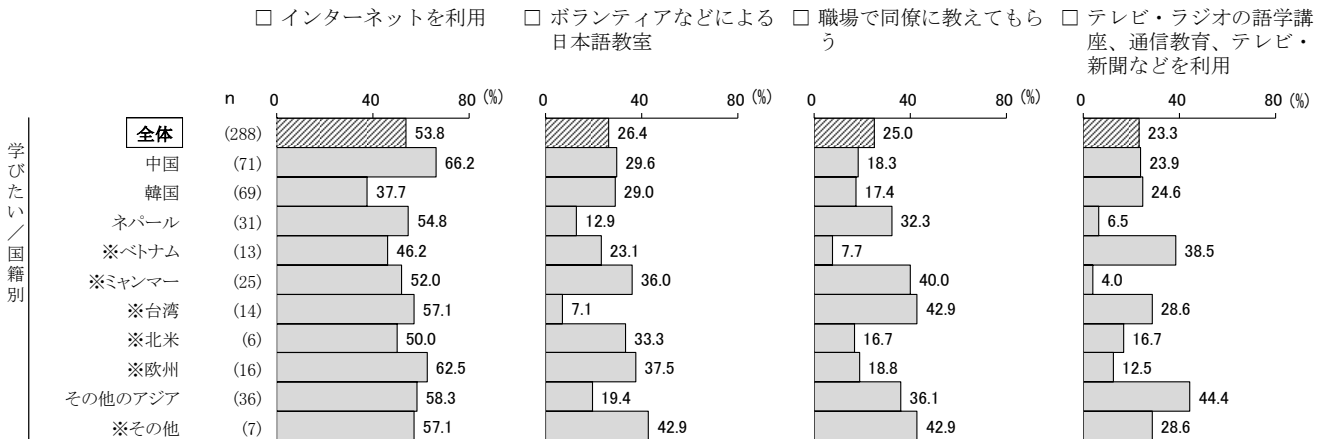
日本語の学習意向の回答別に、上位4項目について国籍別でみた結果については、回答者数が30人以上確保できた国籍に限られていることから、参考として掲載する。(図表2-18、図表2-19)

図表2-18 日本語を学んでいる方法及び学びたい方法《現在学んでいる人の国籍別》(上位4項目)



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

図表2-19 現在学んでいる及び学びたい方法《学びたい人の国籍別》(上位4項目)



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

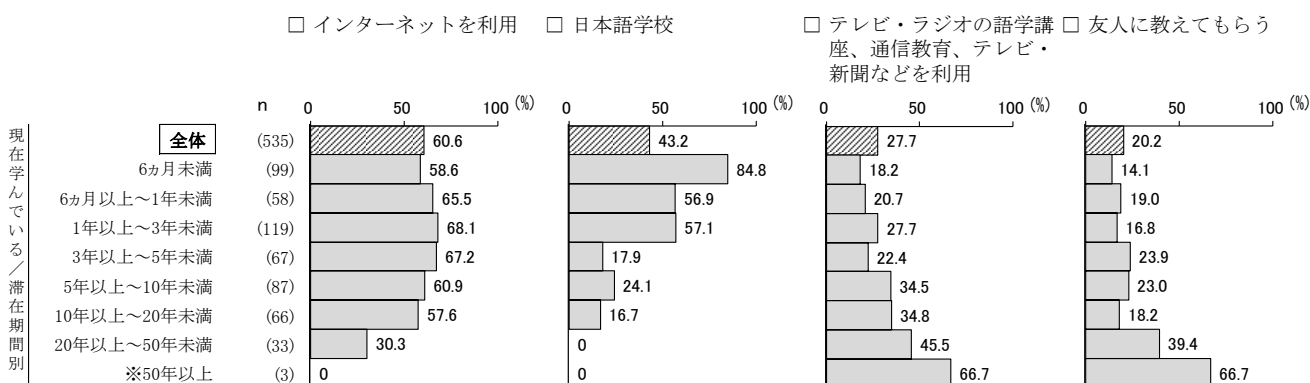
【日本語の学習意向の回答・滞在期間別】

日本語の学習意向の回答別に滞在期間別でみると、現在学んでいる人では、「インターネットを利用」が「20年以上～50年未満」で約3割となっており、他の滞在期間では60%前後となっている。また、「日本語学校」が「6ヵ月未満」で8割台半ば近く、「6ヵ月以上～1年未満」と「1年以上～3年未満」が5割台半ばを超えており、「3年以上～5年未満」から2割前後となっている。また、「テレビ・ラジオの語学講座、通信教育、テレビ・新聞などを利用」と「友人に教えてもらう」は「20年以上～50年未満」が最も高くなっている。(図表2-20)

学びたい人においても「インターネットを利用」が「20年以上～50年未満」以外で6割前後となっている。また、その他の項目では、いずれの年代も20%前後となっている。(図表2-21)

図表2-20 日本語を学んでいる方法及び学びたい方法《現在学んでいる人の滞在期間別》

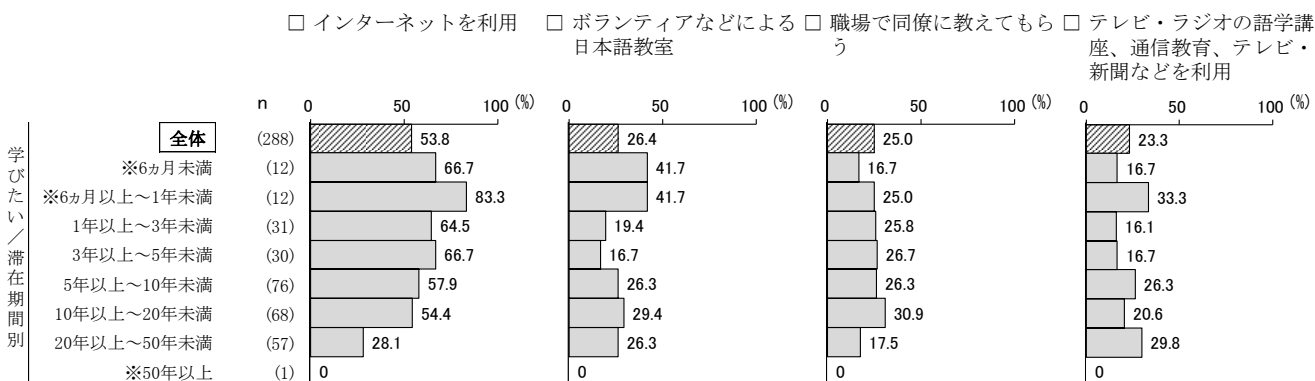
(上位4項目)



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

図表2-21 日本語を学んでいる方法及び学びたい方法《学びたい人の滞在期間別》

(上位4項目)



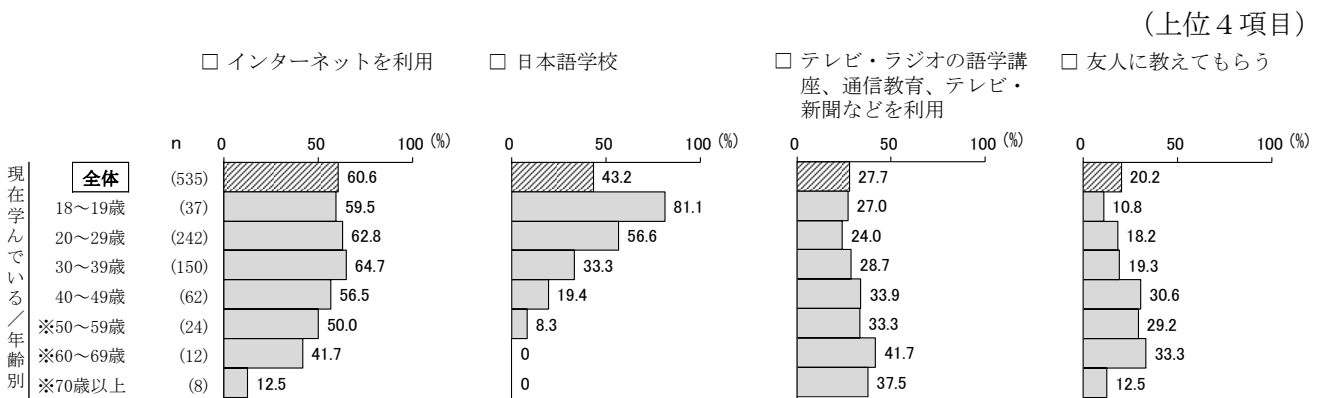
(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【日本語の学習意向の回答・年齢別】

日本語の学習意向の回答別に滞在期間別でみると、現在学んでいる人では、「インターネットを利用」はいずれの年代も6割前後となっている。「日本語学校」では「18～19歳」が8割強となっており、年齢が上がると割合が低くなっている。(図表2-22)

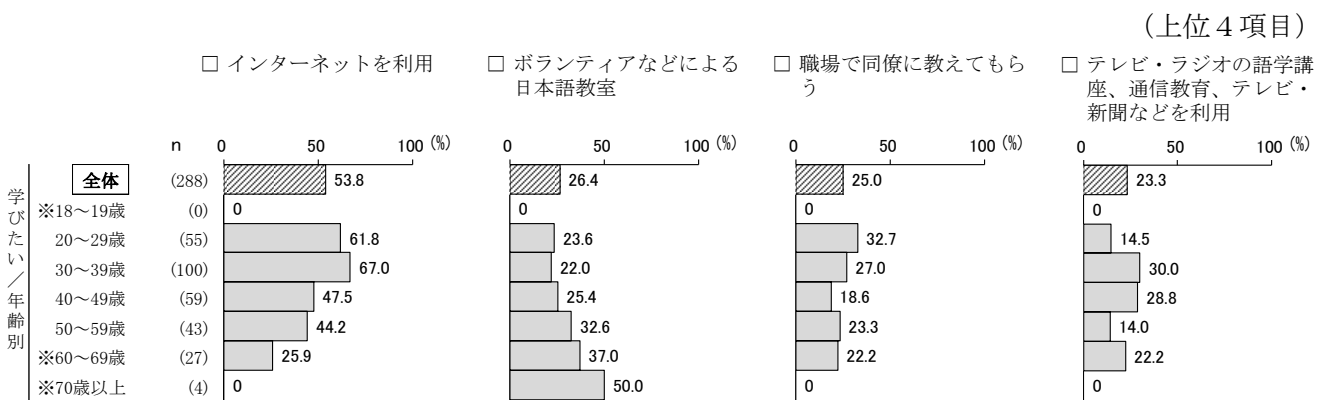
学びたい人においては、「インターネットを利用」が「20～29歳」と「30～39歳」が6割を超えているものの、「40～49歳」と「40～49歳」は5割を下回っている。(図表2-23)

図表2-22 日本語を学んでいる方法及び学びたい方法《現在学んでいる人の年齢別》



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

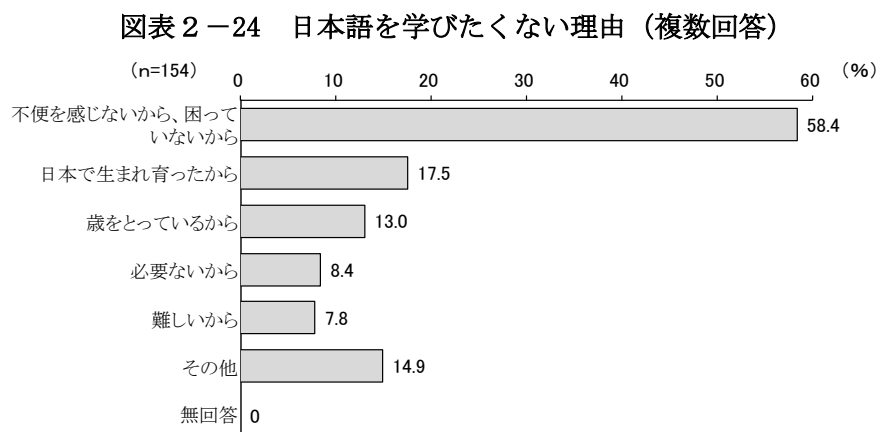
図表2-23 日本語を学んでいる方法及び学びたい方法《学びたい人の年齢別》



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

③日本語を学びたくない理由

問 19 で、「学びたいとは思わない」と回答した人に、日本語を学びたくない理由を聞いたところ、「不便を感じないから、困っていないから」(58.4%) が6割近くで最も高くなっている。次いで「日本で生まれ育ったから」(17.5%) は1割台半ばを超え、「歳をとっているから」(13.0%) は1割台半ば近くとなっている。(図表 2-24)



◆「その他」の記述

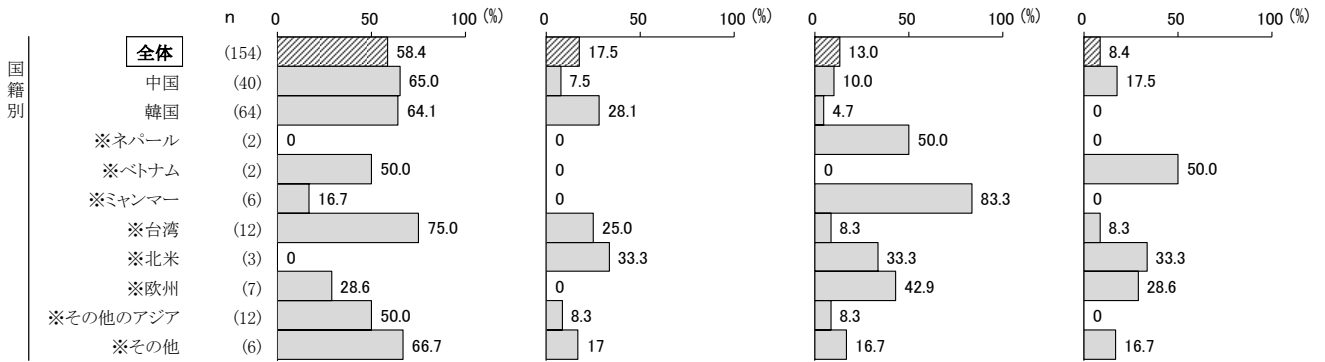
すでに日本語が話せるから[14人]、苦手なスキルだから[11人]、時間がない[2人]、短期滞在だから[2人]、既に学校を修了している[2人] など

【国籍別】

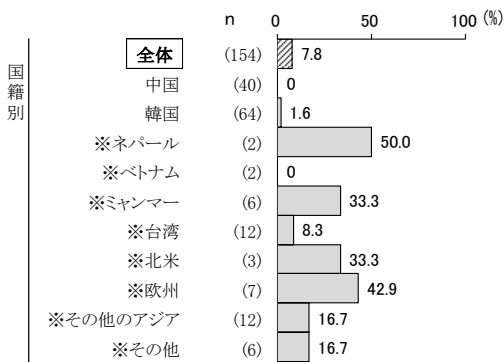
国籍別でみた結果については、回答者数が30人以上確保できた国籍に限られていることから、参考として掲載する。(図表2-25)

図表2-25 日本語を学びたくない理由《国籍別》

□ 不便を感じないから、困っていないから □ 日本で生まれ育ったから □ 歳をとっているから □ 必要ないから



□ 難しいから



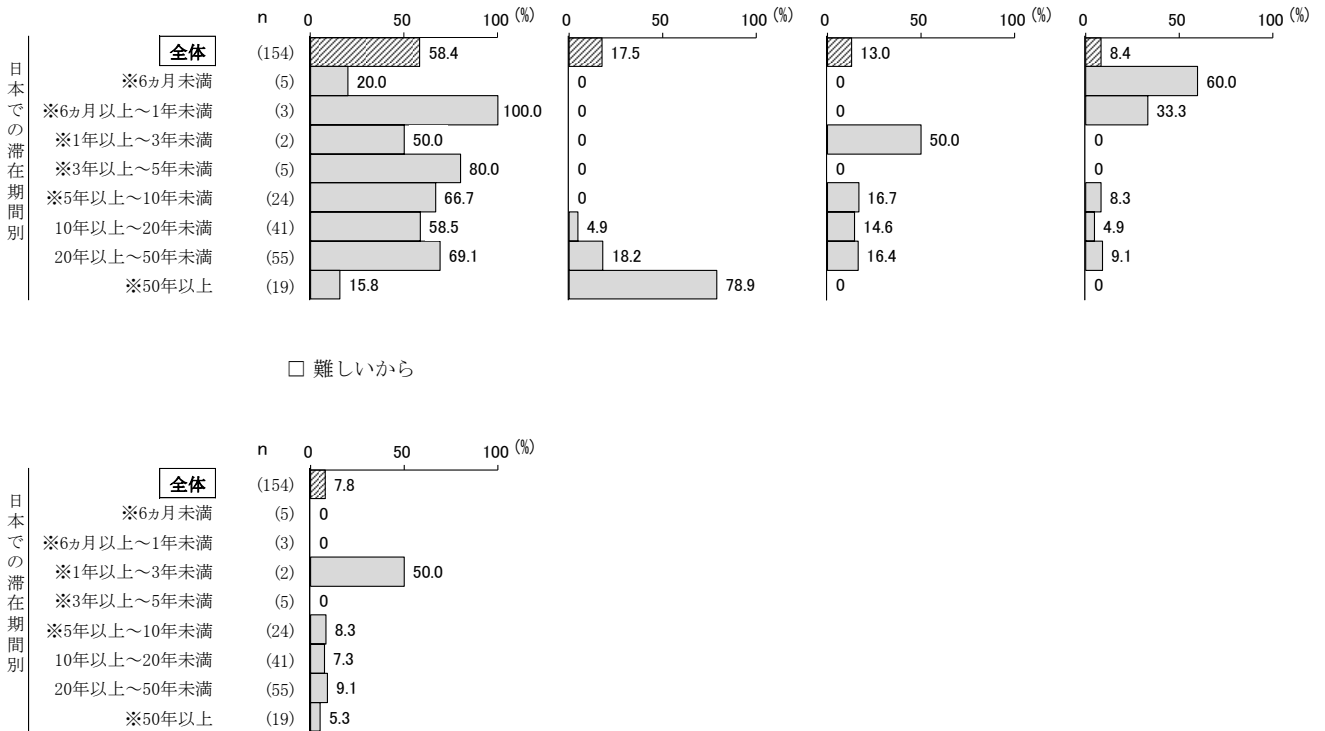
(注)※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【滞在期間別】

滞在期間別でみた結果については、回答者数が30人以上確保できた国籍が限られていることから、参考として掲載する。(図表2-26)

図表2-26 日本語を学びたくない理由《日本での滞在期間別》

□ 不便を感じないから、困っていないから □ 日本で生まれ育ったから □ 歳をとっているから □ 必要ないから



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

3 災害時・緊急時の対応

(1) 災害時の準備

◇「食べ物や飲み水を備えている」が4割強で最も高く、「自宅や職場から避難する場所を確認している」が4割近い

◇「特に何もしていない」理由は、「何を準備すればいいかわからないから」が5割強で最も高い

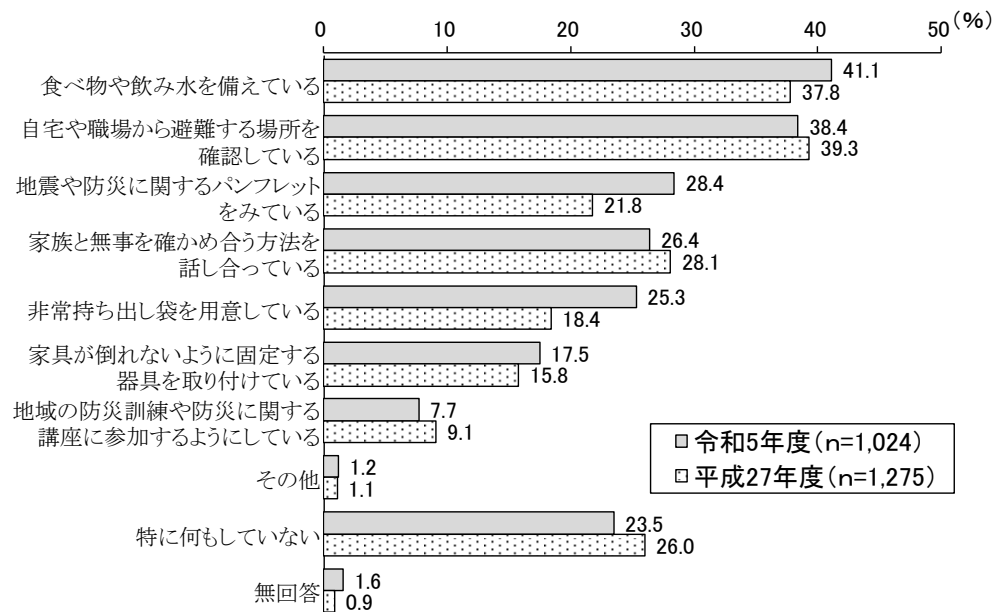
<p>問20 地震などの災害が起きた時のために、どのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)</p> <p>[n = 1,024]</p>		
1	家族と無事を確かめ合う方法を話し合っている	26.4%
2	自宅や職場から避難する場所を確認している	38.4%
3	食べ物や飲み水を備えている	41.1%
4	非常持ち出し袋を用意している	25.3%
5	地震や防災に関するパンフレットをみている	28.4%
6	家具が倒れないように固定する器具を取り付けている	17.5%
7	地域の防災訓練や防災に関する講座に参加するようにしている	7.7%
8	その他	1.2%
9	特に何もしていない	23.5%
	(無回答)	1.6%
<p>(問20で、「9 特に何もしていない」と答えた方に)</p>		
<p>問20-1 何もしていないのはなぜですか。(〇はいくつでも)</p> <p>[n = 241]</p>		
1	考えたことがなかったから	35.3%
2	何を準備すればいいかわからないから	52.3%
3	準備する時間やお金がないから	16.2%
4	防災訓練や講座の情報が入らないから	22.0%
5	何も起こらないと思うから	18.3%
6	その他	5.8%
	(無回答)	0.8%

①災害時の準備

災害時の準備としては、「食べ物や飲み水を備えている」(41.1%)が4割強で最も高く、次いで「自宅や職場から避難する場所を確認している」(38.4%)が4割近く、「地震や防災に関するパンフレットをみている」(28.4%)が3割近い。

平成27年度と比較すると、「地震や防災に関するパンフレットをみている」が6.6ポイント、「非常持ち出し袋を用意している」が6.9ポイント、それぞれ増加している。(図表3-1)

図表3-1 災害時の準備(複数回答) / 平成27年度との比較



◆「その他」の記述(令和5年度)

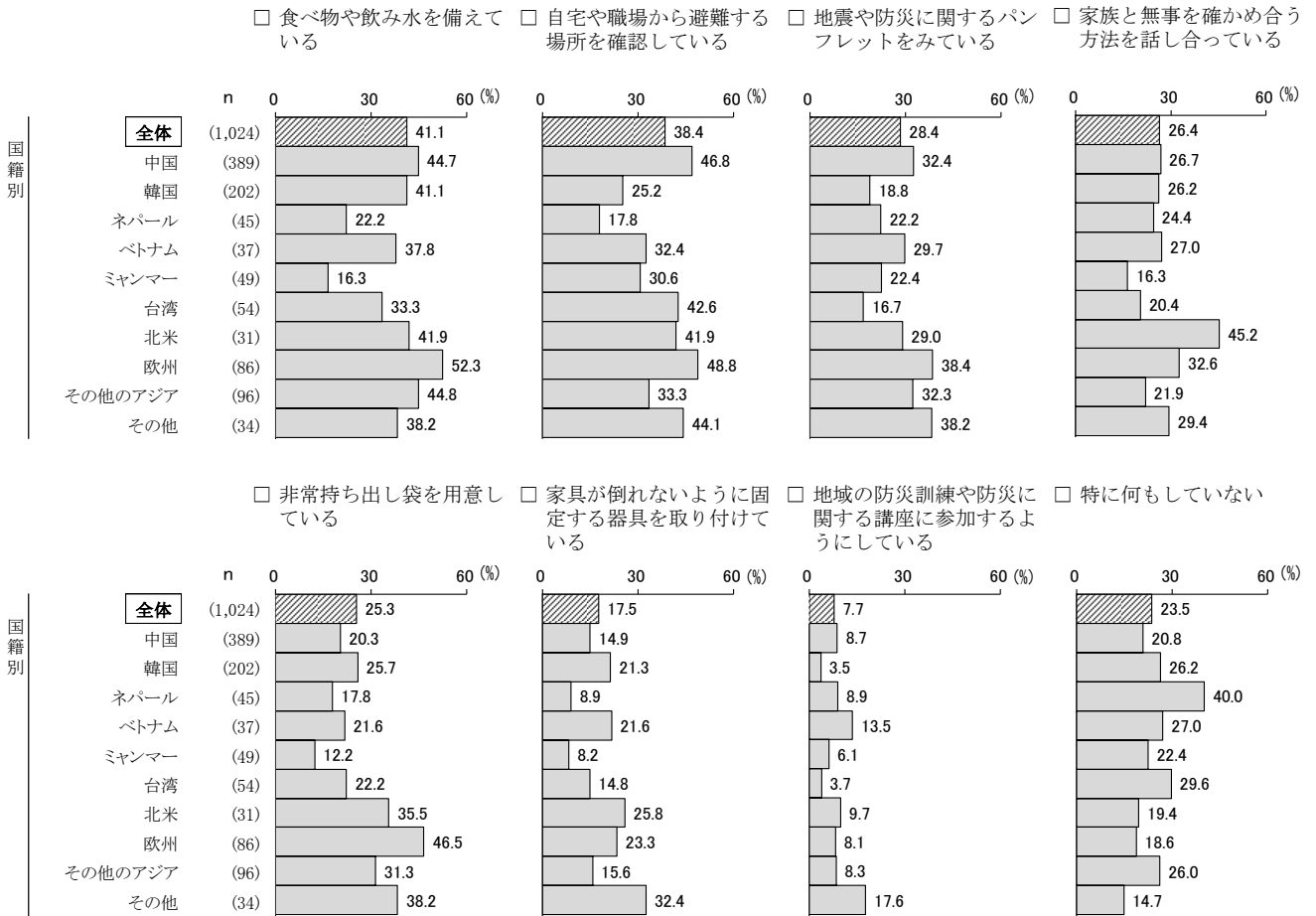
防災関連アプリ・動画[3人]、会社や学校で防災訓練等に参加[3人]、家族が準備している[2人] など

【国籍別】

上位3項目で“欧州”が全体平均より10ポイント前後高くなっている。また、「家族と無事を確認合う方法を話し合っている」は“北米”が4割台半ばとなっている。

一方、“ネパール”と“ミャンマー”はほとんどの項目で3割未満と低くなっている。“ネパール”は「特に何もしていない」が4割と高くなっている。(図表3-2)

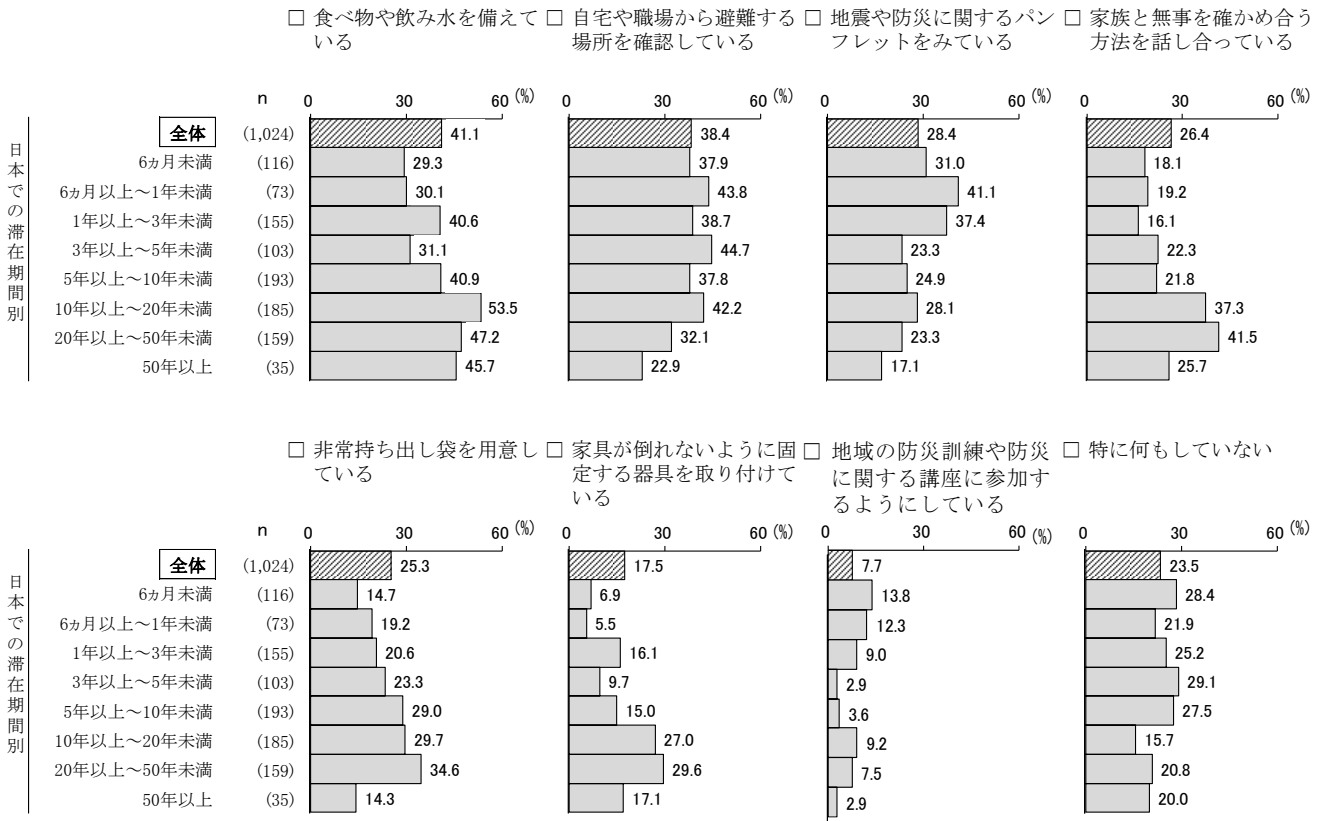
図表3-2 災害時の準備《国籍別》



【日本での滞在期間別】

「食べ物や飲み水を備えている」は、“10年以上～20年未満”で5割台半ば近くと最も高くなっている。「家族と無事を確かめ合う方法話し合っている」や「非常用持ち出し袋を用意している」、「家具が倒れないように固定する器具を取り付けている」は、おおむね滞在期間が長くなるほど高くなる。(図表3-3)

図表3-3 災害時の準備《日本での滞在期間別》

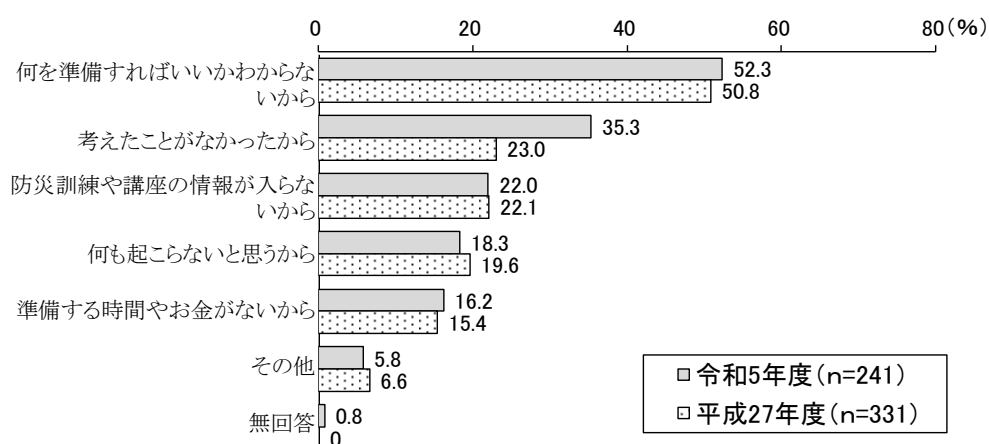


②災害時の準備をしていない理由

問 20 で災害時の準備を「特に何もしていない」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「何を準備すればいいかわからないから」(52.3%) が5割強で最も高くなっている。次いで「考えたことがなかったから」(35.3%) が3割台半ば、「防災訓練や講座の情報が入らないから」(22.0%) が2割強となっている。

平成 27 年度と比較すると、「考えたことがなかったから」が 12.3 ポイント増加している。(図表 3-4)

図表 3-4 災害時の準備をしていない理由(複数回答) /平成 27 年度との比較



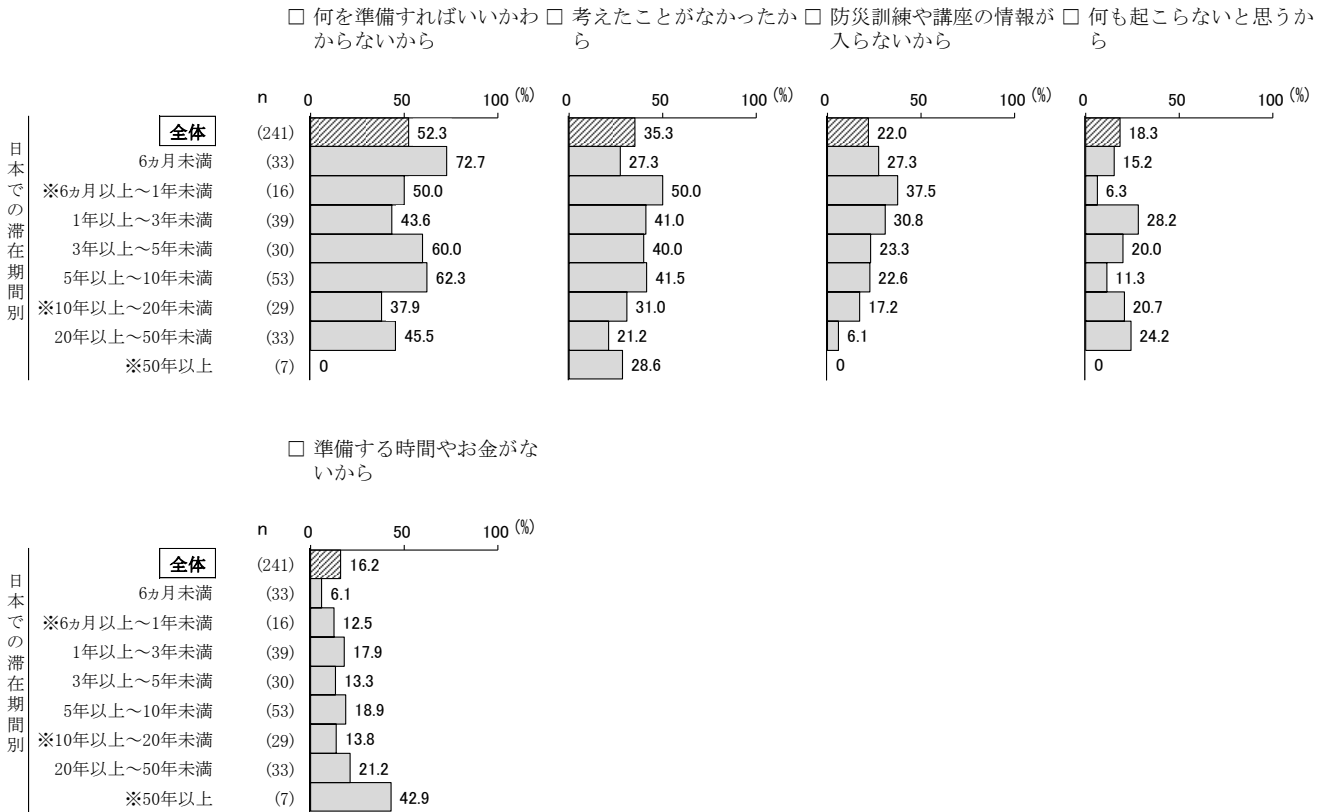
◆「その他」の記述(令和5年度)

面倒だから・怠けていたからなど[3人]、日本では必要ない[2人] など

【日本での滞在期間別】

いずれの滞在期間でも「何を準備すればいいかわからないから」が高く、中でも“6ヵ月未満”で7割強と最も高い。また、「考えたことがなかったから」は“1年以上～3年未満”、“3年以上～5年未満”と“5年以上～10年未満”で4割以上と高くなっている。(図表3-5)

図表3-5 災害時の準備《日本での滞在期間別》



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

(2) 防災訓練の参加状況

◇「知らないし、参加したことはない」が6割台半ば近い

◇参加したことがない理由は、「参加する時間がないから」が約4割

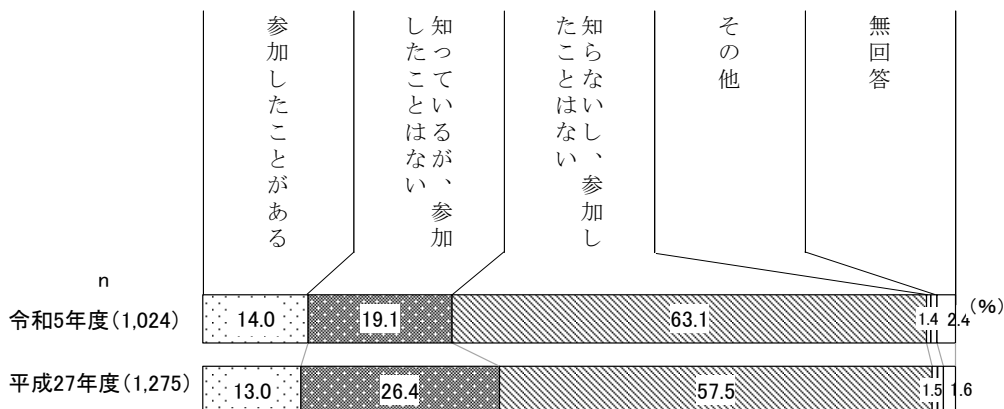
<p>とい 問21 地域では、日頃から災害時に備えた防災訓練を実施しています。こうした防災訓練が実施されていることを知っていますか。また参加したことがありますか。(○は1つだけ)</p> <p>[n=1,024]</p>					
1	参加したことがある	14.0%	3	知らないし、参加したことはない	63.1%
2	知っているが、参加したことはない	19.1%	4	その他 (無回答)	1.4% 2.4%
<p><u>(問21で、「2 知っているが、参加したことはない」と答えた方に)</u></p>					
<p>とい 問21-1 それはなぜですか。(○は1つだけ)</p> <p>[n=196]</p>					
1	参加しても言葉が通じないから	6.6%	5	参加する時間がないから	40.8%
2	参加の仕方がわからないから	10.7%	6	体力的・身体的に参加が難しいから	3.1%
3	防災訓練に関する情報が少ないから	6.1%	7	その他	5.6%
4	防災訓練に誘われないから	12.8%	8	参加は必要だと思わないから (無回答)	5.6% 8.7%

①防災訓練の参加状況

防災訓練の参加状況としては、「知らないし、参加したことはない」(63.1%)が6割台半ば近くで最も高くなっている。

平成27年度と比較すると、「知っているが、参加したことはない」が7.3ポイント減少し、「知らないし、参加したことはない」が5.6ポイント増加している。(図表3-6)

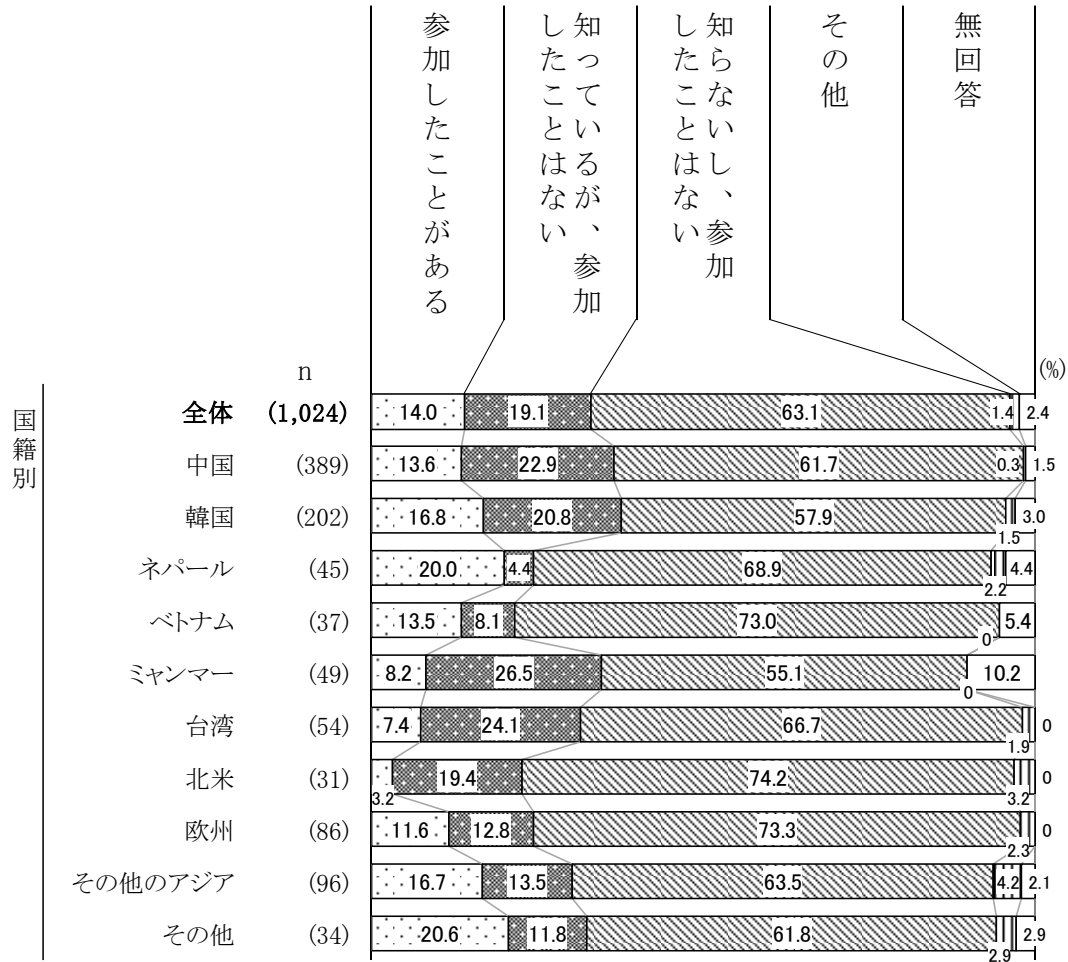
図表3-6 防災訓練の参加状況／平成27年度との比較



【国籍別】

「参加したことがある」は、“その他”で約2割と最も高く、次いで“ネパール”で2割となっている。
 「知っているが、参加したことはない」は、“ミャンマー”で2割台半ばを超え最も高い。いずれの国籍でも「知らないし、参加したことはない」が最も高いが、中でも“北米”“欧州”“ベトナム”で7割台半ば近くとなっている。(図表3-7)

図表3-7 防災訓練の参加状況《国籍別》

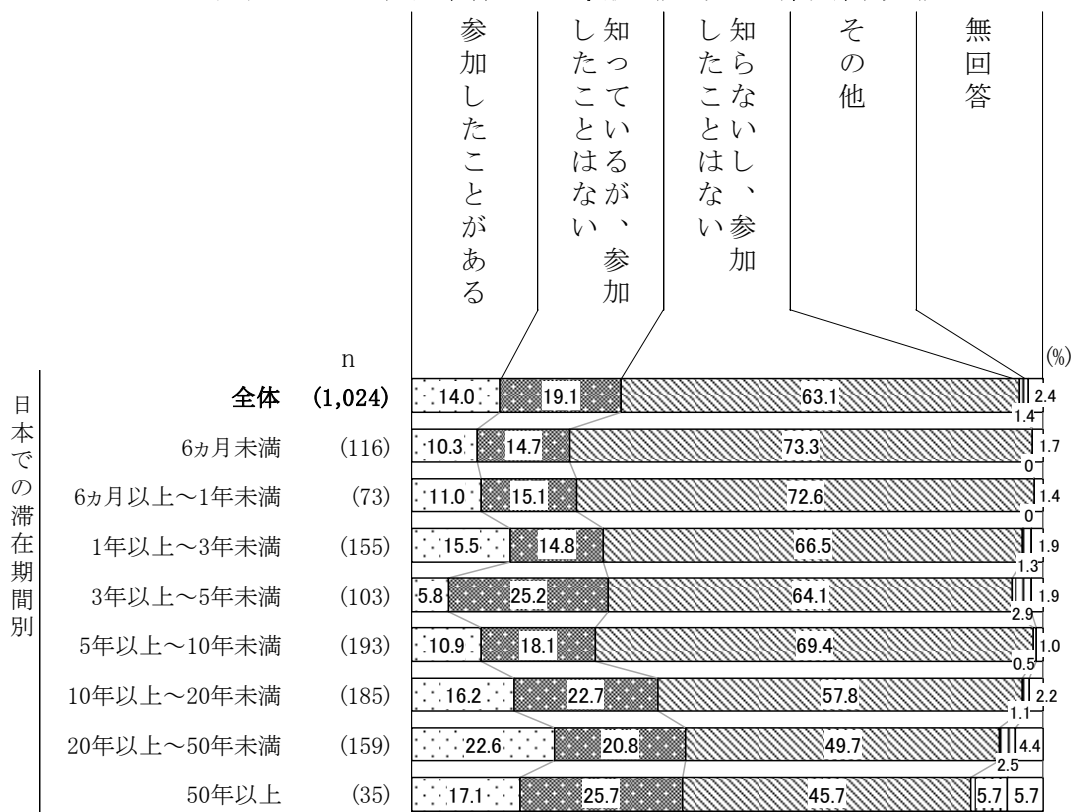


【日本での滞在期間別】

「参加したことがある」は、“20年以上～50年未満”が2割強で最も高くなっている。

また、いずれの滞在期間でも「知らないし、参加したことはない」が最も高いが、中でも“6ヶ月未満”が7割台半ば近く、“6ヶ月以上～1年未満”が7割強とそれぞれ高くなっている。(図表3-8)

図表3-8 防災訓練の参加状況《日本での滞在期間別》

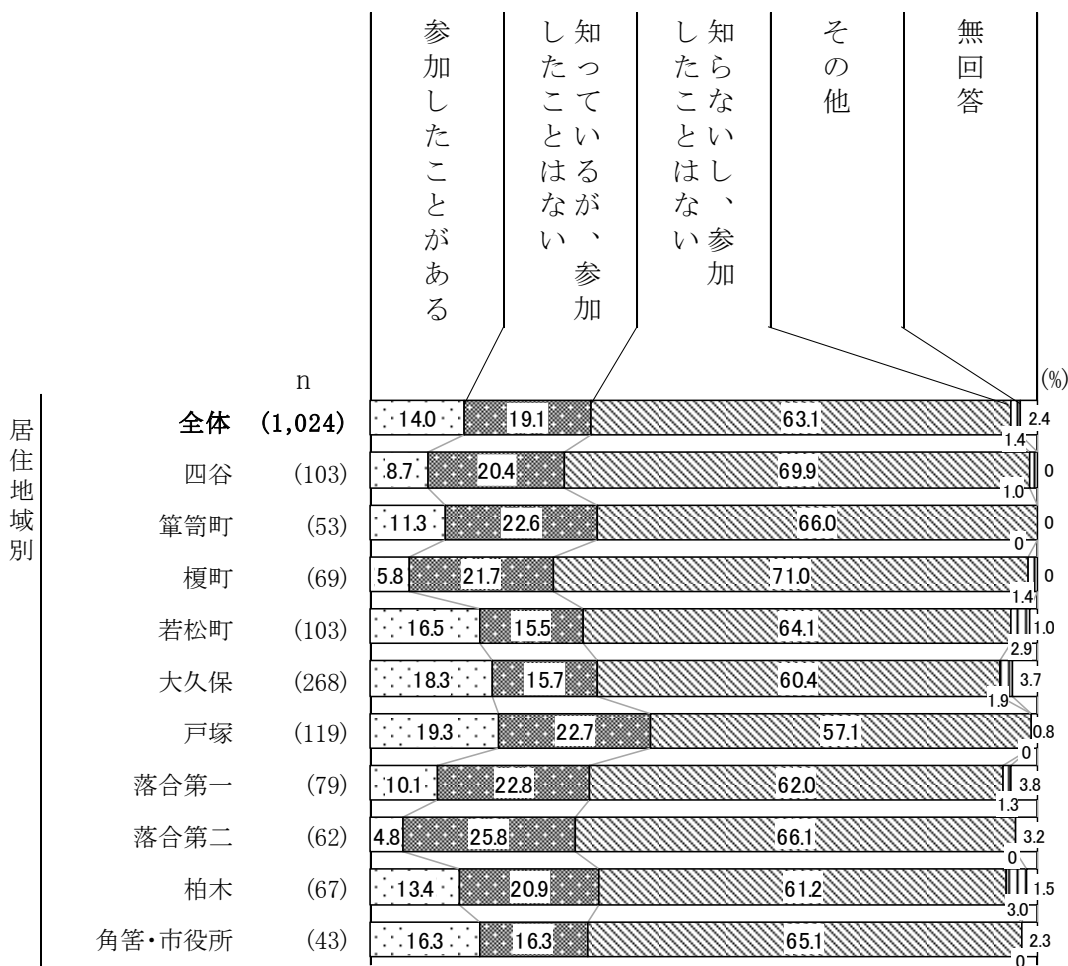


【居住地域別】

「参加したことがある」は、“戸塚”で2割弱、“大久保”で2割近くと高くなっている。

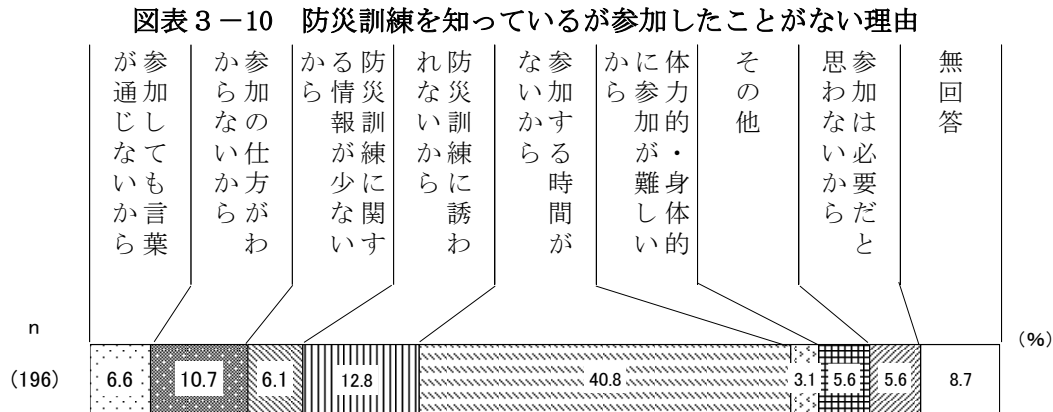
一方、いずれの居住地域でも「知らないし、参加したことはない」が半数以上を占めている。(図表3-9)

図表3-9 防災訓練の参加状況《居住地域別》



②防災訓練を知っているが参加したことがない理由

防災訓練を知っているが参加したことがない理由としては、「参加する時間がないから」(40.8%)が約4割と最も高く、次いで「防災訓練に誘われないから」(12.8%)は1割強、「参加の仕方がわからないから」(10.7%)は約1割となっている。(図表3-10)



◆「その他」の記述

学校や会社で参加した[8人] など

(3) 新宿区に望む災害対策

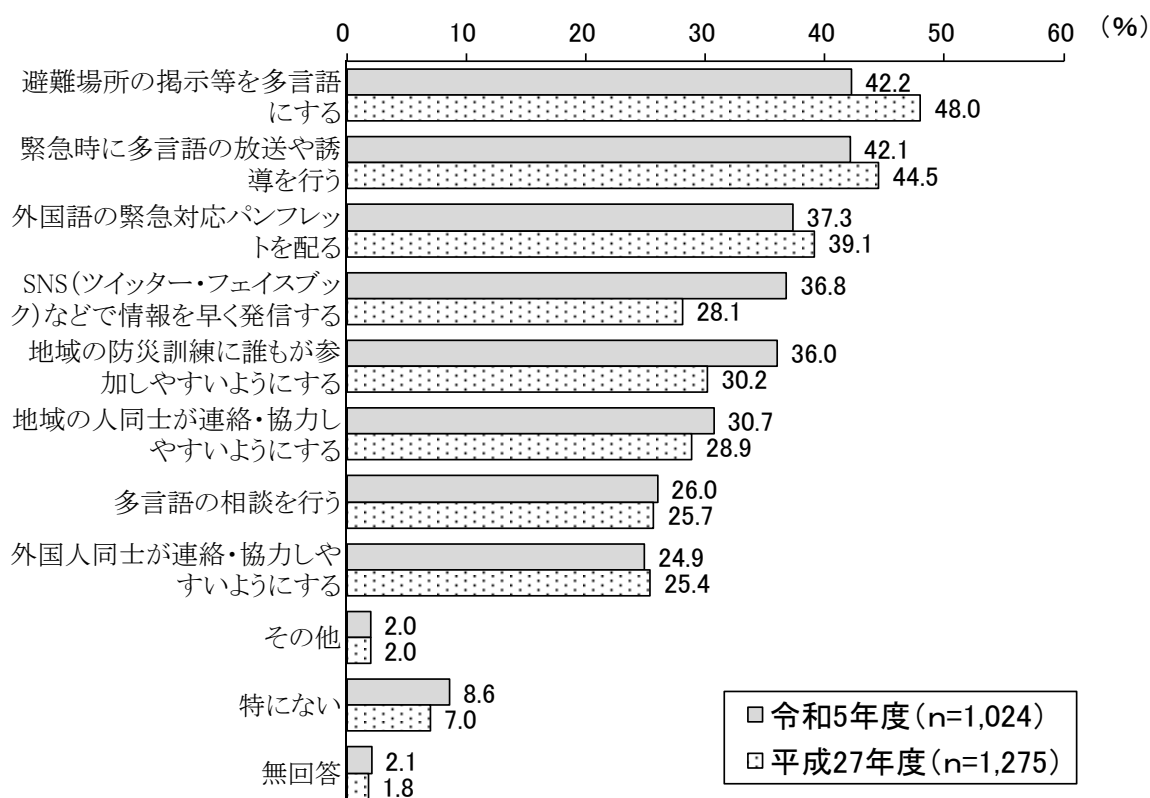
◇「避難場所の掲示等を多言語にする」と「緊急時に多言語の放送や誘導を行う」が4割強で最も高い

<p>とい 問22 あなたは、新宿区にどのような災害対策をしてほしいですか。(〇はいくつでも)</p> <p>[n = 1, 024]</p>		
1	避難場所の掲示等を多言語にする	42.2%
2	外国語の緊急対応パンフレットを配る	37.3%
3	緊急時に多言語の放送や誘導を行う	42.1%
4	SNS(ツイッター・フェイスブック)などで情報を早く発信する	36.8%
5	多言語の相談を行う	26.0%
6	地域の防災訓練に誰もが参加しやすいようにする	36.0%
7	地域の人同士が連絡・協力しやすいようにする	30.7%
8	外国人同士が連絡・協力しやすいようにする	24.9%
9	その他	2.0%
10	特にない	8.6%
	(無回答)	2.1%

新宿区に望む災害対策としては、「避難場所の掲示等を多言語にする」(42.2%)と「緊急時に多言語の放送や誘導を行う」(42.1%)が4割強と高く、次いで「外国語の緊急対応パンフレットを配る」(37.3%)と「SNS(ツイッター・フェイスブック)などで情報を早く発信する」(36.8%)は3割台半ばを超える。

平成27年度と比較すると、「避難場所の掲示等を多言語にする」が5.8ポイント減少し、「SNS(ツイッター・フェイスブック)などで情報を早く発信する」が8.7ポイント、「地域の防災訓練に誰もが参加しやすいようにする」が5.8ポイント、それぞれ増加している。(図表3-11)

図表3-11 新宿区に望む災害対策(複数回答) / 平成27年度との比較



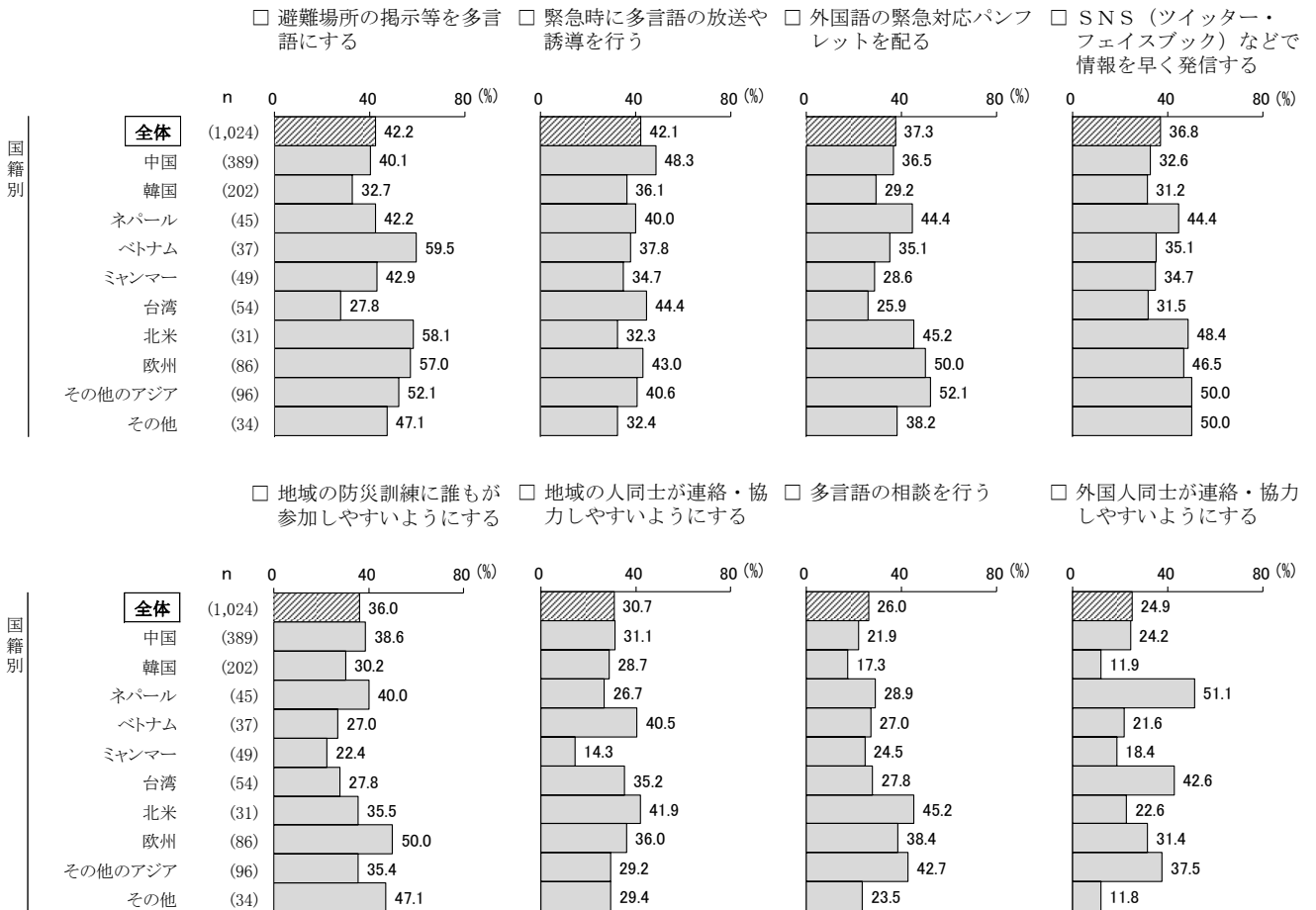
◆「その他」の記述(令和5年度)

yahoo 防災などのアプリとの連携を強化・多言語として発信[2人] など

【国籍別】

「避難場所の掲示等を多言語にする」で“ベトナム”が6割弱と最も高く、“北米”、“欧州”、“その他のアジア”で5割を超えている。「外国語の緊急対応パンフレットを配る」で“その他のアジア”が5割強と高くなっている。また、「外国人同士が連絡・協力しやすいようにする」で“ネパール”が5割強と高くなっている。(図表3-12)

図表3-12 新宿区に望む災害対策《国籍別》

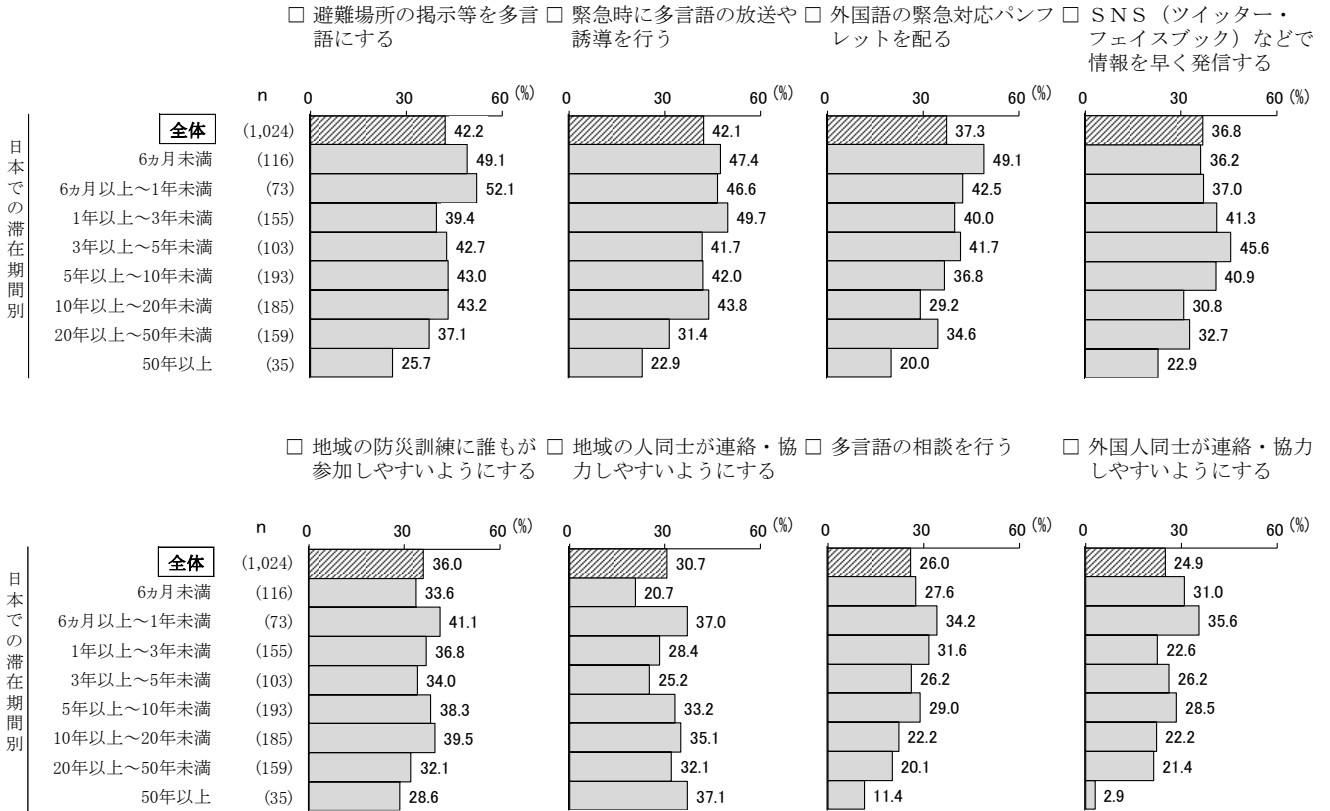


【日本での滞在期間別】

「避難場所の掲示等を多言語にする」では“6ヵ月以上～1年未満”が5割強と最も高く、“6ヵ月未満”で5割弱となっている。

また、“50年以上”が7つの項目で3割未満であり、特に「外国人同士が連絡・協力しやすいようにする」で1割に満たない。(図表3-13)

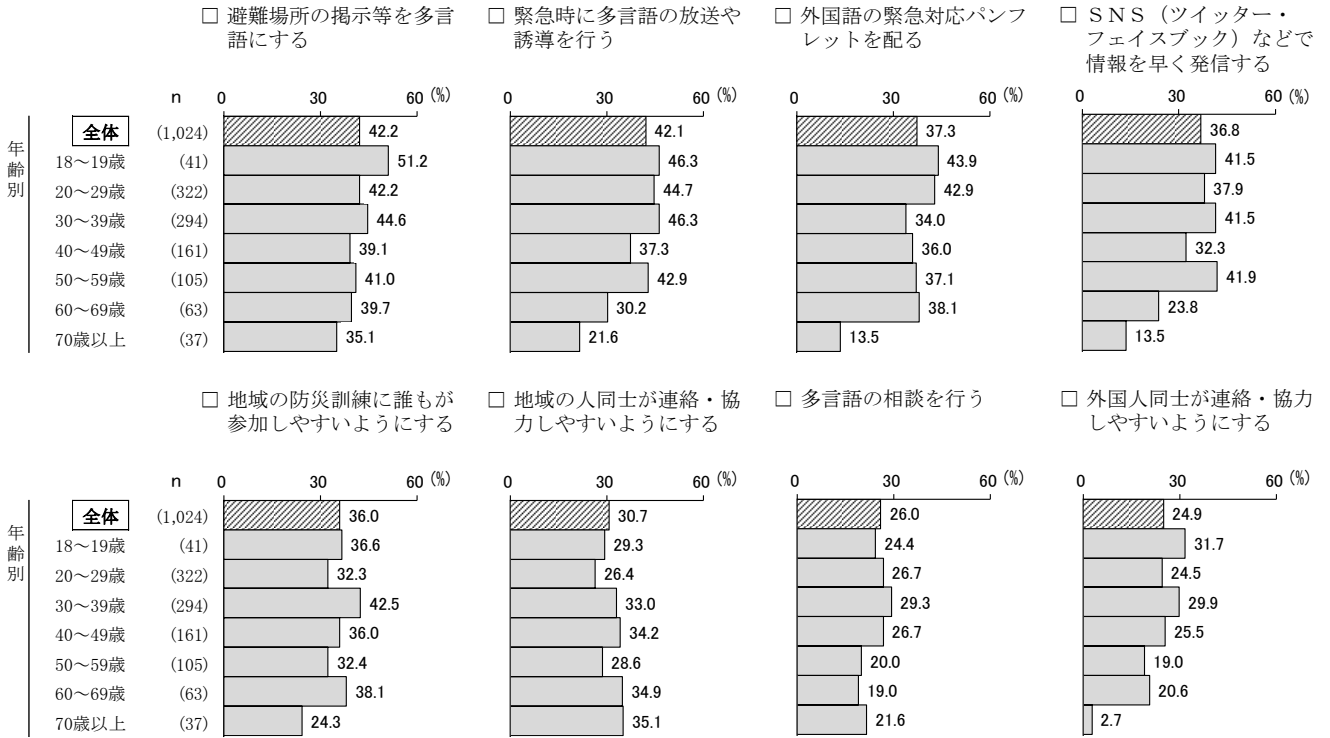
図表3-13 新宿区に望む災害対策《日本での滞在期間別》



【年齢別】

「避難場所の掲示等を多言語にする」では“18～19歳”が5割強と最も高く、次いで“30～39歳”が4割台半ば近く、“20～29歳”と“50～59歳”が4割強と続いている。(図表3-14)

図表3-14 新宿区に望む災害対策《年齢別》



4 必要な情報・サービスについて

(1) 新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているもの

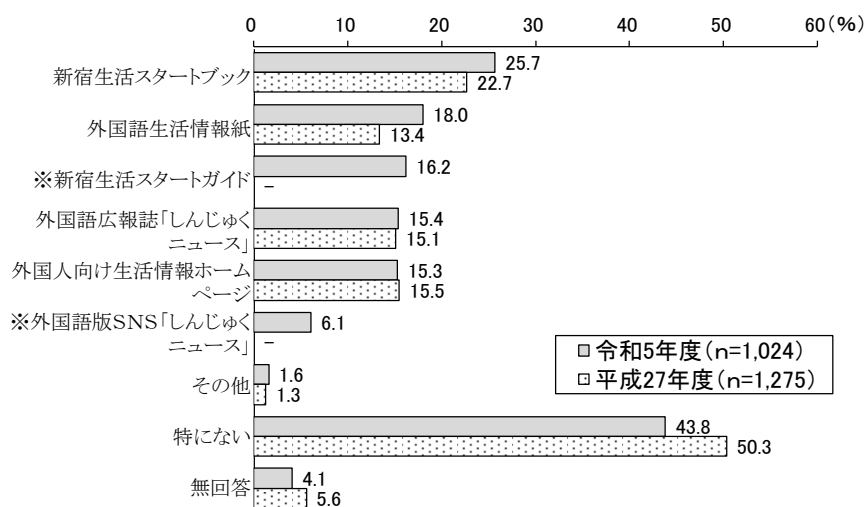
◇「新宿生活スタートブック」が2割台半ば。一方「特にない」が4割台半ば近い

<small>とい</small> <small>問23</small> 新宿区では外国人向けの情報を多言語(ルビ付き日本語・英語・中国語・韓国語)で提供しています。次の中で知っているものをお答えください。(〇はいくつでも) [n=1,024]				
1	外国語広報紙「しんじゅくにゅーす」	15.4%	5 外国語版SNS「しんじゅくにゅーす」	6.1%
2	新宿生活スタートブック	25.7%	6 新宿生活スタートガイド	16.2%
3	外国語生活情報紙	18.0%	7 その他	1.6%
4	外国人向け生活情報ホームページ	15.3%	8 特にない	43.8%
			(むかいとう 無回答)	4.1%

新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているものとしては、「新宿生活スタートブック」(25.7%)が2割台半ばと高くなっている。一方、「特にない」(43.8%)が4割台半ば近くで最も高い。

平成27年度と比較すると、「特にない」が6.5ポイント減少している。(図表4-1)

図表4-1 新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているもの(複数回答)
／平成27年度との比較



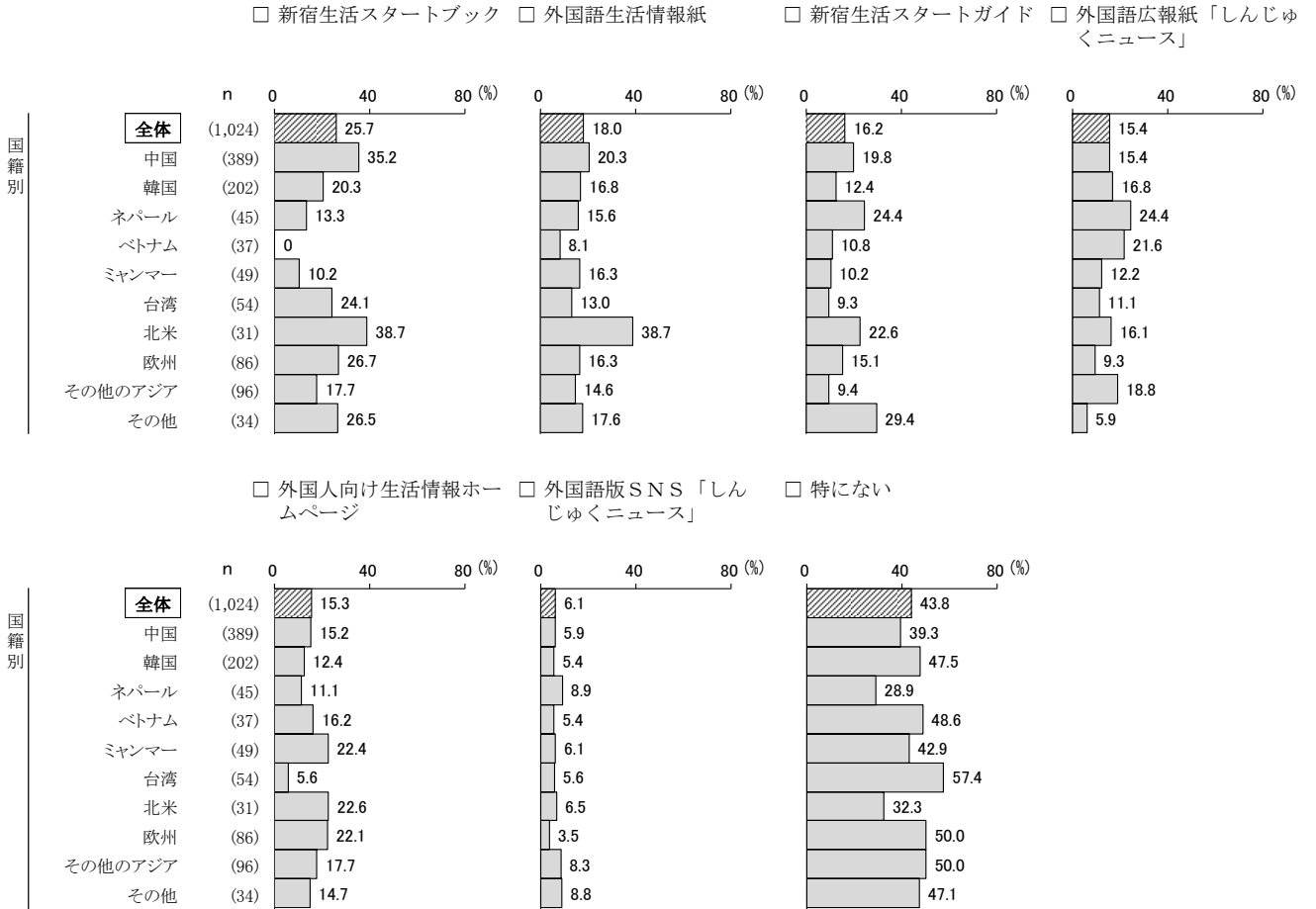
(注) ※今回調査で新設した項目である。

【国籍別】

全体では最も多い「新宿生活スタートブック」では、“北米”で4割近く、“中国”で3割台半ばと高くなっているが、“ベトナム”の回答がない。また、北米は「外国語生活情報紙」も4割近くとなっている。

一方、いずれの国籍でも「特にない」は高く、中でも“台湾”で5割台半ばを超え高く、“欧州”、“その他のアジア”で5割である。(図表4-2)

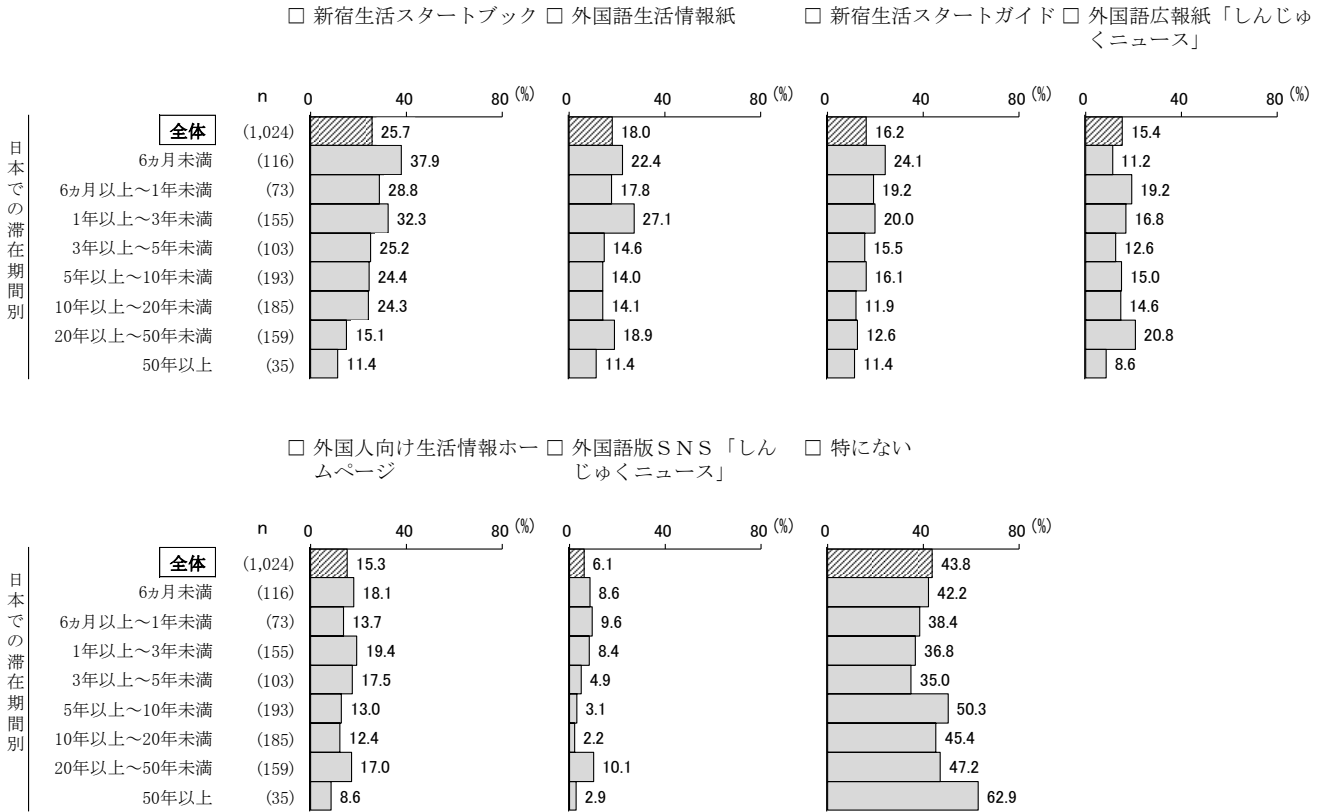
図表4-2 新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているもの《国籍別》



【日本での滞在期間別】

「新宿生活スタートブック」はおおむね滞在期間が短いほど回答割合が高く、6ヵ月未満で3割台半ばを超えている。一方、「特にない」は“50年以上”で6割強と最も高くなっている。(図表4-3)

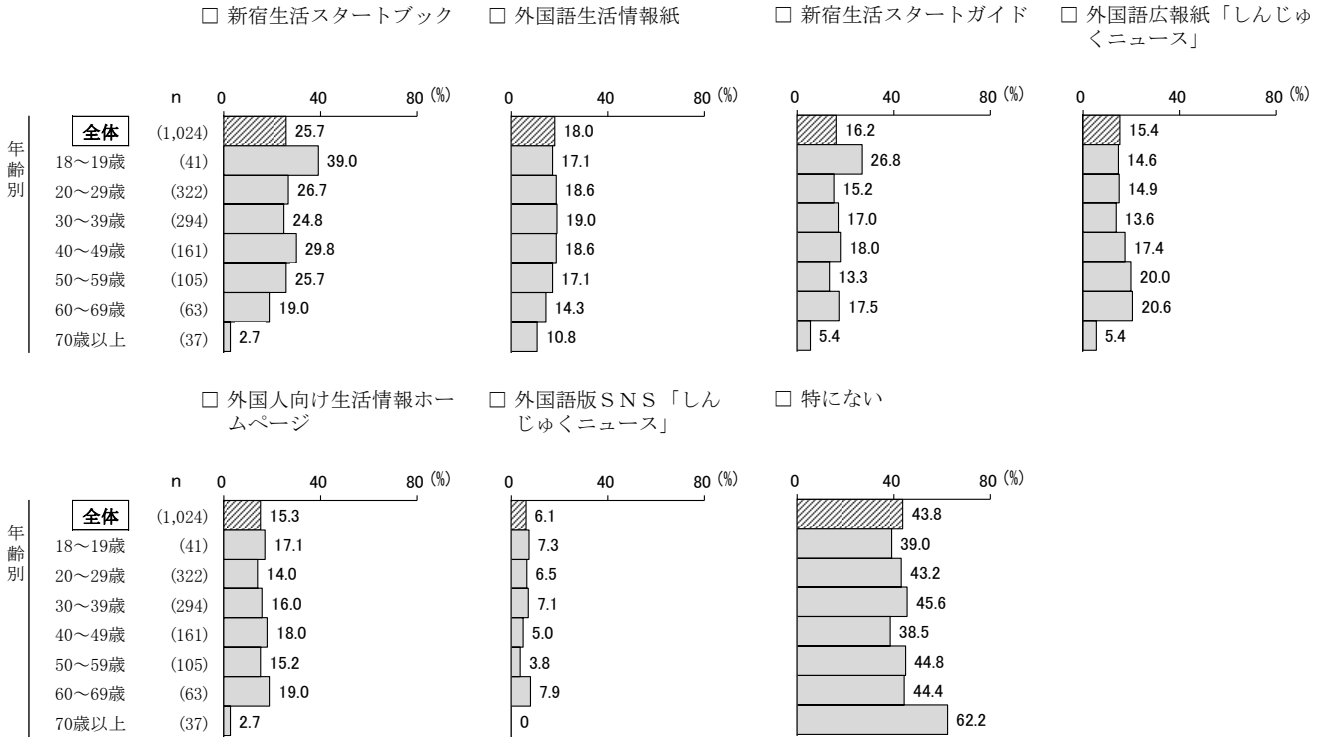
図表4-3 新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているもの《日本での滞在期間別》



【年齢別】

“18～19歳”で「新宿生活スタートブック」が4割弱、「新宿生活スタートガイド」は2割台半ばを超え高くなっている。一方、「特にない」は“70歳以上”で6割強と最も高くなっている。（図表4-4）

図表4-4 新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているもの《年齢別》



(2) 新宿区で生活していく上で知りたい情報

◇「お祭り・スポーツなどのイベント」が4割強で最も高く、「税金・年金」が4割近い

とい
問24 新宿区で生活していく上で、どんな情報をもっと知りたいですか。(〇はいくつでも)

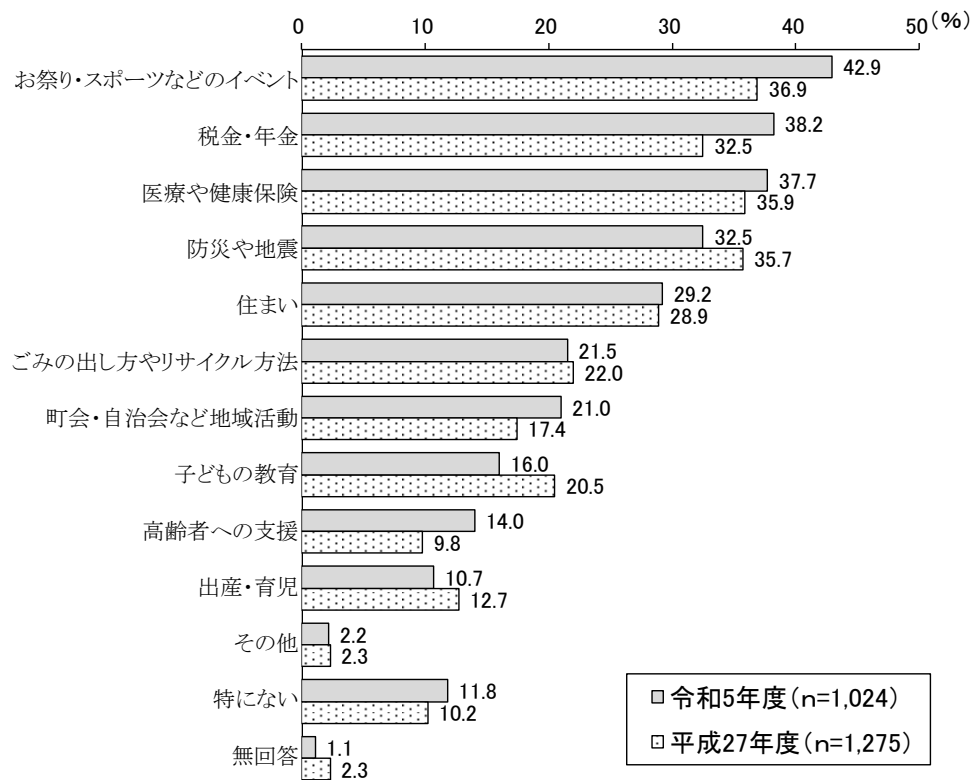
[n=1,024]

1	ごみの出し方やリサイクル方法	21.5%	8	子どもの教育	16.0%
2	防災や地震	32.5%	9	住まい	29.2%
3	高齢者への支援	14.0%	10	お祭り・スポーツなどの	42.9%
4	医療や健康保険	37.7%		イベント	
5	町会・自治会など地域活動	21.0%	11	その他	2.2%
6	税金・年金	38.2%	12	特にない	11.8%
7	出産・育児	10.7%		(無回答)	1.1%

新宿区で生活していく上で知りたい情報としては、「お祭り・スポーツなどのイベント」(42.9%)が4割強と最も高く、次いで「税金・年金」(38.2%)が4割近く、「医療や健康保険」(37.7%)が3割台半ばを超える。

平成27年度と比較すると、「お祭り・スポーツなどのイベント」が6.0ポイント、「税金・年金」が5.7ポイント、それぞれ増加している。(図表4-5)

図表4-5 新宿区で生活していく上で知りたい情報(複数回答) / 平成27年度との比較



◆ 「その他」の記述(令和5年度)

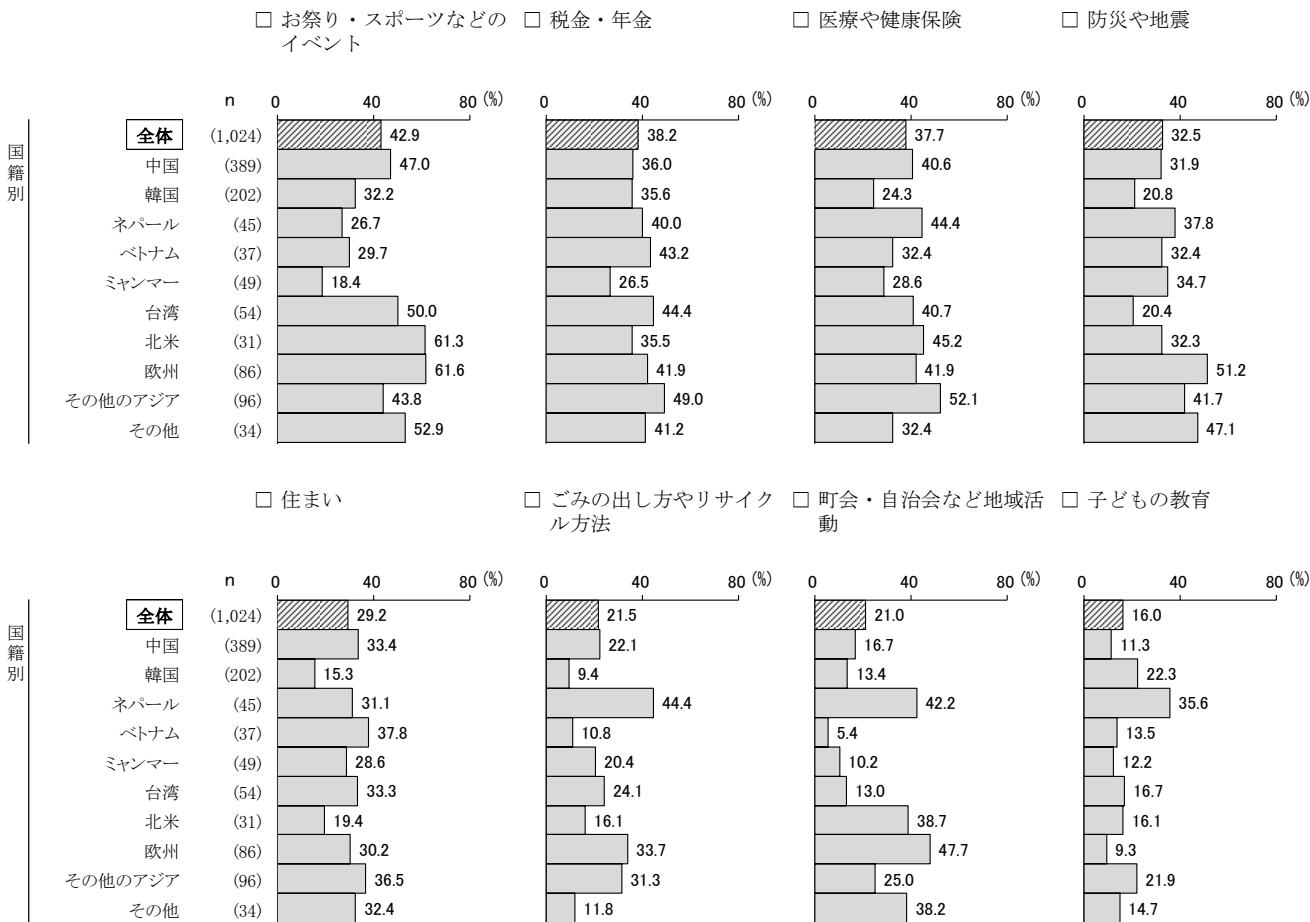
文化講座(ダンスなど) [2人]、無料で利用できる公共のサービス・教育情報など(図書館など) [2人] など

【国籍別】

「お祭り・スポーツなどのイベント」は、“北米”と“欧州”で6割強と高く、一方、ミャンマーで2割近くと最も低い。

また、“ネパール”が「ごみの出し方やリサイクル方法」と「町会・自治会など地域活動」で4割以上、「子どもの教育」で3割台半ばと高くなっている。(図表4-6)

図表4-6 新宿区で生活していく上で知りたい情報《国籍別》(上位8項目)

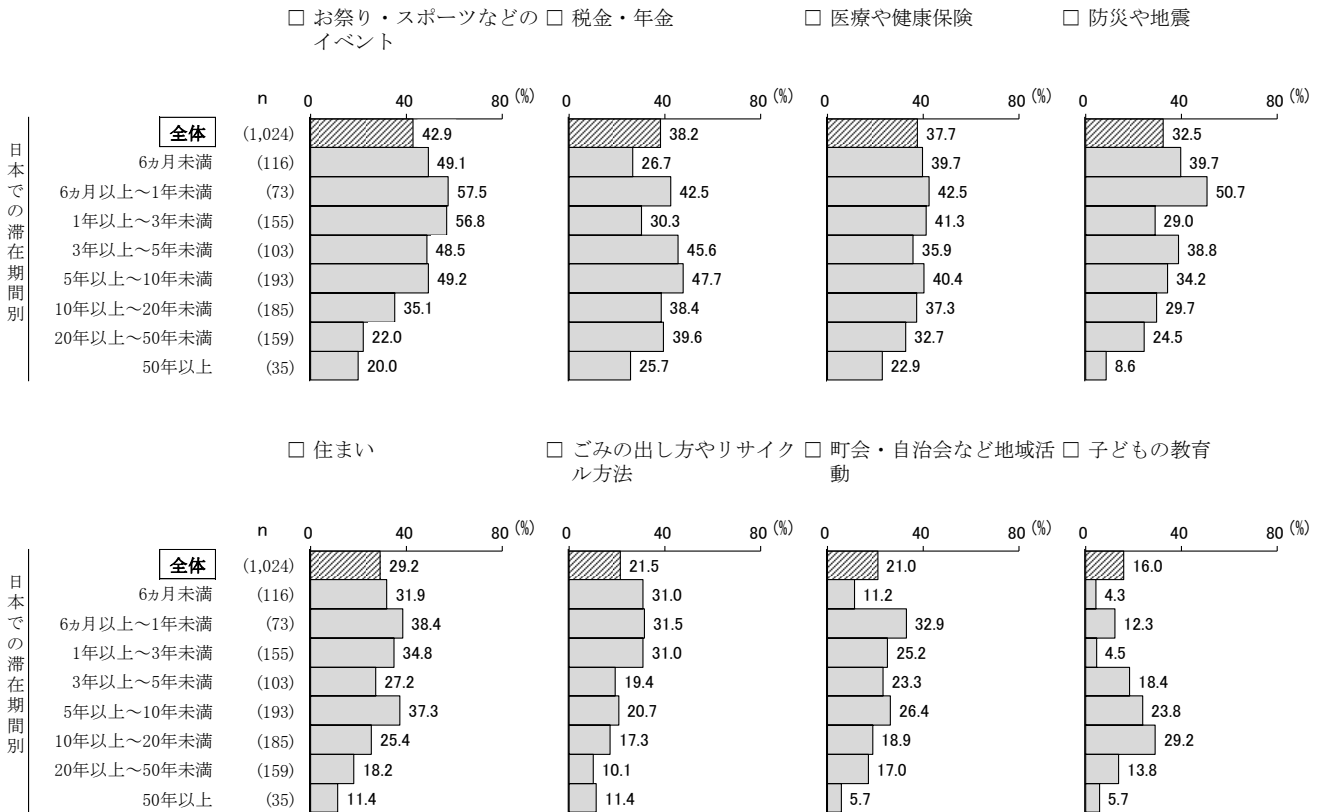


【日本での滞在期間別】

「お祭り・スポーツなどのイベント」は、“6ヵ月以上～1年未満”と“1年以上～3年未満”で5割台半ばを超え高くなっている。また、“6ヵ月以上～1年未満”は「子どもの教育」以外の項目で最も高くなっている。

また、“50年以上”はすべての項目で3割を下回っている。(図表4-7)

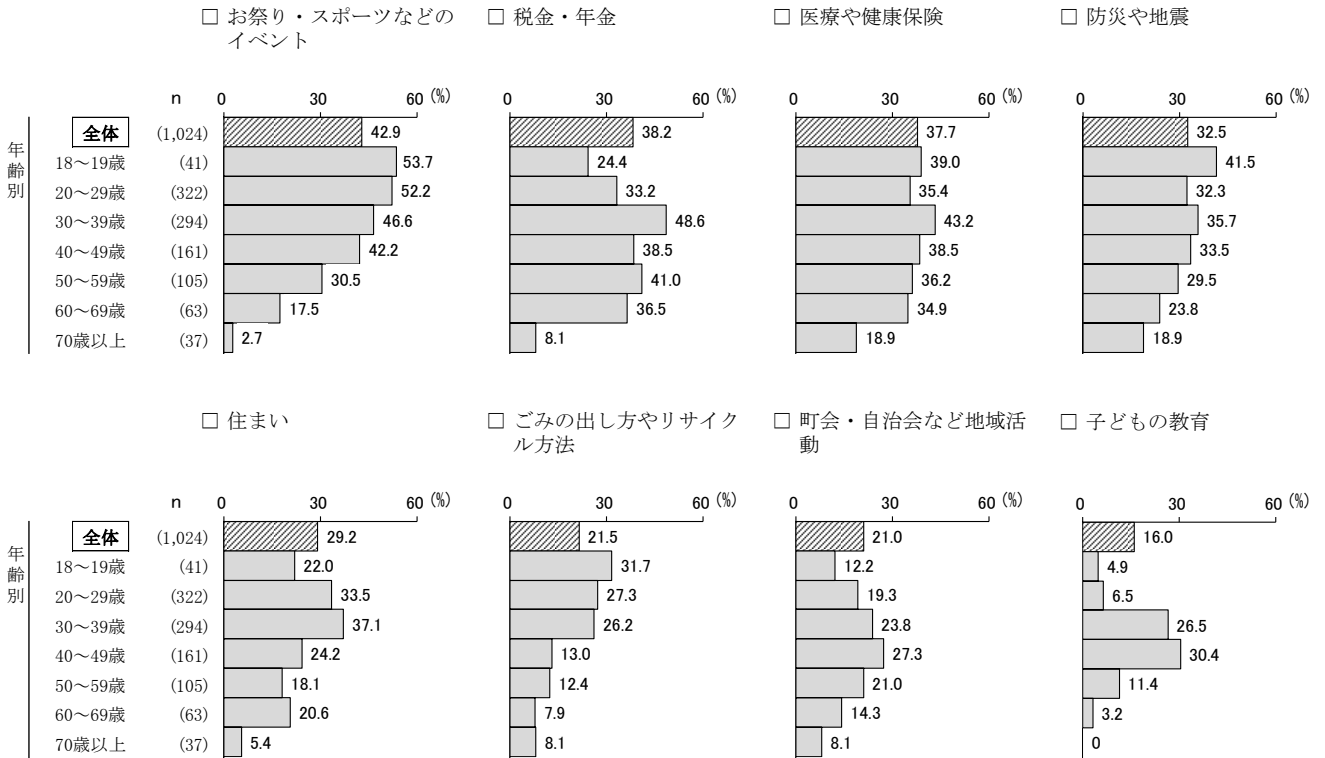
図表4-7 新宿区で生活していく上で知りたい情報《日本での滞在期間別》(上位8項目)



【年齢別】

「お祭り・スポーツなどのイベント」、「防災や地震」、「ごみの出し方やリサイクル方法」でおおむね年齢が上がるほど低くなっている。また、「町会・自治会など地域活動」と「子どもの教育」で“40～49歳”が最も高く、次いで“30～39歳”となっている。（図表4－8）

図表4－8 新宿区で生活していく上で知りたい情報《年齢別》（上位8項目）



(3) 必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと

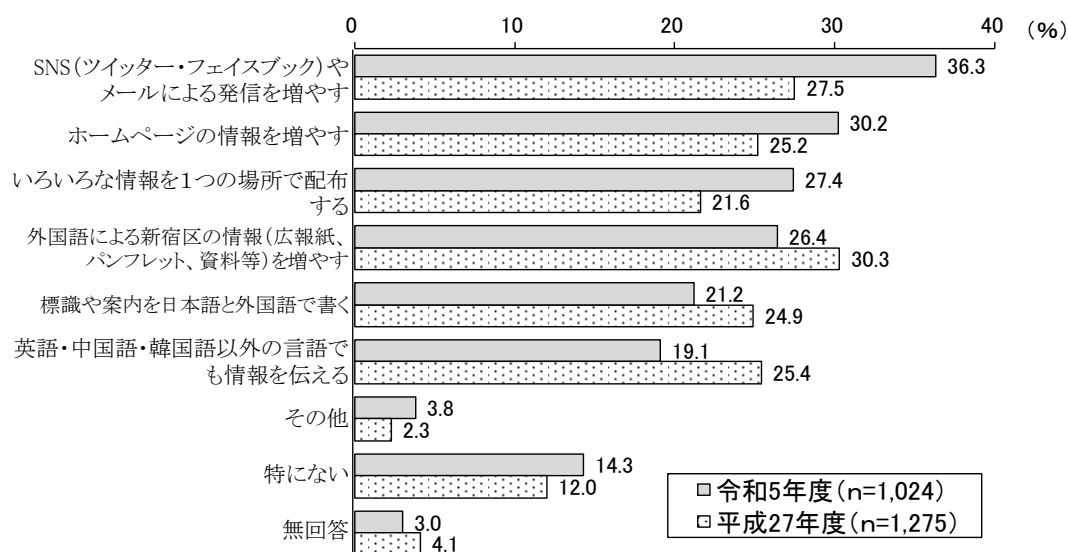
◇「SNS（ツイッター・フェイスブック）やメールによる発信を増やす」が3割台半ばを超えて最も高い

問25	必要な情報を手に入れるために、新宿区にどんなことをしてほしいですか。	
	(○はいくつでも)	
	[n=1,024]	
1	いろいろな情報を1つの場所で配布する	27.4%
2	外国語による新宿区の情報（広報紙、パンフレット、資料等）を増やす	26.4%
3	英語・中国語・韓国語以外の言語でも情報を伝える	19.1%
4	標識や案内を日本語と外国語で書く	21.2%
5	ホームページの情報を増やす	30.2%
6	SNS（ツイッター・フェイスブック）やメールによる発信を増やす	36.3%
7	その他	3.8%
8	特にない	14.3%
	(無回答)	3.0%

必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいことは、「SNS（ツイッター・フェイスブック）やメールによる発信を増やす」（36.3%）が3割台半ばを超え最も高く、次いで「ホームページの情報を増やす」（30.2%）が約3割、「いろいろな情報を1つの場所で配布する」（27.4%）が2割台半ばを超える。

平成27年度と比較すると、「SNS（ツイッター・フェイスブック）やメールによる発信を増やす」で8.8ポイント、「ホームページの情報を増やす」で5.0ポイント、「いろいろな情報を1つの場所で配布する」が5.8ポイント、それぞれ増加している。（図表4-9）

図表4-9 必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと（複数回答）
／平成27年度との比較



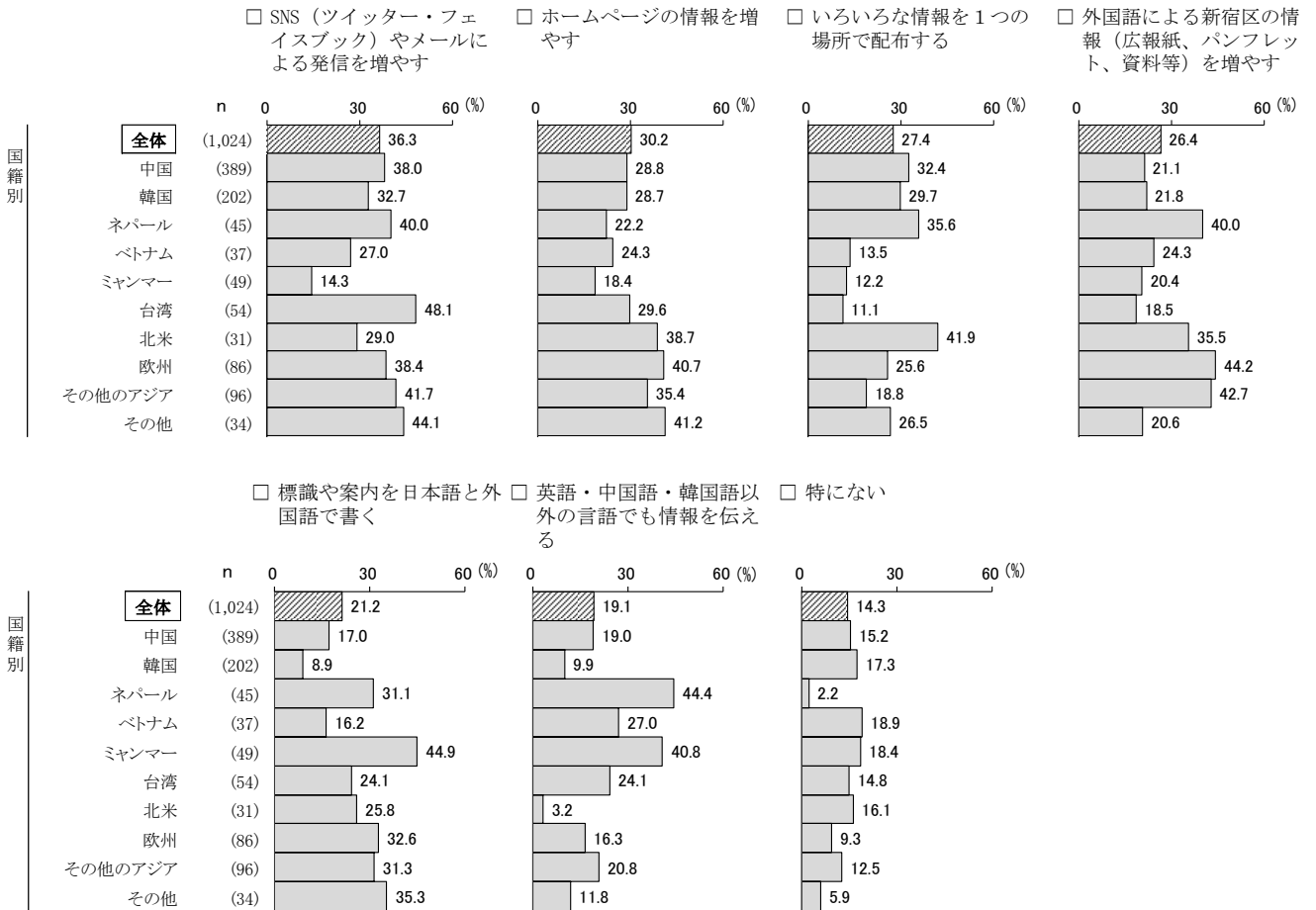
◆「その他」の記述（令和5年度）

住所宛に直接郵送・配布[3人]、QRコードをスキャンして他の言語で読む[2人]、情報をうまく整理し、特定のものを見つけやすくする[2人]、重要な情報をすべてメールしてほしい（英語などで）[2人]、YouTubeでもっと多様な情報を発信してほしい[2人]、区役所等に外国語ができる人を増やしてほしい[2人]、資料を駅やコンビニ・外国人がよく行く店で配布[2人] など

【国籍別】

「SNS（ツイッター・フェイスブック）やメールによる発信を増やす」で“台湾”が5割近くで最も高く、“その他のアジア”と“その他”で4割を超えている。“ミャンマー”は上位4項目では割合は低いが、「標識や案内を日本語と外国語で書く」と「英語・中国語・韓国語以外の言語でも情報を伝える」では4割を超えている。（図表4-10）

図表4-10 必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと《国籍別》

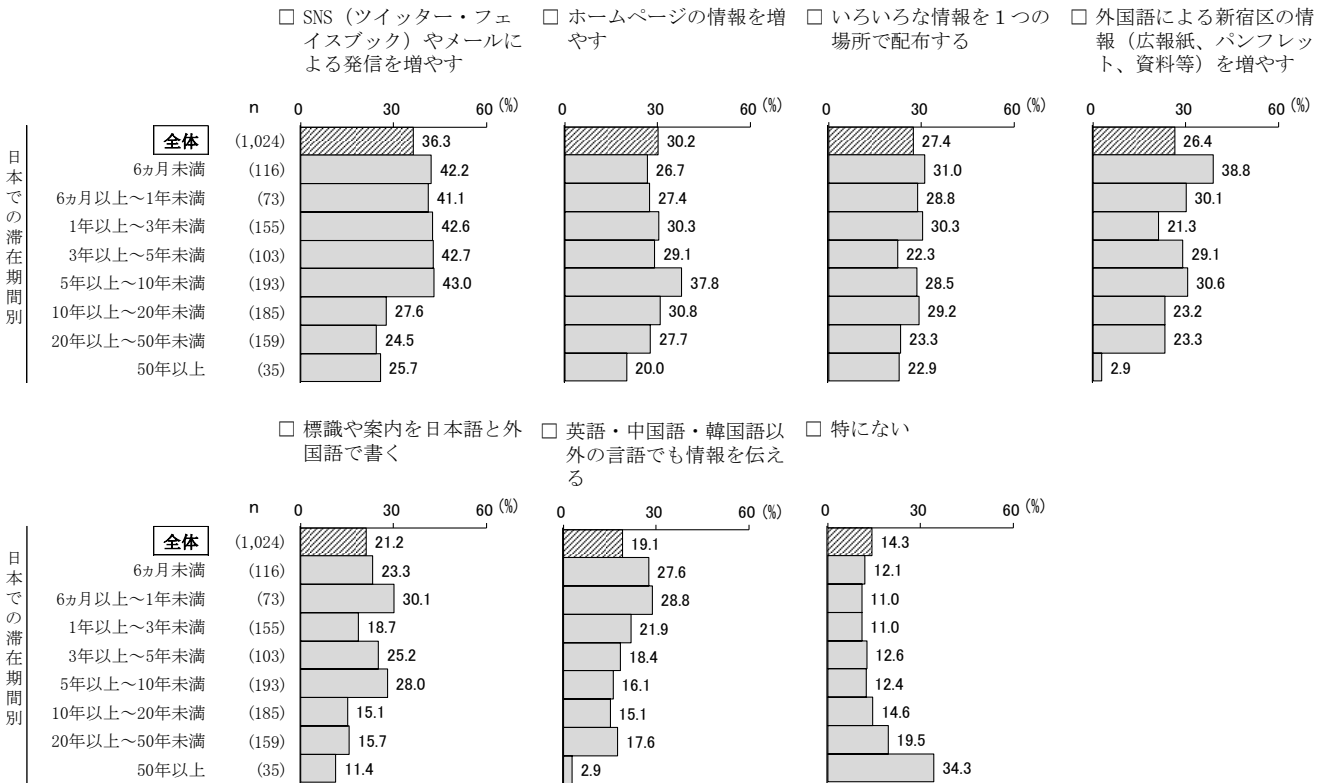


【日本での滞在期間別】

「SNS（ツイッター・フェイスブック）やメールによる発信を増やす」で“5年以上～10年未満”までは4割を超えているものの、“10年以上～20年未満”から3割未満となっている。

一方、「特になし」はおおむね滞在期間が長くなるにつれて高くなっており、“50年以上”で3割台半ば近くとなっている。（図表4-11）

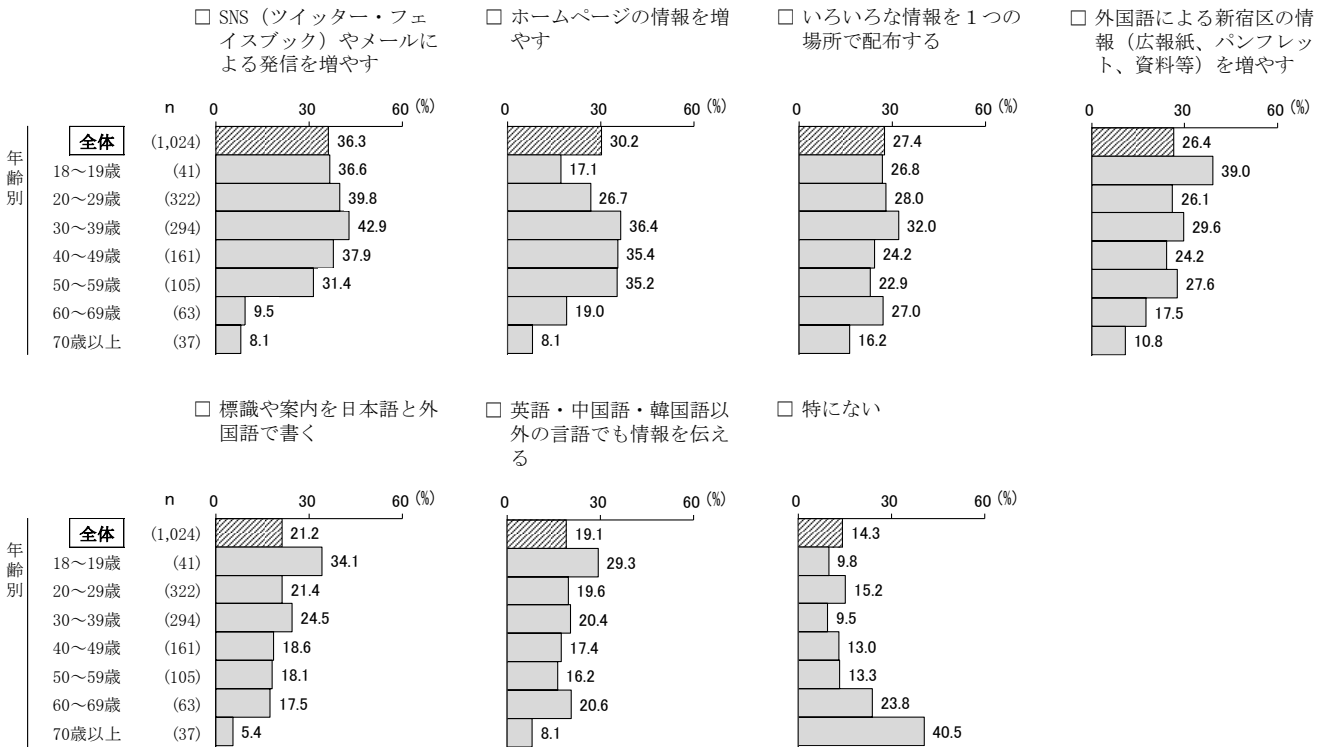
図表4-11 必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと《日本での滞在期間別》



【年齢別】

「SNS（ツイッター・フェイスブック）やメールによる発信を増やす」で50～59歳”までは3割を超えているものの、“60～69歳”と“70歳以上”で1割を下回っている。（図表4-12）

図表4-12 必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと《年齢別》



5 多文化共生のまちづくり

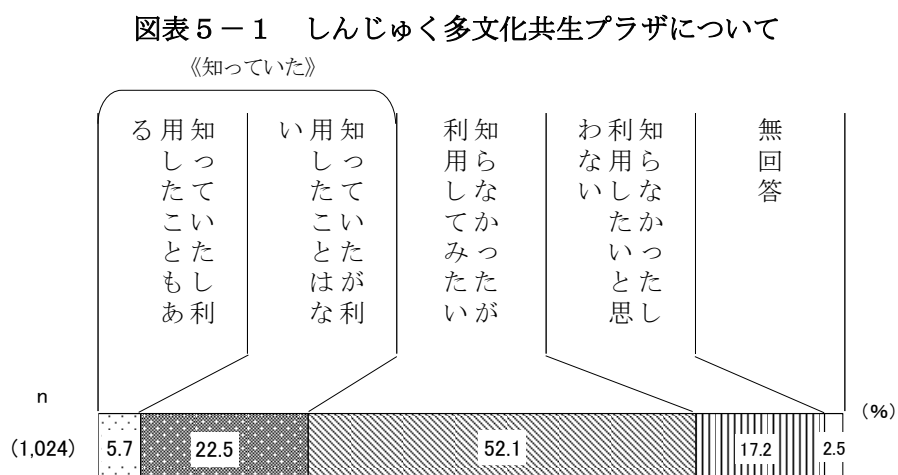
(1) しんじゅく多文化共生プラザについて

◇「知らなかったが利用してみたい」が5割強、「知っていた」が3割近い

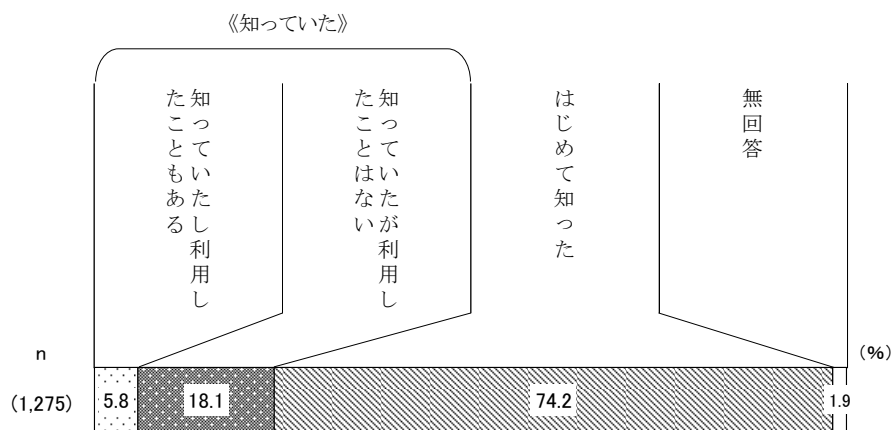
<p>しんじゅくく さまざま こくせき みんぞく ひとびと たが ぶんか ちが みと りかい ちいき とも 新宿区では、様々な国籍・民族の人々が、互いの文化の違いを認め、理解し、地域で共に 生きていく「多文化共生のまちづくり」を推進しています。</p>					
<p>とい 問26 しんじゅくく にほんじん がいこくじん こうりゅうしせつ 「しんじゅく多文化共生プラザ」を設置して、 にほんごがくしゅう しりょう じょうほう ていきょう がいこくじんそうだんなど おこな 日本語学習、資料・情報の提供、外国人相談等を行っています。</p>					
<p>あなたは、この施設を知っていますか。(○は1つだけ)</p>					
<p>[n=1,024]</p>					
1	し 知っていたし利用したことも ある	5.7%	3	し 知らなかったが利用してみたい	52.1%
2	し 知っていたが利用したことは ない	22.5%	4	し 知らなかったし利用したいと おも 思わない	17.2%
				むかいとう (無回答)	2.5%

しんじゅく多文化共生プラザについて「知らなかったが利用してみたい」(52.1%)が5割強で高くなっている。一方、「知っていたし利用したこともある」(5.7%)と「知っていたが利用したことはない」(22.5%)を合わせると、《知っていた》(28.2%)は3割近くである。また、「知らなかったし利用したいと思わない」(17.2%)は1割台半ばを超えている。(図表5-1)

平成27年度にも同様の設問を聞いているが、項目の内容を変更しているため、参考として掲載する。(図表5-2)



図表5-2 (参考) しんじゅく多文化共生プラザについて (平成27年度)



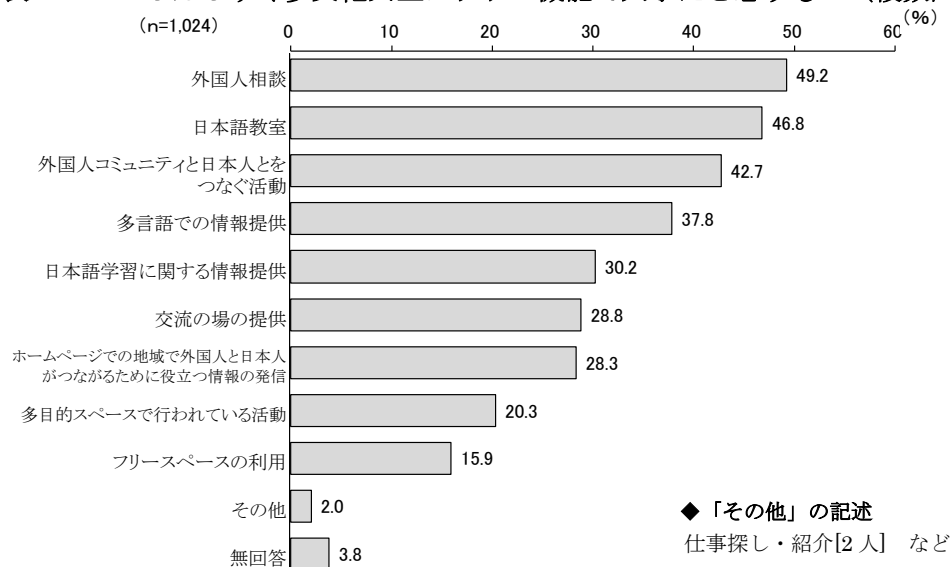
(2) しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの

◇「外国人相談」が5割弱で最も高い

問27	しんじゅく多文化共生プラザの機能で特に大事だと思うものはなんですか。	
	(〇はいくつでも)	
	[n=1,024]	
5	日本語教室	46.8%
6	外国人相談	49.2%
7	多言語での情報提供	37.8%
8	多目的スペースで行われている活動	20.3%
9	フリースペースの利用	15.9%
10	日本語学習に関する情報提供	30.2%
11	ホームページでの地域で外国人と日本人が つながるために役立つ情報の発信	28.3%
12	外国人コミュニティと日本人とをつなぐ活動	42.7%
13	交流の場の提供	28.8%
14	その他	2.0%
	(無回答)	3.8%

しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うものは、「外国人相談」(49.2%)が5割弱と最も高く、次いで「日本語教室」(46.8%)が4割台半ばを超え、「外国人コミュニティと日本人とをつなぐ活動」(42.7%)が4割強となっている。(図表5-3)

図表5-3 しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの(複数回答)



(3) 多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと

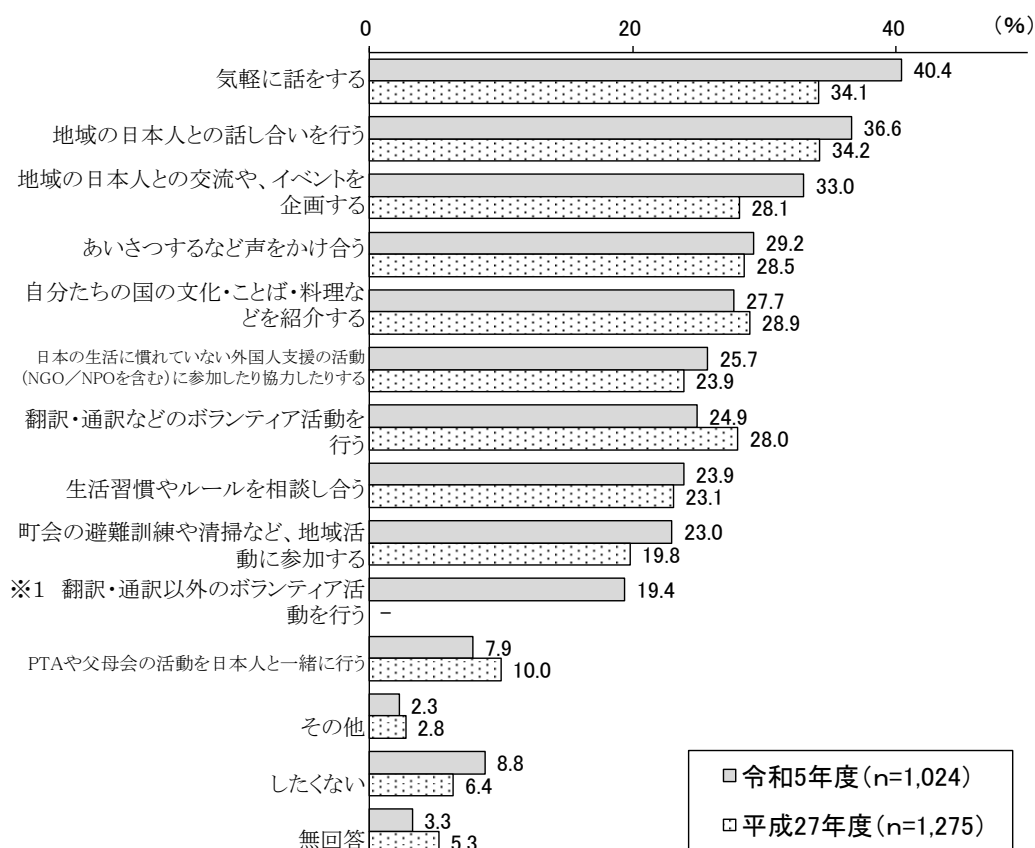
◇「気軽に話をする」が約4割で最も高い

<p>問28 新宿区では「多文化共生のまちづくり」を進めるために、皆さんに能力や経験を 生かして地域で活躍してほしいと考えています。そこで、あなたは、地域の中でどの ような活動をしてみたいと思いますか。(〇はいくつでも)</p> <p>[n = 1, 024]</p>	
1 あいさつするなど声をかけ合う	29.2%
2 気軽に話をする	40.4%
3 生活習慣やルールを相談し合う	23.9%
4 地域の日本人との話し合いを行う	36.6%
5 地域の日本人との交流や、イベントを企画する	33.0%
6 町会の避難訓練や清掃など、地域活動に参加する	23.0%
7 自分たちの国の文化・ことば・料理などを紹介する	27.7%
8 PTAや父母会の活動を日本人と一緒に行う	7.9%
9 翻訳・通訳などのボランティア活動を行う	24.9%
10 翻訳・通訳以外のボランティア活動を行う	19.4%
11 日本の生活に慣れていない外国人支援の活動(NGO/NPOを含む)に 参加したり協力したりする	25.7%
12 その他	2.3%
13 したくない	8.8%
(無回答)	3.3%

多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこととしては、「気軽に話をする」(40.4%)が約4割と最も高く、次いで「地域の日本人との話し合いを行う」(36.6%)が3割台半ばを超え、「地域の日本人との交流や、イベントを企画する」(33.0%)が3割台半ば近くとなっている。

平成27年度と比較すると、順位の入替わりはあるものの、平成27年度と今回調査で上位5位は同様である。今回調査で「気軽に話をする」は6.3ポイント増加、「地域の日本人との交流や、イベントを企画する」は約5ポイント増加している。(図表5-4)

図表5-4 多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと(複数回答)
/平成27年度との比較



(注) ※1は今回調査で新設した項目である。

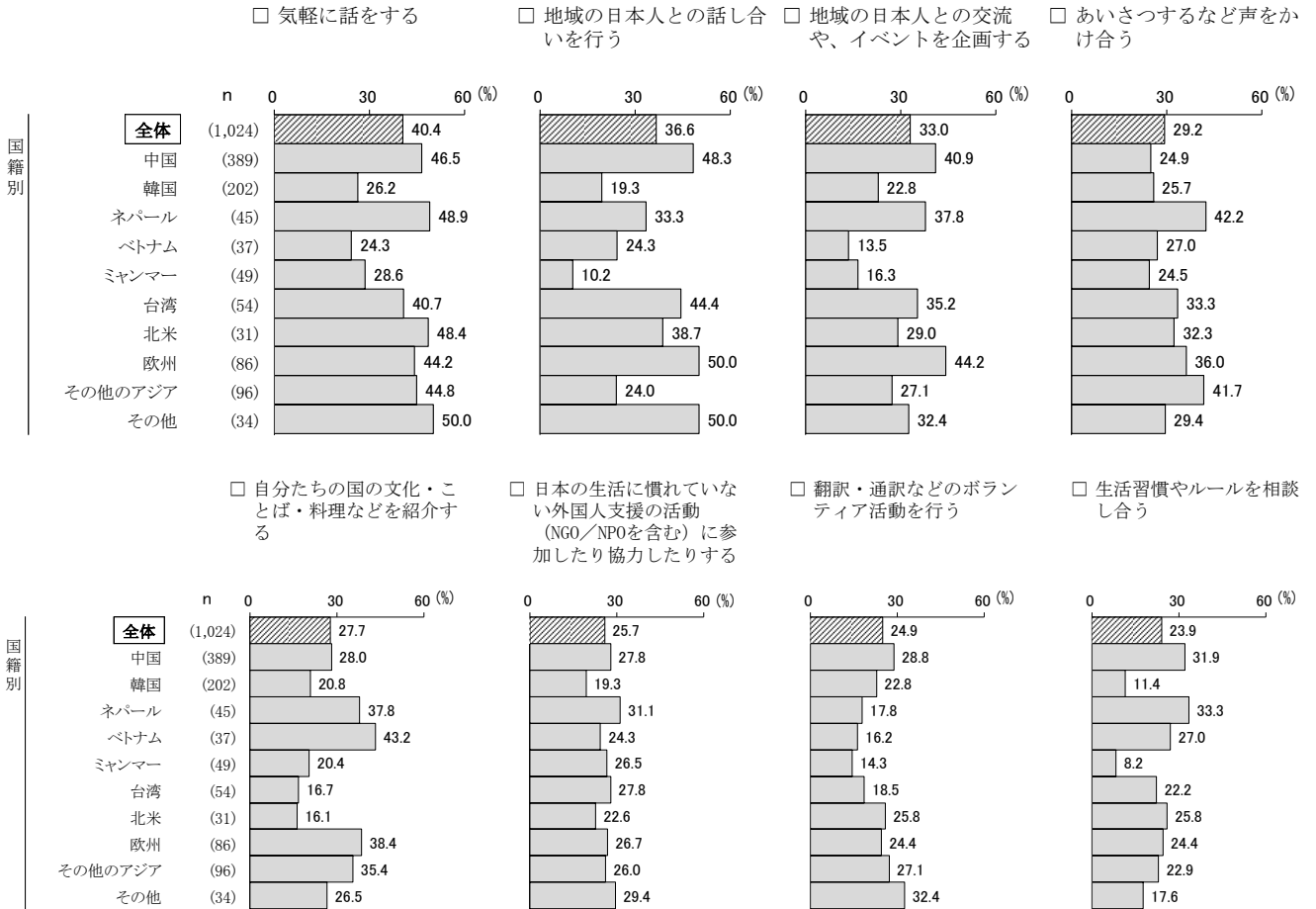
◆「その他」の記述(令和5年度)

日本文学セミナーや活動[3人]、特にない[2人] など

【国籍別】

「気軽に話をする」は“その他”が5割と高く、“ネパール”と“北米”が5割近くとなっている。「地域の日本人との話し合いを行う」で“欧州”と“その他”がともに5割となっている。(図表5-5)

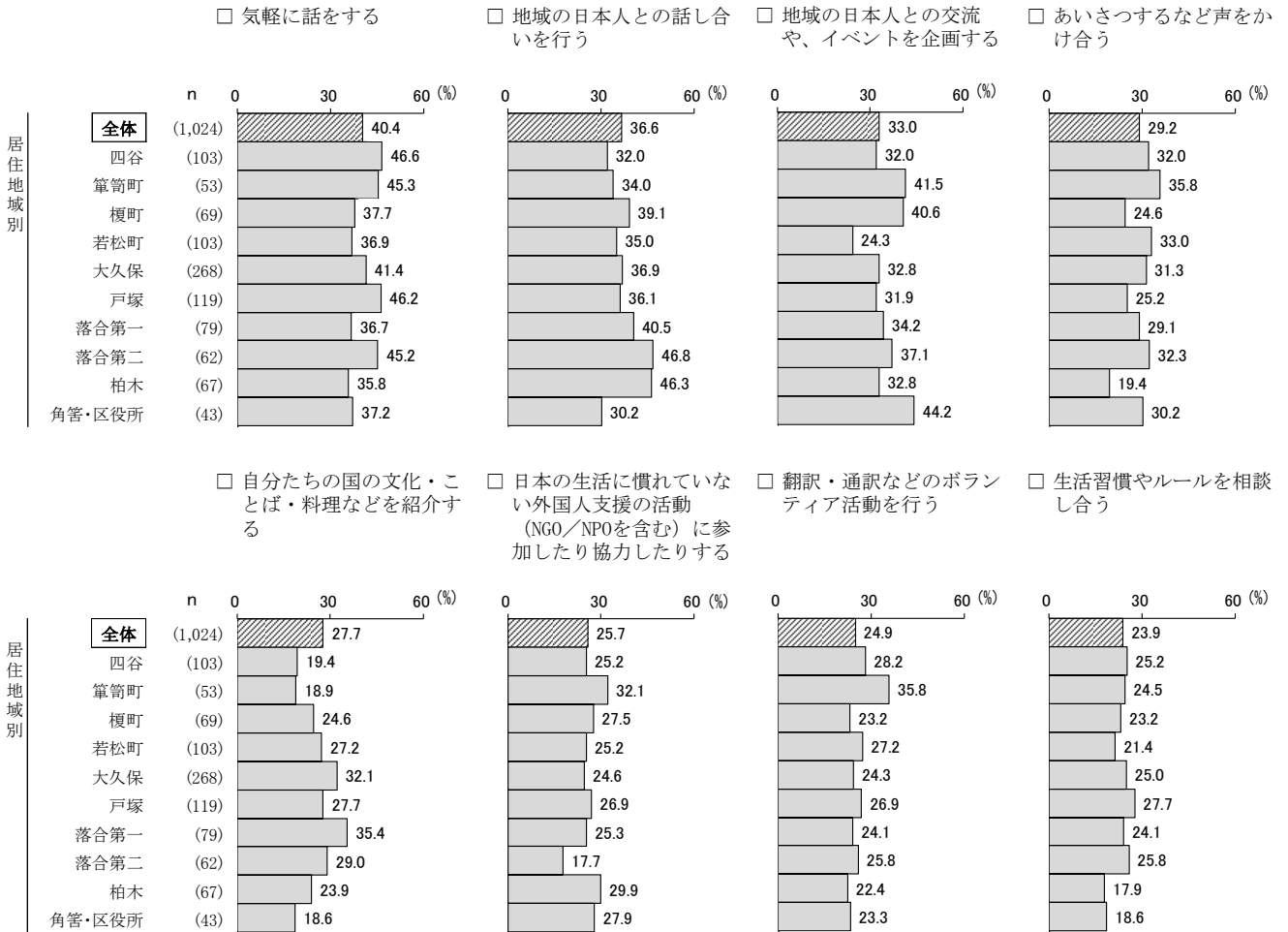
図表5-5 多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと《国籍別》(上位8項目)



【居住地域別】

「気軽に話をする」は“四谷”が4割台半ばを超え最も高く、“箕箭町”、“大久保”、“戸塚”、“落合第二”も4割を超えている。「地域の日本人との話し合いを行う」では“落合第二”と“柏木”が4割台半ばを超え高くなっている。(図表5-6)

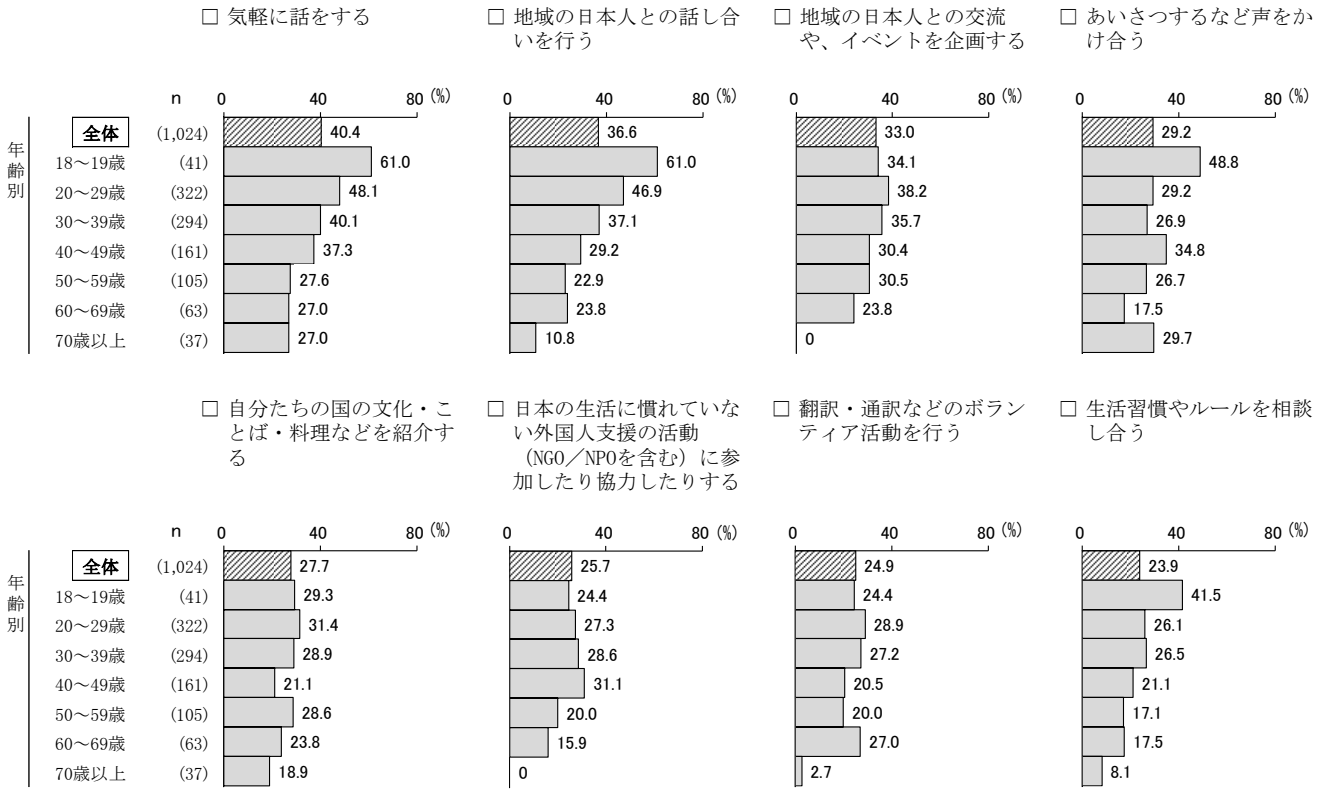
図表5-6 多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと《居住地域別》(上位8項目)



【年齢別】

「気軽に話をする」、「地域の日本人との話し合いを行う」、「生活習慣やルールを相談し合う」でおおむね年齢が上がるほど低くなっており、「気軽に話をする」と「地域の日本人との話し合いを行う」は「18～19歳」で6割強と高くなっている。(図表5-7)

図表5-7 多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと《年齢別》(上位8項目)



(4) 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が進めるべきだと思うこと

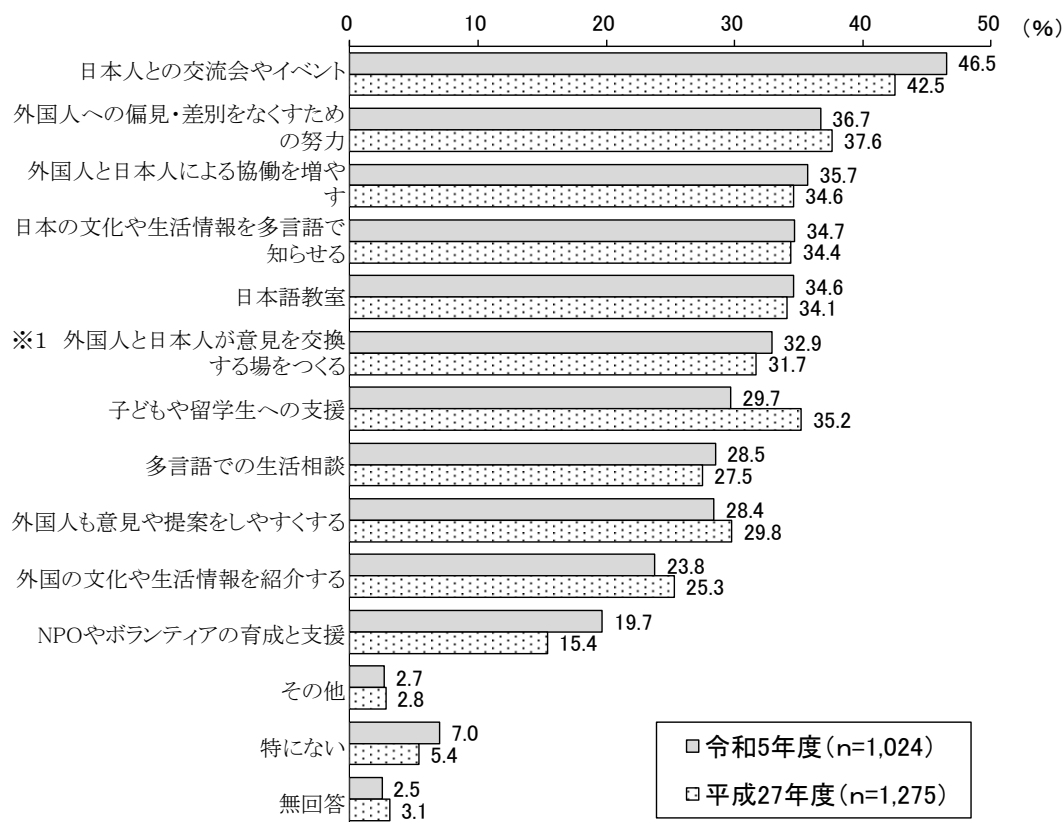
◇「日本人との交流会やイベント」が4割台半ばを超えて最も高く、「外国人への偏見・差別をなくすための努力」が3割台半ばを超える

<p>問29 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、今後の区の対応として、どのようなことを進めるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)</p> <p>[n=1,024]</p>	
1 日本人との交流会やイベント	46.5%
2 日本の文化や生活情報を多言語で知らせる	34.7%
3 外国の文化や生活情報を紹介する	23.8%
4 多言語での生活相談	28.5%
5 日本語教室	34.6%
6 外国人と日本人が意見を交換する場をつくる	32.9%
7 外国人と日本人による協働を増やす	35.7%
8 NPOやボランティアの育成と支援	19.7%
9 外国人への偏見・差別をなくすための努力	36.7%
10 子どもや留学生への支援	29.7%
11 外国人も意見や提案をしやすくする	28.4%
12 その他	2.7%
13 特にない	7.0%
(無回答)	2.5%

多文化共生のまちづくり推進のために区が進めるべきと思うことは、「日本人との交流会やイベント」(46.5%)が4割台半ばを超え最も高く、次いで「外国人への偏見・差別をなくすための努力」(36.7%)が3割台半ばを超え、「外国人と日本人による協働を増やす」(35.7%)が3割台半ばとなっている。

平成27年度と比較すると、「子どもや留学生への支援」が5.5ポイント減少している。(図表5-8)

図表5-8 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が進めるべきだと思うこと(複数回答)
／平成27年度との比較



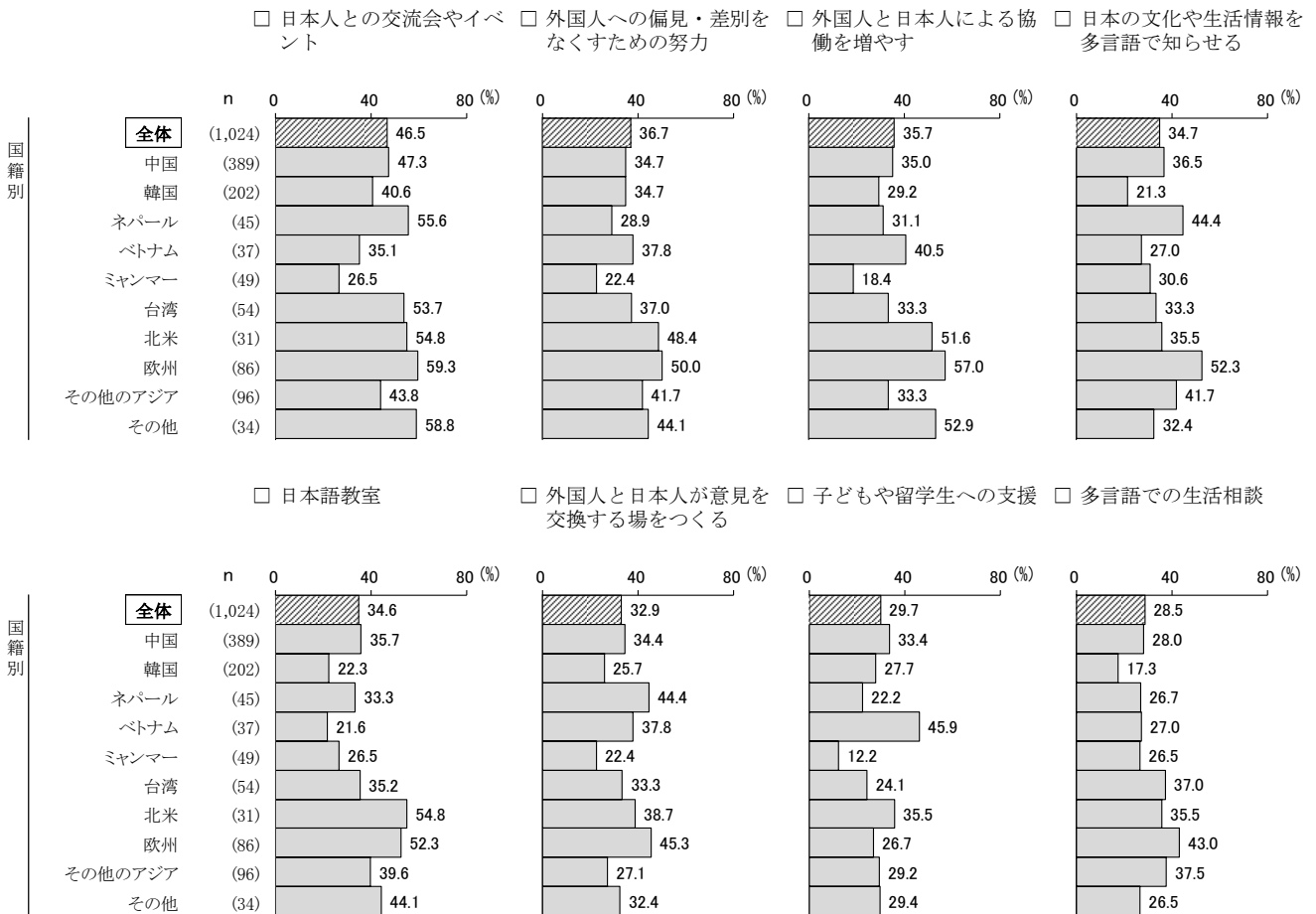
(注) ※1「外国人と日本人が意見を交換する場をつくる」は平成27年度調査では「外国人と日本人が意見を交換」であった。

【国籍別】

「日本人との交流会やイベント」は、“ネパール”、“台湾”、“北米”、“欧州”、“その他”で5割を超えている。「外国人と日本人による協働を増やす」でも“北米”、“欧州”、“その他”は5割以上と高くなっている。また、「子どもや留学生への支援」では“ベトナム”が4割台半ばと他の国籍より高くなっている。(図表5-9)

図表5-9 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が進めるべきだと思うこと《国籍別》

(上位8項目)



(5) 参加したいと思える交流会・イベント

◇「盆踊りなど地域で開催されるお祭り」が4割台半ばを超え最も高い

◇交流方法は、「対面」と「どちらでも」が4割台半ば

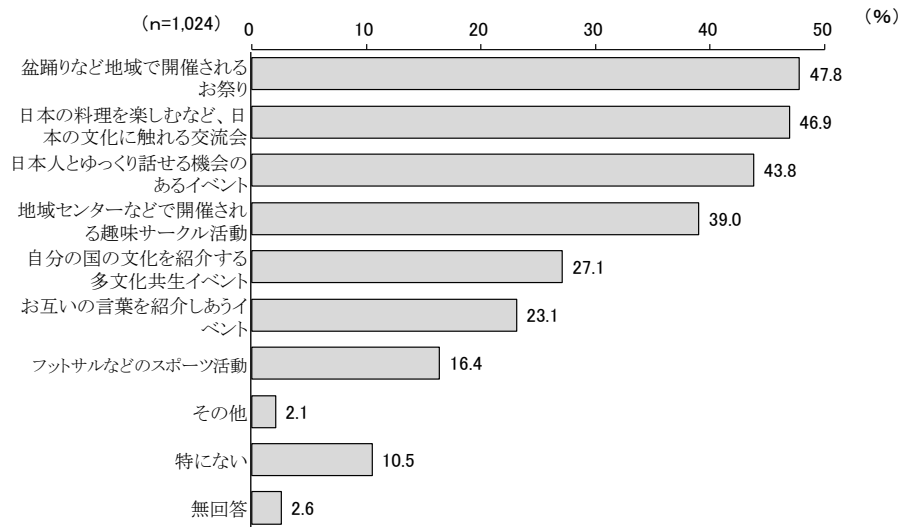
<p>とい さんか おも こうりゅうかい いべんと 問30 参加したいと思える交流会・イベントはどのようなものですか。(○はいくつでも)</p>			
<p>[n=1,024]</p>			
1	ぼんおど ちいき かいさい まつ 盆踊りなど地域で開催されるお祭り	47.8%	
2	ちいきせんたー かいさい しゅみさーくるかつどう 地域センターなどで開催される趣味サークル活動	39.0%	
3	ふつとさる すぽーつかつどう フットサルなどのスポーツ活動	16.4%	
4	にほん りょうり たの にほん ぶんか ふ こうりゅうかい 日本の料理を楽しむなど、日本の文化に触れる交流会	46.9%	
5	じぶん くに ぶんか しょうかい たぶんかきょうせい いべんと 自分の国の文化を紹介する多文化共生イベント	27.1%	
6	たが ことば しょうかい いべんと お互いの言葉を紹介しあうイベント	23.1%	
7	にほんじん はな きかい いべんと 日本人とゆっくり話せる機会のあるイベント	43.8%	
8	た その他	2.1%	
9	とく 特にな	10.5%	
	むかいとう (無回答)	2.6%	
<p>とい こうりゅうほうほう 問30-1 どのような交流方法がいいですか。(○は1つだけ)</p>			
<p>[n=1,024]</p>			
1	たいめん 対面	45.2%	3 どちらでも 45.2%
2	おんらいん オンライン	5.6%	むかいとう (無回答) 4.0%

①参加したいと思える交流会・イベント

参加したいと思える交流会・イベントは、「盆踊りなど地域で開催されるお祭り」（47.8%）が4割台半ばを超え最も高く、次いで「日本の料理を楽しむなど、日本の文化に触れる交流会」（46.9%）が4割台半ばを超え、「日本人とゆっくり話せる機会のあるイベント」（43.8%）が4割台半ば近くとなっている。

（図表5-10）

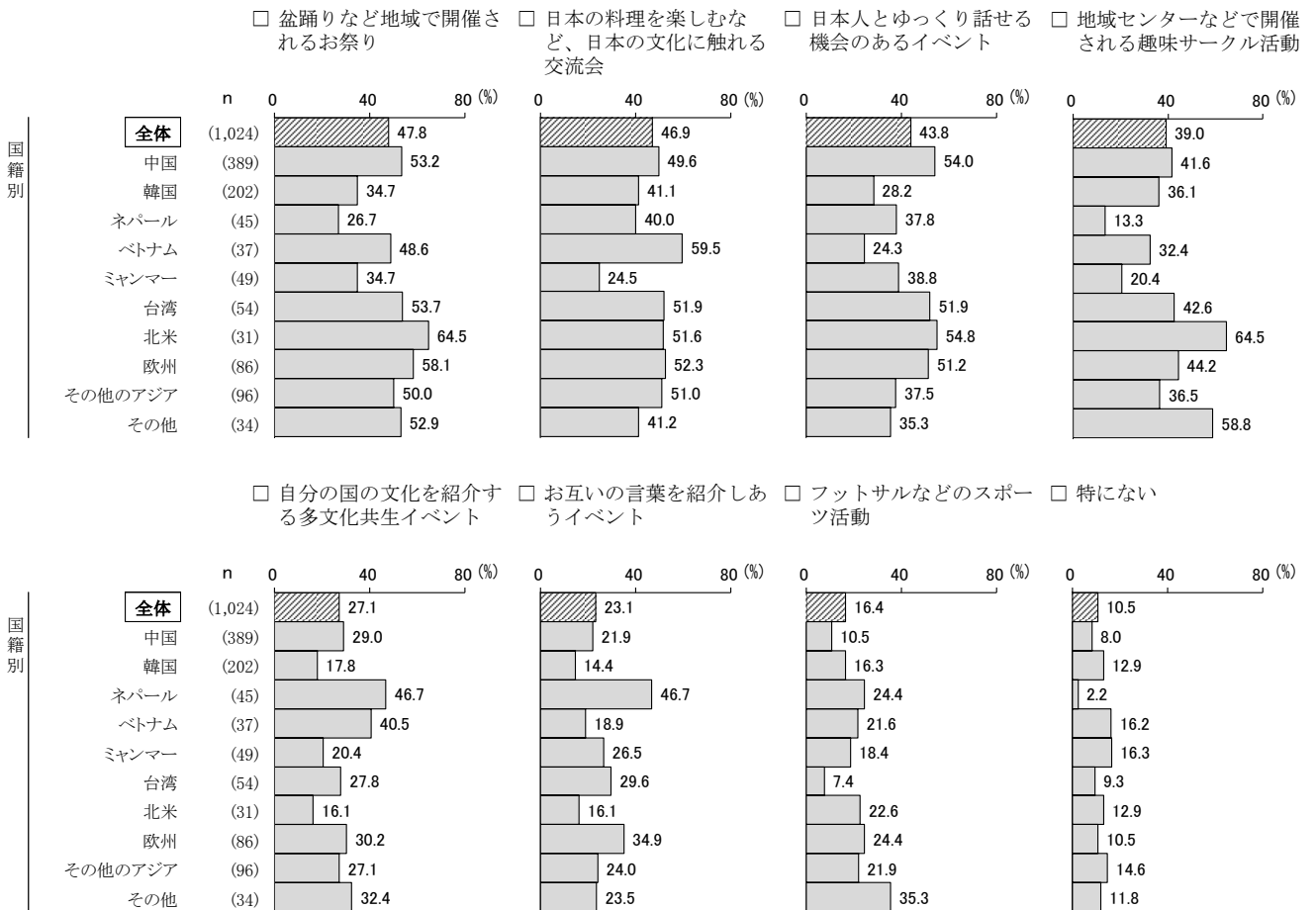
図表5-10 参加したいと思える交流会・イベント（複数回答）



【国籍別】

「盆踊りなど地域で開催されるお祭り」で“北米”が6割台半ば近くと最も高くなっており、“中国”、“台湾”、“欧州”、“その他”で5割を超えている。「日本の料理を楽しむなど、日本の文化に触れる交流会」は“ベトナム”が6割弱、「地域センターなどで開催される趣味サークル活動」は“北米”が6割台半ば近くとそれぞれ高くなっているほか、「自分の国の文化を紹介する多文化共生イベント」と「お互いの言葉を紹介しあうイベント」でネパールが4割台半ばを超え高くなっている。(図表5-11)

図表5-11 参加したいと思える交流会・イベント《国籍別》

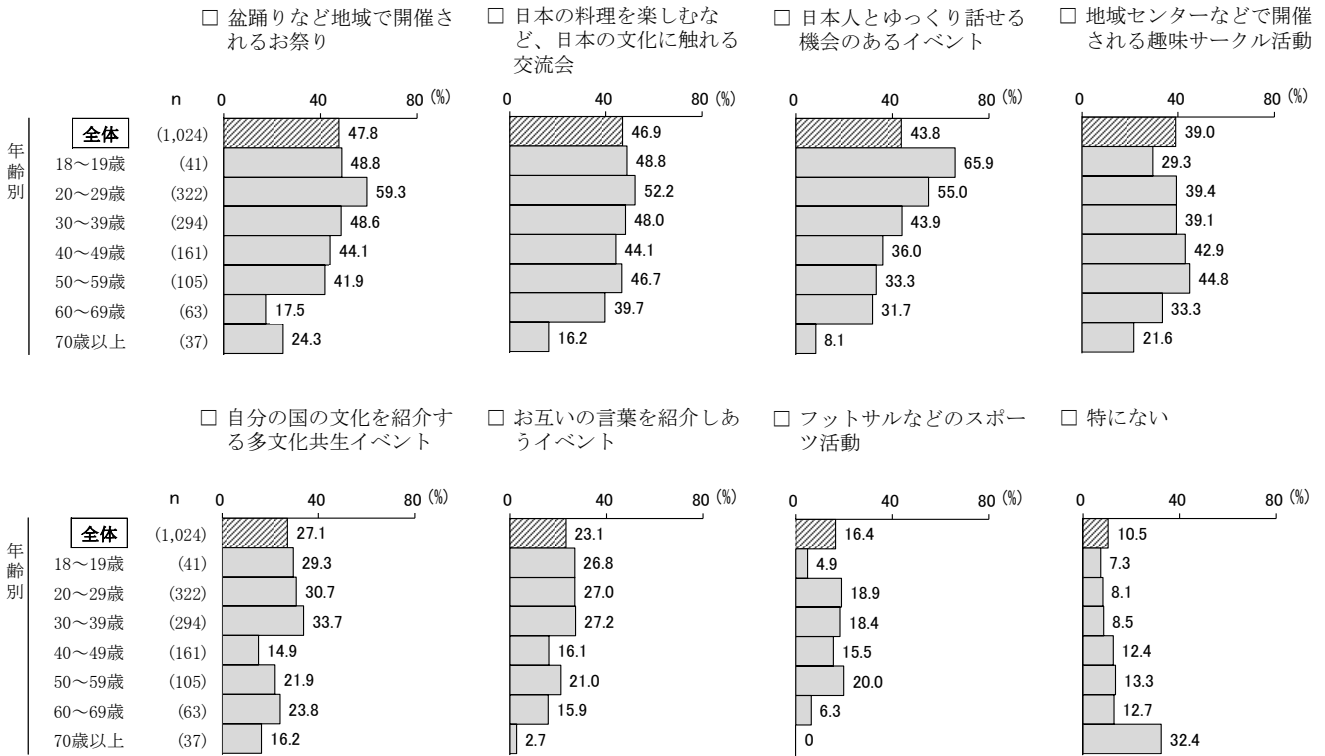


【年齢別】

「日本人とゆっくり話せる機会のあるイベント」で“18～19歳”が6割台半ばと最も高くなっており、年齢が上がるほど低くなっている。

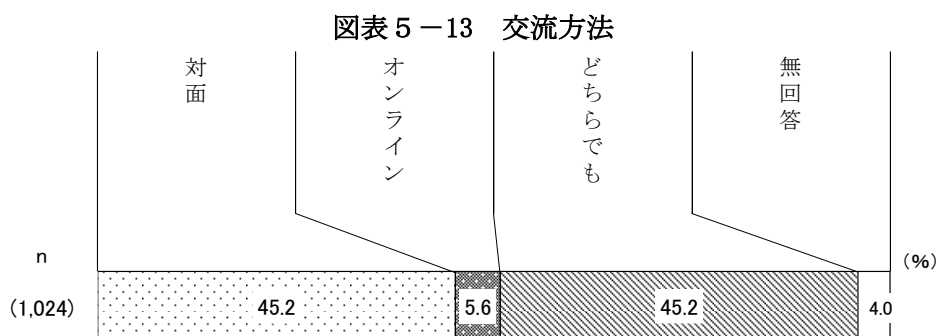
また、“20～29歳”が「盆踊りなど地域で開催されるお祭り」で6割弱、「日本の料理を楽しむなど、日本の文化に触れる交流会」で5割強とそれぞれ高くなっている。(図表5-12)

図表5-12 参加したいと思える交流会・イベント《年齢別》



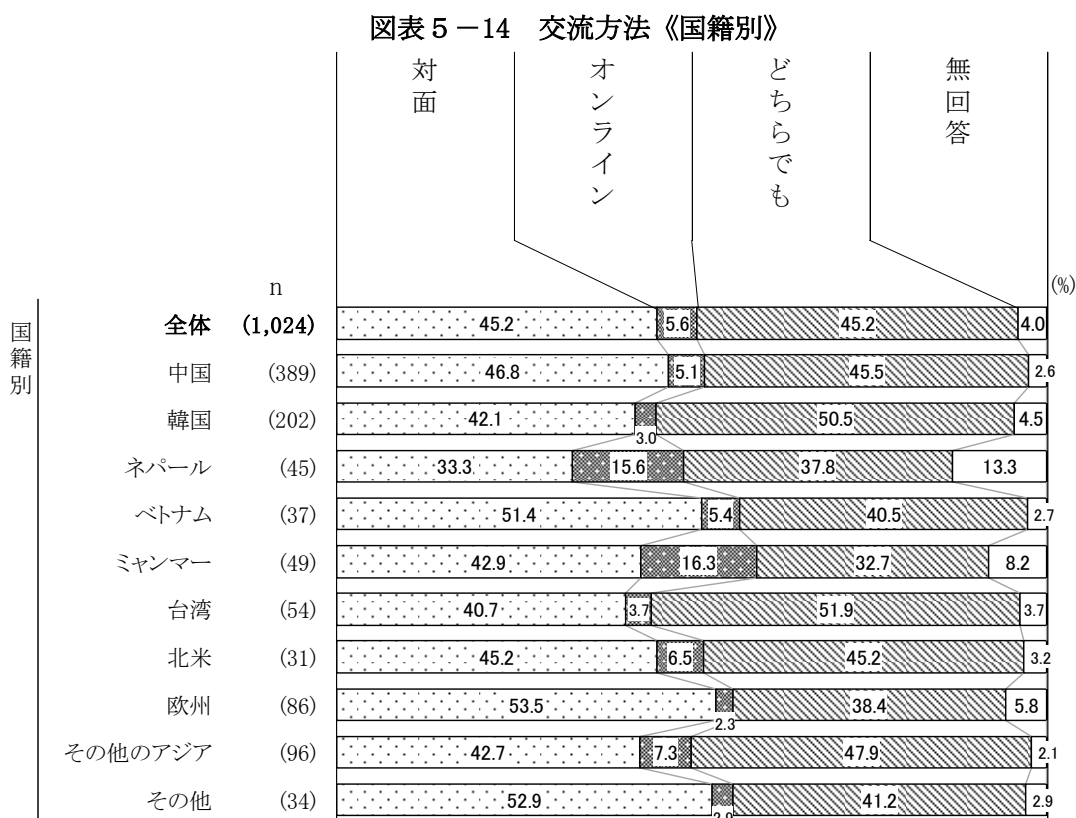
②交流方法

交流方法は、「対面」(45.2%)と「どちらでも」(45.2%)が4割台半ばとなっており、「オンライン」(5.6%)は1割未満となっている。(図表5-13)



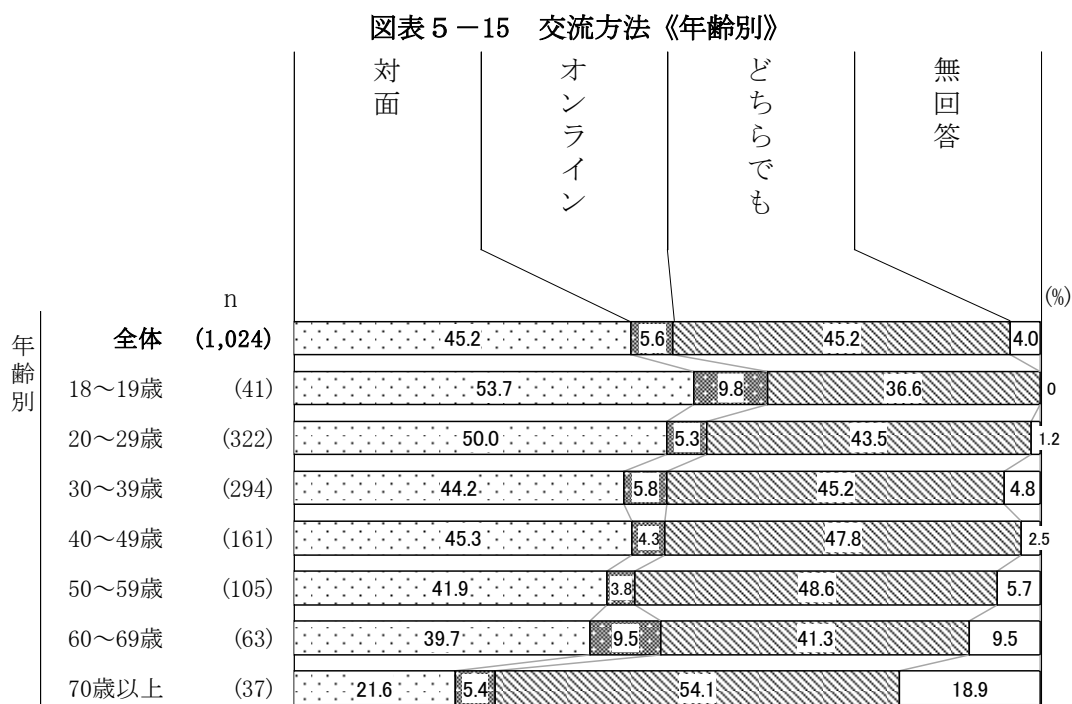
【国籍別】

“ネパール”を除くいずれの国で「対面」が4割以上となっている。「対面」は“欧州”が5割台半ば近くと最も高くなっている。また、「オンライン」は“ネパール”で1割台半ば、“ミャンマー”で1割台半ばを超え高くなっており、他の国籍では1割に満たない。(図表5-14)



【年齢別】

「対面」はおおむね年齢が上がるほど低くなり、「どちらでも」はおおむね年齢が上がるほど高くなっている。また、「オンライン」はいずれの年代も1割に満たない。(図表5-15)



6 居住地域

◇居住地域は「大久保」が2割台半ばを超え最も高い

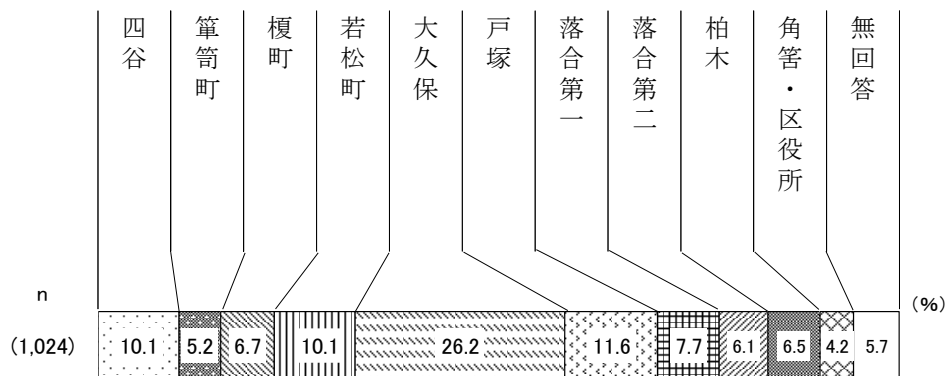
問31 あなたの住まいの地域を把握するため、封筒のお名前の右下にある1～10の数字を選択してください。(○は1つだけ)

[n = 1,024]

1	よつや 四谷	10.1%	5	おおくぼ 大久保	26.2%	9	かしわぎ 柏木	6.5%
2	たんすまち 筧町	5.2%	6	とつか 戸塚	11.6%	10	つのはずくやくしよ 角筧・区役所	4.2%
3	えのきちょう 榎町	6.7%	7	おちあい 落合第一	7.7%		むかいとう (無回答)	5.7%
4	わかまつちょう 若松町	10.1%	8	おちあい 落合第二	6.1%			

調査回答者の居住地域は、「大久保」(26.2%)が2割台半ばを超え最も高く、次いで「戸塚」(11.6%)が1割強となっている。(図表6-1)

図表6-1 居住地域



7 自由回答（抜粋）

アンケート項目以外でも伝えたいことや新宿区の多文化共生を推進するために必要だと思うことなど、あなたのご意見を、自由に書いてください。

この設問に関して、いただいたご意見から抜粋して掲載する。

【日本（新宿区）での暮らしについて】

- ここが気に入っています。（男性／20代／ブラジル）
- 新宿区の神楽坂に住むのがとても気に入っています。できるならば、盆踊りや住民ボランティアの日本語教室に参加したいです。（女性／20代／スイス）
- 声をきいてくれてありがとうございます。すごく住み心地がよくて外国人としてはこんなにも住みやすい街をつくってくれてありがとうございます。（女性／20代／中国）
- 外国人のため、いろいろしてくれて、本当にありがとうございます。日本に来て、9年目です。日本の事が大好きで、ずっと日本に住みたいと思っています。（女性／20代／ベトナム）
- 私の留学生活はまもなく終わります。この間の皆様のサポートに感謝します。もし機会があればまた新宿に住みたいです。（女性／20代／中国）
- 新宿区は他の区に比べて何事も効率が高いので、新宿区が大好きです。（女性／20代／中国）
- 私は新宿エリアが大好きです。これからもこのような良いサービスを提供してください。お金に余裕があったら、ずっと新宿にいたいです。（男性／30代／タイ）
- 仕事の自由度が少ない。外国人にもう少しやさしいと良いと思う。（男性／30代／バングラデシュ）
- 日本のすべての都市を訪れるチャンスはまだないが、全体として日本での生活には満足しているし、日本人を尊敬している。（男性／30代／コートジボワール）
- 新宿区に住むのは2回目ですが、かなり外国の方が増え多文化が共生している印象を受けます。自分はまだ現役世代でこれから子育て、親の介護などの大きなライフイベントが待っているため、少しでも自分の子供が差別を受けることなく生活できる環境、親が日本人と平等に医療介護制度を受けられることを期待しています。そのほかの新宿区に住んでいる外国の方も同様に生活しやすいよう望みます。（女性／30代／中国）
- 新宿のサービスとサポートは最高だと感じています。区役所の職員は親切で丁寧です。ここに住むことを大変楽しんでます。しかし、特に大久保の住宅地で非常に多くのバーや24時間の飲み屋が増えていることを心配しています。（女性／30代／カナダ）
- 新宿での暮らしが大好きです。（女性／30代／イタリア）
- 日本の社会全体がもっと進歩的になってほしい。（女性／30代／ロシア）
- 総じてこれまでの私の体験は非常に良いものでした。（女性／30代／イギリス）
- いつもお世話になっております。外国人にとって新宿区は最高です。今も十分いろんな情報やサービスがあります。今後も一緒に頑張りましょう！（男性／40代／韓国）
- 日本の行政、公共機関や人々は外国人にとっても友好的で、新宿区での生活はとても便利で楽しいです。（男性／40代／中国）

- 新宿区はサポートが充実していると思います。アンケートなどありがたいです。新宿区に住み続けていきたいです。(男性/40代/韓国)
- 年を取るにつれ、母国に戻るか、日本にずっと住み続けるか悩んでいる。日本で定住し(子供たちは日本居住)一生を終える場合、老後の生活が不安だ。文化と言語を尊重してくれる環境で老後を送りたい。(男性/40代/韓国)
- このような貴重な機会を与えてくれましてありがとうございます。日本で生活している中、マイノリティであることの辛さを学びました。外国人である上、日本人のステレオタイプに当てはまらない自分は、まるで罪を犯したような気持ちで毎日生活しています。(特に罪を犯した訳ではありませんが…)多分、この気持ちは私だけではなく、日本にいらっしゃる外国人の多くがこのように感じていると思います。特別良く扱われたい訳ではないのですが、「外国人」も人間なので、この国のみなさまと同じ気持ちをもつ同じ人間として扱ってくれるだけで十分だと思います。特に、悪さをしたくてこの国に来た訳ではないし、逆に穏やかに生活したいのですが、悪者扱いされているので、反発が多いのではないかと思います。この環境が少しでも良くなれば、ものすごく生活しやすい国になると思います。(女性/40代/ブラジル)
- できれば英語を少し勉強してほしい。(女性/40代/インドネシア)
- 私は新宿区が大変好きです。外国人が多く、区の施設は外国人に対しフレンドリーで、私が日本語を学ぶにもビザを申請するにも、新宿区の福祉関係のご担当者サポートいただけました。私は外国人への理解や友好的意識をより多くの方が身につけてくれるよう、お互いの動画を見ることを通して日本人と在留外国人の啓発につながることを願っています。動画はダイジェスト編集して情報発信ができます。また、日本人は対面だといつも表面的で距離を置き、実際の双方向のつながりができないからです。(女性/40代/中国)
- 新宿区は他のエリアと比べたら、いつもゴミが多いイメージがあります。多文化共生を推進する際に、ゴミ拾いのボランティアとかしてほしいです。もっときれいな新宿になってほしいです。(女性/40代/中国)
- スポーツセンター(子供と大人みんなが利用できる)がもっとあればいいと思います。利用者比べ、スポーツセンターの数が少なすぎます。大人も子供も、習いたいスポーツをするのに、ずっと待合室で待っていないといけないのです。(女性/40代/韓国)
- 多文化を理解する人もいれば、理解していただけない日本の方もいます。数年、日本を離れ他の国で生活しました。(家族全員)去年帰国し、日本は変わったとしみじみ感じています。礼儀正しい日本ではなくちょっと大変な日本になったと感じ、悲しく感じています。でも日本が好きです。子供の教育には疑問を少し持っていますが、学校教育と私たち家での教育を合わせながらグローバルに育てていきます。どこの場所にもいい人、悪い人がいるからです。(女性/40代/中国)
- 健康のコスト、たとえば保険料がととても高い! 区民税がととても高い! 失業時には「前年の収入」システムは最悪です。(男性/50代/アメリカ)
- 心からの感謝の言葉以外、特に追記することはありません。日本語を教えてくれ、喜んで協力してくれたセンターに感謝しています。日本は住みやすい国で、人々も優しく、文化も素晴らしいです。子供たち、愛すべき家族、温かい親族がいるので、生涯住み続けたいです。(女性/50代/タイ)
- 日本人と遊ぶことはやってみると問題ないのですが、その Group にであうとか入るには、しきいがたかい場合もあります。まあ、それは日本人も同じらしいけど。もう一つは、日本人の「日本文化」の定義が狭すぎる。日本の美術、ジャズ、写真、囲碁、建築、文学には、素晴らしいものが多い。(男

性／70代／アメリカ)

○新宿区で提供されているたくさんサービスの感謝します。(女性／70代／アメリカ)

【暮らしに関するサポートについての意見・要望】

- 日本に来たばかりの人は日本語がぜんぜんできなくて、ポストに入るチラシなどはよくわからないことが多いので、国ごとの言葉で書いてください。(男性／10代／ベトナム)
- 地域出張所の中国語の電話番号を教えてください。日本語が必要ない仕事を提供してほしい。留学生に対しての何らかの支援があるといい。(女性／10代／中国)
- 全体的に新宿のサポートには満足しています。私のような外国人居住者の多くは、コミュニティをサポートしたり、地域のイベントに参加したりすることを望んでいると思います。(男性／20代／イギリス)
- 新宿区は都会の中の都会なので、特に外国人に慣れていない人も多いと思います。私も最初に来たとき、大久保あたりで新興宗教の人に大通りで声をかけられたことがあります。そういうリスクなどについての情報も発信すべきだと思います。(女性／20代／中国)
- 情報が載っているパンフレットよりも、多文化の多様な人々に向けたウェブサイト、SNS、ブログが必要だと思います。(女性／20代／アメリカ)
- SNSを活用し情報を発信してほしいです。(女性／20代／中国)
- 日本人と外国人の学生を含む支援グループを増やして欲しい。地域イベント情報(外国人参加の可否を含む)にもっとアクセスしやすくしてほしい。(女性／20代／イギリス)
- 新宿区が外国人住民に配慮するのは素晴らしいことだと思います。外国人は、ビザのこと、まともな仕事に就くこと、頼れる仲間を見つけることなど、多くの不安を抱えていることがほとんどなので、心療内科医や精神科医のボランティア協会があれば、うつ病やその他の苦悩と闘う人たちを助けることができるかもしれません。(女性／20代／ウクライナ)
- 区役所で書類を申請したり、発行してもらうとき、日本語が話せないでコミュニケーションがうまくいきません。日本語が話せないで、翻訳機で翻訳して見せますが、日本語で答えてくれるので、理解できません。聞き取れません。一緒に翻訳機を利用すれば、面倒で少し遅いですがもっと正確なコミュニケーションができると思います。でも、いつも頑張ってくれてありがとうございます。(女性／20代／韓国)
- 日本語学校の学生も交通費の優待を受けられるようにしてほしいです。(女性／20代／中国)
- こんにちは。幸運なことにアンケートが届き調査票に回答しましたが、支援をお願いしたいことがたくさんあります。まず新宿区役所、あるいは区の機関で手続きをする時に、差別的な態度を取られたことが何度もあります。他の区では決してそのようなことはなかったです。また、私は日本社会に溶け込みたいと強く思っているのですが、日本語ができないので、現在はずっとほぼ一人きりでいます。もし私とお話しただけの日本の方がいたら、サポートいただけると状況が良くなるのではと思います。現在私には日本にいる中国人と知り合うチャンネルもなくて、友人がほとんどいないので、気分が塞ぎ日本にいたくないというネガティブな気持ちになってしまうのですが、学校に行くには日本で生きていかないと行けないのです。ですから、新しい友人との出会いがあることを願っています。(女性／20代／中国)
- 収入のない留学生の生活支援を増やしてほしい。(女性／20代／中国)
- 外国人として日本語はまだ上手ではありません。でも自分の意見を述べる時、聞いてほしい。困る

- とき、正しいことを教えてください。(女性/20代/中国)
- 日本とネパールのお祭りのとき、歌手とか呼べたらみんな来てくれると思います。そのときに知ってほしいこと、仲良くできることを学んでいけるとと思います。それで日本人から考えることと外国人から考えることが少しでもできていくと思います。(男性/30代/ネパール)
 - 外国人が職を探すに際して大変なことが多いです。外国人がもっと仕事に就けるよう、サポートしてくれる場所や情報に意識を向けてくれればいいなと思います。(男性/30代/韓国)
 - 以前は中野区に住んでいて定期的にポスターがもらえました。中野区で行われるイベントや記事を記したポスターがポストに入っていてよく読んでいた。活動内容もよく知ることができた。だからメールボックスでもいいから広報してほしい。(男性/30代/中国)
 - 私は新宿が大好きで、他の場所には住みたくありません。このコミュニティで開催されるイベントなどの最新情報を多言語で入手できる単一の情報源があれば最高だと思います。コミュニティをより良くするために、できる限り参加したいし、協力したいです。(男性/30代/スウェーデン)
 - 生活費を抑えられるように、日本語が不得意で土地に馴染めない病気の留学生に、もっと多くの支援と働く機会を提供してほしいです。(女性/30代/中国)
 - 混在を地理的に維持し(外国人だけが住んでいる地域を作らない)、顧客の混在を可能にするビジネスや個人の取り組みを支援することが大切です。子供たちの出自をリスペクトしながら、日本語で教育することも重要です。多くの外国人は、彼ら自身、既に多文化性を持っています。(女性/30代/フランス)
 - ①わからない外国人に通訳、翻訳をボランティアしてほしいです。②誰でも参加できる無料の英語クラスを行ってほしいです。(女性/30代/ベトナム)
 - 外国人が日本に引っ越した時に、有益な情報が入った封筒を受け取れば良いと思います。もしくは入国前に、大使館からビザを受け取る際に情報を得られるのも良いでしょう。そうすれば到着後に速やかに活動に参加できます。(女性/40代/アイルランド)
 - 新宿は現在すでに外国人にとって住みやすいところですが、外国人のニーズに応える情報へのアクセスが向上すれば、さらに住みやすくなります。例えばウェブサイトにも、すでに外国人経験のある場所の情報をリンクするなど。(女性/40代/ドイツ)

【地域活動、交流イベント等のアイデア、参加意向】

- 毎月末にイベントを開催するのは素晴らしいアイデアだと思う。(男性/10代/カンボジア)
- 一緒にサッカーの試合を見るときか、サッカーをすとかお願いします。(男性/20代/中国)
- 日本の方と交流できるイベントについて、今日初めて知りました。ありがとうございます。住民登録の際にお伝えいただければより多くの人は関心を持つでしょう。(男性/20代/中国)
- 外国人が日本の人々と会って話す機会を作る。(男性/20代/ラオス)
- 人々が多文化イベントに参加するためには、日常生活が楽にできる必要があります。つまり、情報にアクセスしやすくすることです(多言語の高品質なウェブサイト)(男性/20代/フィンランド)
- このアンケートを受ける前、新宿区のイベントについてあまり知りませんでした。それからこのような情報をもっともらいたいです。SNSや郵便でもらえたらいいと思います。ありがとうございます。(男性/20代/メキシコ)
- イベントのお知らせを郵便受けに投函してもらえると、チェックしやすくていいかもしれない。(女性/20代/中国)

- 「バディ」プログラム（日本人と外国人のペアによるカジュアルな交流）、英語の情報を増やす。（女性／20代／ドイツ）
- 交流会などイベントの準備は皆で一緒にやるのがいいと思います。（女性／20代／中国）
- 私は留学生ですけど、自分の専門は映画・ドキュメンタリーで、私は自分の専門分野で強みをいかして新宿区の文化共生を推進してみたいと思います。（女性／20代／中国）
- 私は日本人と友だちになるならゲームをするなどが一番早いかも。若者におすすめ。一緒に遊ぼう。おもしろい。だからゲーム室の開設があるといい。（女性／20代／中国）
- 話したい日本人と外国人と一緒に話せる場をつくろう。（－／20代／中国）
- 現在私自身の職務の業務が多忙なためボランティア活動に参加できていませんが、もし困っている中国語ネイティブの方がいらしたら今後何らかの方法でお手伝いをしたいと思っています。ボランティアは日本語ネイティブ中心から外国語ネイティブで日本語を不自由なく話せる人も含めていく方向にした方が、より外国人に寄り添う支援ができるように感じます。より相手がどんなことに困難を感じているか、自らの文化、経験を通し共感できると思うためです。（男性／30代／台湾）
- 新宿には特に韓国人夫婦と子供が多いので、積極的に良い日韓関係のために韓国学校と日本の学校との交流が必要だと思います。（男性／30代／韓国）
- チャリティーや外国人と日本人の交流のために、地域ボランティアの活動を増やす。（男性／30代／香港）
- ボランティア活動についてもっと知りたい。（男性／30代／中国）
- 全体的に、新宿に暮らして素晴らしい時を過ごしました。もし参加できるイベントや活動があれば、さらに良かったです。私は日本語が流暢で（JLPTN1）、英語もほぼネイティブレベルですから、間違いなくコミュニティの役に立てるはずです。（男性／30代／インド）
- 私は、差別、人種差別、LGBTQ などについて、喜んでお話しします。神道について外国人に話すこともできます。（女性／30代／フランス）
- コミュニティを助ける活動に参加する。高齢者を訪問する。汚いエリアの掃除。お祭りへの参加。動物を引き取るボランティア。（女性／30代／チリ）
- 楽しく安全に様々な人と交流できればいいと思います。異文化理解セミナーやイベントなどで人がどんどん集まれば、国際的なコミュニティの中で皆が安心して生活できると思います。（女性／30代／イタリア）
- このような活動を行っていること知り、大変興味を持ちました。今後は積極的に参加していくようにしたいと思います。（男性／40代／タンザニア）
- 毎年恒例の多文化イベントを組織すると良い。災害、緊急事態、特別なイベント、お祭りなどの情報を SNS で拡散すると良い。（女性／40代／フィリピン）
- 外国人の日本語学習を奨励し、日本の文化と習慣を教える。コミュニケーションと理解は共生への鍵です。日本人は飲食が好きなので、多様なエスニックレストランやエスニックフードを通じた文化交流イベント、渋谷の代々木公園でやっているような文化フェスティバルを企画する。（男性／50代／イギリス）
- 新宿にはたくさんの LGBTQ も住んでおり、意識啓発が重要です。アート、食、交流などのイベントを行うコミュニティセンターがもっと必要です。（男性／50代／アメリカ）
- しんじゅく多文化共生プラザの活動や会合、相談などを水曜日だけでなく、カレンダーの赤い日や土日にも行うことができるといいと思います。（男性／50代／ミャンマー）

- ポルトガル語とスペイン語のボランティア通訳を時々しています。多言語対応に応じたNPOやNGOの活用があるとよいと思います。(女性/50代/コロンビア)
- 定期的な語学教室、料理教室、文化交流があるとよいと思います。異文化交流のコミュニティづくりを応援します。韓国語講師の資格を持っています。料理教室、韓国語教室など、様々な国の語学教室を開き、お互い交流を深められたらいいと思います。(女性/50代/韓国)
- 高齢者や子供を助けるボランティア活動に参加したいが、そういう機会をどこで見つければ良いかわかりません。(女性/50代/アメリカ)
- 情報交換のためのディナーか料理教室があれば楽しいと思います。(男性/60代/イギリス)

【日本語学習のニーズ】

- しんじゅく多文化共生プラザで無料の日本語講座を開講してくださって、ありがとうございます。(女性/20代/アメリカ)
- しんじゅく多文化共生プラザで日本語ひろばがあると知っているが、やはり外国人だから日本語で気楽に会話することはちょっと無理。時間もただ午後の1時間だけです。今まで何度も行きたかったが、間に合わなかった。(女性/20代/中国)
- 日本での生活当初、私が日本語を流暢に話せないと知ると、郵便局の職員は無言でコミュニケーションを拒否した。確かに、私が日本で出会った多くの日本人は、私の日本語を辛抱強く聞いてくれた。だんだん日本語が上手になったとはいえ、私が日本人と同じように日本語を話せないことを知り、温かい態度が冷たくなる日本人もいた。相手に失礼なことをされているような気がして、自分の日本語力にも苛立ちを覚えた。(女性/20代/中国)
- 現在は無料の日本語講座は対面で提供されていますが、将来は、忙しくて対面の講座に出られない住民のためのオンライン講座ができると良いでしょう。そうすれば仕事を終えてから講座を受けられます。(男性/30代/フィリピン)
- 日本はサービス業や教育に関してもっと頑張ってもらいたいです。日本語学校の教育にももっと力を入れて欲しいです。日本に来る前はとても日本が好きでしたが、日本に来てからは、まだ日本が好きではあるけれど、一部の日本人にはとても失望しています。(男性/30代/中国)
- 以前、そちらで日本語クラスを受講した外国人の一人として、このプログラムに費やして下さったすべての努力に感謝したいと思います。本当に感謝しています！日本語を学ぶ場所だけでなく、サポートやケアもよくしていただきました。そして、特にボランティアの皆さんに感謝したいと思います。彼らは素晴らしいです！(女性/30代/中国)
- 日本に来て間もない人たちは、言葉のレベルに関係なく、日本での生活をより快適にするために日本語を使い、コミュニケーションをとる練習をする必要があるからだ。(女性/30代/中国)
- 語学クラスは素晴らしいのですが、フルタイム労働者には合わない時間帯にしか開講されていません。ビザを取得するためにはフルタイムで働かなければならないのですが、ほとんどのクラスは日中なので通うことができません。私は教師として、平日は夜8時まで働いています。日本語を学ぶための週末クラスが少ないのが不満です。個人レッスンにお金を払うには高すぎます。また、私は耳が聞こえないので、日本語の手話を学びたいのですが、これも同じように時間的な問題があります。新宿の外国人支援システムは、日本で生きていくために働くという現実的な要件を認識していないように感じるので、孤立しているように感じます。(女性/30代/オーストラリア)
- 新宿文化センターの日本語教室に参加したことがあるのですが、無料とはいえ、参加者よりボランテ

ィアの数が圧倒的に少なく退屈でした。有料でももっと質の高い日本語教室があるといいのですが、今回のアドバイスを参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました！（女性／30代／中国）

- 言葉のクラスに関して、日曜日にも授業をやってもらいたいです。ほとんどのミャンマー人の休みは、日曜日が多いからです。言葉のクラスを通して、様々な国の文化を理解することができると思います。（男性／40代／ミャンマー）
- 外国人居住者にとっては、（良い）日本語教育が重要だと思いますし、貧しい外国人居住者にとっては、それは市によって提供されるかもしれません。しかし現在では、人々は自分自身のコミュニティ（家族、職場、学校など）を作り、見つけるようになってきている。高齢の外国人居住者が増え、彼らが必要とする資源や支援に、どのようにアクセスできるかが1つの課題になるだろう。（男性／40代／イギリス）
- 新宿区では、外国人のためにいろいろ努力していることを感謝しています。外国人にとって一番重要なことは言語だと思いますので、日本語教育を第一に取り組んでほしい。（女性／60代／韓国）

【多文化共生の取組に関する意見】

- 特にコメントはないが、多文化共生推進セクションの活動には大いに感謝している。（男性／20代／中国）
- お互いに理解し合うために、お互いの文化をもっと理解することが重要だと思います。（男性／20代／中国）
- 親愛なる日本の皆さん、私たちは皆さんの友人であり、同じ人間であることを理解してほしい。（男性／20代／パキスタン）
- 多様性の共生について言えば、新宿は東京の多様性を象徴する場所であると感じており、東京の外国籍労働者の多くはここでサービス業に従事している。顧客と発生するトラブルは一般的に「おもてなし」の面であり、この面でうまくやることができれば、日本人が外国人に持つステレオタイプをなくすことができると思う。日本にいる外国人労働者の名札を「脱国籍化」するのではなく、（例えば、セブンイレブンのように、外国人スタッフの名前をカタカナで表記したり、またはドン・キホーテのように、外国人スタッフの名札にその出身国の国旗を表示したりする形で、）労働者の外国人という身分を開示することができたら、まず外国人労働者としては、自分の仕事ぶりは母国のイメージにかかわっているとより自覚を持つようになるだろうし、それに日本人もその労働者が外国人であることが分かり、ある程度理解を示してくれるだろう。自分が「外国人」という身分だけでなく、母国をも代表している。新宿区内で働く外国人労働者に仕事の中でこのことを念頭に置いてもらえるように、新宿区役所としては、働きかけていくべきだと思う。（男性／20代／中国）
- 新宿区内で多文化共存を促進するには、日本人が多様な文化に対する理解を持つよう学校で教育するべきだ。新宿区が文化交流活動を催すことは良いことではあるが、参加者の大半は外国人に関心のある日本人や、外国人に対して良い感情を持っている日本人になってしまう。外国人に対して良い見方をしていない日本人は、こうした活動には参加しないだろう。この問題の持続的な解決としては、新宿区、そして日本における多文化共存促進のための、青少年に対する多様な文化への理解の促進から始めるべきである。（男性／20代／タイ）
- 外国人住民と日本人住民の平和的な生活と協力を促進するために最も重要なことは、有害な偏見や差別について人々を教育することだと思います。日本が好きで新宿に来た外国人が、日本人でないと

- いう理由だけで不当な扱いを受けると、落胆してしまいます。私たちは、日本の文化や制度を学び、尊重する努力を惜しまないので、判断するのではなく、明確な情報を提供し、手助けをすることが、関係者全員のためになると思います。(女性/20代/フィンランド)
- 私は、人々が私たちの違いを知り、また受け入れてくれることを願っています。肉体的な違いだけでなく、時には心の奥底にある違いも。判断せず、見守ること、それが社会に必要なことだと思う。(女性/20代/タイ)
 - 私は多文化共生というテーマに興味があります。「多文化共生」状況調査に係ることをもっと知ることができるチャンネルがあれば、外国人から言えば日本人との付き合いに対してもっと勇気を持つようになると思います。また、防災・地震対策についても私たちはあまり多くを知らないのもっと情報が欲しいと思います。(女性/20代/中国)
 - もっと英語が話せる人を増やした方が良いです。観光客も多いのだから日本の入り口としてもっと力を入れて欲しい。これは区の職員だけでなく、レストランや駅員なども含みます。(女性/20代/台湾)
 - 外国人に日本の文化、マナー、考え方をしてもらうための活動が必要かなと思っています。また、日本人に外国人の多様性も理解してもらう必要があります。お互いに社会における役割を理解し合うのが大事だとも思います。(男性/30代/中国)
 - 「日本人」と「外国人」は誤った二分法です。日本国籍を取得しても、人種・民族が異なっていれば差別は受けます。お互いの違いに重点を置くよりも(日本人でなくても)日本人同士として共通点を強調して人間関係の形成を推し進めるとよいでしょう。(男性/30代/アメリカ)
 - 質問項目を見ても多文化共生より同化政策の側面をより強く感じた。同化と多文化共生は似て非なるものなので、そういった基本的な考え方を本当の多文化共生といえるものに改めてほしい。偏見や差別をなくすための積極的な姿勢を区の公務員から感じない。それを改めるための研修を一度だけでなく定期的に受けさせるべき(学生を含む)。(男性/30代/韓国)
 - レストランで多言語でのメニューを提供したり、店で試着をしたりするときのルールや、娯楽業で抽選券の購入方法等々、店舗も多言語接客冊子を提供できるよう、外国語冊子サービスを進めるといいと思います。(男性/30代/中国)
 - 新宿に移住してきたからといって、何か大きな偏見を受けたり、ひどい偏見を受けたりすることはありませんが、小さな偏見が一日のうちにたくさん起こり、それが積み重なって、ここで生活することに疲れを感じる場合があります。私が一番伝えたいことは、外国から多くの人が移民として日本に来ているということです。彼らは休暇で来ているのではなく、定住して残りの人生をここで生きることを決めているのです。ここは私の故郷ですから、私はコミュニティの一員でありたいと思っています。清潔を保ち、手伝いをし、お祭りに参加する。今、新宿区民の8人に1人が外国人であるにもかかわらず、彼らがリーダーシップを発揮し、尊敬される立場にいるのを目にすることはほとんどない。これが私にとっての多文化共生なのだ。(男性/30代/アメリカ)
 - 言語能力を上達させること。区の行事などで外国人も参加できるように招待すること。(男性/30代/ミャンマー)
 - お互いの文化について話したり学んだりする機会がもっと必要だと思う。日本人の中には外国人と接する機会が少なく、偏見を持っている人がいるかもしれないので、対話はとても大切だと思う。また、外国人の中には日本の考え方や習慣を理解せず間違った行動をしてしまう人もいるので、日本人から注意点を教えてもらうとよいと思う。(女性/30代/イタリア)

- 新宿区には多くの大学があり、留学生も多い。若者の熱意や新しいメディア技術などの知識を生かし、多文化交流をより促進するために、大学、小中学校、行政機関の連携ルートを確立できないだろうか。(女性／30代／中国)
- 多文化共生の前提は治安だと思います。治安がよかったら知らない人と何か一緒に活動して共に新宿区での生活を楽しめる。(女性／30代／中国)
- 外国人と日本人と差別がないようになってほしいです。お互いの文化をわかるようになってほしいです。(女性／30代／ミャンマー)
- 細かいと思いますが、住んでいる年数、目的によって共生の仕方も変わると思います。5年以下住んでいる人だったら、日本の社会ルールが町の人とのつき合いとか一般的なやり方でいいと思います。しかしずっと住む予定の人だったら税金の話、外国人が知らない日本の暗黙的なルールとか、学校の生活とか接してからわかるようなことが多いです。いろいろな話を素直に教えてくれる機会があったらいいと思います。(女性／30代／韓国)
- 国籍に関係なく、人々がお互いに出会うのを助けるものは何でも、社会的孤立を減らし、コミュニティを向上させるだろう。(男性／40代／スペイン)
- 多文化共生よりも日本のよさ、日本の文化を教えて外国のよい文化だけを推進すべきだと思う。でも外国人へのコンプレックスはやめてほしい。何か問題があると外国人だからと言われたくない。日本の文化に外国人が合わせることは大切だと思う。(男性／40代／フランス)
- 新しい友達(特に日本人の友達)を作るのはとても難しい。(男性／40代／オーストラリア)
- 特別な問題がない限り、今の時代、特に新宿で多文化共生を推進する必要はないと思う。新宿は日本人居住者にとってはかなり流動的な地域です。ここに日本人居住者のまとまったコミュニティがあるのだろうか？(男性／40代／イギリス)
- 外国人、とりわけ留学生にとって、最も大きな問題と言えるのは、やはり自己閉鎖的になる内に閉じこもってしまうことです。友達ができづらく孤独感が強まってしまうことは、主要なメンタル面の問題かもしれません。より多くの人(留学生)が主体的に日本の文化を理解し、溶け込むことができ、慣習、スポーツ、芸術など含め多様な分野を通じて、理解や関心を深め、交流の機会が自然と増えていくと良いと思います。それにより、徐々に外国人が日本及び日本が象徴する価値観を共有して、日本社会に役立てる存在になれるのではないのでしょうか。(男性／40代／中国)
- 外国人と日本人の性格は違うので、必要に応じた環境を作ることが必要。(男性／40代／ネパール)
- 新宿は多文化が共存する良い街だ。役所や施設の情報やサービスは、誰もが利用できるように簡素化されるべきである。(男性／40代／イギリス)
- 新宿区との外国の姉妹都市をたくさんつくり、新宿区内に居住する出身国の外国人を活用し、日本人区民とで盛り上げられると思います。そこから偏見も減り、区も豊かになると思います。(男性／50代／韓国)
- 新しい時代に合った多文化共生が当たり前の環境が小さい時からあること。多くの伝聞よりも1つの実体験。教育、機会の提供、環境整備。(女性／50代／韓国)
- 多文化共生を推進するためには多文化への関心がないと一歩も前に踏み出せないと感じています。関心を持つことで多文化を理解し合え、ここには差別や偏見の利害関係が発生しづらくスムーズな共生社会が自然にできていくと感じます。(女性／50代／韓国)
- 30年前、新宿区の印象は、歓楽街と外国人が出稼ぎのために来る場所に過ぎなかった気がします。これからは、東京都心にある新宿区は、変化が必要だし、変えていくべきなのですが、未だに、役所

で働く人たちは、外国人の名前すら日本式で呼び、正式なハンゲルをわかっていません。30年も経過したわけですから、役所、学校、教会、行政に携わる人は、もっと先進国の公務員らしく、学を積み、謙虚になることから学ばなければならない。新宿区は、外国人が作る社会だから。(女性/60代/韓国)

- すべての人が共生社会づくりをめざして、民族の違いを尊重しあう新宿区になってほしいです。(男性/70代/韓国)
- 区としてヘイト禁止条例、外国人の区政参加を促す対策など、根本的な施策が必要だと思う。互いに理解、交流せよと言われてもヘイトデモなどが行われているようでは不安、恐怖が先立ち閉じこもりがち、同国人のみの範囲で生活しがちになるのでは。(女性/70代/ー)

【今回のアンケート調査に対して】

- このようなアンケートを集計する事は良いことではあるし、新宿区としてこのような取り組みに熱心である事は十分伝わってはいるが、この質問に対し、すべての項目に対してしっかり取り組む人は何人ぐらいいるか疑問である。途中で疲れて適当に回答したくもなるし、おそらくしっかりとした回答が外国人から返ってこないのではないかと想定する。(男性/30代/韓国)
- 耳を傾けてくれてありがとう(男性/30代/中国)
- 外国人コミュニティの意見を聞く努力をしてくれてありがとう。これは、現在の日本に存在する異なる文化間の調和のとれたコミュニティを作るための重要な一歩だと思う。(男性/30代/スウェーデン)
- 外国人として特に中国人の私がこのようなアンケートをするのは初めてです。本当に実施するかどうかわかりませんが、それは人のために新宿区がいいことをやったと思います。日本で生活しづらかったけれど幸せだと思います。本当にありがとうございます。(男性/30代/中国)
- こういったアンケートはすごくありがたいのです。ただ、既に日本での生活で困っていない外国人として生活しておりますので、日本で生活する役所の支援を必要とする外国人向けのアンケートのように思え、どう答えるべきかなど悩む部分もあります。日本人とアンケート対象の外国人の更に中間の立ち位置にいる気がしています。なので、役に立てているか不安な感じです。(男性/30代/モンゴル)
- ありがとうございます。アンケートについては、質問をよく読み、辛抱強く回答しました。(男性/30代/セネガル)
- このアンケートの質問の多数が「日本人」と「外国人」がまったく区別できると前提してある。しかし3年ぐらい住んだ私は日本で(あるいは東京で)どのくらい住んでいたか、あるいはいろいろな人たちとどのくらい交流したかによる地域社会に関する理解が違っていると感じた。その面を考えてアンケートをつくったらいいと思う。でもいつもありがとうございます。よろしくお願いします。(女性/30代/韓国)
- ずっと新宿区に住んでいる外国人として、こんなアンケートや企画などを真剣に考えていただいて誠意がとても感じられています。義務としてもある税金納付なのですが、自分の税金がこういう形でも使われるのだと思いました。ありがとうございます。(女性/30代/韓国)
- このようなアンケートも外国人との交流や共生のことについて深く考えてくれるように感じられてとても感謝します。これからもよろしくお願いします。(女性/30代/韓国)
- 今年東京に引っ越して4か月なのであまり慣れていませんが、たくさんの情報が得られてとても助

かりました。ありがとうございました。(女性/30代/インドネシア)

- こうしたアンケートは大変有意義だと思いますので何年か後に行うと効果的だと思います。(男性/50代/韓国)

【その他】

- 外国人が住居を探すのがかなり難しい。日本人は外国人だと知ると貸してくれないので。(女性/20代/タイ)
- 日本に来て、住まいの近所で問題を感じたことはありません。偏見や不快感は大抵大企業や国のレベルからくるものです。例えば銀行での査定は外国人であるというだけで最低です。私はビジネスをしており、日本に外貨をもたらしているにも関わらず、密輸業者のように扱われます。(男性/30代/ジョージア)
- 環境は非常に重要ですので、新宿区の植樹と伐採、街路樹や植え込みの政策に関する情報がもっと欲しいです。(男性/30代/イギリス)
- 路上喫煙をどうにかしてほしいです。罰金制にするなど(隣の区のように)。(男性/30代/オーストラリア)
- 各家庭への案内が少ないと思います。また外国人も高齢な方も多くなっています。この辺の対策も必要ではないでしょうか。(男性/30代/中国)
- 今はネットで繋がれることと、ネットで調べられるため、特に必要と感じていません。活動する必要があるとしたら、来日したばかりの人や日本語が話せない人を重点的にすればいいかなと思いました。また、日本のマナーではないけれど、海外からみたら当たり前でないルールがあると思うので、そこをわかってもらえると、日本人も安心して暮らせるかなと思いました。(女性/30代/韓国)
- 同性結婚合法化。(女性/30代/中国)
- 日本が経済活動を維持するためには、多くの外国人を受け入れなければならない。そのためには差別をなくすことが重要だ。(女性/50代/フランス)
- 街中の各所にゴミ捨て場所を希望する。(女性/60代/韓国)
- 外国人が利用できる施設が非常に不足している。韓国人が立ち上げようとしている事業があるのだが、その人たちに、新宿から積極的な協力してほしいと思う。施設に行った場合、心配なことがあります。韓国人ができる場所があるといいと思います。いつも感謝しています。(女性/60代/韓国)

第2章 日本人住民調査

第2章 日本人住民調査

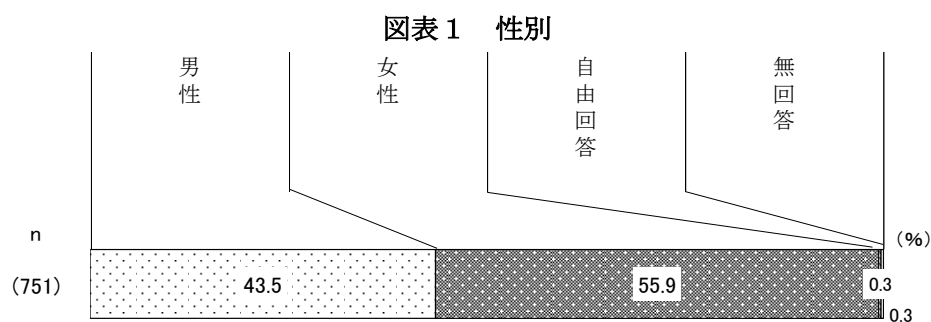
I 調査回答者の属性

(1) 性別

◇男性が4割台半ば近く、女性は5割台半ば

問1 あなたの性別は次のどれですか。(○は1つだけ)					
〔n = 751〕					
1	男性	43.5%	2	女性	55.9%
			3	(自由回答)	0.3%
				(無回答)	0.3%

調査回答者の性別は、「男性」(43.5%)が4割台半ば近く、「女性」(55.9%)が5割台半ばとなっている。(図表1)



(2) 年齢

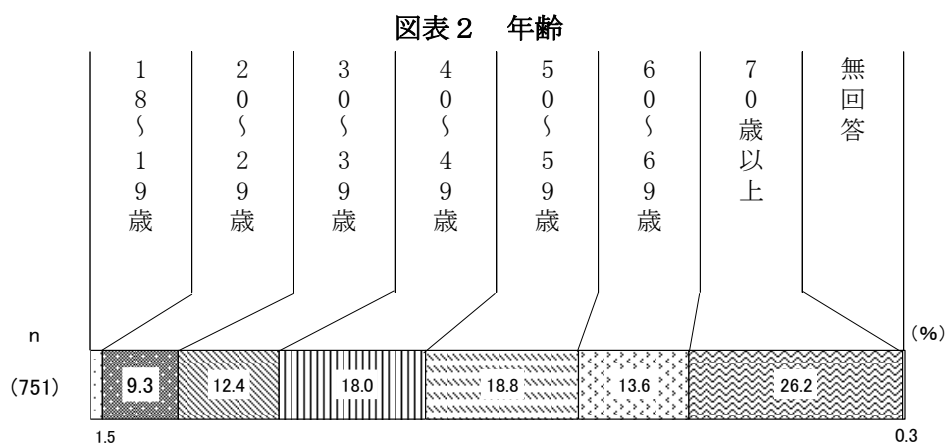
◇ 「70歳以上」は2割台半ばを超え、「50～59歳」と「40～49歳」が2割近く

問2 あなたの年齢は次のどれですか。(○は1つだけ)

[n = 751]

1	18～19歳	1.5%	4	40～49歳	18.0%	6	60～69歳	13.6%
2	20～29歳	9.3%	5	50～59歳	18.8%	7	70歳以上	26.2%
3	30～39歳	12.4%					(無回答)	0.3%

調査回答者の年齢は、「70歳以上」(26.2%)が2割台半ばを超え最も高く、次いで「50～59歳」(18.8%)と「40～49歳」(18.0%)が2割近くとなっている。(図表2)



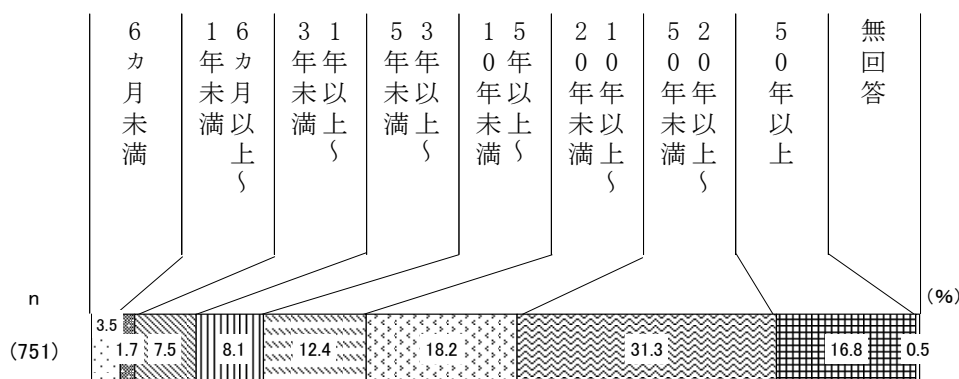
(3) 新宿での居住年数

◇ 「20年以上～50年未満」が3割強

問3 あなたは新宿区に住んで何年になりますか。(○は1つだけ)					
[n=751]					
1	6ヵ月未満	3.5%	6	10年以上～20年未満	18.2%
2	6ヵ月以上～1年未満	1.7%	7	20年以上～50年未満	31.3%
3	1年以上～3年未満	7.5%	8	50年以上	16.8%
4	3年以上～5年未満	8.1%		(無回答)	0.5%
5	5年以上～10年未満	12.4%			

調査回答者の居住年数は、「20年以上～50年未満」(31.3%)が3割強と最も高く、次いで「10年以上～20年未満」(18.2%)が2割近く、「50年以上」(16.8%)が1割台半ばを超えている。(図表3)

図表3 新宿での居住年数



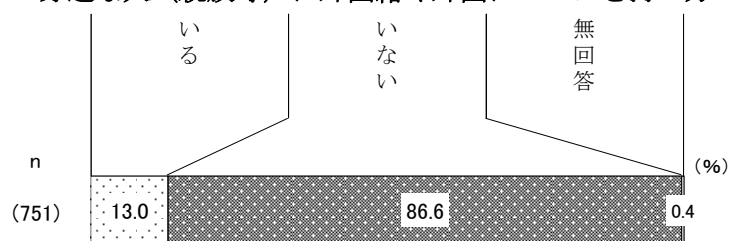
(4) 身近な人（親族等）に外国籍や外国にルーツを持つ方の有無

◇身近な人（親族等）に外国籍の方や外国にルーツを持つ方が「いる」は1割台半ば近く

<p>問4 あなたの身近な人（親族等）に、外国籍の方や外国にルーツを持つ方はいますか。 (○は1つだけ) [n = 751]</p>					
1	いる	13.0%	2	いない	86.6%
				(無回答)	0.4%

調査回答者で、親類に外国籍の方や外国にルーツを持つ方が「いる」(13.0%)が1割台半ば近く、「いない」(86.6%)が8割台半ばを超えている。(図表4)

図表4 身近な人（親族等）に外国籍や外国にルーツを持つ方の有無



◆「いる」と回答した人：その関係（自由記述）

叔父叔母・いとこ・姪甥・親類・その配偶者[25人]、配偶者・婚約者・元配偶者[13人]、友人・知人[12人]、配偶者の親・配偶者の兄弟姉妹[5人]、兄弟姉妹[4人] など

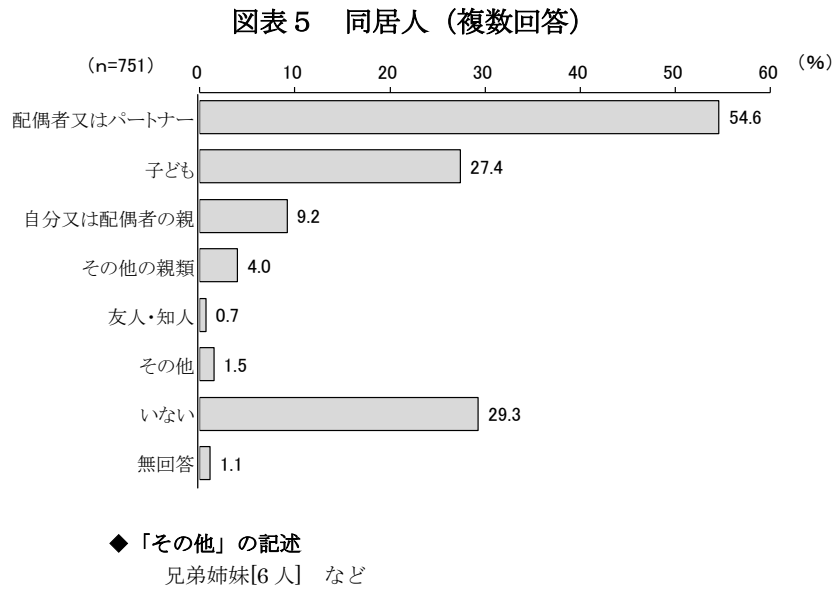
(5) 同居人

◇一緒に住んでいる人は「配偶者又はパートナー」が5割台半ば近くで最も高い

問5 あなたが現在一緒に住んでいる人はどなたですか。(○はいくつでも)			
〔n=751〕			
1 配偶者又はパートナー	54.6%	5 友人・知人	0.7%
2 子ども	27.4%	6 その他	1.5%
3 自分又は配偶者の親	9.2%	7 いない	29.3%
4 その他の親類	4.0%	(無回答)	1.1%
(問5で、「2 子ども」と答えた方に)			
問5-1 あなたのお子さんの年齢区分はどれですか。(子どもが複数いる場合は、当てはまるものすべてに○)			
〔n=206〕			
1 6歳未満	25.7%	4 16歳～18歳	15.5%
2 6歳～12歳	25.7%	5 19歳以上	45.1%
3 13歳～15歳	11.2%	(無回答)	0.5%

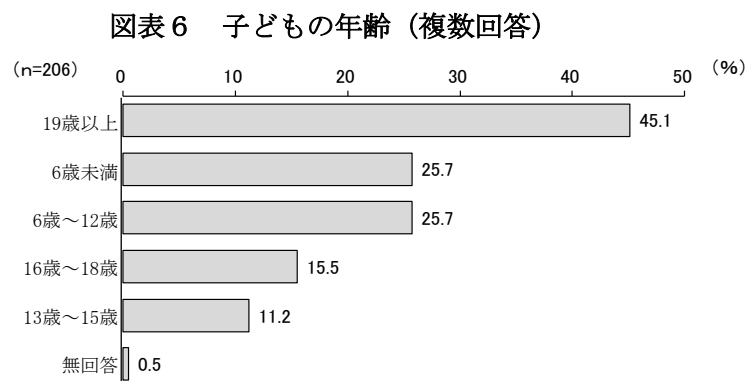
①同居人

調査回答者の同居人は、「配偶者又はパートナー」(54.6%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで「子ども」(27.4%)が2割台半ばを超えている。一方で、「いない」(29.3%)が3割弱となっている。(図表5)



②子どもの年齢

問4で、「子ども」が一緒に住んでいると回答した人の子どもの年齢は、「19歳以上」(45.1%)が4割台半ばで最も高くなっている。(図表6)

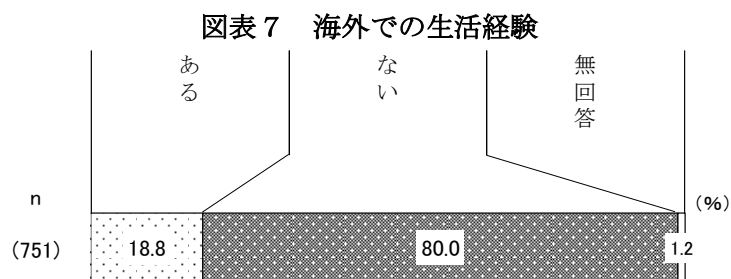


(6) 海外での生活経験

◇海外での生活経験が「ある」は2割近く

問6 あなたはこれまで海外での生活経験（3ヵ月以上）がありますか。（○は1つだけ）							
〔n = 751〕							
1	ある	18.8%	2	ない	80.0%	（無回答）	1.2%

調査回答者で、海外での生活経験が「ある」（18.8%）は2割近く、「ない」（80.0%）が8割となっている。（図表7）



Ⅱ 調査結果

1 暮らし

(1) 定住意向

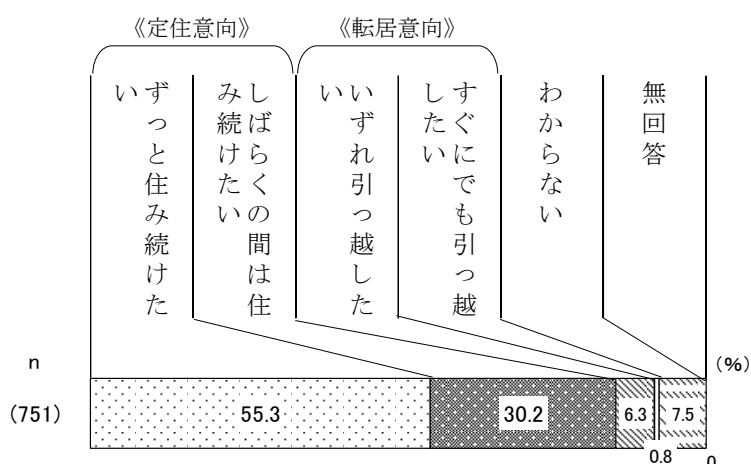
◇ 《定住意向》は8割台半ば

問7 これからも新宿区に住み続けたいですか。(○は1つだけ)					
〔n=751〕					
1	ずっと住み続けたい	55.3%	4	すぐにでも引っ越したい	0.8%
2	しばらくの間は住み続けたい	30.2%	5	わからない	7.5%
3	いずれ引っ越したい	6.3%		(無回答)	0%

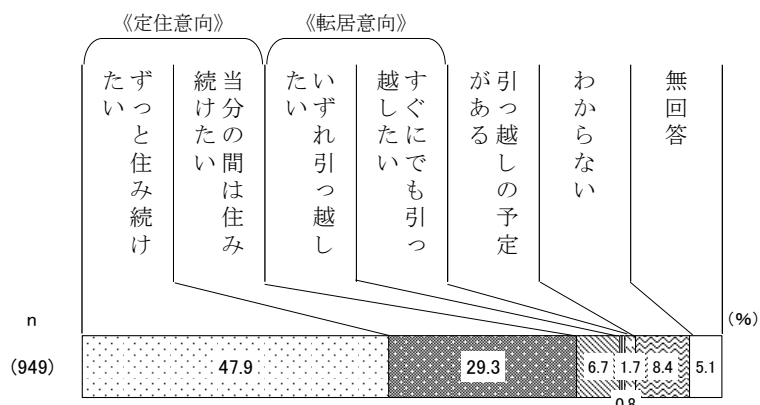
定住意向は、「ずっと住み続けたい」(55.3%)が5割台半ばで最も高く、次いで「しばらくの間は住み続けたい」(30.2%)が約3割である。これらを合わせた《定住意向》(85.5%)は8割台半ばとなっている。一方、「いずれ引っ越したい」(6.3%)と「すぐにでも引っ越したい」(0.8%)を合わせた《転居意向》(7.1%)は1割に満たない。(図表1-1)

平成27年度にも同様の設問を聞いているが、項目の内容を変更しているため、参考として掲載する。(図表1-2)

図表1-1 定住意向



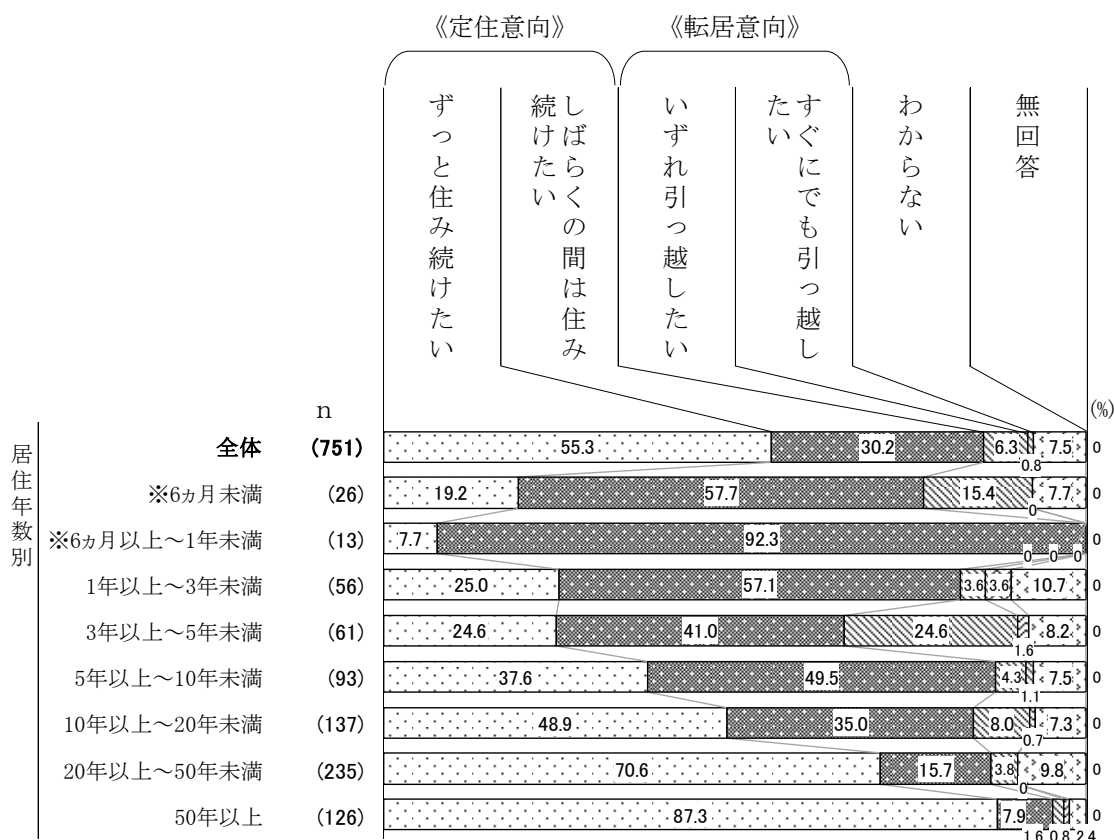
図表 1-2 (参考) 平成 27 年度



【居住年数別】

「ずっと住み続けたい」は、おおむね居住年数が長いほど増加しており、“50年以上”で8割台半ばを超えている。《定住意向》としてみても、“50年以上”が9割台半ばと最も高くなっている。一方、“3年以上～5年未満”で“いずれ引っ越したい”が2割台半ば近くとなっている。(図表 1-3)

図表 1-3 定住意向《居住年数別》

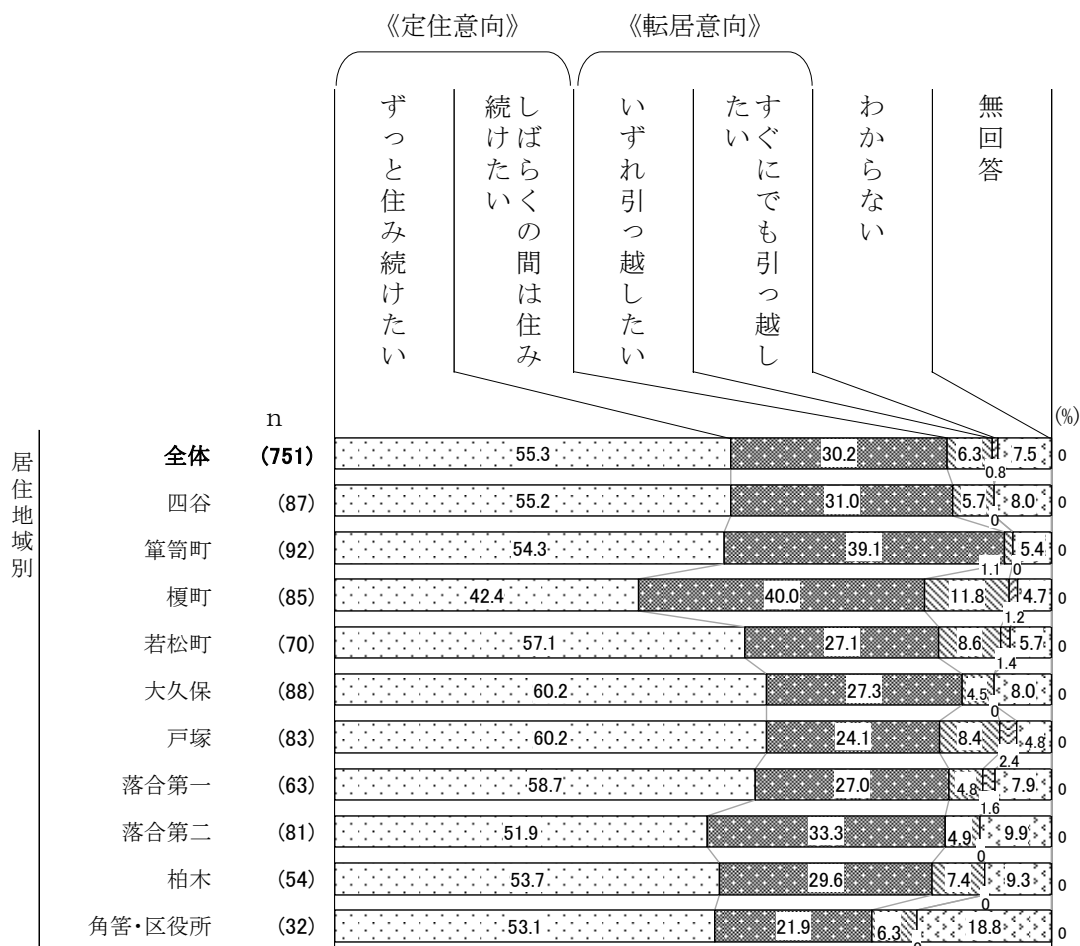


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【居住地域別】

《定住意向》は、“角筈・区役所”以外で8割を超えており、“箆笥町”で9割台半ば近くと最も高くなっている。しかし、“榎町”で「ずっと住み続けたい」が4割強と他の地域と比べて低く、《転居意向》も1割台半ば近くと他の地域より高くなっている。(図表1-4)

図表1-4 定住意向《居住地域別》



(2) 外国人増加の実感

◇身近に外国人が《多いと感じる》(「多いと感じる」「ある程度は多いと感じる」の合算)は6割台半ば近く

◇外国人が多いと感じる時は、「通りで外国人をよく見る」が9割近くで最も高い

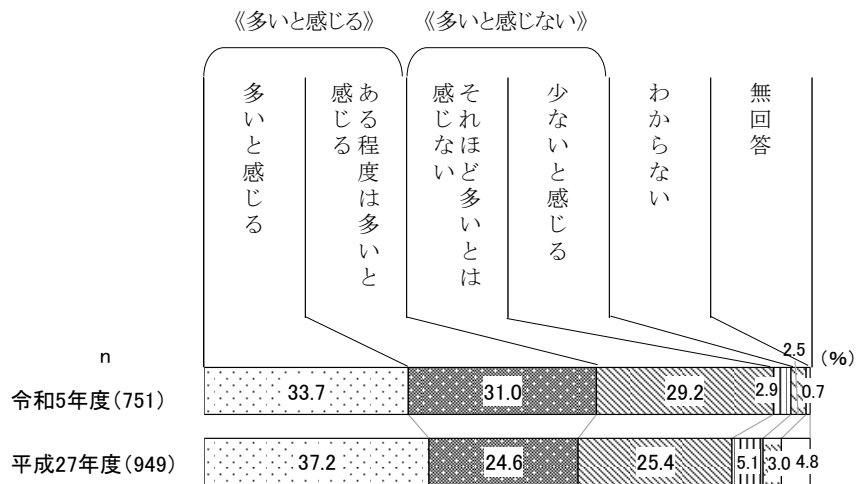
<p>問8 現在の新宿区の人口は約35万人です。そのうち約4万人が外国人です。 あなたの身近には、外国人が多いと感じますか。(○は1つだけ) [n=751]</p>					
1	多いと感じる	33.7%	4	少ないと感じる	2.9%
2	ある程度は多いと感じる	31.0%	5	わからない	2.5%
3	それほど多いとは感じない	29.2%		(無回答)	0.7%
<p><u>(問8で、「1 多いと感じる」か「2 ある程度は多いと感じる」とお答えの方に)</u></p>					
<p>問8-1 それはどんな時ですか。(○はいくつでも) [n=486]</p>					
1	通りで外国人をよく見る	88.5%	6	外国人が経営する店や会社が増えた	29.8%
2	近所に外国人が住んでいる	53.7%	7	外国語の看板が多い	34.0%
3	お店で働く外国人が多い	73.3%	8	外国語の印刷物が多い	13.0%
4	留学生が多い	27.0%	9	その他	2.9%
5	外国人の友人・知人が増えた	9.1%		(無回答)	0.2%

①外国人増加の実感

身近に外国人住民が「多いと感じる」(33.7%)は3割台半ば近くで最も高く、「ある程度は多いと感じる」(31.0%)は3割強となっている。これらを合わせた《多いと感じる》(64.7%)は6割台半ば近くとなっている。一方、「それほど多いとは感じない」(29.2%)と「少ないと感じる」(2.9%)を合わせた《多いと感じない》(32.1%)は3割強となっている。

平成27年度と比較すると、「ある程度は多いと感じる」が6.4ポイント増加している。(図表1-5)

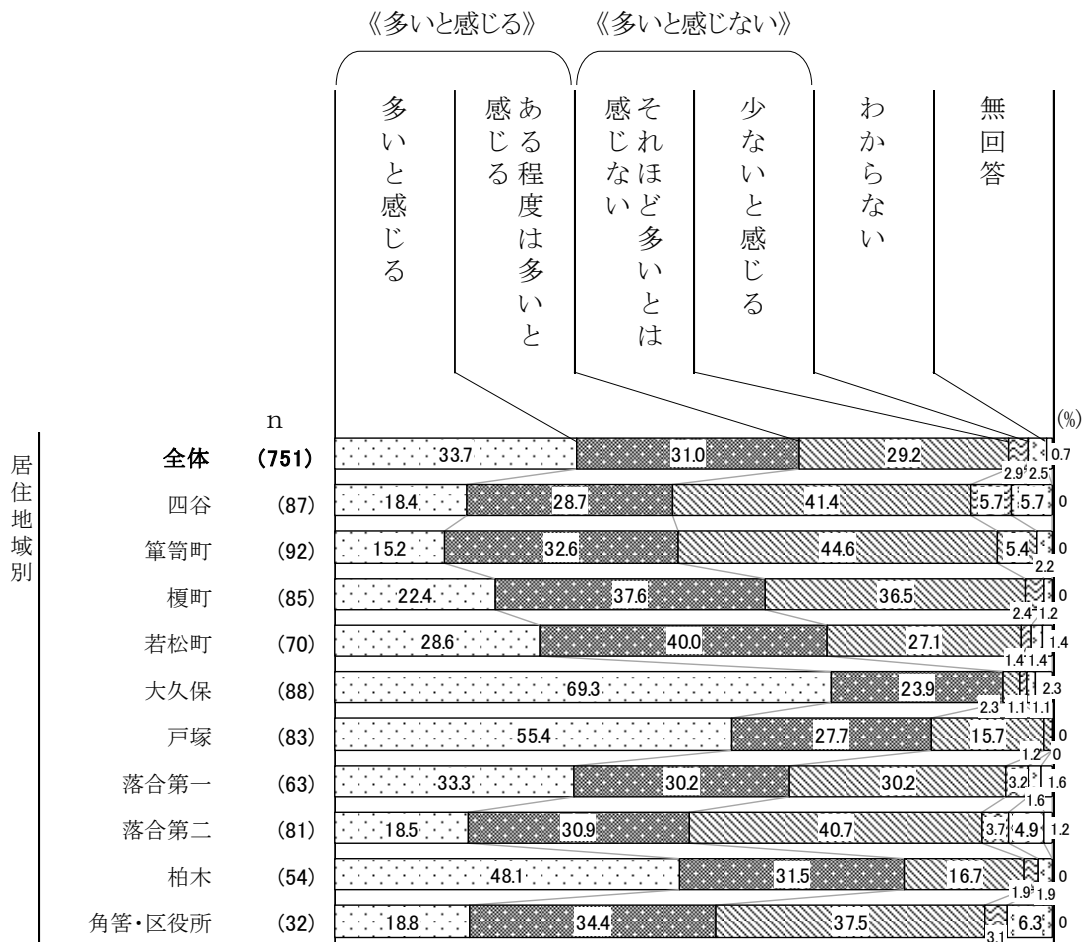
図表1-5 外国人増加の実感／平成27年度との比較



【居住地域別】

「多いと感じる」は、「大久保」で7割弱と最も高く、次いで「戸塚」で5割台半ばとなっている。「ある程度は多いと感じる」を含めた《多いと感じる》としてみると、「大久保」が9割台半ば近くと最も多く、次いで、「戸塚」が8割台半ば近く、「柏木」が8割弱となっている。一方、《多いと感じない》は、「簞笥町」で5割、「四谷」で4割台半ばを超えている。（図表1－6）

図表1－6 外国人増加の実感《居住地域別》

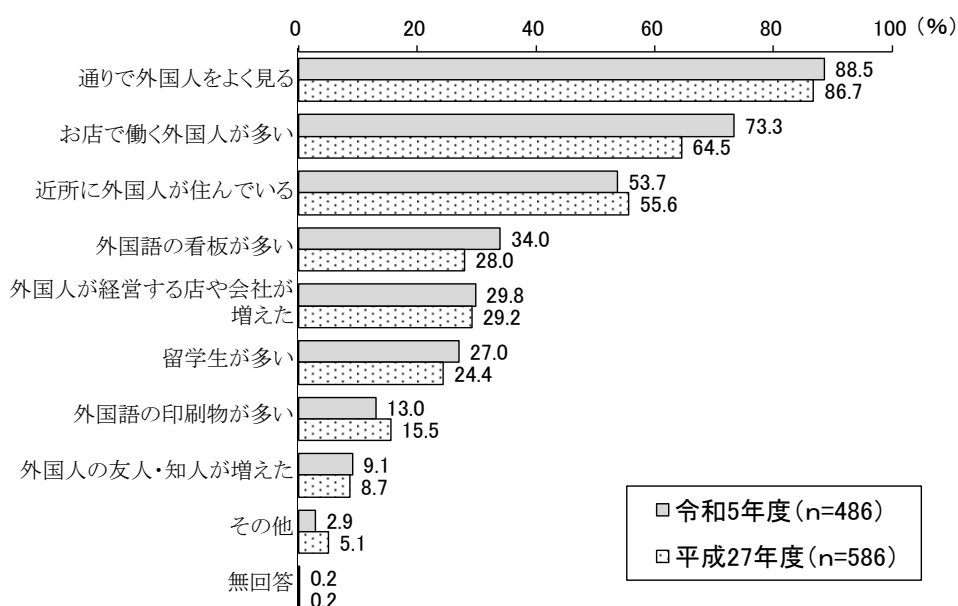


②外国人が多いと感じる時

問8で、外国人住民が《多いと感じる》と回答した人に、どんな時かを聞いた。その結果、「通りで外国人をよく見る」(88.5%)が9割近くで最も高く、次いで「お店で働く外国人が多い」(73.3%)は7割台半ば近く、「近所に外国人が住んでいる」(53.7%)は5割台半ば近くとなっている。

平成27年度と比較すると、「お店で働く外国人が多い」が8.8ポイント、「外国語の看板が多い」が6.0ポイント、それぞれ増加している。(図表1-7)

図表1-7 外国人が多いと感じる時(複数回答) / 平成27年度との比較



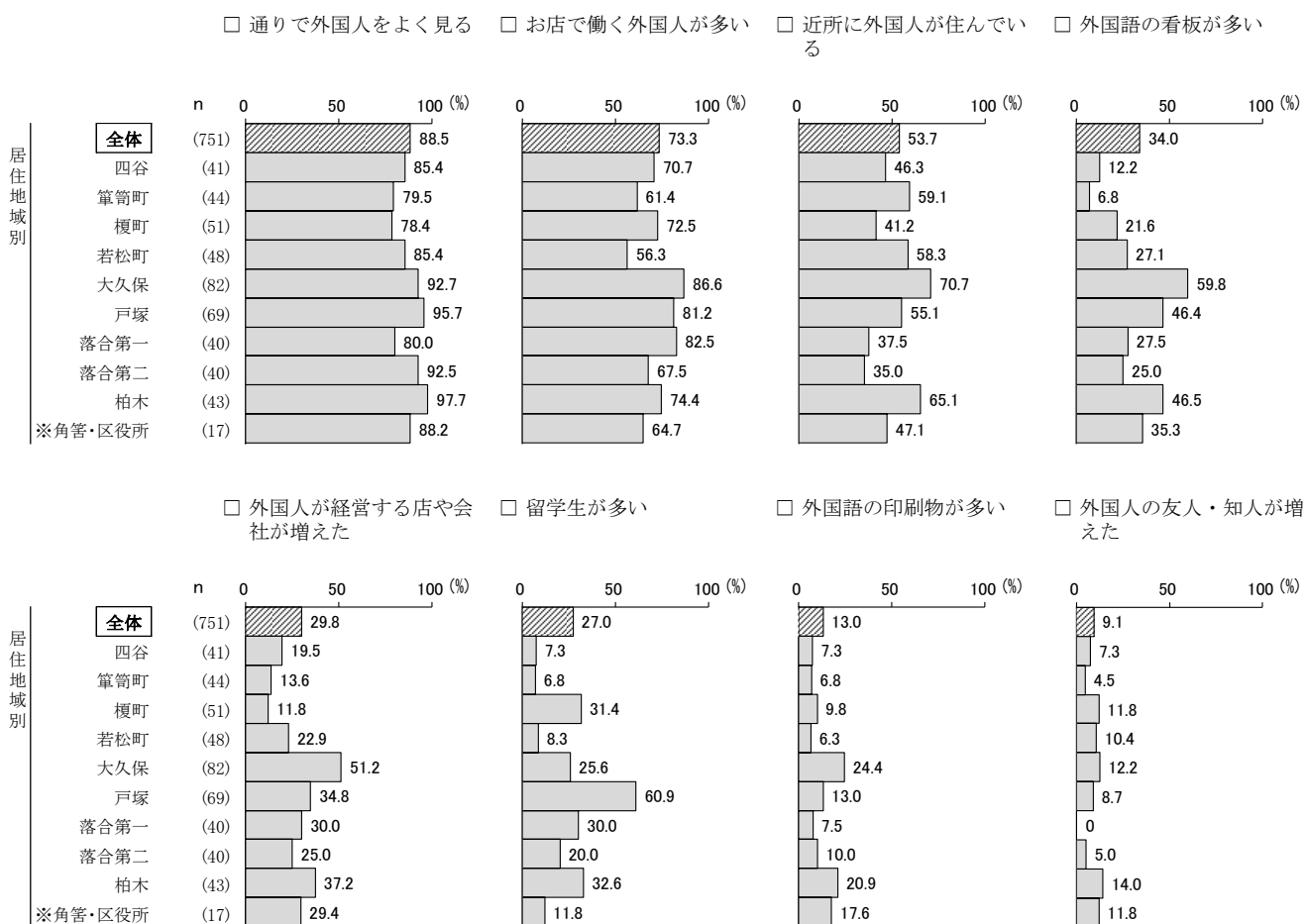
◆「その他」の記述

子どもの学校や保育園・幼稚園[5人] など

【居住地域別】

「通りで外国人をよく見る」は、“柏木”が9割台半ばを超え最も高く、“戸塚”で9割台半ば、“大久保”と“落合第二”で9割強と高い。「お店で働く外国人が多い」は、“大久保”、“戸塚”、“落合第一”で8割を超えて高くなっている。また、「留学生が多い」は“戸塚”が約6割と他の居住地域より高くなっている。(図表1-8)

図表1-8 外国人が多いと感じる時《居住地域別》



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

(3) 近所に外国人が生活することについての考え

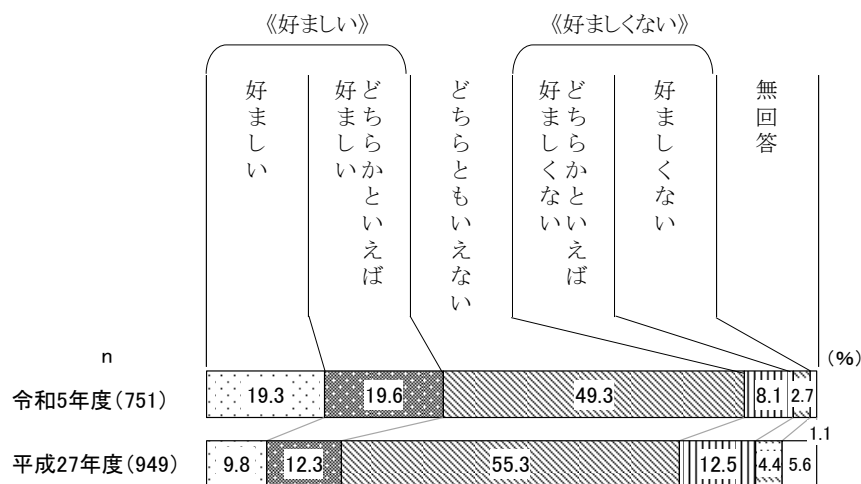
◇ 《好ましい》が4割近くで、《好ましくない》を大きく上回る

問9 あなたは、外国人が生活することについてどう思いますか。(○は1つだけ)					
〔n=751〕					
1	好ましい	19.3%	4	どちらかといえば好ましくない	8.1%
2	どちらかといえば好ましい	19.6%	5	好ましくない	2.7%
3	どちらともいえない	49.3%		(無回答)	1.1%

近所に外国人が住むことが「好ましい」(19.3%)と「どちらかといえば好ましい」(19.6%)を合わせた、《好ましい》(38.9%)は4割近くとなっている。最も高いのは、「どちらともいえない」(49.3%)で5割弱である。「どちらかといえば好ましくない」(8.1%)と「好ましくない」(2.7%)を合わせた《好ましくない》(10.8%)は約1割で、《好ましい》を大幅に下回っている。

平成27年度と比較すると、「好ましい」(19.3%)が9.5ポイント増加し、「好ましい」と「どちらかといえば好ましい」を合わせた《好ましい》が16.8ポイント増加している。(図表1-9)

図表1-9 近所に外国人が生活することについての考え/平成27年度との比較

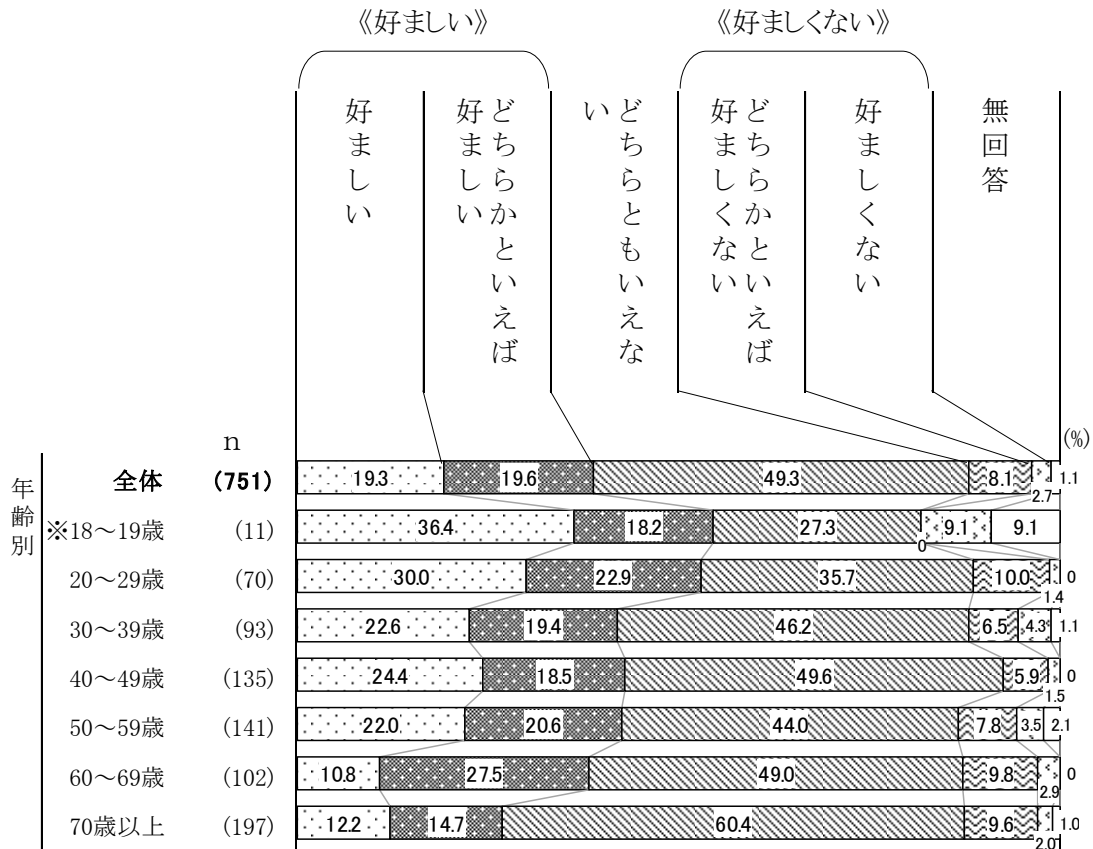


【年齢別】

《好ましい》は、“20～29歳”で5割強と高く、おおむね年齢が上がるほど低くなる。反対に、「どちらともいえない」がおおむね年齢が上がるほど高くなっている。

一方、《好ましくない》は、“60～69歳”で1割強と最も高くなっている。(図表1-10)

図表1-10 近所に外国人が生活することについての考え《年齢別》

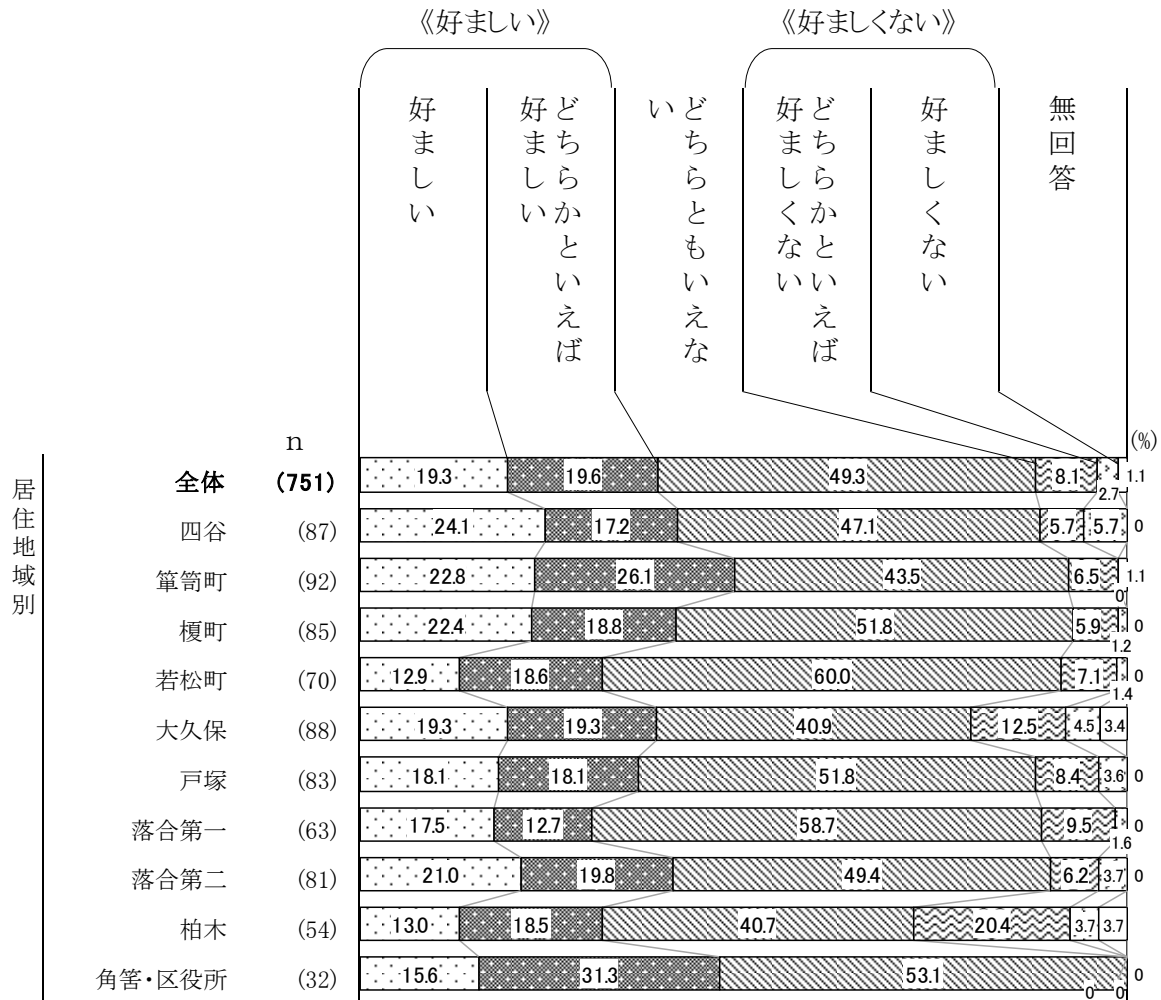


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【居住地域別】

《好ましい》は、“箆笥町”で5割近くと最も高くなっており、次いで“角筈・区役所”で4割台半ばを超え、“四谷”で4割強となっている。一方、《好ましくない》は、“柏木”で2割台半ば近くと最も高く、次いで“大久保”で1割台半ばを超え、“戸塚”で1割強となっている。(図表1-11)

図表1-11 近所に外国人が生活することについての考え《居住地域別》



(4) 外国人が生活することについて感じること

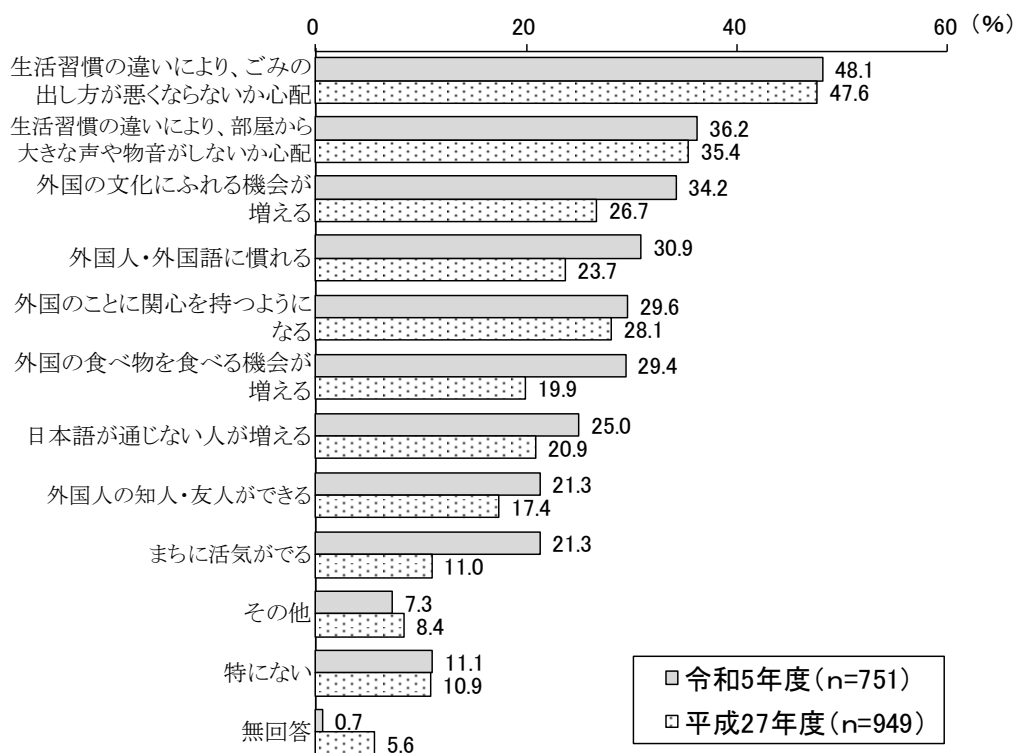
◇「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」が5割近くで最も高い

問10 近所に様々な国籍の外国人が住むことについて、どのようなことを感じますか。 (○はいくつでも) 〔n=751〕			
1	外国の食べ物を食べる機会が増える	29.4%	
2	外国人・外国語に慣れる	30.9%	
3	外国の文化にふれる機会が増える	34.2%	
4	外国人の知人・友人ができる	21.3%	
5	外国のことに興味を持つようになる	29.6%	
6	まちに活気がでる	21.3%	
7	日本語が通じない人が増える	25.0%	
8	生活習慣の違いにより、 ごみの出し方が悪くならないか心配	48.1%	
9	生活習慣の違いにより、 部屋から大きな声や物音がしないか心配	36.2%	
10	その他	7.3%	
11	特にない (無回答)	11.1%	0.7%

近所に外国人が住むことについて感じる事としては、「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」(48.1%)が5割近くで最も高く、次いで「生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配」(36.2%)が3割台半ばを超え、「外国の文化にふれる機会が増える」(34.2%)が3割台半ば近くとなっている。

平成27年度と比較すると、「外国の文化にふれる機会が増える」が7.5ポイント、「外国人・外国語に慣れる」が7.2ポイント、「外国の食べ物を食べる機会が増える」が9.5ポイント、「まちに活気がでる」が10.3ポイント、それぞれ増加しており、良いと思われることの増加率が高くなっている。(図表1-12)

図表1-12 外国人が生活することについて感じる事(複数回答)／平成27年度との比較



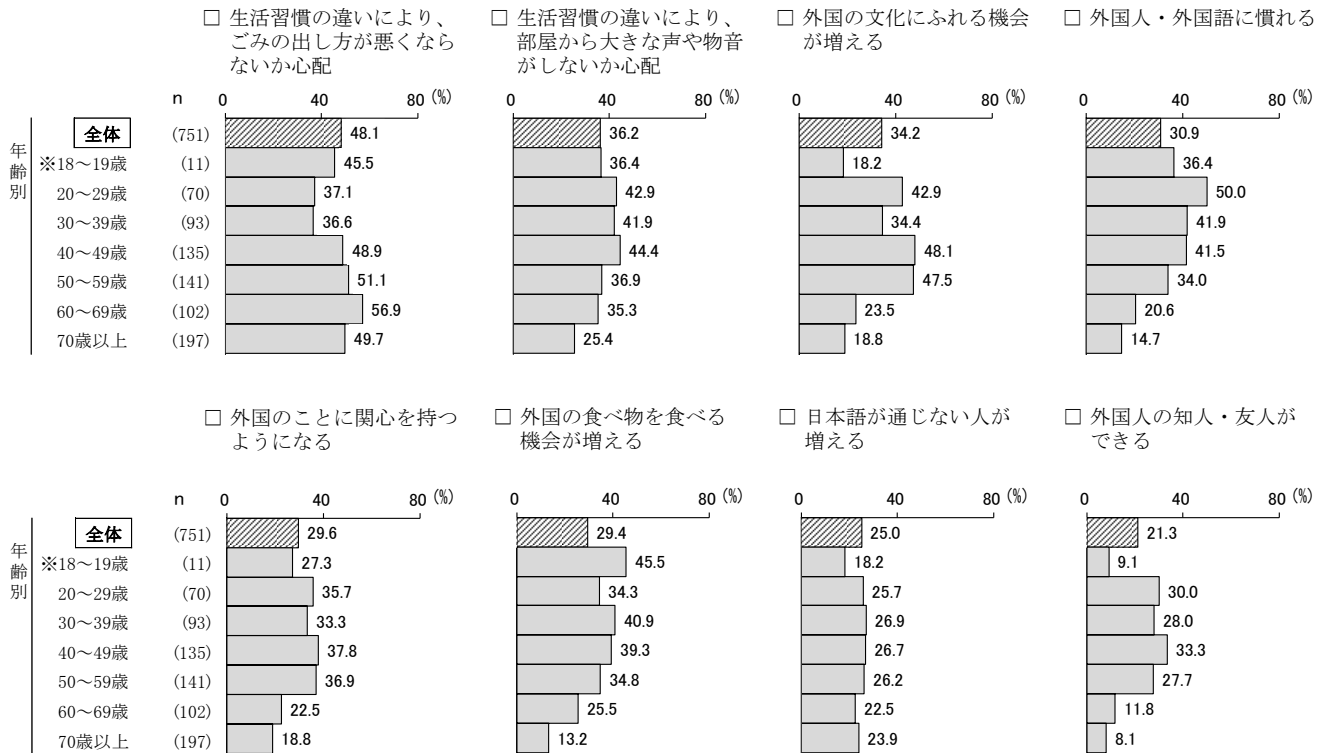
◆「その他」の記述

治安に対する不安[14人]、犯罪増加に対する不安[7人]、タバコやゴミのポイ捨てに関するトラブル[5人]、日本文化を尊重できるのか心配[4人]、ルールやマナーが守れるか心配[4人] など

【年齢別】

「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」は、“60～69歳”で5割台半ばを超え最も高く、“50～59歳”で5割強となっている。「生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配」は、“40～49歳”で4割台半ば近くと最も高く、“20～29歳”、“30～39歳”で4割強となっている。(図表1-13)

図表1-13 外国人が生活することについて感じる事《年齢別》

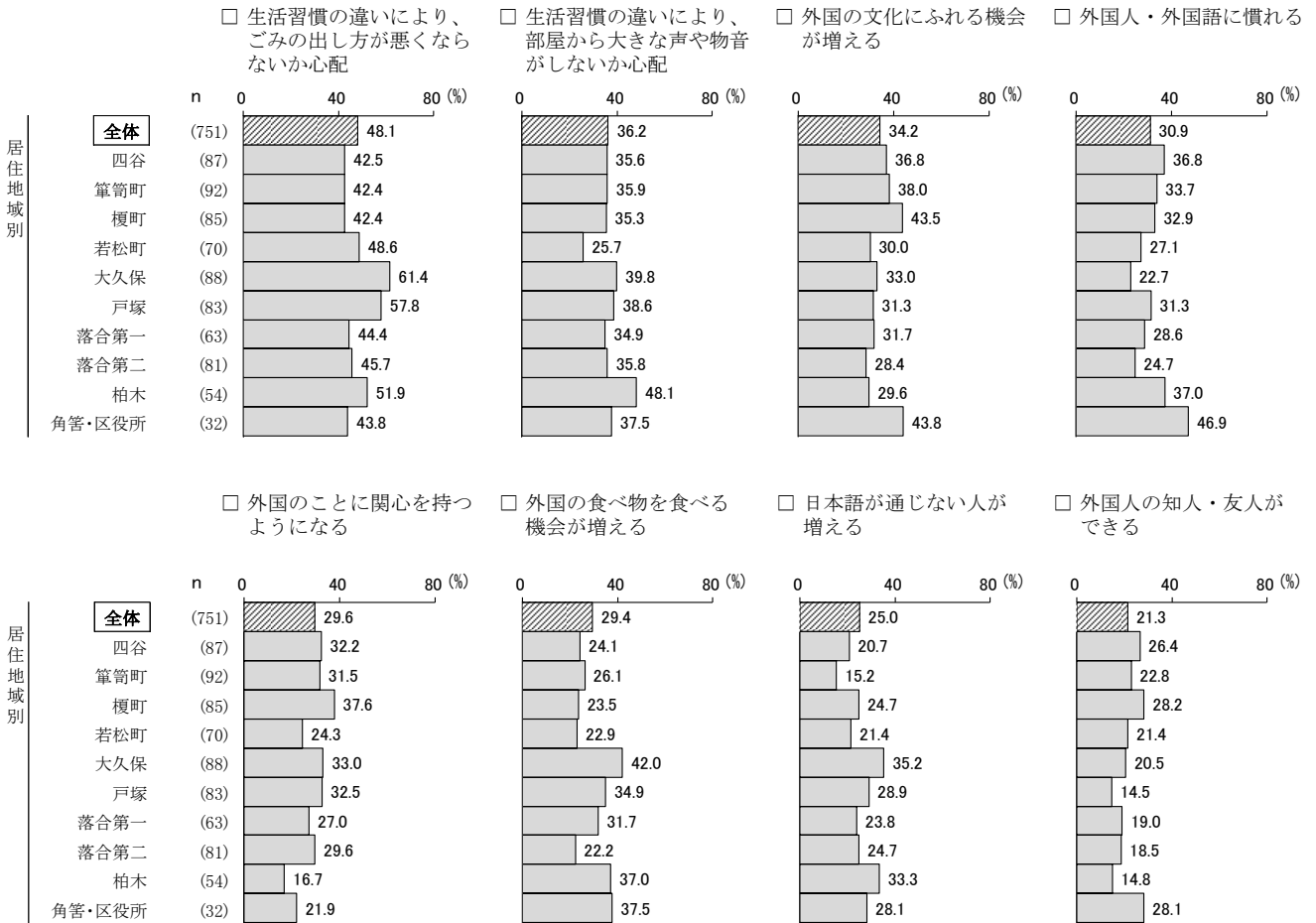


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【居住地域別】

「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」は、“大久保”で6割強と高く、次いで“戸塚”で5割台半ばを超えている。「生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配」は、“柏木”で5割近くと最も高くなっている。(図表1-14)

図表1-14 外国人が生活することについて感じる事《居住地域別》



(5) 外国人が生活上困っていたり不満があると思われること

◇「日本語が不自由」が4割台半ば近くで最も高く、「災害時・緊急時の対応」が3割強

問 11 あなたは、あなたのまわりにいる外国人にとって、生活で困っていること、不満なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

[n = 751]

1	日本語が不自由	44.2%	12	仕事	19.7%
2	情報が少ない	23.3%	13	災害時・緊急時の対応	31.3%
3	住居	13.8%	14	近所づきあい	21.8%
4	出入国在留管理庁の手続き	15.0%	15	友人が少ない	6.3%
5	区役所の手続き	19.7%	16	近所の人との間のトラブル	19.3%
6	金融機関の手続き(銀行、郵便局 等)	20.4%	17	偏見・差別	28.1%
7	病院・医療	29.0%	18	日本人が閉鎖的だと感じる	16.2%
8	年金	10.4%	19	生活費など金銭的な問題	10.8%
9	出産・育児	13.2%	20	その他	3.5%
10	子どもの教育	18.2%	21	特になし	15.0%
11	老後・介護	10.5%		(無回答)	4.8%

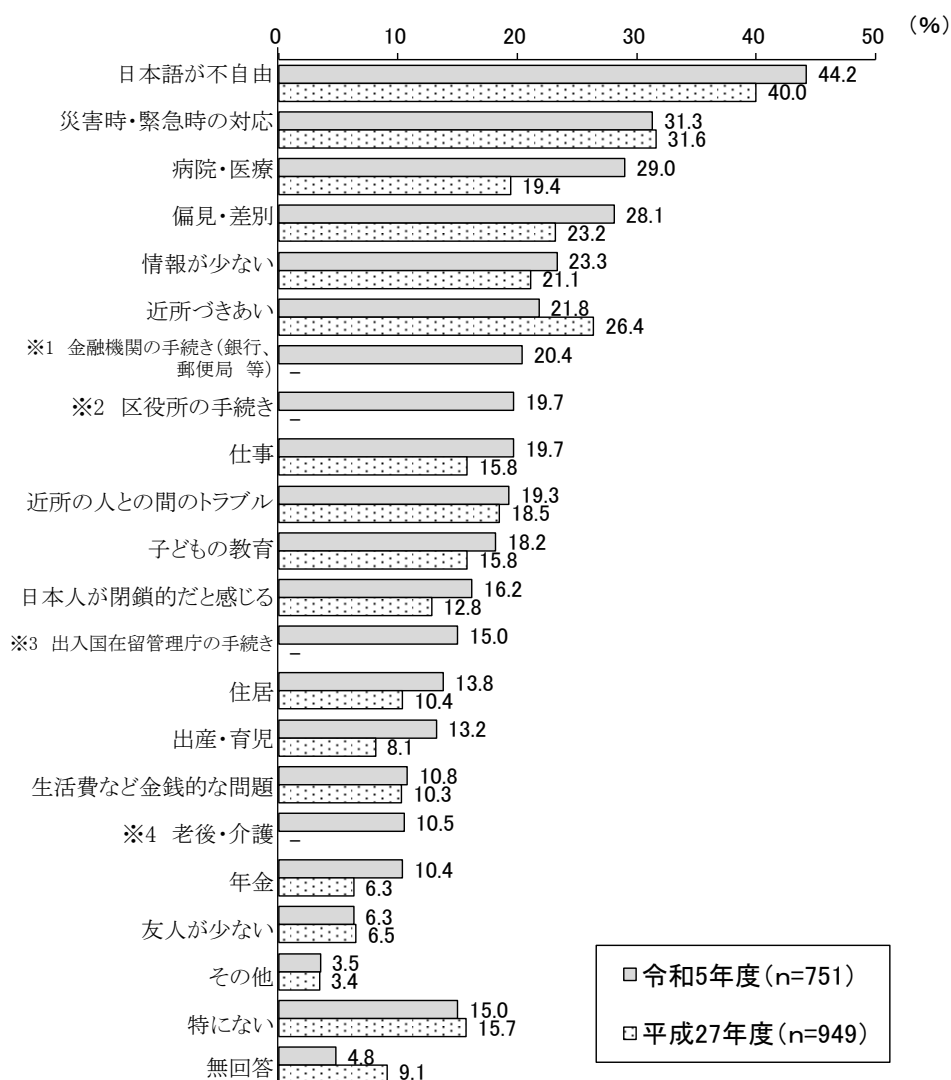
問 11-1 あなたのまわりにいる外国人にとって、生活で困っていることや不満なことの事例があれば、記入してください。回答は任意です。

①外国人が生活上困っていたり不満があると思われること

日本人住民から見て、外国人住民が生活上困っていたり不満があると思われることとしては、「日本語が不自由」(44.2%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで「災害時・緊急時の対応」(31.3%)は3割強、「病院・医療」(29.0%)は3割弱となっている。なお、「特にない」(15.0%)は1割台半ばとなっている。

平成27年度との比較については、項目数が異なるため参考として順位を比べるにとどめるが、「日本語が不自由」が第1位、「災害時・緊急時の対応」が第2位であることは平成27年度と変わらない。平成27年度で第6位だった「病院・医療」が今回は第3位に順位を上げている。(図表1-15)

図表1-15 外国人が生活上困っていたり不満があると思われること(複数回答)
／平成27年度との比較



(注) ※1~4は今回調査で新設した項目である。

◆「その他」の記述

ことばに関すること[16人]、社会や職場での差別[6人]、近所の人と繋がりが薄い・地域コミュニティへの参加ハードル[6人]、人間関係に関すること[5人]、何も無い・周りに外国人がいないのでわからない[5人]、就職[4人]、銀行や公的な手続き[4人]、文化・習慣の違い[4人] など

②外国人が生活上困っていたり不満があると思われることについて（自由記述）

外国人が生活上困っていたり不満があると思われることについて、自由記述でたずねたところ、主に次のようなご意見があげられた。

【ことば】

- 日本語の文章が難解すぎてわからない。わかったとしても文化的な違いで結局誰かのサポートが必要。
- 23 区の医療機関に勤めているが、基本日本語が話せなくても同じ国のコミュニティの中で通訳的な役割を担う人が助け合っている印象だが、会話ができて文字が読めないので介助が必要である。特に南西アジア系の増加(ネパールなど)が著しい印象。
- 日本語を読むのは更に難易度が高く思う。(専門用語など)
- 独居の方向けの区からの通知(民生委員が配布する書類)が日本語のみの表記だったため、うまく伝えられなかった。独自に翻訳する必要があった。
- 子育て支援の関係で、民生委員が訪問する際、ことばが通じなくて困った。

【病院・医療】

- 新宿区はわからないが、健診の間診票や診察の間診票など生活に必要な事には、各国の言語の物があると良いと思うが、各医療機関や個人では訳す事はできないので、何らかのサポートがあればいいと思う。
- 医療アクセス。大きな病院でも通訳などのサポートがない。

【偏見・差別】

- 外国人というだけで不当に扱われたり、失礼な態度を取る日本人がいる。
- 日本語が喋れないだけで人として低くみられる。

【情報が少ない】

- お得なことや便利なサービスを知らずにいることや、知っていても言葉の面で諦めているのではないかと思う。
- ゴミ捨てや騒音問題に対する周知不足(新宿区は様々な言語で案内はされているがそれが行き届いていない)。

【銀行や公的な手続き、契約など】

- 近所ではなく職場では外国人が多く、銀行や公的な手続きが煩雑なうえ外国人を前提としていないケースが多く、トラブルケースが多いと感じる。言葉の面も含めかなり改善点は多いと思う。
- 住む家や仕事など契約に関わる場面で日本人より障壁が高く中々同じ様に扱って貰えない。
- 日本語ができて日本の商習慣がわからないこともある。
- 最近減ってきているが、銀行口座の開設に何故か印鑑が必要。
- 金融機関で証明書の提出が大変。

【仕事】

- 仕事がなかなか見つからない、職種が限られる、低賃金。
- 給料が日本人に比べて安い。
- 職業選択の自由があまりない。
- 就職している外国人の場合は職場内で差別（いじめに近いことをする人もいた）があると聞いた。

【子どもの教育】

- 小学校の授業参観に行った際、外国ルーツのお子さんが、ご両親が授業参観に来ていないことに気づき、悲しい気持ちになっている様子を見かけた。日本人は、授業参観の意味や状況が分かっているため、親がいないときの気持ちも理解できるし、もし参加できないときにも事前又は事後に埋め合わせをするなどの対応をとることができる。しかし、外国ルーツの方だと、このような独特の？文化的慣習は分かりづらいと思うので、入学の際などに、折に触れて紹介する対応が必要だと感じた。

【住居】

- 外国人可の家を探すのが大変(新宿区はまだ良い)。
- 外国人 NG の物件が多すぎて、パートナーや勤め先のサポートがないと中々賃貸契約を結ぶことが難しい。

【その他】

- 日本人は近所の人と繋がりが薄い。文化の違いに戸惑っている。
- 自国コミュニティから出たくない外国人と出たくても手段を知らぬ外国人がやはり自国コミュニティに飲み込まれる事象等。
- 区の金銭的支援と日本で暮らす上での、精神的支援、母国以外の国で暮らすにはそれなりのお金と知識、コミュニケーション能力が必要となるが、それに対しての支援が足りていないように感じる。同じ新宿区民として、人間らしく暮らせるようにもっと多角的に支援政策を進めるべきと考える。
- ビザ関係で不満があったらしい。

(6) 普段生活の中で外国人と話す機会の有無

◇普段の生活の中で外国人と話す機会の有無は、《話さない》(「あまり話さない」「話さない」の合算) が6割台半ばを超え、《話す》(「よく話す」「時々話す」の合算) の3割強を上回る

◇主に話す言葉は、「日本語」が7割近く

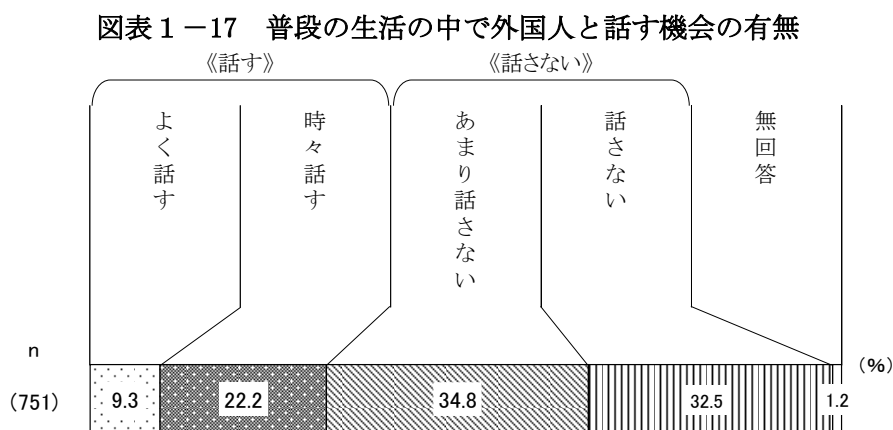
◇話さない理由は、「話すきっかけがない」が7割強

◇話したいと思うかについては、「話したい」が2割台半ば近く

<p>問 12 あなたは、普段の生活の中で外国人と話す機会はありますか。(○は1つだけ)</p> <p>[n = 751]</p>			
1 よく話す	9.3%	3 あまり話さない	34.8%
2 時々話す	22.2%	4 話さない	32.5%
		(無回答)	1.2%
<p><u>(問 12 で、「1 よく話す」「2 時々話す」とお答えの方に)</u></p>			
<p>問 12-1 主にどの言葉で話しましたか。(○は1つだけ)</p> <p>[n = 237]</p>			
1 日本語	68.8%	2 その他の言語	31.2%
		(無回答)	0%
<p><u>(問 12 で、「3 あまり話さない」「4 話さない」とお答えの方に)</u></p>			
<p>問 12-2 話さない理由はどのようなものですか。(○はいくつでも)</p> <p>[n = 505]</p>			
1 話すきっかけがない	72.9%	4 日本語が通じるかわからない	7.5%
2 話しかけるのを躊躇する	6.7%	5 相手の言葉がわからない	12.1%
3 外国語を話せない	14.1%	6 その他	4.6%
		(無回答)	10.3%
<p><u>(問 12 で、「3 あまり話さない」「4 話さない」とお答えの方に)</u></p>			
<p>問 12-3 できれば話したいと思えますか。(○は1つだけ)</p> <p>[n = 505]</p>			
1 話したい	24.0%	3 どちらでもない	63.4%
2 話したくない	7.1%	(無回答)	5.5%

① 普段の生活の中で外国人と話す機会の有無

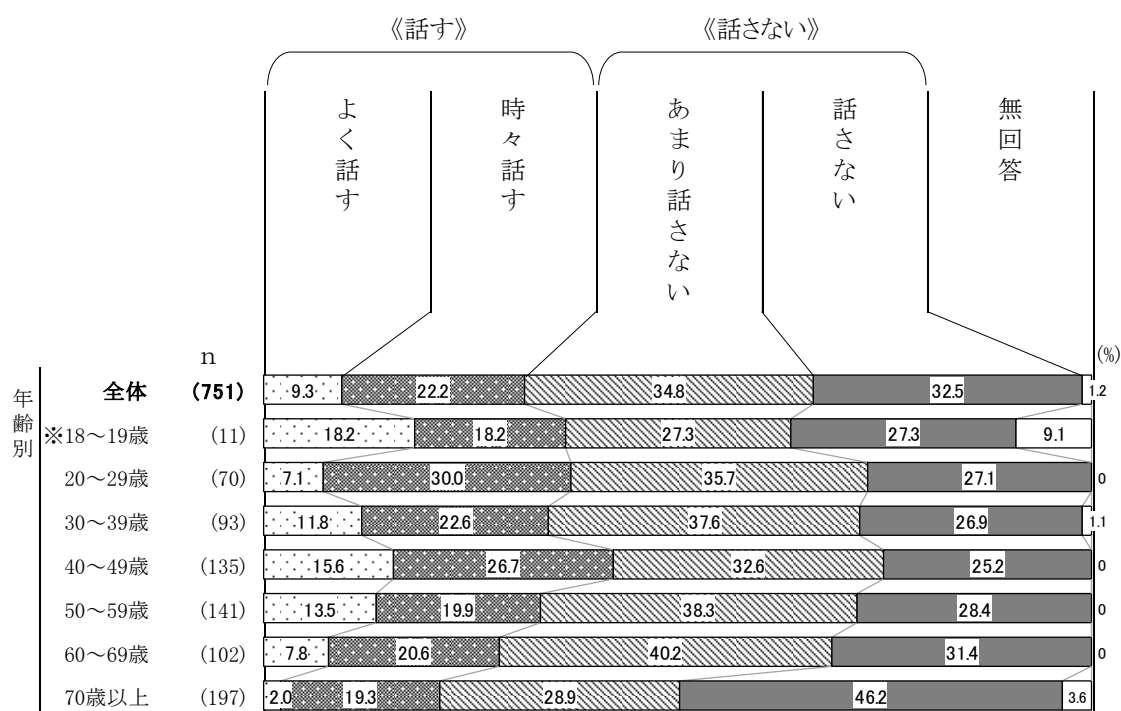
普段の生活の中で外国人と話す機会の有無は、「あまり話さない」(34.8%)が3割台半ば近くで最も高く、「話さない」(32.5%)が3割強となっている。これらを合わせた《話さない》(67.3%)は6割台半ばを超えている。一方、「よく話す」(9.3%)と「時々話す」(22.2%)を合わせた《話す》(31.5%)は3割強となっている。(図表1-17)



【年齢別】

《話す》は“40～49歳”が4割強と最も高く、次いで“20～29歳”が3割台半ばを超えている。一方、《話さない》は“70歳以上”が7割台半ばと最も高く、次いで、“60～69歳”が7割強となっている。(図表1-18)

図表1-18 普段の生活の中で外国人と話す機会の有無《年齢別》

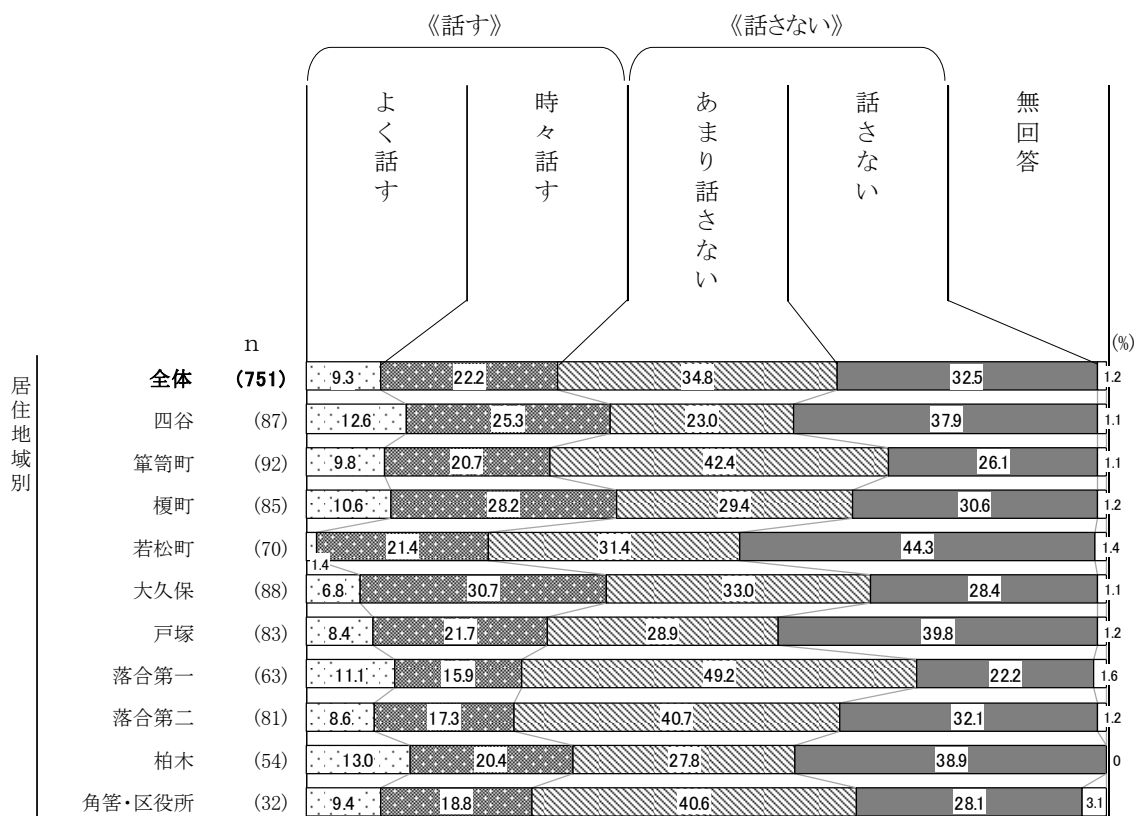


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【居住地域別】

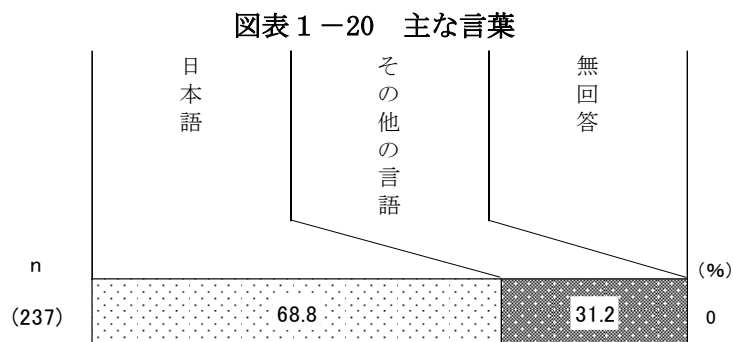
《話す》は“榎町”が4割近くと最も高く、次いで“四谷”と、“大久保”が3割台半ばを超えている。一方、《話さない》は“若松町”が7割台半ばと最も高く、次いで、“落合第一”と“落合第二”が7割強となっている。(図表1-19)

図表1-19 普段の生活の中で外国人と話す機会の有無《居住地域別》



②主な言葉

問 12 で、普段の生活の中で外国人と《話す》と回答した人に主な言葉を聞いた。その結果、「日本語」(68.8%) が 7 割近く、「その他の言語」(31.2%) が 3 割強となっている。(図表 1-20)

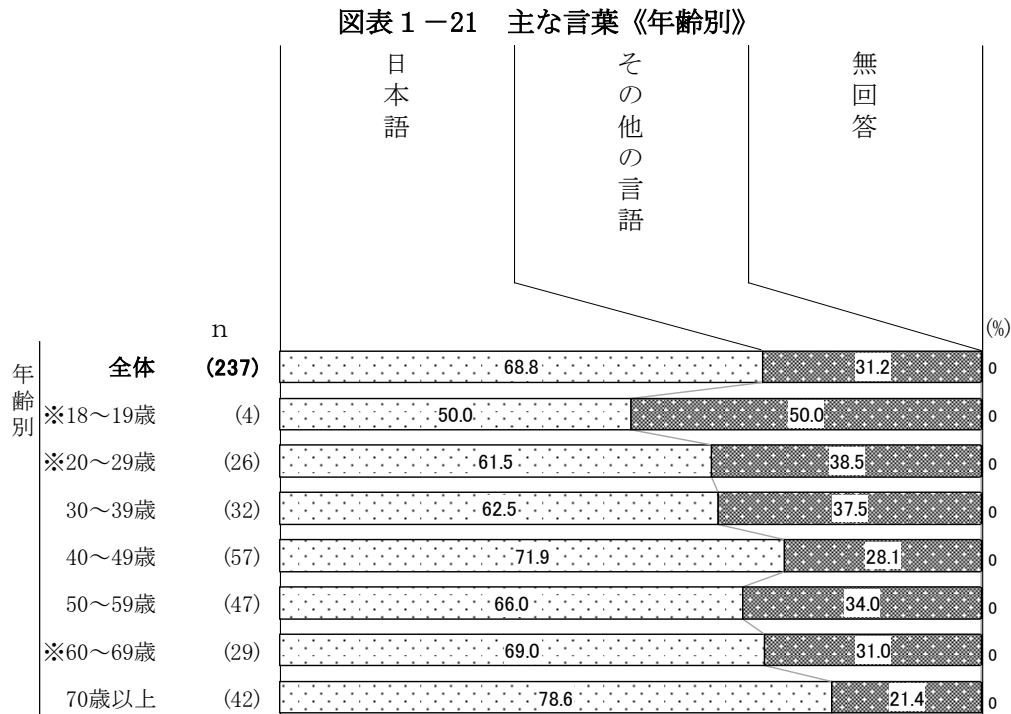


◆「その他の言語」の記述

英語[61人]、中国語[2人] など

【年齢別】

「日本語」はおおむね年齢が上がるごとに高くなっており、「70歳以上」で8割近くと最も高くなっている。(図表 1-21)

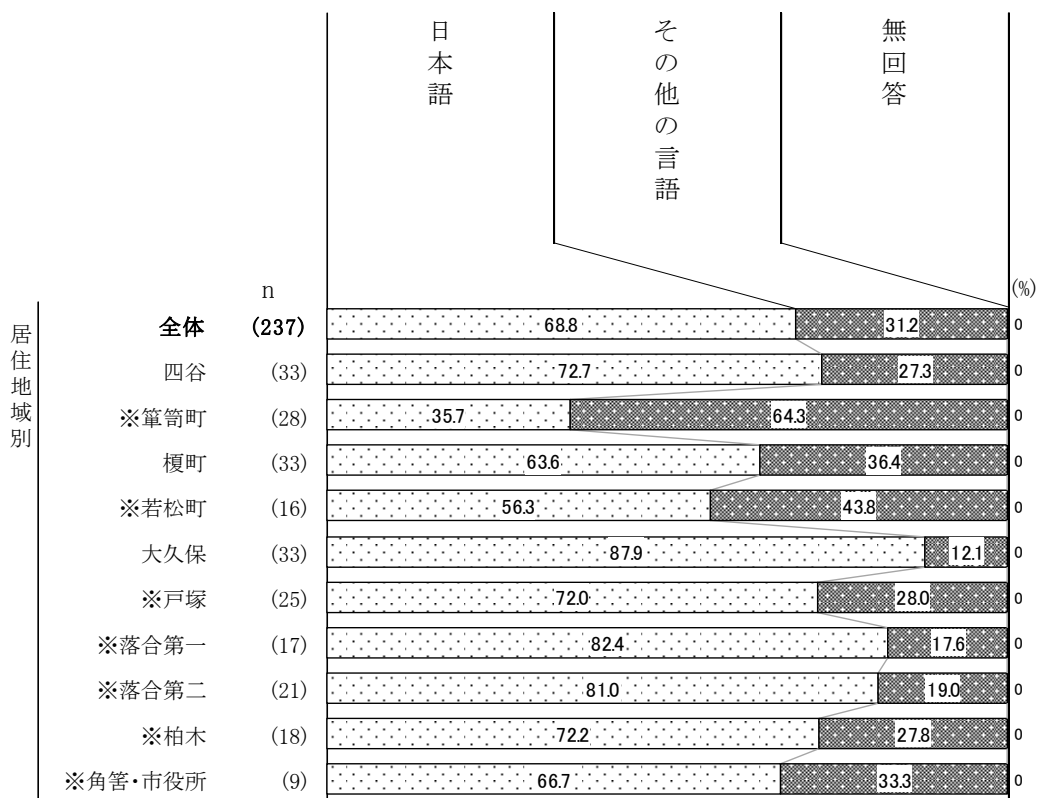


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【居住地域別】

居住地域別については、回答者数が30人以上確保できた地域に限られていることから、参考として掲載する。(図表1-22)

図表1-22 主な言葉《居住地域別》

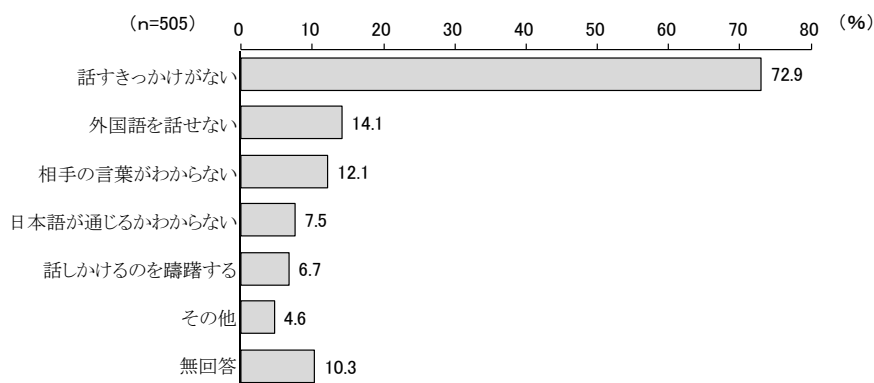


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

③話さない理由

問 12 で、普段の生活の中で外国人と《話さない》と回答した人に話さない理由を聞いた。その結果、「話すきっかけがない」(72.9%)が7割強と最も高く、次いで「外国語を話せない」(14.1%)が1割台半ば近く、「相手の言葉がわからない」(12.1%)が1割強となっている。(図表1-23)

図表 1-23 話さない理由 (複数回答)



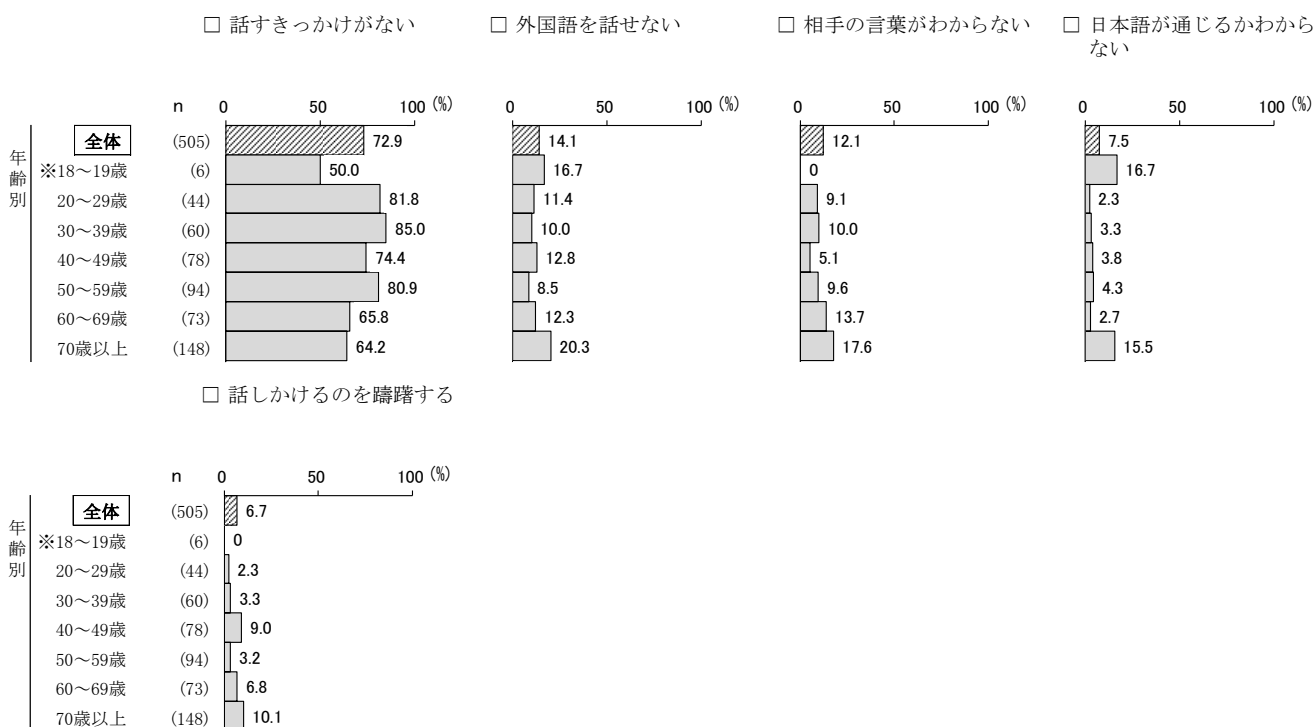
◆「その他」の記述

まわりに外国人がいない[8人]、話す機会がない[6人]、興味がない[3人] など

【年齢別】

「話すきっかけがない」で“30～39歳”が8割台半ばと最も高く、“20～29歳”が8割強、“50～59歳”が約8割となっている。(図表1-24)

図表 1-24 話さない理由 《年齢別》

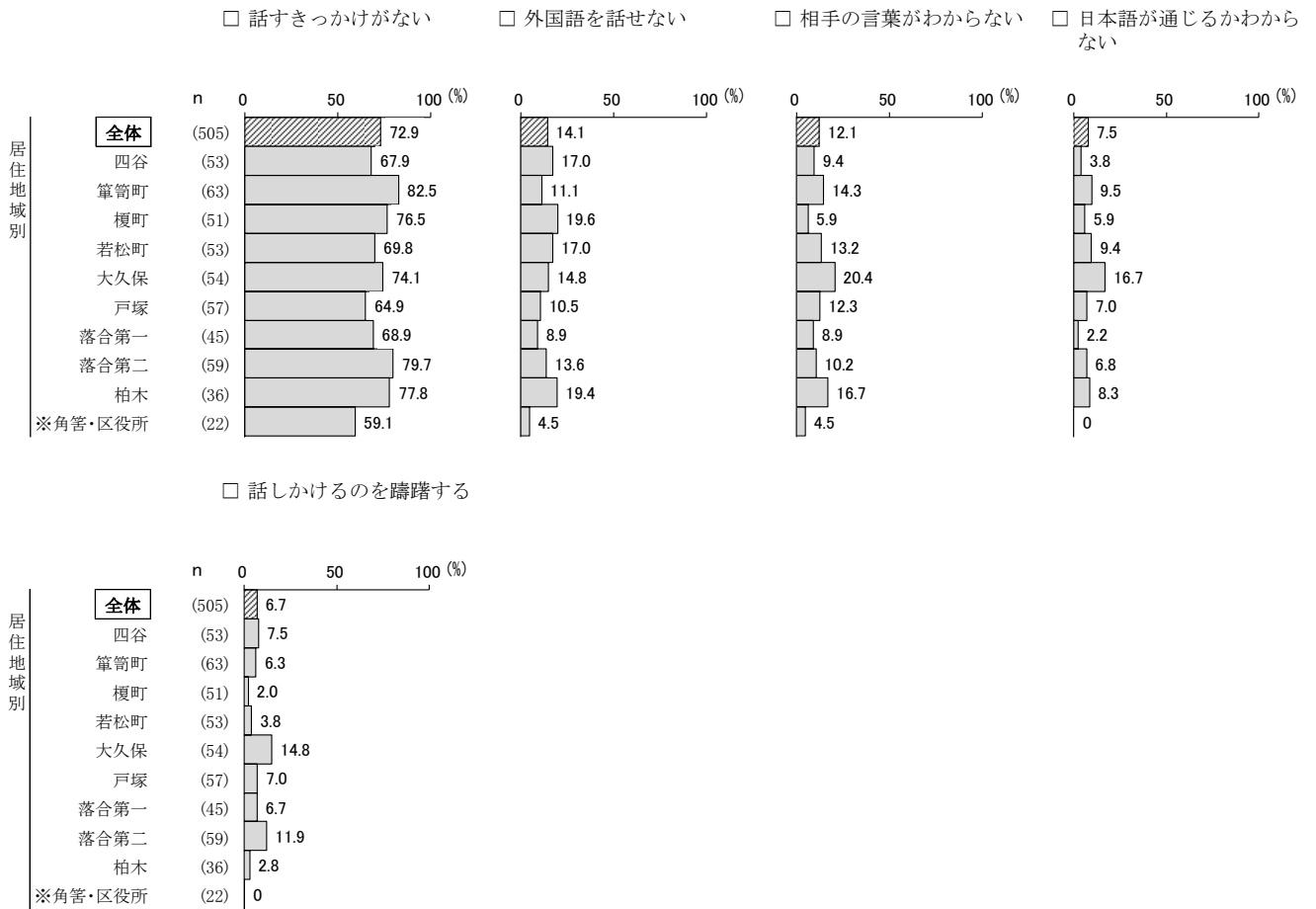


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【居住地域別】

「話すきっかけがない」で“箆笥町”が8割強と最も高く、“落合第二”が8割弱、“柏木”が7割台半ばを超えている。(図表1-25)

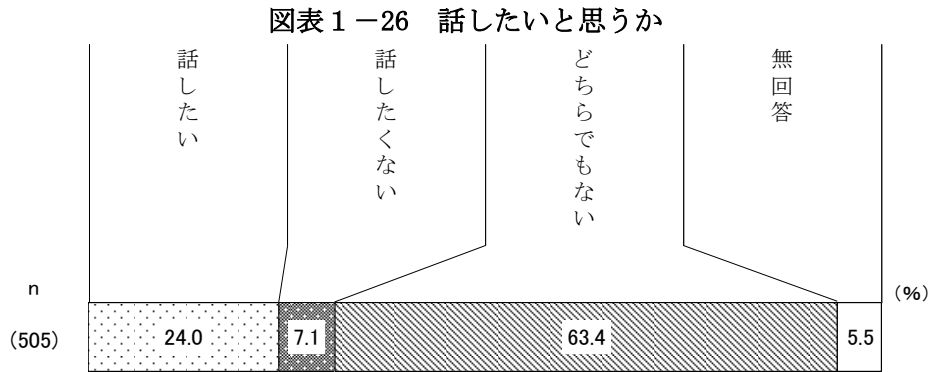
図表1-25 話さない理由《居住地域別》



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

④話したいと思うか

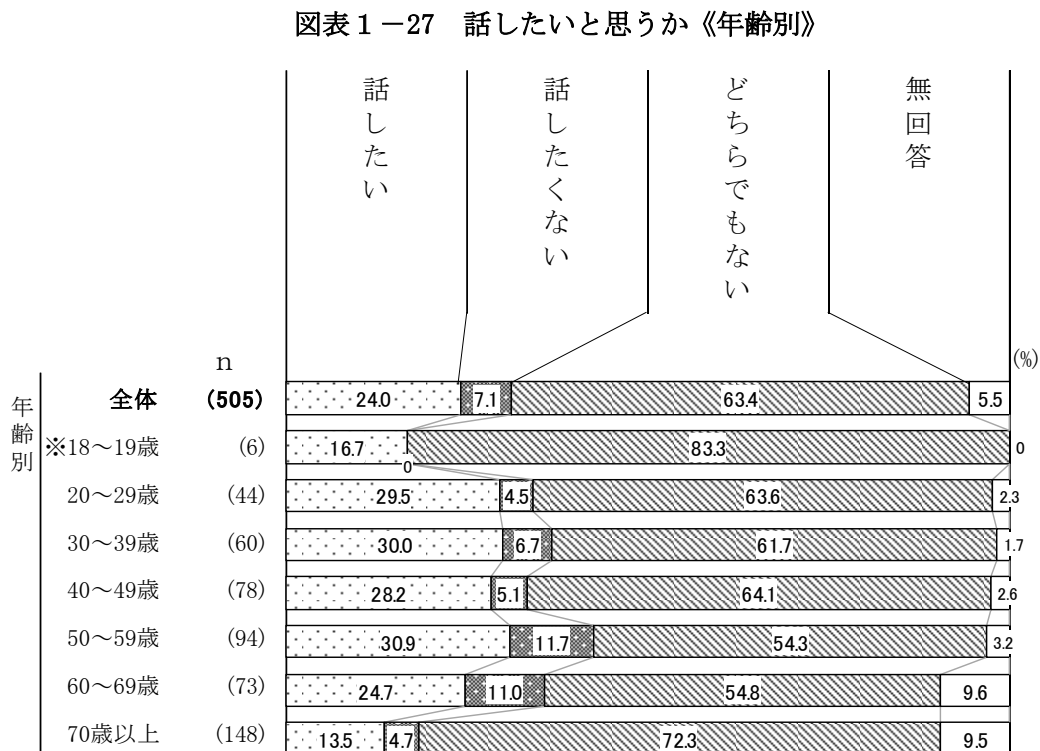
問12で、普段の生活の中で外国人と《話さない》と回答した人に話したいと思うかを聞いた。その結果、「どちらでもない」(63.4%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「話したい」(24.0%)が2割台半ば近く、「話したくない」(7.1%)が1割未満となっている。(図表1-26)



【年齢別】

“50～59歳”が「話したい」で約3割と最も高いが、「話したくない」でも1割強と最も高くなっている。

一方、「どちらでもない」はいずれの年齢でも高くなっており、“70歳以上”で7割強となっている。(図表1-27)

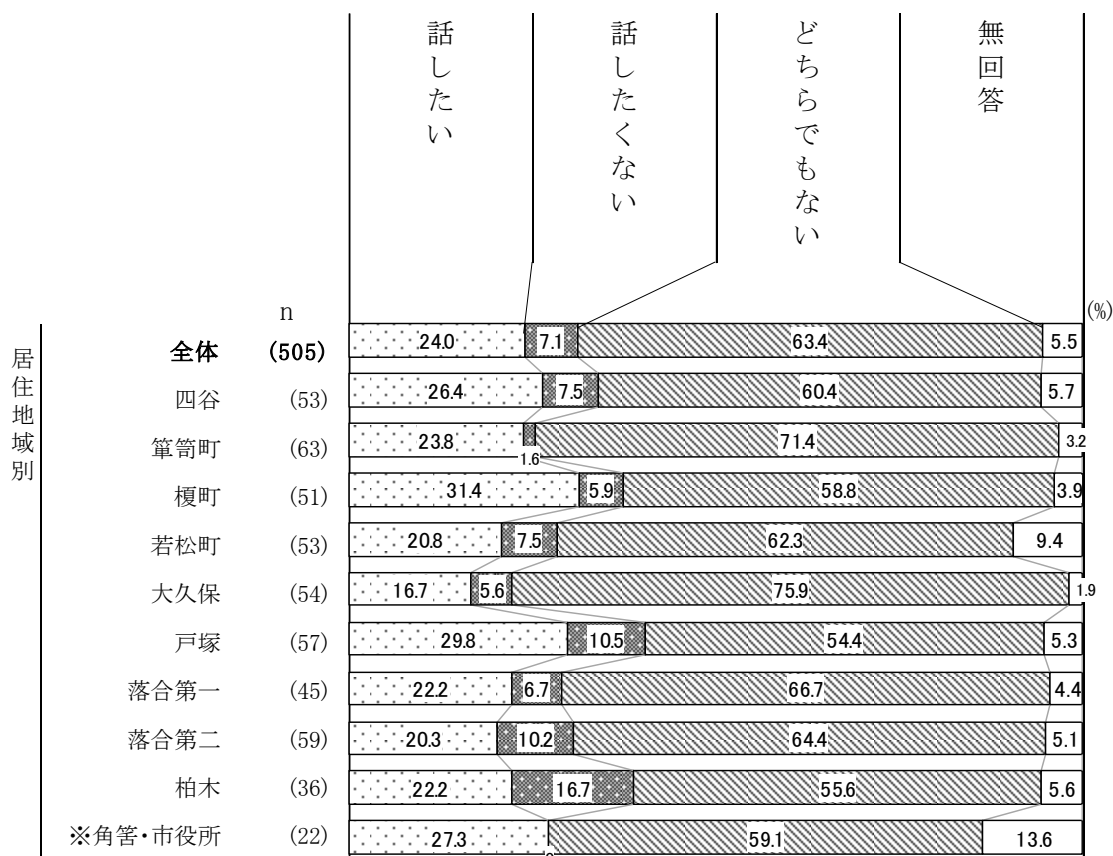


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【居住地域別】

「話したい」は“榎町”で3割強と最も高く、次いで“戸塚”で3割弱となっている。また、「話したくない」は“柏木”で1割台半ばを超え最も高く、“戸塚”と“落合第二”が約1割となっている。(図表1-28)

図表1-28 話したいと思うか《居住地域別》



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

(7) 近所の外国人とのつき合いの程度

◇現在は「全くつき合いがない」が4割台半ば

◇今後は「あいさつをする程度」が2割台半ば、「何か困った時に助け合う」が約2割

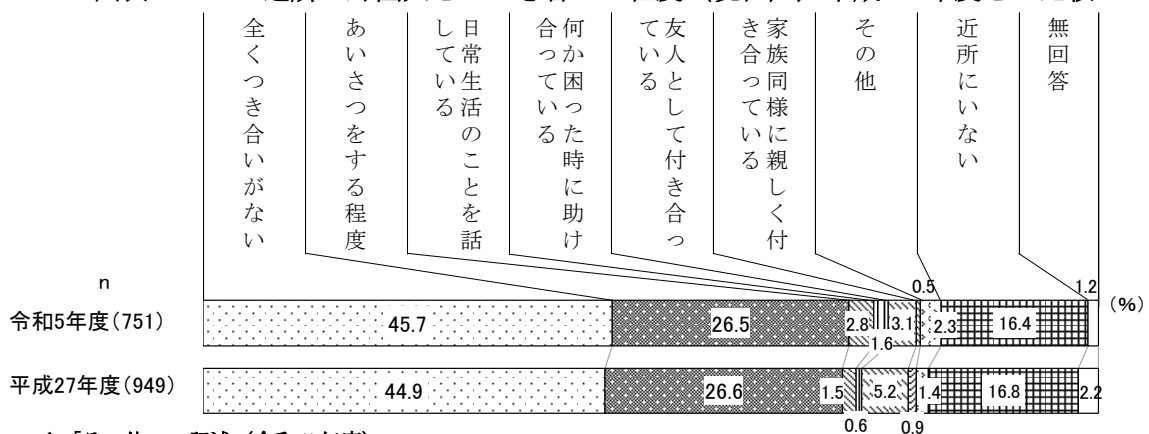
<p>問 13 あなたは現在、近所の外国人とどんなつき合いがありますか。また、今後どのように接していきたいですか。(〇はそれぞれ1つ)</p> <p>[n = 751]</p>			
現在			
1 全くつき合いがない	45.7%	5 友人として付き合っている	3.1%
2 あいさつをする程度	26.5%	6 家族同様に親しく付き合っている	0.5%
3 日常生活のことを話している	2.8%	7 その他	2.3%
4 何か困った時に助け合っている	1.6%	8 近所にいない (無回答)	16.4% 1.2%
今後			
1 全くつき合わない	9.3%	5 友人として付き合う	7.9%
2 あいさつをする程度	25.7%	6 家族同様に親しくつき合う	0.7%
3 日常生活のことを話す	8.4%	7 その他	2.7%
4 何か困った時に助け合う	20.9%	8 わからない (無回答)	22.2% 2.3%

①近所の外国人とのつき合いの程度（現在）

近所の外国人とのつき合いの程度としては、「全くつき合いがない」(45.7%)が4割台半ばで最も高くなっている。一方、「あいさつをする程度」(26.5%)は2割台半ばを超えている。

平成27年度と比較すると、いずれも大きな変化はみられない。(図表1-29)

図表1-29 近所の外国人とのつき合いの程度（現在）／平成27年度との比較

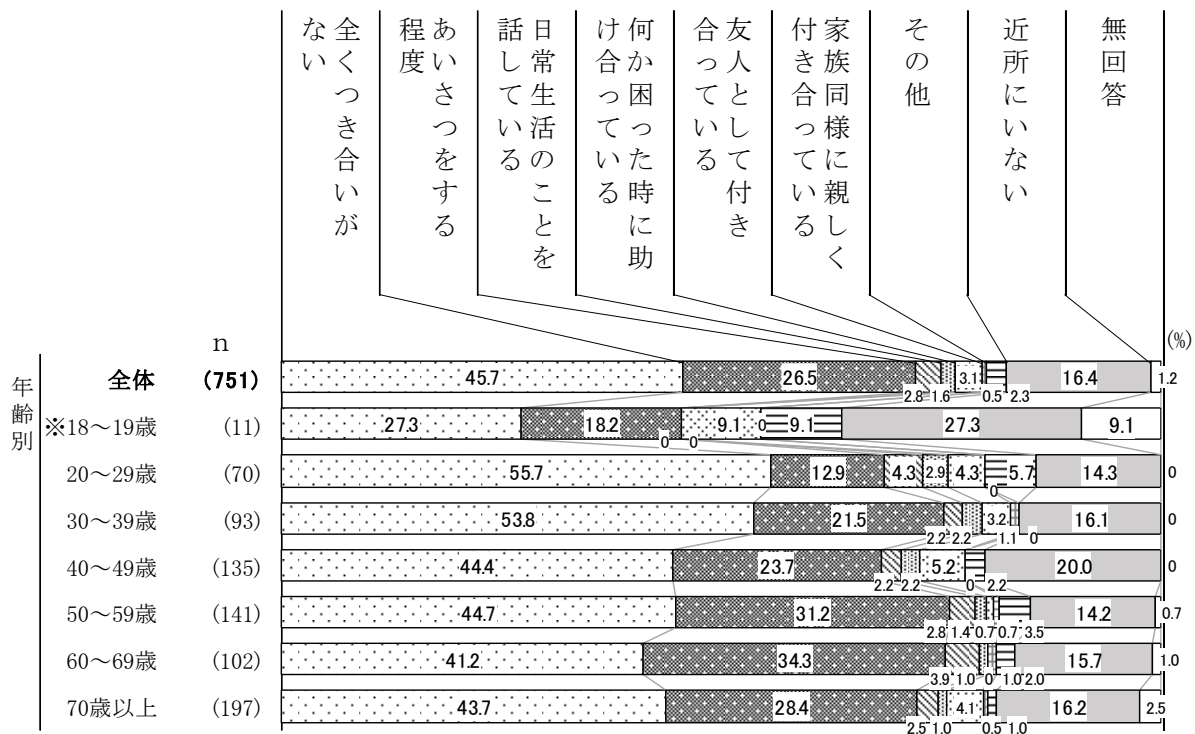


【年齢別】

「全くつき合いがない」は、“20～29歳”で5割台半ばと最も高く、次いで“30～39歳”で5割台半ば近くとなっている。「あいさつをする程度」は、“60～69歳”で3割台半ば近く、“50～59歳”で3割強となっている。

一方、「近所にいない」は、“40～49歳”で2割となっている。(図表1-30)

図表1-30 近所の外国人とのつき合いの程度(現在)《年齢別》

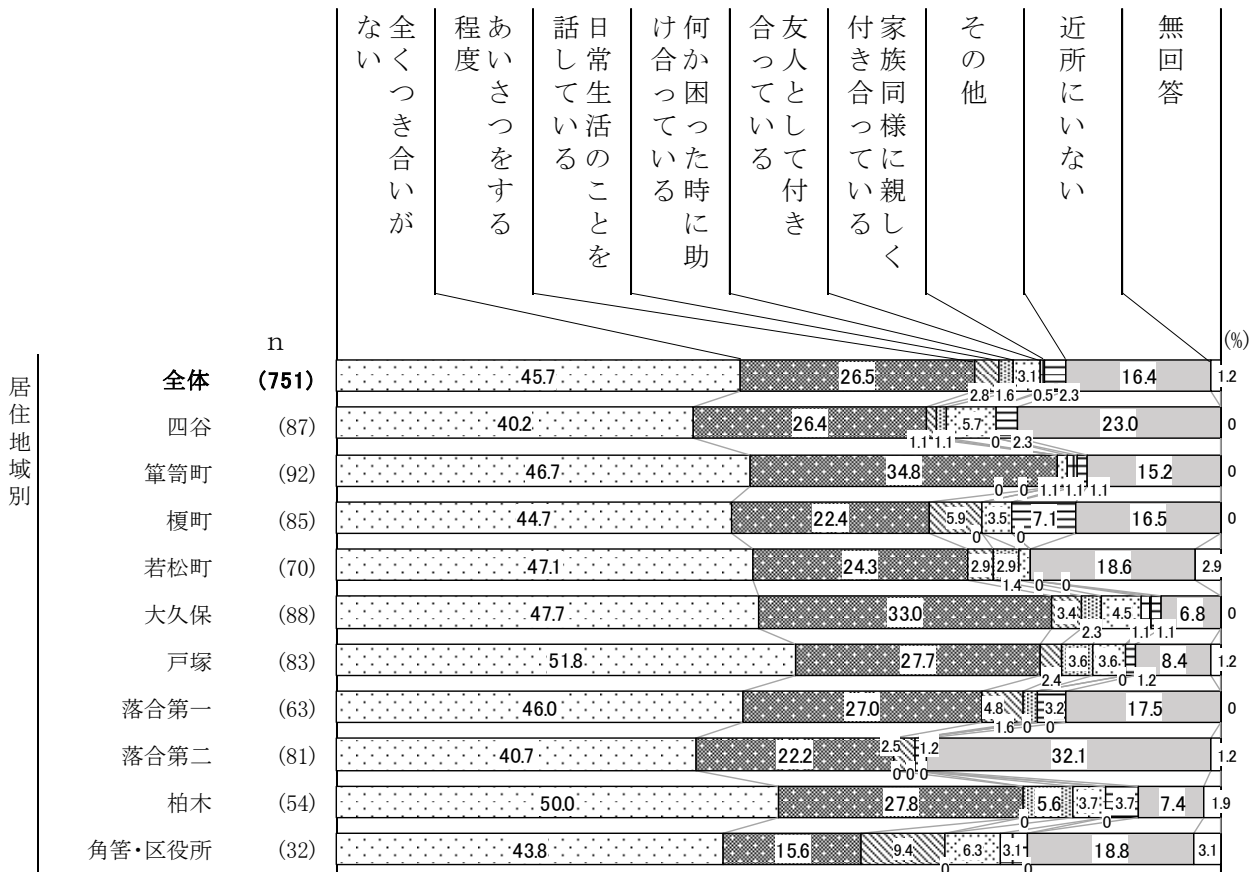


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【居住地域別】

「全くつき合いがない」は、“戸塚”で5割強、“柏木”で5割と高く、次いで「あいさつをする程度」は、“簞笥町”で3割台半ば近くと最も高く、次いで“大久保”で3割台半ば近くとなっている。また、「近所にいない」は、“落合第二”で3割強と最も高くなっている。(図表1-31)

図表1-31 近所の外国人とのつき合いの程度（現在）《居住地域別》

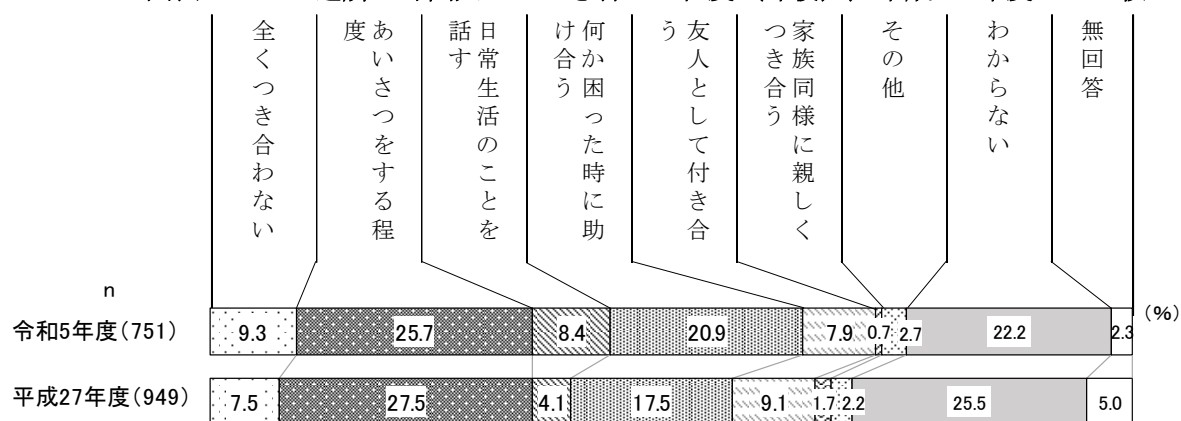


② 近所の外国人とのつき合いの程度（今後）

現在のつき合いの程度と対比する形で、今後のつき合いの程度を聞いたところ、「あいさつをする程度」（25.7%）が2割台半ばと最も高く、次いで「何か困った時に助け合う」が約2割となっている。また、「全くつき合わない」（9.3%）は1割を下回っている。

平成27年度と比較すると、いずれも大きな変化はみられない。（図表1-31）

図表1-31 近所の外国人とのつき合いの程度（今後）／平成27年度との比較



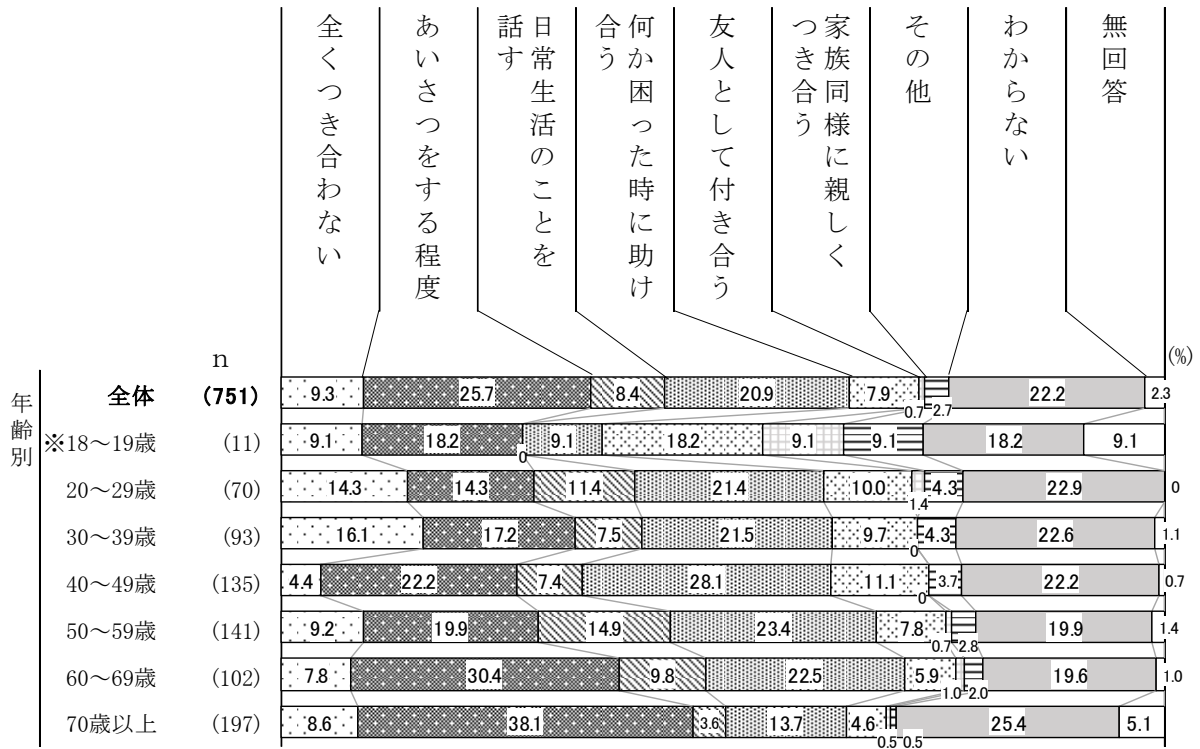
◆「その他」の記述（令和5年度）

機会があれば話す・状況に応じて話す[6人]、相手による[3人] など

【年齢別】

「あいさつをする程度」は、「70歳以上」で4割近くと最も高くなっており、次いで「60～69歳」で約3割となっている。「何か困った時に助け合う」は「40～49歳」で3割近くと高くなっている。(図表1-32)

図表1-32 近所の外国人とのつき合いの程度(今後)《年齢別》

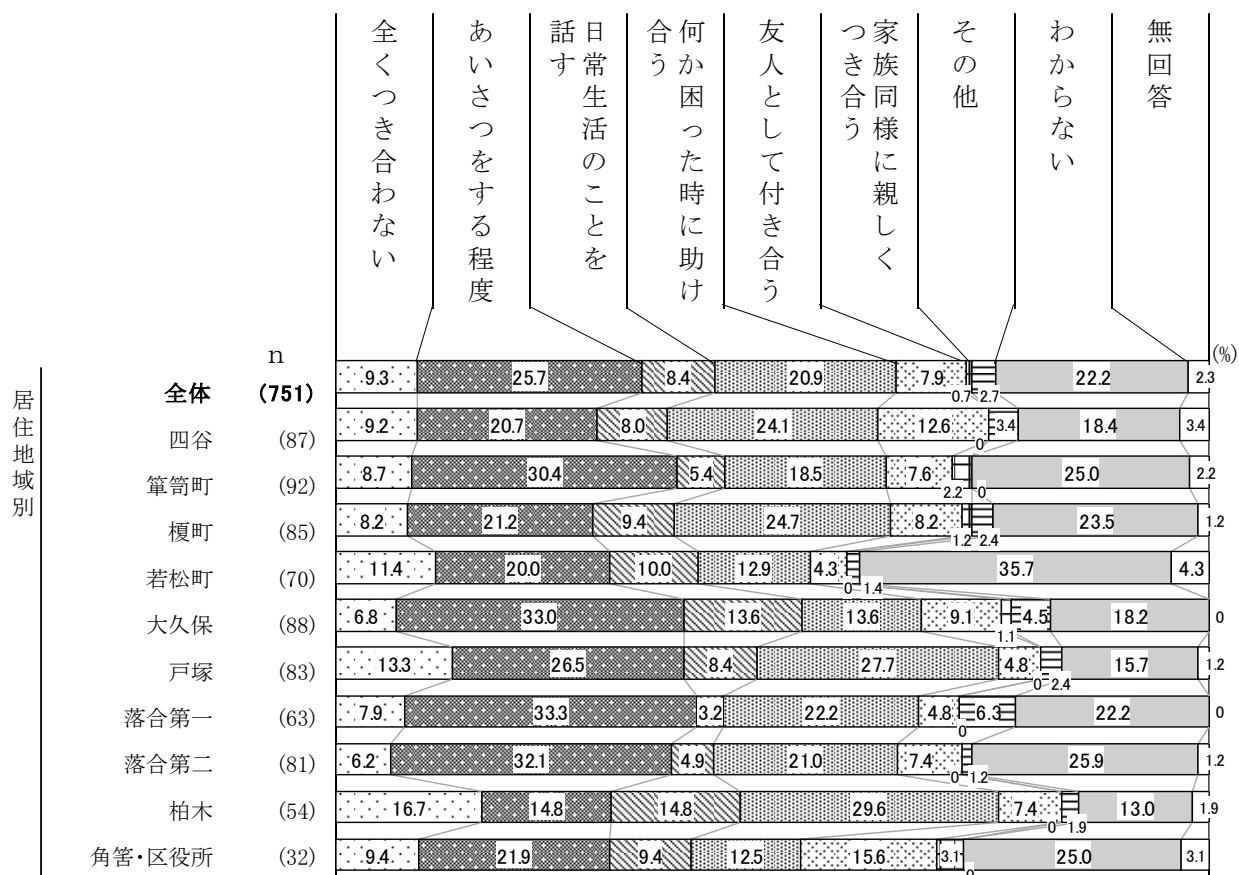


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【居住地域別】

“箆筒町”、“大久保”、“落合第一”、“落合第二”で「あいさつをする程度」が最も高い。“若松町”、“角筈・区役所”は「わからない」が最も高いものの、「あいさつをする程度」が2番目に高い。“柏木”で「全くつき合わない」が1割台半ばを超えているものの、「何か困った時に助け合う」が3割弱と最も高くなっている。(図表1-33)

図表1-33 近所の外国人との付き合いの程度(今後)《居住地域別》



(8) 外国人と生活していく上で大切なこと

◇「生活習慣の相互理解」が5割台半ばを超え最も高い

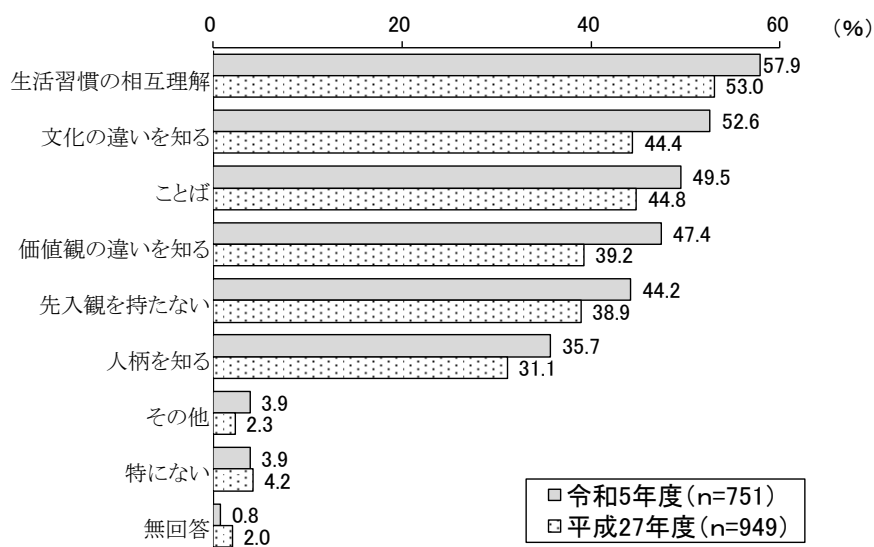
問 14 あなた自身が、同じ地域で外国人と生活していく上で大切なことは何だと思えますか。
(〇はいくつでも)
〔n = 751〕

1 ことば	49.5%	5 人柄を知る	35.7%
2 生活習慣の相互理解	57.9%	6 先入観を持たない	44.2%
3 価値観の違いを知る	47.4%	7 その他	3.9%
4 文化の違いを知る	52.6%	8 特にない	3.9%
		(無回答)	0.8%

外国人と生活していく上で大切なこととしては、「生活習慣の相互理解」(57.9%)が5割台半ばを超え最も高く、次いで「文化の違いを知る」(52.6%)が5割強、「ことば」(49.5%)と5割弱となっている。

平成27年度と比較すると、「文化の違いを知る」と「価値観の違いを知る」が8.2ポイント、「先入観を持たない」が5.3ポイント、それぞれ増加している。(図表1-34)

図表1-34 外国人と生活していく上で大切なこと(複数回答)／平成27年度との比較



◆「その他」の記述(令和5年度)

お互いに関われる機会や場所をつくる[2人] など

(9) 外国人とのトラブル経験

◇「特にない」が6割強で最も高いが、「ごみの出し方のルールのこと」が2割強、「部屋からの声・物音のこと」が1割台半ばを超えており、トラブルもある

問 15 あなたは今までに、外国人と関連して、近所で次のようなトラブルの経験がありますか。

(○はいくつでも)

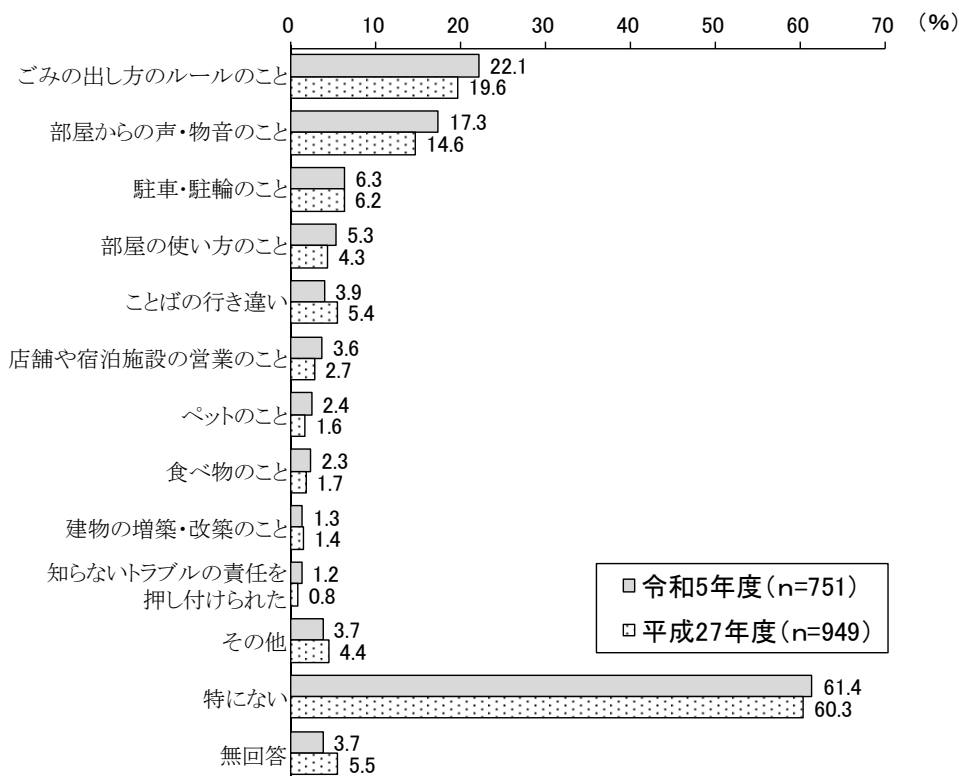
[n=751]

1	ごみの出し方のルールのこと	22.1%	8	部屋の使い方のこと	5.3%
2	部屋からの声・物音のこと	17.3%	9	知らないトラブルの責任を押し付けられた	1.2%
3	ペットのこと	2.4%	10	ことばの行き違い	3.9%
4	食べ物のこと	2.3%	11	その他	3.7%
5	駐車・駐輪のこと	6.3%	12	特にない	61.4%
6	建物の増築・改築のこと	1.3%		(無回答)	3.7%
7	店舗や宿泊施設の営業のこと	3.6%			

外国人とのトラブル経験が「特にない」(61.4%)が6割強である。一方で、全体から「特にない」(61.4%)・「無回答」(3.7%)の人数を減じてみると、全体の34.9%が何らかのトラブルを経験しており、今回の調査では、「ごみの出し方のルールのこと」(22.1%)が2割強、「部屋からの声・物音のこと」(17.3%)が1割台半ばを超えている。

平成27年度と比較すると、いずれも大きな変化はみられない。(図表1-35)

図表1-35 外国人とのトラブル経験(複数回答) / 平成27年度との比較



◆「その他」の記述(令和5年度)
生活音に関すること[6人]、喫煙[4人] など

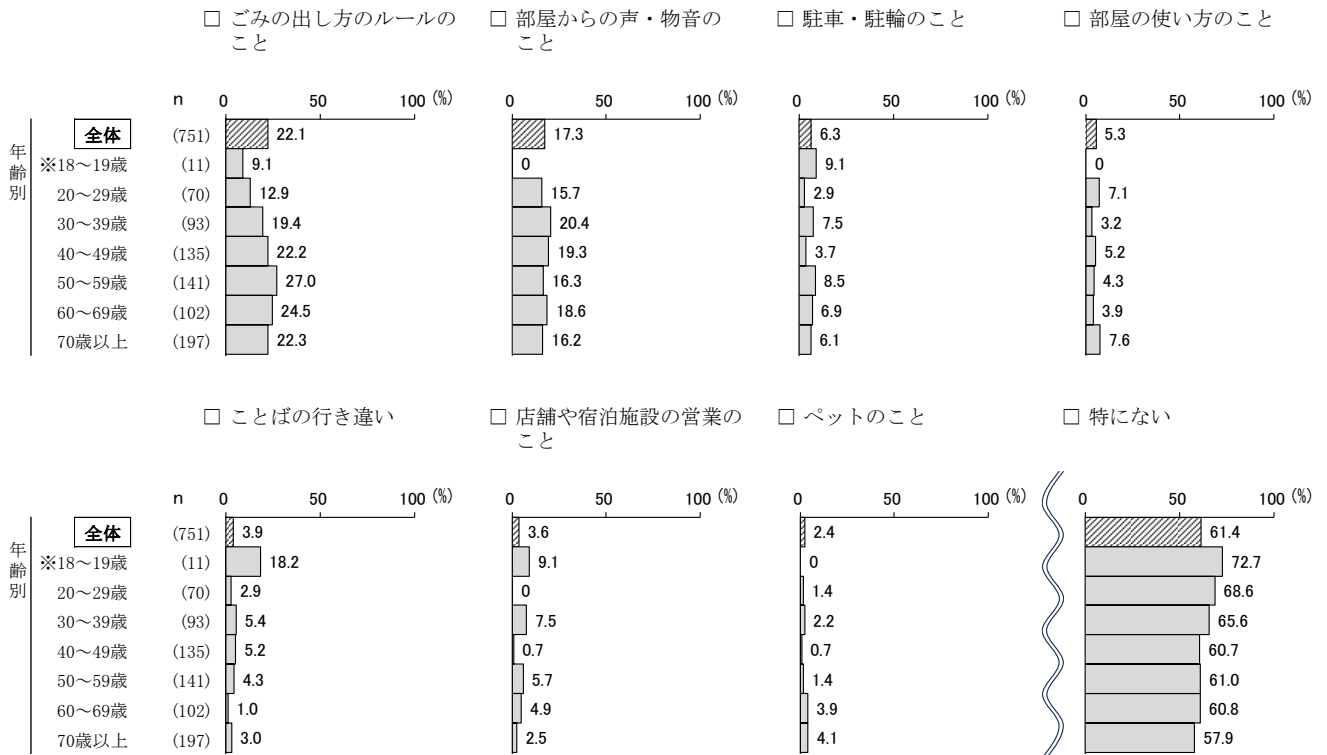
【年齢別】

上位7項目及び「特にない」について年齢別でみることにする。「特にない」が“20～29歳”で7割近くと高く、年齢が上がるほど低くなっている。

「ごみの出し方のルールのこと」は、“50～59歳”で2割台半ばを超え高くなっており、“40～49歳”以降で2割を超えている。「部屋からの声・物音のこと」は、年齢層の違いによる大きな差は見られない。

(図表1-36)

図表1-36 外国人とのトラブル経験《年齢別》(上位7項目+「特にない」)



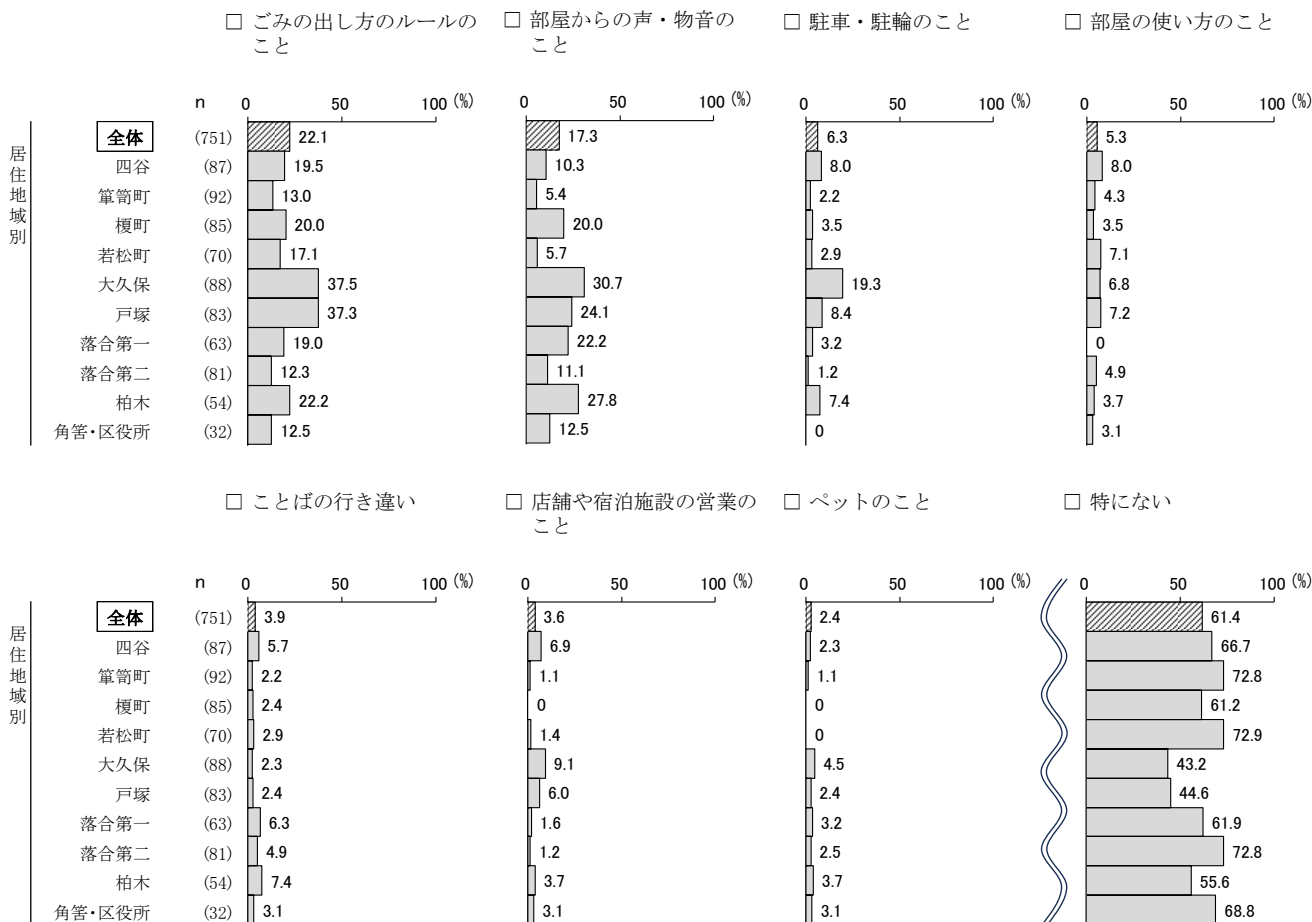
(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【居住地域別】

上位7項目及び「特にない」について居住地域別でみることにする。「特にない」が“箆筒町”、“若松町”、“落合第二”で7割強と高くなっている。

「ごみの出し方のルールのこと」は、“大久保”と“戸塚”で3割台半ばを超え最も高くなっている。“大久保”は、「部屋からの声・物音のこと」と「駐車・駐輪のこと」で他よりやや高くなっている。(図表1-37)

図表1-37 外国人とのトラブル経験《居住地域別》(上位7項目+「特にない」)



(10) 日本人から外国人に対する偏見や差別

◇日本人から外国人に対する偏見や差別が《あると思う》が5割台半ばを超え、《ないと思う》の2割台半ば超えを上回る

◇偏見や差別があると思うときは「住まいを探すとき」が4割強で最も高く、「近所の人との付き合いのとき」が3割台半ばを超える

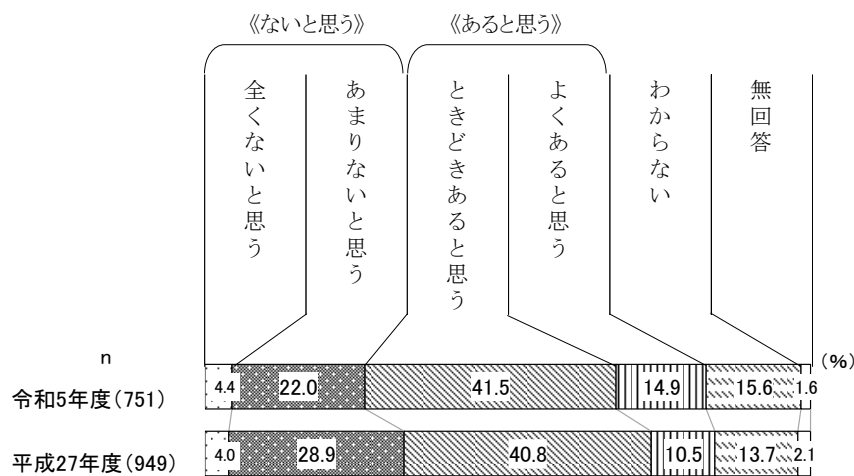
<p>問 16 あなたは、日本人から外国人に対する偏見や差別があると思いますか。(○は1つだけ)</p> <p>[n = 751]</p>					
1	全くないと思う	4.4%	3	ときどきあると思う	41.5%
2	あまりないと思う	22.0%	4	よくあると思う	14.9%
			5	わからない	15.6%
				(無回答)	1.6%
<p><u>(問 16 で、「3 ときどきあると思う」か「4 よくあると思う」とお答えの方に)</u></p>					
<p>問 16-1 偏見・差別はどのような場合にあると思いますか。(○はいくつでも)</p> <p>[n = 424]</p>					
1	公的機関などの手続きのとき	21.0%	7	社会保障制度のこと	25.5%
2	日本人の友人との付き合いのとき	14.9%	8	電車・バス等に乗っているとき	16.3%
3	近所の人との付き合いのとき	36.3%	9	出産・育児の場面	8.7%
4	住まいを探すとき	42.5%	10	学校など教育の場	26.7%
5	自分や家族が結婚するとき	24.5%	11	仕事するとき	25.9%
6	法制度のこと	23.6%	12	その他	6.8%
				(無回答)	2.8%
<p><u>(問 16 で、「3 ときどきあると思う」か「4 よくあると思う」とお答えの方に)</u></p>					
<p>問 16-2 あなたの身近で偏見・差別があれば教えてください。自由に記入してください。</p> <p>回答は任意です。</p>					

①日本人から外国人に対する偏見や差別の有無

「ときどきあると思う」(41.5%)が4割強と最も高くなっており、「よくあると思う」(14.9%)と合わせると、《あると思う》(56.4%)が5割台半ばを超えている。一方、「全くないと思う」(4.4%)と「あまりないと思う」(22.0%)を合わせた《ないと思う》(26.4%)が2割台半ばを超えており、《あると思う》が《ないと思う》を大きく上回っている。

平成27年度と比較すると、《ないと思う》が6.5ポイント減少しており、《あると思う》が5.1ポイント増加している。(図表1-38)

図表1-38 日本人から外国人に対する偏見や差別の有無/平成27年度との比較

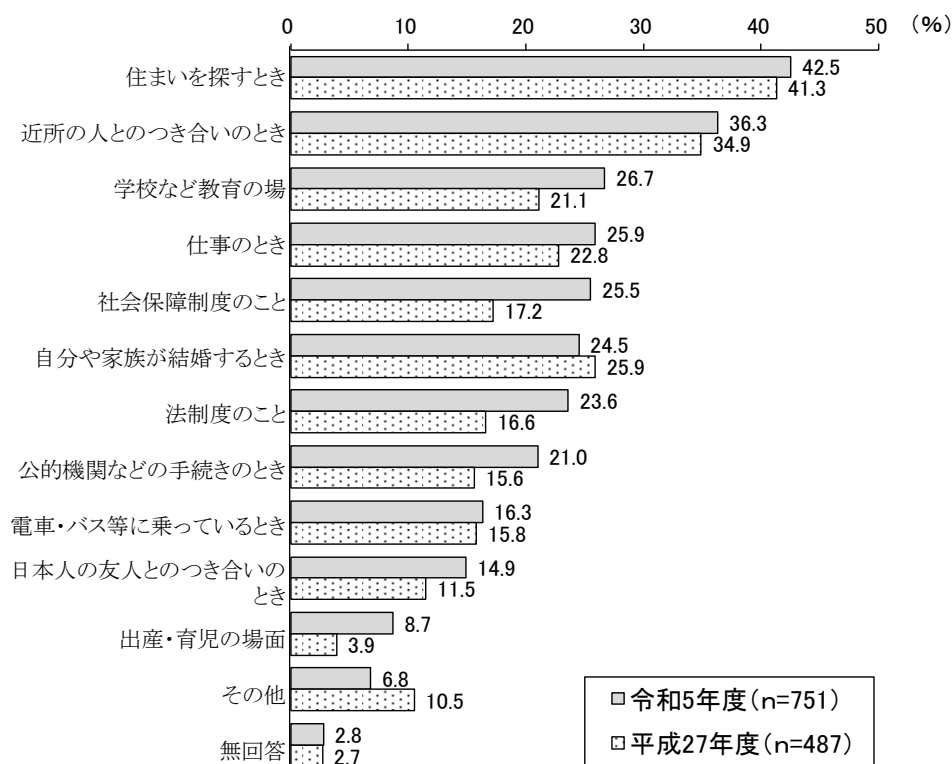


②偏見・差別があると思われるとき

問 16 で、日本人から外国人に対する偏見や差別が《あると思う》と回答した人に、どのような場合にあると思うかを聞いたところ、「住まいを探すとき」(42.5%) が 4 割強で最も高く、次いで「近所の人との付き合いのとき」(36.3%) は 3 割台半ばを超え、「学校など教育の場」(26.7%) は 2 割台半ばを超えている。

平成 27 年度と比較すると、「学校など教育の場」が 5.6 ポイント増加し、順位も 5 位から 3 位に上がっている。また、「社会保障制度のこと」が 8.3 ポイント、「法制度のこと」が 7.0 ポイント、「公的機関などの手続きのとき」が 5.4 ポイント、それぞれ増加している。(図表 1-39)

図表 1-39 偏見・差別があると思われるとき(複数回答) / 平成 27 年度との比較



◆「その他」の記述(令和5年度)

見た目・雰囲気[3人]、国・人種によって[3人] など

③身近な偏見・差別（自由記述）

身近な偏見・差別について、自由記述でたずねたところ、主に次のような意見があげられた。

【住まいを探すとき】

- 賃貸契約が自由に出来ない。
- 賃貸契約の時に外国人お断りとなっているケースを散見する。
- 引越し先を探す時に、大家さんに外国籍だから断られた。（国によっても違いあり）

【近所の人との付き合いのとき】

- ゴミ出しのルール徹底の張り紙をした時、中国語で書いてあった。あたかも中国語を母国語とする人に対してのものだと思った。
- 自分が住んでいる町内では、町内会の人達が積極的に海外から来た居住者を受け入れていると感じる。
- 家の周囲に住んでいる中国人のグループのゴミ出しルールの違反や不法投棄が多いこともあり、日本人の方々が中国人全体を嫌う発言をしているのを良く聞く。

【学校など教育の場】

- あそこは外国人だからと子供の保護者同士の付き合いで最初から除外される。
- 両親もしくは片親が外国人だから教育方針の違いで子供が変わっているという評価を受ける。

【飲食店で】

- レストランで、自分の理解できない言語（特に英語以外）を話す人を白い目で見たり、欧米人とそれ以外の人への接客態度が異なったりする。
- 飲食店で、外国人お断りのお店がある。

【外国人に対する勝手なイメージ】

- 外国人配偶者がいる日本人でも変わり者扱いを受ける。
- 東南アジア人というだけで貧しいというイメージを持たれる。
- 外国人というだけで、抵抗感を持つ人がいる。
- 外国企業で働いたことがある日本人とそうでない日本人の間でも考えが違うが、そうでない日本人は一般的な外国人のイメージで結果を決めつけたがる傾向にある。（だから外国人はそうなんだ！みたいな、なんの根拠もない決めつけ）。実際には日本人でも同じ傾向があるにもかかわらず。
- 「〇〇人は××な国民性だから嫌いだ」と言った発言をする人がいる。
- どこの国の人にはマナーが悪い、どこの国の人だから大声で話しながら街中を歩く、などの意見を聞くことがある。

【その他】

- Twitter (X) には偏見や差別が蔓延っている。

- かなり差別をするのはごく一部の人のみだが、程度の差はあれ多くの人に偏見はあるように感じる。
- あからさまに人種の差別をする人は都会には少ないが、考え方や行動の違いを小馬鹿にしたり見下すシーンはよく見かける。
- 働きたいのに日本で働く在留資格や国籍が取得出来ない。
- 友人が外国籍を理由に結婚時に差別を受けた。

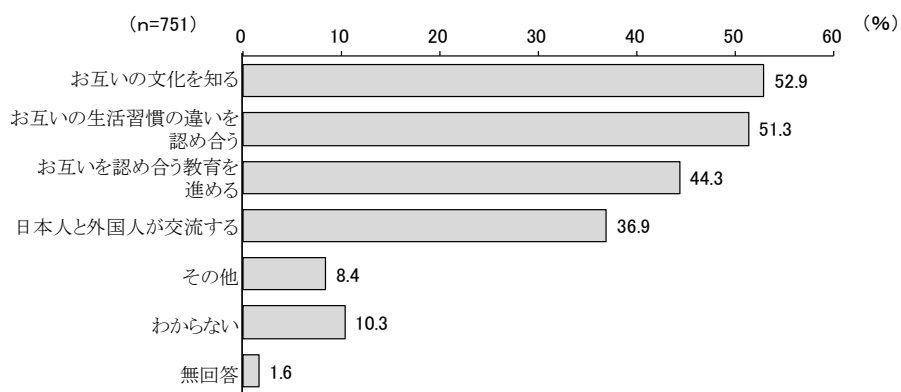
(11) 偏見・差別をなくすために必要だと思うこと

◇偏見や差別をなくすために必要なことは「お互いの文化を知る」が5割強で最も高い

問 17 偏見・差別をなくすためには、何が必要だと思いますか。(○はいくつでも)					
〔n = 751〕					
1	日本人と外国人が交流する	36.9%	4	お互いの生活習慣の違いを認め合う	51.3%
2	お互いを認め合う教育を進める	44.3%	5	その他	8.4%
3	お互いの文化を知る	52.9%	6	わからない	10.3%
				(無回答)	1.6%

偏見・差別をなくすために必要なこととしては、「お互いの文化を知る」(52.9%)が5割強で最も高く、次いで「お互いの生活習慣の違いを認め合う」(51.3%)は5割強、「お互いを認め合う教育を進める」(44.3%)は4割台半ば近くとなっている。(図表1-40)

図表 1-40 偏見・差別をなくすために必要だと思うこと (複数回答)



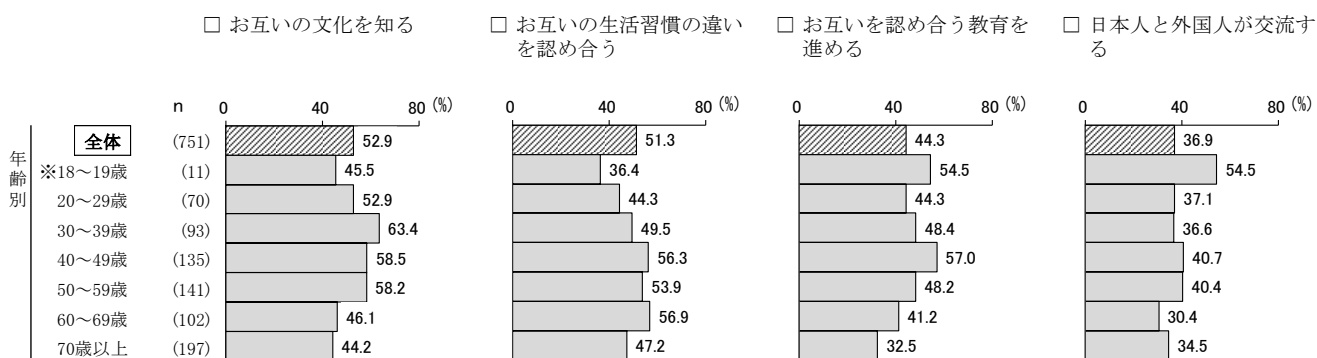
◆「その他」の記述 (令和5年度)

日本の文化・慣習を理解して行動すること[16人]、コミュニケーションの場をつくる[6人]、日本語を話すこと・上達させること[5人]、日本の慣習・文化・マナー・常識についての教育[4人] など

【年齢別】

「お互いの文化を知る」は“30～39歳”で6割台半ば近くと最も高く、次いで“40～49歳”、“50～59歳”で6割近くとなっている。「お互いの生活習慣の違いを認め合う」は“40～49歳”と“60～69歳”で5割台半ばを超え、“50～59歳”で5割台半ば近くとなっている。「お互いを認め合う教育を進める」は“40～49歳”で5割台半ばを超えている。(図表1-41)

図表1-41 偏見・差別をなくすために必要だと思うこと《年齢別》



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

2 災害時・緊急時の協力

(1) 新宿区に望む災害対策

◇「避難場所の掲示等に外国語を併記する」が5割台半ばを超え最も高い

問 18 あなたは、新宿区に対して、どのような（外国人を含めた）災害対策を望みますか。

（〇はいくつでも）

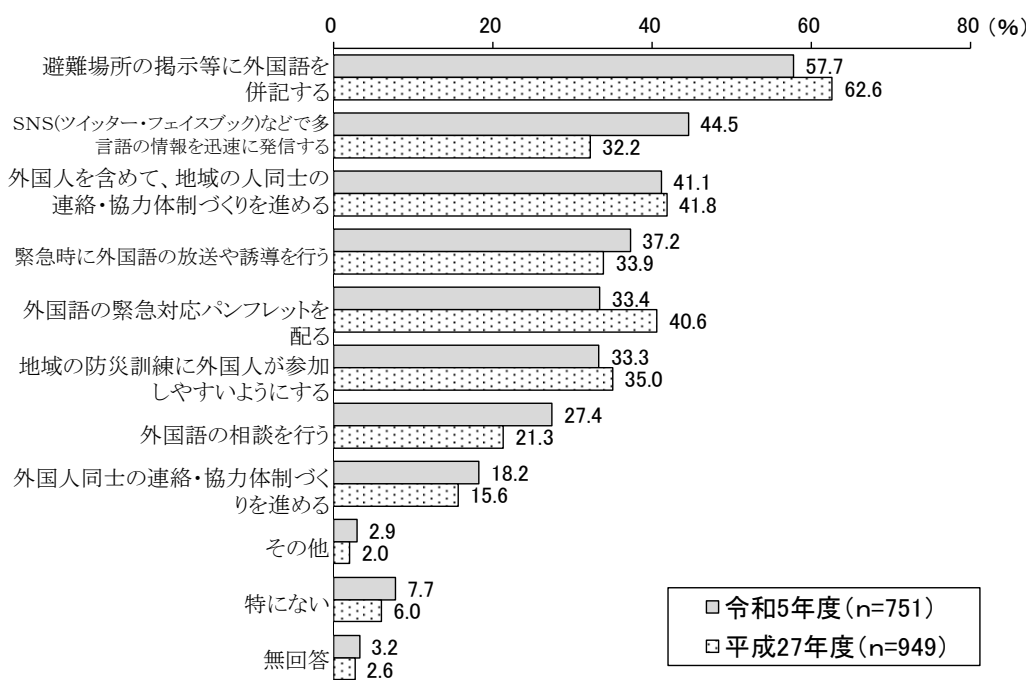
〔n = 751〕

1 避難場所の掲示等に外国語を併記する	57.7%
2 外国語の緊急対応パンフレットを配る	33.4%
3 緊急時に外国語の放送や誘導を行う	37.2%
4 SNS（ツイッター・フェイスブック）などで多言語の情報を迅速に発信する	44.5%
5 外国語の相談を行う	27.4%
6 地域の防災訓練に外国人が参加しやすいようにする	33.3%
7 外国人を含めて、地域の人同士の連絡・協力体制づくりを進める	41.1%
8 外国人同士の連絡・協力体制づくりを進める	18.2%
9 その他	2.9%
10 特にない	7.7%
（無回答）	3.2%

新宿区に望む災害対策としては、「避難場所の掲示等に外国語を併記する」(57.7%)が5割台半ばを超え最も高く、次いで「SNS(ツイッター・フェイスブック)などで多言語の情報を迅速に発信する」(44.5%)は4割台半ば近く、「外国人を含めて、地域の人同士の連絡・協力体制づくりを進める」(41.1%)は4割強となっている。

平成27年度と比較すると、「SNS(ツイッター・フェイスブック)などで多言語の情報を迅速に発信する」が12.3ポイント、「外国語の相談を行う」が6.1ポイント、それぞれ増加し、「外国語の緊急対応パンフレットを配る」が7.2ポイント減少している。(図表2-1)

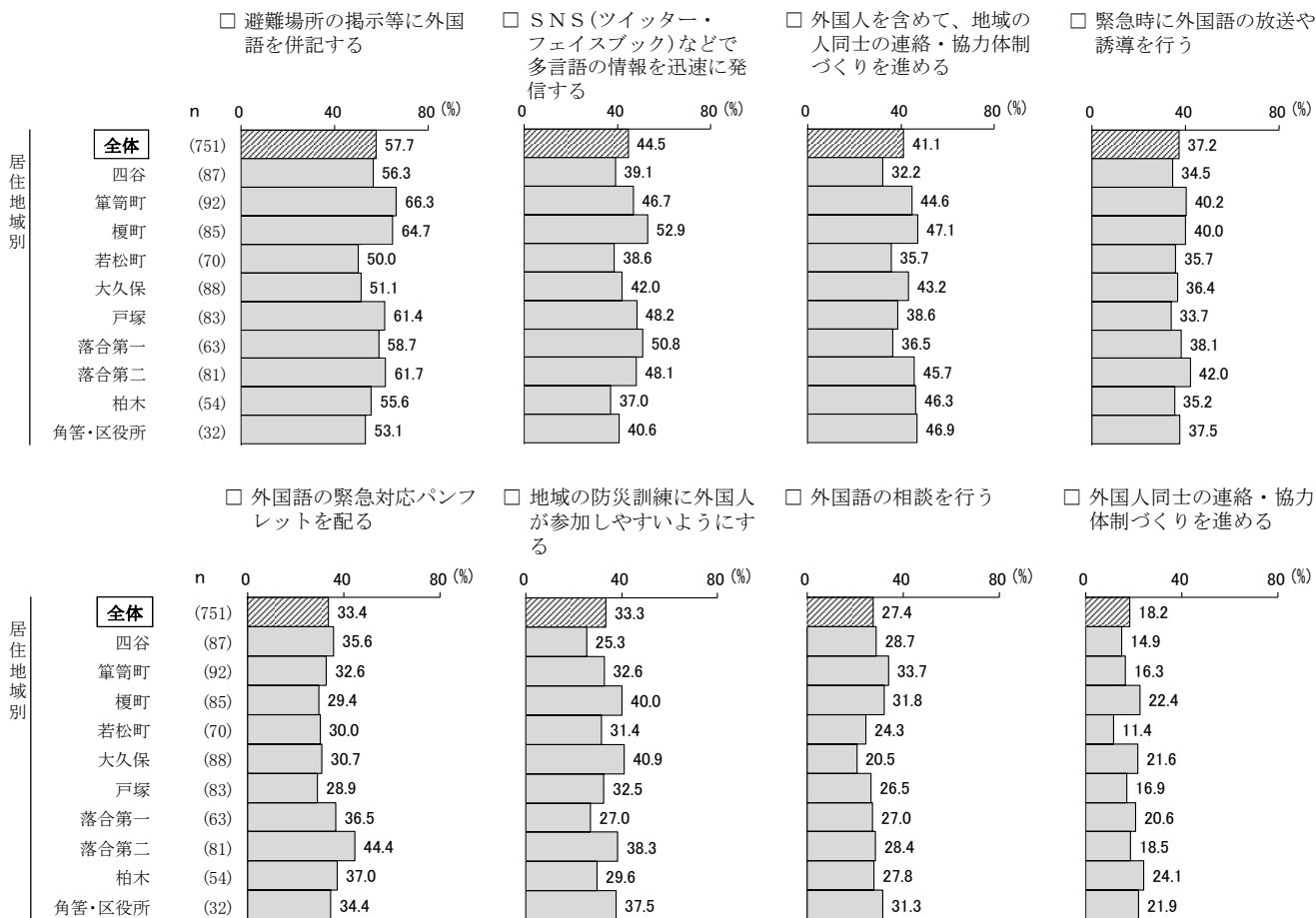
図表2-1 新宿区に望む災害対策(複数回答) / 平成27年度との比較



【居住地域別】

「避難場所の掲示等に外国語を併記する」は、いずれの居住地域でも5割を超えている。「SNS（ツイッター・フェイスブック）などで多言語の情報を迅速に発信する」は“榎町”で5割強、“落合第一”が約5割と高くなっている。（図表2-2）

図表2-2 新宿区に望む災害対策《居住地域別》



3 多文化共生のまちづくり

(1) 多文化共生社会という言葉の認知度

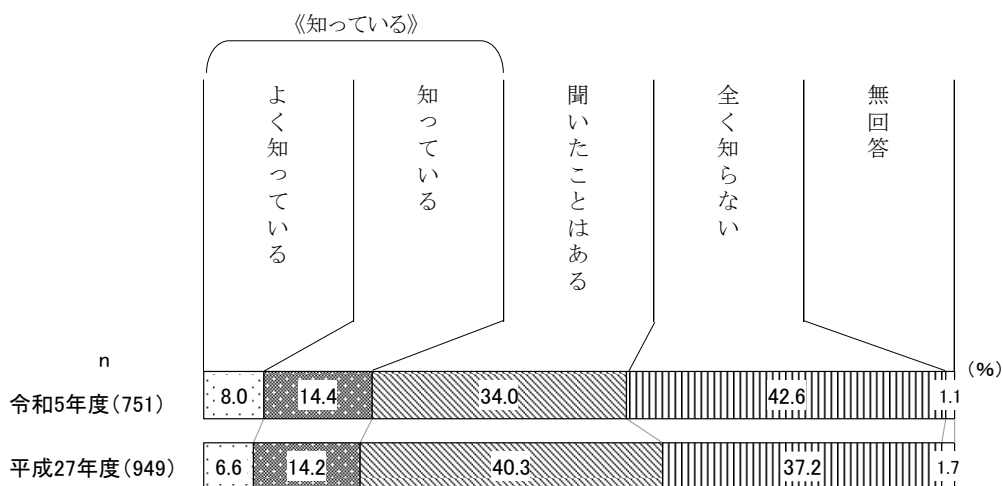
◇ 《知っている》は2割強、「聞いたことはある」は3割台半ば近く

<p>問 19 『多文化共生社会』という言葉があります。この言葉は、「国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め、理解し、地域で共に生きていく社会」を言います。あなたは、この言葉を見たり聞いたりしたことがありますか。(○は1つだけ)</p> <p>[n=751]</p>					
1	よく知っている	8.0%	3	聞いたことはある	34.0%
2	知っている	14.4%	4	全く知らない	42.6%
				(無回答)	1.1%

多文化共生社会という言葉を「よく知っている」(8.0%)と「知っている」(14.4%)を合わせた《知っている》(22.4%)は2割強となっている。一方、「全く知らない」(42.6%)が4割強と最も高く、また、「聞いたことはある」(34.0%)が3割台半ば近くとなっている。

平成27年度と比較すると、「聞いたことはある」が6.3ポイント減少し、「全く知らない」が5.4ポイント増加している。(図表3-1)

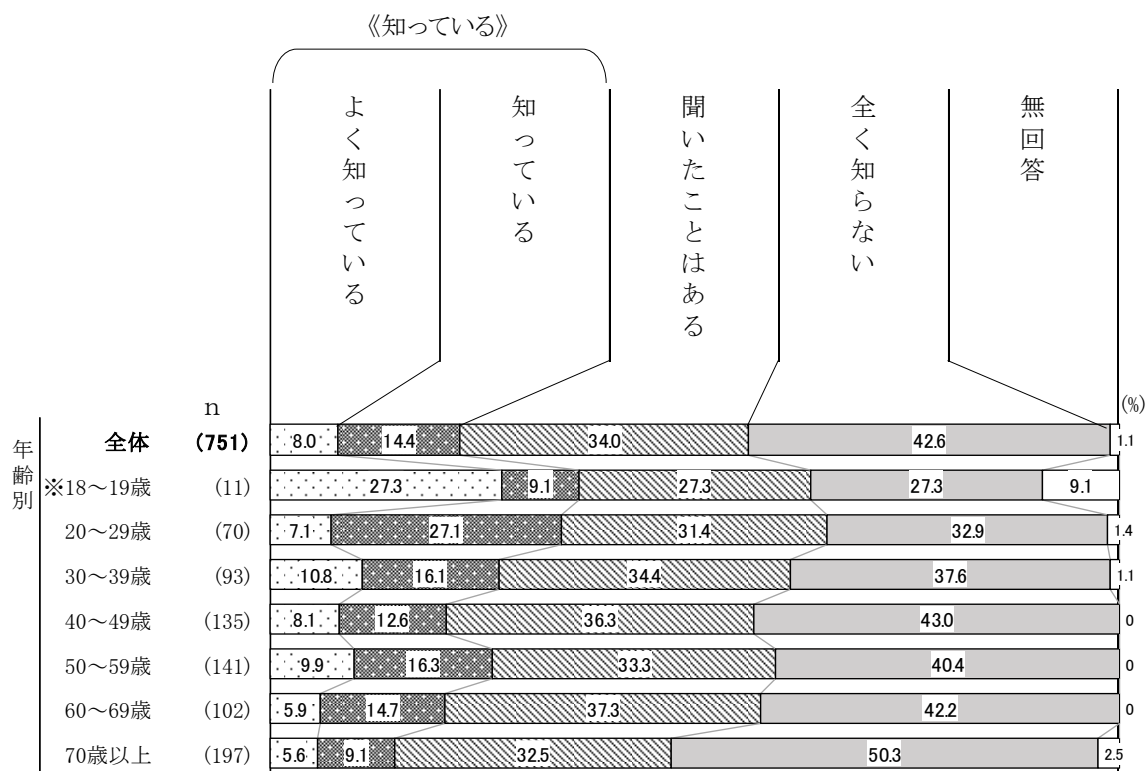
図表3-1 多文化共生社会という言葉の認知度/平成27年度との比較



【年齢別】

《知っている》は、“20～29歳”で3割台半ば近くと最も高くなっている。また、いずれの年齢層でも「全く知らない」が最も高く、特に、“70歳以上”で「全く知らない」が約5割と最も高くなっている。
 (図表3-2)

図表3-2 多文化共生社会という言葉の認知度《年齢別》



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

(2) しんじゅく多文化共生プラザについて

◇しんじゅく多文化共生プラザを《知っていた》(15.7%)は1割台半ば

問 20 新宿区では、日本人と外国人の交流施設「しんじゅく多文化共生プラザ」を設置して、日本語学習、資料・情報の提供、交流会や講座等を行っています。

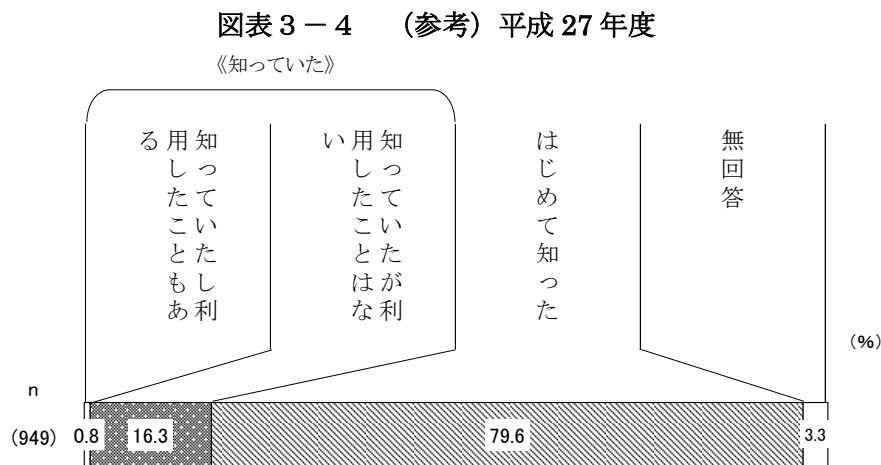
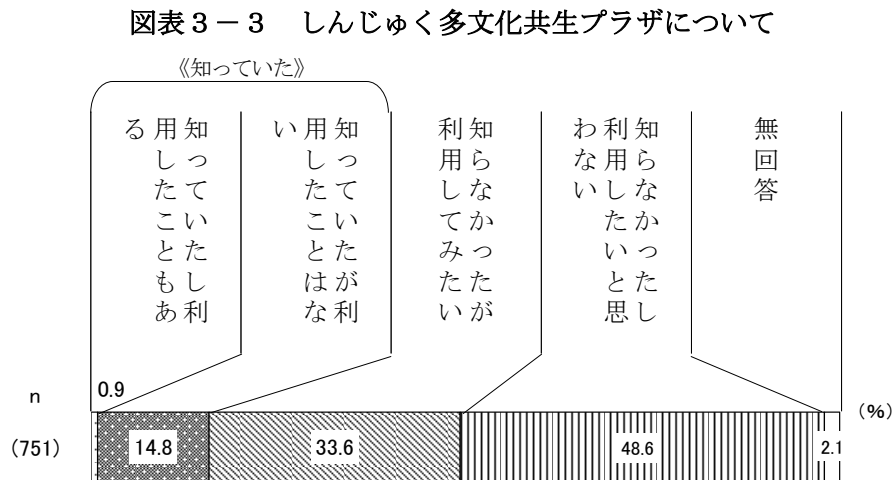
あなたは、この施設を知っていましたか。(○は1つだけ)

[n=751]

1 知っていたし利用したこともある	0.9%	3 知らなかったが利用してみたい	33.6%
2 知っていたが利用したことはない	14.8%	4 知らなかったし利用したいと思わない	48.6%
		(無回答)	2.1%

しんじゅく多文化共生プラザを「知っていたし利用したこともある」(0.9%)と「知っていたが利用したことはない」(14.8%)を合わせた《知っていた》(15.7%)は1割台半ばにとどまっている。一方、「知らなかったし利用したいと思わない」(48.6%)が5割近くで最も高く、次いで、「知らなかったが利用してみたい」(33.6%)が3割台半ば近くとなっている。(図表3-3)

平成27年度にも同様の設問を聞いているが、項目の内容を変更しているため、参考として掲載する。(図表3-4)



(3) しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの

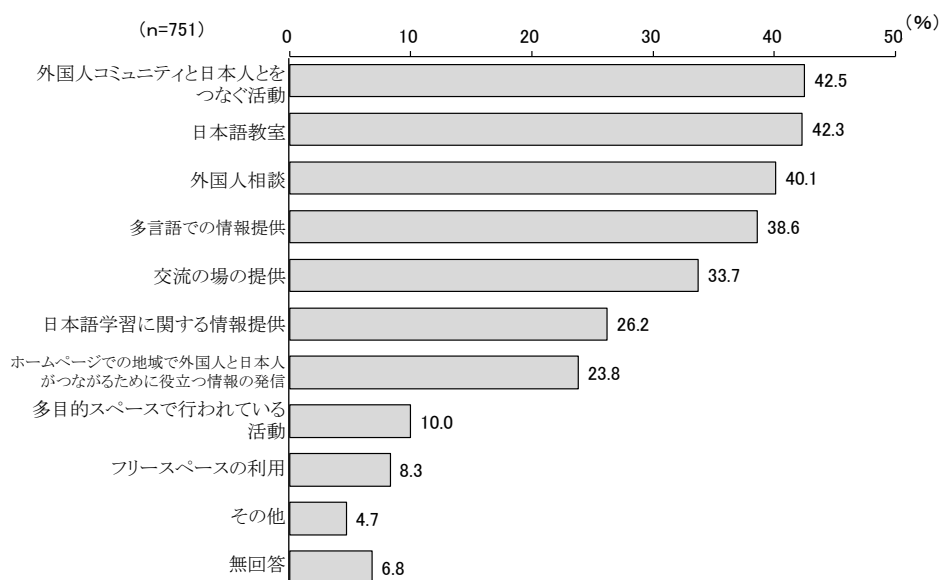
◇「外国人コミュニティと日本人とをつなぐ活動」と「日本語教室」が4割強

問 21 しんじゅく多文化共生プラザの機能で特に大事だと思うものはなんですか。
(〇はいくつでも)
[n=751]

1	日本語教室	42.3%	7	ホームページでの地域で外国人と日本人がつながるために役立つ情報の発信	23.8%
2	外国人相談	40.1%	8	外国人コミュニティと日本人とをつなぐ活動	42.5%
3	多言語での情報提供	38.6%	9	交流の場の提供	33.7%
4	多目的スペースで行われている活動	10.0%	10	その他	4.7%
5	フリースペースの利用	8.3%		(無回答)	6.8%
6	日本語学習に関する情報提供	26.2%			

しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うものは、「外国人コミュニティと日本人とをつなぐ活動」(42.5%)と「日本語教室」(42.3%)が4割強で1番目と2番目となっている。次いで「外国人相談」(40.1%)で約4割、「多言語での情報提供」(38.6%)で4割近くとなっている。(図表3-5)

図表3-5 しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの(複数回答)



◆「その他」の記述

日本の慣習・ルール・文化・道徳の教育[7人]、わからない・特にない[5人] など

(4) 多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこと

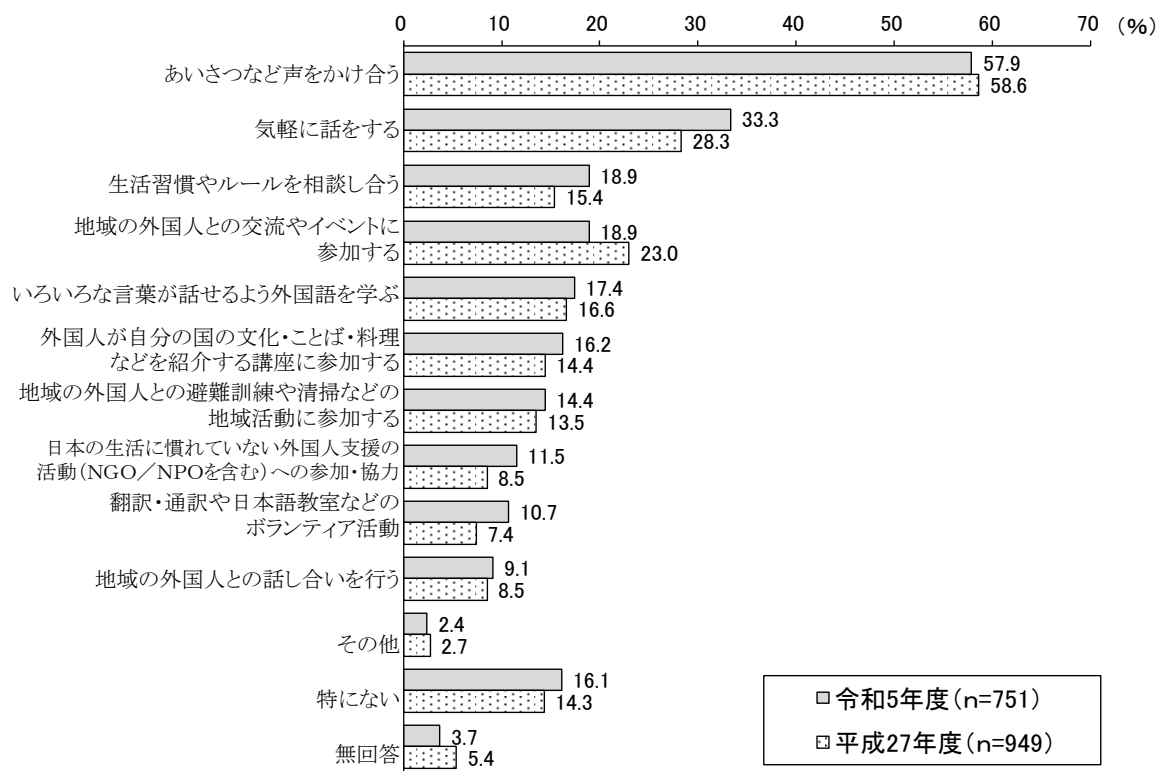
◇「あいさつなど声をかけ合う」が5割台半ばを超え最も高い

問 22 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、あなたは何ができると思いますか。 (〇はいくつでも)	
〔n = 751〕	
1 あいさつなど声をかけ合う	57.9%
2 気軽に話をする	33.3%
3 生活習慣やルールを相談し合う	18.9%
4 地域の外国人との話し合いを行う	9.1%
5 地域の外国人との交流やイベントに参加する	18.9%
6 地域の外国人との避難訓練や清掃などの地域活動に参加する	14.4%
7 外国人が自分の国の文化・ことば・料理などを紹介する講座に参加する	16.2%
8 いろいろな言葉が話せるよう外国語を学ぶ	17.4%
9 翻訳・通訳や日本語教室などのボランティア活動	10.7%
10 日本の生活に慣れていない外国人支援の活動（NGO/NPOを含む）への参加・協力	11.5%
11 その他	2.4%
12 特にない	16.1%
(無回答)	3.7%

多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこととしては、「あいさつなど声をかけ合う」(57.9%)が5割台半ばを超え最も高く、次いで「気軽に話をする」(33.3%)は3割台半ば近く、「生活習慣やルールを相談し合う」(18.9%)、「地域の外国人との交流やイベントに参加する」(18.9%)は2割近くとなっている。

平成27年度と比較すると、「気軽に話をする」が5.0ポイント増加している。(図表3-6)

図表3-6 多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこと（複数回答）
／平成27年度との比較



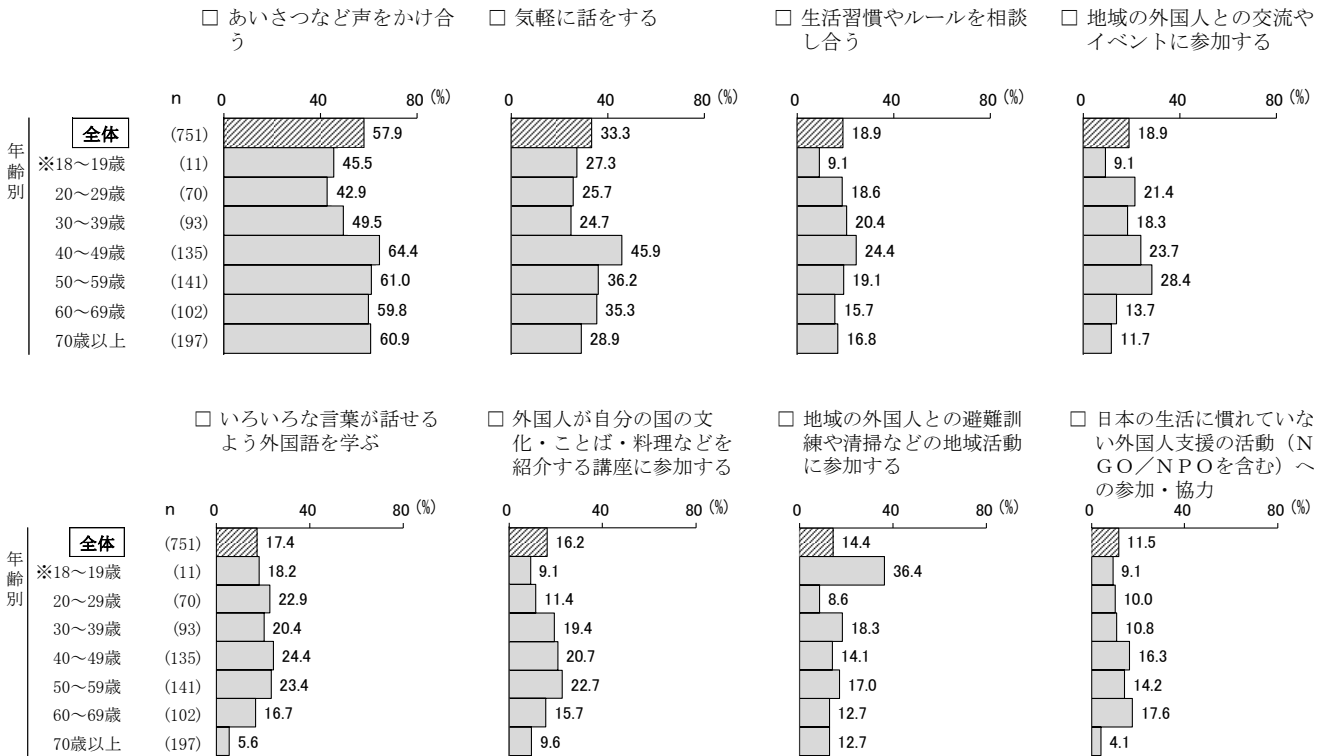
◆「その他」の記述（令和5年度）

外国人を特別扱いせず日本人と同様に接する[3人]、子供たちが他国を勉強できる場をつくる[2人] など

【年齢別】

上位8項目について年齢別でみると、「あいさつなど声をかけ合う」は、いずれの年齢層でも最も高くなっており、“40～49歳”で6割台半ば近くと最も高く、次いで“50～59歳”で6割強、“70歳以上”で約6割となっている。「気軽に話をする」でも“40～49歳”が最も高く、4割台半ばとなっている。(図表3-7)

図表3-7 多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこと《年齢別》(上位8項目)

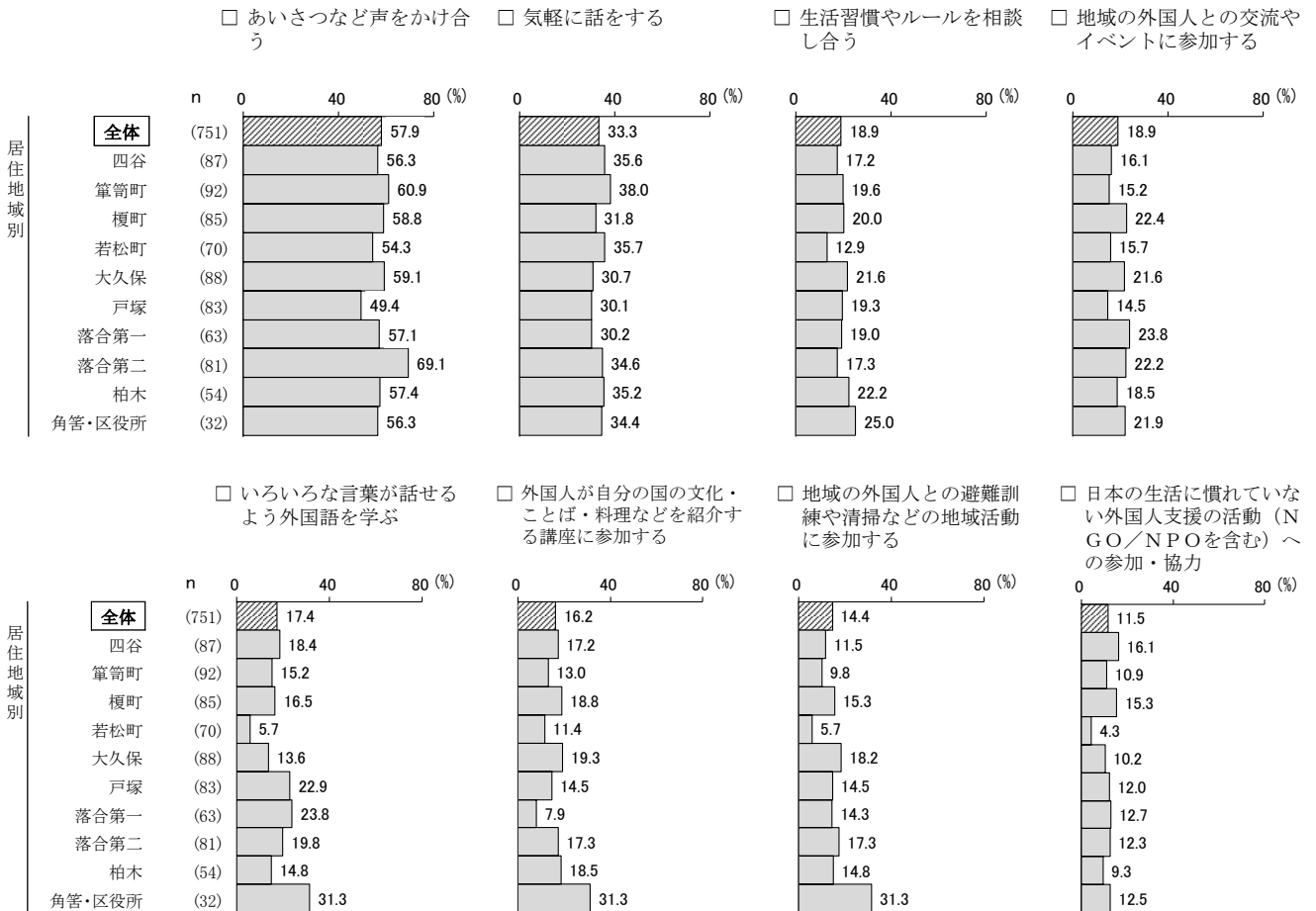


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【居住地域別】

上位8項目について居住地域別でみると、「あいさつなど声をかけ合う」は、“落合第二”で7割弱と最も高くなっている。“角筈・区役所”で「いろいろな言葉が話せるよう外国語を学ぶ」、「外国人が自分の国の文化・ことば・料理などを紹介する講座に参加する」、「地域の外国人との避難訓練や清掃などの地域活動に参加する」がいずれも3割強と他の地域より高くなっている。(図表3-8)

図表3-8 多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこと《居住地域別》(上位8項目)



(5) 多文化共生のまちづくりを進めるために新宿区が力を入れるべきだと思うこと

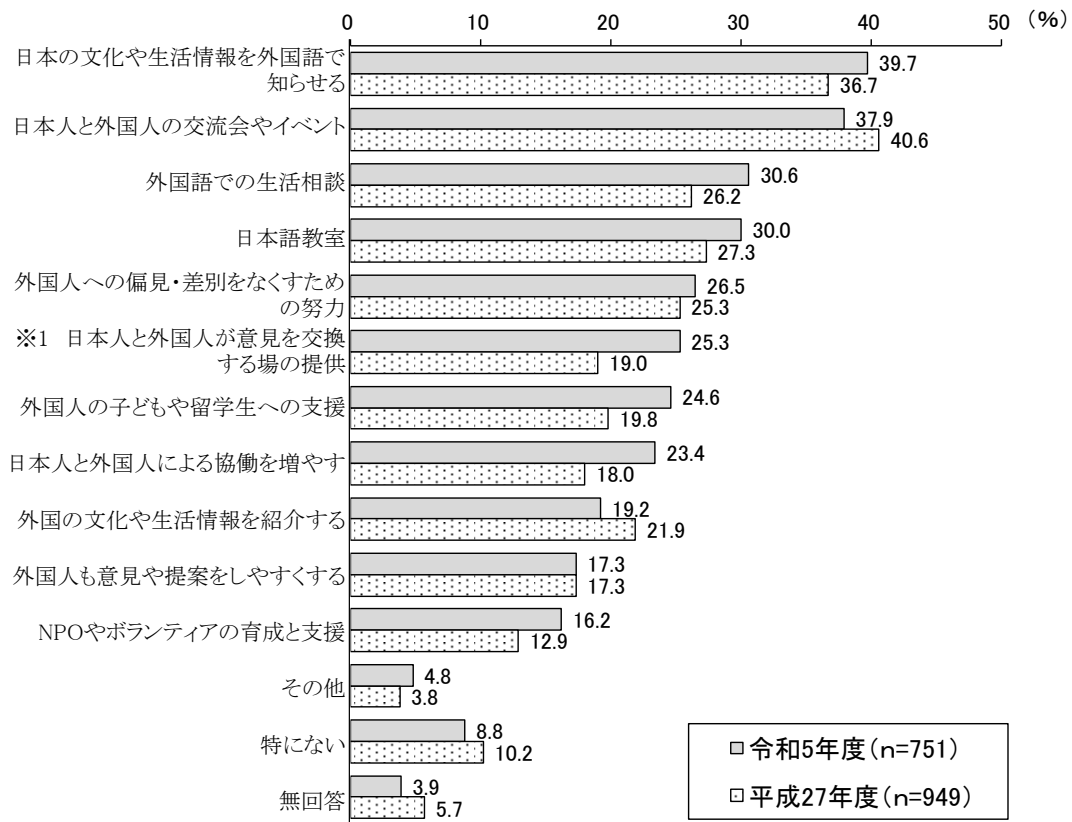
◇「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」が4割弱で最も高く、2番目の「日本人と外国人の交流会やイベント」は3割台半ばを超える

問 23 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、今後の区の対応として、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)		
〔n = 751〕		
1	日本人と外国人の交流会やイベント	37.9%
2	日本の文化や生活情報を外国語で知らせる	39.7%
3	外国の文化や生活情報を紹介する	19.2%
4	外国語での生活相談	30.6%
5	日本語教室	30.0%
6	日本人と外国人が意見を交換する場の提供	25.3%
7	日本人と外国人による協働を増やす	23.4%
8	NPOやボランティアの育成と支援	16.2%
9	外国人への偏見・差別をなくすための努力	26.5%
10	外国人の子どもや留学生への支援	24.6%
11	外国人も意見や提案をしやすくする	17.3%
12	その他	4.8%
13	特にない	8.8%
	(無回答)	3.9%

多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が力を入れるべきだと思うこととしては、「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」(39.7%)が4割弱で最も高く、次いで「日本人と外国人の交流会やイベント」(37.9%)は3割台半ばを超え、「外国語での生活相談」(30.6%)は約3割となっている。

平成27年度と比較すると、「日本人と外国人が意見を交換する場の提供」が6.3ポイント、「日本人と外国人による協働を増やす」が5.4ポイント、それぞれ増加している。(図表3-9)

図表3-9 多文化共生のまちづくりを進めるために新宿区が力を入れるべきと思うこと（複数回答）
／平成27年度との比較



(注) ※1「日本人と外国人が意見を交換する場の提供」は平成27年度調査では「日本人と外国人が意見を交換する」であった。

◆「その他」の記述（令和5年度）

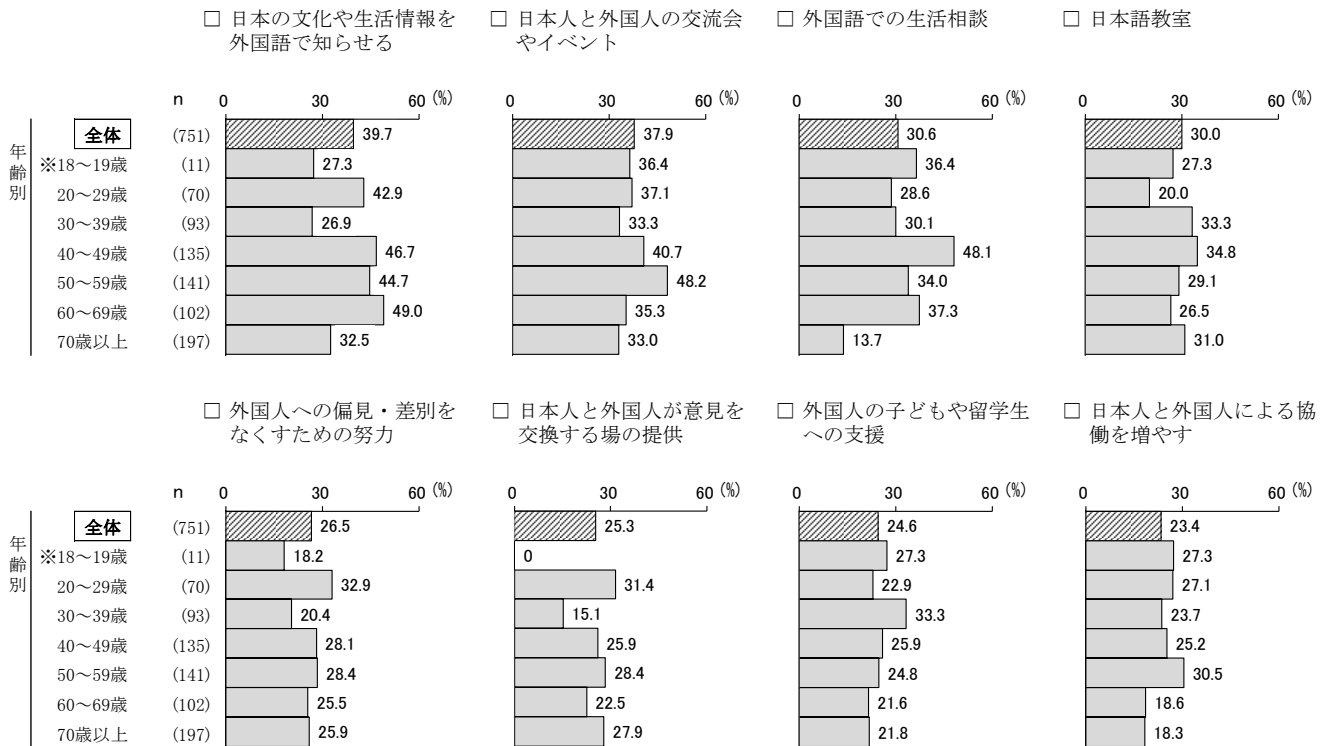
日本の慣習・ルール・文化・道徳の教育[5人]、働く場の提供・紹介・就労支援[3人] など

【年齢別】

上位8項目について年齢別でみると、「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」は、「60～69歳」で5割弱と最も高く、「20～29歳」、「40～49歳」、「50～59歳」も4割を超えている。「日本人と外国人の交流会やイベント」は「50～59歳」で5割近くと最も高く、「40～49歳」で約4割となっている。「外国語での生活相談」は「40～49歳」で5割近くと最も高くなっている。(図表3-10)

図表3-10 多文化共生のまちづくりを進めるために新宿区が力を入れるべきと思うこと《年齢別》

(上位8項目)



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

(6) 参加したいと思える交流会・イベント

◇「外国の料理を楽しむなど、外国の文化に触れる交流会」が4割強

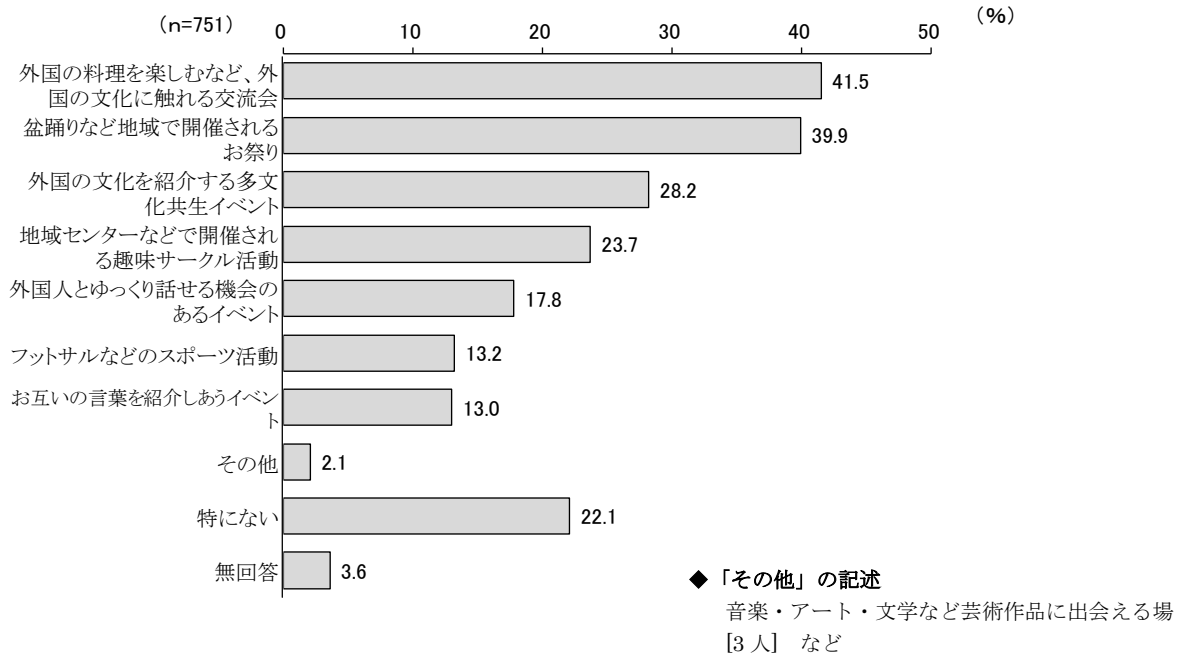
◇交流方法は、「対面」が4割台半ばを超える

問 24 参加したいと思える交流会・イベントはどのようなものですか。(○はいくつでも)				
〔n = 751〕				
1	盆踊りなど地域で開催されるお祭り		39.9%	
2	地域センターなどで開催される趣味サークル活動		23.7%	
3	フットサルなどのスポーツ活動		13.2%	
4	外国の料理を楽しむなど、外国の文化に触れる交流会		41.5%	
5	外国の文化を紹介する多文化共生イベント		28.2%	
6	お互いの言葉を紹介しあうイベント		13.0%	
7	外国人とゆっくり話せる機会のあるイベント		17.8%	
8	その他		2.1%	
9	特にない		22.1%	
	(無回答)		3.6%	
問 24-1 どのような交流方法がいいですか。(○は1つだけ)				
〔n = 751〕				
1	対面	46.7%	3 どちらでも	43.0%
2	オンライン	2.3%	(無回答)	8.0%

①参加したいと思える交流会・イベント

参加したいと思える交流会・イベントは、「外国の料理を楽しむなど、外国の文化に触れる交流会」（41.5%）が4割強と最も高く、次いで「盆踊りなど地域で開催されるお祭り」（39.9%）は4割弱、「外国の文化を紹介する多文化共生イベント」（28.2%）は3割近くとなっている。（図表3-11）

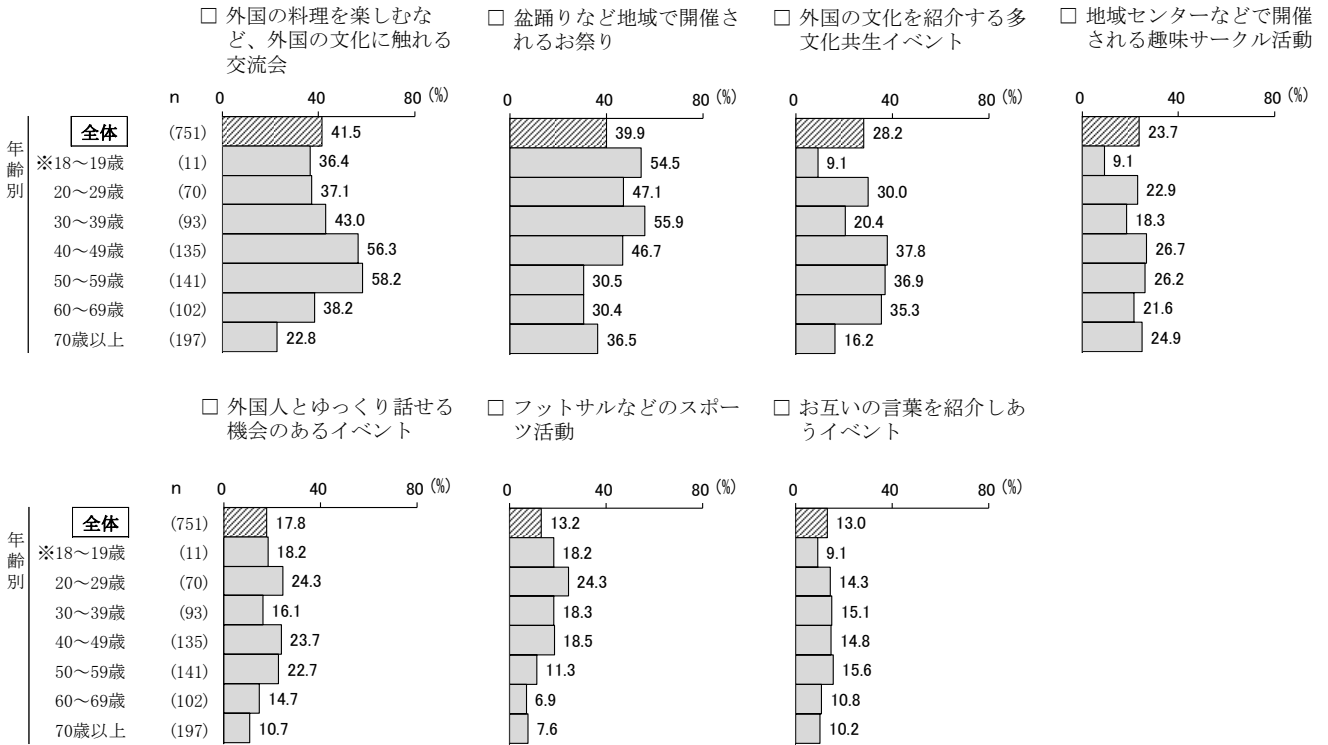
図表3-11 参加したいと思える交流会・イベント（複数回答）



【年齢別】

「外国の料理を楽しむなど、外国の文化に触れる交流会」は“50～59歳”で6割近くと最も高く、“40～49歳”で5割台半ばを超えている。「盆踊りなど地域で開催されるお祭り」は“30～39歳”で5割台半ばと最も高くなっている。(図表3-12)

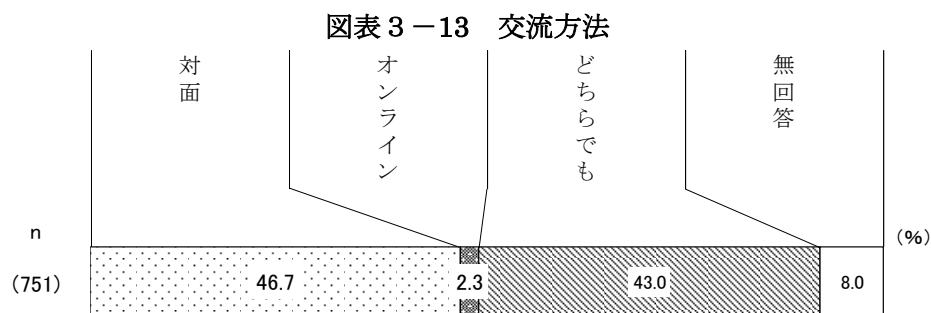
図表3-12 参加したいと思える交流会・イベント《年齢別》



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

②交流方法

交流方法は「対面」と「オンライン」のどちらがいいか聞いたところ、「対面」(46.7%)が4割台半ばを超え最も高くなっている。また、「どちらでも」(43.0%)は4割台半ば近くで、「オンライン」はわずか2.3%であった。(図表3-13)



4 居住地域

◇居住地域は「箆笥町」、「大久保」、「四谷」、「榎町」、「戸塚」が1割強

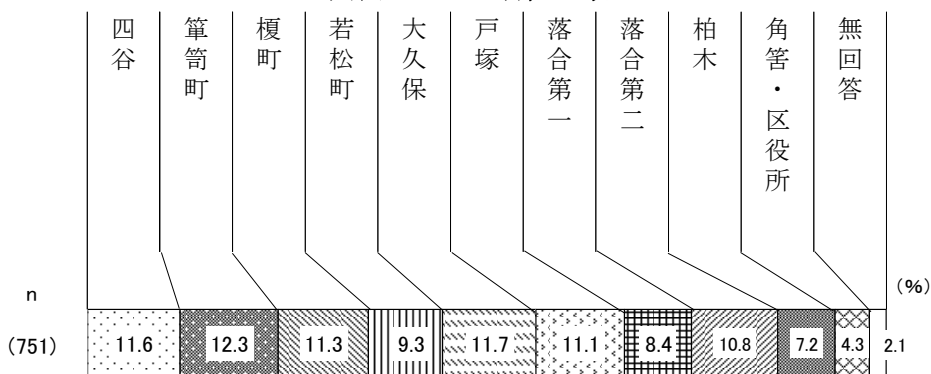
問 25 あなたのお住まいの地域を把握するため、封筒のお名前の右下にある1～10の数字を選択してください。(○は1つだけ)

[n = 751]

1 四谷	11.6%	5 大久保	11.7%	9 柏木	7.2%
2 箆笥町	12.3%	6 戸塚	11.1%	10 角筈・区役所	4.3%
3 榎町	11.3%	7 落合第一	8.4%	(無回答)	2.1%
4 若松町	9.3%	8 落合第二	10.8%		

調査回答者の居住地域は、「箆笥町」(12.3%)、「大久保」(11.7%)、「四谷」(11.6%)、「榎町」(11.3%)、「戸塚」(11.1%)が1割強となっている。(図表4-1)

図表4-1 居住地域



5 自由回答（抜粋）

アンケート項目以外でも伝えたいことや新宿区の多文化共生を推進するために必要だと思うことなど、あなたのご意見を自由にご記入ください。

この設問に関して、いただいたご意見を抜粋して掲載する。

【外国人の日本での生活について】

- ゴミ出しルール、粗大ゴミの出し方が汚い。ルールが守られていない。（男性／10代）
- 日本に住むのなら、日本についてよく知っていてほしいし、できるなら尊重する気持ちでいてほしい。数の多い国籍の人ばかりでなく、数の少ない国籍の人も同レベルの助けが得られるようにしてほしい。違う国ならどうしても理解できないこともあると思うので、トラブルやストレスを少なくするために、適切な距離を保って良い関係を築くのが個人的には良いと思う。（女性／20代）
- 外国人が日本語を覚え、日本の制度、ルール、風習を覚え、郷に入っては郷に従う必要がある。日本語が話せないのなら自分で通訳などを手配する。（男性／30代）
- 外国の方と交流することで、文化や言語を学べたらいいと思う一方、外国人による犯罪やトラブル、マナー違反、不法行為、職がない方やお金がない方によるトラブルが多く、関わることに不安や恐怖を感じてしまっています。交流の前に、まずはトラブルの原因を解消することが最優先だと思います。（女性／30代）
- 外国人主催イベントでも区内開催の場合、ゴミ捨てや騒音マナーについての周知を徹底してほしい。また、地域の盆踊りや子供向けイベントなどの案内は日本語のみだが、外国人でも興味を持つ人はとても多いと感じるので、そのようなイベントの案内も多言語でできたら相互理解にも繋がるのではないかと。その国単独開催だと日本人には参加ハードルが高すぎたり、自国民だけで盛り上がりがちだが、地域の盆踊りに地域の外国人の出店ブースがあったらハードルが下がりそうではある。（女性／30代）
- 日本人と外国人が共に同じ地域で暮らすには、両者の努力なしには円滑にはいかない。例えばゴミの出し方のルールの周知・厳守を行う。この近所ではゴミ問題では外国人がルールを守らない（又は実際は分別方法が分からないのか？）。実際に実害がある方もいて、毎日のようにゴミの分別をしてくださっている。「だから外国人は困る」というような雰囲気も周囲から出てしまっている。また騒音問題も同じである。（女性／50代）
- 真面目な外国の方もたくさんいます。マナーの悪い日本人もたくさんいます。傾向として悪い事は外人のせいにする人が多いです。大変ですが外国の方にはルールを守る一層の努力が必要だと思います。古いかもしれませんが日本に住む以上は郷に入っては郷に従えと思います。団体で狭い歩道を手をつないで歩く外国の方も迷惑です。道を広げるか注意して欲しい。（女性／50代）
- 最近は工事現場やコンビニなどで外国人を見かける事が増えたが、日本の習慣などをある程度理解しているのだろうか？特に気になるのは信号を無視したり、ゴミをポイ捨てする外国人（主に若い男性）が増えてきたことだ。（男性／60代）

- 外国の人々が日本で住む事になったのには、様々な理由があると思う。日本に居るのだから日本様式にある程度合わせて欲しいと思うが、その割合が変わってしまったら（逆に日本様式が少数派になってしまう）、外国様式が日本に居ながら主流になるかも知れないと思った。（男性／60代）
- 住んでいて不安になることといえば、治安の問題と、災害時のパニックが起きないことが大切だと思います。少しずつみんなで努力して、良い街にできたら素晴らしいと思います。（女性／60代）

【外国人へのサポートについて】

- 小学校のクラスを見ていると、日本語に通じない子が数人おり、担任の先生が大変そうに見受けられました。元々大変な職業だと思いますので、支援員の配置などの手当てがあると良いのではないかと思います。（男性／30代）
- 生まれも育ちも新宿区ですが、他区へ転居して25年ぶりぐらいに戻ってきましたが、外国人の国の種類がだいぶ変わったと感じます。言葉が大事であり相互理解の第一歩と感じますが、皆さん素晴らしく日本語の会話が出来る方が多いのですが、避けて通れないのも「読むこと」だと感じます。読めるようにして欲しいとは全く思いませんが、いろんな言語で説明のパンフレットやインターネットでも良いのですが、必要だと思います。ゴミ出しや不法投棄などトラブルが起こる前にわかりやすいガイドが必要かと思います。日本人でも粗大ゴミや家電やゴミの分別はわかりにくいと感じますから。（女性／40代）
- 外国人の子供が言葉や生活習慣で不自由しているのをよく見かけます。話を聞いてあげるだけでいいので、学校を休ませてでも定期的にカウンセリングしてあげてください。親には言えなかったり親も解決できない困りごとがたくさんあるはずです。（女性／40代）
- 外国人は日本人ほど細かくありません。多くの資料をつくっても読みません。わからせる、体験させ覚えさせます。ごみと資源ごみ、粗大ごみの分別はなぜ分けるのかをセミナーなどで説明します。お金を出しごみを捨てるのは理解もできないし、ばかげたことと思っています。家のまわりに鉄のイスとか捨てています。私はわかりませんで終わりです。日本での生活のセミナーなどあればいいです。（女性／70代）

【地域活動、交流イベント等のアイデアや参加意向】

- 私は交流したいと思いつつ行動ができていないので、イベント等交流できる場に行ってみたいと考えている。区部で最も外国人居住者が多いのはどこか知りたい。外国人が多い区というアピールをしたら、交流したい人が流入するのではないかと考える。（女性／20代）
- 今回初めて多文化共生プラザの存在について知りました。外国について学ぶことも実際に行くのも好きですが、時間とお金がなく海外文化についてふれる機会が少なかったため、このような活動に参加してみたいと思いました。もっと多くの人に知ってほしいなと思いました。仕事でも海外の観光客と接する機会が多く、語学力を上げたいので今度利用してみようと思います。ありがとうございました。（女性／20代）
- いつか外国人留学生のホームステイを受け入れてみたい。（女性／30代）
- 堅苦しいイベントではなく、大久保公園で行われているような激辛グルメ的な誰しもが気楽に参加できる区民とかこだわらない催物をすべきだと思います。お店等で行列が増えてきたので、オーバーツーリズム対策も検討してほしいです。（男性／40代）

- 災害時には日本人、外国人関係無く助け合いが必要。そのためには日頃から地域での交流が必要。それには外国料理を囲んでゆっくり話す機会が有効。できればその機会を区で企画・提供いただけたら大変ありがたいし、結構世代を超えて盛り上がると思います。(男性/40代)
- インドネシアのお料理教室や、大久保↔新大久保のスパイス買い物ツアー(参加費無料)を企画していますが、とてつもお興味を持たれて日本人の方がご参加されます。私はインドネシア文化の紹介しかできませんが、イスラムの方々の食文化、生活、考え方を日本で伝えると、皆さん日本と似ている点や違いについて理解してもらえます。(女性/40代)
- 人種関係なく関わりたい。(男性/40代)
- 新宿は外国の方々が多く、区民もその多様性を理解し、交流を深めるべきだと思います。そういう意味で、様々なイベントを企画することは大切です。(男性/70代)
- 体操教室などに参加しています。お会いした時は必ずあいさつする。(女性/70代)

【多文化共生の取組に関する意見】

- 移民を入れて成功した事例を私は知らない。多文化共生とか聞こえが良さそうな言葉を言っているが、日本文化、慣習が理解出来ないならば日本に居なくてよいと思う。そもそもイスラムに多文化を認める寛容さはない。(男性/10代)
- ハコモノ政策にならないよう、芯のある政策をお願いします。(男性/10代)
- 「郷に入っては郷に従え」、この考えは日本人でも外国人でも変わらず必要な事だと思います。新宿区が住みにくかったら、国内に限らず他で住めばいいと思います。多文化共生するには、まず共通言語として日本語でのコミュニケーションが必要です。その次に、より多文化を理解するために方言や多言語を習得し交流だと考えています。(男性/20代)
- 多文化共生を押し付けられるのは不本意です。不法滞在やトラブルを起こした人、外国人なのに生活保護を受給している人は強制送還してほしい。(女性/30代)
- 見た目や国籍、出身に関わらずたくさんの方がルーツを尊重し合えるような街になることを願っています。新宿区は他の区よりも外国人の受け入れに積極的だと感じ、それはとても良いことだと思うので、今後発生する問題がもしあったとしても安易にすべてを「外国人が増えたから」という理由で片づけたりしないように、政策を実行してもらえたらうれしいです。(女性/30代)
- あるべき多様性社会とは、相手が外国人かそうでないかではなく、目の前の1人の人間と接する姿勢の問題だと思う。(日本人でも話の通じない人もいるし、ゴミや騒音を出す人だっている)ただ、その問題が意図せず起こってしまっていることだったり、文化的にどうしても起こってしまうものなら交流することによって解消されていくものもあるのかな…。と思います。(女性/30代)
- 根本には個人的な偏見(外国人からの日本人に対する偏見も含む)をどれだけ撤廃できるかがあると思うので、引き続き新宿区には各言語での案内などの対応していただきたいです。他の地域などによくある一つか二つの国籍の外国人ばかりが住む自治体と違い、新宿区は様々な国籍の人が住む自治体で多言語翻訳も大変かと思います。でもだからこそ様々な文化を知ることができ、異文化に限らず多様性が自然と認められている自治体です。それを活かして先駆者としてこれからも頑張ってください。(女性/30代)
- 関わりを持つというスタンスの時点で、別と区切っていて区別→差別になるので、日本人が関わるどこにも当たり前にいる状態を目指すのが1番偏見を無くすのに効果があると思う。(男性/40代)

- 外国人の夫と出会ったのが新宿区だったためそのまま暮らしていますが、多文化と言うわりには子供、老人、外国人などのくくりで分けられていて「地域交流」とうたっていても「地域の老人のみの交流」だな、と思うようなことが色々あります。新宿区と言っても神楽坂と高田馬場で全く違いますし…まずは外国人だけが悪いわけではないのに悪く見えるので、大久保辺りのきたなさを改善するアクションと新宿全体の路上タバコをなんとかして下さい。(女性/40代)
- アンケートの実施ありがとうございます。新宿区が多文化共生を積極的に進めてくださっておりすばらしいと思います。日常生活の困難を解決すること、特に言葉の壁により弱い立場になりがちな方々の支援が重要だと思います。同時に文化の先進区となり、芸術など生活とは違う次元で、多様な文化の魅力を発信する役目もぜひ担っていただきたいです。多文化共生につながるエンターテインメントや展示、学びの場などの充実を期待します(区外の方々も参加できるような広い視野で)。人の心が豊かになることで、差別や衝突も解消していくと思います。(女性/40代)
- Win-Win の関係を維持できる働きかけが必要かと思います。(男性/50代)
- いろいろな国でのいわゆる常識がちがうと思うので、外国の人が日本の事を知ることも大事ですが、私たちが外国のことを知ることとても大事だと思います。差別は「知らないこと」から始まると思うので、広報などで、外国の生活習慣などを紹介してもらうのもいいのではないかと思います。(女性/50代)
- いろんな立場、状況で住んでいる外国の人がいると思う。その人達が、どこまで日本人と深くつきあいたいと思っているかが分からないので、こちらから見ず知らずの外国の人に挨拶とかはないですね。なので、日本人とより親しくなりたいと思っている外国の人から、イベント等での働きかけがあったら(顔見知りとかになれば)、相互理解が進むかな。新宿の方をお願いしたいのは、そうした外国の人達の声を、私達に届けてくれることだと思います。(女性/60代)

【今回のアンケート調査に対して】

- 美しい日本に沿った外人の暮らし。助け合いの精神。このアンケートの活用法がわからない。税金の無駄使いではないか？(女性/60代)
- 私は今年 80 才になり、今は病身の主人の世話等、自分のためにではなく、人のために時間を使っているような生活なので、もう 20 年早くにこの様なアンケートに答えたかったです。自身ではお役に立てそうにもありませんが、今後の若い人達の力に期待です。人間同士、絶対に分かり合って生きて行けるというのが若い頃からの信条です。(女性/70代)

【その他】

- 近所の盆踊りで屋台が沢山出ていましたが、売る側が外国人に冷たい人が多くてイヤな気持ちになります。外国人の親子にだけ 15 個 500 円のベビーカステラを明らかに少なく入れて渡したり、肉にかけるタレを「タレか塩か？」をお店側が聞かずに売りつけたり、見かけたら助けるようにしていますが屋台を出す人達を教育指導してほしいと感じました。(女性/40代)
- 外国人により安価な雇用を確保する発想ではなく、日本人の雇用確保と賃金を上げる事に税金を使うべき。(男性/50代)
- これから日本は労働人口が減っていきだけなので、海外から働きにきてくれる優秀な人材をよりよい環境で迎え入れて、この国の為に働こうと思ってもらえるように国が考えていった方がよいこと

- と、日本人のアジア差別を払拭する教育をしていったほうがよいと思う。(女性／50代)
- これ以上外国人を安易に入国させない。(男性／60代)
- 外国人の困っていることを知らない。先日のNHKのドラマで、日本のビザは問題があると知った。日本は住みづらいと思われないようにしないと、他の国へ移ってしまう。(男性／60代)
- 私たちは移民を受け入れているわけではない。仮に移民を受け入れるのであれば、行政はそれなりの仕事や立場をつくるべきだ。大久保も高田馬場も、ほぼ皆来たくて入国しているように思う。日本という国のルールやあり方を自らが学ぶ姿勢は大切だ。ヨーロッパや米国、中国や東南アジアの国々は、新宿区のようなことを日本人に対して対応してくれない。自分たちからコミュニティを探るか、チャイナタウンやリトルイタリーのようなコミュニティを作っている。島国対応として手厚く感じる。(男性／60代)
- 外国人の数が10年前と比べるとあまり増えていない(新大久保があるのに?)。(男性／70代)
- 多文化共生も大切だと思いますが、日本人同士も地域での交流が少ない。高齢者は少々時間のゆとりがあるけど、現役世代は忙しすぎて地元で交流する機会が極端に少ないように思う。ゆとりある働き方が必要。(女性／70代)

第3章 外国人住民調査と日本人住民調査の比較

第3章 外国人住民調査と日本人住民調査の比較

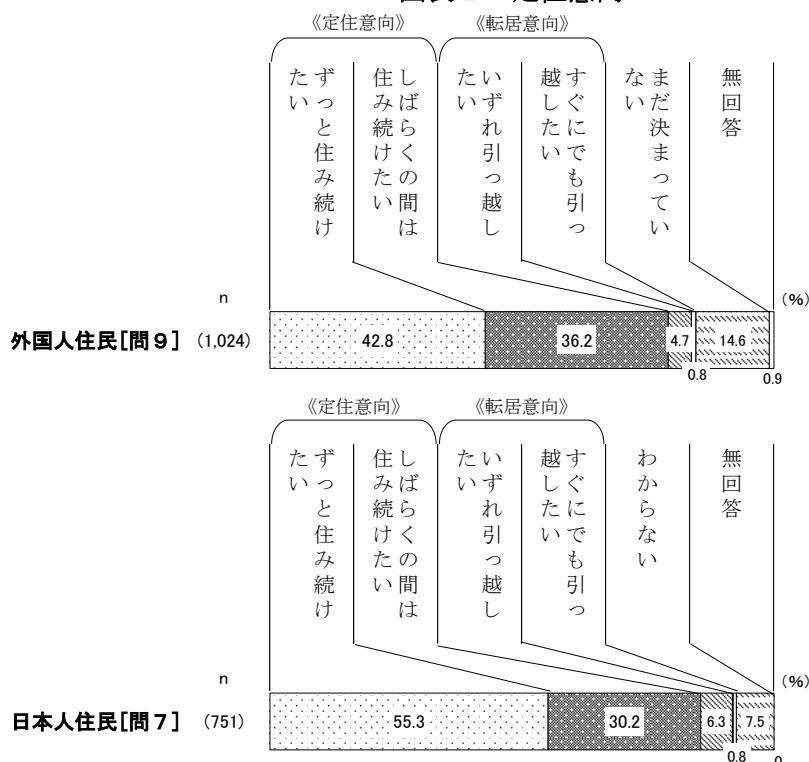
1 日本での暮らし

(1) 定住意向

外国人住民調査	問9 これからも、新宿区に住み続けたいですか。(○は1つだけ) [n=1,024]				
	1 ずっと住み続けたい	42.8%	4	すぐにでも引っ越したい	0.8%
	2 しばらくの間は住み続けたい	36.2%	5	まだ決まっていない	14.6%
	3 いずれ引っ越したい	4.7%	(無回答)		0.9%
日本人住民調査	問7 これからも新宿区に住み続けたいですか。(○は1つだけ) [n=751]				
	1 ずっと住み続けたい	55.3%	4	すぐにでも引っ越したい	0.8%
	2 しばらくの間は住み続けたい	30.2%	5	わからない	7.5%
	3 いずれ引っ越したい	6.3%	(無回答)		0%

選択肢が異なるため厳密には比較できないものの、《定住意向》(外国人:79.0%、日本人:85.5%)は、日本人住民の方が外国人住民に比べて高くなっている。一方、《転居意向》(外国人:5.5%、日本人:7.1%)は、大きな違いはみられず、外国人も1割に満たない。(図表1)

図表1 定住意向



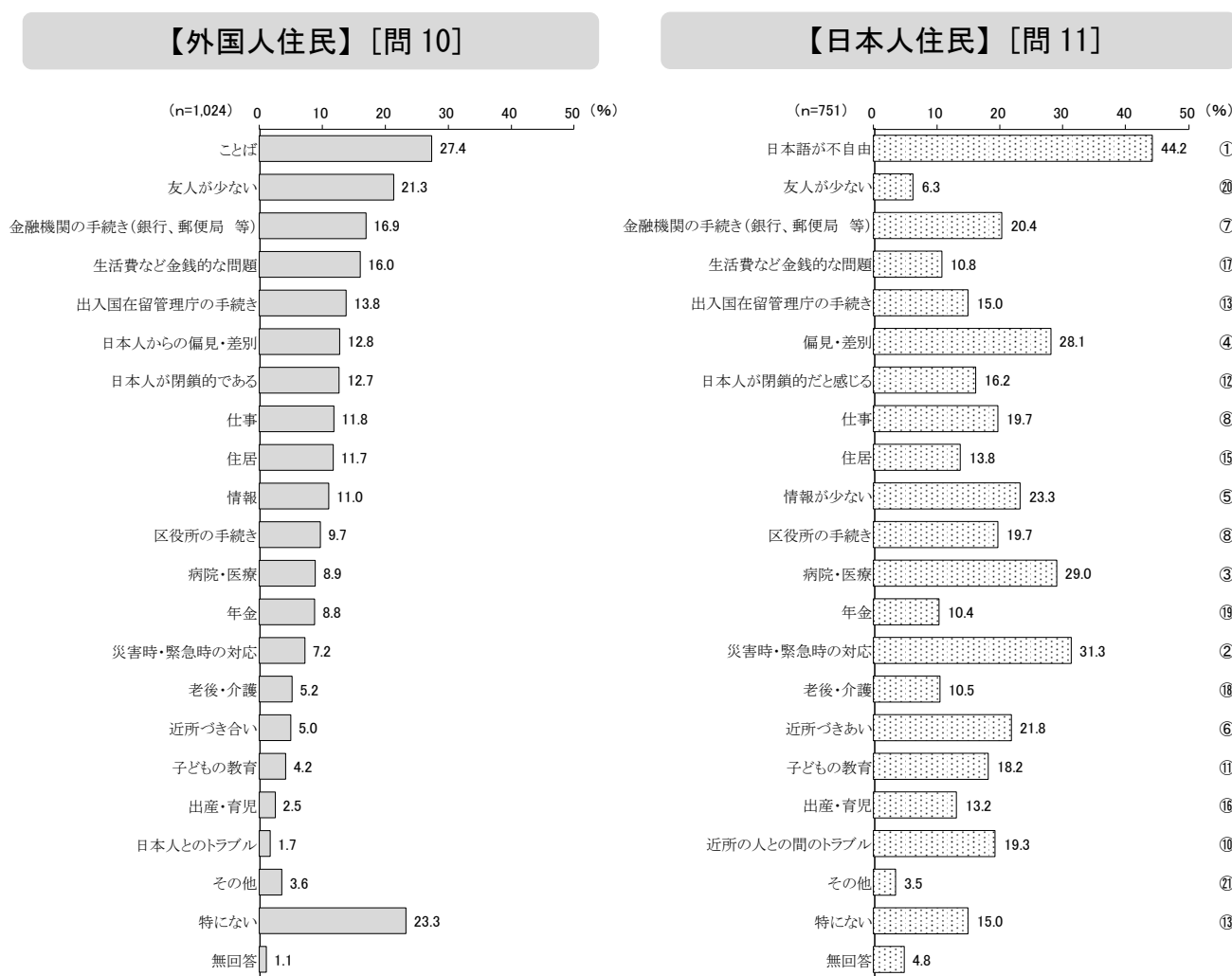
(2) 生活で困っていることや不満なこと

外国人住民調査	<p>問10 あなたやあなたの家族が、日本の生活で困っていることや不満なことは何ですか。(〇はいくつでも)</p> <p>[n=1,024]</p>				
	1 ことば	27.4%	12 仕事	11.8%	
	2 情報	11.0%	13 災害時・緊急時の対応	7.2%	
	3 住居	11.7%	14 近所づきあい	5.0%	
	4 出入国在留管理庁の手続き	13.8%	15 友人が少ない	21.3%	
	5 区役所の手続き	9.7%	16 日本人とのトラブル	1.7%	
	6 金融機関の手続き(銀行、郵便局等)	16.9%	17 日本人からの偏見・差別	12.8%	
	7 病院・医療	8.9%	18 日本人が閉鎖的である	12.7%	
	8 年金	8.8%	19 生活費など金銭的な問題	16.0%	
	9 出産・育児	2.5%	20 その他	3.6%	
	10 子どもの教育	4.2%	21 特にない	23.3%	
	11 老後・介護	5.2%	(無回答)	1.1%	
日本人住民調査	<p>問11 あなたは、あなたのまわりにいる外国人にとって、生活で困っていること、不満なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)</p> <p>[n=751]</p>				
	1 日本語が不自由	44.2%	12 仕事	19.7%	
	2 情報が少ない	23.3%	13 災害時・緊急時の対応	31.3%	
	3 住居	13.8%	14 近所づきあい	21.8%	
	4 出入国在留管理庁の手続き	15.0%	15 友人が少ない	6.3%	
	5 区役所の手続き	19.7%	16 近所の人との間のトラブル	19.3%	
	6 金融機関の手続き(銀行、郵便局等)	20.4%	17 偏見・差別	28.1%	
	7 病院・医療	29.0%	18 日本人が閉鎖的だと感じる	16.2%	
	8 年金	10.4%	19 生活費など金銭的な問題	10.8%	
	9 出産・育児	13.2%	20 その他	3.5%	
	10 子どもの教育	18.2%	21 特にない	15.0%	
	11 老後・介護	10.5%	(無回答)	4.8%	

生活で困っていることや不満なこと（外国人にとって、生活で困っていること、不満なこと）としては、「ことば」（日本語が不自由）が外国人住民、日本人住民ともに第1位となっている。

また、日本人住民に比べ外国人住民の順位が5以上高いものとしては、「特にない」（外国人2位、日本人13位）、「友人が少ない」（外国人：第3位、日本人：第20位）、「生活費など金銭的な問題」（外国人：第5位、日本人：第17位）、「出入国在留管理庁の手続き」（外国人：第6位、日本人：第13位）、「住居」（外国人：第10位、日本人：第15位）、「年金」（外国人：第14位、日本人：第19位）が挙げられる。一方、外国人住民に比べ日本人住民の順位が5以上高いものとしては、「情報」（情報が少ない）（外国人：第11位、日本人：第5位）、「病院・医療」（外国人：第13位、日本人：第3位）、「災害時・緊急時の対応」（外国人：第15位、日本人：第2位）等が挙げられる。（図表2）

図表2 生活で困っていることや不満なこと（複数回答）



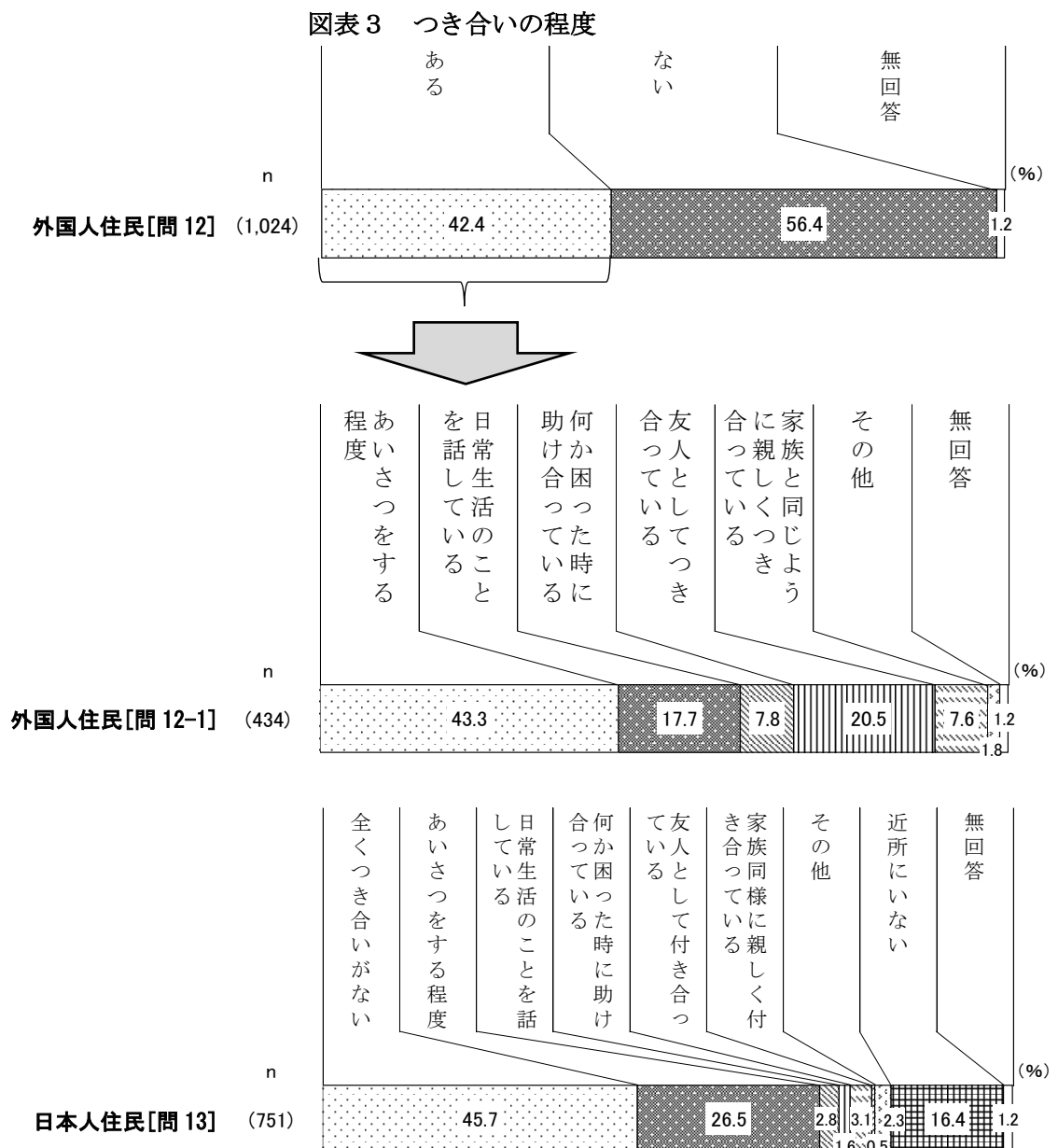
(注) ○内の番号は日本人住民調査の順位である。

(3) つき合いの程度

外国人住民調査	<p>問12 あなたは近くに住む日本人とつき合いがありますか。(○は1つだけ)</p> <p>[n=1,024]</p> <p>1 ある 42.4% 2 ない 56.4%</p> <p style="text-align: right;">(無回答) 1.2%</p>
	<p><u>(問12で、「1 ある」と答えた方に)</u></p> <p>問12-1 それはどのようなつき合いですか。(○は1つだけ)</p> <p>[n=434]</p> <p>1 あいさつをする程度 43.3% 5 家族と同じように親しくつきあっている 7.6%</p> <p>2 日常生活のことを話している 17.7%</p> <p>3 何か困った時に助け合っている 7.8% 6 その他 1.8%</p> <p>4 友人としてつき合っている 20.5% (無回答) 1.2%</p>
日本人住民調査	<p>問13 あなたは現在、近所の外国人とどんなつき合いがありますか。(○は1つ)</p> <p>[n=751]</p> <p>1 全くつき合いがない 45.7% 5 友人として付き合っている 3.1%</p> <p>2 あいさつをする程度 26.5% 6 家族同様に親しく付き合っている 0.5%</p> <p>3 日常生活のことを話している 2.8% 7 その他 2.3%</p> <p>4 何か困った時に助け合っている 1.6% 8 近所にいない 16.4%</p> <p style="text-align: right;">(無回答) 1.2%</p>

つき合いの程度としては、選択肢及び選択方式が異なるため厳密には比較できないものの、外国人住民調査では、近くに住む日本人とのつき合いが「ない」(56.4%)は5割台半ばを超え、日本人住民調査では「全くつき合いがない」(45.7%)と4割台半ばである。

また、近くに住む日本人とつき合いが「ある」と答えた外国人に、どのようなつき合いかを聞いたところ、「あいさつをする程度」(43.3%)が4割台半ば近くだったが、実人数(188人)を外国人住民全体(1,024人)で割り返すと18.4%で2割に達していない。日本人住民調査では「あいさつをする程度」(26.5%)が2割台半ばを超えており、同条件で比較すると日本人住民の回答割合の方が高くなっている。(図表3)



2 日常生活でのトラブル

(1) トラブル経験

外国人住民調査	<p>問15 あなたは今までに、近くに住む日本人と次のようなトラブルの経験がありますか。 (〇はいくつでも) 〔n=1,024〕</p>					
	1	普段のごみの出し方のルールのこと	3.3%	8	店舗や宿泊施設の営業のこと	0.7%
	2	粗大ごみの出し方のこと	1.6%	9	部屋の使い方のこと	1.2%
	3	部屋からの声・物音のこと	10.4%	10	知らないトラブルの責任を、押し付けられた	2.9%
	4	ペットのこと	1.1%	11	ことばの行き違い	4.4%
	5	食べ物のこと	0.8%	12	その他	2.6%
	6	駐車・駐輪のこと	2.7%	13	特にな	75.1%
	7	建物の増築・改築のこと	0.6%		(無回答)	2.4%
	<p>問15 あなたは今までに、外国人と関連して、近所で次のようなトラブルの経験がありますか。 (〇はいくつでも) 〔n=751〕</p>					
	1	ごみの出し方のルールのこと	22.1%	8	部屋の使い方のこと	5.3%
	2	部屋からの声・物音のこと	17.3%	9	知らないトラブルの責任を押し付けられた	1.2%
	3	ペットのこと	2.4%	10	ことばの行き違い	3.9%
	4	食べ物のこと	2.3%	11	その他	3.7%
	5	駐車・駐輪のこと	6.3%	12	特にな	61.4%
6	建物の増築・改築のこと	1.3%		(無回答)	3.7%	
7	店舗や宿泊施設の営業のこと	3.6%				

トラブル経験について、選択肢が異なるため厳密には比較できないものの、外国人住民と日本人住民ともに「特にない」(外国人：75.1%、日本人：61.4%)が最も高くなっている。

また、「普段のごみの出し方のルールのこと」(ごみの出し方のルールのこと)(外国人：3.3%、日本人：22.1%)は、外国人住民と日本人住民とで18.8ポイントの差があり、特にトラブル経験の差がみられる項目である。(図表4)

図表4 トラブル経験(複数回答)



(注) ○内の番号は日本人住民調査の順位である。

(2) 偏見や差別の状況

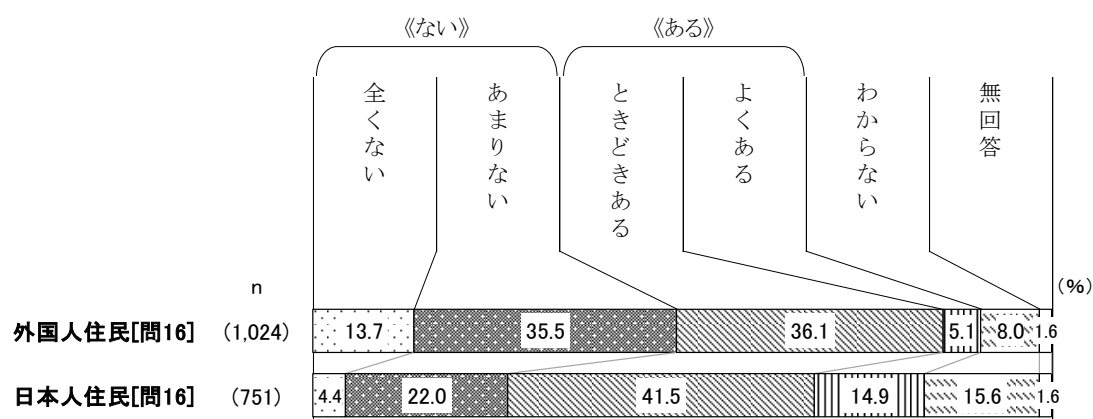
外国人住民調査	<p>問16 あなたは、ふだんの生活の中で、日本人から外国人に対する偏見や差別を感じたことがありますか。(○は1つだけ)</p> <p>[n=1,024]</p>			
	1 全くない	13.7%	4 よくある	5.1%
	2 あまりない	35.5%	5 わからない	8.0%
	3 ときどきある	36.1%	(無回答)	1.6%
	(問16で、「3 ときどきある」か「4 よくある」と答えた方に)			
	<p>問16-1 偏見・差別をどのような場合と感じましたか。(○はいくつでも)</p> <p>[n=422]</p>			
	1 公的機関などの手続きのとき	25.1%	7 社会保障制度のこと	6.4%
	2 日本人の友人との付き合いのとき	9.2%	8 電車・バス等に乗っているとき	27.0%
	3 近所の人との付き合いのとき	10.0%	9 出産・育児の場面	1.9%
	4 家を探すとき	53.8%	10 学校などの教育の場	12.3%
5 自分や家族が結婚するとき	3.6%	11 仕事・アルバイトのとき	40.5%	
6 法制度のこと	12.1%	12 その他	17.5%	
		(無回答)	0.9%	

日本人住民調査	問 16 あなたは、日本人から外国人に対する偏見や差別があると思いますか。(○は1つだけ) 〔n=751〕	1 全くないと思う	4.4%	3 ときどきあると思う	41.5%
		2 あまりないと思う	22.0%	4 よくあると思う	14.9%
				5 わからない	15.6%
				(無回答)	1.6%
	<u>(問 16 で、「3 ときどきあると思う」か「4 よくあると思う」とお答えの方に)</u>				
	問 16-1 偏見・差別はどのような場合にあると思いますか。(○はいくつでも) 〔n=424〕	1 公的機関などの手続きのとき	21.0%	7 社会保障制度のこと	25.5%
		2 日本人の友人とのつき合いのとき	14.9%	8 電車・バス等に乗っているとき	16.3%
		3 近所の人とのつき合いのとき	36.3%	9 出産・育児の場面	8.7%
		4 住まいを探すとき	42.5%	10 学校など教育の場	26.7%
		5 自分や家族が結婚するとき	24.5%	11 仕事のとき	25.9%
	6 法制度のこと	23.6%	12 その他	6.8%	
			(無回答)	2.8%	

偏見や差別について、《ない》(外国人：49.2%、日本人：26.4%)は、外国人住民が5割弱、日本人は2割台半ばを超え、外国人住民の方が日本人住民と比べて22.8ポイント高くなっている。

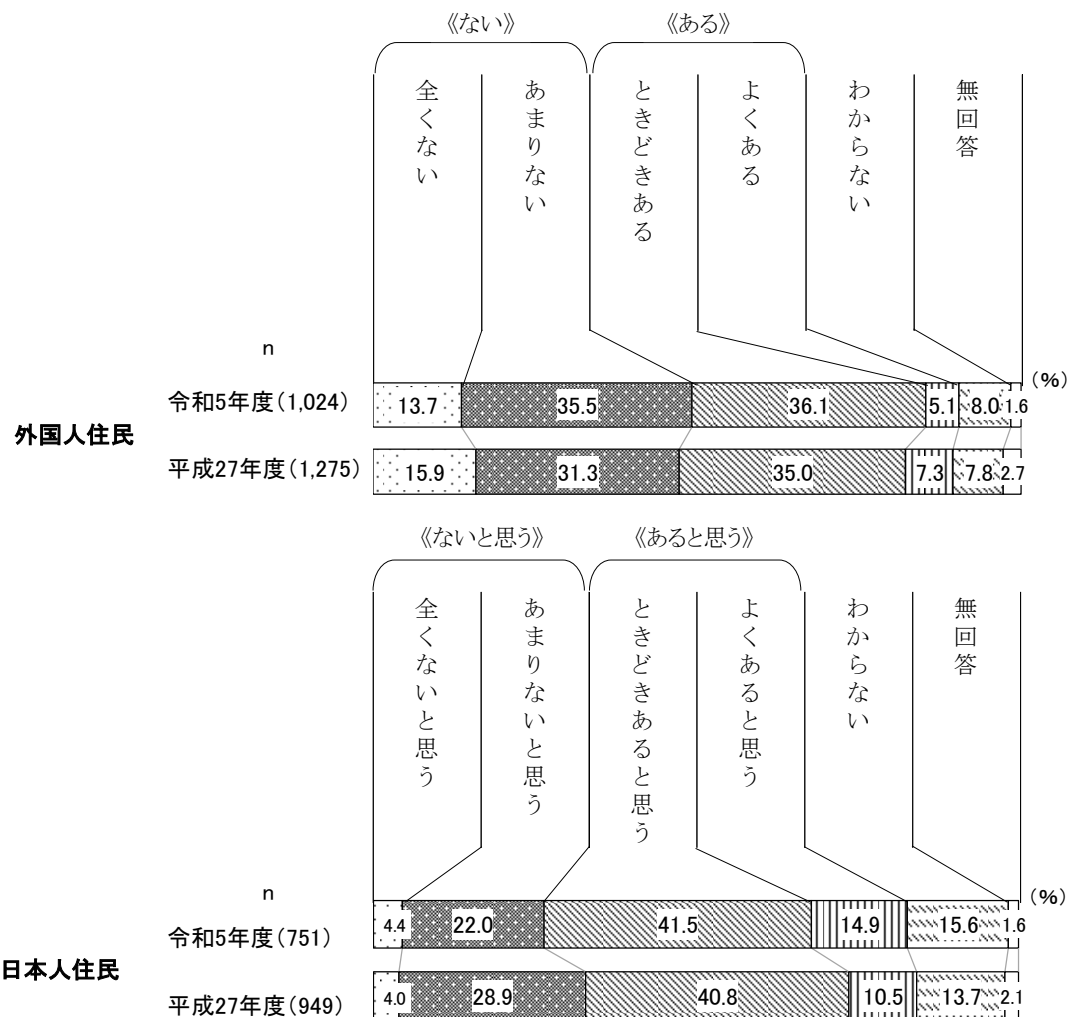
一方、《ある》(外国人：41.2%、日本人：56.4%)は、外国人住民は4割強、日本人住民は5割台半ばを超え、日本人の方が高くなっている。(図表5)

図表5 偏見や差別の状況



前回調査と比較すると、外国人住民の回答はほとんど変化がないのに対し、日本人からの外国人に対する偏見や差別が《あると思う》と回答した日本人の割合（令和5年度：56.4%、平成27年度：51.3%）は5.1ポイント増えている。（図表6）

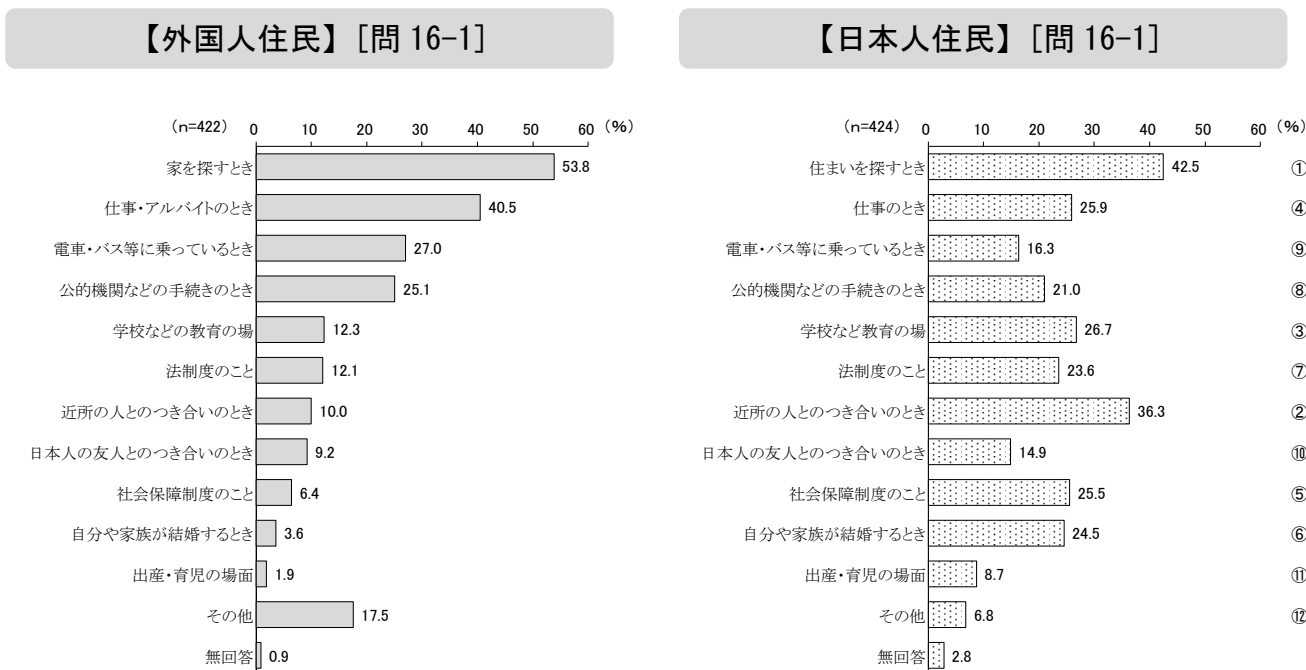
図表6 日本人からの外国人に対する偏見や差別／平成27年度との比較



偏見や差別を感じること（日本人住民は偏見や差別があると思われるとき）としては、外国人住民と日本人住民ともに「家を探すとき」（住まいを探すとき）（外国人：53.8%、日本人：42.5%）が第1位で共通している。

その一方で、順位が5以上異なるものを列举してみると、「電車・バス等に乗っているとき」（外国人：第3位、日本人：第9位）、「その他」（外国人：第5位、日本人：第12位）では外国人住民が高く、「近所の人との付き合いのとき」（外国人：第8位、日本人：第2位）、「社会保障制度のこと」（外国人：第10位、日本人：第5位）等では日本人住民が高くなっており、これらについては、外国人住民と日本人住民との間に認識の違いがみられる。（図表7）

図表7 偏見や差別があると思われるとき（複数回答）



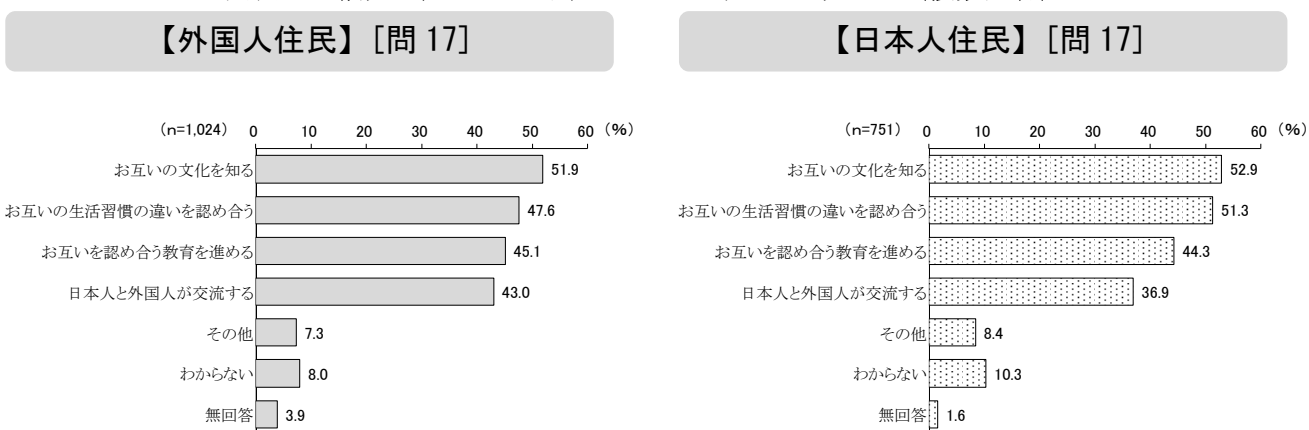
（注）○内の番号は日本人住民調査の順位である。

(3) 偏見・差別をなくすために必要だと思うこと

外国人住民調査	問17 偏見・差別をなくすためには、何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも) 〔n=1,024〕			
	1 日本人と外国人が交流する	43.0%	4 お互いの生活習慣の違いを認め合う	47.6%
	2 お互いを認め合う教育を進める	45.1%	5 その他	7.3%
	3 お互いの文化を知る	51.9%	6 わからない	8.0%
			(無回答)	3.9%
日本人住民調査	問17 偏見・差別をなくすためには、何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも) 〔n=751〕			
	1 日本人と外国人が交流する	36.9%	4 お互いの生活習慣の違いを認め合う	51.3%
	2 お互いを認め合う教育を進める	44.3%	5 その他	8.4%
	3 お互いの文化を知る	52.9%	6 わからない	10.3%
			(無回答)	1.6%

偏見や差別をなくすために必要だと思うこととしては、外国人住民、日本人住民ともに回答割合の順位は同じであり、「お互いの文化を知る」が外国人住民（51.9%）、日本人住民（52.9%）ともに5割強と最も高くなっている。（図表8）

図表8 偏見・差別をなくすために必要だと思うこと（複数回答）



3 災害時・緊急時の対応

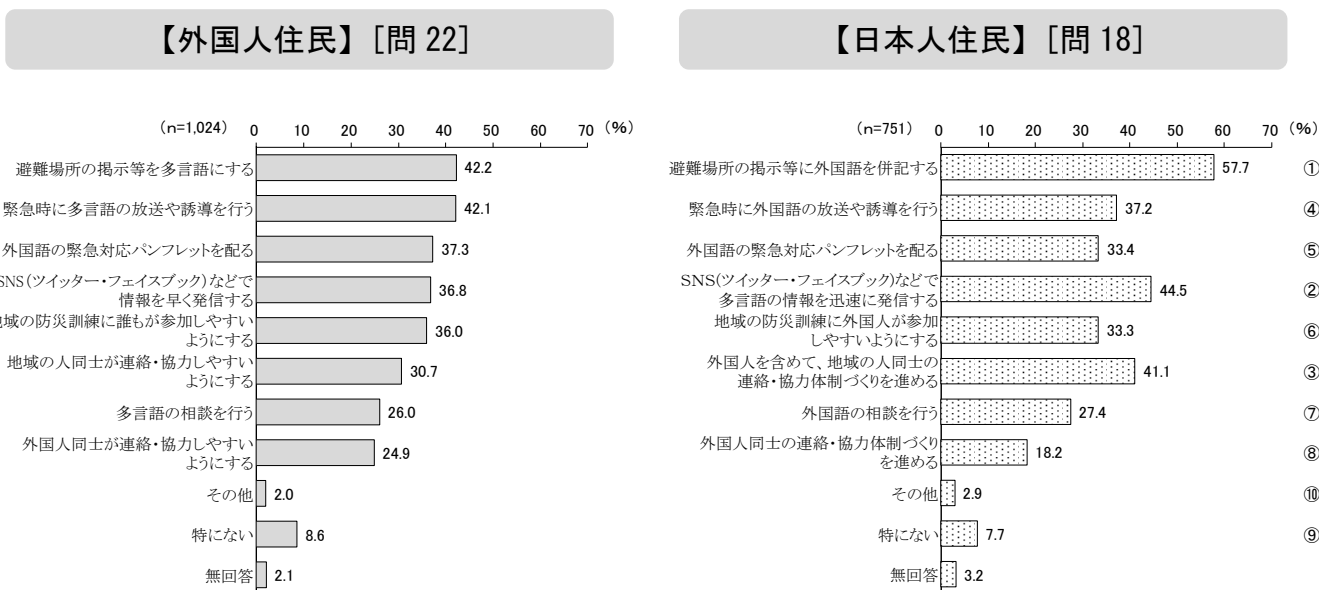
(1) 新宿区に望む災害対策

外国人住民調査	<p>問22 あなたは、新宿区にどのような災害対策をしてほしいですか。(〇はいくつでも)</p> <p>[n=1,024]</p>	
	1 避難場所の掲示等を多言語にする	42.2%
	2 外国語の緊急対応パンフレットを配る	37.3%
	3 緊急時に多言語の放送や誘導を行う	42.1%
	4 SNS(ツイッター・フェイスブック)などで情報を早く発信する	36.8%
	5 多言語の相談を行う	26.0%
	6 地域の防災訓練に誰もが参加しやすいようにする	36.0%
	7 地域の人同士が連絡・協力しやすいようにする	30.7%
	8 外国人同士が連絡・協力しやすいようにする	24.9%
	9 その他	2.0%
	10 特にない (無回答)	8.6% 2.1%
日本人住民調査	<p>問18 あなたは、新宿区に対して、どのような(外国人を含めた)災害対策を望みますか。</p> <p>(〇はいくつでも)</p> <p>[n=751]</p>	
	1 避難場所の掲示等に外国語を併記する	57.7%
	2 外国語の緊急対応パンフレットを配る	33.4%
	3 緊急時に外国語の放送や誘導を行う	37.2%
	4 SNS(ツイッター・フェイスブック)などで多言語の情報を迅速に発信する	44.5%
	5 外国語の相談を行う	27.4%
	6 地域の防災訓練に外国人が参加しやすいようにする	33.3%
	7 外国人を含めて、地域の人同士の連絡・協力体制づくりを進める	41.1%
	8 外国人同士の連絡・協力体制づくりを進める	18.2%
	9 その他	2.9%
	10 特にない (無回答)	7.7% 3.2%

災害が起きた時に備えて区に望む対策としては、「避難場所の提示等を多言語にする」（避難場所の掲示等に外国語を併記する）が外国人住民と日本人住民ともに第1位で共通している。

また、「SNS(ツイッター・フェイスブック)などで情報を早く発信する」（SNS(ツイッター・フェイスブック)などで多言語の情報を迅速に発信する）で7.7ポイント、「地域の人同士が連絡・協力しやすいようにする」（外国人を含めて、地域の人同士の連絡・協力体制づくりを進める）で10.4ポイントそれぞれ日本人の方が高くなっている。（図表9）

図表9 新宿区に望む災害対策（複数回答）



(注) ○内の番号は日本人住民調査の順位である。

4 多文化共生のまちづくり

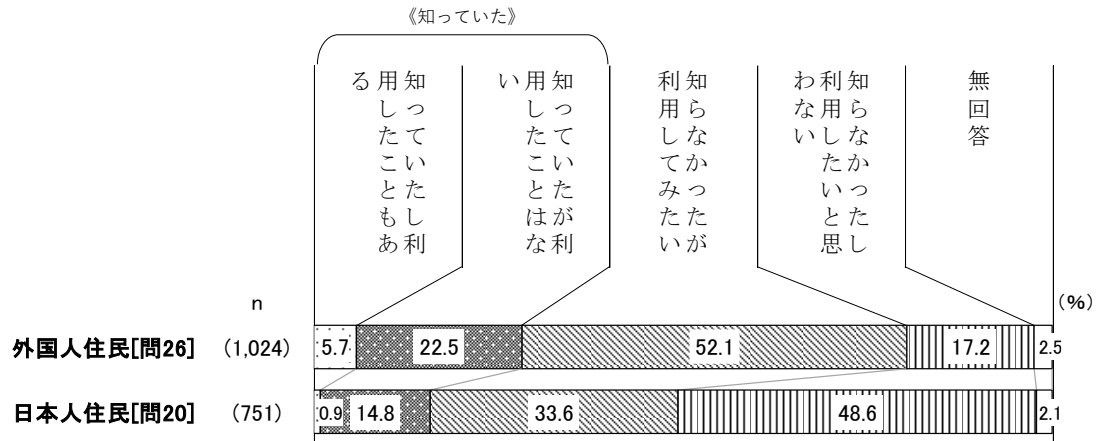
(1) しんじゅく多文化共生プラザの認知度

外国人住民調査	<p>しんじゅくくでは、さまざま 国籍・民族の人々が、互いの文化の違いを認め、理解し、地域で共に生きていく「多文化共生のまちづくり」を推進しています。</p>												
	<p>問26 しんじゅくくでは、日本人と外国人の交流施設「しんじゅく多文化共生プラザ」を設置して、日本語学習、資料・情報の提供、外国人相談等を行っています。あなたは、この施設を知っていますか。(○は1つだけ)</p> <p>[n=1,024]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 知っていたし利用したこともある</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">5.7%</td> <td style="width: 50%;">3 知らなかったが利用してみた</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">52.1%</td> </tr> <tr> <td>2 知っていたが利用したことはない</td> <td style="text-align: center;">22.5%</td> <td>4 知らなかったし利用したいと思わない</td> <td style="text-align: right;">17.2%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(無回答)</td> <td style="text-align: right;">2.5%</td> </tr> </table>	1 知っていたし利用したこともある	5.7%	3 知らなかったが利用してみた	52.1%	2 知っていたが利用したことはない	22.5%	4 知らなかったし利用したいと思わない	17.2%			(無回答)	2.5%
1 知っていたし利用したこともある	5.7%	3 知らなかったが利用してみた	52.1%										
2 知っていたが利用したことはない	22.5%	4 知らなかったし利用したいと思わない	17.2%										
		(無回答)	2.5%										
日本人住民調査	<p>問20 しんじゅくくでは、日本人と外国人の交流施設「しんじゅく多文化共生プラザ」を設置して、日本語学習、資料・情報の提供、交流会や講座等を行っています。あなたは、この施設を知っていましたか。(○は1つだけ)</p> <p>[n=751]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 知っていたし利用したこともある</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">0.9%</td> <td style="width: 50%;">3 知らなかったが利用してみたい</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">33.6%</td> </tr> <tr> <td>2 知っていたが利用したことはない</td> <td style="text-align: center;">14.8%</td> <td>4 知らなかったし利用したいと思わない</td> <td style="text-align: right;">48.6%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(無回答)</td> <td style="text-align: right;">2.1%</td> </tr> </table>	1 知っていたし利用したこともある	0.9%	3 知らなかったが利用してみたい	33.6%	2 知っていたが利用したことはない	14.8%	4 知らなかったし利用したいと思わない	48.6%			(無回答)	2.1%
1 知っていたし利用したこともある	0.9%	3 知らなかったが利用してみたい	33.6%										
2 知っていたが利用したことはない	14.8%	4 知らなかったし利用したいと思わない	48.6%										
		(無回答)	2.1%										

しんじゅく多文化共生プラザの認知度について、《知っていた》(外国人：28.2%、日本人：15.7%)は、外国人住民の方が日本人住民と比べて高くなっている。

また、外国人住民で「知らなかったが利用してみたい」(外国人：52.1%、日本人：33.6%)が最も高いのに対し、日本人住民で「知らなかったし利用したいと思わない」(外国人：17.2%、日本人：48.6%)が最も高くなっている。(図表 10)

図表 10 しんじゅく多文化共生プラザの認知度



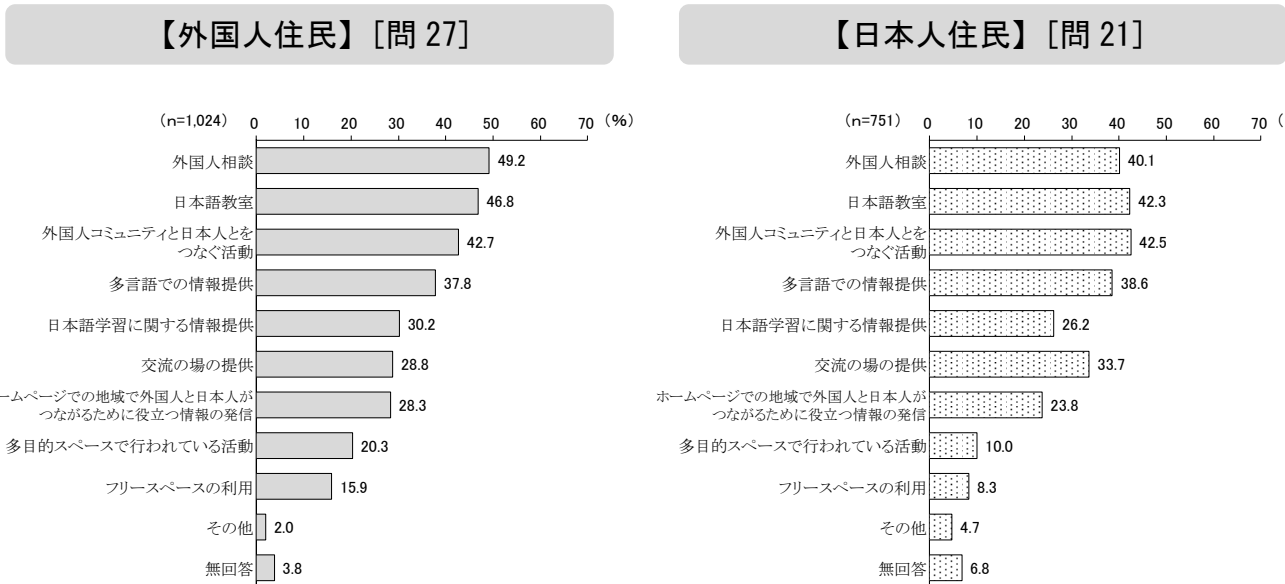
(2) しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの

外国人住民調査	<p>問27 しんじゅく多文化共生プラザの機能で特に大事だと思うものはなんですか。 (〇はいくつでも) 〔n=1,024〕</p>					
	1	日本語教室	46.8%	7	ホームページでの地域で	28.3%
	2	外国人相談	49.2%		外国人と日本人が つながるために 役立つ情報の発信	
	3	多言語での情報提供	37.8%	8	外国人コミュニティと日本人 とをつなぐ活動	42.7%
	4	多目的スペースで行われている 活動	20.3%	9	交流の場の提供	28.8%
	5	フリースペースの利用	15.9%	10	その他	2.0%
	6	日本語学習に関する情報 提供	30.2%		(無回答)	3.8%
日本人住民調査	<p>問21 しんじゅく多文化共生プラザの機能で特に大事だと思うものはなんですか。 (〇はいくつでも) 〔n=751〕</p>					
	1	日本語教室	42.3%	7	ホームページでの地域で外国 人と日本人が つながるために 役立つ情報の発信	23.8%
	2	外国人相談	40.1%	8	外国人コミュニティと日本人 とをつなぐ活動	42.5%
	3	多言語での情報提供	38.6%	9	交流の場の提供	33.7%
	4	多目的スペースで行われている 活動	10.0%	10	その他	4.7%
	5	フリースペースの利用	8.3%		(無回答)	6.8%
	6	日本語学習に関する情報提供	26.2%			

しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うものについて、順番は異なるものの、上位3項目については外国人住民、日本人住民ともに4割を超えている。

また、「外国人相談」で9.1ポイント、「多目的スペースで行われている活動」で10.3ポイント、「フリースペースの活用」で7.6ポイントそれぞれ外国人の方が高くなっている。(図表 11)

図表 11 しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの



(注) ○内の番号は日本人住民調査の順位である。

(3) 多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと

外国人住民調査	<p>問28 新宿区では「多文化共生のまちづくり」を進めるために、皆さんに能力や経験を生かして地域で活躍してほしいと考えています。そこで、あなたは、地域の中でどのような活動してみたいと思いますか。(〇はいくつでも)</p> <p>[n=1,024]</p>	
	1 あいさつするなど声をかけ合う	29.2%
	2 気軽に話をする	40.4%
	3 生活習慣やルールを相談し合う	23.9%
	4 地域の日本人との話し合いを行う	36.6%
	5 地域の日本人との交流や、イベントを企画する	33.0%
	6 町会の避難訓練や清掃など、地域活動に参加する	23.0%
	7 自分たちの国の文化・ことば・料理などを紹介する	27.7%
	8 PTAや父母会の活動を日本人と一緒にを行う	7.9%
	9 翻訳・通訳などのボランティア活動を行う	24.9%
	10 翻訳・通訳以外のボランティア活動を行う	19.4%
	11 日本の生活に慣れていない外国人支援の活動(NGO/NPOを含む)に参加したり協力したりする	25.7%
	12 その他	2.3%
	13 したくない (無回答)	8.8% 3.3%

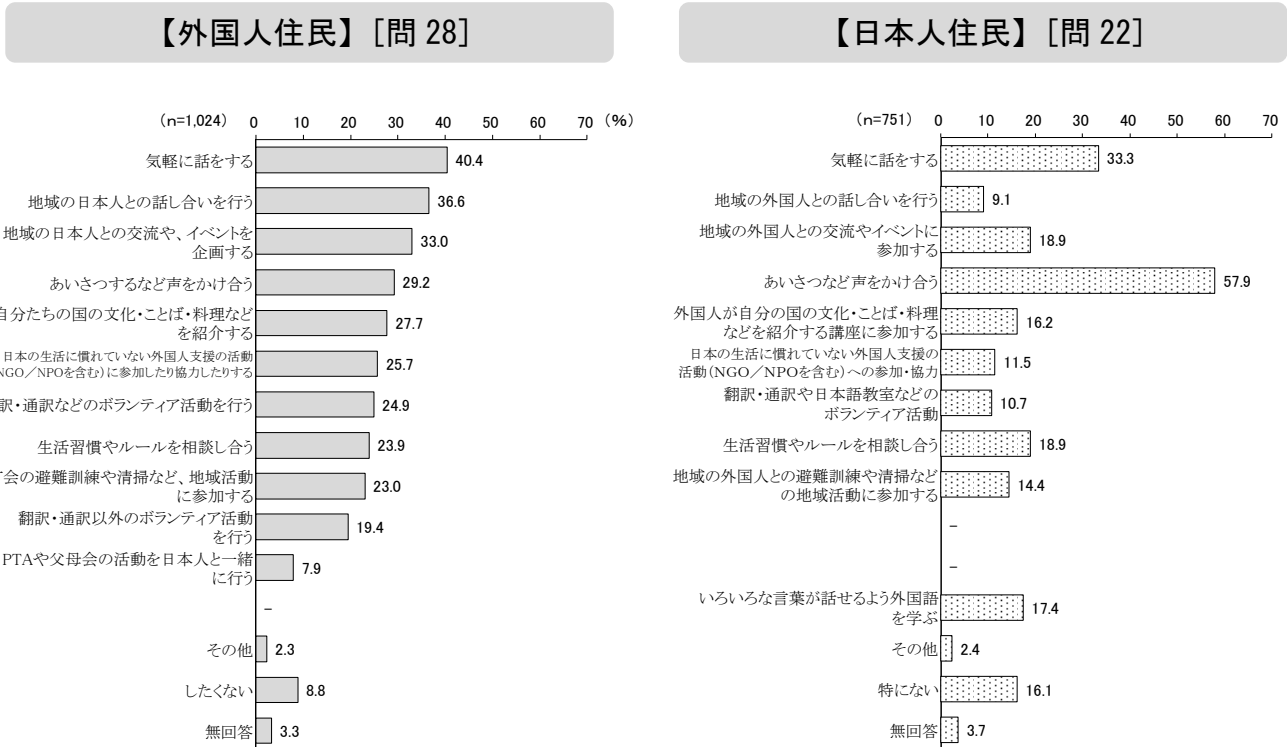
日本人住民調査	問 22 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、あなたは何ができると思いますか。(〇はいくつでも)	
		[n = 751]
	1 あいさつなど声をかけ合う	57.9%
	2 気軽に話をする	33.3%
	3 生活習慣やルールを相談し合う	18.9%
	4 地域の外国人との話し合いを行う	9.1%
	5 地域の外国人との交流やイベントに参加する	18.9%
	6 地域の外国人との避難訓練や清掃などの地域活動に参加する	14.4%
	7 外国人が自分の国の文化・ことば・料理などを紹介する講座に参加する	16.2%
	8 いろいろな言葉が話せるよう外国語を学ぶ	17.4%
	9 翻訳・通訳や日本語教室などのボランティア活動	10.7%
	10 日本の生活に慣れていない外国人支援の活動（NGO/NPOを含む）への参加・協力	11.5%
	11 その他	2.4%
12 特にない (無回答)	16.1% 3.7%	

多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこととしては、選択肢が異なるため厳密には比較できないものの、「気軽に話をする」(外国人：第1位、日本人：第2位)がともに上位である。

また、「あいさつするなど声をかけ合う」(あいさつなど声をかけ合う)(外国人：第4位、日本人：第1位)で日本人の方が28.7ポイント高く、外国人住民と日本人住民の回答割合に大きな差がある。

そのほか、順位が5以上異なるものは、「地域の日本人との話し合いを行う」(地域の外国人との話し合いを行う)(外国人：第2位、日本人：第11位)で外国人住民が高くなっている。(図表12)

図表12 多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと(複数回答)



(注) ○内の番号は日本人住民調査の順位である。

(4) 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が進めるべきだと思うこと

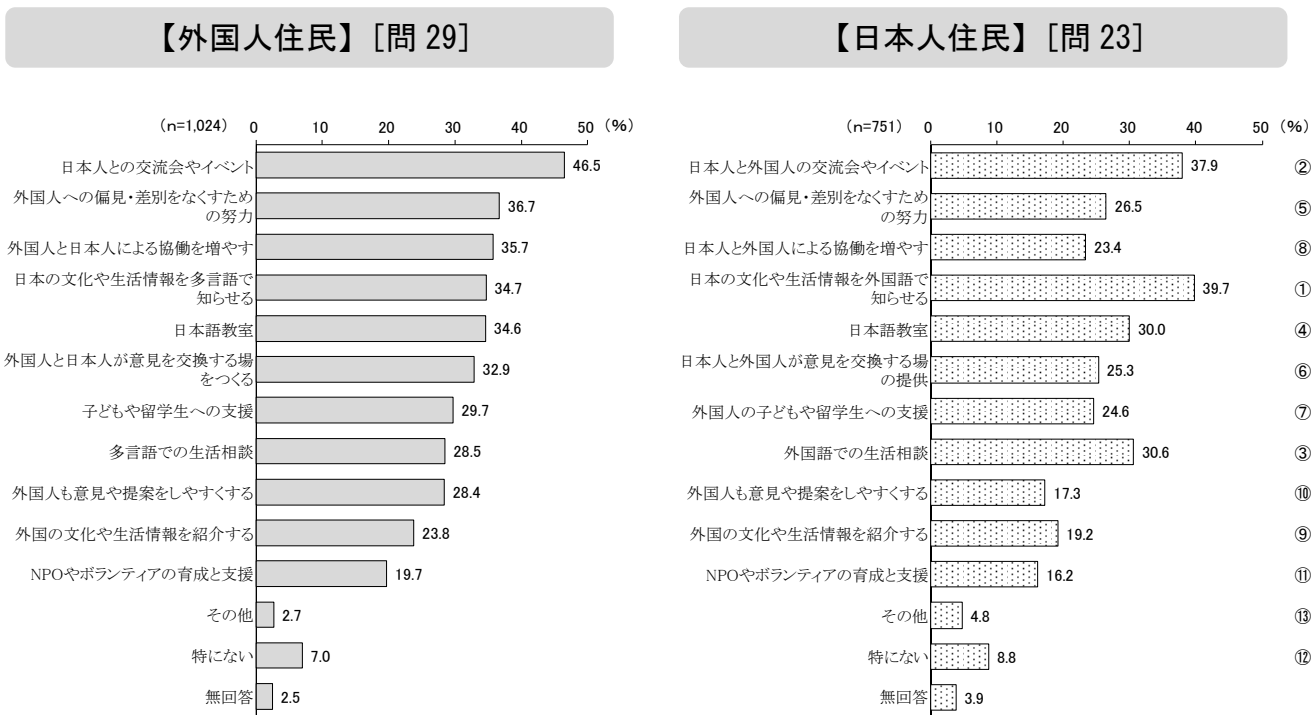
外国人住民調査	<p>問29 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、今後の区の対応として、どのようなことを進めるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)</p> <p>[n=1,024]</p>	
	1 日本人との交流会やイベント	46.5%
	2 日本の文化や生活情報を多言語で知らせる	34.7%
	3 外国の文化や生活情報を紹介する	23.8%
	4 多言語での生活相談	28.5%
	5 日本語教室	34.6%
	6 外国人と日本人が意見を交換する場をつくる	32.9%
	7 外国人と日本人による協働を増やす	35.7%
	8 NPOやボランティアの育成と支援	19.7%
	9 外国人への偏見・差別をなくすための努力	36.7%
	10 子どもや留学生への支援	29.7%
	11 外国人も意見や提案をしやすくする	28.4%
	12 その他	2.7%
	13 特にない	7.0%
(無回答)	2.5%	

日本人住民調査	問 23 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、今後の区の対応として、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)	
	[n = 751]	
	1 日本人と外国人の交流会やイベント	37.9%
	2 日本の文化や生活情報を外国語で知らせる	39.7%
	3 外国の文化や生活情報を紹介する	19.2%
	4 外国語での生活相談	30.6%
	5 日本語教室	30.0%
	6 日本人と外国人が意見を交換する場の提供	25.3%
	7 日本人と外国人による協働を増やす	23.4%
	8 NPOやボランティアの育成と支援	16.2%
	9 外国人への偏見・差別をなくすための努力	26.5%
	10 外国人の子どもや留学生への支援	24.6%
	11 外国人も意見や提案をしやすくする	17.3%
	12 その他	4.8%
13 特にない (無回答)	8.8% 3.9%	

多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が進めるべきだと思うこととしては、「日本人との交流会やイベント」（日本人と外国人の交流会やイベント）（外国人：第1位、日本人：第2位）は外国人住民、日本人住民ともに上位である。

選択肢が異なるため厳密には比較できないものの、順位が5以上異なるものは、「外国人と日本人による協働を増やす」（日本人と外国人による協働を増やす）（外国人：第3位、日本人：第8位）では外国人住民が高く、「多言語での生活相談」（外国語での生活相談）（外国人：第8位、日本人：第3位）では日本人住民が高くなっている。（図表13）

図表13 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が進めるべきだと思うこと（複数回答）



(注) ○内の番号は日本人住民調査の順位である。

(5) 参加したい交流会・イベント

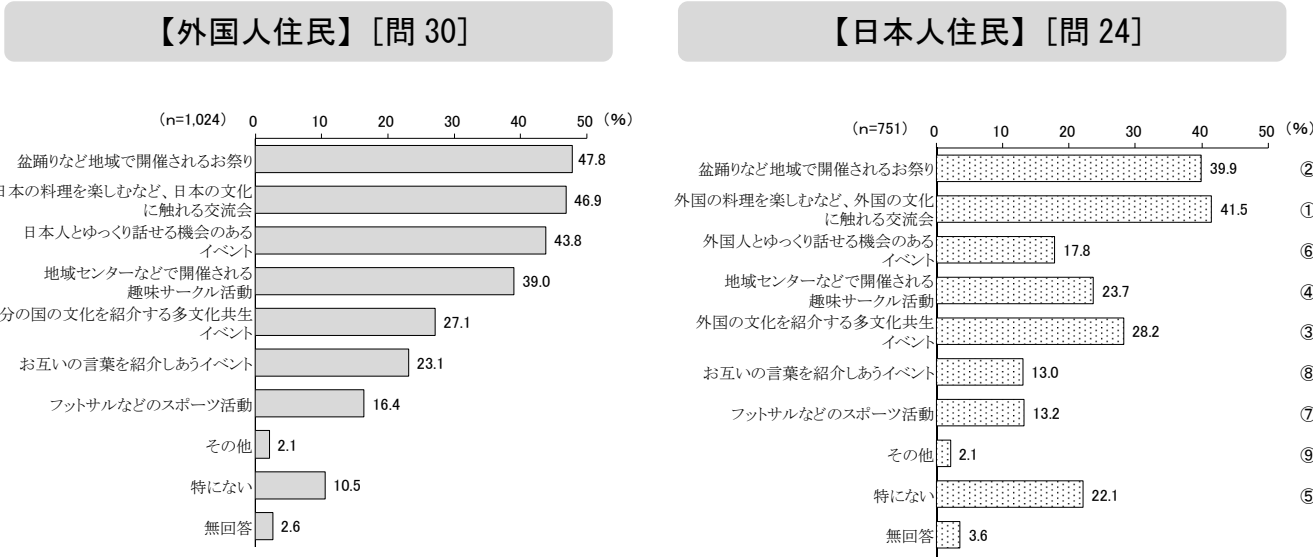
外国人住民調査	<p>問30 参加したいと思える交流会・イベントはどのようなものですか。(〇はいくつでも)</p> <p>[n=1,024]</p>		
	1 盆踊りなど地域で開催されるお祭り		47.8%
	2 地域センターなどで開催される趣味サークル活動		39.0%
	3 フットサルなどのスポーツ活動		16.4%
	4 日本の料理を楽しむなど、日本の文化に触れる交流会		46.9%
	5 自分の国の文化を紹介する多文化共生イベント		27.1%
	6 お互いの言葉を紹介しあうイベント		23.1%
	7 日本人とゆっくり話せる機会のあるイベント		43.8%
	8 その他		2.1%
	9 特にない		10.5%
	(無回答)	2.6%	
問30-1 どのような交流方法がいいですか。(〇は1つだけ)			
[n=1,024]			
1 対面	45.2%	3 どちらでも	45.2%
2 オンライン	5.6%	(無回答)	4.0%

日本人住民調査	問 24 参加したいと思える交流会・イベントはどのようなものですか。(○はいくつでも)			
	[n=751]			
	1	盆踊りなど地域で開催されるお祭り	39.9%	
	2	地域センターなどで開催される趣味サークル活動	23.7%	
	3	フットサルなどのスポーツ活動	13.2%	
	4	外国の料理を楽しむなど、外国の文化に触れる交流会	41.5%	
	5	外国の文化を紹介する多文化共生イベント	28.2%	
	6	お互いの言葉を紹介しあうイベント	13.0%	
	7	外国人とゆっくり話せる機会のあるイベント	17.8%	
	8	その他	2.1%	
9	特にない (無回答)	22.1%	3.6%	
問 24-1 どのような交流方法がいいですか。(○は1つだけ)				
[n=751]				
1	対面	46.7%	3 どちらでも 43.0%	
2	オンライン	2.3%	(無回答) 8.0%	

参加したい交流会・イベントとしては、「盆踊りなど地域で開催されるお祭り」（外国人：第1位、日本人：第2位）、「日本の料理を楽しむなど、日本の文化に触れる交流会」（外国の料理を楽しむなど、外国の文化に触れる交流会）（外国人：第2位、日本人：第1位）が外国人住民、日本人住民ともに上位である。

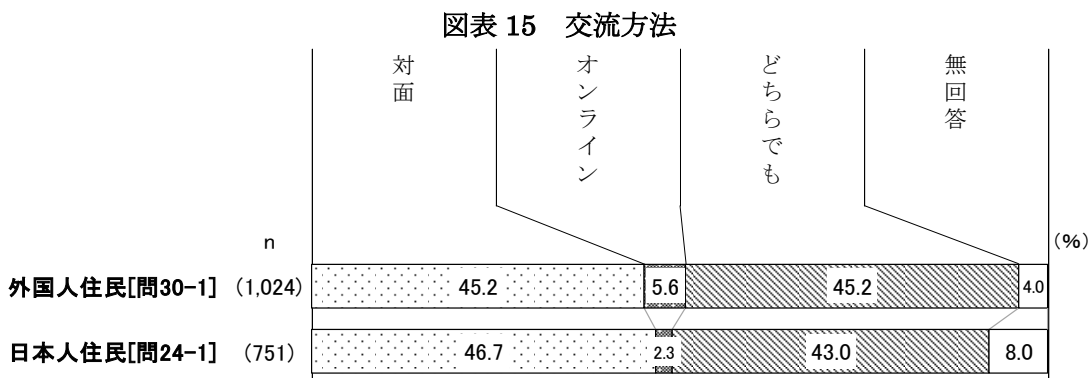
一方で、「日本人とゆっくり話せる機会のあるイベント」（外国人とゆっくり話せる機会のあるイベント）は、外国人住民は43.8%と4割台半ば近くであるのに対し、日本人住民は17.8%と2割を下回っている。（図表14）

図表14 参加したい交流会・イベント（複数回答）



(注) ○内の番号は日本人住民調査の順位である。

交流方法としては、外国人住民、日本人住民ともに「対面」、「どちらでも」が多くなっている。（図表15）



第4部 考察

第4部 考察

ここでは、前章までの集計結果を踏まえ、特定の質問やそのクロス集計結果に着目し、今回調査結果からあきらかになったことを、前章までに掲載していない図表や、統計資料を活用しながら、考察としてまとめることとする。

1 調査対象の外国人と日本人について

① 年齢構成

住民基本台帳人口では、新宿区は全国の市区町村のうち、令和4年度の外国人住民の増加数が全国で5番目に多く、日本人と外国人の総計の人口増加数（総計）でも7番目に多い市区町村である。下記の表（図表1-1）で示す通り、新宿区が住民の11.6%と10人に1人以上が外国人となっており、東京都平均の4.2%に比べても高いことが特徴である。

また、外国人住民人口を年齢別の構成比でみていくと、20～24歳の割合が最も多く、次いで25～29歳、30～34歳の順となり、これらを合算した20歳から34歳までの割合が全体の半数を占めている。年齢別に外国人の占める割合をみると、20～24歳の割合が32.1%と最も多く3人に1人近くが外国人であり、2番目が15～19歳の22.6%、3番目が25～29歳の20.0%で5人に1人が外国人であり、外国人住民が区の若年人口を押し上げていることがわかる。

図表1-1 新宿区住民年齢別人口（総計、外国人）（令和5年1月1日）

	人口【総計】	（構成比%）	人口【外国人】	（構成比%）	外国人割合
0～4歳	10,402	（3.00）	754	（1.87）	7.2%
5～9歳	10,570	（3.05）	831	（2.06）	7.9%
10～14歳	9,614	（2.78）	891	（2.21）	9.3%
15～19歳	11,010	（3.18）	2,489	（6.18）	22.6%
20～24歳	26,519	（7.66）	8,508	（21.12）	32.1%
25～29歳	33,912	（9.79）	6,781	（16.84）	20.0%
30～34歳	29,821	（8.61）	4,817	（11.96）	16.2%
35～39歳	27,994	（8.08）	3,383	（8.40）	12.1%
40～44歳	27,027	（7.80）	2,846	（7.07）	10.5%
45～49歳	27,793	（8.03）	2,468	（6.13）	8.9%
50～54歳	26,325	（7.60）	2,172	（5.39）	8.3%
55～59歳	21,437	（6.19）	1,537	（3.82）	7.2%
60～64歳	16,881	（4.87）	1,176	（2.92）	7.0%
65～69歳	13,983	（4.04）	772	（1.92）	5.5%
70～74歳	16,288	（4.70）	401	（1.00）	2.5%
75～79歳	13,400	（3.87）	215	（0.53）	1.6%
80歳以上	23,303	（6.73）	238	（0.59）	1.0%
計	346,279	（100.00）	40,279	（100.00）	11.6%

（注）構成比については、小数点第二位で四捨五入をしているため、100%にならない場合や65歳以上の各年齢を合計しても一致しないことがある。

前回調査を実施した平成 27 年と令和 5 年の外国人住民の人口を比較したものが下記（図表 1－2）である。この 8 年間で全体では 4,200 人以上の外国人が増えているが、年齢別でみると、増減数が大きい順に、1 番目が 20～24 歳の 664 人、2 番目は 30～34 歳の 546 人、3 番目は 60～64 歳の 513 人、4 番目は 50～54 歳の 499 人となっている。一方、増減率では、1 番目が 65～69 歳の 101.0%増で 2 倍になっているほか、2 番目が 70～74 歳の 84.8%増、3 番目が 60～64 歳の 77.4%増、4 番目が 75～79 歳の 55.8%増で、60 歳台、70 歳台の増加割合が大きく、令和 5 年 1 月 1 日現在の高齢化率は 4.04%となっており、今後さらに高くなると考えられる。

また、50 歳以上に比べると増加率は高くないものの、15～19 歳も 22.1%増で 2 割以上増えている。

図表 1－2 外国人住民人口の変化（平成 27→令和 5 年）

	令和5(2023)年(人)	平成27(2015)年(人)	増減(人)	増減率(%)
全体	40,279	36,013	4,266	11.8
0～4歳	754	813	△ 59	△ 7.3
5～9歳	831	780	51	6.5
10～14歳	891	805	86	10.7
15～19歳	2,489	2,039	450	22.1
20～24歳	8,508	7,844	664	8.5
25～29歳	6,781	6,821	△ 40	△ 0.6
30～34歳	4,817	4,271	546	12.8
35～39歳	3,383	3,126	257	8.2
40～44歳	2,846	2,850	△ 4	△ 0.1
45～49歳	2,468	2,257	211	9.3
50～54歳	2,172	1,673	499	29.8
55～59歳	1,537	1,153	384	33.3
60～64歳	1,176	663	513	77.4
65～69歳	772	384	388	101.0
70～74歳	401	217	184	84.8
75～79歳	215	138	77	55.8
80歳以上	238	182	56	30.8

資料:住民基本台帳(外国人住民のみ) 各年1月1日現在

図表 1－3 高齢者人口（平成 27 年→令和 5 年）

	人数(人)		変化(人)
	令和5(2023)年	平成27(2015)年	
65歳以上	1,626	921	705 ↑

図表 1－4 高齢化率（平成 27 年→令和 5 年）

	高齢化率(%)		変化(%)
	令和5(2023)年	平成27(2015)年	
65歳以上	4.04	2.56	1.48 ↑

(注) 高齢化率とは、外国人住民の総人口に占める65歳以上の外国人住民人口の割合

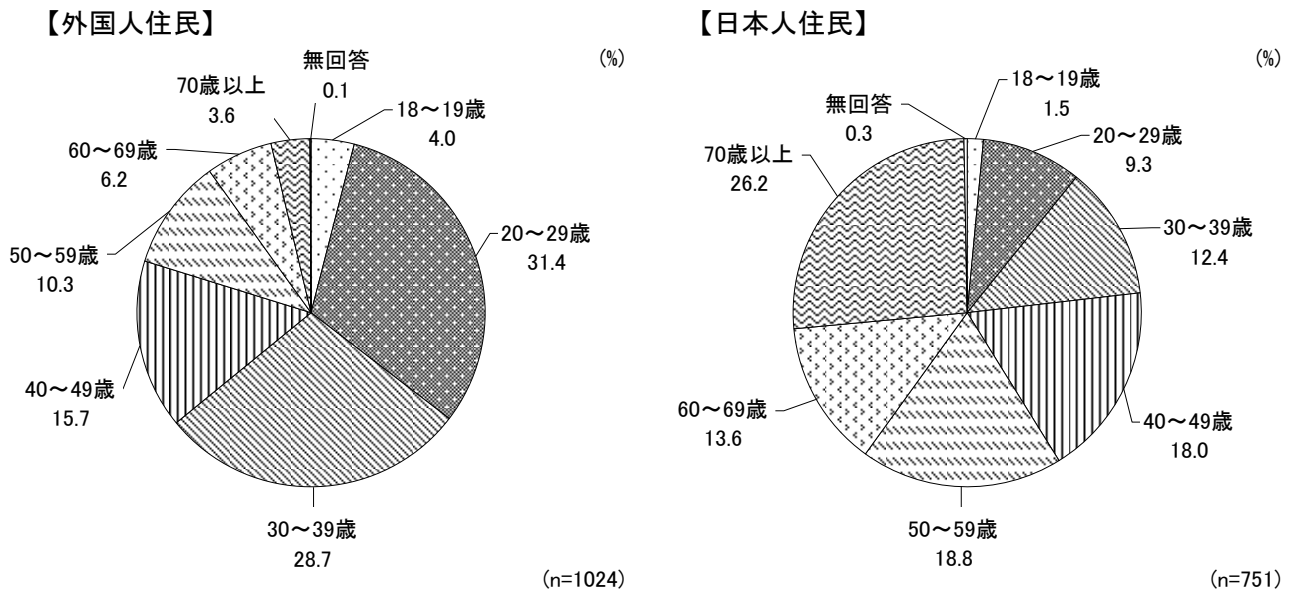
② 今回調査回答者の年齢

ここでは、住民基本台帳人口(外国人住民のみ)の年齢構造を念頭に置いて、今回調査の外国人と日本人の回答者を確認していきたい。本調査の外国人は、20歳台、30歳台が多く、年齢が上がるほど少なくなる。逆に日本人では、20歳台、30歳台が少なく、70歳以上が最も多くなっている。

20歳台と30歳台の合計人数が回答者全体に占める割合は、外国人では60.1%と約6割であるのに対し、日本人では21.7%と2割強で、割合の大きさは3倍の開きがある。一方、“60～69歳”と“70歳以上”の合計人数が回答者全体に占める割合は、外国人では9.8%と約1割なのに対し、日本人では39.8%と約4割であり、割合の大きさは4倍の開きがある。

このように新宿区在住者(今回調査回答者)の外国人と日本人の年齢構成は対照をなしている。本調査の全体結果を比較する場合は、こうした回答者の年齢構成の偏りを踏まえてみていく必要がある。

図表1-5 回答者年齢



以上のように、日本人と外国人ともに年齢の偏りが大きいことから、年齢別の回答結果を読み取ることは、より正確な実態把握を行うために必要である。日本人の調査結果からは、近所に外国人が生活することについての考え方に関する質問の結果を、その一例としてみていきたい。

近所に外国人が生活することについての考え（P193 参照）は、“20～29 歳”では《好ましい》は5割強が最も高いのに対し、年齢が上がるとその割合は減少し代わりに「どちらともいえない」が増えるため、全体結果としては《好ましい》は4割に満たないという結果になっている。

同様に、外国人が生活することについて感じることで、「外国の文化にふれる機会が増える」「外国人の知人・友人ができる」「外国のことに興味を持つようになる」などポジティブに感じる項目の割合は、60 歳以上と比べて 50 歳台以下で多くなる。しかし 60 歳以上の構成比が大きいいため、全体結果でみた場合は、それら項目（ポジティブに感じる割合）が低く抑えられていることがわかる。

なお、「日本語が通じない人が増える」「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」「生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配」などネガティブに感じる項目の割合は年齢による大きな違いがみられない。

図表 1 - 6 外国人が生活することについて感じる事（複数回答）《年齢別》

【日本人住民】

(%)

	n	外国の食べ物を食べる機会が増える	外国人・外国語に慣れる	外国の文化にふれる機会が増える	外国人の知人・友人ができる	外国のことに興味を持つようになる	まちに活気ができる	日本語が通じない人が増える	生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配	生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配	その他
全体	751	29.4	30.9	34.2	21.3	29.6	21.3	25.0	48.1	36.2	7.3
※18～19歳	11	45.5	36.4	18.2	9.1	27.3	27.3	18.2	45.5	36.4	18.2
20～29歳	70	34.3	50.0	42.9	30.0	35.7	20.0	25.7	37.1	42.9	1.4
30～39歳	93	40.9	41.9	34.4	28.0	33.3	19.4	26.9	36.6	41.9	10.8
40～49歳	135	39.3	41.5	48.1	33.3	37.8	28.9	26.7	48.9	44.4	9.6
50～59歳	141	34.8	34.0	47.5	27.7	36.9	27.7	26.2	51.1	36.9	11.3
60～69歳	102	25.5	20.6	23.5	11.8	22.5	16.7	22.5	56.9	35.3	6.9
70歳以上	197	13.2	14.7	18.8	8.1	18.8	14.7	23.9	49.7	25.4	3.0

	n	特にない	無回答
全体	1024	11.1	0.7
18～19歳	41	18.2	0
20～29歳	322	2.9	1.4
30～39歳	294	11.8	0
40～49歳	161	6.7	0
50～59歳	105	7.1	0.7
60～69歳	63	7.8	0
70歳以上	37	20.8	1.5

■ : 20.0～29.9% ■ : 30.0～39.9% ■ : 40.0%～

(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

このように、日本人では、年齢ごとに回答の傾向が異なる場合は、とくに 30 歳台以下の割合が小さい年齢層の結果への目配りが必要であり、逆に外国人では、50 歳台以上の割合が小さい年齢層の結果への目配りが必要といえる。

次項以降では、外国人の年齢別クロス集計結果を中心に、各年齢層のニーズや課題などを読み取ることと、区内の外国人の実態をあきらかにしていきたい。

2 外国人住民の属性

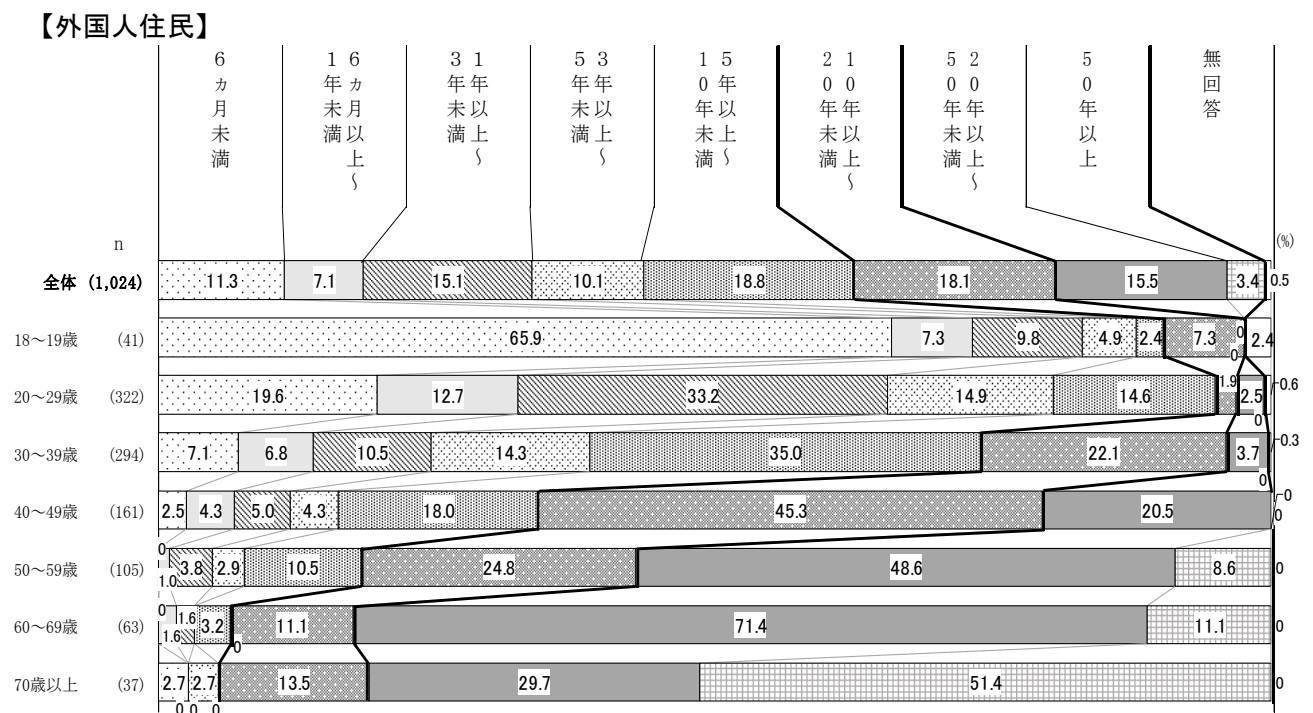
① 居住年数

外国人の日本に住んでいる年数は、20歳台は「1年以上～3年未満」が最多、30歳台は「5年以上～10年未満」、40歳台は「10年以上～20年未満」、50歳台と60歳台では「20年以上～50年未満」、さらに70歳台では「50年以上」がそれぞれ最多となっており、いずれの年齢も若い年代から日本に住んでいる人が多いことがわかる。

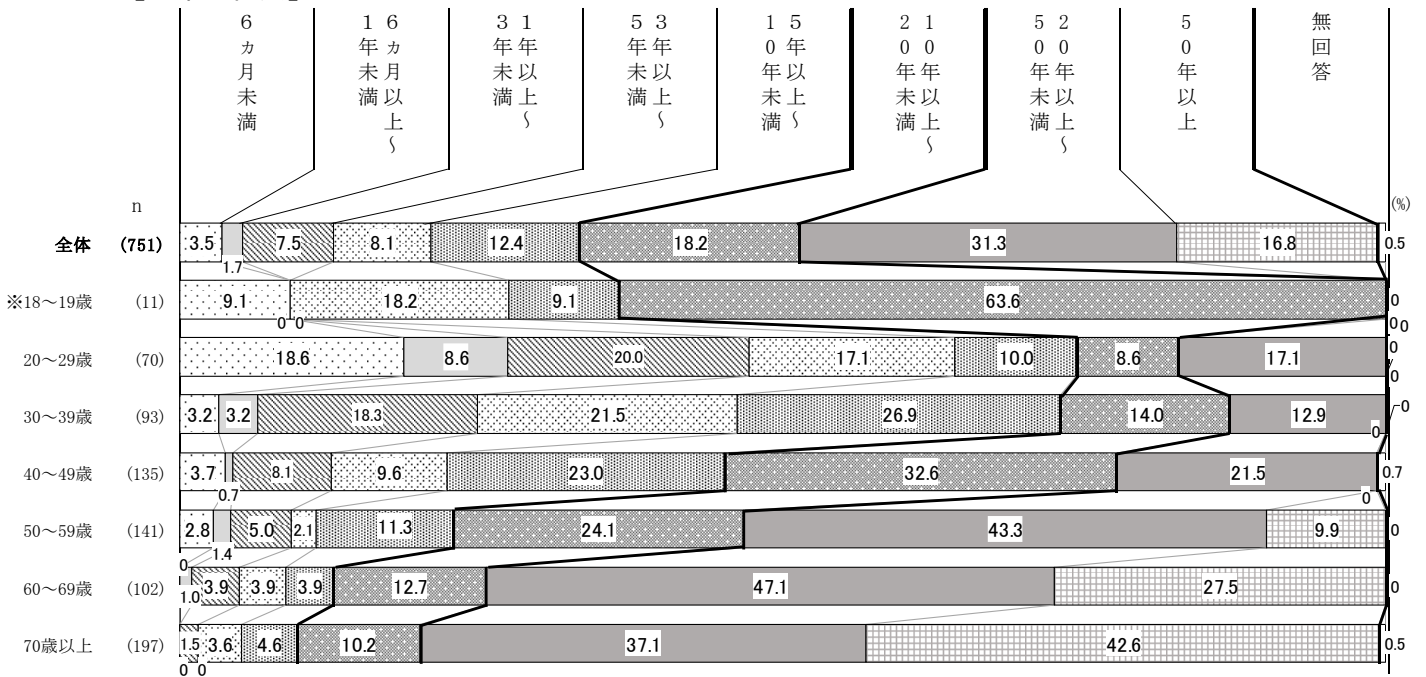
また、外国人の日本での居住期間と日本人の新宿区での居住期間を年齢別で比べた場合、40歳以上では大きな違いがみられない(日本に20年以上住んでいる外国人は、40歳台 20.5%、50歳台 57.2%、60歳台 82.5%、70歳台 81.1%であるのに対し、新宿区に20年以上住んでいる日本人は、40歳台 21.5%、50歳台 53.2%、60歳台 74.6%、70歳台 79.7%である)。

このように、外国人も日本人も、年齢と居住年数の間の相関関係が強く、各質問におけるクロス集計結果も近似している。

図表2-1 日本での滞在期間《年齢別》



【日本人住民】



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

② 国籍

年齢が低いほど「中国」が多く、年齢が上がるほど「韓国」が多くなり、その傾向が顕著である。“18～19歳”は約7割、20歳台は6割近くが「中国」であるのに対し、60歳台では4割台半ばを超え、70歳以上では5割台半ばを超える人が「韓国」である。なお、いずれの年齢も「中国」「韓国」を除くと、「その他」が多くなっており、とくに“30～39歳”は「その他」が約2割と多くなっている。なお、「その他」は、多い順に「イギリス」「バングラデシュ」「イタリア」「オーストラリア」「香港」などである。

図表2-2 国籍《年齢別》

【外国人住民】

(%)

	n	中国	韓国	ネパール	ベトナム	ミャンマー	台湾	アメリカ	フランス	フィリピン	タイ
全体	1024	38.0	19.7	4.4	3.6	4.8	5.3	2.5	2.7	2.6	2.3
18～19歳	41	70.7	7.3	2.4	4.9	2.4	2.4	2.4	0	0	0
20～29歳	322	58.4	6.5	3.4	6.5	5.0	5.0	1.2	1.9	1.2	1.6
30～39歳	294	32.3	12.6	7.5	4.4	6.1	6.8	2.4	3.1	2.4	1.7
40～49歳	161	24.8	31.7	5.6	0	3.7	5.6	1.9	1.9	3.7	5.0
50～59歳	105	21.9	38.1	1.9	1.0	1.9	1.9	5.7	5.7	7.6	4.8
60～69歳	63	17.5	46.0	0	0	3.2	9.5	3.2	4.8	3.2	0
70歳以上	37	8.1	56.8	0	0	10.8	0	8.1	2.7	0	2.7

	n	その他	無国籍	無回答
全体	1024	13.9	0	0.1
18～19歳	41	7.3	0	0
20～29歳	322	9.3	0	0
30～39歳	294	20.7	0	0
40～49歳	161	16.1	0	0
50～59歳	105	9.5	0	0
60～69歳	63	12.7	0	0
70歳以上	37	10.8	0	0

■ : 20.0～29.9% ■ : 30.0～39.9% ■ : 40.0～49.9% ■ : 50.0%～

◆ 「その他」の記述

イギリス[18人]、バングラデシュ[9人]、イタリア[7人]、オーストラリア[7人]、香港[7人]、スペイン[6人]、ブラジル[6人]、モンゴル[6人]、カナダ[5人]、マレーシア[5人]、インドネシア[4人]、ドイツ[4人]、ロシア[4人] など

③ 在留資格

外国人の在留資格を年齢別に、多い順に1番目から3番目までをみると、“18～19歳”と20歳台は「留学生」が最も多く、とくに“18～19歳”では8割台半ばと大きな割合を占めている。30歳台の1番目、また20歳台の2番目は「技術・人文知識・国際業務」であり、40歳台から60歳台では「永住者」が最も多くなり、“70歳以上”では「特別永住者」が最も多い。

図表2-3 年齢別在留資格（上位3位）

()内は%

	上位3位
18～19歳	①留学(85.4) ②家族滞在(4.9) ③特別永住者(4.9)
20～29歳	①留学(61.2) ②技術・人文知識・国際業務(18.9) ③永住者(3.7)
30～39歳	①技術・人文知識・国際業務(32.7) ②留学(13.9) ③永住者(13.9)
40～49歳	①永住者(36.0) ②技術・人文知識・国際業務(12.4) ③家族滞在(9.9)
50～59歳	①永住者(37.1) ②家族滞在(9.5) ③特別永住者(9.5)
60～69歳	①永住者(54.0) ②日本人の配偶者(11.1) ③定住者(9.5)
70歳以上	①特別永住者(32.4) ②永住者(29.7) ③定住者(10.8)

④ 同居家族

ここでは同居家族について、「(同居家族が) いない」単身世帯に着目してみたい。単身世帯の割合は20歳台が56.8%と5割台半ばを超え最も高く、次いで、18～19歳の51.2%、30歳台の38.4%、70歳以上の37.8%という順になっている。一方、日本人の単身世帯の割合も、20歳台が51.4%と5割強で最も高く、次いで、70歳以上の33.0%、30歳台の31.2%という順になっている。

このように、全体で見ると、単身世帯は外国人が39.5%で4割弱、日本人が29.3%で3割弱だが、年齢毎に比較してみると、それほど大きく変わらないことがわかる。

図表2-4 同居家族（複数回答）《年齢別》

【外国人住民】

	n	配偶者又はパートナー	子ども	自分または配偶者の親	その他の親類	友人・知人	その他	いない	無回答
全体	1024	38.4	20.6	3.1	2.3	11.4	2.4	39.5	0.9
18～19歳	41	2.4	0	9.8	9.8	22.0	2.4	51.2	2.4
20～29歳	322	10.2	1.6	2.5	2.2	23.3	4.3	56.8	0.9
30～39歳	294	43.5	19.7	4.1	2.4	8.5	2.4	38.4	0.7
40～49歳	161	69.6	49.1	0	1.2	1.9	0.6	23.0	0.6
50～59歳	105	64.8	47.6	4.8	1.0	1.9	1.0	17.1	1.0
60～69歳	63	55.6	23.8	1.6	1.6	1.6	1.6	28.6	0
70歳以上	37	43.2	10.8	5.4	5.4	5.4	0	37.8	0

：10.0～19.9% ：20.0%～

【日本人住民】

	n	配偶者又はパートナー	子ども	自分又は配偶者の親	その他の親類	友人・知人	その他	いない	無回答
全体	751	54.6	27.4	9.2	4.0	0.7	1.5	29.3	1.1
※18～19歳	11	9.1	0	72.7	36.4	0	9.1	0	9.1
20～29歳	70	14.3	2.9	24.3	10.0	2.9	2.9	51.4	0
30～39歳	93	55.9	41.9	10.8	3.2	0	2.2	31.2	1.1
40～49歳	135	62.2	44.4	9.6	3.7	0	2.2	23.0	0
50～59歳	141	64.5	36.9	7.8	4.3	0	0.7	21.3	0
60～69歳	102	60.8	22.5	8.8	3.9	2.0	0	28.4	0
70歳以上	197	55.8	15.2	0.5	0.5	0.5	1.0	33.0	2.0

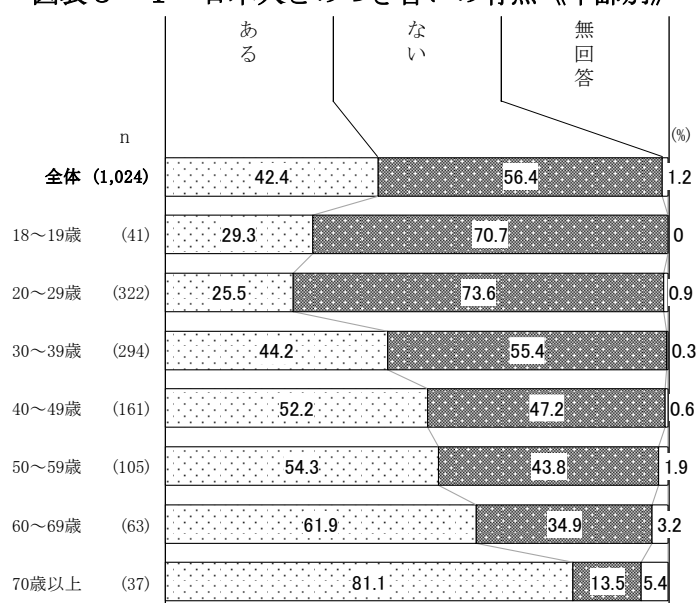
：10.0～19.9% ：20.0%～

(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

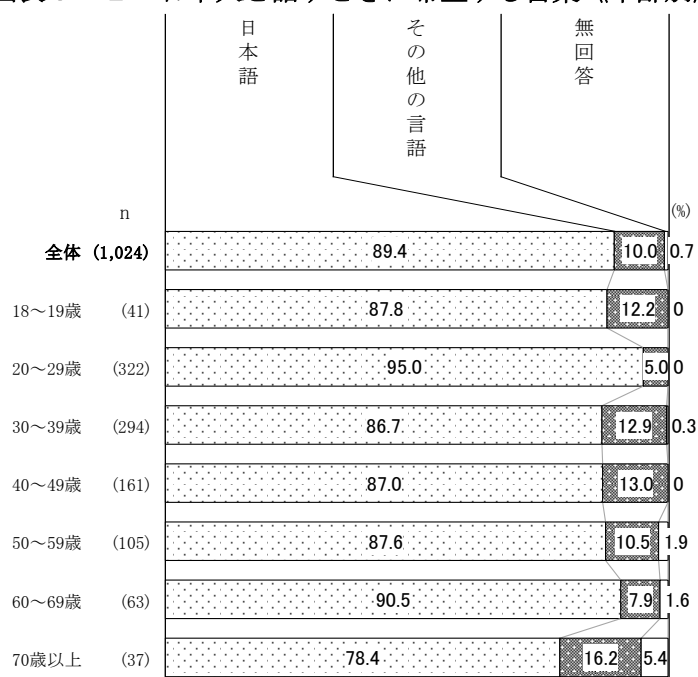
3 日本人とのつき合いについて

日本人とのつき合いは、「ある」と回答した年齢は18～20歳台で少なくなっており、年齢が上がるごとに増えている。一方、日本語での会話を希望している人の割合はいずれの年代でも高いが、特に20歳台で9割台半ばと最も高い。また、後に触れるが18～20歳台では、多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと（P309参照）で「地域の日本人との話し合いを行う」、参加したいと思える交流会・イベント（P310参照）で「日本人とゆっくり話せる機会のあるイベント」が他の年代よりも多く、交流方法でも「対面」を希望する割合が多いことから、日本人と日本語で話したいというニーズが特に高いことがみてとれる。

図表3-1 日本人とのつき合いの有無《年齢別》



図表3-2 日本人と話すときに希望する言葉《年齢別》



4 困りごと・相談先について

① 困りごと・不満

自分や自分の家族が、日本の生活で困っている困りごと・不満を、年齢別にみていくと、「ことば」は“18～19歳”で5割台半ば近くと全ての年齢を通して最も大きくなっているが、“60～69歳”を除いた年齢で、いずれも2割以上が「ことば」を挙げている。また、「住居」「出入国在留管理庁手続き」「仕事」「生活費など金銭的な問題」なども、年齢に関係のない困りごとだといえる。

一方で、「友達が少ない」や「情報」は、若年層で困りごととして挙げている人が多い。「友達が少ない」は、“18～19歳”で3割弱、“20～29歳”で2割台半ばを超え、“30～39歳”で2割台半ばとなり、全体でも平成27年度より増加傾向がみられ（P53参照）、コロナ禍で人との付き合いが希薄になっていることも影響していると考えられる。また、困りごとが「特にない」割合は年齢が上がるにつれ高くなり、“50～59歳”では3割台半ばを超え、“70歳以上”では困りごとが「特にない」が4割台半ば近くとなり、家族・友人や地域の付き合いなど支えがある人が多いと考えられる。なお、困りごとのある人の平均回答項目数は年齢による大きな違いは見られない。

図表4-1 日本の生活で困っていることや不満なこと(複数回答)《年齢別》

【外国人住民】

	n	(%)										
		ことば	情報	住居	出入国在留管理庁の手続き	区役所の手続き	金融機関の手続き(銀行、郵便局等)	病院・医療	年金	出産・育児	子どもの教育	
全体	1024	27.4	11.0	11.7	13.8	9.7	16.9	8.9	8.8	2.5	4.2	
18～19歳	41	53.7	22.0	17.1	4.9	4.9	7.3	4.9	0	0	0	
20～29歳	322	29.2	12.4	9.0	14.3	10.9	20.8	7.1	8.1	1.6	0.6	
30～39歳	294	27.2	11.2	17.7	16.0	11.9	20.4	10.5	11.2	5.4	7.8	
40～49歳	161	28.0	9.9	10.6	14.9	9.3	16.1	11.2	7.5	3.1	9.3	
50～59歳	105	21.0	6.7	4.8	12.4	5.7	11.4	9.5	6.7	0	1.9	
60～69歳	63	14.3	9.5	9.5	9.5	4.8	3.2	7.9	14.3	0	0	
70歳以上	37	24.3	5.4	10.8	8.1	8.1	8.1	5.4	8.1	0	2.7	

	n										
		老後・介護	仕事	災害時・緊急時の対応	近所づき合い	友達が少ない	日本人とのトラブル	日本人からの偏見・差別	日本人が閉鎖的である	生活費など金銭的な問題	その他
全体	1024	5.2	11.8	7.2	5.0	21.3	1.7	12.8	12.7	16.0	3.6
18～19歳	41	0	7.3	4.9	2.4	29.3	2.4	9.8	2.4	19.5	0
20～29歳	322	0.9	12.4	5.9	6.2	27.0	1.9	11.8	14.6	18.3	3.1
30～39歳	294	4.4	15.0	7.1	4.8	25.5	2.0	17.7	16.3	18.0	4.1
40～49歳	161	6.8	10.6	8.1	6.8	19.9	2.5	13.0	9.9	8.7	5.0
50～59歳	105	8.6	4.8	8.6	1.9	8.6	0	8.6	8.6	13.3	5.7
60～69歳	63	17.5	15.9	9.5	1.6	4.8	0	6.3	9.5	14.3	1.6
70歳以上	37	16.2	5.4	10.8	5.4	0	0	8.1	8.1	18.9	0

「特にない」・「無回答」以外回答者数

	n	特にない	無回答
全体	1024	23.3	1.1
18～19歳	41	17.1	2.4
20～29歳	322	18.6	0.3
30～39歳	294	18.4	0.3
40～49歳	161	24.2	1.2
50～59歳	105	36.2	2.9
60～69歳	63	39.7	3.2
70歳以上	37	43.2	0

人数	平均回答数
774	2.8
33	2.4
261	2.7
239	3.1
120	2.8
64	2.4
36	2.7
21	2.7

■ : 10.0～19.9% ■ : 20.0～29.9% ■ : 30.0%～

◆ 「その他」の記述

生活に関する手続きが煩雑（未デジタル化・プロセスが多いなど）[7人]、日本の行政力・法律・経済に関すること[3人]、日本人の性質によること（本音と建前、頑固）[3人]、生活費・税金が高いなど[3人] など

② 困った時の相談先

困った時の相談先は、70歳以上を除いたいずれの年齢も「知人・友人（同国人）」「家族・親戚」が1位・2位である。30歳台以上で、日本人の知人・友人を挙げる人が増えるが、日本滞在期間20年以上の人が半数以上いる50歳以上でも、日本人よりも同国人の知人・友人が多い。

図表4-2 困った時の相談先（複数回答）《年齢別》

【外国人住民】

	n	知人・友人 (同国人)	知人・友人 (日本人)	家族・親戚	職場の同僚	民族団体・ 同国人の 組織	教会・寺院	ボランティ ア団体	幼稚園・保 育園・子ど も園の先 生	学校の先 生	東京都や 新宿区の 外国人相 談窓口	(%)
全体	1024	65.1	33.9	46.6	22.4	2.1	3.3	1.7	1.1	13.9	5.1	
18～19歳	41	73.2	14.6	61.0	4.9	0	2.4	0	0	29.3	2.4	
20～29歳	322	78.3	23.6	43.2	15.5	0.9	0.9	0.6	0	29.5	4.3	
30～39歳	294	64.3	37.8	46.3	31.3	2.0	2.4	1.7	1.7	7.8	5.8	
40～49歳	161	67.1	40.4	49.1	29.2	2.5	5.0	1.9	3.7	4.3	6.8	
50～59歳	105	50.5	47.6	49.5	21.9	3.8	7.6	1.0	0	3.8	3.8	
60～69歳	63	42.9	41.3	42.9	20.6	4.8	6.3	6.3	0	1.6	7.9	
70歳以上	37	21.6	35.1	51.4	5.4	2.7	8.1	5.4	0	0	0	

	n	民生委員・ 児童委員・ 社会福祉 協議会	近くに住ん でいる人	その他	誰にも相 談しない	相談する 相手がい ない	無回答
全体	1024	0.8	2.5	3.4	2.5	2.7	0.8
18～19歳	41	0	2.4	4.9	2.4	2.4	0
20～29歳	322	0.3	0.3	3.1	1.9	3.4	0
30～39歳	294	0.3	2.7	3.4	3.4	1.4	0.7
40～49歳	161	0.6	3.7	3.7	1.2	2.5	0
50～59歳	105	3.8	2.9	4.8	3.8	1.9	1.9
60～69歳	63	0	7.9	1.6	3.2	4.8	3.2
70歳以上	37	2.7	5.4	2.7	2.7	8.1	2.7

■ : 20.0～39.9% ■ : 40.0～59.9% ■ : 60.0%～

③ 地域の日本人に望むこと

「地域の日本人に望むこと」は、年齢が低いほど「望むこと」の該当項目数が多くなる傾向がみられる。逆に、40歳以上では年齢が上がるほど「特にない」の割合が高くなり、“70歳以上”では半数以上が「特にない」と回答している。一方、20歳台や30歳台では、「あいさつなど親しく声をかけてほしい」と「地域の行事やイベントなどに誘ってほしい」が3割以上、「生活ルールを教えて欲しい」が2割以上になるなど、日本や地域での暮らしに溶け込みたいという気持ちがあがえる。また、「偏見や差別をなくして欲しい」は、いずれの年齢でも2割以上の回答率となり、年齢の違いに関係ない要望といえる。

図表4-3 地域の日本人に望むこと（複数回答）《年齢別》

【外国人住民】

	n	あいさつなど親しく声をかけてほしい	生活ルールを教えて欲しい	自分たちの文化や習慣などを理解してほしい	自分たちのことばを理解できるように努めて欲しい	地域の行事やイベントなどに誘って欲しい	偏見や差別をなくしてほしい	その他	特にない	無回答
全体	1024	29.8	18.1	16.4	11.6	29.2	29.5	2.9	30.3	1.6
18～19歳	41	41.5	24.4	14.6	34.1	24.4	29.3	2.4	29.3	0
20～29歳	322	31.1	24.5	19.6	17.1	36.3	29.8	2.5	26.1	0.3
30～39歳	294	32.0	20.1	16.0	10.5	31.0	33.3	5.1	24.8	2.4
40～49歳	161	29.2	11.8	14.3	5.6	29.8	28.6	1.9	30.4	0
50～59歳	105	26.7	10.5	14.3	2.9	21.9	21.9	2.9	41.0	2.9
60～69歳	63	19.0	7.9	17.5	9.5	14.3	28.6	0	46.0	3.2
70歳以上	37	18.9	5.4	8.1	2.7	2.7	24.3	0	54.1	5.4

「特にない」・「無回答」以外
回答者数

	n	人数	平均回答数
全体	1024	698	2.0
18～19歳	41	29	2.4
20～29歳	322	237	2.2
30～39歳	294	214	2.0
40～49歳	161	112	1.7
50～59歳	105	59	1.8
60～69歳	63	32	1.9
70歳以上	37	15	1.5

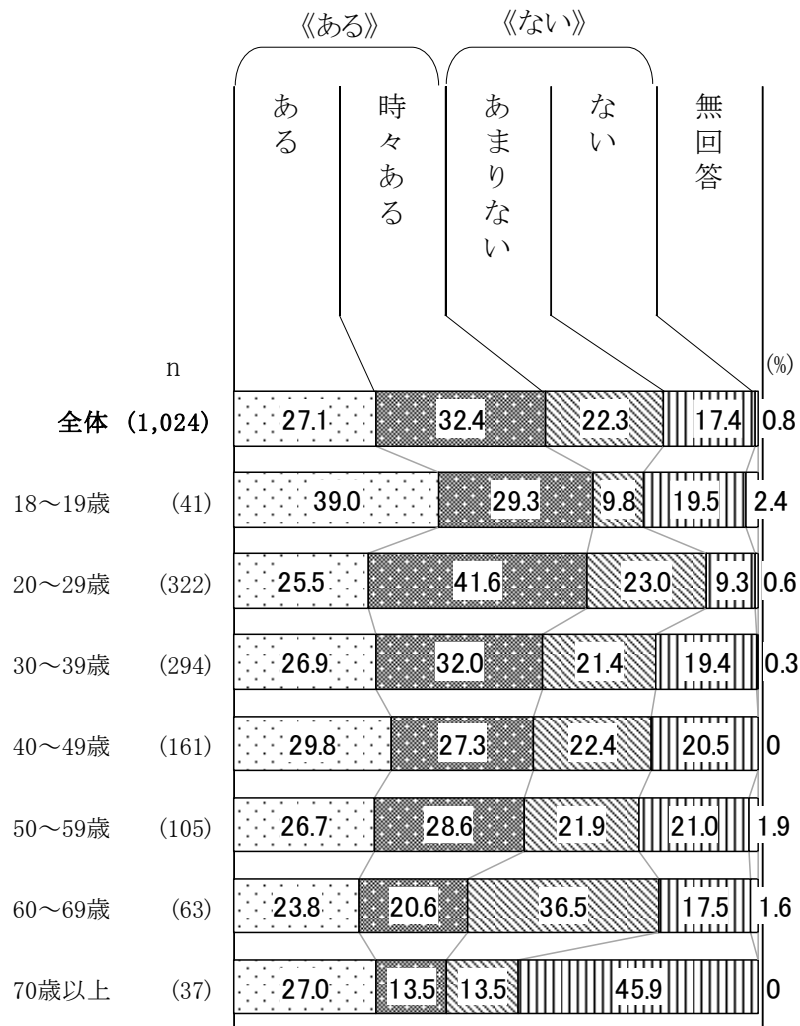
■ : 20.0～29.9% ■ : 30.0%～

5 日本語に関する困りごと、日本語学習ニーズについて

① 日本語に関する困りごと

日本語に関して困ることの有無を年齢別にみると、“18～19歳”で日本語に関する困ることが《ある》（「ある」「時々ある」の合算）が7割近くで最も多く、年齢が上がるほどその割合は低くなるものの、滞在年数が長い“70歳以上”でも約4割の人が困ることが《ある》と答えており、言葉の壁が大きいことがわかる。

図表5-1 日本語に関して困ることの有無《年齢別》



日本語に関して困ることが《ある》人の困りごとの内容としては、「日常会話」(46.7%)、「日本語の新聞やお知らせを読むこと」(43.8%)、「役所や病院での説明理解すること」(45.9%)の3項目の割合が多く、年齢による大きな違いは見られない。いずれも、日常生活を送る上ではもちろん、震災・災害時や病気・怪我をした時などの不安にもつながる項目である。

図表5-2 日本語に関して困ること(複数回答)《年齢別》

【外国人住民】

	n	ひらがな・カタカナを読むこと	ひらがな・カタカナを書くこと	簡単な漢字の読み書き	日常会話	日本語のテレビやラジオのニュースを見ること・聞くこと	日本語の新聞やお知らせを読むこと	役所や病院での説明を理解すること	その他	無回答
全体	610	10.8	9.8	22.3	46.7	36.9	43.8	45.9	11.1	0.7
※18～19歳	28	17.9	3.6	14.3	67.9	64.3	57.1	50.0	7.1	0
20～29歳	216	8.3	6.0	12.0	54.6	37.5	35.2	31.0	12.0	0.5
30～39歳	173	9.8	8.7	23.1	39.9	33.5	48.0	49.1	12.1	0
40～49歳	92	9.8	8.7	33.7	42.4	38.0	45.7	60.9	7.6	1.1
50～59歳	58	17.2	19.0	36.2	48.3	36.2	53.4	58.6	19.0	1.7
※60～69歳	28	14.3	28.6	39.3	28.6	35.7	50.0	57.1	3.6	0
※70歳以上	15	20.0	26.7	20.0	26.7	13.3	33.3	53.3	0	6.7

■ : 20.0～39.9% ■ : 40.0%～

(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

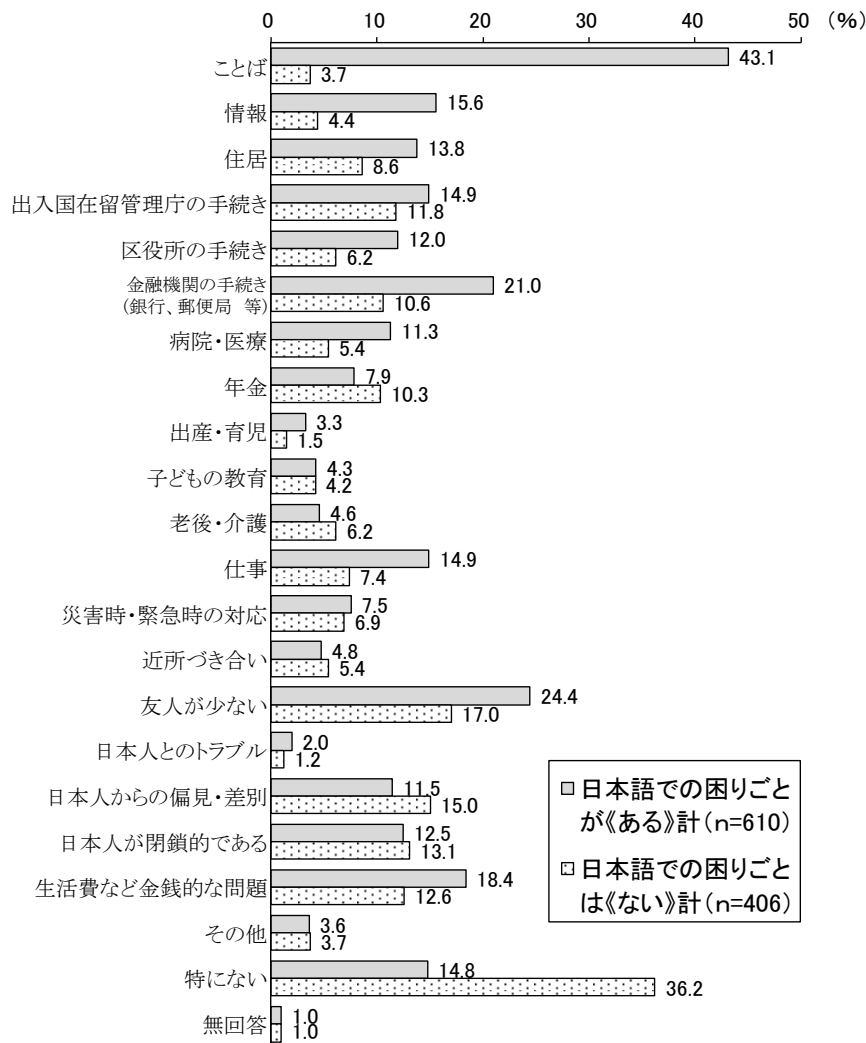
◆「その他」の記述

会社・仕事で(ビジネス用語)[8人]、銀行・医療など生活に関わること(契約も含む)[7人]、敬語(店員の接客用語を含む)[5人]、話し言葉(方言・子ども・タメロや隠語・流行語・俗語・略語)[5人]、文章を書くこと(論文・レポートの定型・メール文章を含む)[5人]、高レベルの語彙・難しい漢字の読み書き(法律や文献など含む)[4人] など

前項の「自分や自分の家族が、日本の生活で困っている困りごと・不満」を「日本語に関する困りごとの有無」別でみたのが次ページの図(図表5-3)である。この図をみてもあきらかなように、日本語で困っている人は、困っていない人に比べて、生活上での困りごととも多くなっている。

日本語に関して困ることが《ある》人が、そうでない人に比べて、生活上で(「ことば」を除いて)困っている回答割合の差が大きいのは、「情報」「金融機関の手続き」(以上、10ポイント以上の差)、「仕事」「友人が少ない」(以上、7ポイント以上の差)、「病院・医療」「区役所の手続き」「生活費など金銭的な問題」「住居」(以上、5ポイント以上の差)などとなっている。地域日本語教育の取組のほか、とくに生活で必要な情報の取得や金融機関や公的機関、医療機関などの手続きや日本語以外での相談対応などサポートが求められていることがわかる。

図表5-3 日本の生活で困っていることや不満なこと（複数回答）《日本語での困りごと有無別》



【外国人住民】

	n	ことば	情報	住居	出入国在留管理庁の手続き	区役所の手続き	金融機関の手続き(銀行、郵便局等)	病院・医療	年金	出産・育児	子どもの教育
全体	1024	27.4	11.0	11.7	13.8	9.7	16.9	8.9	8.8	2.5	4.2
ある	278	60.8	18.0	15.8	13.7	11.5	19.1	11.2	4.7	3.2	4.3
時々ある	332	28.3	13.6	12.0	16.0	12.3	22.6	11.4	10.5	3.3	4.2
あまりない	228	4.4	5.3	9.2	12.3	7.9	14.0	6.6	9.2	1.3	3.1
ない	178	2.8	3.4	7.9	11.2	3.9	6.2	3.9	11.8	1.7	5.6

	n	老後・介護	仕事	災害時・緊急時の対応	近所づき合い	友人が少ない	日本人とのトラブル	日本人からの偏見・差別	日本人が閉鎖的である	生活費など金銭的な問題	その他
全体	1024	5.2	11.8	7.2	5.0	21.3	1.7	12.8	12.7	16.0	3.6
ある	278	4.7	15.1	7.6	4.0	25.2	1.8	10.1	10.4	20.9	4.7
時々ある	332	4.5	14.8	7.5	5.4	23.8	2.1	12.7	14.2	16.3	2.7
あまりない	228	5.7	7.9	7.5	5.7	19.3	0.9	13.6	12.7	14.0	3.1
ない	178	6.7	6.7	6.2	5.1	14.0	1.7	16.9	13.5	10.7	4.5

	n	特にない	無回答
全体	1024	23.3	1.1
ある	278	10.8	1.1
時々ある	332	18.1	0.9
あまりない	228	31.1	0.9
ない	178	42.7	1.1

■ : 10.0~19.9% ■ : 20.0~29.9% ■ : 30.0%~

② 日本語で困った時の ICT 活用

日本語で困った時の対応を年齢別に見ていくと、「通訳・翻訳アプリを活用する」が全体で 73.0% と 7 割台半ば近くで、外国人が日本で暮らす外国人にとって ICT 活用が便利で不可欠な存在であることがわかるが、60 歳台以上では「通訳・翻訳アプリを活用する」が 3 割台半ばかそれ以下に留まっており、身近な人に手伝ってもらっている（もらう必要がある）と思われる。

図表 5-4 日本語で困った時の対応（複数回答）《年齢別》

【外国人住民】

(%)

	n	日本語ができる友人を頼る	行政機関に相談する	通訳・翻訳アプリを活用する	日本語学校・日本語教室に相談する。	その他	対応できていない	無回答
全体	610	48.0	3.8	73.0	14.3	7.0	2.6	2.1
※18～19歳	28	39.3	3.6	67.9	32.1	7.1	0	3.6
20～29歳	216	42.6	2.8	84.7	19.9	4.2	1.9	0.9
30～39歳	173	49.7	4.0	71.1	12.7	8.1	4.6	2.3
40～49歳	92	50.0	5.4	78.3	7.6	3.3	2.2	0
50～59歳	58	56.9	3.4	60.3	8.6	13.8	1.7	5.2
※60～69歳	28	50.0	7.1	28.6	3.6	14.3	3.6	10.7
※70歳以上	15	73.3	0	33.3	0	20.0	0	0

: 20.0～39.9%
 : 40.0～59.9%
 : 60.0%～

(注) ※印の層は n が少ない (30 人未満) ため、参考として掲載する。

◆「その他」の記述

誰かに聞く・頼る (家族・同僚など) [12 人]、インターネット [7 人]、辞書で調べる [5 人]、もう一度聞く・説明してもらう [4 人] など

③ 日本語の学習意向

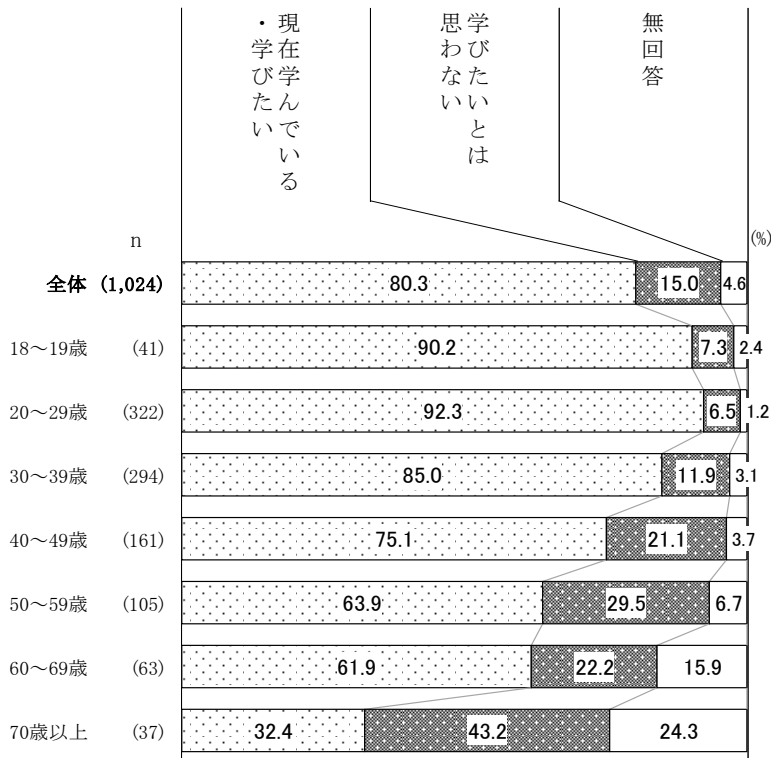
日本語の学習意向を年齢別で見ると、留学生の割合が多い18歳から20歳台では9割以上が「現在学んでいる」あるいは「学びたい」と答え、年齢が上がるほどその割合は低くなる。しかしながら、50歳以上でも2割前後の人が「現在学んでいる」と答え、また50歳台と60歳台で4割強の人が「(現在は学んでいないが) 学びたい」と回答するなど、年齢に関係なく日本語の学習ニーズが大きいことがわかる。

図表5-5 日本語の学習意向《年齢別》

【外国人住民】

	n	現在学んでいる	学びたい	学びたいとは思わない	無回答
全体	1024	52.2	28.1	15.0	4.6
18～19歳	41	90.2	0	7.3	2.4
20～29歳	322	75.2	17.1	6.5	1.2
30～39歳	294	51.0	34.0	11.9	3.1
40～49歳	161	38.5	36.6	21.1	3.7
50～59歳	105	22.9	41.0	29.5	6.7
60～69歳	63	19.0	42.9	22.2	15.9
70歳以上	37	21.6	10.8	43.2	24.3

■ : 20.0～39.9% ■ : 40.0～59.9% ■ : 60.0%～



また、現在の学んでいる方法、あるいは（学習意向がある人の）学びたい方法としては、20歳台、30歳台では6割台が「インターネットを利用」を挙げ、その割合は年齢が上がるにつれて低くなるものの、60歳台でも3割台が「インターネットを利用」を挙げ、最もニーズが大きい学習方法となっている。また、「日本語学校」の割合が2割以下に下がる40歳台以上において、「ボランティアによる日本語教室」が25%以上と高いなど、年齢の違いにかかわらず、教室を利用した日本語学習ニーズもみられることから、対面とオンラインそれぞれの特性を活かした学習環境の提供が望まれる。

図表5-6 日本語を学んでいる方法及び学びたい方法（複数回答）《年齢別》

【外国人住民】

	n	テレビ・ラジオの語学講座、通信教育、テレビ・新聞などを利用	インターネットを利用	ボランティアなどによる日本語教室	日本語学校	大学などの講座やコース	家庭教師に習う	家族に教えてもらう	友人に教えてもらう	職場で同僚に教えてもらう	その他	無回答
全体	823	26.1	58.2	17.7	33.9	13.9	7.7	9.1	20.4	19.6	7.7	0.4
18～19歳	37	27.0	59.5	5.4	81.1	21.6	2.7	5.4	10.8	0	5.4	0
20～29歳	297	22.2	62.6	12.8	51.5	21.2	4.4	2.7	20.9	17.5	4.4	0
30～39歳	250	29.2	65.6	16.8	23.6	8.4	9.6	7.6	18.4	23.2	9.6	0.4
40～49歳	121	31.4	52.1	25.6	19.8	11.6	10.7	16.5	24.0	24.0	12.4	0.8
50～59歳	67	20.9	46.3	29.9	7.5	3.0	10.4	20.9	20.9	22.4	7.5	1.5
60～69歳	39	28.2	30.8	28.2	15.4	10.3	10.3	28.2	30.8	15.4	2.6	0
※70歳以上	12	25.0	8.3	16.7	16.7	16.7	8.3	8.3	8.3	8.3	25.0	0

■ : 20.0～39.9% ■ : 40.0～59.9% ■ : 60.0%～

(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

自由意見の回答結果でも、日本語で話す機会や学ぶ機会が欲しいなど、「日本語でコミュニケーションを行いたい」というものが多く見られた。また、新宿区が運営する日本語教室に対する高い評価がある一方、開催曜日や学習内容に対する不満・要望なども見られ、働き方や日本語のレベルに合った日本語クラスに対するニーズへの対応が課題といえる。

(自由回答例 ※一部抜粋し、「である」調に統一している)

日本語でコミュニケーションを行いたい

- ・外国人として日本語はまだ上手ではない。でも自分の意見を述べる時、聞いてほしい。困るとき、正しいことを教えてほしい。(女性/20代)
- ・日本語が話せないなのでコミュニケーションできない。区役所での書類申請などの手続きで、翻訳機で日本語に翻訳して見せても、日本語で答えられると理解できない。(女性/20代)
- ・多文化共生プラザの日本語ひろばに何度か行こうと思ったが、日本語で気楽に会話はできないし、時間も合わない。(女性/20代)
- ・新宿区は、外国人のためにいろいろ努力してくれている。外国人にとって一番重要なことは言葉だと思うので、日本語教育を第一に取り組んでほしい。(女性/60代)

週末クラスなどを開催してほしい

- ・忙しくて対面の講座に出られない住民のためにオンライン講座があると、仕事を終えてから講座を受けることができる。(男性/30代)
- ・語学クラスは素晴らしいが、開講時間がフルタイム労働者では参加できない。日本語を学ぶための週末クラスが少ない。(女性/30代)
- ・仕事の休みが日曜なので、日曜日にも語学クラスを開講してほしい。(男性/40代)

新宿区の日本語クラスを受講した感想

- ・以前、区の日本語クラス(日本語ひろば)を受講した外国人の一人として、このプログラムに費やして下さったすべての努力に感謝したい。日本語を学ぶ場所というだけでなく、サポートやケアもよくしていただいた。(女性/30代)
- ・区の日本語クラスに参加したことがあるが、無料とはいえ、参加者に対してボランティアの数が圧倒的に少なくて退屈だった。(女性/30代)
- ・日本語を教えてくれて、喜んで協力をしてくれたセンターに感謝している。(女性/50代)

6 情報ニーズについて

① 知りたい情報

新宿区で生活していく上で知りたい情報は、いずれの年齢でも8割から9割が知りたい情報を1項目以上挙げており、「防災や地震」、「医療や健康保険」、「税金・年金」は、70歳以上を除き、おおむね全年齢で3割以上と高い割合となっている。一方、年齢により傾向が異なる項目としては、「ごみの出し方やリサイクル方法」(30歳台以下で高い)、「高齢者への支援」(60歳以上で高い)、「子どもの教育」(30歳台、40歳台で高い)、「お祭り・スポーツなどのイベント」(50歳台以下で高い)などが挙げられる。

全項目中で、最も高い割合は70歳以上の「高齢者への支援」(67.6%)だが、2番目、3番目が20歳台と30歳台の「お祭り・スポーツなどのイベント」(“20～29歳”が53.7%、“30～39歳”が52.2%)であり、日本での滞在期間が短い若年層のイベント等への参加意向が高いことがわかる。

そのほかにも年齢別でみると各年齢で4割以上の項目が数項目あり、情報ニーズへの対応には、年齢も考慮に入れた情報の提供方法の工夫が必要となっている。

図表6-1 新宿区で生活していく上で知りたい情報(複数回答)《年齢別》

【外国人住民】

	n	ごみの出し方やリサイクル方法	防災や地震	高齢者への支援	医療や健康保険	町会・自治会など地域活動	税金・年金	出産・育児	子どもの教育	住まい	お祭り・スポーツなどのイベント
全体	1024	21.5	32.5	14.0	37.7	21.0	38.2	10.7	16.0	29.2	42.9
18～19歳	41	31.7	41.5	9.8	39.0	12.2	24.4	4.9	4.9	22.0	53.7
20～29歳	322	27.3	32.3	4.7	35.4	19.3	33.2	6.2	6.5	33.5	52.2
30～39歳	294	26.2	35.7	9.5	43.2	23.8	48.6	23.1	26.5	37.1	46.6
40～49歳	161	13.0	33.5	15.5	38.5	27.3	38.5	10.6	30.4	24.2	42.2
50～59歳	105	12.4	29.5	17.1	36.2	21.0	41.0	1.9	11.4	18.1	30.5
60～69歳	63	7.9	23.8	44.4	34.9	14.3	36.5	1.6	3.2	20.6	17.5
70歳以上	37	8.1	18.9	67.6	18.9	8.1	8.1	0	0	5.4	2.7

	n	その他	特にない	無回答
全体	1024	2.2	11.8	1.1
18～19歳	41	0	17.1	0
20～29歳	322	2.2	10.9	0.6
30～39歳	294	3.4	8.2	0
40～49歳	161	0.6	13.7	0
50～59歳	105	3.8	11.4	3.8
60～69歳	63	1.6	20.6	3.2
70歳以上	37	0	21.6	5.4

: 20.0～29.9%
 : 30.0～39.9%
 : 40.0～49.9%
 : 50.0%～

② 情報入手に関わるニーズ

必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこととしては、50歳台より低い年齢では「SNS（ツイッター・フェイスブック）やメールによる発信を増やす」が50歳台以下で3割以上となり、「ホームページの情報を増やす」は30歳台から50歳台で3割台半ばとなっている。また、70歳台を除く全ての年齢で、「いろいろな情報を1つの場所で配布する」は2割台以上となっている。これらの質問は平成27年と比べてニーズが高まっていることがわかる。（P142参照）

一方で、“18～19歳”で「外国語による新宿区の情報」は4割近く、「標識や案内を日本語と外国語で書く」は3割台半ばが挙げていて、多言語対応へのニーズが他の年代より高くなっている。また、60歳台で2割台半ば近く、70歳以上で4割台が「特にない」と回答しているが、これは先に取り上げた困りごとの「特にない」の回答率と相似している。

図表6-2 必要な情報を手に入れるために新宿にしてほしいこと（複数回答）《年齢別》

【外国人住民】

	n	いろいろな情報を1つの場所で配布する	外国語による新宿区の情報（広報紙、パンフレット等）を増やす	英語・中国語・韓国語以外の言語でも情報を伝える	標識や案内を日本語と外国語で書く	ホームページの情報を増やす	SNS（ツイッター・フェイスブック）やメールによる発信を増やす	その他	特にない	無回答
全体	1024	27.4	26.4	19.1	21.2	30.2	36.3	3.8	14.3	3.0
18～19歳	41	26.8	39.0	29.3	34.1	17.1	36.6	2.4	9.8	0
20～29歳	322	28.0	26.1	19.6	21.4	26.7	39.8	3.1	15.2	1.6
30～39歳	294	32.0	29.6	20.4	24.5	36.4	42.9	6.1	9.5	1.7
40～49歳	161	24.2	24.2	17.4	18.6	35.4	37.9	1.9	13.0	1.9
50～59歳	105	22.9	27.6	16.2	18.1	35.2	31.4	5.7	13.3	5.7
60～69歳	63	27.0	17.5	20.6	17.5	19.0	9.5	1.6	23.8	9.5
70歳以上	37	16.2	10.8	8.1	5.4	8.1	8.1	0	40.5	13.5

(%)

：20.0～29.9% ：30.0～39.9% ：40.0%～

③ 情報ニーズに関する意見

新宿区で生活する上で知りたい情報と入手方法に関する意見を以下に取りまとめた。

(自由回答例 ※一部抜粋し、「である」調に統一している)

【あるといい情報】

- ・新宿のような大都会に慣れていない外国人も多い。私も最初に来たとき、大通りで新興宗教の人に声をかけられたことがある。そういうリスクなどについての情報も必要だと思う。(女性/20代)
- ・外国人は、ビザや仕事探し、頼れる仲間がいないなど、多くの不安を抱えていることが多いので、心療内科医や精神科医のボランティア協会などの情報もあるといいと思う。(女性/20代)
- ・外国人が職を探すに際して大変なことが多い。外国人がもっと仕事に就けるよう、サポートしてくれる場所や情報に意識を向けてくれればいいと思う。(男性/30代)
- ・コミュニティで開催されるイベント情報を多言語で入手できる単一の情報源があれば最高だ。(男性/30代)

【必要な情報へのアクセス】

- ・地域イベント情報(外国人参加の可否を含む)にもっとアクセスしやすくしてほしい。(女性/20代)
- ・各家庭への案内が少ないと思う。また外国人も高齢な方も多くなっている。この辺の対策も必要ではないか。(男性/30代)
- ・高齢の外国人居住者が増え、彼らが必要とする資源や支援に、どのようにアクセスできるかが一つの課題になるだろう。(男性/40代)

7 地域活動、交流会等への参加ニーズ

① 地域活動への参加意向

地域活動への参加意向を年齢別でみると、60歳台まではいずれの年齢でも9割近い人がやりたい活動を上げていて、「PTAや父母会の活動を日本人と一緒にやる」「通訳・翻訳以外のボランティア活動を行う」を除いて、いずれの活動も参加意向がおおむね2割前後から4割前後となっている。

外国人の各活動への参加意向としては、「気軽に話をする」「地域の日本人との話し合いを行う」などがとくに日本に来てあまり年数が経っていない若年層の参加意向が高い。

図表7-1 多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと（複数回答）《年齢別》

【外国人住民】

		(%)									
	n	あいさつするなど声をかけ合う	気軽に話をする	生活習慣やルールを相談し合う	地域の日本人との話し合いを行う	地域の日本人との交流や、イベントを企画する	町会の避難訓練や清掃など、地域活動に参加する	自分たちの国の文化・ことば・料理などを紹介する	PTAや父母会の活動を日本人と一緒にやる	通訳・翻訳などのボランティア活動を行う	通訳・翻訳以外のボランティア活動を行う
全体	1024	29.2	40.4	23.9	36.6	33.0	23.0	27.7	7.9	24.9	19.4
18～19歳	41	48.8	61.0	41.5	61.0	34.1	19.5	29.3	12.2	24.4	7.3
20～29歳	322	29.2	48.1	26.1	46.9	38.2	18.6	31.4	7.1	28.9	20.2
30～39歳	294	26.9	40.1	26.5	37.1	35.7	26.5	28.9	11.6	27.2	23.8
40～49歳	161	34.8	37.3	21.1	29.2	30.4	29.2	21.1	9.3	20.5	19.9
50～59歳	105	26.7	27.6	17.1	22.9	30.5	25.7	28.6	2.9	20.0	18.1
60～69歳	63	17.5	27.0	17.5	23.8	23.8	20.6	23.8	1.6	27.0	14.3
70歳以上	37	29.7	27.0	8.1	10.8	0	8.1	18.9	0	2.7	2.7

		日本の生活に慣れていない外国人支援の活動(NGO/NPOを含む)に参加したり協力したりする	その他	したくない	無回答
全体	1024	25.7	2.3	8.8	3.3
18～19歳	41	24.4	2.4	2.4	2.4
20～29歳	322	27.3	0.6	10.2	0.9
30～39歳	294	28.6	3.4	7.8	2.4
40～49歳	161	31.1	1.2	8.7	0.6
50～59歳	105	20.0	5.7	8.6	5.7
60～69歳	63	15.9	1.6	4.8	7.9
70歳以上	37	0	5.4	18.9	27.0

■ : 20.0～29.9% ■ : 30.0～39.9% ■ : 40.0%～

② 交流会等への参加ニーズ

交流会等への参加意向では、全体では8割台半ばを超えた人が1つ以上の参加したい交流会を挙げている。「18～19歳」と20歳台では9割以上がいずれかの項目を挙げ、平均回答数も若年層で多い。

また、希望する交流方法は、すべての年齢で「対面」あるいは「どちらでも」が多くなっている。なかでも、「18～19歳」と20歳台では「対面」希望が5割以上と、他の年齢より多くなっている点は注目に値する。同年齢では困りごととして「友だちが少ない」を挙げている人が多く、地域の人と知り合える場への参加ニーズが高いといえる。

図表7-2 参加したいと思える交流会・イベント（複数回答）《年齢別》

【外国人住民】

	n	盆踊りなど地域で開催されるお祭り	地域センターなどで開催される趣味サークル活動	フットサルなどのスポーツ活動	日本の料理を楽しむなど、日本の文化に触れる交流会	自分の国の文化を紹介する多文化共生イベント	お互いの言葉を紹介しあうイベント	日本人とゆっくり話せる機会のあるイベント	その他	特になし	無回答
全体	1024	47.8	39.0	16.4	46.9	27.1	23.1	43.8	2.1	10.5	2.6
18～19歳	41	48.8	29.3	4.9	48.8	29.3	26.8	65.9	0	7.3	0
20～29歳	322	59.3	39.4	18.9	52.2	30.7	27.0	55.0	1.2	8.1	0.6
30～39歳	294	48.6	39.1	18.4	48.0	33.7	27.2	43.9	3.1	8.5	3.1
40～49歳	161	44.1	42.9	15.5	44.1	14.9	16.1	36.0	2.5	12.4	3.1
50～59歳	105	41.9	44.8	20.0	46.7	21.9	21.0	33.3	2.9	13.3	1.9
60～69歳	63	17.5	33.3	6.3	39.7	23.8	15.9	31.7	0	12.7	7.9
70歳以上	37	24.3	21.6	0	16.2	16.2	2.7	8.1	2.7	32.4	10.8

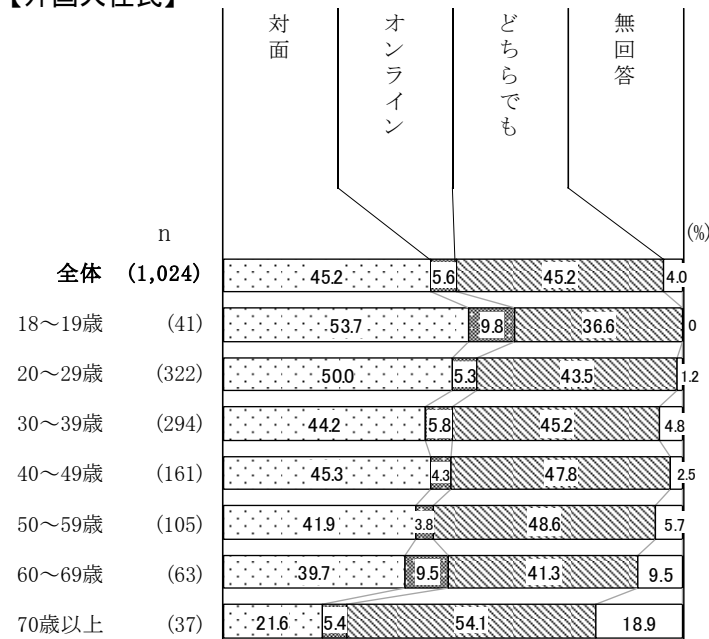
「特になし」「無回答」以外回答者数

	n	人数	平均回答数
全体	1024	888	2.8
18～19歳	41	38	2.7
20～29歳	322	294	3.1
30～39歳	294	260	3.0
40～49歳	161	136	2.6
50～59歳	105	89	2.7
60～69歳	63	50	2.1
70歳以上	37	21	1.6

■ : 30.0～39.9% ■ : 40.0～49.9% ■ : 50.0%～

図表7-3 交流方法《年齢別》

【外国人住民】



自由記述欄の回答でも、20歳台、30歳台を中心に、「地域のイベント、ボランティア活動に参加したい」といった意見、また「交流イベントに関する提案」や自分の語学や専門性を活かして手伝いたいという意見も多くあり、地域活動や交流イベントへの関心の高さを反映している。

(自由回答例 ※一部抜粋し、「である」調に統一している)

【地域のイベント、ボランティア活動に参加したい】

- ・私のような外国人住民の多くは、コミュニティをサポートしたり、地域のイベントに参加したりすることを望んでいる。(男性/20代)
- ・自分の専門は映画・ドキュメンタリーなので、それをいかして新宿区の文化共生を推進したい。(女性/20代)
- ・ボランティア活動についてもっと知りたい。(男性/30代)
- ・私は、差別、人種差別、LGBTQ などについて、喜んで話をしたい。(女性/30代)
- ・高齢者訪問、街中の清掃、お祭りへの参加、動物を引き取るボランティアなど、コミュニティを助ける活動に参加したい。(女性/30代)
- ・ポルトガル語とスペイン語のボランティア通訳を時々行っている。多言語対応に応じた NPO や NGO の活動があるとよいと思う。(女性/50代)
- ・高齢者や子供を助けるボランティア活動に参加したいが、そういう機会をどこで見つければ良いか分からない。(女性/50代/若松町/アメリカ)

【交流イベントのアイデア】

- ・交流会などイベントの準備は皆で一緒にやるのがいいと思う。(女性/20代)
- ・一緒にサッカーの試合を見るときか、サッカーをすとかお願いしたい。(男性/20代)
- ・多様なエスニックレストランやエスニックフードを通した文化交流イベント、渋谷の代々木公園でやっているような文化フェスティバルを企画したい。(男性/50代)
- ・定期的な語学教室、料理教室、文化交流があるといいと思う。異文化交流のコミュニティづくりを応援したい。外国語講師の資格を持っているので、料理教室や様々な国の語学教室を開き、お互い交流を深められたらいいと思う。(女性/50代)
- ・情報交換のためのディナーか料理教室があれば楽しいと思う。(男性/60代)

8 「しんじゅく多文化共生プラザ」の利用について

しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うものは、外国人では、「日本語教室」が比較的高く、特に“知っていたし利用したこともある”の回答者で高くなっている。また、“知っていたし利用したこともある”では、「多言語での情報提供」が5割近く、「日本語学習に関する情報提供」が4割強と日本語学習や情報収集のために利用している人が多いことがうかがえる。

また、特に“知らなかったが利用してみたい”で「外国人コミュニティと日本人をつなぐ活動」が高くなっている。“知らなかったが利用してみたい”の回答が“18～19歳”から“30～39歳”で5割以上となっていることから、若年層において日本人との交流が求められていることがうかがえる。

【外国人住民】 図表8-1 しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの《認知度別》

	n	日本語教室	外国人相談	多言語での情報提供	多目的スペースで行われている活動	フリースペースの利用	日本語学習に関する情報提供	ホームページでの地域で外国人と日本人がつながるために役立つ情報の発信	外国人コミュニティと日本人をつなぐ活動	交流の場の提供	その他	無回答
全体	1024	46.8	49.2	37.8	20.3	15.9	30.2	28.3	42.7	28.8	2.0	3.8
知っていたし利用したこともある	41	75.9	65.5	48.3	20.7	19.0	41.4	19.0	32.8	25.9	1.7	0
知っていたが利用したことはない	322	46.5	47.4	34.3	19.1	12.2	28.7	27.8	37.4	22.2	1.3	2.6
知らなかったが利用してみたい	294	50.2	52.1	40.6	24.9	18.7	33.9	34.3	51.1	34.3	1.9	2.2
知らなかったし利用したいと思わない	161	31.8	40.9	31.8	9.7	11.9	18.8	17.0	31.3	24.4	2.3	3.4

(%) : 20.0～39.9% : 40.0～59.9% : 60.0%～

【外国人住民】 図表8-2 しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの《年齢別》

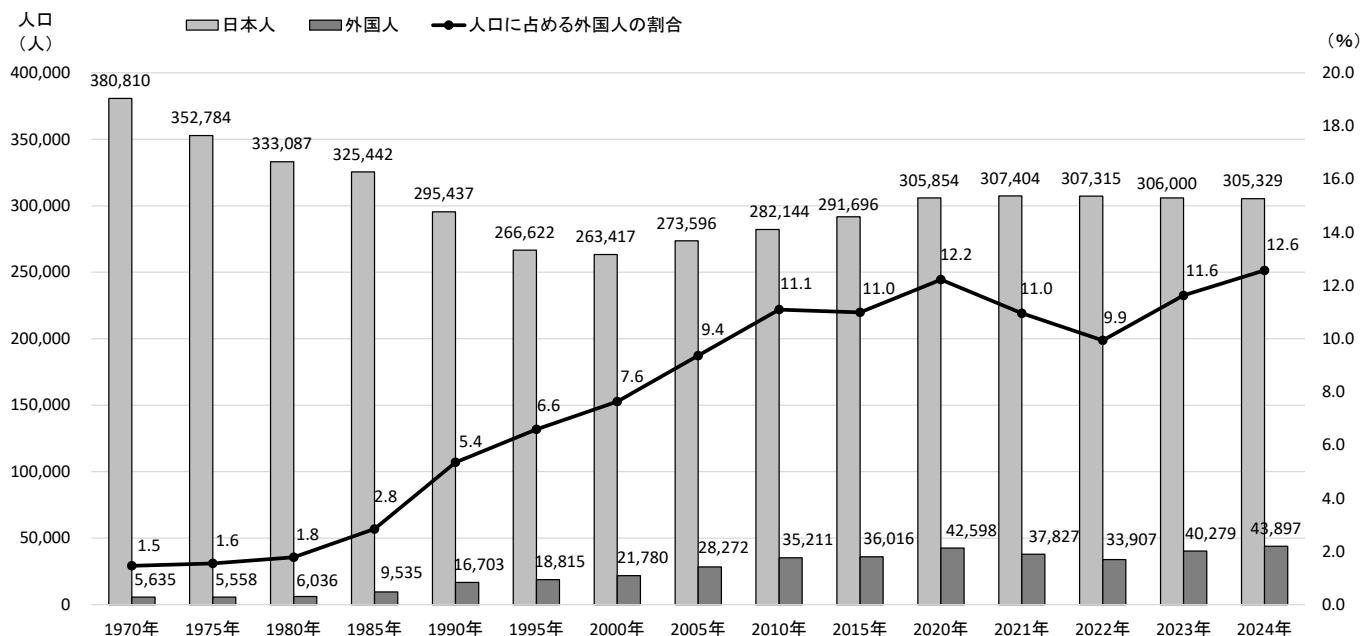
	n	日本語教室	外国人相談	多言語での情報提供	多目的スペースで行われている活動	フリースペースの利用	日本語学習に関する情報提供	ホームページでの地域で外国人と日本人がつながるために役立つ情報の発信	外国人コミュニティと日本人をつなぐ活動	交流の場の提供	その他	無回答
全体	1024	46.8	49.2	37.8	20.3	15.9	30.2	28.3	42.7	28.8	2.0	3.8
18～19歳	41	41.5	41.5	39.0	19.5	22.0	34.1	26.8	43.9	36.6	0	4.9
20～29歳	322	47.5	49.1	38.8	21.1	16.8	31.1	28.3	51.2	32.0	0.9	1.9
30～39歳	294	50.7	57.5	42.2	22.8	19.7	34.0	29.9	46.6	28.6	3.1	3.1
40～49歳	161	54.0	49.7	36.6	20.5	12.4	29.8	29.2	35.4	26.7	1.9	0
50～59歳	105	44.8	43.8	32.4	14.3	9.5	25.7	32.4	37.1	26.7	3.8	6.7
60～69歳	63	31.7	42.9	33.3	25.4	14.3	27.0	22.2	31.7	22.2	0	7.9
70歳以上	37	16.2	18.9	21.6	2.7	8.1	8.1	13.5	2.7	21.6	2.7	24.3

(%) : 20.0～39.9% : 40.0%～

第5部 資料編

第5部 資料編

付1 人口の推移



	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
人口総数	312,140	285,437	285,197	301,868	317,355	327,712	348,452	345,231	341,222	346,279	349,226
日本人	295,437	266,622	263,417	273,596	282,144	291,696	305,854	307,404	307,315	306,000	305,329
外国人	16,703	18,815	21,780	28,272	35,211	36,016	42,598	37,827	33,907	40,279	43,897
韓国※	7,079	7,550	8,928	11,384	14,332	10,554	10,150	9,276	8,654	8,966	9,021
中国	6,312	6,583	6,764	9,289	11,314	13,236	15,120	13,615	11,468	15,414	17,240
ネパール	16	24	63	115	819	2,284	2,909	2,403	2,320	2,501	3,183
ミャンマー	85	636	707	831	1,274	1,244	1,865	1,523	1,734	1,968	2,375
フランス	398	429	661	880	1,128	730	787	683	590	705	723
米国	618	612	658	722	905	965	980	913	826	1,070	1,145
フィリピン	545	790	702	796	924	673	748	740	663	638	658
タイ	148	289	383	593	716	699	678	629	593	621	603
ベトナム				84	170	2,468	3,042	2,522	2,198	2,278	2,474
その他	1,502	1,902	2,914	3,578	3,629	3,163	6,319	5,523	4,861	6,118	6,475

※2015年以前は韓国又は朝鮮

日本人人口及び外国人人口は住民基本台帳より。各年1月1日現在。

付2 国籍別一覽

国籍別一覽表

2024年1月1日現在

(人)

NO	国籍・地域	男	女	合計	NO	国籍・地域	男	女	計
1	中国	8,862	8,378	17,240	68	ガーナ	6	0	6
2	韓国	4,394	4,627	9,021	69	セネガル	6	0	6
3	ネパール	1,749	1,434	3,183	70	カメルーン	5	1	6
4	ベトナム	1,269	1,205	2,474	71	エジプト	4	2	6
5	ミャンマー	1,259	1,116	2,375	72	スロバキア	1	5	6
6	台湾	693	1,136	1,829	73	ボリビア	3	2	5
7	米国	776	369	1,145	74	コンゴ民主共和国	2	3	5
8	フランス	486	237	723	75	エストニア	2	3	5
9	フィリピン	178	480	658	76	ベラルーシ	1	4	5
10	タイ	241	362	603	77	エリトリア	1	4	5
11	バングラデシュ	335	62	397	78	キルギス	0	5	5
12	英国	268	115	383	79	アルジェリア	4	0	4
13	ウズベキスタン	279	22	301	80	キューバ	4	0	4
14	インド	209	66	275	81	エルサルバドル	3	1	4
15	ロシア	97	136	233	82	ルクセンブルク	3	1	4
16	インドネシア	121	99	220	83	ウガンダ	2	2	4
17	カナダ	135	69	204	84	ケニア	1	3	4
18	ドイツ	122	72	194	85	キプロス	3	0	3
19	ブラジル	100	73	173	86	ベナン	3	0	3
20	オーストラリア	116	53	169	87	コートジボワール	3	0	3
21	モンゴル	72	94	166	88	イエメン	3	0	3
22	マレーシア	86	77	163	89	エチオピア	2	1	3
23	イタリア	93	59	152	90	ラトビア	2	1	3
24	スペイン	84	37	121	91	ウルグアイ	2	1	3
25	朝鮮	63	42	105	92	ジンバブエ	2	1	3
26	シンガポール	49	44	93	93	スロベニア	2	1	3
27	スリランカ	45	28	73	94	リトアニア	1	2	3
28	スイス	40	25	65	95	オマーン	1	2	3
29	ウクライナ	18	47	65	96	セルビア	1	2	3
30	トルコ	51	11	62	97	アイスランド	0	3	3
31	スウェーデン	32	21	53	98	マダガスカル	2	0	2
32	パキスタン	45	5	50	99	トーゴ	2	0	2
33	メキシコ	24	22	46	100	タジキスタン	2	0	2
34	ペルー	24	21	45	101	ドミニカ共和国	1	1	2
35	オランダ	31	13	44	102	バブアニューギニア	1	1	2
36	アルゼンチン	21	22	43	103	トリニダード・トバゴ	1	1	2
37	ニュージーランド	27	10	37	104	トルクメニスタン	1	1	2
38	コロンビア	17	19	36	105	ジョージア	1	1	2
39	ポーランド	22	12	34	106	アルバニア	0	2	2
40	イラン	23	10	33	107	アゼルバイジャン	0	2	2
41	サウジアラビア	17	8	25	108	バーレーン	1	0	1
42	チリ	12	13	25	109	ブルンジ	1	0	1
43	フィンランド	13	11	24	110	コスタリカ	1	0	1
44	アイルランド	21	2	23	111	カーボベルデ	1	0	1
45	カンボジア	15	8	23	112	コモロ	1	0	1
46	イスラエル	15	8	23	113	エクアドル	1	0	1
47	ポルトガル	13	8	21	114	ガボン	1	0	1
48	オーストリア	15	5	20	115	グアテマラ	1	0	1
49	チュニジア	12	7	19	116	ジャマイカ	1	0	1
50	ナイジェリア	17	1	18	117	レバノン	1	0	1
51	ベルギー	13	5	18	118	マラウイ	1	0	1
52	ノルウェー	12	6	18	119	モーリシャス	1	0	1
53	ルーマニア	5	13	18	120	モザンビーク	1	0	1
54	ハンガリー	9	8	17	121	マーシャル	1	0	1
55	デンマーク	11	5	16	122	ニジェール	1	0	1
56	ラオス	12	3	15	123	シリア	1	0	1
57	カザフスタン	9	6	15	124	バヌアツ	1	0	1
58	モロッコ	10	4	14	125	モンテネグロ	1	0	1
59	アラブ首長国連邦	8	4	12	126	コソボ	1	0	1
60	ギリシャ	8	3	11	127	パラグアイ	0	1	1
61	アフガニスタン	6	3	9	128	ルワンダ	0	1	1
62	クロアチア	6	3	9	129	セーシェル	0	1	1
63	無国籍	6	2	8	130	ベネズエラ	0	1	1
64	ブルガリア	4	4	8	131	サモア	0	1	1
65	南アフリカ共和国	5	2	7	132	アルメニア	0	1	1
66	チェコ	2	5	7		その他(出生等)	7	6	13
67	タンザニア	2	5	7		合計	22,944	20,953	43,897

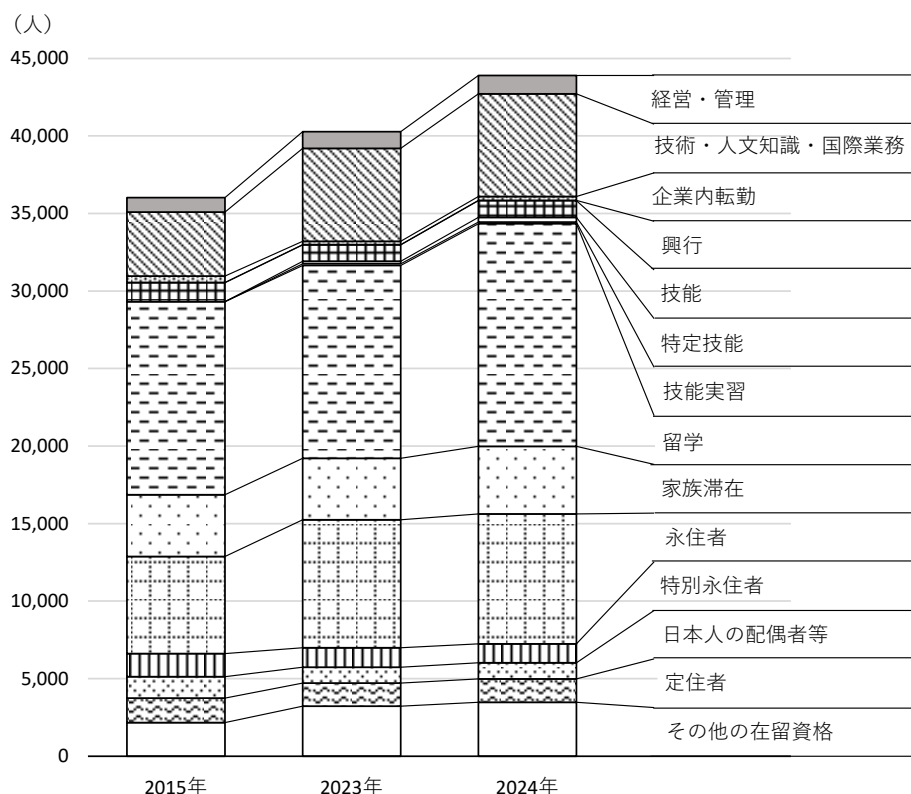
付3 町丁目別人口

令和6年1月1日現在

新宿区 住民基本台帳の町丁目別世帯数及び男女別人口(外国人のみ)

町丁目名	世帯数 (世帯)	男(人)	女(人)	計(人)	町丁目名	世帯数 (世帯)	男(人)	女(人)	計(人)	町丁目名	世帯数 (世帯)	男(人)	女(人)	計(人)
四谷1丁目	20	17	7	24	細工町	9	3	8	11	戸山1丁目	175	97	113	210
四谷2丁目	19	12	10	22	二十騎町	34	26	18	44	戸山2丁目	369	217	385	602
四谷3丁目	27	15	14	29	揚場町	1	1	0	1	戸山3丁目	69	44	40	84
四谷4丁目	213	127	120	247	津久戸町	2	1	1	2	篤久町	366	266	262	528
四谷本塩町	21	10	13	23	東五軒町	94	48	51	99	百人町1丁目	1,176	766	574	1,340
四谷三栄町	64	43	41	84	西五軒町	148	90	72	162	百人町2丁目	1,452	1,023	818	1,841
四谷坂町	151	107	85	192	赤城元町	8	3	5	8	百人町3丁目	380	341	326	667
若葉1丁目	90	72	49	121	南横町	47	37	20	57	百人町4丁目	230	204	257	461
若葉2丁目	56	31	34	65	袋町	33	21	17	38	大久保1丁目	1,134	726	653	1,379
若葉3丁目	63	34	35	69	松方町	46	26	36	62	大久保2丁目	1,900	1,298	1,162	2,460
須賀町	48	31	24	55	南町	14	13	6	19	大久保3丁目	489	339	375	714
左門町	83	50	41	91	北町	21	16	11	27	戸塚町1丁目	48	26	32	58
信濃町	112	59	60	119	納戸町	61	43	28	71	西早稲田1丁目	953	555	484	1,039
南元町	148	70	109	179	南山伏町	33	22	24	46	西早稲田2丁目	1,187	650	616	1,266
荒木町	150	103	98	201	白山伏町	38	19	26	45	西早稲田3丁目	1,061	643	533	1,176
舟町	68	35	38	73	白銀町	46	27	26	53	高田馬場1丁目	659	444	314	758
愛住町	75	54	34	88	下宮比町	14	5	9	14	高田馬場2丁目	367	211	190	401
大京町	178	117	83	200	矢来町	162	98	86	184	高田馬場3丁目	1,129	686	588	1,274
鷹ヶ丘町	1	1	0	1	若宮町	51	51	54	105	高田馬場4丁目	1,026	700	532	1,232
内藤町	56	36	40	76	岩戸町	27	13	20	33	下落合1丁目	753	440	406	846
片町	31	15	19	34	中町	17	18	8	26	下落合2丁目	393	301	190	491
新宿1丁目	338	211	187	398	笹管町	38	26	17	43	下落合3丁目	293	193	166	359
新宿2丁目	136	90	73	163	横寺町	26	17	12	29	下落合4丁目	456	256	232	488
新宿3丁目	5	3	4	7	筑土八幡町	37	24	25	49	中落合1丁目	413	271	219	490
新宿4丁目	3	2	2	4	新小川町	166	95	95	190	中落合2丁目	391	253	214	467
新宿5丁目	276	160	148	308	神楽河岸	0	0	0	0	中落合3丁目	220	122	132	254
新宿6丁目	405	253	260	513	市谷薬王寺町	190	154	160	314	中落合4丁目	214	115	132	247
新宿7丁目	740	493	464	957	市谷柳町	63	42	44	73	上落合1丁目	359	249	214	463
歌舞伎町1丁目	8	7	3	10	市谷仲之町	157	164	166	330	上落合2丁目	380	214	215	429
歌舞伎町2丁目	310	168	201	369	赤城下町	59	34	35	69	上落合3丁目	395	221	228	449
市谷田町1丁目	1	0	1	1	天神町	87	49	44	93	西落合1丁目	220	120	132	252
市谷田町2丁目	14	9	7	16	榎町	47	25	25	50	西落合2丁目	218	142	135	277
市谷田町3丁目	27	10	22	32	東横町	44	19	26	45	西落合3丁目	134	79	76	155
市谷本村町	97	79	79	158	早稲田町	192	91	116	207	西落合4丁目	89	53	50	103
市谷砂土原町1丁目	3	3	2	5	早稲田南町	88	52	42	94	中井1丁目	142	86	75	161
市谷砂土原町2丁目	18	17	8	25	馬場下町	31	21	18	39	中井2丁目	194	101	122	223
市谷砂土原町3丁目	66	72	44	116	原町1丁目	116	64	67	131	北新宿1丁目	1,366	923	753	1,676
市谷左内町	13	10	8	18	原町2丁目	63	41	40	81	北新宿2丁目	447	312	308	620
市谷加賀町1丁目	7	6	9	15	原町3丁目	139	105	118	223	北新宿3丁目	1,213	870	672	1,542
市谷加賀町2丁目	73	46	46	92	喜久井町	97	66	42	108	北新宿4丁目	1,094	720	651	1,371
市谷甲良町	30	19	18	37	築地町	16	10	7	17	西新宿1丁目	2	1	1	2
市谷船河原町	5	9	7	16	弁天町	222	126	134	260	西新宿2丁目	1	1	0	1
市谷長延寺町	8	4	4	8	中里町	16	9	13	22	西新宿3丁目	224	134	122	256
市谷鷹匠町	14	8	6	14	山吹町	429	207	266	473	西新宿4丁目	580	344	330	674
市谷山伏町	21	12	15	27	改代町	38	22	18	40	西新宿5丁目	332	223	238	461
市谷八幡町	2	1	1	3	水道町	65	36	33	69	西新宿6丁目	375	280	254	534
神楽坂1丁目	0	0	0	0	早稲田鶴巻町	728	391	414	805	西新宿7丁目	232	148	110	258
神楽坂2丁目	7	2	5	7	住吉町	183	139	120	259	西新宿8丁目	264	157	151	308
神楽坂3丁目	23	20	10	30	市谷台町	111	76	55	131					
神楽坂4丁目	4	2	2	4	河田町	424	441	440	881					
神楽坂5丁目	6	7	2	9	若松町	410	318	332	650					
神楽坂6丁目	30	24	10	34	余丁町	206	148	132	280	合 計	35,324	22,944	20,953	43,897

付 4 前回調査時との在留資格別人口比較（各年 1 月 1 日現在）



(人)

	2015年 (住民基本台帳より)	2023年 (住民基本台帳より)	2024年 (住民基本台帳より)
経営・管理	935	1,085	1,181
技術・人文知識・国際業務	4,114	5,990	6,631
企業内転勤	421	213	238
興行	17	19	19
技能	1,215	1,056	1,078
特定技能	-	171	312
技能実習	-	96	111
留学	12,458	12,440	14,350
家族滞在	3,979	3,971	4,351
永住者	6,260	8,240	8,386
特別永住者	1,488	1,252	1,212
日本人の配偶者等	1,387	1,035	1,038
定住者	1,580	1,476	1,517
その他の在留資格	2,162	3,235	3,473
合計	360,616	40,279	43,897

※前回調査時から 2023 年 1 月 1 日までの法改正に伴う在留資格の変更点は次のとおり

- ・「経営・管理」は「投資・経営」から変更
- ・「技術」「人文知識・国際業務」は「技術・人文知識・国際業務」に一本化
- ・「特定技能」「技能実習」の在留資格が追加

付5 在留資格一覧表

在留資格		本邦において行うことができる活動	在留期間
外交		日本国政府が接受する外国政府の外交使節団若しくは領事機関の構成員，条約若しくは国際慣行により外交使節と同様の特権及び免除を受ける者又はこれらの者と同一の世帯に属する家族の構成員としての活動	外交活動の期間
公用		日本国政府の承認した外国政府若しくは国際機関の公務に従事する者又はその者と同一の世帯に属する家族の構成員としての活動（この表の外交の項に掲げる活動を除く。）	5年，3年，1年，3月，30日又は15日
教授		本邦の大学若しくはこれに準ずる機関又は高等専門学校において研究，研究の指導又は教育をする活動	5年，3年，1年又は3月
芸術		収入を伴う音楽，美術，文学その他の芸術上の活動（この表の興行の項に掲げる活動を除く。）	5年，3年，1年又は3月
宗教		外国の宗教団体により本邦に派遣された宗教家の行う布教その他の宗教上の活動	5年，3年，1年又は3月
報道		外国の報道機関との契約に基づいて行う取材その他の報道上の活動	5年，3年，1年又は3月
高度専門職	1号	<p>高度の専門的な能力を有する人材として法務省令で定める基準に適合する者が行う次のイからハまでのいずれかに該当する活動であって，我が国の学術研究又は経済の発展に寄与することが見込まれるもの</p> <p>イ 法務大臣が指定する本邦の公私の機関との契約に基づいて研究，研究の指導若しくは教育をする活動又は当該活動と併せて当該活動と関連する事業を自ら経営し若しくは当該機関以外の本邦の公私の機関との契約に基づいて研究，研究の指導若しくは教育をする活動</p> <p>ロ 法務大臣が指定する本邦の公私の機関との契約に基づいて自然科学若しくは人文科学の分野に属する知識若しくは技術を要する業務に従事する活動又は当該活動と併せて当該活動と関連する事業を自ら経営する活動</p> <p>ハ 法務大臣が指定する本邦の公私の機関において貿易その他の事業の経営を行い若しくは当該事業の管理に従事する活動又は当該活動と併せて当該活動と関連する事業を自ら経営する活動</p>	5年
	2号	1号に掲げる活動を行った者であって，その在留が我が国の利益に資するものとして法務省令で定める基準に適合するものが行う次に掲げる活動	無期限

	<p>イ 本邦の公私の機関との契約に基づいて研究，研究の指導又は教育をする活動</p> <p>ロ 本邦の公私の機関との契約に基づいて自然科学又は人文科学の分野に属する知識又は技術を要する業務に従事する活動</p> <p>ハ 本邦の公私の機関において貿易その他の事業の経営を行い又は当該事業の管理に従事する活動</p> <p>ニ 2号イからハマまでのいずれかの活動と併せて行うこの表の教授，芸術，宗教，報道，法律・会計業務，医療，教育，技術・人文知識・国際業務，介護，興行，技能，特定技能2号の項に掲げる活動（2号のイからハマまでのいずれかに該当する活動を除く。）</p>	
経営・管理	本邦において貿易その他の事業の経営を行い又は当該事業の管理に従事する活動（この表の法律・会計業務の項に掲げる資格を有しなければ法律上行うことができないこととされている事業の経営又は管理に従事する活動を除く。）	5年，3年，1年，6月，4月又は3月
法律・会計業務	外国法事務弁護士，外国公認会計士その他法律上資格を有する者が行うこととされている法律又は会計に係る業務に従事する活動	5年，3年，1年又は3月
医療	医師，歯科医師その他法律上資格を有する者が行うこととされている医療に係る業務に従事する活動	5年，3年，1年又は3月
研究	本邦の公私の機関との契約に基づいて研究を行う業務に従事する活動（この表の教授の項に掲げる活動を除く。）	5年，3年，1年又は3月
教育	本邦の小学校，中学校，高等学校，中等教育学校，特別支援学校，専修学校又は各種学校若しくは設備及び編制に関してこれに準ずる教育機関において語学教育その他の教育をする活動	5年，3年，1年又は3月
技術・人文知識・国際業務	本邦の公私の機関との契約に基づいて行う理学，工学その他の自然科学の分野若しくは法律学，経済学，社会学その他の人文科学の分野に属する技術若しくは知識を要する業務又は外国の文化に基盤を有する思考若しくは感受性を必要とする業務に従事する活動（この表の教授，芸術，報道，経営・管理，法律・会計業務，医療，研究，教育，企業内転勤，興行の項に掲げる活動を除く。）	5年，3年，1年又は3月
企業内転勤	本邦に本店，支店その他の事業所のある公私の機関の外国にある事業所の職員が本邦にある事業所に期間を定めて転勤して当該事業所において行うこの表の技術・人文	5年，3年，1年又は3月

		知識・国際業務の項に掲げる活動	
介護		本邦の公私の機関との契約に基づいて介護福祉士の資格を有する者が介護又は介護の指導を行う業務に従事する活動	5年, 3年, 1年又は3月
興行		演劇, 演芸, 演奏, スポーツ等の興行に係る活動又はその他の芸能活動(この表の経営・管理の項に掲げる活動を除く。)	3年, 1年, 6月, 3月又は30日
技能		本邦の公私の機関との契約に基づいて行う産業上の特殊な分野に属する熟練した技能を要する業務に従事する活動	5年, 3年, 1年又は3月
特定技能	1号	法務大臣が指定する本邦の公私の機関との雇用に関する契約(入管法第2条の5第1項から第4項までの規定に適合するものに限る。次号において同じ。)に基づいて行う特定産業分野(人材を確保することが困難な状況にあるため外国人により不足する人材の確保を図るべき産業上の分野として法務省令で定めるものをいう。同号において同じ。)であって法務大臣が指定するものに属する法務省令で定める相当程度の知識又は経験を必要とする技能を要する業務に従事する活動	法務大臣が個々に指定する期間(1年を超えない範囲)
	2号	法務大臣が指定する本邦の公私の機関との雇用に関する契約に基づいて行う特定産業分野であって法務大臣が指定するものに属する法務省令で定める熟練した技能を要する業務に従事する活動	3年, 1年又は6月
技能実習	1号	イ 技能実習上の認定を受けた技能実習計画(第一号企業単独型技能実習に係るものに限る。)に基づいて, 講習を受け, 及び技能等に係る業務に従事する活動	法務大臣が個々に指定する期間(1年を超えない範囲)
		ロ 技能実習上の認定を受けた技能実習計画(第一号団体監理型技能実習に係るものに限る。)に基づいて, 講習を受け, 及び技能等に係る業務に従事する活動	
	2号	イ 技能実習上の認定を受けた技能実習計画(第二号企業単独型技能実習に係るものに限る。)に基づいて技能等を要する業務に従事する活動 ロ 技能実習上の認定を受けた技能実習計画(第二号団体監理型技能実習に係るものに限る。)に基づいて技能等を要する業務に従事する活動	法務大臣が個々に指定する期間(2年を超えない範囲)
	3号	イ 技能実習上の認定を受けた技能実習計画(第三号企業単独型技能実習に係るものに限る。)に基づいて技能等を要する業務に従事する活動 ロ 技能実習上の認定を受けた技能実習計画(第三号団体	法務大臣が個々に指定する期間(2年を超えない範囲)

	監理型技能実習に係るものに限る。)に基づいて技能等を要する業務に従事する活動	
文化活動	収入を伴わない学術上若しくは芸術上の活動又は我が国特有の文化若しくは技芸について専門的な研究を行い若しくは専門家からの指導を受けてこれを修得する活動(この表の留学、研修の項に掲げる活動を除く。)	3年、1年、6月又は3月
短期滞在	本邦に短期間滞在して行う観光、保養、スポーツ、親族の訪問、見学、講習又は会合への参加、業務連絡その他これらに類似する活動	90日若しくは30日又は15日以内の日を単位とする期間
留学	本邦の大学、高等専門学校、高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。)若しくは特別支援学校の高等部、中学校(義務教育学校の後期課程及び中等教育学校の前期課程を含む。)若しくは特別支援学校の中学部、小学校(義務教育学校の前期課程を含む。)若しくは特別支援学校の小学部、専修学校若しくは各種学校又は設備及び編制に関してこれらに準ずる機関において教育を受ける活動	法務大臣が個々に指定する期間(4年3月を超えない範囲)
研修	本邦の公私の機関により受け入れられて行う技能等の修得をする活動(この表の技能実習1号、留学の項に掲げる活動を除く。)	1年、6月又は3月
家族滞在	教授、芸術、宗教、報道、高度専門職、経営・管理、法律・会計業務、医療、研究、教育、技術・人文知識・国際業務、企業内転勤、介護、興行、技能、特定技能2号、文化活動又はこの表の留学の在留資格をもって在留する者の扶養を受ける配偶者又は子として行う日常的な活動	法務大臣が個々に指定する期間(5年を超えない範囲)
特定活動	法務大臣が個々の外国人について特に指定する活動	5年、3年、1年、6月、3月又は法務大臣が個々に指定する期間(5年を超えない範囲)
永住者	法務大臣が永住を認める者	無期限
日本人の配偶者等	日本人の配偶者若しくは特別養子又は日本人の子として出生した者	5年、3年、1年又は6月
永住者の配偶者等	永住者等の配偶者又は永住者等の子として本邦で出生しその後引き続き本邦に在留している者	5年、3年、1年又は6月
定住者	法務大臣が特別な理由を考慮し一定の在留期間を指定して居住を認める者	5年、3年、1年、6月又は法務大臣が個々に指定する期間(5年を超えない範囲)

付6 新宿区施策一覧

令和5年度 新宿区多文化共生関連施策一覧

	事業名	担当
1	自治基本条例外国人向けハンドブックの印刷	企画政策課
2	新宿区総合計画（概要版）（外国語版）	
3	区紹介冊子「新宿区」の製作	区政情報課
4	外国人向けビデオの貸し出し	
5	区政モニターアンケート	
6	コールセンター	
7	区民意識調査	
8	しんじゅく若者会議	
9	庁舎組織案内図	総務課
10	外国人向け冊子「東京23区の住民税」	税務課
11	しんじゅく多文化防災訓練	危機管理課
12	震災啓発ビデオ・DVDの貸出し	
13	防災思想の普及	
14	多様な主体との連携による多世代への防災意識の普及啓発	
15	町会・自治会加入促進パンフレット（外国語版）	地域コミュニティ課
16	住民基本台帳事務	戸籍住民課
17	外国語版生活情報紙	多文化共生推進課
18	外国語版広報紙	
19	外国人向け生活情報ホームページ	
20	新宿生活スタートブック	
21	外国語版SNS	
22	海外友好都市との交流	
23	多文化共生まちづくり会議の運営	
24	映像による情報提供	
25	外国人相談窓口	
26	外国人留学生学習奨励基金	
27	外国人学校児童生徒保護者の負担軽減補助金	
28	地域国際交流事業	
29	ネットワーク事業の推進	
30	テレビ通訳タブレット	
31	しんじゅく多文化共生プラザの管理運営	
32	日本語教室の運営	多文化共生推進課・ 新宿未来創造財団
33	子ども日本語教室の運営	
34	はじめてしゃべる日本語クラス	
35	日本語ボランティア養成講座	
36	子ども支援ボランティア養成	
37	新宿クリエイターズ・フェスタ外国語ガイドマップ	文化観光課
38	新宿クリエイターズ・フェスタポスター	
39	新宿観光マップ	
40	無料公衆無線LAN環境の整備	

	事業名	担当	
41	新宿文化センター パンフレット	新宿未来創造財団	
42	漱石山房記念館音声ガイド機器		
43	ポケット学芸員リーフレット印刷		
44	友好都市等との交流事業 ○人的交流事業		
45	友好都市との交流事業 ○作品交流事業		
46	外国にルーツをもつ子どものための高校進学ガイダンス		
47	多文化交流事業 (1) 日本語スピーチコンテスト「しゃべれおん'22」 (2) 国際交流区民のつどい・ひなまつり (3) しんじゅく謎解きワールドタウン		
48	日本語学習支援事業 ○親子日本語教室 ○身近なお役立ち日本語教室		
49	地域人材の活用と生涯学習活動支援		
50	広報・広聴の充実		
51	国際都市新宿・踊りの祭典		
52	新宿歴史博物館パンフレット		
53	林芙美子記念館パンフレット		
54	佐伯祐三アトリエ記念館パンフレット		
55	中村彝アトリエ記念館パンフレット		
56	漱石山房記念館パンフレット		
57	落合の記念館 学習のしおり		
58	消費者情報の提供		消費生活就労支援課
59	就業促進支援事業		
60	新宿ものづくり産業発信動画		産業振興課
61	外国語版介護保険べんり帳		介護保険課
62	介護保険料の納付勧奨ちらし		
63	外国人向け「生活保護のしおり」		生活福祉課
64	外国人向け保育園のしおり（入園時の諸注意）	保育指導課	
65	保育園児等への日本語サポート		
66	男女共同参画に関する区民等の意識・実態調査	男女共同参画課	
67	多言語パンフレットの作成	子ども家庭課	
68	子育て支援施策ガイド外国語版の作成		
69	外国語併記母子健康手帳の交付	健康づくり課	
70	健（検）診受診勧奨リーフレット		
71	健康診査・がん検診		
72	多言語対応通訳派遣		
73	国民健康保険のご案内（ダイジェスト版）の発行	医療保険年金課	
74	あなたのくらしと国保の発行		
75	国民健康保険及び国民年金の外国人加入者対応窓口		
76	外国人留学生向け窓口の設置		
77	国民健康保険料 催告書同封チラシ		

	事業名	担当	
78	国民健康保険料減額ちらし		
79	国民健康保険料に係る減免予告チラシ		
80	保険料減免制度案内チラシ（多言語版）の作成		
81	不当利得発生防止チラシ		
82	医療費返還請求チラシ		
83	限度額適用認定証チラシ		
84	療養費の郵送申請案内チラシ		
85	出産育児一時金郵送申請案内チラシ		
86	エイズ対策（リーフレット）		保健予防課
87	外国人電話相談		
88	結核健康診断		
89	乳幼児健康診査未来所者案内通知	牛込保健センター	
90	乳幼児健康診査における通訳者の配置	東新宿保健センター	
91	乳幼児健康診査の案内通知		
92	離乳食リーフレットの翻訳		
93	人と猫との調和のとれたまちづくり	衛生課	
94	狂犬病予防対策等		
95	ペット防災対策事業		
96	住宅宿泊事業法令に基づく監視指導等		
97	住まいの環境衛生相談		
98	受動喫煙防止対策に係る普及啓発		
99	新宿WE バスルートマップ	交通対策課	
100	自転車安全利用五則		
101	自転車保険周知チラシ		
102	路上等障害物条例周知リーフレット		
103	自転車対策コールセンター案内チラシ	新宿リサイクル活動センター	
104	講座「資源・ごみの分別とリサイクル」		
105	路上喫煙禁止周知用ポスターステッカー・ティッシュ・喫煙所案内マップ等	ごみ減量リサイクル課	
106	路上喫煙禁止周知用ビデオ・DVD		
107	ポイ捨て禁止周知用ポスターステッカー		
108	路上喫煙禁止啓発用ポスター		
109	災害廃棄物処理計画（概要版）	環境対策課	
110	「お静かにお願いします」看板（啓発看板）		
111	外国人向け周知チラシ「資源・ごみの分け方・出し方」	新宿清掃事務所	
112	外国人向け周知冊子「資源・ごみの正しい分け方・出し方」		
113	外国人向け周知チラシ「リサイクル・清掃事業普及啓発チラシ」		
114	外国人向け周知チラシ「事業系資源・ごみの正しい分け方・出し方」		
115	外国人向け周知チラシ「年末年始ごみ収集のお知らせ」		
116	資源・ごみ分別アプリ		
117	ユニバーサルデザインまちづくり啓発映像及び放映	景観・まちづくり課	
118	新宿駅周辺地区の整備推進	新宿駅周辺基盤整備担当課	
119	新宿区居住支援サービスガイド作成	住宅課	
120	日本語学習支援	教育支援課	
121	日本語サポート指導		

	事業名	担当
122	日本語サポート指導（手引き作成）	
123	外国籍等の中学生に対する進学支援	
124	翌年度の新1年生向け「小・中学校への入学案内」	
125	新年度区立幼稚園園児募集案内	学校運営課
126	私立幼稚園等保護者補助金案内	
127	日本語学級設置	
128	翌年度の新小学校1年生向け「就学援助のお知らせ（多言語版）」	
129	日本語担当教員配置	教育指導課
130	外国人向け新宿区立図書館利用案内	中央図書館
131	外国語でのお話会	

付7 外国人住民用 ご協力のお願い

対象者の国籍に合わせて「中国語」「韓国語」「英語」「ネパール語」「ベトナム語」「ミャンマー語」「フランス語」「タイ語」のお願い文を送付した。

新宿区多文化共生実態調査へのご協力のお願い

このアンケートは、様々な国籍の人々が同じ地域で生活することの現状を調査し、これからの新宿区の行政サービスを良くするためのものです。調査の対象として、新宿区に住んでいる日本国籍の方から2,000人、外国籍の方から5,000人を無作為で選びました。回答は全て統計的な数値として処理しますので個人を特定したり、プライバシーに関する内容が公表されることはありません。在留資格などの個人に関する質問は、区のサービスがより多くの人に届くよう分析するためのものです。住民登録事務や出入国管理とは一切関係ありません。


また、本調査は2023年7月14日時点の国籍に基づいた調査のため、特別永住者や日本国籍から外国籍に変更した方にはあてはまらない質問もありますが、回答できる範囲でご協力いただきますようお願い申し上げます。

2023年8月 新宿区長 吉住 健一

- 調査票は「日本語」「その他の言語」の2種類が入っています。どちらか片方だけ選んでお答えください。(両方に答える必要はありません。)
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、**2023年8月28日(月)**までにポストに入れて下さい。切手は不要です。調査票にはお名前など個人の特定につながる情報は書かないでください。
- WEBからも回答できます。以下の【WEB回答方法】から回答ページにアクセスしてください。
- 紙の調査票とWEB回答は、どちらか片方だけ選んでお答えください。

【WEB回答方法】

- パソコン・スマートフォンなどで、WEBページにアクセスして回答することができます。URLもしくは、二次元コードよりアクセスしてください。
- 回答言語を選択し、ID・パスワードを入力してログインをしてください。IDとパスワードは個人を特定するものではありません。

WEB回答用 URL/ 二次元コード	https://www.c-pass.jp/orca/BD20230000 
ID	※IDは半角英数で6文字です。
パスワード	※パスワードは半角英数で8文字です。

【注意事項】

- 通信料はご利用者さまの負担となります。
- ブラウザ、スマートフォンの「戻る」機能は使えません。
- 回答を中断する際はブラウザ上のタブを閉じると自動的に回答が保存されます。通信状況が悪かったり、回答の操作を長時間行わず放置するとページの再読み込みが行われ回答が保存されません。

【お問い合わせ先】

新宿区 地域振興部 多文化共生推進課 TEL 03-5273-3504 (直通) FAX 03-3209-7455

付8 外国人住民用 調査票

がいこくじんじゅうみんよう
(外国人住民用)

しんじゅくくたぶんかきょうせいじたいちようさ 新宿区多文化共生実態調査

かいとうほうほう — 回答方法 —

- 1 アンケートには、必ず封筒のあて名の人が回答してください。
- 2 濃いえんぴつか黒または青のボールペンを使って記入してください。
- 3 回答は次のとおり行って下さい。
 - 回答は、自分があてはまると思う番号を○で囲んでください。
 - 回答の○の数は、質問によって「○は1つだけ」「○はいくつでも」に分かれているので注意してください。
 - 自分の答えが選択肢の中になくときは、「その他()」に○をつけ、()の中の内容をわかりやすく書いてください。
 - 回答できない質問や、回答したくない質問については○をつけず、次の質問に進んでください。

1 あなたご自身について

問1 あなたの性別は次のどれですか。(○は1つだけ)

- | | |
|------|-------|
| 1 男性 | 3 () |
| 2 女性 | |

問2 あなたの年齢は次のどれですか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|----------|
| 1 18～19歳 | 5 50～59歳 |
| 2 20～29歳 | 6 60～69歳 |
| 3 30～39歳 | 7 70歳以上 |
| 4 40～49歳 | |

問3 あなたの国籍は次のどれですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|--------|---------|------------|
| 1 中国 | 5 ミャンマー | 9 フィリピン |
| 2 韓国 | 6 台湾 | 10 タイ |
| 3 ネパール | 7 アメリカ | 11 その他 () |
| 4 ベトナム | 8 フランス | 12 無国籍 |

問4 あなたはどのくらい日本に住んでいますか。日本に何度も来ている場合は、あわせた期間をお答えください。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 6カ月未満 | 5 5年以上～10年未満 |
| 2 6カ月以上～1年未満 | 6 10年以上～20年未満 |
| 3 1年以上～3年未満 | 7 20年以上～50年未満 |
| 4 3年以上～5年未満 | 8 50年以上 |

問5 あなたが日本に来た目的は何ですか。(○はいくつでも)

- | | | |
|----------------|--------------|-----------------|
| 1 勉強のため | 4 結婚のため | 7 自分または家族の転勤のため |
| 2 職業技術を身につけるため | 5 政治的自由のため | 8 その他() |
| 3 お金を得るため | 6 日本の国にあこがれて | 9 日本で生まれた |

問6 あなたの在留資格は何ですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------|-----------------|-------------|
| 1 教授 | 10 教育 | 19 留学 |
| 2 芸術 | 11 技術・人文知識・国際業務 | 20 研修 |
| 3 宗教 | 12 企業内転勤 | 21 家族滞在 |
| 4 報道 | 13 介護 | 22 特定活動 |
| 5 高度専門職 | 14 興行 | 23 永住者 |
| 6 経営・管理 | 15 技能 | 24 日本人の配偶者等 |
| 7 法律・会計業務 | 16 特定技能 | 25 永住者の配偶者等 |
| 8 医療 | 17 技能実習 | 26 定住者 |
| 9 研究 | 18 文化活動 | 27 特別永住者 |

問7 あなたの仕事またはアルバイトの種類は何ですか。(○は1つだけ。2つ以上の仕事をしている方は主な仕事を選んでください。)

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1 経営者(飲食店) | 12 清掃・建設・土木作業員 |
| 2 経営者(物品販売) | 13 工場の労働者 |
| 3 経営者(その他) | 14 運転手・配達員 |
| 4 事務職・営業職 | 15 飲食店での調理 |
| 5 教授・教師・研究員 | 16 ウェイター・ウェイトレス |
| 6 官公庁(公務サービス) | 17 その他接客業 |
| 7 医療・福祉の専門職 | 18 ダンサー・音楽家 |
| 8 技術者・エンジニア | 19 メイド・ベビーシッター |
| 9 編集者・記者・カメラマン | 20 その他() |
| 10 翻訳・通訳 | 21 専業主婦(夫) |
| 11 販売員・店員 | 22 仕事・アルバイトをしていない(問8へ) |

(問7で、「1」～「20」のいずれかを答えた方に)

問7-1 あなたの仕事の立場は何ですか。次の中から選んでください。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1 自営業・経営者 | 6 パート・アルバイト (学生) |
| 2 会社役員 | 7 パート・アルバイト (学生以外) |
| 3 正社員 (管理職) | 8 技能実習生・研修生 |
| 4 正社員 (一般) | 9 その他 () |
| 5 派遣・契約社員 | 10 わからない |

問8 あなたが現在一緒に住んでいる人は誰ですか。(○はいくつでも)

- | | | |
|-------------------------|--------------|-----------|
| 1 配偶者またはパートナー | 3 自分または配偶者の親 | 6 その他 () |
| 2 子ども
! --> (問8-1 へ) | 4 その他の親類 | 7 いない |
| | 5 友人・知人 | |

(問8で、「2 子ども」と答えた方に)

問8-1 あなたのお子さんの年齢区分はどれですか。(子どもが複数いる場合は、当てはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 6歳未満 | 4 16歳～18歳 |
| 2 6歳～12歳 | 5 19歳以上 |
| 3 13歳～15歳 | |

2 日本での暮らし

問9 これからも、新宿区に住み続けたいですか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 ずっと住み続けたい | 4 すぐにでも引っ越したい |
| 2 しばらくの間は住み続けたい | 5 まだ決まっていない |
| 3 いずれ引っ越したい | |

問10 あなたやあなたの家族が、日本の生活で困っていることや不満なことは何ですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 ことば | 12 仕事 |
| 2 情報 | 13 災害時・緊急時の対応 |
| 3 住居 | 14 近所づき合い |
| 4 出入国在留管理庁の手続き | 15 友人が少ない |
| 5 区役所の手続き | 16 日本人とのトラブル |
| 6 金融機関の手続き(銀行、郵便局 等) | 17 日本人からの偏見・差別 |
| 7 病院・医療 | 18 日本人が閉鎖的である |
| 8 年金 | 19 生活費など金銭的な問題 |
| 9 出産・育児 | 20 その他 () |
| 10 子どもの教育 | 21 特にな |
| 11 老後・介護 | |

問10-1 日本の生活で困っていることや不満なことについて、事例を教えてください。自由に記入してください。回答しても回答しなくてもかまいません。

問11 あなたは日本人と話すとき、どの言葉での会話を希望しますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------|--------------|
| 1 日本語 | 2 その他の言語 () |
|-------|--------------|

問12 あなたは近くに住む日本人とつき合いがありますか。(○は1つだけ)

- | | | | |
|------|--------------------|------|--------------|
| 1 ある | --> (問12-1, 12-2へ) | 2 ない | --> (問12-3へ) |
|------|--------------------|------|--------------|

(問12で、「1 ある」と答えた方に)

問12-1 それはどのようなつき合いですか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 あいさつをする程度 | 4 友人としてつき合っている |
| 2 日常生活のことを話している | 5 家族と同じように親しくつき合っている |
| 3 何か困った時に助け合っている | 6 その他 () |

(問12で「1 ある」と答えた方に)

問12-2 今まで、近くに住む日本人と話すとき、主にどの言葉で話していますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------|--------------|
| 1 日本語 | 2 その他の言語 () |
|-------|--------------|

(問12で、「2 ない」と答えた方に)

問12-3 近くに住む日本人とつき合いがないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 時間がないから | 5 話しかけるきっかけがないから |
| 2 日本語を話せないから | 6 つき合う場がないから |
| 3 長く日本に住むつもりがないから | 7 必要だと思わないから |
| 4 日本人とつき合うのが苦手だから | 8 その他 () |

問13 あなたが地域の日本人に望むことはなんですか。(〇はいくつでも)

- | |
|---------------------------|
| 1 あいさつなど親しく声をかけてほしい |
| 2 生活ルールを教えて欲しい |
| 3 自分たちの文化や習慣などを理解してほしい |
| 4 自分たちのことばを理解できるように努めて欲しい |
| 5 地域の行事やイベントなどに誘って欲しい |
| 6 偏見や差別をなくしてほしい |
| 7 その他 () |
| 8 特にない |

問14 あなたは、日常生活のことで困った時は誰に相談しますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1 知人・友人 (同国人) | 8 幼稚園・保育園・子ども園の先生 |
| 2 知人・友人 (日本人) | 9 学校の先生 |
| 3 家族・親戚 | 10 東京都や新宿区の外国人相談窓口 |
| 4 職場の同僚 | 11 民生委員・児童委員・社会福祉協議会 |
| 5 民族団体・同国人の組織 | 12 近くに住んでいる人 |
| 6 教会・寺院 | 13 その他 () |
| 7 ボランティア団体 | 14 誰にも相談しない |
| | 15 相談する相手がない |

問14-1 困った時に相談したり、情報交換などができる仲間やグループを教えてください。
(グループの名称や活動内容) 回答しても回答しなくてもかまいません。

問15 あなたは今までに、近くに住む日本人と次のようなトラブルの経験がありますか。

(○はいいくつでも)

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1 普段のごみの出し方のルールのこと | 8 店舗や宿泊施設の営業のこと |
| 2 粗大ごみの出し方のこと | 9 部屋の使い方のこと |
| 3 部屋からの声・物音のこと | 10 知らないトラブルの責任を、押し付けられた |
| 4 ペットのすること | 11 ことばの行き違い |
| 5 食べ物のこと | 12 その他 () |
| 6 駐車・駐輪のこと | 13 特にない |
| 7 建物の増築・改築のこと | |

問16 あなたは、ふだんの生活の中で、日本人から外国人に対する偏見や差別を感じたことがありますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|---------|----------|-------------------|
| 1 全くない | 3 ときどきある | --> (問16-1、16-2へ) |
| 2 あまりない | 4 よくある | |
| | 5 わからない | |

(問16で、「3 ときどきある」か「4 よくある」と答えた方に)

問16-1 偏見・差別をどのような場合に感じましたか。(○はいいくつでも)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 公的機関などの手続きのとき | 7 社会保障制度のこと |
| 2 日本人の友人とのつき合いのとき | 8 電車・バス等に乗っているとき |
| 3 近所の人とのつき合いのとき | 9 出産・育児の場面 |
| 4 家を探すとき | 10 学校などの教育の場 |
| 5 自分や家族が結婚するとき | 11 仕事・アルバイトのとき |
| 6 法制度のこと | 12 その他 () |

(問16で、「3 ときどきある」か「4 よくある」と答えた方に)

問16-2 偏見や差別を感じたこと教えて下さい。自由に記入してください。回答しても回答しなくてもかまいません。

問17 偏見・差別をなくすためには、何が重要だと思いますか。(○はいいくつでも)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 日本人と外国人が交流する | 4 お互いの生活習慣の違いを認め合う |
| 2 お互いを認め合う教育を進める | 5 その他 () |
| 3 お互いの文化を知る | 6 わからない |

3 ことば (日本語学習)

問18 あなたは日本語に関して困ることがありますか。(〇は1つだけ)

1 ある	---> (問18-1, 18-2 へ)	3 あまりない
2 時々ある		4 ない

(問18で、「1 ある」「2 時々ある」と答えた方に)

問18-1 それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

1 ひらがな・カタカナを読むこと	5 日本語のテレビやラジオのニュースを見ること・聞くこと
2 ひらがな・カタカナを書くこと	6 日本語の新聞やお知らせを読むこと
3 簡単な漢字の読み書き	7 役所や病院での説明を理解すること
4 日常会話	8 その他 ()

(問18で、「1 ある」「2 時々ある」と答えた方に)

問18-2 日本語で困った時どう対応していますか。(〇はいくつでも)

1 日本語ができる友人を頼る	4 日本語学校・日本語教室に相談する。
2 行政機関に相談する	5 その他 ()
3 通訳・翻訳アプリを活用する	6 対応できていない

問19 あなたは、今後、日本語を学びたいと思いますか。(〇は1つだけ)

1 現在学んでいる	---> (問19-1 へ)	3 学びたいとは思わない	-> (問19-2 へ)
2 学びたい			

(問19で、「1 現在学んでいる」か「2 学びたい」と答えた方に)

問19-1 どのような方法で学んでいますか。また、どのような方法で学びたいですか。(〇はいくつでも)

1 テレビ・ラジオの語学講座、 通信教育、テレビ・新聞などを利用	6 家庭教師に習う
2 インターネットを利用	7 家族に教えてもらう
3 ボランティアなどによる日本語教室	8 友人に教えてもらう
4 日本語学校	9 職場で同僚に教えてもらう
5 大学などの講座やコース	10 その他 ()

(問19で、「3 学びたいとは思わない」と答えた方に)

問19-2 日本語を学びたくない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------|-------------|
| 1 不便を感じないから、困っていないから | 4 歳をとっているから |
| 2 必要ないから | 5 難しいから |
| 3 日本で生まれ育ったから | 6 その他 () |

4 災害時・緊急時の対応

問20 地震などの災害が起きた時のために、どのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1 家族と無事を確かめ合う方法を話し合っている | 6 家具が倒れないように固定する器具を取り付けている |
| 2 自宅や職場から避難する場所を確認している | 7 地域の防災訓練や防災に関する講座に参加するようにしている |
| 3 食べ物や飲み水を備えている | 8 その他 () |
| 4 非常持ち出し袋を用意している | 9 特に何もしていない → (問20-1へ) |
| 5 地震や防災に関するパンフレットをみている | |

(問20で、「9 特に何もしていない」と答えた方に)

問20-1 何もしていないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 考えたことがなかったから | 4 防災訓練や講座の情報が入らないから |
| 2 何を準備すればいいかわからないから | 5 何も起こらないと思うから |
| 3 準備する時間やお金がないから | 6 その他 () |

問21 地域では、日頃から災害時に備えた防災訓練を実施しています。こうした防災訓練が実施されていることを知っていますか。また参加したことがありますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 参加したことがある | 3 知らないし、参加したことはない |
| 2 知っているが、参加したことはない | 4 その他 () |
- ↓ → (問21-1へ)

(問21で、「2 知っているが、参加したことはない」と答えた方に)

問21-1 それはなぜですか。(〇は1つだけ)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 参加しても言葉が通じないから | 5 参加する時間がないから |
| 2 参加の仕方がわからないから | 6 体力的・身体的に参加が難しいから |
| 3 防災訓練に関する情報が少ないから | 7 その他 () |
| 4 防災訓練に誘われないから | 8 参加は必要だと思わないから |

問22 あなたは、新宿区にどのような災害対策をしてほしいですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1 避難場所の掲示等を多言語にする | 6 地域の防災訓練に誰もが参加しやすいようにする |
| 2 外国語の緊急対応パンフレットを配る | 7 地域の人同士が連絡・協力しやすいようにする |
| 3 緊急時に多言語の放送や誘導を行う | 8 外国人同士が連絡・協力しやすいようにする |
| 4 SNS(ツイッター・フェイスブック)などで情報を早く発信する | 9 その他 () |
| 5 多言語の相談を行う | 10 特にない |

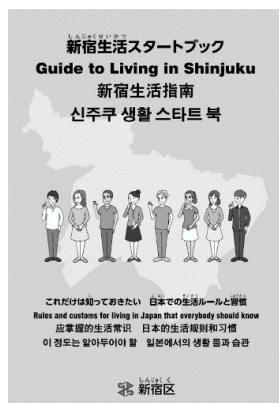
5 必要な情報・サービスについて

問23 新宿区では外国人向けの情報を多言語(ルビ付き日本語・英語・中国語・韓国語)で提供しています。次の中で知っているものをお答えください。(〇はいくつでも)

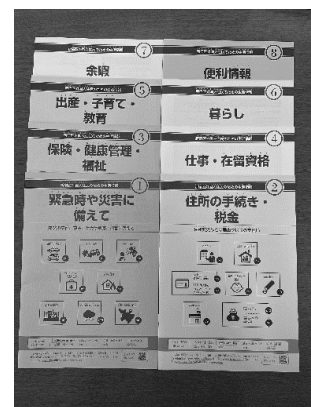
- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 外国語広報紙「しんじゅくニュース」 | 5 外国語版SNS「しんじゅくニュース」 |
| 2 新宿生活スタートブック | 6 新宿生活スタートガイド |
| 3 外国語生活情報紙 | 7 その他 () |
| 4 外国人向け生活情報ホームページ | 8 特にない |



【しんじゅくニュース】



【新宿生活スタートブック】



【外国語生活情報紙】

問24 新宿区で生活していく上で、どんな情報をもっと知りたいですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 ごみの出し方やリサイクル方法 | 7 出産・育児 |
| 2 防災や地震 | 8 子どもの教育 |
| 3 高齢者への支援 | 9 住まい |
| 4 医療や健康保険 | 10 お祭り・スポーツなどのイベント |
| 5 町会・自治会など地域活動 | 11 その他() |
| 6 税金・年金 | 12 特にない |

問25 必要な情報を手に入れるために、新宿区にどんなことをしてほしいですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 いろいろな情報を1つの場所で配布する | 5 ホームページの情報を増やす |
| 2 外国語による新宿区の情報(広報紙、パンフレット、資料等)を増やす | 6 SNS(ツイッター・フェイスブック)やメールによる発信を増やす |
| 3 英語・中国語・韓国語以外の言語でも情報を伝える | 7 その他() |
| 4 標識や案内を日本語と外国語で書く | 8 特にない |

6 多文化共生のまちづくり

新宿区では、様々な国籍・民族の人々が、互いの文化の違いを認め、理解し、地域で共に生きていく「多文化共生のまちづくり」を推進しています。

【しんじゅく多文化共生プラザを紹介します】

しんじゅく多文化共生プラザは、外国人と日本人の交流の拠点です。生活に必要な情報を多言語で提供したり、相談に応じています。また、日本語教室の開催や、皆さんの活動のサポートをしています。

場所：歌舞伎町2-44-1ハイジア11階 (電話 03-5291-5171)

開館時間：午前9時～午後9時

休館日：毎月第2・4水曜日、年末年始(12月29日～翌年の1月3日)

問26 新宿区では、日本人と外国人の交流施設「しんじゅく多文化共生プラザ」を設置して、日本語学習・資料・情報の提供、外国人相談等を行っています。あなたは、この施設を知っていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1 知っていたし利用したこともある | 3 知らなかったが利用してみたい |
| 2 知っていたが利用したことはない | 4 知らなかったし利用したいと思わない |

問27 しんじゅく 多文化共生プラザの機能で特に大事だと思うものはなんですか (〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------|--------------------------------------|
| 1 日本語教室 | 6 日本語学習に関する情報提供 |
| 2 外国人相談 | 7 ホームページでの地域で外国人と日本人がつながるために役立つ情報の発信 |
| 3 多言語での情報提供 | 8 外国人コミュニティと日本人とをつなぐ活動 |
| 4 多目的スペースで行われている活動 | 9 交流の場の提供 |
| 5 フリースペースの利用 | 10 その他 () |

問28 新宿区では「多文化共生のまちづくり」を進めるために、皆さんに能力や経験を生かして地域で活躍してほしいと考えています。そこで、あなたは、地域の中でどのような活動をしてみたいと思いますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|--|
| 1 あいさつするなど声をかけ合う | 8 PTAや父母会の活動を日本人と一緒に
に行う |
| 2 気軽に話をする | 9 翻訳・通訳などのボランティア活動
を行う |
| 3 生活習慣やルールを相談し合う | 10 翻訳・通訳以外のボランティア活動
を行う |
| 4 地域の日本人との話し合いを行う | 11 日本の生活に慣れていない外国人支援
の活動(NGO/NPOを含む)に参加
したり協力したりする |
| 5 地域の日本人との交流や、イベントを
企画する | 12 その他 () |
| 6 町会の避難訓練や清掃など、地域活動
に参加する | 13 したくない |
| 7 自分たちの国の文化・ことば・料理など
を紹介する | |

問29 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、今後の区の対応として、どのようなことを進めるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 日本人との交流会やイベント | 8 NPOやボランティアの育成と支援 |
| 2 日本の文化や生活情報を多言語で
知らせる | 9 外国人への偏見・差別をなくすための
努力 |
| 3 外国の文化や生活情報を紹介する | 10 子どもや留学生への支援 |
| 4 多言語での生活相談 | 11 外国人も意見や提案をしやすくする |
| 5 日本語教室 | 12 その他 () |
| 6 外国人と日本人が意見を交換する場を
つくる | 13 特にない |
| 7 外国人と日本人による協働を増やす | |

問30 参加したいと思える交流会・イベントはどのようなものですか。(〇はいくつでも)

- 1 盆踊りなど地域で開催されるお祭り
- 2 地域センターなどで開催される趣味サークル活動
- 3 フットサルなどのスポーツ活動
- 4 日本の料理を楽しむなど、日本の文化に触れる交流会
- 5 自分の国の文化を紹介する多文化共生イベント
- 6 お互いの言葉を紹介しあうイベント
- 7 日本人とゆっくり話せる機会のあるイベント
- 8 その他 ()
- 9 特にない

問30-1 どのような交流方法がいいですか。(〇は1つだけ)

- 1 対面
- 2 オンライン
- 3 どちらでも

問31 あなたのお住まいの地域を把握するため、封筒のお名前右下にある1～10の数字を選択してください。(〇は1つだけ)

- | | | |
|-----------|-----------|--------------|
| 1 四谷 | 5 おおくぼ | 9 かしわざ |
| 2 たんすまち | 6 とつか | 10 つのはずくやくしよ |
| 3 えのきちよう | 7 おちあいだいち | |
| 4 わかまつちよう | 8 おちあいだいに | |

アンケート項目以外でも伝えたいことや新宿区の多文化共生を推進するために必要だと思うことなど、あなたのご意見を、自由に書いてください。

ご協力、どうもありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、恐縮ですが、お早めに(8月28日(月)までに)同封の返信用封筒でご返送ください。(切手は不要です)

付9 日本人住民用 ご協力をお願い

新宿区多文化共生実態調査へのご協力をお願い

このアンケートは、様々な国籍の人々が同じ地域で生活することの現状を調査し、これからの新宿区の行政サービスを良くするためのものです。調査の対象として、新宿区に住んでいる日本国籍の方から2,000人、外国籍の方から5,000人を無作為で選びました。回答は全て統計的な数値として処理しますので、個人を特定したり、プライバシーに関する内容が公表されることはありません。

また、本調査は2023年7月14日時点の国籍に基づいた調査のため、外国籍から日本国籍に変更した方にはあてはまらない質問もありますが、回答できる範囲でご協力いただきますようお願い申し上げます。


お忙しいところ大変恐縮ですが、本調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

2023年8月 新宿区長 吉住 健一

- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、**2023年8月28日(月)**までにポストに入れて下さい。切手は不要です。調査票にはお名前など個人の特定につながる情報は書かないでください。
- WEBからも回答できます。以下の【WEB回答方法】から回答ページにアクセスしてください。
- 紙の調査票とWEB回答は、どちらか片方だけ選んでお答えください。

【WEB回答方法】

- パソコン・スマートフォンなどで、WEBページにアクセスして回答することができます。URLもしくは、二次元コードよりアクセスしてください。
- ID・パスワードを入力してログインをしてください。IDとパスワードは個人を特定するものではありません。

WEB回答用URL／二次元コード	https://www.c-pass.jp/orca/BD20230010/A/tabunka2023 右の二次元コードからもWEB回答ページにアクセスできます。	
ID		※IDは半角英数で6文字です。
パスワード		※パスワードは半角英数で8文字です。

【注意事項】

- 通信料はご利用者さまの負担となります。
- ブラウザ、スマートフォンの「戻る」機能は使えません。
- 回答を中断する際はブラウザ上のタブを閉じると自動的に回答が保存されます。通信状況が悪かったり、回答の操作を長時間行わず放置するとページの再読み込みが行われ回答が保存されません。

【お問い合わせ先】

新宿区 地域振興部 多文化共生推進課 電話 03-5273-3504 (直通) FAX 03-3209-7455

付 10 日本人住民用 調査票

(日本人住民用)

新宿区多文化共生実態調査

— 回答方法 —

- 1 回答は必ず封筒のあて名のご本人が記入して下さい。
- 2 回答は濃いえんぴつか黒または青のボールペンを使用して下さい。
- 3 回答は次のとおり行って下さい。
 - 回答は、選択肢の中から選んで、番号に○をつけて下さい。
 - 回答の○の数は「○は1つだけ」「○はいくつでも」と指定していますので合わせて下さい。
 - 自分の答えが選択肢の中にない場合は、「その他()」に○をつけ、()の中に内容を具体的に記入して下さい。
 - 回答できない質問や、回答したくない質問については○をつけず、次の質問に進んでください。

1 あなたご自身について

問1 あなたの性別は次のどれですか。(○は1つだけ)

- | | |
|------|-------|
| 1 男性 | 3 () |
| 2 女性 | |

問2 あなたの年齢は次のどれですか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|----------|
| 1 18～19歳 | 5 50～59歳 |
| 2 20～29歳 | 6 60～69歳 |
| 3 30～39歳 | 7 70歳以上 |
| 4 40～49歳 | |

問3 あなたは新宿区に住んで何年になりますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 6ヵ月未満 | 5 5年以上～10年未満 |
| 2 6ヵ月以上～1年未満 | 6 10年以上～20年未満 |
| 3 1年以上～3年未満 | 7 20年以上～50年未満 |
| 4 3年以上～5年未満 | 8 50年以上 |

問4 あなたの身近な人(親族等)に、外国籍の方や外国にルーツを持つ方はいますか。

(○は1つだけ)

- | | |
|------------|-------|
| 1 いる(関係:) | 2 いない |
|------------|-------|

問5 あなたが現在一緒に住んでいる人はどなたですか。(○はいくつでも)

- | | | |
|--------------|-------------|----------|
| 1 配偶者又はパートナー | 3 自分又は配偶者の親 | 6 その他() |
| 2 子ども | 4 その他の親類 | 7 いない |
| └--> (問5-1へ) | | |

(問5で、「2 子ども」と答えた方に)

問5-1 あなたのお子さんの年齢区分はどれですか。(子どもが複数いる場合は、当てはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 6歳未満 | 4 16歳～18歳 |
| 2 6歳～12歳 | 5 19歳以上 |
| 3 13歳～15歳 | |

問6 あなたはこれまで海外での生活経験(3ヵ月以上)がありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

2 暮らし

問7 これからも新宿区に住み続けたいですか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 ずっと住み続けたい | 4 すぐにでも引っ越したい |
| 2 しばらくの間は住み続けたい | 5 わからない |
| 3 いずれ引っ越したい | |

問8 現在の新宿区の人口は約35万人です。そのうち約4万人が外国人です。あなたの身近には、外国人が多いと感じますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 多いと感じる | 3 それほど多いとは感じない |
| 2 ある程度は多いと感じる | 4 少ないと感じる |
| └----> (問8-1へ) | |
| | 5 わからない |

(問8で、「1 多いと感じる」か「2 ある程度は多いと感じる」とお答えの方に)

問8-1 それはどんな時ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 通りで外国人をよく見る | 6 外国人が経営する店や会社が増えた |
| 2 近所に外国人が住んでいる | 7 外国語の看板が多い |
| 3 お店で働く外国人が多い | 8 外国語の印刷物が多い |
| 4 留学生が多い | 9 その他() |
| 5 外国人の友人・知人が増えた | |

問9 あなたは、外国人が生活することについてどう思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 好ましい | 4 どちらかといえば好ましくない |
| 2 どちらかといえば好ましい | 5 好ましくない |
| 3 どちらともいえない | |

問10 近所に様々な国籍の外国人が住むことについて、どのようなことを感じますか。
(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|---------------------------------|
| 1 外国の食べ物を食べる機会が増える | 7 日本語が通じない人が増える |
| 2 外国人・外国語に慣れる | 8 生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配 |
| 3 外国の文化にふれる機会が増える | 9 生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配 |
| 4 外国人の知人・友人ができる | 10 その他 () |
| 5 外国のことに関心を持つようになる | 11 特にない |
| 6 まちに活気がでる | |

問11 あなたは、あなたのまわりにいる外国人にとって、生活で困っていること、不満なことは何だと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 日本語が不自由 | 12 仕事 |
| 2 情報が少ない | 13 災害時・緊急時の対応 |
| 3 住居 | 14 近所づきあい |
| 4 出入国在留管理庁の手続き | 15 友人が少ない |
| 5 区役所の手続き | 16 近所の人との間のトラブル |
| 6 金融機関の手続き (銀行、郵便局 等) | 17 偏見・差別 |
| 7 病院・医療 | 18 日本人が閉鎖的だと感じる |
| 8 年金 | 19 生活費など金銭的な問題 |
| 9 出産・育児 | 20 その他 () |
| 10 子どもの教育 | 21 特にない |
| 11 老後・介護 | |

問11-1 あなたのまわりにいる外国人にとって、生活で困っていることや不満なことの事例があれば、記入してください。回答は任意です。

問12 あなたは、普段の生活の中で外国人と話す機会がありますか (○は1つだけ)

- | | | |
|-------------------|-----------|-------------------|
| 1 よく話す | 3 あまり話さない | → 問12-2、
12-3へ |
| 2 時々話す → (問12-1へ) | 4 話さない | |

(問12で、「1 よく話す」「2 時々話す」とお答えの方に)

問12-1 主にどの言葉で話しましたか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------|--------------|
| 1 日本語 | 2 その他の言語 () |
|-------|--------------|

(問12で、「3 あまり話さない」「4 話さない」とお答えの方に)

問12-2 話さない理由はどのようなものですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 話すきっかけがない | 4 日本語に通じるかわからない |
| 2 話しかけるのを躊躇する | 5 相手の言葉がわからない |
| 3 外国語を話せない | 6 その他 () |

(問12で、「3 あまり話さない」「4 話さない」とお答えの方に)

問12-3 できれば話したいと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1 話したい | 3 どちらでもない |
| 2 話したくない | |

問13 あなたは現在、近所の外国人とどんなつき合いがありますか。また、今後どのように接していきたいですか。(○はそれぞれ1つ)

現在

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 全くつき合いがない | 5 友人として付き合っている |
| 2 あいさつをする程度 | 6 家族同様に親しく付き合っている |
| 3 日常生活のことを話している | 7 その他 () |
| 4 何か困った時に助け合っている | 8 近所にいない |

今後

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 全くつき合わない | 5 友人として付き合う |
| 2 あいさつをする程度 | 6 家族同様に親しくつき合う |
| 3 日常生活のことを話す | 7 その他 () |
| 4 何か困った時に助け合う | 8 わからない |

問14 あなた自身が、同じ地域で外国人と生活していく上で大切なことは何だと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|------------|
| 1 ことば | 5 人柄を知る |
| 2 生活習慣の相互理解 | 6 先入観を持たない |
| 3 価値観の違いを知る | 7 その他 () |
| 4 文化の違いを知る | 8 特にない |

問15 あなたは今までに、外国人と関連して、近所で次のようなトラブルの経験がありますか。
(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1 ごみの出し方のルールのこと | 7 店舗や宿泊施設の営業のこと |
| 2 部屋からの声・物音のこと | 8 部屋の使い方のこと |
| 3 ペットのこと | 9 知らないトラブルの責任を押し付けられた |
| 4 食べ物のこと | 10 ことばの行き違い |
| 5 駐車・駐輪のこと | 11 その他 () |
| 6 建物の増築・改築のこと | 12 特にない |

問16 あなたは、日本人から外国人に対する偏見や差別があると思いますか。

(○は1つだけ)

- | | | |
|------------|-------------|--------------------|
| 1 全くないと思う | 3 ときどきあると思う | →(問16-1、
16-2へ) |
| 2 あまりないと思う | 4 よくあると思う | |
| | 5 わからない | |

(問16で、「3 ときどきあると思う」か「4 よくあると思う」とお答えの方に)

問16-1 偏見・差別はどのような場合にありと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 公的機関などの手続きのとき | 7 社会保障制度のこと |
| 2 日本人の友人との付き合いのとき | 8 電車・バス等に乗っているとき |
| 3 近所の人との付き合いのとき | 9 出産・育児の場面 |
| 4 住まいを探すとき | 10 学校など教育の場 |
| 5 自分や家族が結婚するとき | 11 仕事のとき |
| 6 法制度のこと | 12 その他 () |

(問16で、「3 ときどきあると思う」か「4 よくあると思う」と答えた方に)

問16-2 あなたの身近で偏見・差別があれば教えてください。

自由に記入してください。回答は任意です。

問17 偏見・差別をなくすためには、何が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 日本人と外国人が交流する | 4 お互いの生活習慣の違いを認め合う |
| 2 お互いを認め合う教育を進める | 5 その他 () |
| 3 お互いの文化を知る | 6 わからない |

問21 しんじゅく多文化共生プラザの機能で特に大事だと思うものはなんですか（〇はいくつでも）

- | | |
|--------------------|--------------------------------------|
| 1 日本語教室 | 7 ホームページでの地域で外国人と日本人がつながるために役立つ情報の発信 |
| 2 外国人相談 | 8 外国人コミュニティと日本人をつなぐ活動 |
| 3 多言語での情報提供 | 9 交流の場の提供 |
| 4 多目的スペースで行われている活動 | 10 その他（ ） |
| 5 フリースペースの利用 | |
| 6 日本語学習に関する情報提供 | |

問22 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、あなたは何ができると思いますか。（〇はいくつでも）

- | | |
|------------------------------------|--|
| 1 あいさつなど声をかけ合う | 8 いろいろな言葉が話せるよう外国語を学ぶ |
| 2 気軽に話をする | 9 翻訳・通訳や日本語教室などのボランティア活動 |
| 3 生活習慣やルールを相談し合う | 10 日本の生活に慣れていない外国人支援の活動（NGO/NPOを含む）への参加・協力 |
| 4 地域の外国人との話し合いを行う | 11 その他（ ） |
| 5 地域の外国人との交流やイベントに参加する | 12 特にない |
| 6 地域の外国人との避難訓練や清掃などの地域活動に参加する | |
| 7 外国人が自分の国の文化・ことば・料理などを紹介する講座に参加する | |

問23 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、今後の区の対応として、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（〇はいくつでも）

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 日本人と外国人の交流会やイベント | 7 日本人と外国人による協働を増やす |
| 2 日本の文化や生活情報を外国語で知らせる | 8 NPOやボランティアの育成と支援 |
| 3 外国の文化や生活情報を紹介する | 9 外国人への偏見・差別をなくすための努力 |
| 4 外国語での生活相談 | 10 外国人の子どもや留学生への支援 |
| 5 日本語教室 | 11 外国人も意見や提案をしやすくする |
| 6 日本人と外国人が意見を交換する場の提供 | 12 その他（ ） |
| | 13 特にない |

問24 参加したいと思える交流会・イベントはどのようなものですか。(○はいくつでも)

- 1 盆踊りなど地域で開催されるお祭り
- 2 地域センターなどで開催される趣味サークル活動
- 3 フットサルなどのスポーツ活動
- 4 外国の料理を楽しむなど、外国の文化に触れる交流会
- 5 外国の文化を紹介する多文化共生イベント
- 6 お互いの言葉を紹介しあうイベント
- 7 外国人とゆっくり話せる機会のあるイベント
- 8 その他 ()
- 9 特にない

問24-1 どのような交流方法がいいですか。(○は1つだけ)

- 1 対面
- 2 オンライン
- 3 どちらでも

問25 あなたのお住まいの地域を把握するため、封筒のお名前の右下にある1～10の数字を選択してください。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------|--------|-----------|
| 1 四谷 | 5 大久保 | 9 柏木 |
| 2 笹笥町 | 6 戸塚 | 10 角筈・区役所 |
| 3 榎町 | 7 落合第一 | |
| 4 若松町 | 8 落合第二 | |

アンケート項目以外でも伝えたいことや新宿区の多文化共生を推進するために必要だと思うことなど、あなたのご意見を自由に書いてください。

ご協力、どうもありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、恐縮ですが、お早めに(8月28日(月)までに)同封の返信用封筒でご返送ください。(切手は不要です)

付 11 同封チラシ

アンケート調査を実施するにあたり、「ご協力をお願い」及び「調査票」に加え、「チラシ」を同封した。
(次ページ以降に掲載)

これは、アンケート調査を行なうと同時に、多くの区民に多文化共生について関心を持っていただくために同封したものである。

なお、外国人区民へのアンケート調査については、日本語ルビ付きのチラシとともに、対象者の国籍に合わせて、「中国語」「韓国語」「英語」「ネパール語」「ベトナム語」「ミャンマー語」「フランス語」「タイ語」へ翻訳したチラシも同封した。

新宿区 多文化共生の取組み

【2023年6月】

新宿区には、区民全体の1割を超える外国人の方々が暮らしています。約130の国籍や文化を持つ人が、お互いに理解し合い生活する多文化共生のまちづくりを推進しています。

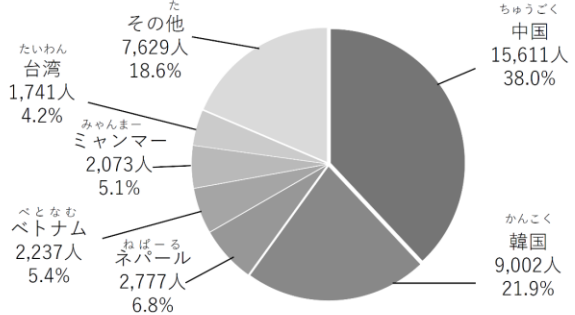
外国人住民人口

●人口と外国人住民数 (2023.6.1)

日本人	306,556人
外国人	41,070人
合計	347,626人

合計に対する外国人の割合は約12%
人口の約8人に1人が外国人です

●国籍別外国人住民数 (2023.6.1)



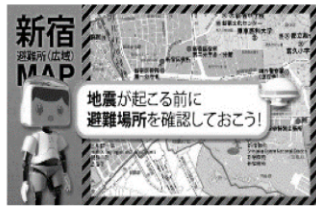
外国人向け情報提供

●新宿生活スタートガイド(動画)

8つの動画で日本のルールやマナーを紹介

【言語】日本語

【字幕】日本語(ルビ付き)、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、ミャンマー語



●外国人住民のための生活情報ホームページ

●外国語版SNS

・Facebook・Twitter・LINE・Weibo

行政情報、地域のイベントや災害情報を発信

【言語】日本語、英語、中国語、韓国語

HP



SNS



●新宿生活スタートブック(冊子)

日本の習慣や生活ルールを紹介



●生活情報紙(冊子)

生活に役立つ情報を紹介



多文化共生や国際交流に関する問い合わせ先

新宿区

地域振興部

多文化共生推進課

電話：03-5273-3504

FAX：03-3209-7455

しんじゅく多文化共生プラザ

しんじゅく多文化共生プラザは外国人と日本人の交流の拠点です。多言語で情報を得たり、相談したり、日本語を学んだりすることができます。また、外国人と地域活動をつなぐサポートやコーディネートをしています。ぜひご利用ください。

●日本語学習コーナー

日本語の教材が用意されていて自習することができます。

●日本語ひろば

日本語ボランティアが無料で日本語を教えます。事前の申し込み



はいりません。

【日時】月、火、木、土 14:00～15:00



日本語ひろば

●外国人相談コーナー

言語：英語、中国語、韓国語、タイ語、ネパール語、ミャンマー語

●資料・情報コーナー

「多言語の生活情報」や「国際交流関連の講座・イベント」の情報などを提供文化紹介の書籍や外国語の絵本もあります。

●プラザからのお知らせ

(新宿区公式HP内)
プラザの予定や最新情報を発信



●多文化共生連絡会

多文化共生に関して、情報共有や意見交換をしています。外国人、支援団体、町会、商店会等さまざまな主体が参加しています。

●施設概要

場所：新宿区歌舞伎町2-44-1ハイジア11階
開館時間：9:00～21:00
休館日：毎月第2・4水曜日、年末年始
電話：03-5291-5171
FAX：03-5291-5172

外国人相談

区役所の手続きのことや日常生活でわからないこと、悩んでいることを無料で相談できます。

●外国人相談窓口

場所：新宿区役所本庁舎1階
言語：英語、中国語、韓国語

●外国人相談コーナー

場所：しんじゅく多文化共生プラザ

日時等詳しくはこちら→



日本語学習への支援

●新宿区日本語教室（3学期制、有料）

しんじゅく多文化共生プラザ含む区内10か所で日本語ボランティアが日常生活に必要な入門・初級レベルの日本語を教えています。



令和5年度
新宿区多文化共生実態調査
報告書

印刷物作成番号

2023-19-2614

令和6年1月発行

調査主体 新宿区
調査委託 (株)文化科学研究所
発行 新宿区 地域振興部 多文化共生推進課
〒160-8484 東京都新宿区歌舞伎町一丁目4番1号
電話 03(5273)3504

●この冊子は、地球環境保全推進のため、再生紙を使用しています。